第２節　２区

１．近　世

２区で発見された近世の遺構は段切り１ヶ所、溝状遺構８条、硬化面１ヶ所畝状遺構２ヶ所、土坑21基、ピット15基である。基本土層第Ⅱ層上面で検出される。

調査区は北東に向かい低く傾斜しており、遺構は一段高い南西側と一段低い北東側に多く分布している。検出された遺構から耕作地として活用していたことが伺える。

近世の出土遺物は、磁器碗29点（190.２ｇ）、磁器皿７点（225.８ｇ）、磁器小杯１点（0.４ｇ）、磁器瓶類1点（2.３ｇ）、磁器仏飯器１点（16.３ｇ）、磁器鉢1点（4.１ｇ）、器種不明磁器1点（1.６ｇ）、陶器碗５点（10.２ｇ）、陶器呉器手碗１点（4.８ｇ）、陶器皿３点（11.７ｇ）、陶器燈明皿２点（13.９ｇ）、陶器蓋１点（2.６ｇ）、陶器擂鉢４点（51.７ｇ）、陶器鉢２点（65.０ｇ）、陶器片口鉢１点（8.３ｇ）、陶器甕１点（6.５ｇ）、陶器瓶１点（3.５ｇ）、陶器徳利１点（7.６ｇ）、陶器鍋１点（2.４ｇ）、金属製品（鍋・鎹・釘・板状・棒状）７点（291.３ｇ）、銭貨２点（5.２ｇ）、石製品（砥石）４点（213.７ｇ）、鉄滓２点（38.２ｇ）である。なお、鉄滓については出土状況等から確実に中世の所産と判別出来るものはなかったため、近世の項で一括して表記した。総点数79点、総重量1,177.３ｇである。

（１）段切り

Ｋ１号段切り（第60～63図、第13表、図版15－２・147－１）

Ｂ～Ｄ21・22グリッドで発見された。台地頂部の東側縁辺部を南北方向に段切りし、東側に平場を造成している。検出長は20.40m、段切りの幅は1.10～1.63ｍで北側は調査区外へ延伸し、南側はＫ６号溝状遺構に切られている。上端の標高は28.85ｍ、平場の標高は27.85ｍで比高差は約1.00ｍを測る。段切り下段の北側部分では溝状遺構と硬化面が確認されている。Ｋ７号溝状遺構、Ｋ１号硬化面として後述するが、南北方向に並走しているため、本遺構に伴うものと考えられる。覆土は灰褐色土、暗褐色土主体の上層と、褐色土主体の下層に分けられ、自然堆積の状況を呈する。

遺物は石製品の砥石１点（66.３ｇ）が出土し図化した。

第63図１は変質流紋岩の砥石で上下側面の４面使用している。

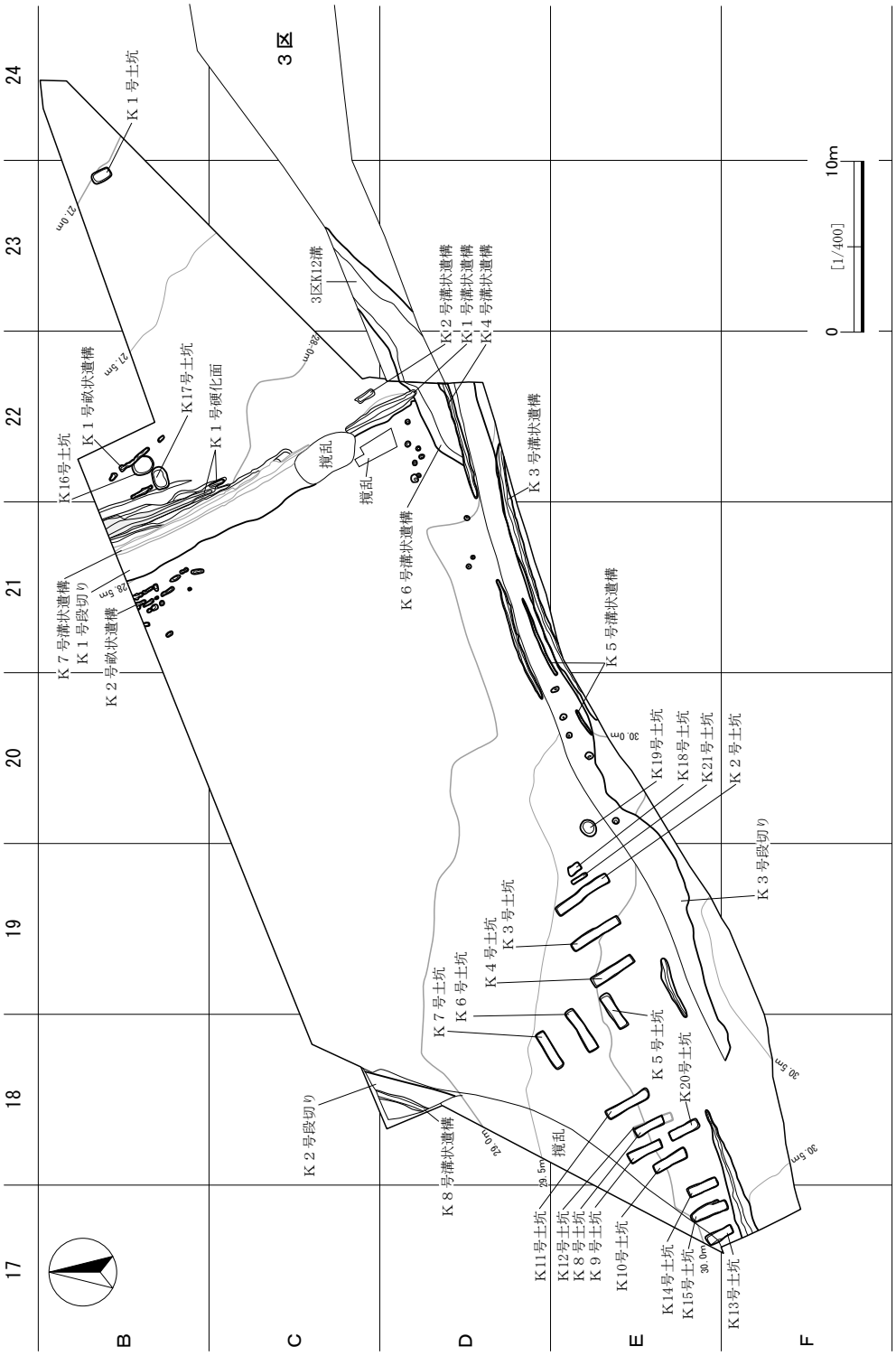
遺構の時期は、検出状況から近世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｋ２号段切り（第60・64図）

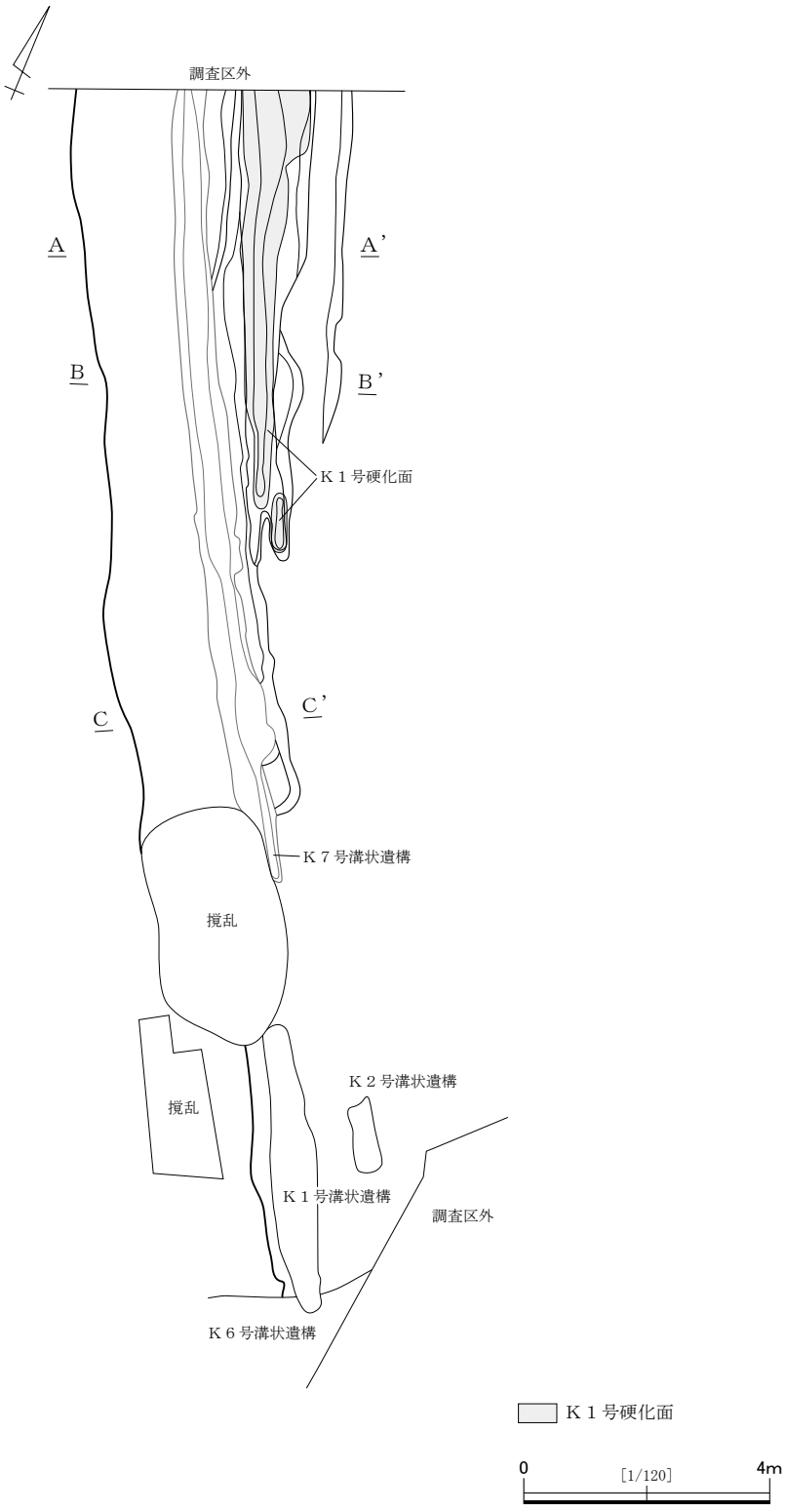
Ｄ18グリッド中央北端で発見された。やや東に傾く南北方向に段切りし、西側に平場を造成している。検出長は5.53ｍ、段切りの幅は1.05ｍで北側、南側とも調査区外へ延伸する。上端の標高は28.54ｍ、平場の標高は27.24ｍで比高差は約1.30ｍを測る。段切り下段では溝状遺構が確認されている。Ｋ８号溝状遺構として後述するが同方向に並走しているため、本遺構に伴うものと考えられる。覆土は明灰褐色土主体で自然堆積の状況を呈する。

遺物は肥前産磁器碗１点（4.０ｇ）、鉄滓１点（1.２ｇ）、総点数２点、総重量5.２ｇが出土したが、小片のため図化していない。

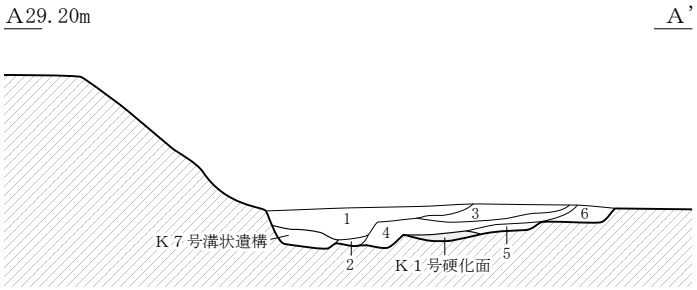
遺構の時期は、検出状況から近世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

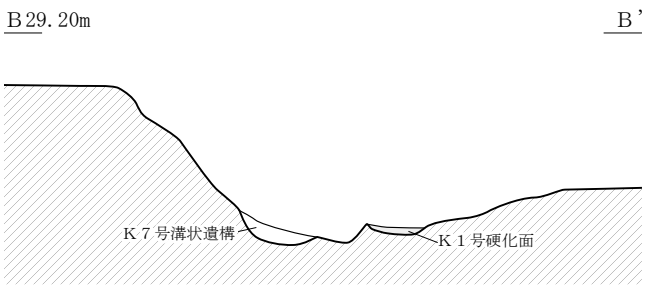


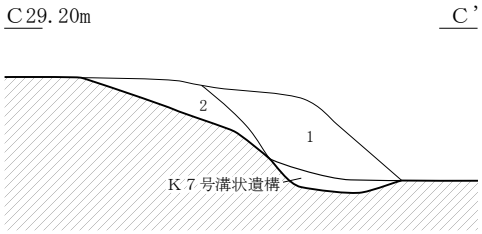
第60図　２区　近世遺構配置図[1/400]



第61図　２区Ｋ１号段切り・Ｋ７号溝状遺構・Ｋ１号硬化面（１）[1/120]





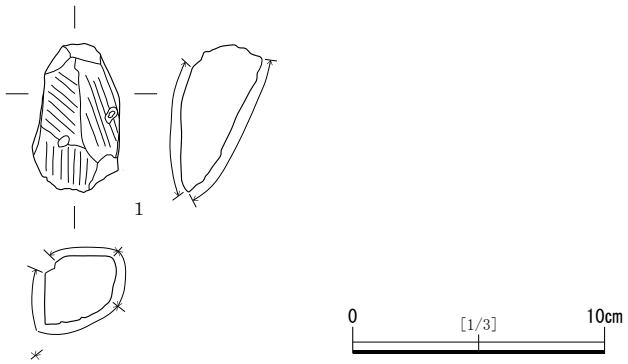


A-A'
第１層　褐色土　粘性・しまりややあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～３㎜の黒色スコリア中量、ロームブロック微量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりややあり。径１～３㎜の橙色スコリア・ロームブロック少量、径１～３㎜の黒色スコリア中量含む。
第３層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア少量、ロームブロック微量含む。
第４層　第３層より黒色スコリア少なく、しまり強い。
第５層　第４層よりロームブロックやや多く含む。
第６層　明褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜のロームブロック中量、径１～３㎜の黒色スコリア微量含む。

C-C'
第１層　灰褐色土　粘性・しまり弱い。径１～３㎜の黒色スコリア少量、明褐色土ブロック微量含む。
第２層　暗褐色土　粘性・しまり弱い。径１～５㎜の黒色スコリア多量、明褐色土ブロック中量含む。



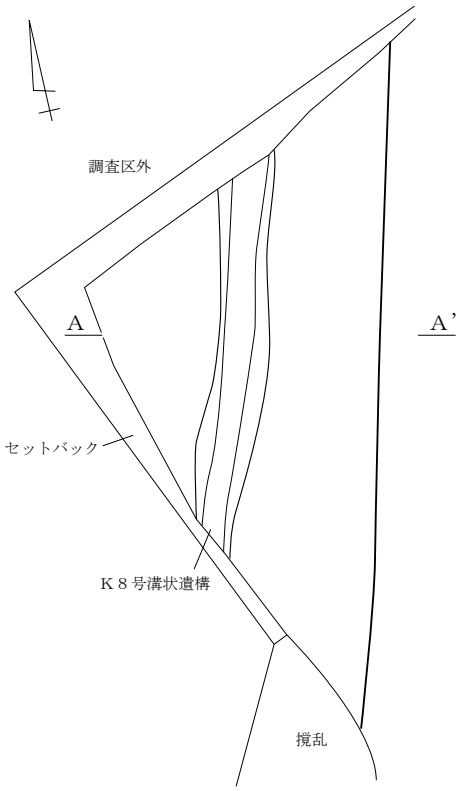
第62図　２区Ｋ１号段切り・Ｋ７号溝状遺構・Ｋ１号硬化面（２）[1/60]

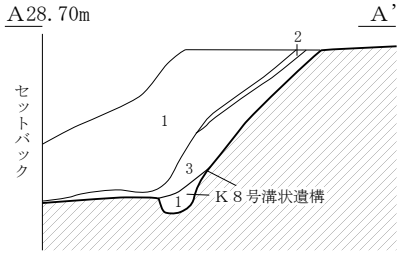


第63図　２区Ｋ１号段切り出土遺物[1/3]

第13表　２区Ｋ１号段切り出土遺物観察表［第63図］

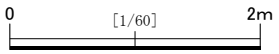
No.	種別	石材	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	観察内容
1	砥石	変質流紋岩	5.9	3.5	3.2	66.3	残存度 端部欠損 備考 上下側面4面使用





Ｋ２号段切り
第１層　明灰褐色土　粘性ややあり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・ロームブロック・暗黒褐色土ブロック微量、径１～５㎜の黒色スコリア中量、宝永スコリア含む。
第２層　暗黒褐色土　粘性・しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～８㎜の黒色スコリア中量、明灰褐色土ブロック少量含む。
第３層　明灰褐色土　粘性ややあり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・暗黒褐色土ブロック微量、径１～５㎜の黒色スコリア中量、ロームブロック少量含む。第１層よりやや明るい。

Ｋ８号溝状遺構
第１層　明灰褐色土　粘性ややあり。しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・暗黒褐色土ブロック微量、径１～５㎜の黒色スコリア中量、ロームブロック中量含む。

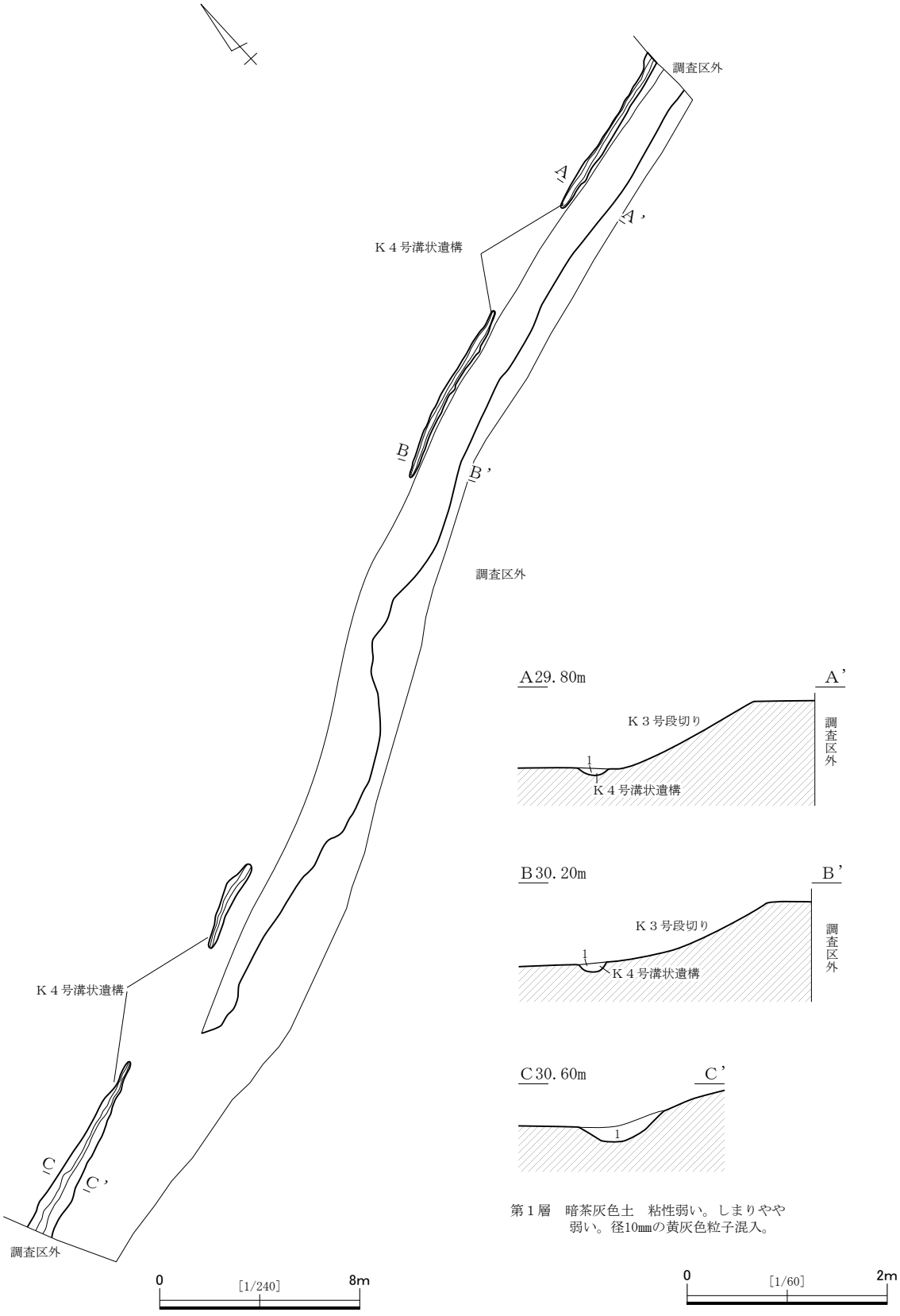


第64図　２区Ｋ２号段切り・Ｋ８号溝状遺構[1/60]

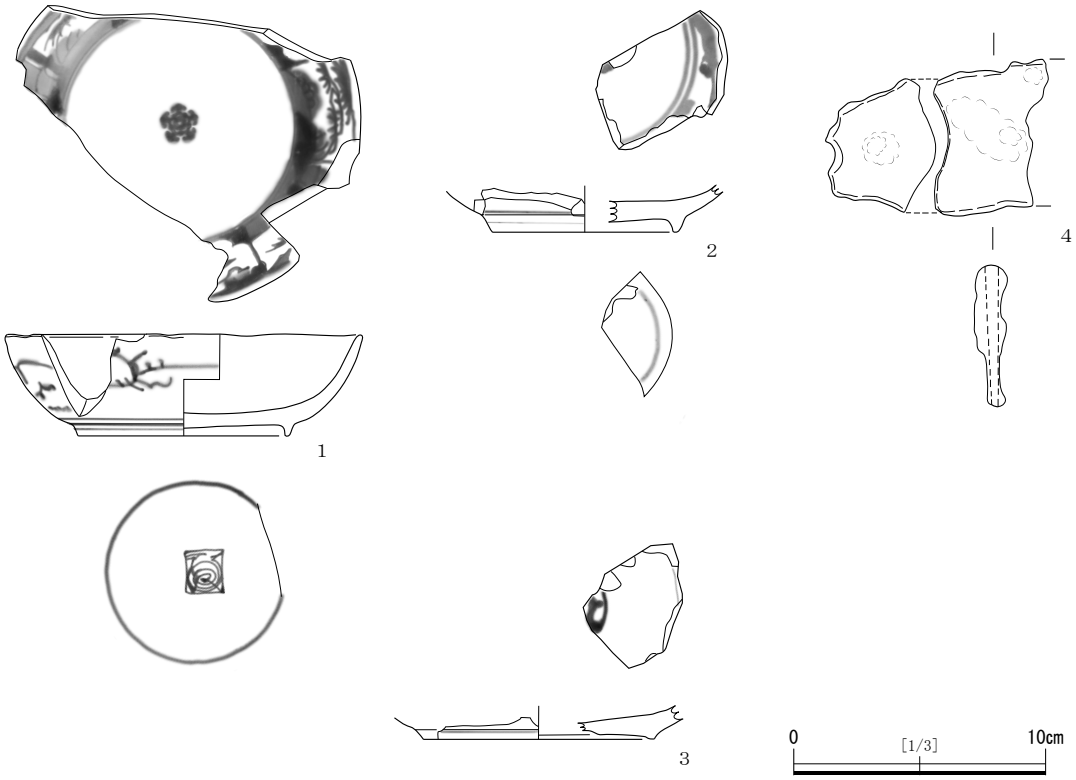
Ｋ３号段切り（第60・65・66図、第14表、図版147－１）

Ｅ・Ｆ18～19、Ｅ20、Ｄ・Ｅ21、Ｄ22グリッドで発見された。東西方向に段切りし、北側に平場を造成している。検出長は42.60ｍ、段切りの幅は0.30～1.60ｍで西側は消失し、東側は調査区外へ延伸する。上端の標高は29.80ｍ、平場の標高は29.10ｍで比高差は約0.70ｍを測る。段切り下段では溝状遺構が確認されている。Ｋ４号溝状遺構として後述するが同方向に並走しているため、本遺構に伴うものと考えられる。自然堆積の状況を呈する。

遺物は磁器碗４点（40.1ｇ）、磁器皿３点（205.7ｇ）、陶器碗１点（3.6ｇ）、陶器鉢１点（13.6ｇ）、陶器蓋１点（2.6ｇ）、陶器擂鉢１点（20.9ｇ）、金属製品（鍋）１点（76.2ｇ）、総点数12点、総重量362.7ｇである。



第65図　２区Ｋ３号段切り・Ｋ４号溝状遺構[1/240・1/60]



第66図　２区Ｋ３号段切り出土遺物[1/3]

第14表　２区Ｋ３号段切り出土遺物観察表［第66図］

No.	種別	器種	（）＝現存値　〔〕＝復元値			重量(g)	残存度	産地	時期	観察内容
			口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)					
1	染付皿	磁器	〔14.0〕	8.1	4.0	151.6	口縁部1/4 体部1/3底部4/5	肥前	17世紀初	素地 灰白色、緻密 焼成 良好 釉薬 呉須・透明釉 文様 体部外面唐草文・高台二重圏線・高台内一重圏線内渦福、内面竹文・草文、見込二重圏線内印判五弁花 備考 畳付無釉
2	染付皿	磁器	－	〔7.1〕	(1.8)	32.4	体部下部～底部1/4	肥前	18世紀	素地 灰白色、緻密 焼成 良好 釉薬 呉須・透明釉 文様 体部外面高台際・高台・高台内一重圏線・高台内一重圏線体部内面草文・見込二重圏線内五弁花 備考 畳付無釉
3	染付皿	磁器	－	〔8.9〕	(1.3)	21.7	底部1/6	瀬戸・美濃	19世紀中	素地 灰白色、緻密 焼成 良好 釉薬 呉須・透明釉 文様体部外面高台一重圏線、見込一重圏線内崩し字文 備考 蛇ノ目凹高台
No.	種別	材質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	観察内容			
4	鍋	鉄	(8.7)	5.2～5.5	1.1～1.3	76.2	残存度 体部破片 備考 表面の錆著しい			

そのうち４点を図化した。

第66図１～３は磁器皿である。１は肥前産の染付皿で口縁が輪花に成形されている。外面は唐草文、体部下端に一重、高台部に二重の圏線が引かれている。底部には一重の圏線が描かれ、中央には四角内に渦福が入る。内面は竹文・草文が染め付けられ、見込みには五弁花のコンニャク印が押されている。17世紀初頭の製品である。２は染付皿の底部片で高台際、高台部、高台内に一重の圏線が引かれている。内面には唐草文と二重圏線、見込みには五弁花のコンニャク印が観察できる。18世紀の製品である。３は低い蛇ノ目凹高台の底部である。外面高台に一重圏線がみられる。内面は一重圏線と見込みに崩し字文の一部が観察できる。19世紀中頃の製品である。

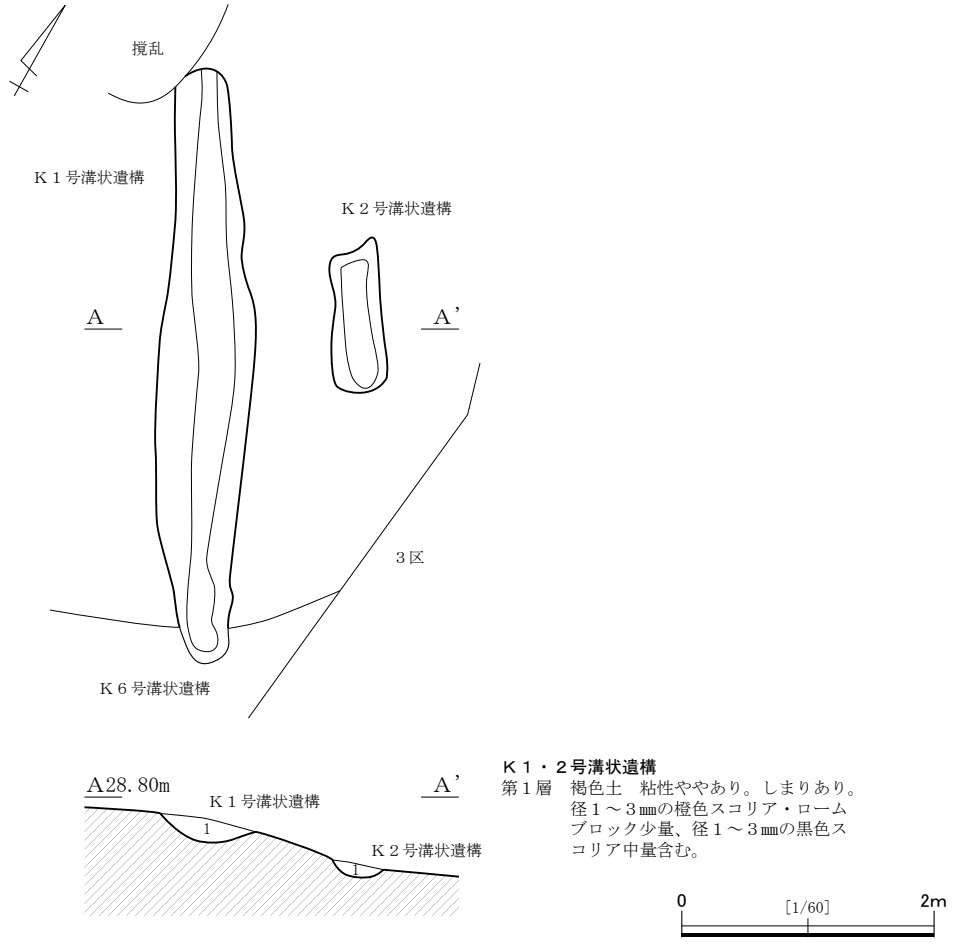
第66図４は鉄製品で鍋の破片である。同一個体であるが接合はしない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から19世紀中頃と考えられる。

（２）溝状遺構

Ｋ１号溝状遺構（第60・67図）

Ｃ・Ｄ22グリッド境中央で発見された。東側約0.60ｍにＫ２号溝状遺構が確認されている。主軸方位はＮ－29°－Ｗを示し、北西端は一部を攪乱に切られ、南東端はＫ６号溝状遺構に切られている。検出面の標高は28.67ｍである。検出規模は全長4.70ｍ、幅0.46～0.80ｍ、確認面からの深さは0.18ｍを測る。



第67図　２区Ｋ１・２号溝状遺構[1/60]

断面形はレンズ状を呈している。

覆土はやや粘性のある褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期はＫ１号段切り、Ｋ６号溝状遺構より新しい所産で近世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｋ２号溝状遺構（第60・67図）

Ｃ22グリッド南端東寄りで発見された。西側約0.6ｍにＫ１号溝状遺構が確認されている。主軸方位はＮ－34°－Ｗを示し、検出面の標高は28.30ｍである。検出規模は全長1.10ｍ、幅0.43ｍ、確認面からの深さは0.12ｍを測る。断面形はレンズ状を呈している。

覆土はやや粘性のある褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期はＫ１号溝状遺構と同様、Ｋ１号段切りより新しい所産で検出状況から近世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｋ３号溝状遺構（第60・68図）

Ｅ20、Ｄ・Ｅ21、Ｄ22グリッドで発見された。北側約0.50ｍにＫ５号溝状遺構が確認されている。主軸方位はＮ－70°－Ｅを示すが、両端はわずかに弓状に弯曲し調査区外へ展開すると思われる。検出面の標高は、東側は29.90ｍ、西側は30.04ｍで西側に向かい高くなる。検出規模は全長17.30ｍ、幅0.50～0.60ｍを測る。確認面からの深さは0.17～0.23ｍで、断面形は碗形を呈している。

覆土は宝永スコリア層と茶灰色土に分層される。

遺物は出土していない。

Ｋ３号段切りの南側を並走している部分、或いは上端の一部を切っているようにも見受けられる部分もあることからＫ３号段切りより新しい近世の所産と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｋ４号溝状遺構（第60・65図）

ＥＦ17・18、Ｅ19、Ｄ20・21、Ｄ22グリッドで発見された。Ｋ３号段切りによって造成された平場の際に並行して確認された。残存状況が悪く途切れているが、主軸方位はＮ－71°－Ｅを示す。検出面の標高は、東側は29.00ｍ、西側は30.35ｍで西側に向かい高くなる。両端とも調査区外へ延伸する。検出規模は途切れた部分を含めた全長は53.20ｍ、幅0.25～0.80ｍを測る。確認面からの深さは0.08～0.15ｍで、断面形はレンズ状、逆台形状を呈している。

覆土は暗黄灰色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況からＫ３号段切りに伴うもので近世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｋ５号溝状遺構（第60・68図）

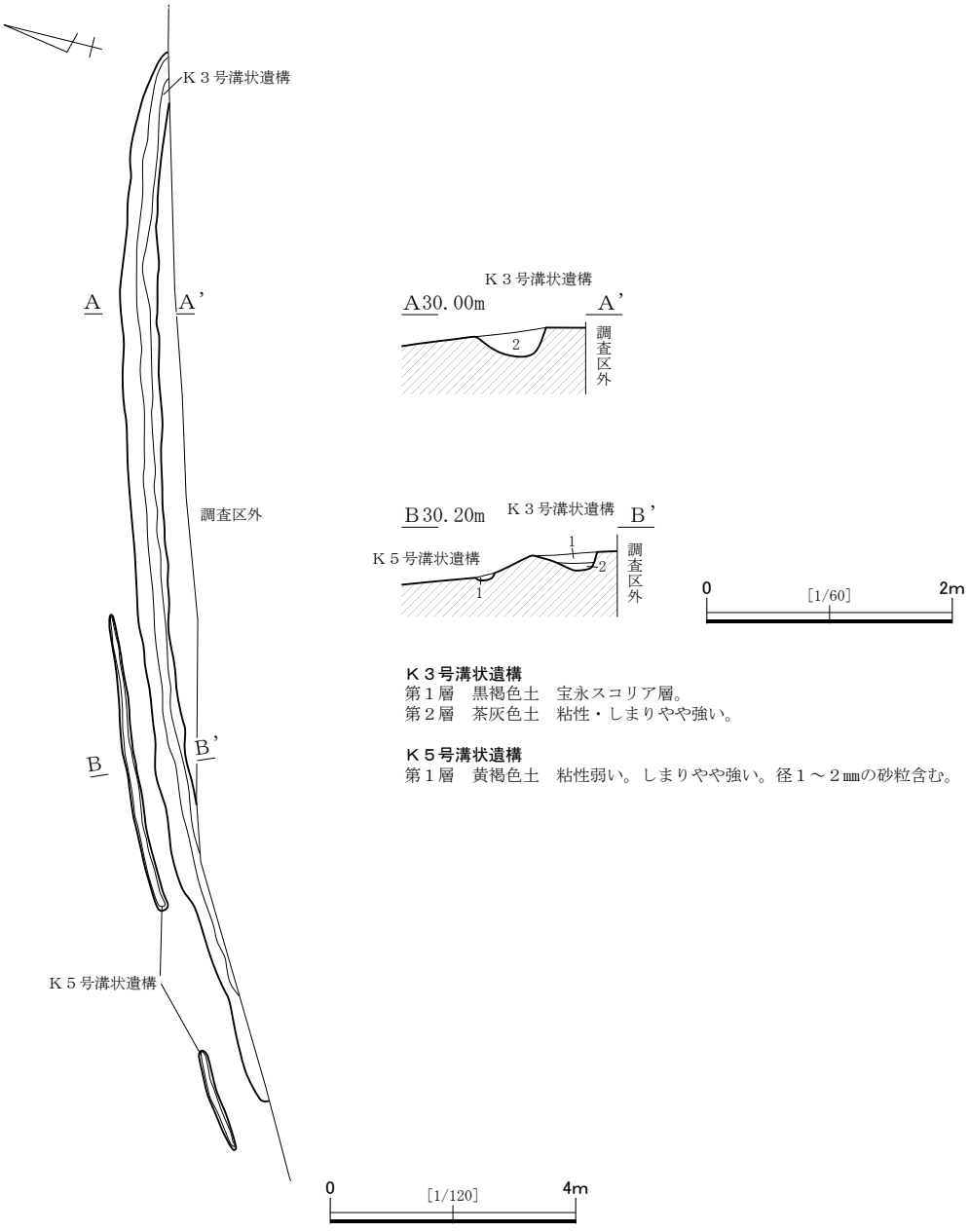
Ｄ21、Ｅ20～21グリッドで発見された。南側約0.50ｍにＫ３号溝状遺構が確認されている。主軸方位

はＮ－68°－Ｅを示し、西側はＫ３号溝状遺構に添うように弓状に弯曲している。検出面の標高は29.82ｍである。残存状況が悪く途切れているが、同一の溝状遺構と考えられる。検出規模は西側が1.70ｍ、東側が5.00ｍ、途切れた部分を含めた全長は9.10ｍ、幅0.20ｍ、確認面からの深さは0.05ｍを測る。断面形は椀形に近い。

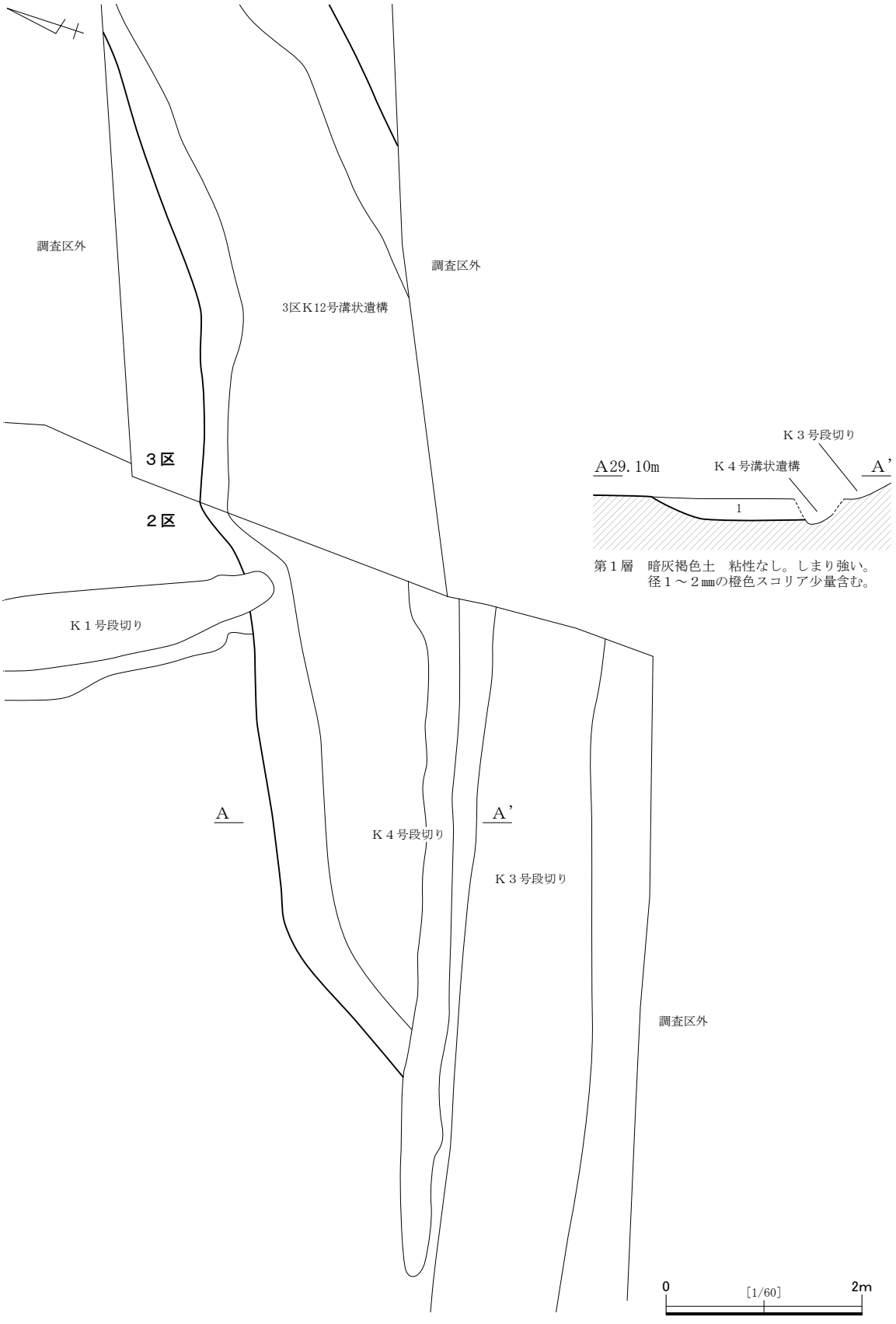
覆土は黄褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期はＫ３号段切りの埋没途中或いは埋没後の近世の所産と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



第68図　２区Ｋ３・５号溝状遺構[1/120・1/60]



第69図　２区Ｋ６号溝状遺構[1/60]

Ｋ６号溝状遺構（第60・69図）

Ｄ22グリッド中央で発見された。南側上端と覆土の一部はＫ３号段切り、Ｋ４号溝状遺構に切られている。東側は３区Ｋ12号溝状遺構へと繋がり、同一の溝状遺構として調査した。検出面の標高は28.90ｍである。検出規模は全長6.10ｍ、幅1.80ｍ以上を測る。確認面からの深さは0.22ｍである。

覆土は暗灰褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況からＫ３号段切り、Ｋ４号溝状遺構より古い所産で近世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｋ７号溝状遺構（第60～62、70図）

Ｂ21・Ｃ21～22グリッドで発見された。Ｋ１号段切りによって造成された平場の際にＫ１硬化面と共に並行して確認された。主軸方位はＮ－28°－Ｗを示し、北側は調査区外へ延伸する。検出面の標高は北側が27.68ｍ、南側が28.07ｍで南側に向かい高くなる。検出規模は全長13.09ｍ、幅0.50～0.62ｍ、確認面からの深さは0.08～0.13ｍを測る。断面形はレンズ状、逆台形に近い。

覆土は北側が褐色土、南側が灰褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況からＫ１号段切りに伴うもので近世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

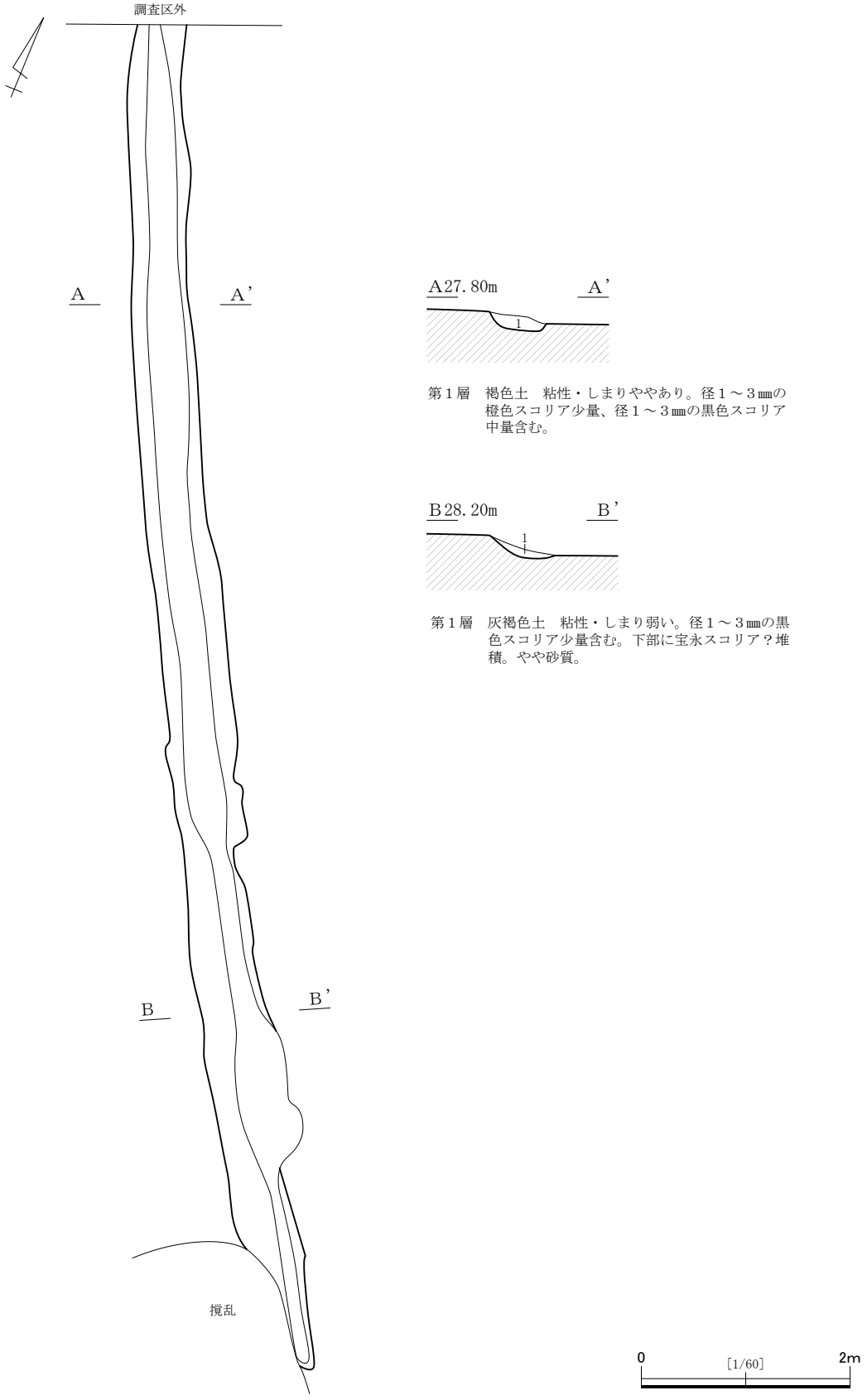
Ｋ８号溝状遺構（第60・64図）

Ｄ18グリッド北側中央で発見された。やや東に傾く南北方向のＫ２号段切りによって造成された平場の際に並行して確認された。主軸方位はＮ－18°－Ｅを示し、北側、南側は調査区外へ延伸する。検出面の標高は27.85ｍである。検出規模は全長3.82ｍ、幅0.35ｍ、確認面からの深さは0.05ｍを測る。断面形は皿状を呈している。

覆土は明灰褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況からＫ２号段切りに伴うもので近世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



第70図　２区Ｋ７号溝状遺構[1/60]

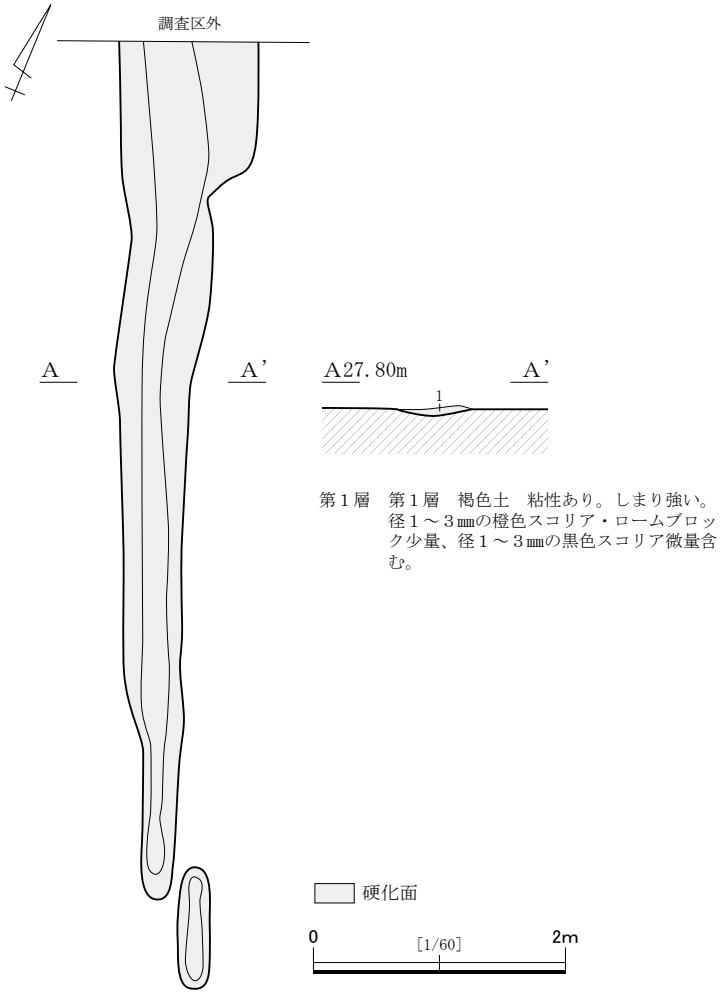
（３）硬化面

Ｋ１号硬化面（第60 ～ 62、71図）

Ｂ21 ～ 22、Ｃ22グリッドで発見された。やや西に傾く南北方向のＫ１号段切りによって造成された平場の際に並行して確認された。主軸方位はＮ－28° －Ｗを示し、北側は調査区外へ延伸し、南側は浅くなって消滅する。検出面の標高は27.60ｍである。検出規模は南端が一部途切れるが、全長7.56ｍ、幅0.26 ～ 1.10ｍを測る。硬化面の厚さは0.05ｍで、粘性のある褐色土である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況からＫ１号段切りに伴うもので近世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

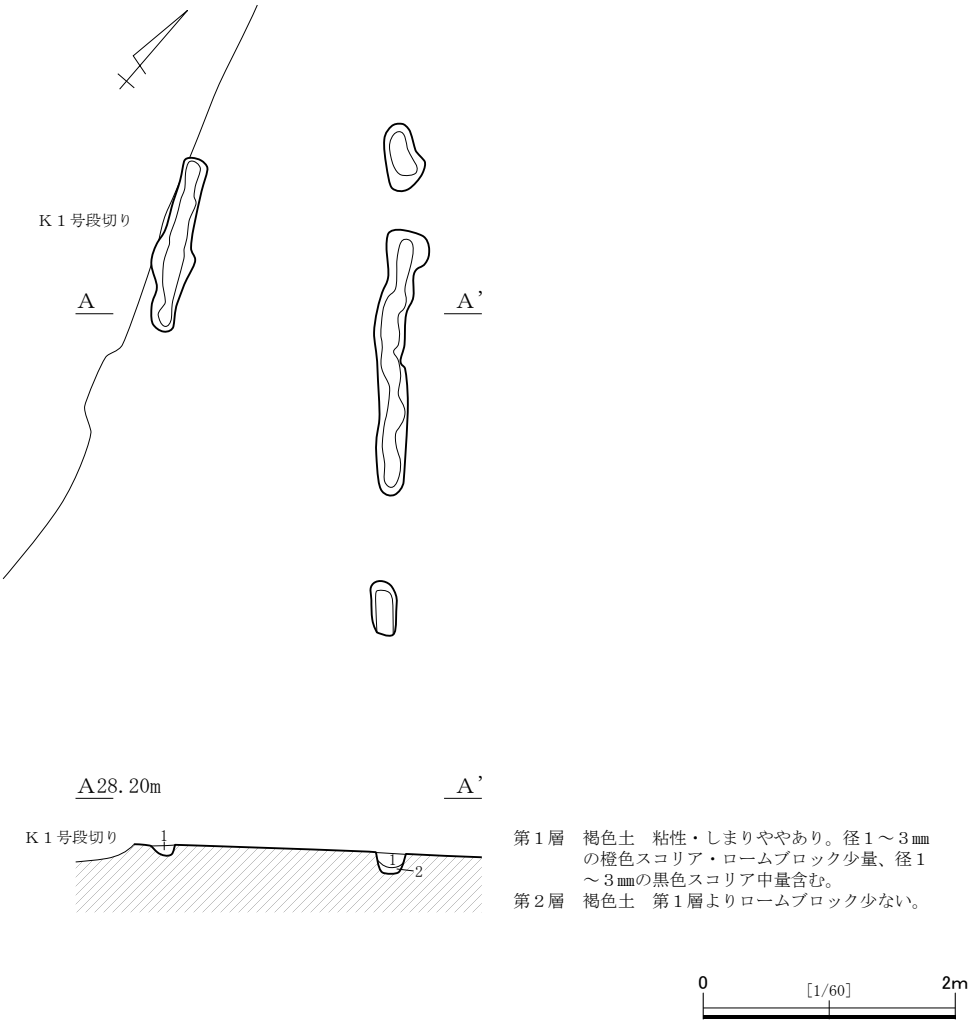


第71図　２区Ｋ１号硬化面[1/60]

（４）畝状遺構

Ｋ１号畝状遺構（第60・72図、図版16－１）

Ｂ22グリッド中央西寄りで発見された。南北約4.07ｍ、東西約2.10ｍの範囲に北西から南東に延びる幅0.20 ～ 0.30ｍ、深さ0.17ｍの溝状及びピット状の掘り込みが２列並列していることが確認された。検出面の標高は27.84ｍである。断面形は逆台形を呈し、覆土は褐色土主体である。



第72図　２区Ｋ１号畝状遺構[1/60]

Ｋ１段切りの平場に造られた畝と考えられるが、南東側は消滅している可能性があり、北西側も展開する様相がみられない。

遺物は出土していない。

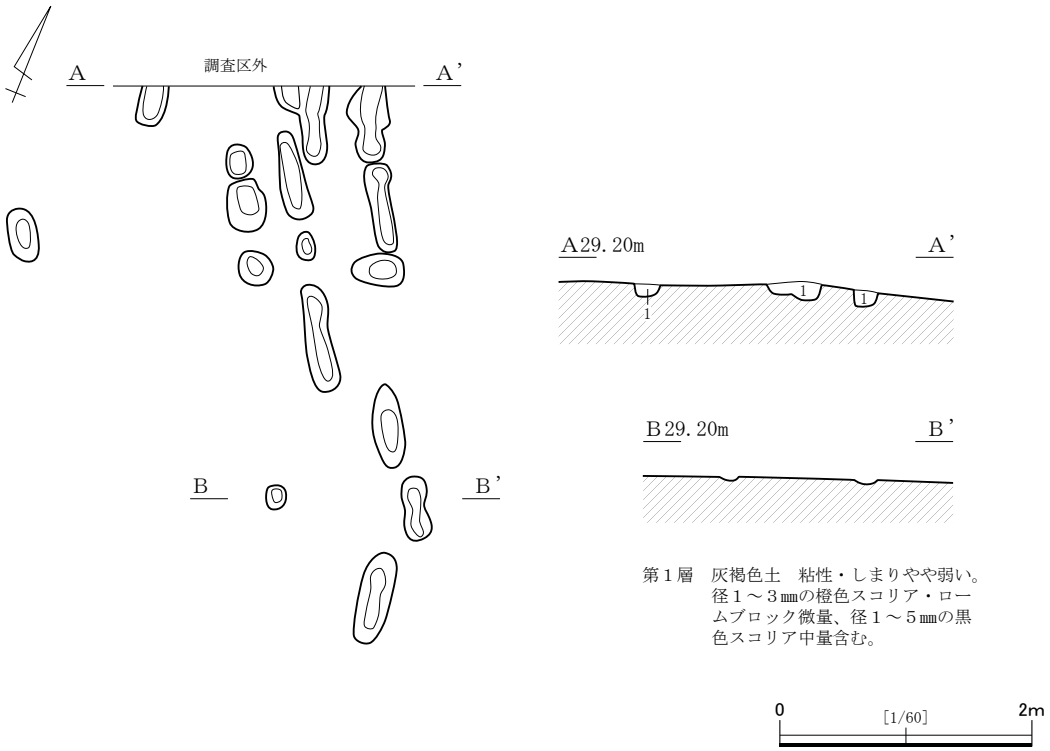
遺構の時期は検出状況から近世と考えられ、Ｋ１号段切りと同時期と推定される。

Ｋ２号畝状遺構（第60・73図、図版16－２）

Ｂ21グリッド南側で発見された。南北約4.50ｍ、東西約3.10ｍの範囲に北西から南東に延びる幅0.18～0.25ｍ、深さ0.05～0.15ｍの溝状及びピット状の掘り込みが確認された。南東側は消滅している可能性があるが、北西側は調査区外へ広がると考えられる。Ｋ１段切りの上段に位置し、同段切りと平行する。検出面の標高は29.01ｍである。断面形は方形または皿状を呈し、覆土は灰褐色土の単層である。

遺物は19世紀中頃の瀬戸・美濃産磁器碗１点（2.0ｇ）が出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況及び出土遺物から近世と考えられるが、詳細な時期等は不明である。



第73図　２区Ｋ２号畝状遺構[1/60]

（５）土坑

土坑21基中Ｋ２～15、18～21号土坑はＫ３号段切りによって造成された平場に確認された。

Ｋ１号土坑（第60・74図）

Ｂ23グリッド中央東寄りで発見された。検出面の標高は27.00ｍである。平面形は南北に長い長方形を呈し、長軸方位はＮ－26°－Ｗを示す。検出規模は長軸1.16ｍ、短軸0.66ｍで、確認面からの深さは0.12ｍを測る。底面は平坦で、断面形は皿状に近い。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ２号土坑（第60・74図）

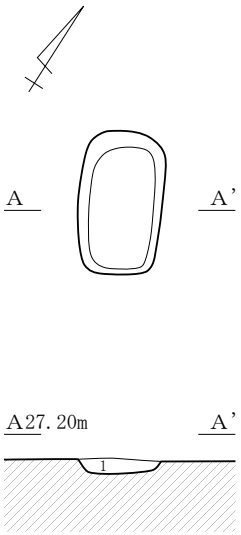
Ｅ19グリッド北東寄りで発見された。検出面の標高は29.90ｍである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はＮ－36°－Ｗを示す。検出規模は長軸3.60ｍ、短軸0.58ｍで、確認面からの深さは0.34ｍを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

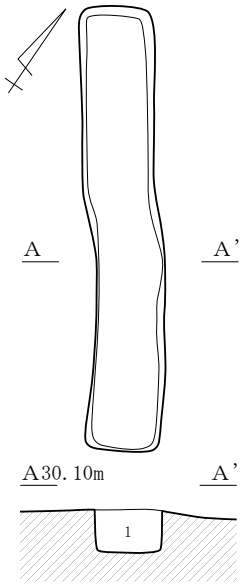
遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ１号土坑



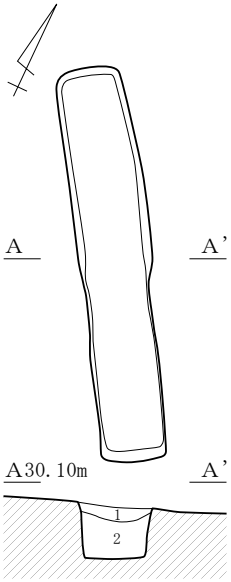
第１層　暗褐色土　粘性・しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア・明褐色土ブロック少量、ロームブロック微量含む。

Ｋ２号土坑



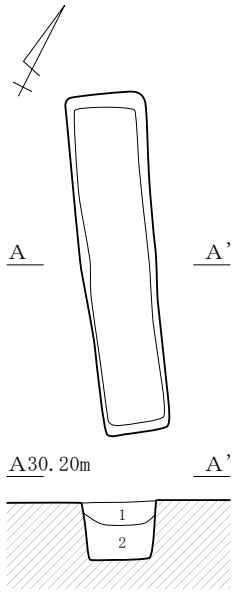
第１層　暗褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の黒色スコリア・ロームブロック少量含む。

Ｋ３号土坑



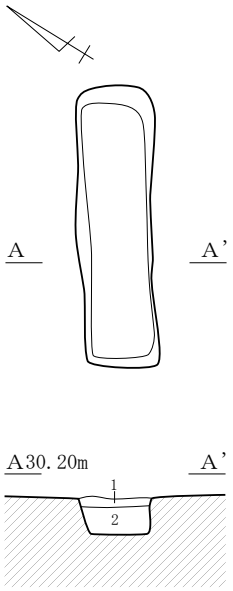
第１層　明褐色土　粘性あり。しまり弱い。ローム主体。径１～３㎜の橙色スコリア微量、褐色土ブロック少量含む。
第２層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、ロームブロック中量含む。

Ｋ４号土坑



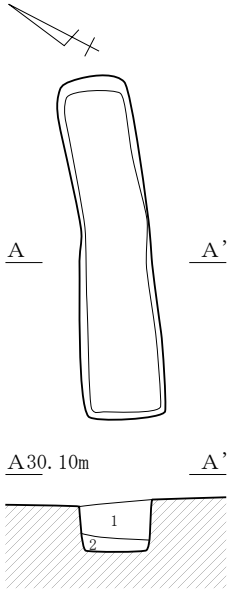
第１層　明褐色土　粘性・しまりあり。ローム主体。径１～３㎜の橙色スコリア微量、褐色土ブロック少量含む。
第２層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・ロームブロック微量含む。

Ｋ５号土坑

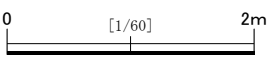


第１層　明褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・ロームブロック少量、褐色土ブロック微量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、ロームブロック少量含む。

Ｋ６号土坑



第１層　明褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・ロームブロック少量含む。
第２層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、ロームブロック微量含む。



第74図　２区Ｋ１～６号土坑[1/60]

Ｋ３号土坑（第60・74図）

Ｅ19グリッド中央北寄りで発見された。検出面の標高は30.00ｍである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はＮ－33°－Ｗを示す。検出規模は長軸3.23ｍ、短軸0.61ｍで、確認面からの深さは0.41ｍを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は明褐色土と褐色土の２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ４号土坑（第60・74図）

Ｅ19グリッド中央北西寄りで発見された。検出面の標高は30.00ｍである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はＮ－33°－Ｗを示す。検出規模は長軸2.80ｍ、短軸0.61ｍを測る。確認面からの深さは0.46ｍを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は明褐色土と褐色土の２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ５号土坑（第60・74図）

Ｅ18・19グリッド境中央で発見された。検出面の標高は30.04ｍである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はＮ－58°－Ｅを示す。検出規模は長軸2.32ｍ、短軸0.60ｍで、確認面からの深さは0.31ｍを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は明褐色土と褐色土の２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ６号土坑（第60・74図）

Ｅ18・19グリッド境北寄りで発見された。検出面の標高は29.93ｍである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はＮ－59°－Ｅを示す。検出規模は長軸2.83ｍ、短軸0.61ｍで、確認面からの深さは0.40ｍを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は明褐色土と褐色土の２層に分層される。

遺物は出土していない。

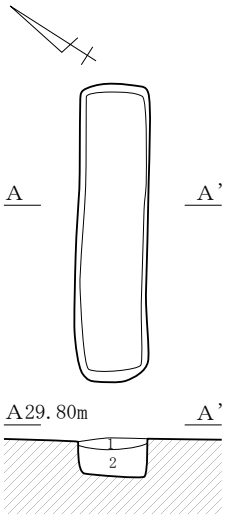
遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ７号土坑（第60・75図）

Ｄ・Ｅ18グリッド境東側で発見された。検出面の標高は29.70ｍである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はＮ－58°－Ｅを示す。検出規模は長軸2.83ｍ、短軸0.61ｍで、確認面からの深さは0.40ｍを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

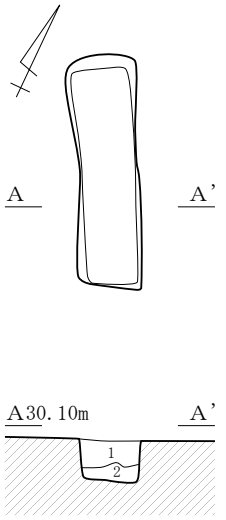
覆土は褐色土で２層に分層される。

Ｋ７号土坑



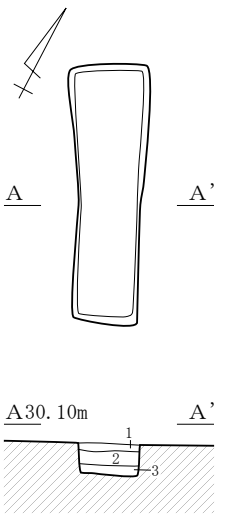
第１層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、ロームブロック中量含む。
第２層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・ロームブロック少量、暗褐色土ブロック微量含む。

Ｋ８号土坑



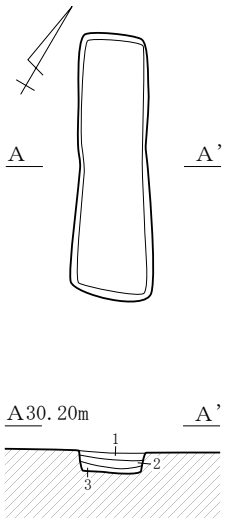
第１層　明褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、ロームブロック中量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、ロームブロック少量含む。

Ｋ９号土坑



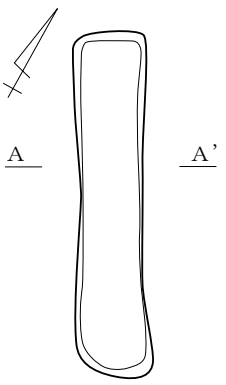
第１層　明褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、ロームブロック中量含む。
第２層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・ロームブロック少量含む。
第３層　暗黄褐色土　粘性・しまりあり。ローム主体。径１～３㎜の橙色スコリア・明褐色土ブロック少量含む。

Ｋ10号土坑



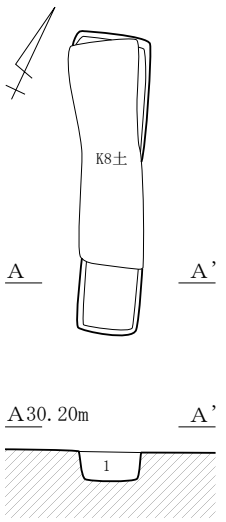
第１層　明褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、ロームブロック中量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、ロームブロック微量含む。
第３層　暗黄褐色土　粘性・しまりあり。ローム主体。径１～３㎜の橙色スコリア・褐色土ブロック微量含む。

Ｋ11号土坑

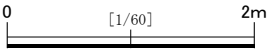


第１層　暗黄褐色土　粘性・しまりあり。ローム主体。径１～３㎜の橙色スコリア・褐色土ブロック少量含む。
第２層　明褐色土　粘性あり。しまり弱い。ロームブロック中量含む。
第３層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・暗褐色土ブロック微量、ロームブロック微量含む。

Ｋ12号土坑



第１層　暗黄褐色土　粘性・しまりあり。ローム主体。径１～３㎜の橙色スコリア・明褐色土ブロック少量含む。



第75図　２区Ｋ７～12号土坑[1/60]

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ８号土坑（第60・75図）

Ｅ18グリッド中央西寄りで発見された。検出面の標高は30.02ｍである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はＮ－30°－Ｗを示す。検出規模は長軸1.90ｍ、短軸0.50ｍで、確認面からの深さは0.33ｍを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は明褐色土と褐色土の２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ９号土坑（第60・75図）

Ｅ18グリッド中央西側で発見された。検出面の標高は29.98ｍである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はＮ－28°－Ｗを示す。検出規模は長軸2.12ｍ、短軸0.52ｍを測る。確認面からの深さは0.25ｍを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は第１層は明褐色土、第２層は褐色土、第３層は暗黄褐色土の３層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ10号土坑（第60・75図）

Ｅ18グリッド南西側で発見された。検出面の標高は30.03ｍである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はＮ－31°－Ｗを示す。検出規模は長軸2.20ｍ、短軸0.65ｍを測る。確認面からの深さは0.15ｍを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は第１層は明褐色土、第２層は褐色土、第３層は暗黄褐色土に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ11号土坑（第60・75図）

Ｅ18グリッド中央で発見された。検出面の標高は29.97ｍである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はＮ－31°－Ｗを示す。検出規模は長軸2.84ｍ、短軸0.52ｍを測る。確認面からの深さは0.36ｍを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は第１層がローム主体の暗黄褐色土で、第２層は明褐色土、第３層は褐色土に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ12号土坑（第60・75図）

Ｅ18グリッド中央西寄りで発見された。。北側２／３はＫ８号土坑に切られている。検出面の標高は30.04ｍである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はＮ－29°－Ｗを示す。検出規模は長軸2.45ｍ、短軸0.50ｍを測る。確認面からの深さは0.23ｍを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は暗黄褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ13号土坑（第60・76図）

Ｅ・Ｆ17グリッド境東寄りで発見された。北側２／３はＫ８号土坑に切られている。検出面の標高は30.04ｍである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はＮ－29°－Ｗを示す。検出規模は長軸1.80ｍ、短軸0.65ｍを測る。確認面からの深さは0.40ｍを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は褐色土主体で３層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ14号土坑（第60・76図）

Ｅ17・18グリッド境南側で発見された。検出面の標高は30.15ｍである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はＮ－25°－Ｗを示す。検出規模は長軸1.85ｍ、短軸0.56ｍを測る。確認面からの深さは0.46ｍを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は第１層は暗褐色土、第２・３層は褐色土で３層に分層される。

遺物は18世紀代の肥前染付磁器碗１点（1.1ｇ）、磁器鉢１点（4.1ｇ）、総点数２点、総重量5.2ｇの破片が出土したが小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ15号土坑（第60・76図）

Ｅ・Ｆ17グリッド境東よりで発見された。検出面の標高は30.15ｍである。平面形は長方形だが、南東側にやや広がる部分があり、他の土坑と切り合っていた可能性がある。長軸方位はＮ－22°－Ｗを示す。検出規模は長軸2.38ｍ、短軸0.74ｍを測る。確認面からの深さは0.46ｍを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は第１・２層は褐色土、第３層は暗褐色土で３層に分層される。

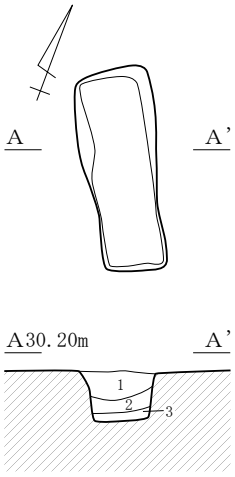
遺物は肥前磁器碗１点（1.9ｇ）が出土したが小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ16号土坑（第60・76図、図版16－１）

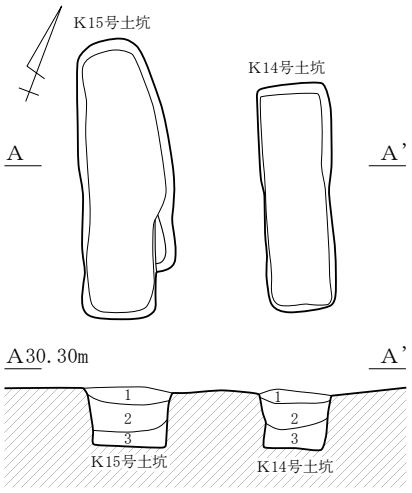
Ｂ22グリッド中央西寄りで発見された。北東部をＫ１号畝状遺構に切られている。検出面の標高は27.66ｍである。平面形は南北に長い楕円形を呈し、長軸方位はＮ－17°－Ｗを示す。検出規模は長軸1.29ｍ、

K13号土坑



第１層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、ロームブロック中量含む。
第２層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・ロームブロック少量含む。
第３層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、ロームブロック微量含む。

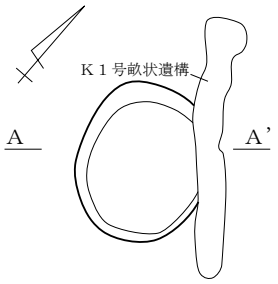
K14・15号土坑



K14号土坑
第１層　暗褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、ロームブロック中量含む。
第２層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・ロームブロック少量含む。
第３層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・ロームブロック少量、暗褐色土ブロック微量含む。

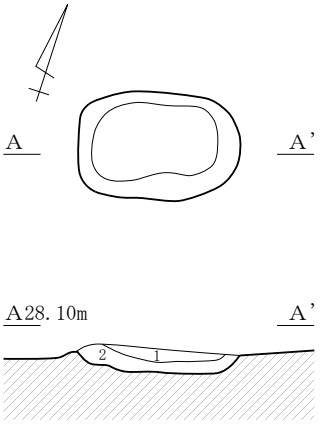
K15号土坑
第１層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、ロームブロックやや多量含む。
第２層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、ロームブロック中量含む。
第３層　暗褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・ロームブロック少量含む。

K16号土坑



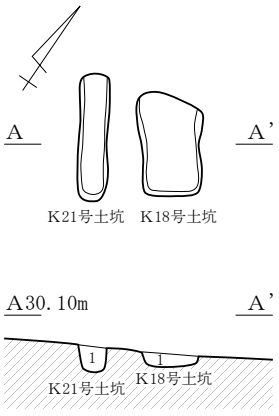
第１層　褐色土　粘性ややあり。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～３㎜の黒色スコリア中量、ロームブロック微量含む。
第２層　明褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～３㎜の黒色スコリア微量、ロームブロックやや多量含む。

K17号土坑



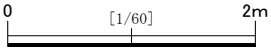
第１層　褐色土　粘性ややあり。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・ロームブロック少量、径１～３㎜の黒色スコリア中量含む。
第２層　明褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～３㎜の黒色スコリア微量、ロームブロック中量含む。

K18・21号土坑



K18号土坑
第１層　黄灰色土　粘性・しまりやや強い。径５～15㎜の黄色粒子混入多い。

K21号土坑
第１層　黄灰色土　粘性・しまりやや強い。径５～15㎜の黄色粒子混入多い。



第76図　２区K13～18・21号土坑[1/60]

短軸1.00ｍを測る。確認面からの深さは0.16ｍを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は褐色土と明褐色土の２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ17号土坑（第60・76図、図版16－１）

Ｂ22グリッド南西寄りで発見された。検出面の標高は27.95ｍである。平面形は東西に長い楕円形を呈し、検出規模は長軸1.30ｍ、短軸0.87ｍを測る。確認面からの深さは0.20ｍを測る。底面はやや平坦で、断面形は皿状を呈する。

覆土は褐色土と明褐色土の２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ18号土坑（第60・76図）

Ｅ19グリッド北東側で発見された。検出面の標高は29.81ｍである。平面形は南北に長方形を呈し、長軸方位はＮ－33°－Ｗを示す。検出規模は長軸0.80ｍ、短軸0.50ｍを測る。確認面からの深さは0.10ｍを測る。底面は平坦で、断面形は皿状を呈する。

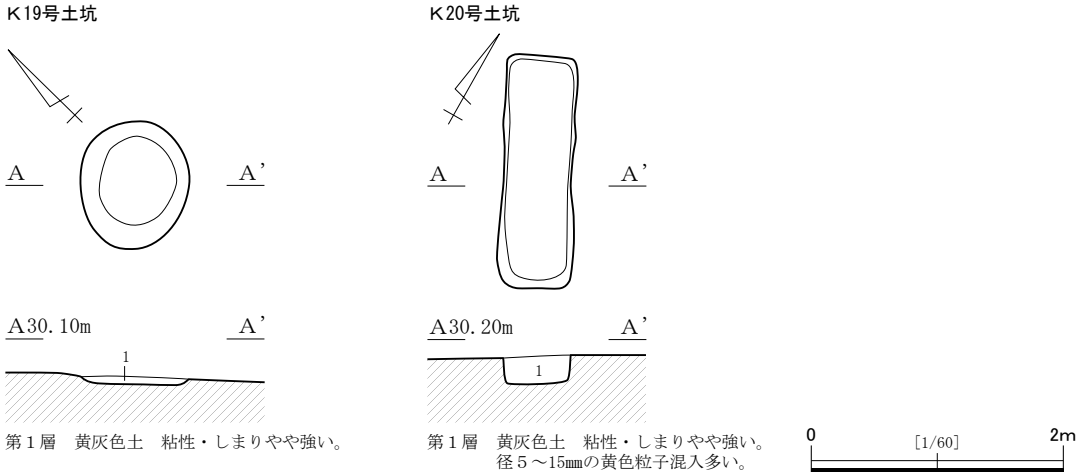
覆土は黄灰色土の単層である。

遺物は18世紀以降の肥前磁器碗１点（2.2ｇ）が出土したが小片のため図化していない。

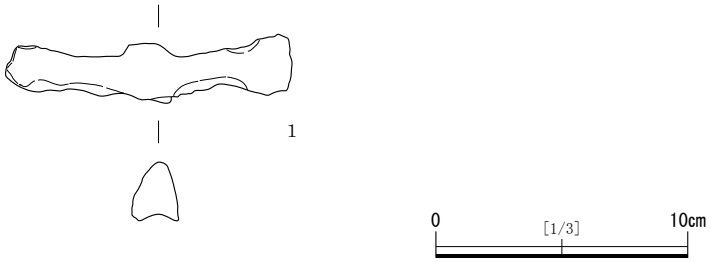
遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ19号土坑（第60・77・78図、第15表、図版147－１）

Ｅ20グリッド北西隅で発見された。検出面の標高は29.85ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.00ｍ、短軸約0.86ｍを測る。確認面からの深さは0.05ｍを測る。底面は平坦で、断面形は皿状を呈する。



第77図　２区Ｋ19・20号土坑[1/60]



第78図　２区Ｋ19号土坑出土遺物[1/3]

第15表　２区Ｋ19号土坑出土遺物観察表［第78図］

No.	種別	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	観察内容
1	棒状製品	鉄	(11.3)	2.3	1.9	96.5	残存度 両端部欠損 備考 断面三角形

覆土は黄灰色土の単層である。

遺物は鉄製品１点（96.５ｇ）が出土した。

第78図１は棒状鉄製品で断面が三角形を呈し、横断面がやや弯曲しているが用途は不明である。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ20号土坑（第60・77図）

Ｅ18グリッド南西寄りで発見された。検出面の標高は30.10ｍである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はＮ－28°－Ｗを示す。検出規模は長軸1.85ｍ、短軸0.57ｍを測る。確認面からの深さは0.22ｍを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は黄灰色土の単層である。

遺物は18世紀中頃以降の肥前磁器碗１点（3.８ｇ）が出土したが小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ21号土坑（第60・76図）

Ｅ19グリッド北西隅で発見された。検出面の標高は29.91ｍである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はＮ－30°－Ｗを示す。検出規模は長軸1.05ｍ、短軸0.22ｍを測る。確認面からの深さは0.20ｍを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は黄灰色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

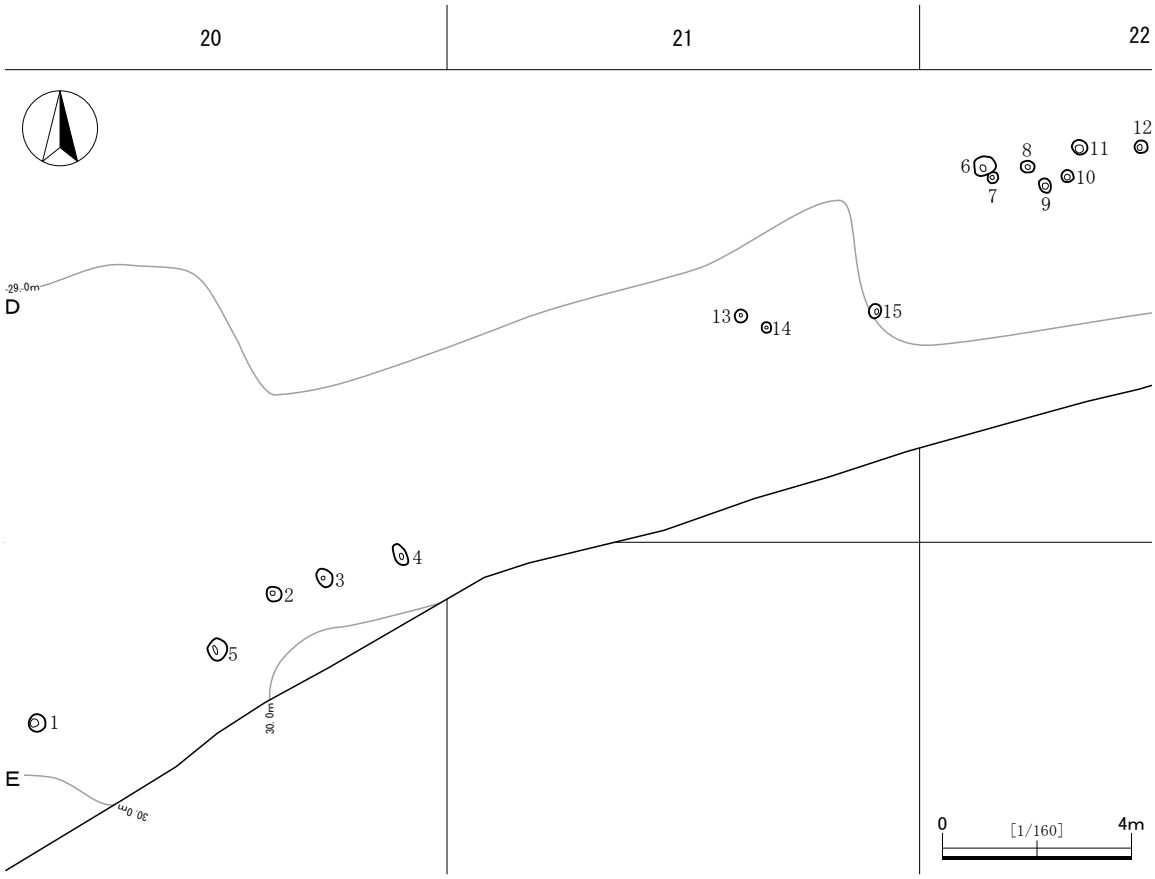
（６）ピット（第60・79図、第16表）

近世のピットはＥ20、Ｄ21～22グリッドで15基発見された。調査区南側にみられる。同グリッド付近には溝状遺構が存在するが重複はしていない。平面形は円形または楕円形で、確認面からの深さは0.10～0.30ｍのものが中心で0.40ｍ前後、0.67ｍと比較的深さのあるピットも確認できる。断面形態はＵ字状が

多い。形状や間隔には規則性が認められず、柱痕なども確認されなかった。各々の検出規模については第16表にまとめている。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世以降と推定されるが、機能などについては不明である。

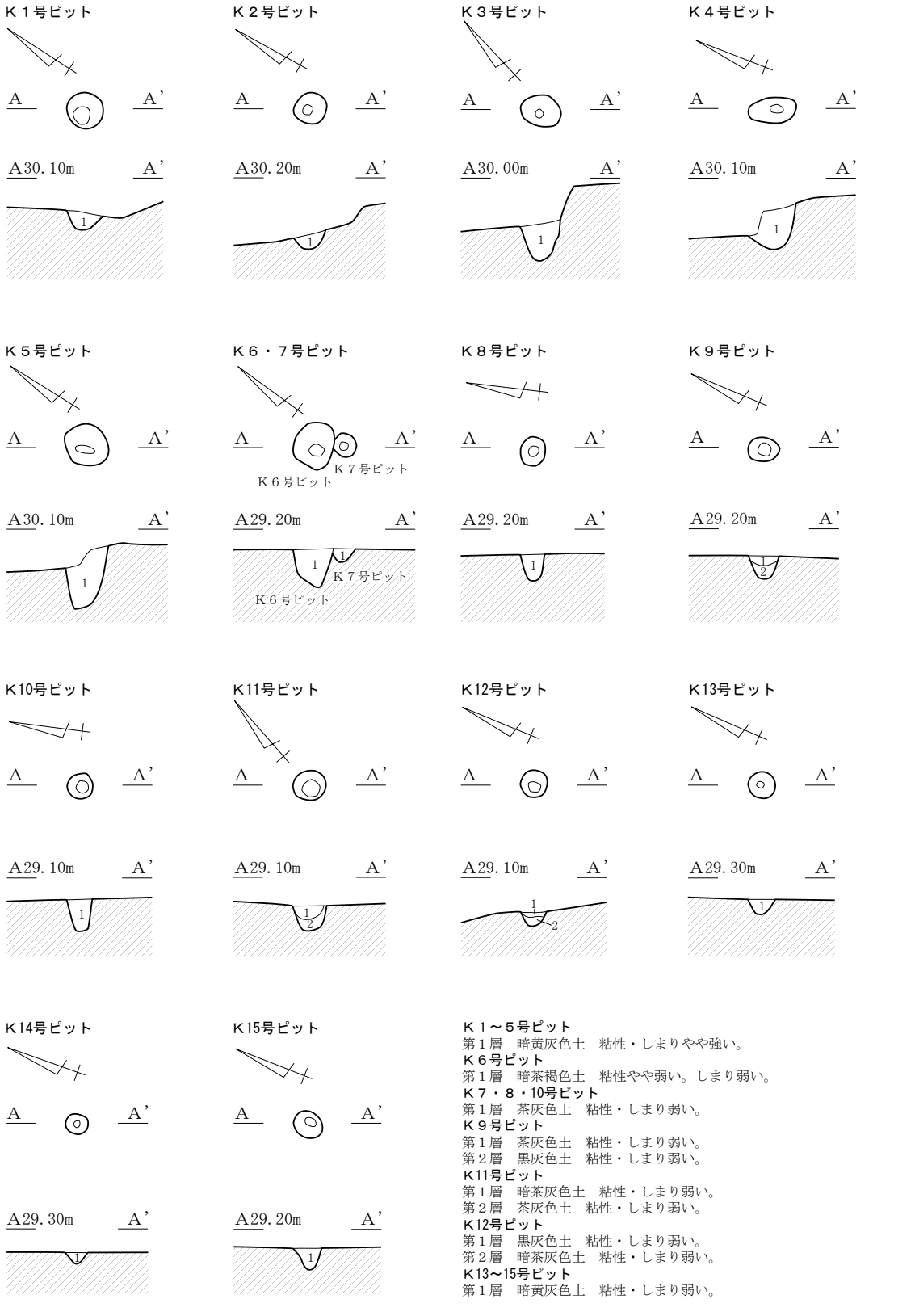


第79図　２区　近世ピット分布図[1/160]

第16表　２区近世ピット計測表［第79・80図］

遺構名	グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形
K1号ピット	E20	0.38	0.36	0.24	円形
K2号ピット	E20	0.32	0.31	0.24	円形
K3号ピット	E20	0.42	0.32	0.67	楕円形
K4号ピット	E20	0.49	0.26	0.51	楕円形
K5号ピット	E20	0.49	0.42	0.73	楕円形
K6号ピット	D22	0.48	0.41	0.42	楕円形
K7号ピット	D22	0.24	0.24	0.12	円形
K8号ピット	D22	0.29	0.26	0.29	円形

遺構名	グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形
K9号ピット	D22	0.32	0.25	0.26	楕円形
K10号ピット	D22	0.26	0.26	0.33	楕円形
K11号ピット	D22	0.33	0.31	0.29	円形
K12号ピット	D22	0.27	0.27	0.18	円形
K13号ピット	D21	0.28	0.27	0.19	円形
K14号ピット	D21	0.23	0.20	0.13	円形
K15号ピット	D21	0.31	0.26	0.24	楕円形



Ｋ１～５号ピット
第１層　暗黄灰色土　粘性・しまりやや強い。
Ｋ６号ピット
第１層　暗茶褐色土　粘性やや弱い。しまり弱い。
Ｋ７・８・10号ピット
第１層　茶灰色土　粘性・しまり弱い。
Ｋ９号ピット
第１層　茶灰色土　粘性・しまり弱い。
第２層　黒灰色土　粘性・しまり弱い。
K11号ピット
第１層　暗茶灰色土　粘性・しまり弱い。
第２層　茶灰色土　粘性・しまり弱い。
K12号ピット
第１層　黒灰色土　粘性・しまり弱い。
第２層　暗茶灰色土　粘性・しまり弱い。
K13～15号ピット
第１層　暗黄灰色土　粘性・しまり弱い。

0　[1/60]　2m

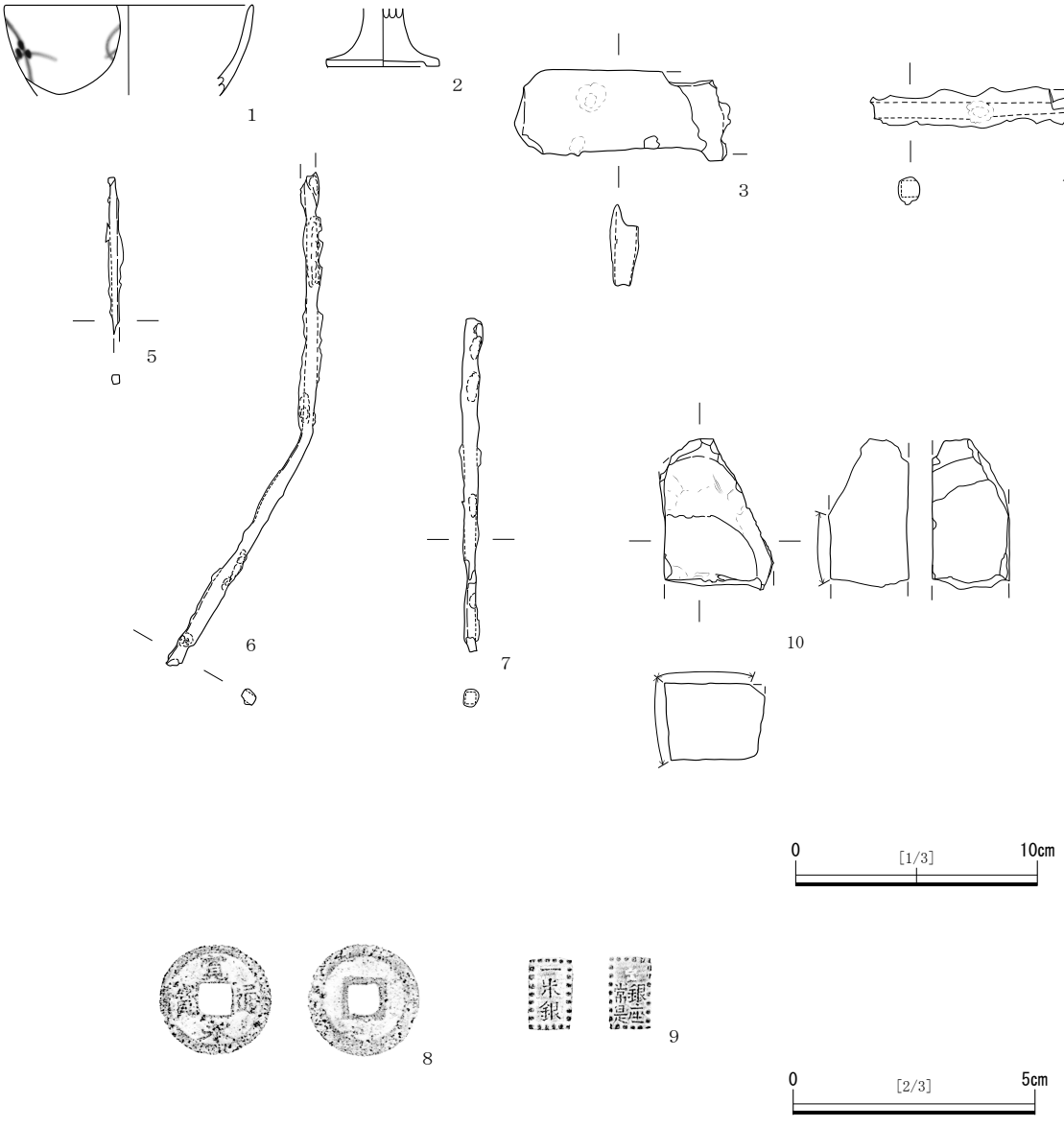
第80図　２区Ｋ１～15号ピット[1/60]

（７）遺構外出土遺物（第81図、第17表、図版147－２・148－１）

近世の遺構外出土遺物は、磁器碗19点（135.１ｇ）、磁器皿４点（20.１ｇ）、磁器小杯１点（0.４ｇ）、磁器瓶１点（2.３ｇ）、磁器仏飯器１点（16.３ｇ）、不明磁器１点（1.６ｇ）、陶器碗４点（6.６ｇ）、呉器手碗１点（4.８ｇ）、陶器皿３点（11.７ｇ）、燈明皿２点（13.９ｇ）、陶器擂鉢３点（30.８ｇ）、陶器鉢１点（51.４ｇ）、陶器片口鉢１点（8.３ｇ）、陶器甕２点（49.５ｇ）、陶器徳利１点（7.６ｇ）、陶器瓶１点（3.５ｇ）、陶器鍋１点（2.４ｇ）、金属製品（鎹・釘・棒状・板状）５点（118.６ｇ）、銭貨２点（5.２ｇ）、石製品（砥石）３点（147.４ｇ）、鉄滓１点（37.０ｇ）である。総点数57点、総重量631.５ｇである。そのうち10点を図化した。

第81図１・２は肥前磁器である。１は碗の口縁部～体部片で、外面には雪輪梅樹文が描かれている。18世紀末～19世紀のものである。２は仏飯器の脚部である。19世紀の製品か。

第81図３～７は鉄製品である。３は鍬の一部か。４は鎹で両端欠損している。５は釘で端部が欠損して



第81図　２区近世遺構外出土遺物［1/3・2/3］

第17表　２区近世遺構外出土遺物観察表［第81図］

No.	器種	種別	（）＝現存値 〔〕＝復元値 口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	残存度	産地	時期	観察内容
1	染付丸形碗	磁器	〔10.1〕	－	(3.7)	16.9	口縁部～体部1/4	肥前	18世紀末～19世紀	素地 灰白色、緻密 焼成 良好 釉薬 呉須・透明釉 文様 雪輪梅樹文 出土位置 ２区南一括
2	仏飯器	磁器	－	4.1	(2.4)	16.3	脚部1/2	肥前	19世紀か	素地 灰白色、緻密 焼成 良好 釉薬 透明釉 備考 畳付無釉 出土位置 ２区南一括

No.	種別	材質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	観察内容
3	板状製品	鉄	(3.3)	1.2	1.2	36.9	残存度 体部破片 備考 表面の錆が著しい 出土位置 D21・22gr
4	鎹	鉄	(8.6)	1.1	0.8	23.2	残存度 両端部欠損 備考 表面の錆が著しい 出土位置 D22gr
5	釘	鉄	(6.6)	0.3	0.3	4.5	残存度 端部欠損 備考 表面の錆が著しい 出土位置 C20gr
6	棒状製品	鉄	(21.8)	0.6	0.7	31.4	残存度 両端部欠損 備考 表面の錆が著しい、全体が曲がっている、７と同一と思われるが接合せず 出土位置 D21・22gr
7	棒状製品	鉄	(13.7)	0.6	0.7	20.7	残存度 両端部欠損 備考 表面の錆が著しい、６と同一と思われるが接合せず 出土位置 D21・22gr

No.	銭名	材質	銭径(mm)	穿径(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	残存度	備考
8	寛永通寶	銅	23.2	6.2	1.2	3.3	完形	鋳造地 亀戸 初鋳年 1697年 備考 新寛永 出土地点 D18gr
9	一朱銀	銀	縦 15.0	横 9.3	1.0	1.9	完形	初鋳年 1853年～1865年 備考 表面「一朱銀」裏面「銀座常是」文字・「定」の刻印・表裏面縁に連珠、嘉永一朱銀で安政一朱銀とも呼ばれる 出土位置 D21gr

No.	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	観察内容
10	砥石	細粒凝灰岩	(6.2)	(4.7)	3.2	106.8	残存度 両端部欠損 備考 上下側面２面使用、中砥 出土位置 D21・22gr

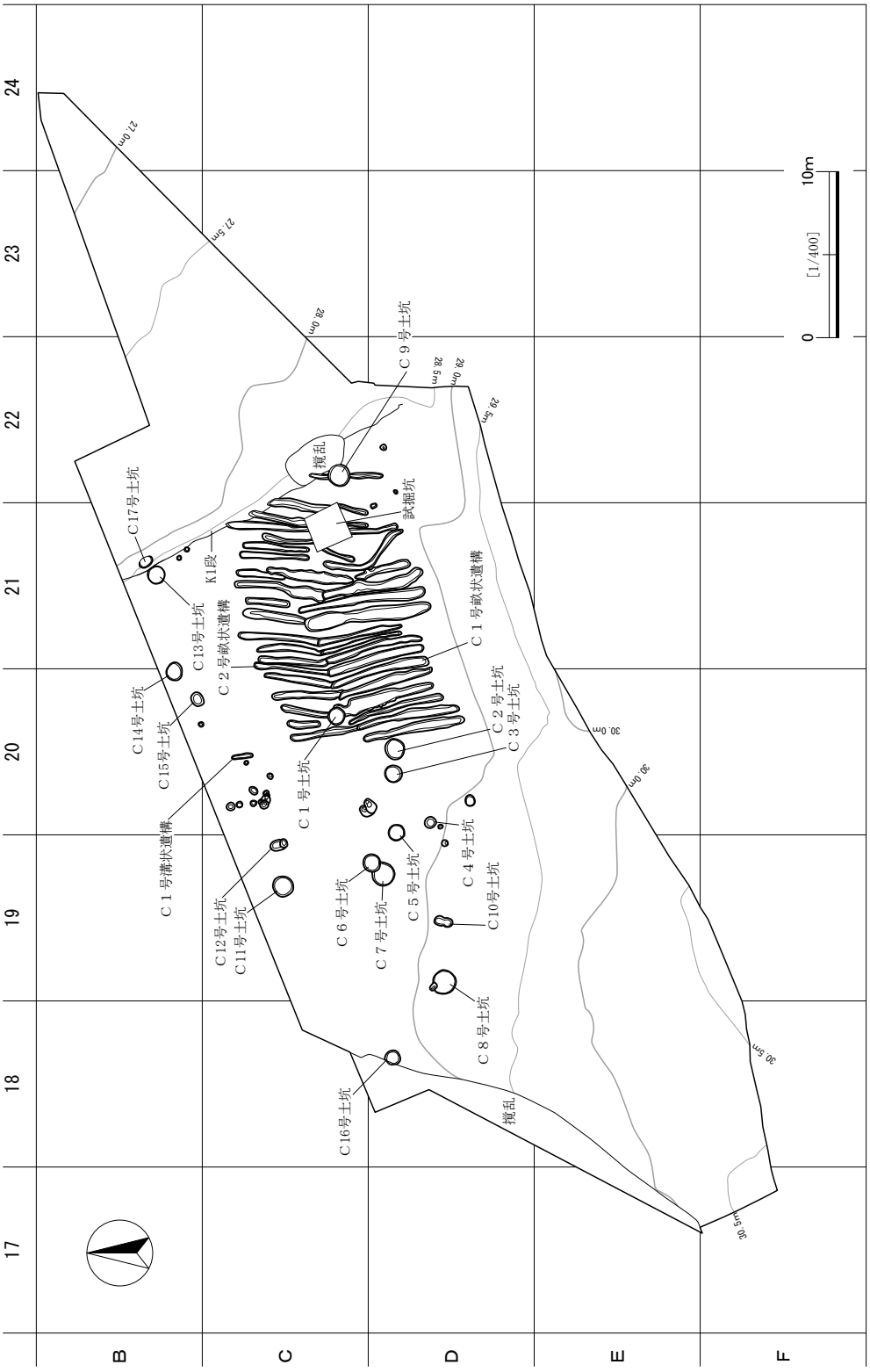
いる。６・７は細い棒状のもので、同一個体であるが接合できない。

第81図８・９は銭貨である。８は寛永通寶で初鋳年は1697年、鋳造地は亀戸である。９は銀銭で安政一朱銀である。初鋳年は1859年である。

第81図10は細粒凝灰岩の砥石である。２面使用した中砥である。

２．中　世

２区で発見された中世の遺構は溝状遺構１条、畝状遺構２ヶ所、土坑17基、ピット24基である。基本土層第Ⅳ層上面で検出される。



第82図　２区　中世遺構配置図[1/400]

調査区は地形的に南から北東へ低く傾斜している。遺構は近世では利用されなかった平坦面が広がる調査区中央に集中している。畑作関連の遺構のみが発見され、居住域ではなく耕作地として利用されていたことが伺える。

中世の出土遺物は陶器甕３点(94.5ｇ)、陶器片口鉢１点(22.0ｇ)、陶器擂鉢１点(11.8ｇ)、瓦質土器火鉢１点(10.5ｇ)、かわらけ８点(18.2ｇ)、総点数14点、総重量157.0ｇである。すべて遺構外からの出土である。

（１）溝状遺構

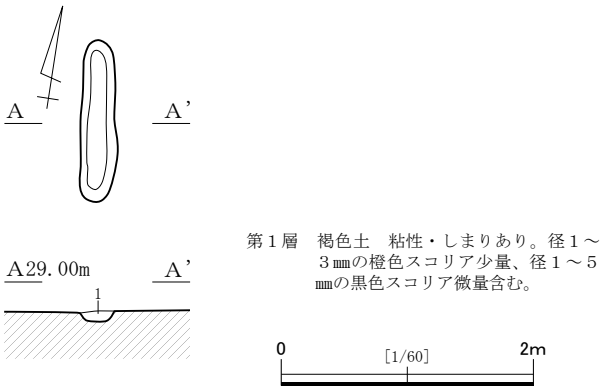
Ｃ１号溝状遺構（第82・83図、図版18－１）

Ｃ20グリッド中央北寄りで発見された。主軸方位はＮ－７°－Ｅを示し、検出面の標高は28.79ｍである。検出規模は全長1.30ｍ、幅0.28ｍ、確認面からの深さは0.08ｍを測る。断面形は逆台形を呈している。

覆土は褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



第83図　２区Ｃ１号溝状遺構[1/60]

（２）畝状遺構

Ｃ１号畝状遺構（第82・84図、図版18－２）

Ｃ～Ｄ20～21グリッドで発見された。長軸方位はＮ－16°－Ｗを示し、検出面の標高は28.82ｍ～28.87ｍである。10.4ｍ×7.6ｍの範囲に長さ3.5～7.6ｍ、平均長6.00ｍ、幅0.66～0.90ｍ、深さ0.08～0.18ｍの溝状の掘り込みが、0.20～0.40ｍの間隔で14列並列していることが確認された。確認面からの深さは0.08～0.18ｍで、断面形は逆台形及び皿状を呈し、覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

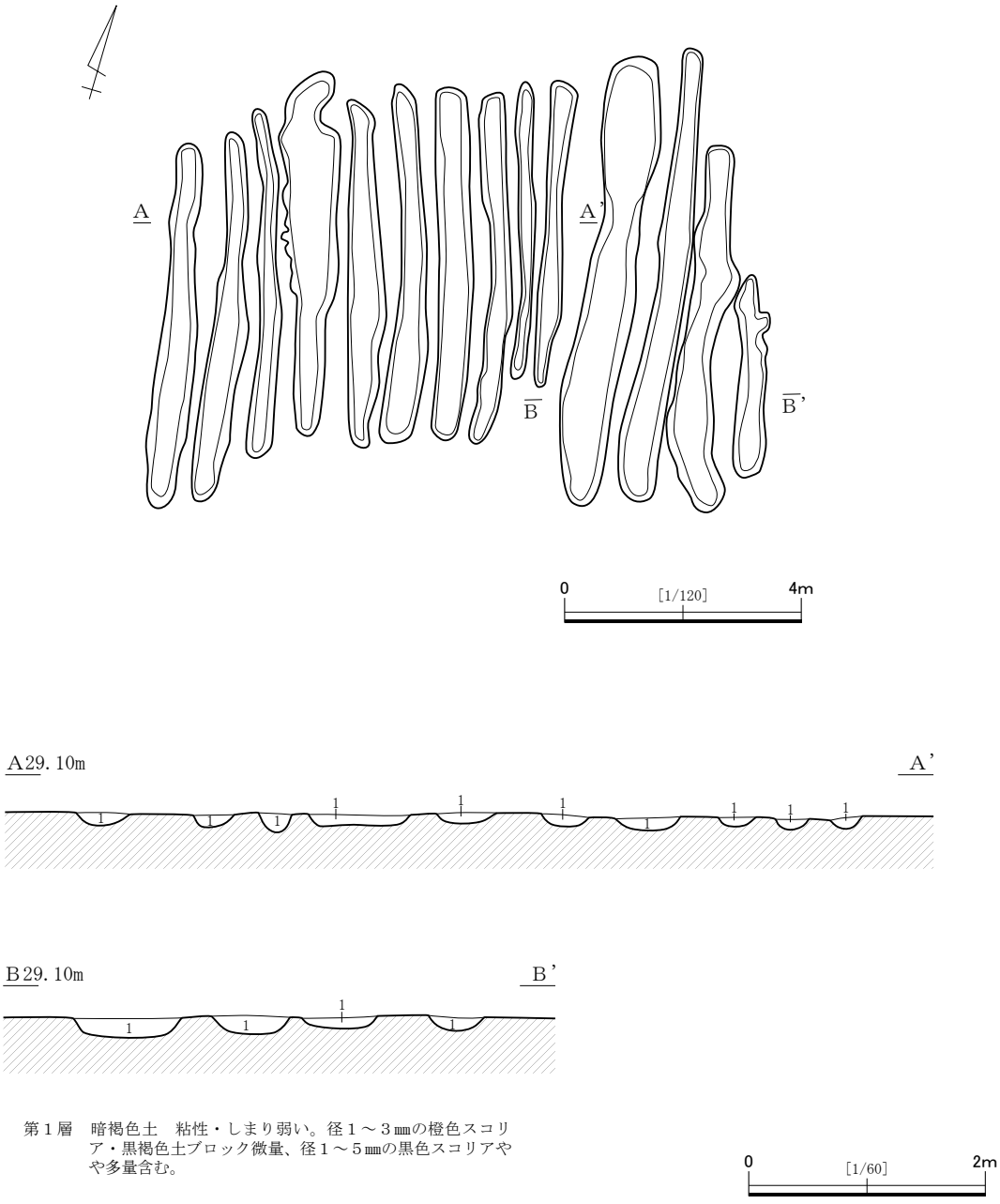
Ｃ２号畝状遺構（第82・85図、図版18－２）

Ｃ20、ＣＤ21グリッドで発見された。南端はＣ１号畝状遺構に切られている。東側の一部は北端の上端をＫ１号段切り及び撹乱に切られている。西側はＣ１号土坑、最東端はＣ９号土坑に切られている。長軸方位はＮ－５°－Ｅを示し、検出面の標高は28.62ｍ～29.80ｍである。16.4ｍ×10.0ｍの範囲に長

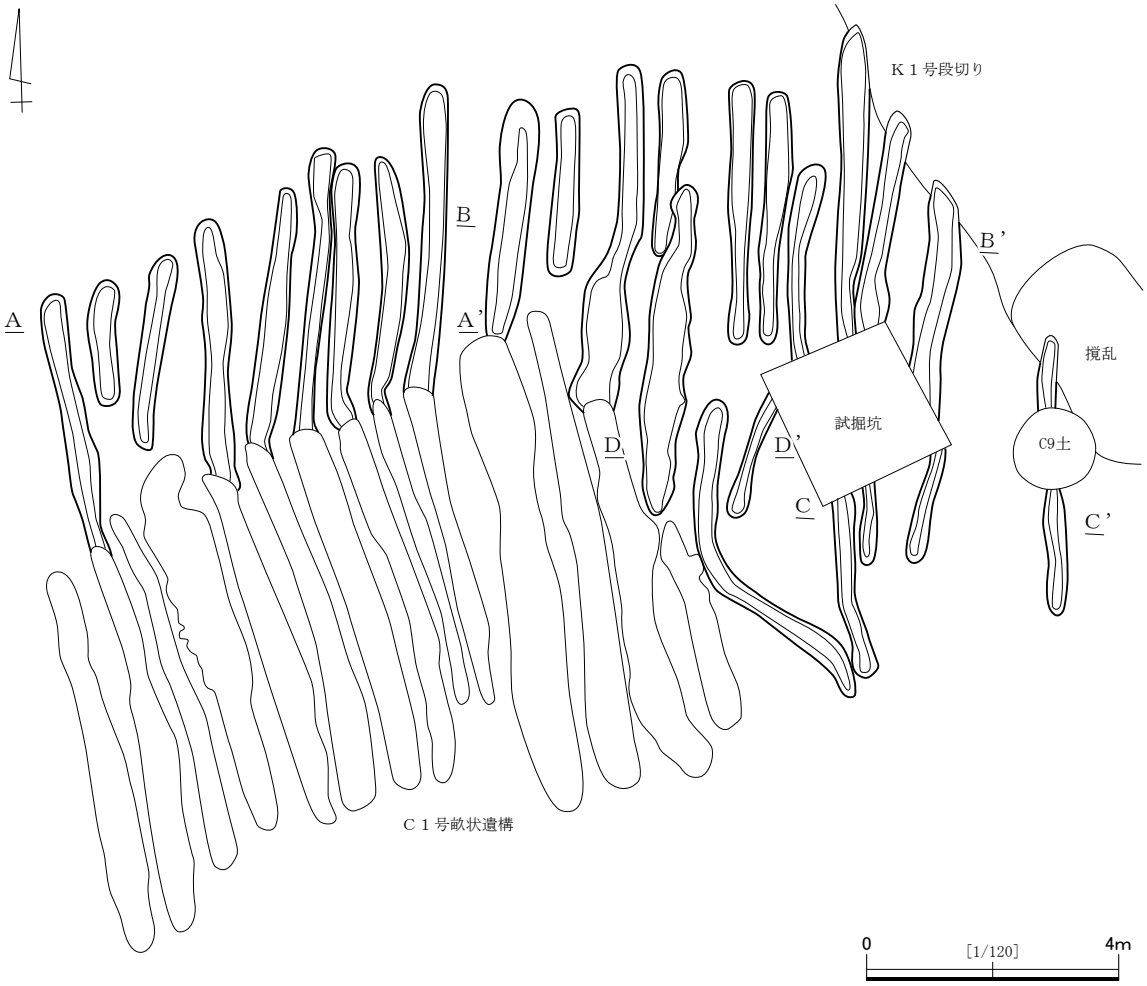
さ2.00 ～ 8.00ｍ、平均長4.00ｍ、幅0.30 ～ 0.65ｍ、深さ0.03 ～ 0.11ｍの溝状の掘り込みが、0.20 ～ 0.60ｍの間隔で20列ほど並列していることが確認された。確認面からの深さは0.30 ～ 0.11ｍで、断面形は碗状や皿状を呈し、覆土は暗褐色土の単層である。

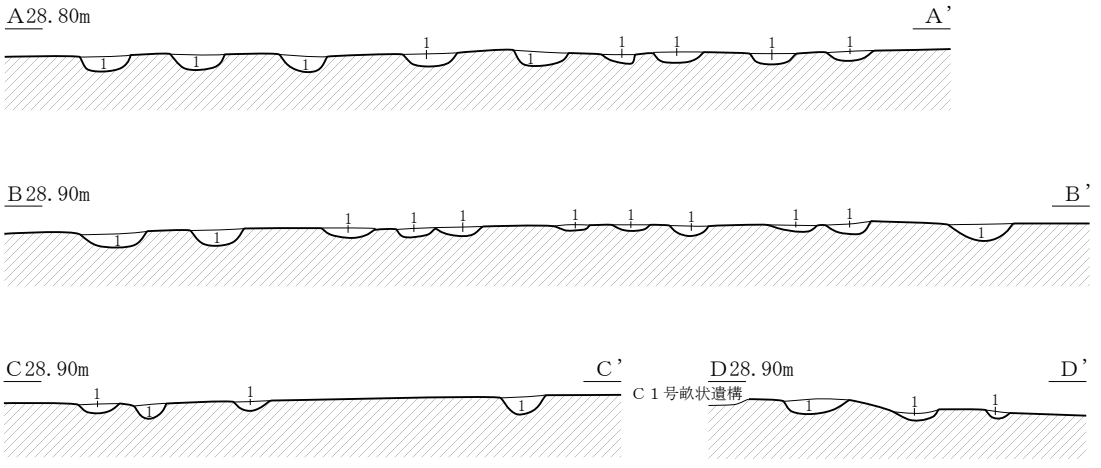
遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

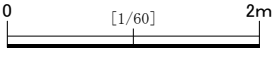


第84図　２区Ｃ１号畝状遺構[1/120・1/60]





第１層　暗褐色土　粘性・しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・黒褐色土ブロック微量、径１～５㎜の黒色スコリアやや多量含む。



第85図　２区Ｃ２号畝状遺構[1/120・1/60]

（３）土坑

Ｃ１号土坑（第82・86図、図版19－１）

Ｃ20グリッド南東側で発見された。検出面の標高は28.77ｍである。平面形は円形を呈し、検出規模は径1.05ｍで、確認面からの深さは0.10ｍを測る。断面は浅い逆台形を呈する。底面は平坦で、壁は西側がやや緩やかに東側がやや急な角度で立ち上がる。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ２号土坑（第82・86図、図版19－２）

Ｄ20グリッド北側中央で発見された。西側約0.35ｍにＣ３号土坑が確認されている。検出面の標高は28.90ｍである。平面形は円形を呈し、検出規模は径1.15ｍで、確認面からの深さは0.20ｍを測る。断面は浅い逆台形を呈する。底面は平坦で、壁はやや緩やかな角度で立ち上がる。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ３号土坑（第82・86図、図版19－３）

Ｄ20グリッド北側中央で発見された。東側約0.35ｍにＣ２号土坑が確認されている。検出面の標高は28.97ｍである。平面形は円形を呈し、検出規模は径1.00ｍで、確認面からの深さは0.25ｍを測る。断面はやや東側に傾く箱形を呈する。底面は平坦で、壁は急な角度で立ち上がる。

覆土は第１層が茶褐色土、第２層が暗褐色土の２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ４号土坑（第82・86図、図版19－４）

Ｄ20グリッド西側中央で発見された。検出面の標高は29.01ｍである。平面形は円形を呈し、検出規模は径0.65ｍで、確認面からの深さは0.10ｍを測る。断面は浅い皿状を呈する。底面は平坦で、壁は緩やかな角度で立ち上がる。

覆土は第１層が茶褐色土、第２層が暗褐色土の２層に分層される。

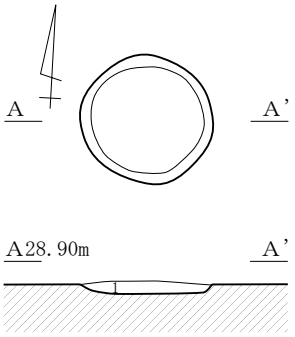
遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ５号土坑（第82・86図、図版19－５）

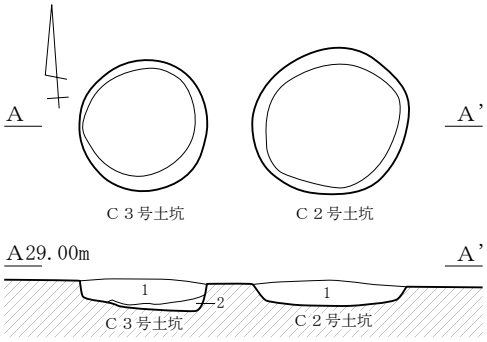
Ｄ20グリッド北側中央で発見された。検出面の標高は28.95ｍである。平面形は円形を呈し、検出規模は径0.95ｍで、確認面からの深さは0.23ｍを測る。断面は逆台形を呈する。底面は平坦で、壁はやや緩やかな角度で立ち上がる。覆土は第１層が茶褐色土、第２層が暗褐色土の２層に分層される。

Ｃ１号土坑



第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、炭化物粒微量含む。

Ｃ２・３号土坑



Ｃ２号土坑

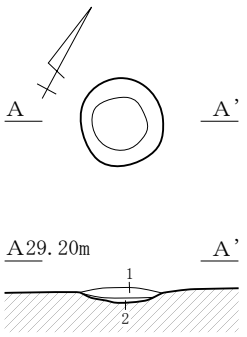
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア・炭化物粒微量含む。

Ｃ３号土坑

第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア・炭化物粒微量含む。

第２層　暗褐色土　粘性・しまり弱い。径１～８㎜の黒色スコリアやや多量、茶褐色土ブロック少量含む。

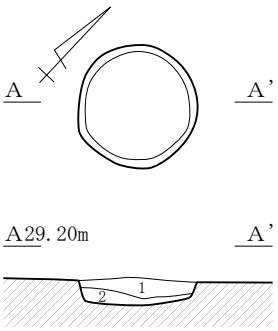
Ｃ４号土坑



第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア・炭化物粒微量含む。

第２層　暗褐色土　粘性・しまり弱い。径１～８㎜の黒色スコリアやや多量、茶褐色土ブロック少量含む。

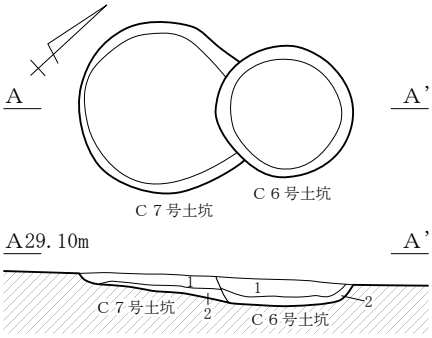
Ｃ５号土坑



第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア・炭化物粒微量含む。

第２層　暗褐色土　粘性・しまり弱い。径１～８㎜の黒色スコリアやや多量、茶褐色土ブロック中量含む。

Ｃ６・７号土坑



Ｃ６号土坑

第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア・炭化物粒・暗褐色土ブロック微量含む。

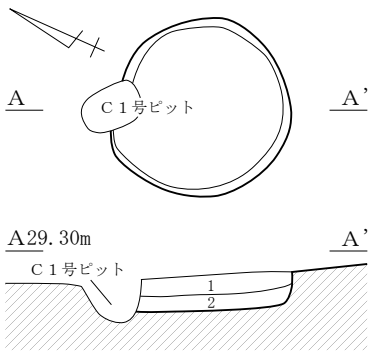
第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア・炭化物粒微量、暗褐色土ブロック少量含む。

Ｃ７号土坑

第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア・炭化物粒微量含む。

第２層　暗褐色土　茶褐色土ブロック微量含む。

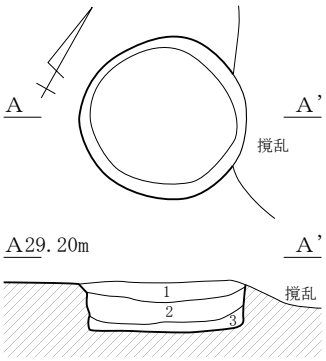
Ｃ８号土坑



第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア・炭化物粒微量含む。

第２層　暗褐色土　粘性・しまり弱い。径１～５㎜の黒色スコリアやや多量、茶褐色土ブロック・炭化物粒微量含む。

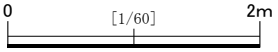
Ｃ９号土坑



第１層　暗褐色土　粘性・しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～８㎜の黒色スコリアやや多量、茶褐色土ブロック少量含む。

第２層　暗褐色土　粘性・しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・茶褐色土ブロック微量、径１～８㎜の黒色スコリアやや多量含む。

第３層　暗褐色土　粘性・しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～８㎜の黒色スコリアやや多量含む。第１層よりもややしまりあり。



第86図　２区Ｃ１～９号土坑[1/60]

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ６号土坑（第82・86図、図版19－６）

Ｃ・Ｄ19グリッド境東よりで発見された。検出面の標高は28.92ｍである。平面形は円形を呈し、検出規模は径1.05ｍで、確認面からの深さは0.21ｍを測る。断面は逆台形を呈する。底面は平坦で、壁は西側がやや急に、東側がやや緩やかな角度で立ち上がる。

覆土は茶褐色土主体で２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ７号土坑（第82・86図、図版19－６）

Ｄ19グリッド北端東寄りで発見された。北東側をＣ６号土坑に切られている。検出面の標高は28.98ｍである。平面形は円形を呈すると推定され、検出規模は径1.36ｍで、確認面からの深さは0.16ｍを測る。断面は皿状を呈すると思われる。底面はやや凹凸があり、北西側に傾く。壁はやや緩やかな角度で立ち上がる。

覆土は第１層が茶褐色土、第２層が暗褐色土の２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ８号土坑（第82・86図、図版19－７）

Ｄ19グリッド西端中央で発見された。北西側をＣ１号ピットに切られている。東に約2.50ｍにＣ10号土坑が確認されている。検出面の標高は29.15ｍである。平面形は円形を呈し、検出規模は径1.42ｍで、確認面からの深さは0.15ｍを測る。断面は箱形を呈する。底面は平坦で、壁は急な角度で立ち上がる。

覆土は第１層が茶褐色土、第２層が暗褐色土の２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ９号土坑（第82・86図、図版19－８）

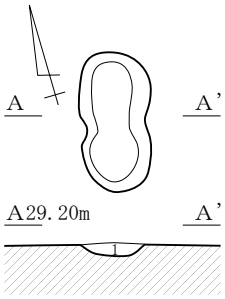
Ｃ22グリッド南西側で発見された。検出面の標高は29.04ｍである。平面形は円形を呈し、検出規模は径1.30ｍで、確認面からの深さは0.40ｍを測る。断面は箱形を呈する。底面は平坦で、壁は急な角度で立ち上がる。

覆土は暗褐色土の主体で３層に分層される。

遺物は出土していない。

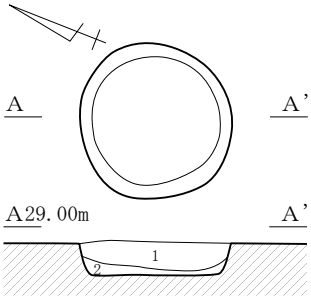
遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C10号土坑



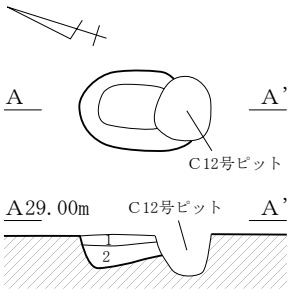
第１層　暗褐色土　粘性・しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～８㎜の黒色スコリアやや多量含む。

C11号土坑



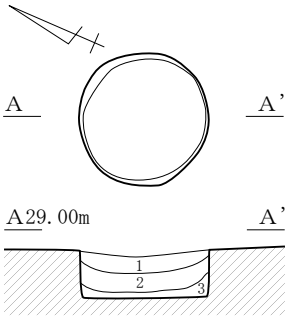
第１層　暗褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア中量、黒褐色土ブロック微量含む。
第２層　暗褐色土　粘性あり。しまりややあり。径１～３㎜の橙色スコリア・黒褐色土ブロック少量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。

C12号土坑



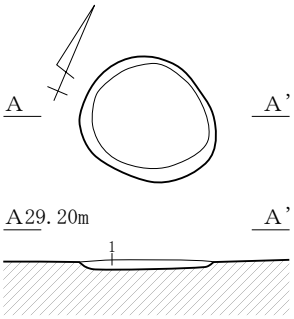
第１層　暗褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・暗黒褐色土ブロック少量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。
第２層　第１層より暗黒褐色土ブロック少なく明るい。

C13号土坑



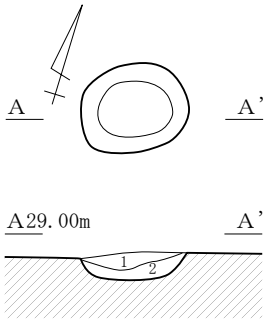
第１層　明褐色土　粘性あり。しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア・ロームブロック少量、暗褐色土ブロック微量含む。
第２層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量、ロームブロック微量含む。
第３層　暗褐色土　粘性あり。しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

C14号土坑



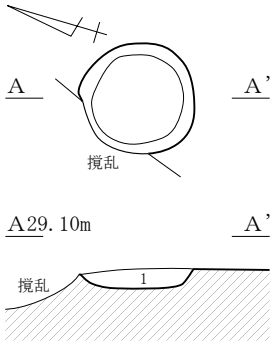
第１層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・明茶褐色土ブロック少量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。

C15号土坑



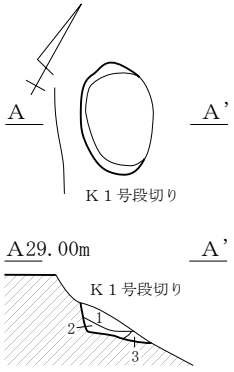
第１層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。
第２層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア・明茶褐色土ブロック少量含む。

C16号土坑

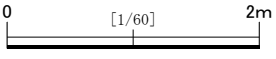


第１層　暗褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア中量、暗黒褐色土ブロック微量含む。

C17号土坑



第１層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量、ロームブロック中量含む。
第２層　暗褐色土　第１層よりロームブロック少ない。
第３層　暗茶褐色土　粘性やや強い。しまりあり。ロームに暗褐色土が混入。



第87図　２区Ｃ10～17号土坑[1/60]

Ｃ10号土坑（第82・87図）

Ｄ19グリッド中央で発見された。西約2.50ｍにＣ８号土坑が確認されている。検出面の標高は29.05ｍである。平面形は楕円形を呈し、検出規模は長軸1.11ｍ、短軸0.55ｍ、確認面からの深さは0.10ｍを測る。断面は浅い逆台形を呈する。底面は平坦で、壁はやや急な角度で立ち上がる。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ11号土坑（第82・87図、図版20－１）

Ｃ19グリッド東寄り中央で発見された。東側約1.40ｍにＣ12号土坑が確認されている。検出面の標高は28.90ｍである。平面形は円形を呈し、検出規模は径1.22ｍで、確認面からの深さは0.25ｍを測る。断面は逆台形を呈する。底面は平坦で、壁はやや急な角度で立ち上がる。

覆土は暗褐色土主体で２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ12号土坑（第82・87図、図版20－２）

Ｃ19グリッド東端中央で発見された。西側約1.40ｍにＣ11号土坑が確認されている。南側をＣ12号ピットに切られている。検出面の標高は28.90ｍである。平面形は楕円形を呈し、検出規模は長軸0.93ｍ以上、短軸0.62ｍ、確認面からの深さは0.25ｍを測る。底面は平坦で、壁はやや緩やかな角度で立ち上がる。

覆土は暗褐色土主体で２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ13号土坑（第82・87図、図版20－３）

Ｂ21グリッド南東寄りで発見された。検出面の標高は28.85ｍである。平面形は円形を呈し、検出規模は径1.07ｍで、確認面からの深さは0.36ｍを測る。断面は箱形を呈する。底面は平坦で、壁は急な角度で立ち上がる。

覆土は第１層が明褐色土、第２層が褐色土、第３層は暗褐色土の３層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ14号土坑（第82・87図）

Ｂ20・21グリッド境南側で発見された。検出面の標高は28.98ｍである。平面形は円形を呈し、検出規模は径1.00ｍで、確認面からの深さは0.12ｍを測る。断面は皿状を呈する。底面は平坦で、壁は緩やかな角度で立ち上がる。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ15号土坑（第82・87図、図版20－４）

Ｂ20グリッド南端東寄りで発見された。検出面の標高は28.85ｍである。平面形は楕円形を呈し、検出規模は長軸0.85ｍ、短軸0.70ｍ、確認面からの深さは0.21ｍを測る。断面は碗状を呈する。底面は平坦で、壁は西側がやや急に、東側がやや緩やかな角度で立ち上がる。

覆土は暗褐色土で２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ16号土坑（第82・87図）

Ｄ18グリッド北寄り中央で発見された。北西側は攪乱に切られている。検出面の標高は28.85ｍである。平面形は円形を呈し、検出規模は径0.90ｍで、確認面からの深さは0.15ｍを測る。断面は皿状を呈する。底面は平坦で、壁は北側がやや緩やかに南側がやや急な角度で立ち上がる。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ17号土坑（第82・87図）

Ｂ21グリッド南東側で発見された。上部及び西側はＫ１号段切りに切られている。検出面の標高は28.70ｍである。平面形は楕円形を呈すると推定され、検出規模は長軸0.90ｍ、短軸0.57ｍ以上で、確認面からの深さは0.25ｍを測る。底面は緩やかな凹凸があり、壁は西側がやや急な角度で立ち上がる。

覆土は第１・２層は暗褐色土、第３層は暗茶褐色土の３層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

（４）ピット（第82・88～90図、第18表）

Ｂ～Ｄ19～22グリッドから24基発見された。Ｃ20グリッド北西側に集中している。規模や深さは一定ではなく、また規則性のある並びも確認されなかった。平面形は円形或いは楕円形が中心で、長方形・方形も発見されている。各々の検出規模については第18表にまとめている。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

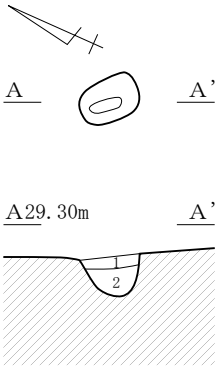


第88図　２区　中世ピット分布図[1/250]

第18表　２区　中世ピット計測表［第88～90図］

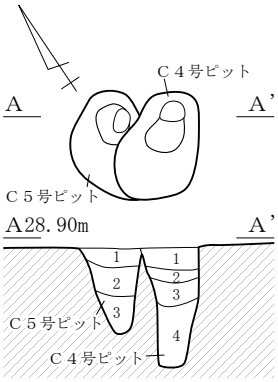
遺構名	グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形	遺構名	グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形
C1号ピット	D19	0.49	0.35	0.31	長方形	C15号ピット	B20・C20	0.31	0.30	0.27	円形
C3号ピット	D20	0.30	0.25	0.37	楕円形	C16号ピット	C20	0.37	0.31	0.10	円形
C4号ピット	C20・D20	0.92	0.65	0.99	不整形	C17号ピット	C20	0.57	0.42	0.16	楕円形
C5号ピット	C20・D20	0.88	(0.55)	0.61	不整形	C18号ピット	C20	0.52	0.50	0.17	円形
C6号ピット	D20	0.67	0.59	0.17	楕円形	C19号ピット	C20	0.39	0.35	0.09	円形
C7号ピット	D21	0.38	0.27	0.26	長方形	C20号ピット	C20	0.38	0.32	0.20	円形
C8号ピット	D22	0.36	0.36	0.42	円形	C21号ピット	C20	0.27	0.25	0.06	円形
C9号ピット	D22	0.27	0.21	0.18	楕円形	C22号ピット	C20	0.52	0.48	0.19	円形
C10号ピット	D19	0.38	0.38	0.28	円形	C23号ピット	C20	0.38	0.35	0.23	円形
C12号ピット	C19	0.51	0.45	0.34	楕円形	C24号ピット	C20	0.54	0.53	0.61	方形
C13号ピット	B21	0.28	0.27	0.20	円形	C25号ピット	C20	(0.37)	(0.15)	0.58	楕円形
C14号ピット	B21	0.29	0.28	0.16	円形	C26号ピット	C20	0.38	0.28	0.48	楕円形

Ｃ１号ピット



第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　暗褐色土　径１～５㎜の黒色スコリアやや多量、茶褐色土ブロック中量含む。

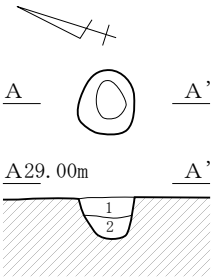
Ｃ４・５号ピット



Ｃ４号ピット
第１層　茶褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア少量、暗褐色土ブロック微量含む。
第２層　暗褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。
第３層　暗褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。第２層よりやや明るい。
第４層　黒褐色土　粘性・しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリアやや多量、暗褐色土ブロック少量含む。

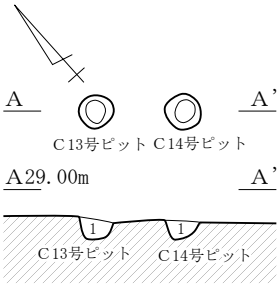
Ｃ５号ピット
第１層　暗茶褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・暗褐色土ブロック少量、径１～３㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　暗褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。
第３層　黒褐色土　粘性・しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリアやや多量、暗褐色土ブロック少量含む。

Ｃ12号ピット



第１層　暗褐色土　粘性あり。しまりややあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。
第２層　暗褐色土　粘性あり。しまりややあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア中量、黒褐色土ブロック微量含む。

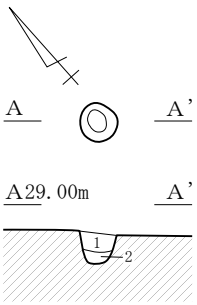
Ｃ13・14号ピット



Ｃ13号ピット
第１層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア・暗茶褐色土ブロック少量含む。

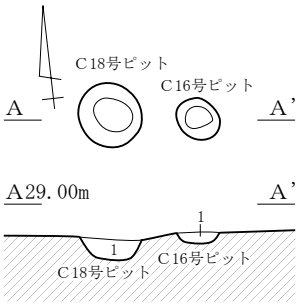
Ｃ14号ピット
第１層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・暗茶褐色土ブロック微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

Ｃ15号ピット



第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。
第２層　褐色土　粘性あり。しまりやや強い。径１～３㎜の橙色スコリア・明茶褐色ブロック微量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。

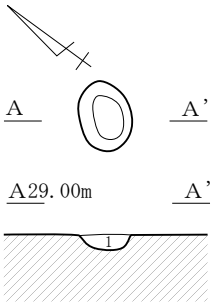
Ｃ16・18号ピット



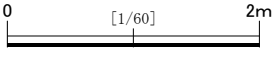
Ｃ16号ピット
第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量・焼土粒微量含む。

Ｃ18号ピット
第１層　明褐色土　粘性あり。しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量、ローム粒微量含む。

Ｃ17号ピット

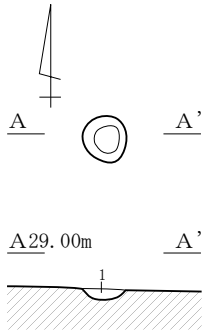


第１層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。



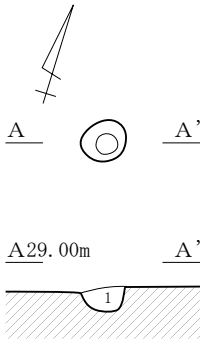
第89図　２区Ｃ１・４・５・12～18号ピット[1/60]

C19号ピット



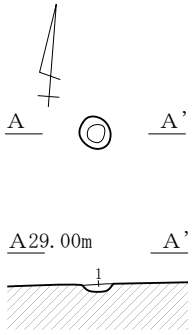
第１層　明褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量、暗黒褐色土ブロック微量含む。

C20号ピット



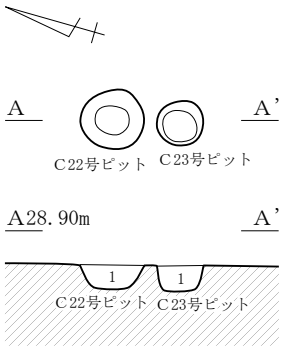
第１層　褐色土　粘性あり。しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量、ローム粒・暗黒褐色土ブロック微量含む。

C21号ピット



第１層　明褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量、ローム粒・焼土粒微量含む。

C22・23号ピット



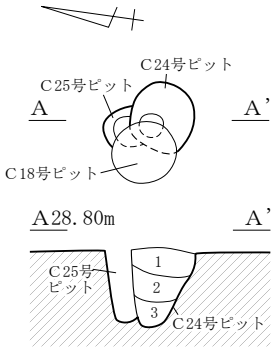
C22号ピット

第１層　明褐色土　粘性あり。しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量、暗褐色土微量含む。

C23号ピット

第１層　褐色土　粘性あり。しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア・暗褐色土少量含む。

C24・25号ピット



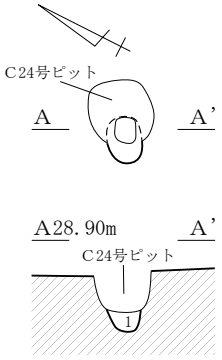
C24号ピット

第１層　明褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量、黒褐色土ブロック微量含む。

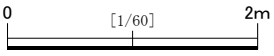
第２層　暗褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。第２層よりやや明るい。

第３層　黒褐色土　粘性・しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリアやや多量、暗褐色土ブロック少量含む。

C26号ピット



第１層　黒褐色土　粘性・しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリアやや多量、暗褐色土ブロック少量含む。



第90図　２区Ｃ19～26号ピット[1/60]

（５）遺構外出土遺物

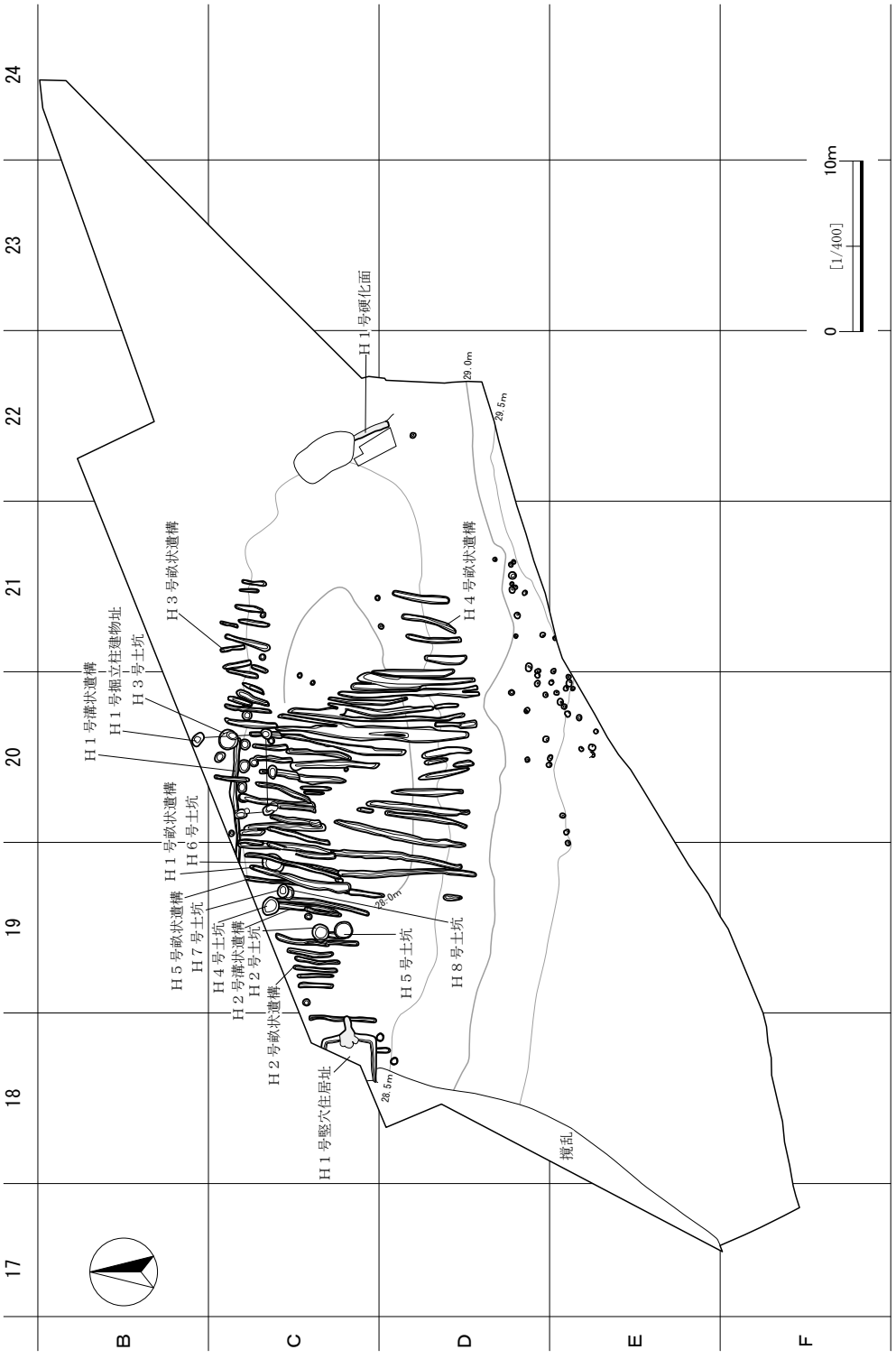
中世の遺構外出土遺物は、陶器甕３点(94.５ｇ)、陶器片口鉢１点(22.０ｇ)、陶器擂鉢１点(11.８ｇ)、瓦質土器火鉢１点(10.５ｇ)、かわらけ８点(18.２ｇ)、総点数14点、総重量157.０ｇである。

小片のため図化していない。

３．奈良・平安時代

２区で発見された奈良・平安時代の遺構は竪穴住居址１軒、掘立柱建物址１棟、溝状遺構２条、畝状遺構５ヶ所、硬化面１ヶ所、土坑７基、ピット64基である。基本土層第Ⅴ層上面で検出される。

調査区は南から北東へ傾斜しており、中央部分は小規模な埋没谷が入り込んでいる。その周辺に遺構が



第91図　２区　奈良・平安時代遺構配置図[1/400]

集中している。調査区北側は円形土坑、中央部分は畝状遺構が発見され、奈良・平安時代において調査区中央が耕作地として活用していることが伺える。

奈良・平安時代の出土遺物は、土師器坏117点(803.6ｇ)、土師器甕460点(4,631.8g)、須恵器坏４点(18.5g)、須恵器蓋１点(8.8g)、須恵器甕７点(191.0g)、須恵器瓶１点(4.0g)、鉄製品(刀子・鏃)２点(64.1g)、総点数592点、総重量5,721.8gが出土した。

(１) 竪穴住居址

Ｈ１号竪穴住居址(第91～95図、第19表、図版20－５・21－１・21－２・148－２・149－１)

Ｃ18グリッド南東に位置している。西側は調査区外へ展開すると思われるが、南側は後世の撹乱により壊されている。平面形態は方形または長方形を呈すると推測される。残存する規模は、東西は現状で2.65ｍ、南北3.24ｍを測り、主軸方位はＮ－88°－Ｅを示す。壁はやや外傾しながら直線的に立ち上がり、床面までの深度は北側で0.70ｍを測る。床は厚さ２～４㎝の暗褐色土で貼床されており、平坦である。周溝は残存する壁際に確認され、規模は幅0.16ｍ、深さ0.15ｍ、断面形態はＵ字状を呈する。覆土は暗褐色土を主体に分層され、掘り方はやや明るい明褐色土である。

床下土坑は、住居中央に２基確認されている。平面形態は円形または楕円形と推定されるが、西側が調査区外であり、全容は判然としない。残存する規模は床下土坑１が径0.85ｍ、深さ0.15ｍ～0.20ｍを測る。床下土坑２は径0.90ｍ、深さ0.10ｍを測る。覆土は２～３層に分層され、下層は乳褐色粘土主体となる。床下ピットは、カマド袖部の下から２基、床下から１基発見された。平面形態は円形を呈し、規模は径0.25ｍでほぼ同じである。深さは、床下ピット１、３は0.13ｍ、床下ピット２は0.38ｍを測る。覆土は、床下ピット２、３は暗茶褐色土の単層で、床下ピット１は明褐色土で２層に分層される。床下ピット１、２はカマド袖部下からの確認であり、また並列しているようにも見受けられ、カマドの構造の一部とも考えられるが詳細は不明である。

カマドは東壁中央に設置されている。煙道、燃焼部、焚口部、袖部が確認される。残存する規模は煙道部から焚口部まで1.84ｍ、両袖幅1.15ｍを測る。燃焼部、焚口部、袖部周辺には遺物が集中して出土している。掘り方は、平面形態は不整円形を呈し、東西1.00ｍ、南北1.05ｍを測る。

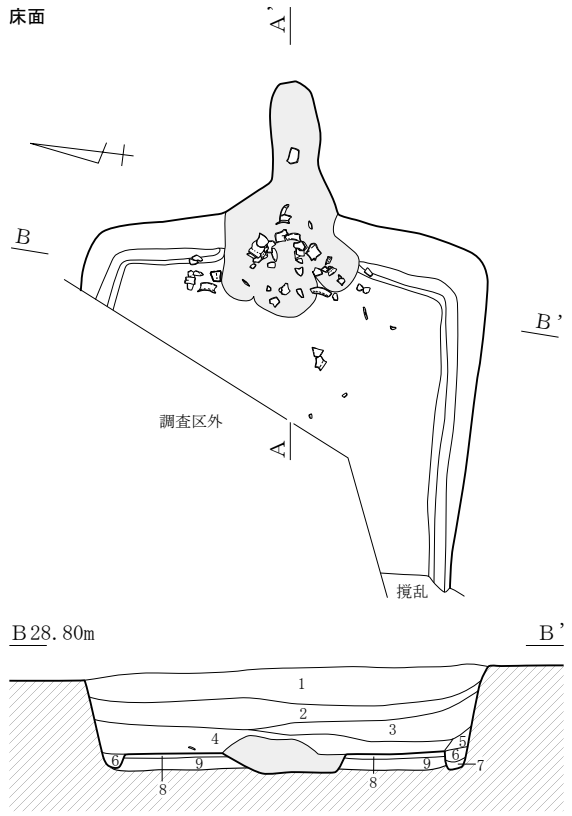
遺物出土状況としては住居全体に分布しており、そのほとんどが土師器甕である。

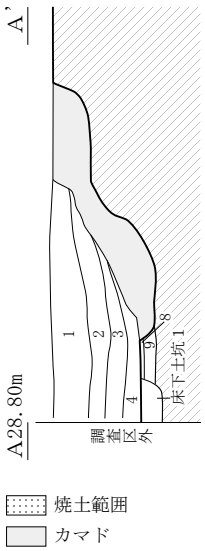
出土遺物は、土師器坏13点(83.9g)、土師器甕208点(3,456.4g)、鉄製品(刀子・鎌)２点(64.1g)、総点数223点、総重量3,604.4gである。このうち10点を図化した。

第95図１～８は土師器甕である。１～３、５は長胴甕の口縁部～胴部片である。１・２・５はカマドから出土し、５は１より口径がやや小さい。３は口縁部がゆがんでいる。６は胴張甕の口縁部～胴部片である。７は小型甕の口縁部～胴部片である。８は底部片で木葉痕が残る。

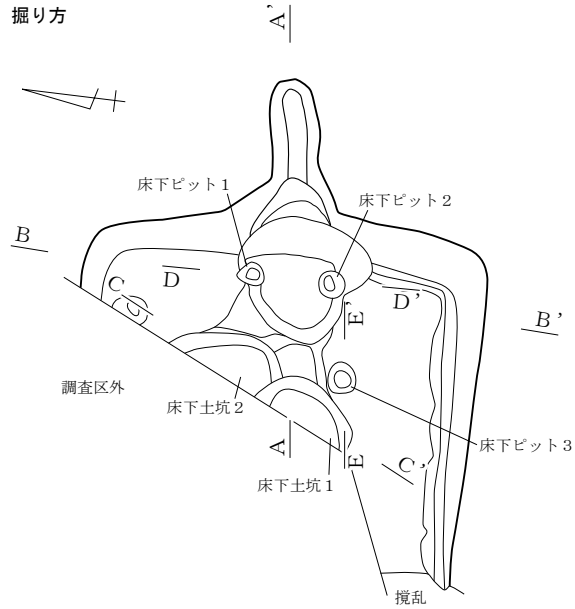
第95図９は刀子で刃部先端と茎部の一部は欠損しているが柄部にわずかに木質部が残る。10は鎌で柄部と刃部の接合部分である。

年代を観察できる土師器坏は少なく小片であり、須恵器も出土していないため詳細は不明であるが、出土遺物から遺構の時期は９世紀代としておきたい。





第１層　暗褐色土　粘性・しまり弱い。橙色スコリア・黒褐色土ブロック微量、黒色スコリア中量含む。
第２層　暗褐色土　粘性・しまり弱い。橙色スコリア微量、黒色スコリアやや多量、黒褐色土ブロック少量含む。
第３層　暗褐色土　粘性弱い。しまりやや弱い。橙色スコリア・炭化物粒微量、黒色スコリアやや多量、黒褐色土ブロック少量含む。
第４層　暗褐色土　粘性弱い。しまりやや弱い。橙色スコリア・炭化物粒微量、黒色スコリア中量、焼土粒・乳褐色粘土少量含む。
第５層　暗黒褐色土　粘性・しまり弱い。橙色スコリア微量、黒色スコリアやや多量含む。
第６層　暗褐色土　粘性・しまり弱い。橙色スコリア・黒褐色土ブロック微量、黒色スコリア中量含む。（周溝）
第７層　茶褐色土　粘性・しまりあり。橙色スコリア少量、暗褐色土ブロック含む。（周溝）
第８層　暗褐色土　粘性あり。しまりやや弱い。橙色スコリア少量、黒色スコリア中量、炭化物粒・焼土粒・乳褐色粘土・黒褐色土ブロック微量含む。（貼り床）
第９層　明褐色土　粘性・しまりあり。乳褐色粘土やや多量、焼土粒・暗褐色土ブロック少量含む。（掘り方）



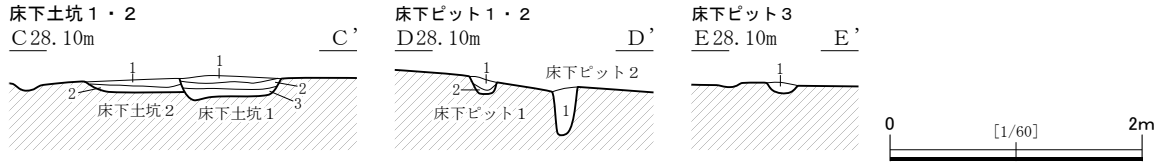
床下土坑１
第１層　暗褐色土　粘性・しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・乳褐色粘土少量、径１～５㎜の黒色スコリア中量、焼土粒微量含む。
第２層　暗褐色土　第１層より乳褐色粘土少なく、黒褐色土ブロック微量含む。
第３層　暗褐色土　乳褐色粘土主体。粘性強い。しまりあり。暗褐色土ブロック少量、焼土粒微量含む。

床下土坑２
第１層　暗褐色土　粘性・しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア中量、乳褐色粘土微量含む。
第２層　暗褐色土　乳褐色粘土主体。粘性強い。しまりあり。暗褐色土ブロック少量含む。

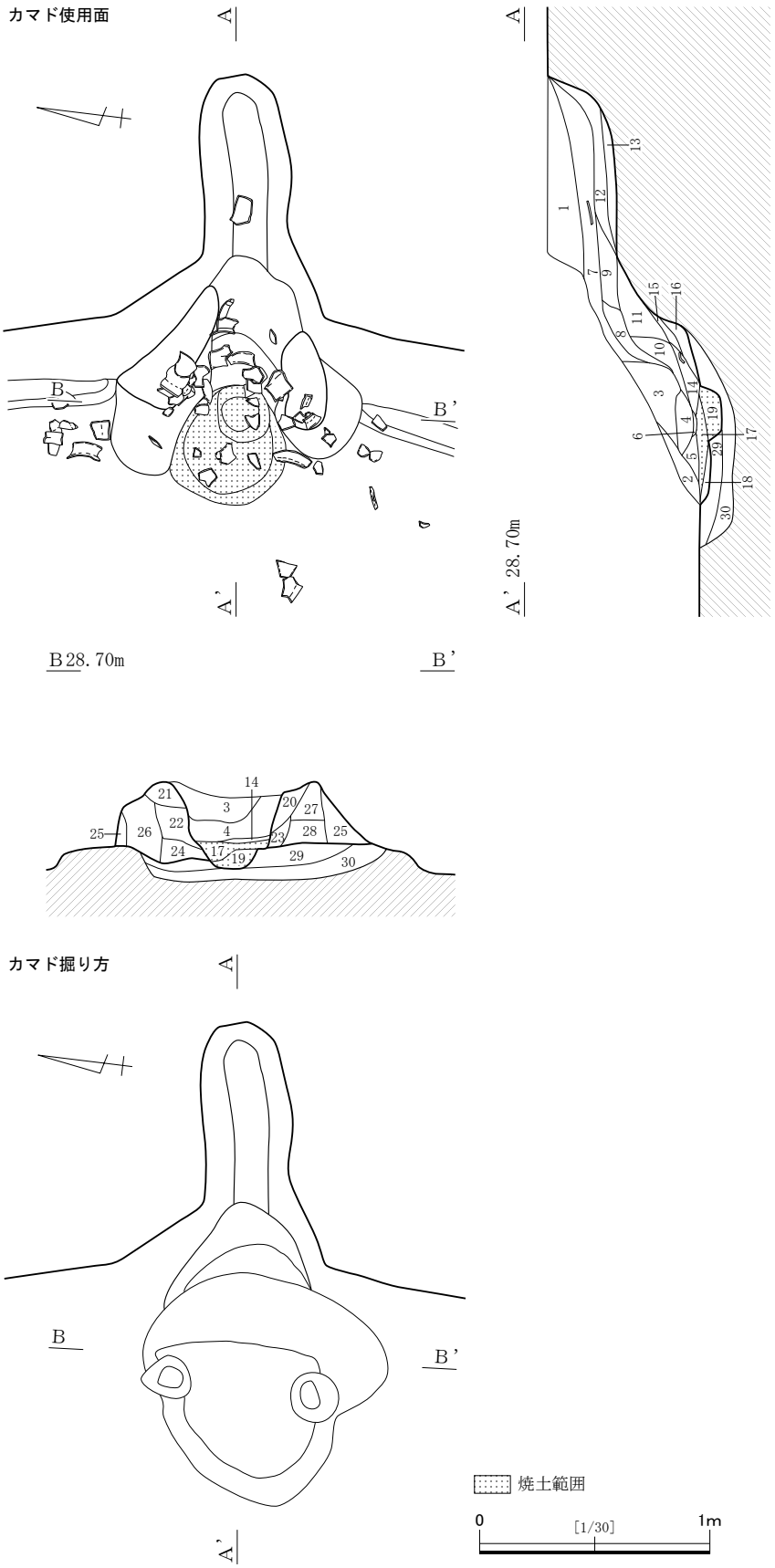
床下ピット１
第１層　明褐色土　粘性・しまりあり。乳褐色粘土微量、焼土少量含む。
第２層　明褐色土　粘性・しまりあり。焼土粒微量含む。

床下ピット２
第１層　暗茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、暗黒褐色土ブロック中量、乳褐色粘土微量含む。

床下ピット３
第１層　暗茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、暗黒褐色土ブロック少量含む。

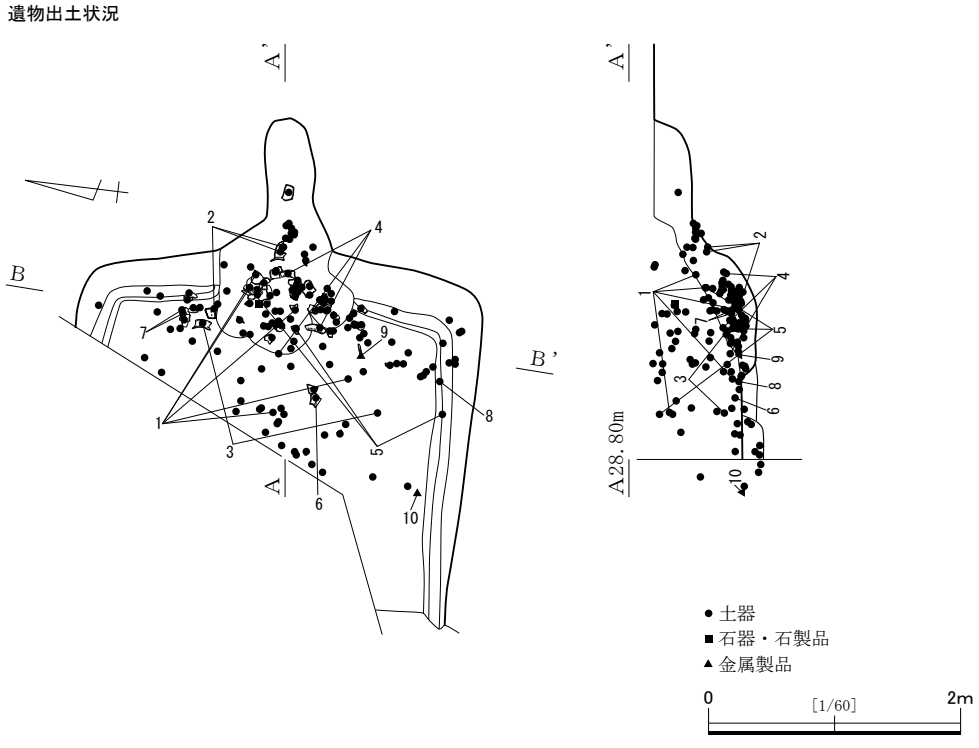


第92図　２区Ｈ１号竪穴住居址（１）[1/60]

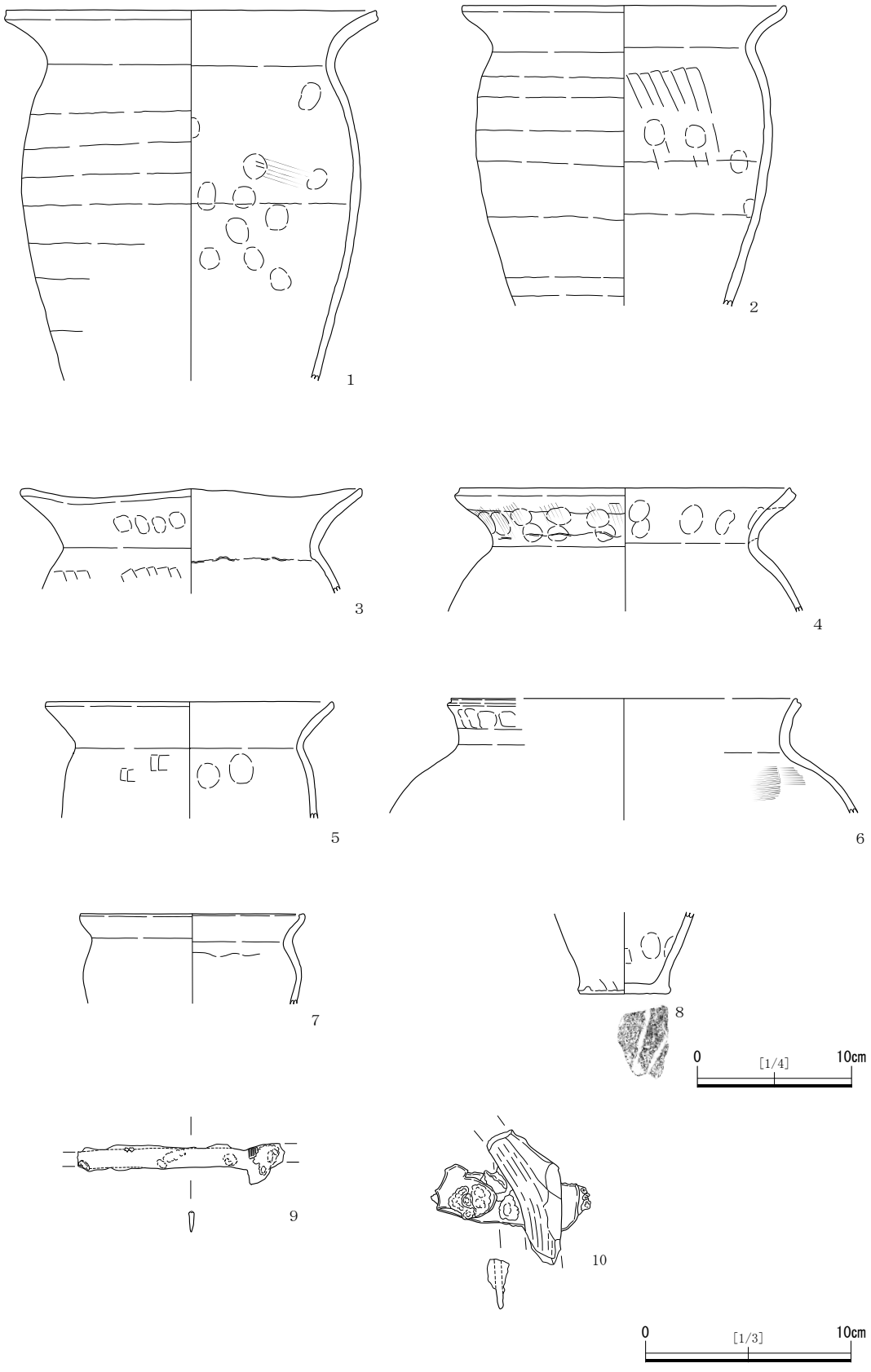


第93図　２区Ｈ１号竪穴住居址（２）[1/30]

第１層　暗褐色土　粘性あり。しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、乳褐色粘土中量含む。
第２層　暗褐色土　粘性あり。しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・焼土粒・乳褐色粘土少量、径１～５㎜の黒色スコリア中量、炭化物微量含む。
第３層　暗褐色土　第２層より乳褐色粘土やや多い。
第４層　明褐色土　粘性あり。しまりやや弱い。乳褐色粘土やや多量、焼土粒少量含む。
第５層　暗褐色土　第２層より乳褐色粘土やや少ない。
第６層　乳褐色粘土　粘性強い。しまりやや強い。焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
第７層　暗褐色土　粘性あり。しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア中量、ロームブロック微量含む。
第８層　暗褐色土　粘性あり。しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア・乳褐色粘土中量含む。
第９層　暗褐色土　粘性・しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・乳褐色粘土微量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。
第10層　暗褐色土　粘性あり。しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア・乳褐色粘土中量、焼土粒微量含む。
第11層　乳褐色粘土　粘性やや強い。しまりあり。暗褐色土ブロック少量含む。
第12層　暗褐色土　粘性・しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア中量、乳褐色粘土微量含む。
第13層　暗褐色土　第12層より乳褐色粘土やや多く、黒色ブロック少量含む。
第14層　明褐色土　粘性あり。しまりやや弱い。暗褐色土ブロック微量、乳褐色粘土中量、焼土粒少量含む。
第15層　褐色土　粘性あり。しまりやや弱い。暗褐色土ブロック・乳褐色粘土少量、焼土粒微量含む。
第16層　暗褐色土　粘性・しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア中量、乳褐色粘土・焼土粒微量含む。
第17層　橙褐色土　粘性やや弱い。しまり弱い。焼土主体。炭化物粒・乳褐色粘土・暗褐色土ブロック微量含む。
第18層　暗褐色土　粘性あり。しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・焼土粒少量、径１～５㎜の黒色スコリア中量、乳褐色粘土・炭化物粒・灰微量含む。
第19層　明褐色土　粘性あり。しまりやや弱い。焼土粒多量、乳褐色粘土微量含む。
第20層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア中量、乳褐色粘土やや多量、焼土粒微量含む。（袖）
第21層　暗褐色土　第20層と同じだが乳褐色粘土がやや多く、ややしまっている。（袖）
第22層　暗褐色土　粘性・しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・乳褐色粘土少量、径１～５㎜の黒色スコリア・焼土粒中量含む。（袖）
第23層　明褐色土　粘性あり。しまりやや弱い。全体的に焼けて橙色味を帯びる。（袖）
第24層　暗茶褐色土　粘性・しまりあり。焼土粒少量、乳褐色粘土微量含む。（袖）
第25層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア・乳褐色粘土中量含む。（袖）
第26層　乳褐色粘土　暗褐色土ブロック微量含む。（袖）
第27層　乳褐色粘土　明褐色土ブロック少量含む。（袖）
第28層　乳褐色粘土　第27層よりしまっている。（袖）
第29層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・焼土粒・明茶褐色土ブロック少量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。（掘り方）
第30層　暗褐色土　粘性あり。しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・暗黒褐色土ブロック微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。（掘り方）



第94図　２区Ｈ１号竪穴住居址（３）［1/60］



第95図　２区Ｈ１号竪穴住居址出土遺物[1/4・1/3]

第19表　２区Ｈ１号竪穴住居址出土遺物観察表［第95図］

No.	器種	観察所見　　（ ）＝現存値　〔 〕＝復元値
1	土師器 甕	法量(cm)：口径〔23.7〕　器高(24.0)　重量402.6g　残存度：口縁部1/3～胴部1/2　成形・調整：外面　口縁部ヨコナデ　胴部ナデ　内面　口縁部ヨコナデ　胴部ヨコハケ　指頭痕　胎土：密　角閃石　雲母　細砂粒　焼成：良好　色調：外　橙（5YR7/6）　内　橙（5YR7/8）出土位置：カマド覆土
2	土師器 甕	法量(cm)：口径〔20.7〕　器高(19.4)　重量196.8g　残存度：口縁部～胴部1/4　成形・調整：外面　口縁部ヨコナデ　胴部ナデ　内面　口縁部ヨコナデ　胴部へラナデ　指頭痕　胎土：密　角閃石　白色粒子　石英　細砂粒　焼成：良好　色調：橙（7.5YR6/6）　出土位置：カマド
3	土師器 甕	法量(cm)：口径〔21.9〕　器高(6.8)　重量137.2g　残存度：口縁部～頸部1/3　成形・調整：外面　口縁部ヨコナデ　指頭痕　胴部ヨコへラナデ　内面　口縁部ヨコナデ　胴部ナデ　胎土：やや粗　角閃石　雲母　細砂粒　焼成：良好　色調：橙（5YR6/8）　備考　口縁部歪みあり　出土位置：覆土
4	土師器 甕	法量(cm)：口径21.3　器高(8.0)　重量138.8g　残存度：口縁部～頸部1/2　成形・調整：外面　口縁部ヨコナデ　タテハケ　指頭痕　胴部ナデ　内面　口縁部ヨコナデ　指頭痕　胴部ナデ　胎土：密　角閃石　石英　　砂粒　細砂粒　焼成：良好　色調：橙（5YR7/8）　出土位置：カマド　覆土
5	土師器 甕	法量(cm)：口径〔18.4〕　器高(7.5)　重量54.9g　残存度：口縁部～胴部上部1/4　成形・調整：外面　口縁部ヨコナデ　胴部へラナデ　内面　口縁部ヨコナデ　胴部ナデ　指頭痕　胎土：密　角閃石　細砂粒　焼成：良好　色調：外　橙（2.5YR6/8）　内　橙（5YR7/8）出土位置：カマド
6	土師器 甕	法量(cm)：口径〔22.1〕　器高(7.8)　重量65.7g　残存度：口縁部～胴部上部1/8　成形・調整：外面　口縁部ヨコナデ　胴部ナデ　内面　口縁部ヨコナデ　胴部ヨコハケ　胎土：やや粗　雲母　細砂粒　焼成：良好　色調：外　橙（5YR7/8）～にぶい褐色（7.5YR5/4）　内　橙（7.5YR6/6）～にぶい褐色（7.5YR5/4）　出土位置：覆土
7	土師器 甕	法量(cm)：口径〔14.3〕　器高(5.8)　重量50.0g　残存度：口縁部～胴部1/3　成形・調整：外面　口縁部ヨコナデ　胴部ナデ　内面　口縁部ヨコナデ　胴部ナデ　胎土：やや粗　角閃石　雲母　細砂粒　赤色粒子　　焼成：良好　色調：外　にぶい褐色（7.5YR5/4）　内　橙（5YR6/6）備考　小型　出土位置：覆土
8	土師器 甕	法量(cm)：底径〔5.8〕　器高(5.3)　重量44.6g　残存度：胴部下部～底部1/4　成形・調整：外面　胴部へラナデ　内面　胴部ナデ　指頭痕　底部木葉痕　胎土：やや粗　角閃石　雲母　細砂粒　焼成：良好　色調：外　橙（7.5YR7/6）　内　橙（2.5YR6/8）　出土位置：覆土
9	鉄製品 刀子	法量(cm)：長さ(10.0)　刃部幅1.0　厚さ0.3　重量12.5g　残存度：刃部先端半分欠損　茎部一部欠損　備考　柄の木質部わずかに残る　出土位置：覆土
10	鉄製品 鎌	法量(cm)：刃部長さ(7.5)　幅幅2.5　厚さ1.0　柄部長さ(6.8)　幅(2.4)　重量51.6g　残存度：刃部先端欠損　柄部刃部との接合部のみ　出土位置：床面

（２）掘立柱建物址

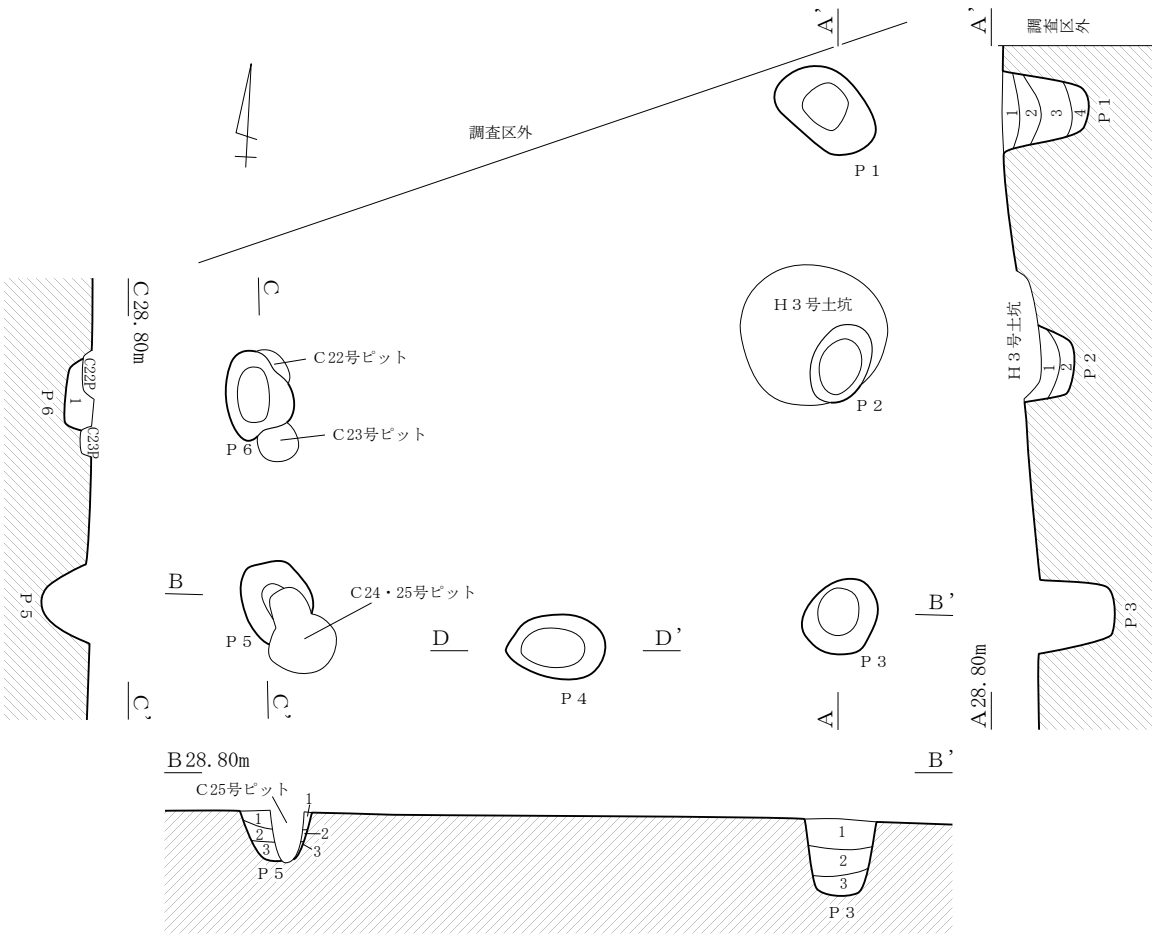
Ｈ１号掘立柱建物址（第91・96図、図版22－１）

Ｂ・Ｃ20グリッド境中央に位置している。北側は調査区外へ展開すると思われる。Ｐ２は上端をＨ３号土坑、Ｐ５は南東側をＣ24・25号ピット、Ｐ６は北東側をＣ22ピット、南東側をＣ23号ピットに切られている。梁間（東西）２間、桁行（南北）２間で６基の柱穴が検出された側柱構造の掘立柱建物址である。桁行方位はＮ－２°－Ｗを示し、確認された規模は、桁行（南北）約4.00ｍ、梁間（東西）約4.50ｍである。柱穴間の距離はＰ１～Ｐ２間、Ｐ２～Ｐ３間は約2.00ｍ、Ｐ５～Ｐ６間は約1.80ｍ、Ｐ３～Ｐ４間、Ｐ４～Ｐ５間は約2.30を測る。掘方形態は坪堀で、柱穴の規模は長径0.65～0.85ｍ、短径0.45～0.65の楕円形を呈し、深さは確認面から0.23～0.79ｍを測る。

覆土は暗褐色土を主体にＰ１は４層、Ｐ２・４は２層、Ｐ３・５は３層、Ｐ６は１層に分層される。柱痕や柱材などの痕跡は確認されなかった。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



H１号掘立柱建物址ピット計測表

No.	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
P 1	0.85	0.55	0.79
P 2	0.75	0.45	0.35
P 3	0.60	0.60	0.62
P 4	0.80	0.52	0.30
P 5	(0.65)	0.55	0.42
P 6	0.72	0.65	0.23

Ｐ１
第１層　暗褐色土　粘性あり。しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア・ロームブロック少量含む。
第２層　暗褐色土　粘性あり。しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量、ロームブロック微量含む。
第３層　暗褐色土　第２層よりロームブロックがやや多く、ややしまっている。
第４層　明褐色土　第３層よりロームブロック多い。

Ｐ２
第１層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。
第２層　暗褐色土　粘性あり。しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量、暗茶褐色土ブロック微量含む。

Ｐ３
第１層　暗褐色土　粘性・しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。
第２層　暗褐色土　粘性やや弱い。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量、暗黒褐色土ブロック微量含む。
第３層　暗褐色土　粘性・しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア、暗黒褐色土ブロック少量含む。

Ｐ４
第１層　暗褐色土　粘性・しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量、暗黒褐色土ブロック微量含む。
第２層　暗褐色土　粘性・しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア・暗黒褐色土ブロック少量含む。

Ｐ５
第１層　暗褐色土　粘性・しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～８㎜の黒色スコリア少量含む。
第２層　暗褐色土　粘性・しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・暗黒褐色土ブロック微量、径１～８㎜の黒色スコリア中量含む。第１層より暗い。
第３層　暗黒褐色土　粘性・しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～８㎜の黒色スコリア中量含む。

Ｐ６
第１層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

第96図　２区Ｈ１号掘立柱建物址[1/60]

（３）溝状遺構

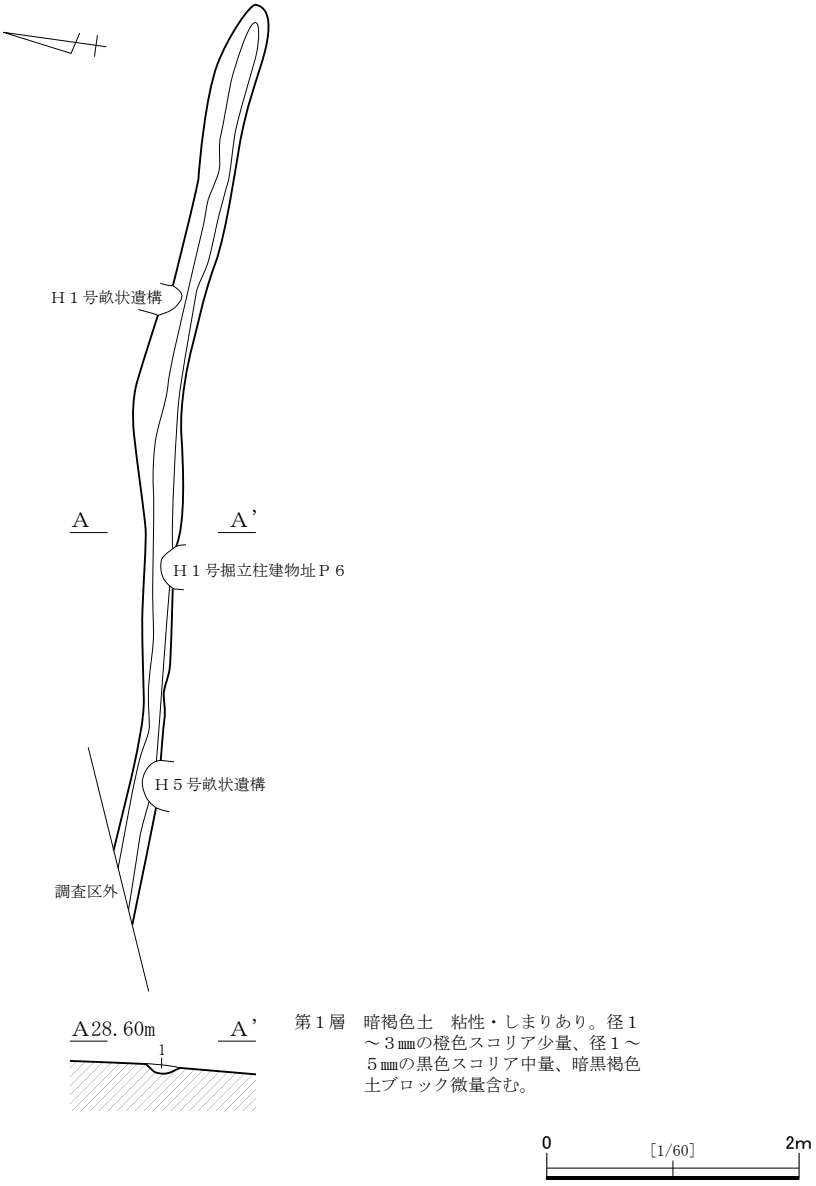
Ｈ１号溝状遺構（第91・97図）

Ｃ19～20グリッド境北寄りで発見された。西側は調査区外へ延伸すると思われる。上端の一部をＨ１・５号畝状遺構、Ｈ１号掘立柱建物址Ｐ６に切られている。主軸方位はＮ－89°－Ｅを示し、検出面の標高は28.45ｍである。検出規模は全長7.45ｍ、幅0.23～0.38ｍ、確認面からの深さは0.06ｍを測る。断面形は碗状を呈している。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



第97図　２区Ｈ１号溝状遺構[1/60]

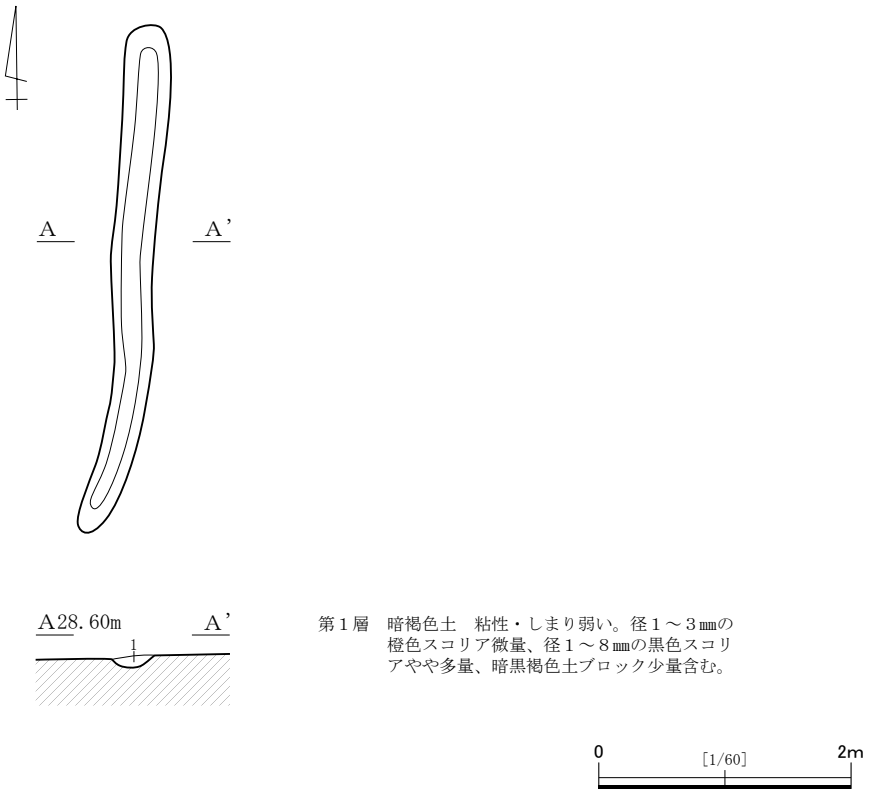
Ｈ２号溝状遺構（第91・98図）

Ｃ19グリッド中央東寄りで発見された。主軸方位はＮ－６° －Ｅを示し、検出面の標高は28.45ｍである。検出規模は全長4.10ｍ、幅0.35ｍ、確認面からの深さは0.10ｍを測る。断面形は碗形を呈している。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



第98図　２区Ｈ２号溝状遺構[1/60]

（４）畝状遺構

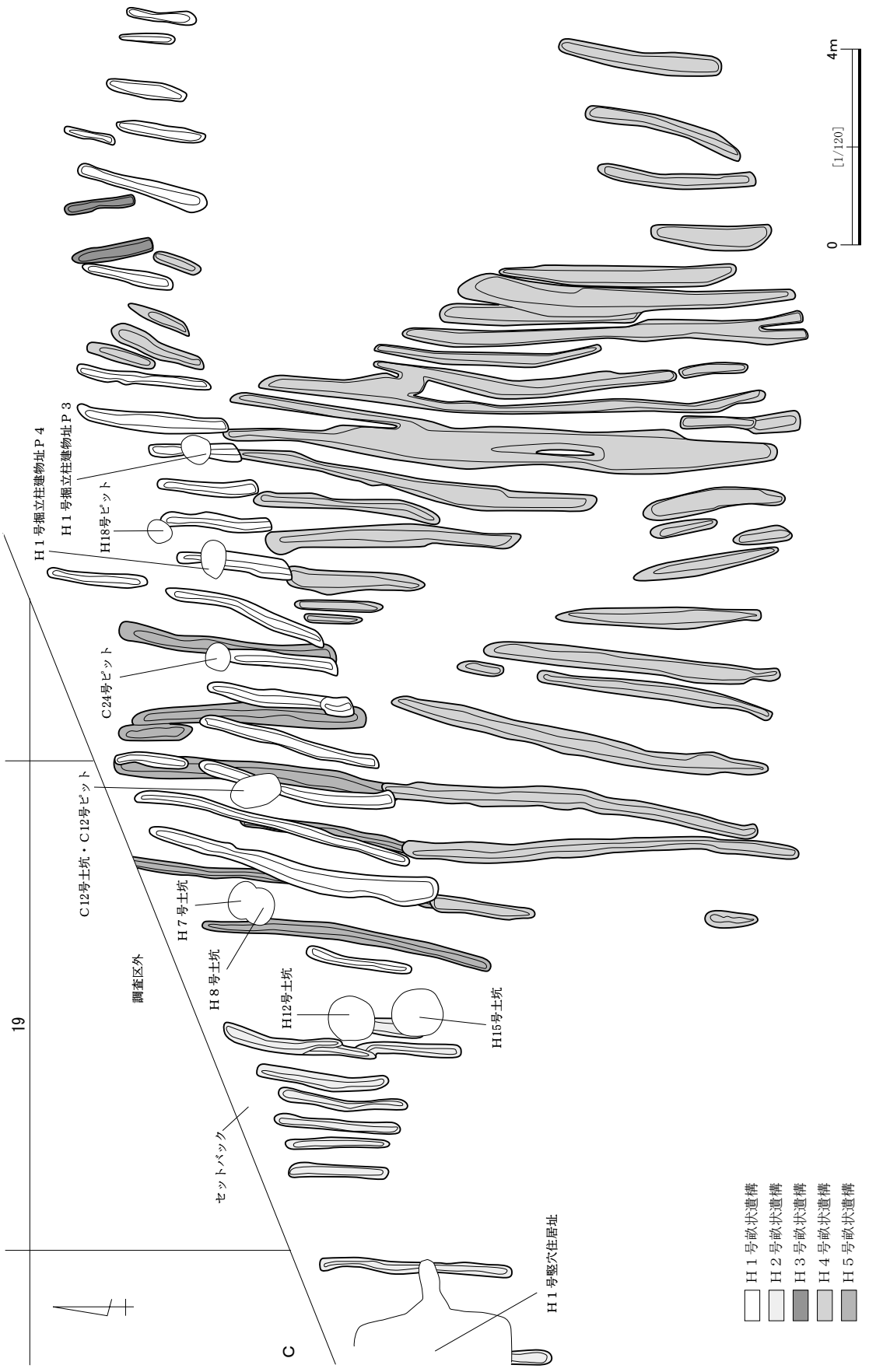
Ｈ１号畝状遺構（第91・99・100図、図版22－２）

Ｃ19～21グリッドに位置している。東西約20.10ｍ、南北約8.10ｍの範囲に展開している概ね北東方向の畝状遺構である。北側は調査区外へ広がる可能性も考えられる。Ｈ１号掘立柱建物址Ｐ３、Ｐ４、Ｃ12号土坑、Ｃ12号ピット、Ｃ24号ピットに切られている。主軸方位はＮ－14° －Ｅを示す。確認された規模は、長さ1.10～6.10ｍ、幅0.20～0.45ｍ、確認面からの深さは0.10～0.30ｍを測る。平面形態はほぼ直線状を呈する。底面はほぼ平坦で、断面形態は逆台形、Ｕ字状、皿状を呈する。壁はやや外傾しながら立ち上がる。

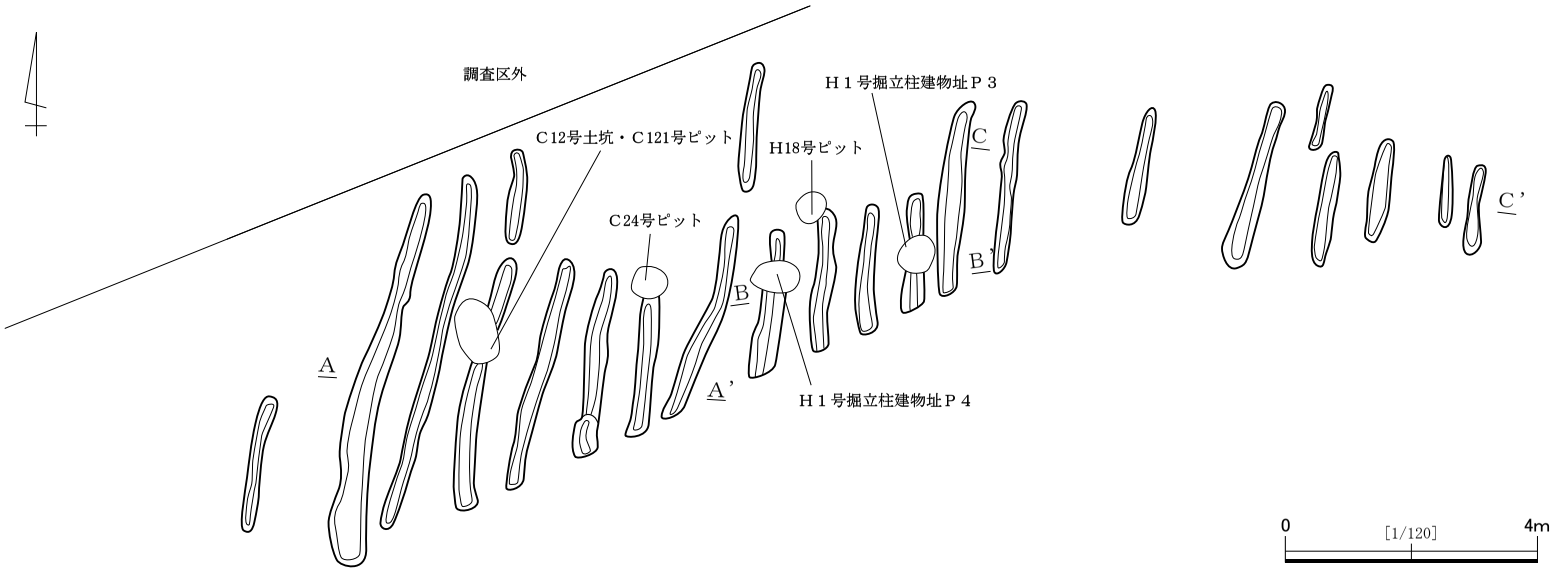
覆土は暗褐色土主体で単層である部分と２層に分層される部分がある。

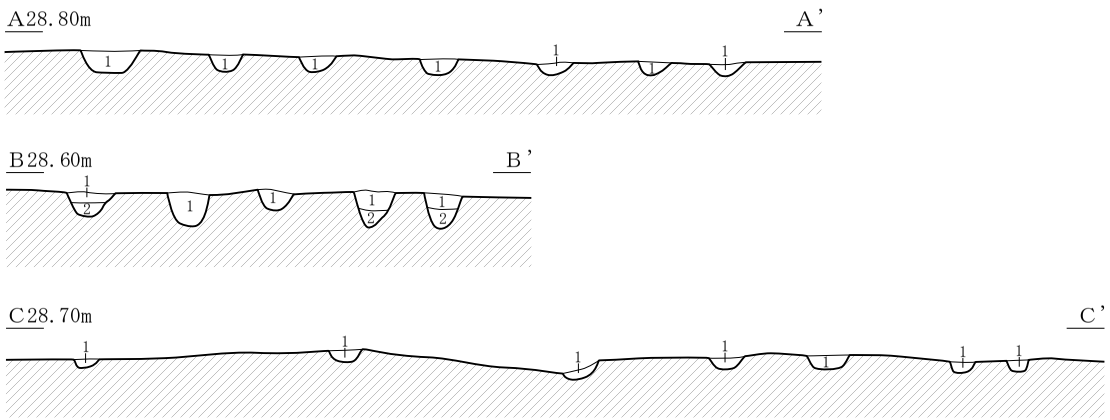
遺物は土師器甕１点(7.3g)が出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出面と遺物から奈良・平安時代と考えられる。



第99図　２区　奈良・平安時代畝状遺構配置図[1/120]





第１層　暗褐色土　粘性・しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・暗黒褐色土ブロック微量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。
第２層　暗褐色土　粘性・しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア中量、暗黒褐色土ブロック少量含む。

第100図　２区Ｈ１号畝状遺構[1/120・1/60]

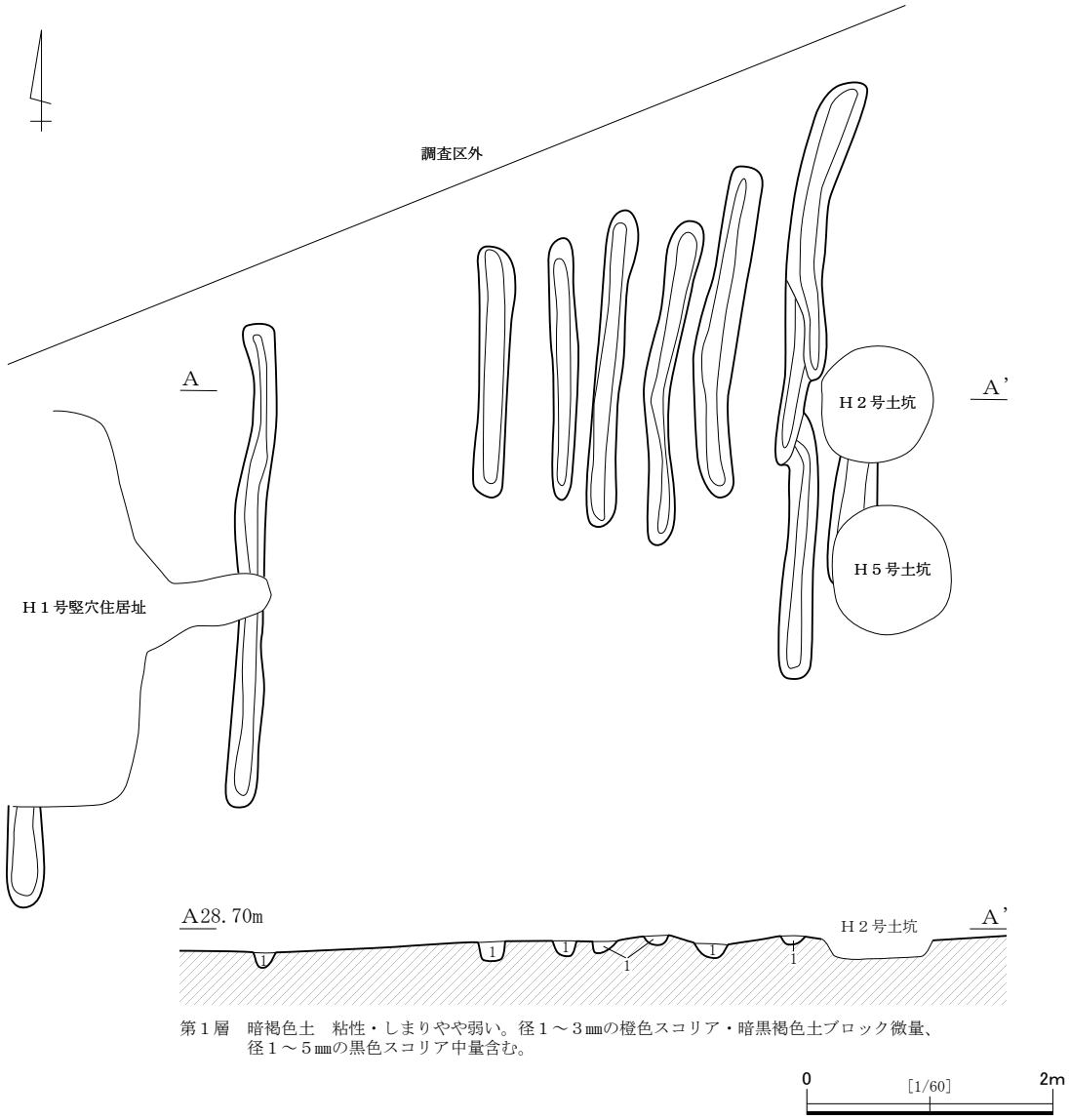
Ｈ２号畝状遺構（第91・99・101図、図版23－１）

Ｃ・Ｄ19 ～ 20グリッドに位置している。東西約7.00ｍ、南北約6.60ｍの範囲に展開している概ね南北方向の畝状遺構である。北側は調査区外へ広がる可能性も考えられる。Ｈ１号竪穴住居址、Ｈ２・５号土坑に切られる。主軸方位はＮ－２°－Ｅを示す。確認された規模は、長さ2.05 ～ 3.85ｍ、幅0.20 ～ 0.33ｍ、確認面からの深さは0.10 ～ 0.15ｍを測る。平面形態はほぼ直線状を呈する。底面はほぼ平坦で、断面形態は逆台形、Ｕ字状、碗形を呈する。壁はやや外傾しながら立ち上がる。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は、土師器坏１点(5.6g)が出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は、検出面と９世紀代とされる竪穴住居址に切られていることから、同時期或いはそれ以前の遺構と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



第101図　２区Ｈ２号畝状遺構[1/60]

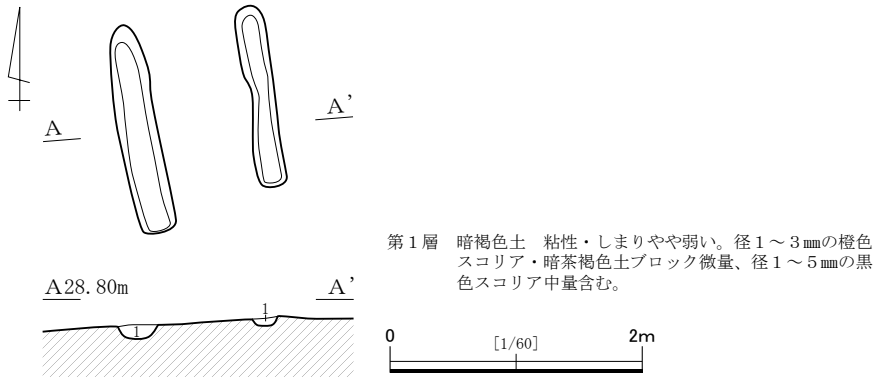
Ｈ３号畝状遺構（第91・99・102図）

Ｃ21グリッド北西隅に位置している。東西約1.30ｍ、南北約1.80ｍの範囲に展開している概ね北西方向の畝状遺構である。周辺にはＨ１・４号畝状遺構があるが、本遺構のみ主軸方位が違うことから別遺構とした。主軸方位はＮ－11°－Ｗを示す。確認された規模は、長さ1.47～1.68ｍ、幅0.22～0.31ｍ、確認面からの深さは0.05～0.12ｍを測る。平面形態はほぼ直線状を呈する。底面はほぼ平坦で、断面形態は逆台形、碗形を呈する。壁はやや外傾しながら立ち上がる。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出面から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



第102図　２区Ｈ３号畝状遺構[1/60]

Ｈ４号畝状遺構（第91・99・103・104図）

Ｃ・Ｄ19～21グリッドに位置している。東西約19.00ｍ、南北約15.00ｍの範囲に展開している概ね南北方向の畝状遺構である。北端はＨ１号畝状遺構に切られている。主軸方位はＮ－５°－Ｅを示す。確認された規模は、長さ1.00～11.80ｍ、幅0.30～0.60ｍ、確認面からの深さは0.12～0.40ｍを測る。平面形態はほぼ直線状であるが、一部屈曲する部分、形状が乱れている部分もある。底面はほぼ平坦で、断面形態は逆台形、碗形、皿状を呈する。壁はやや外傾しながら立ち上がる。

覆土は暗褐色土の単層である。

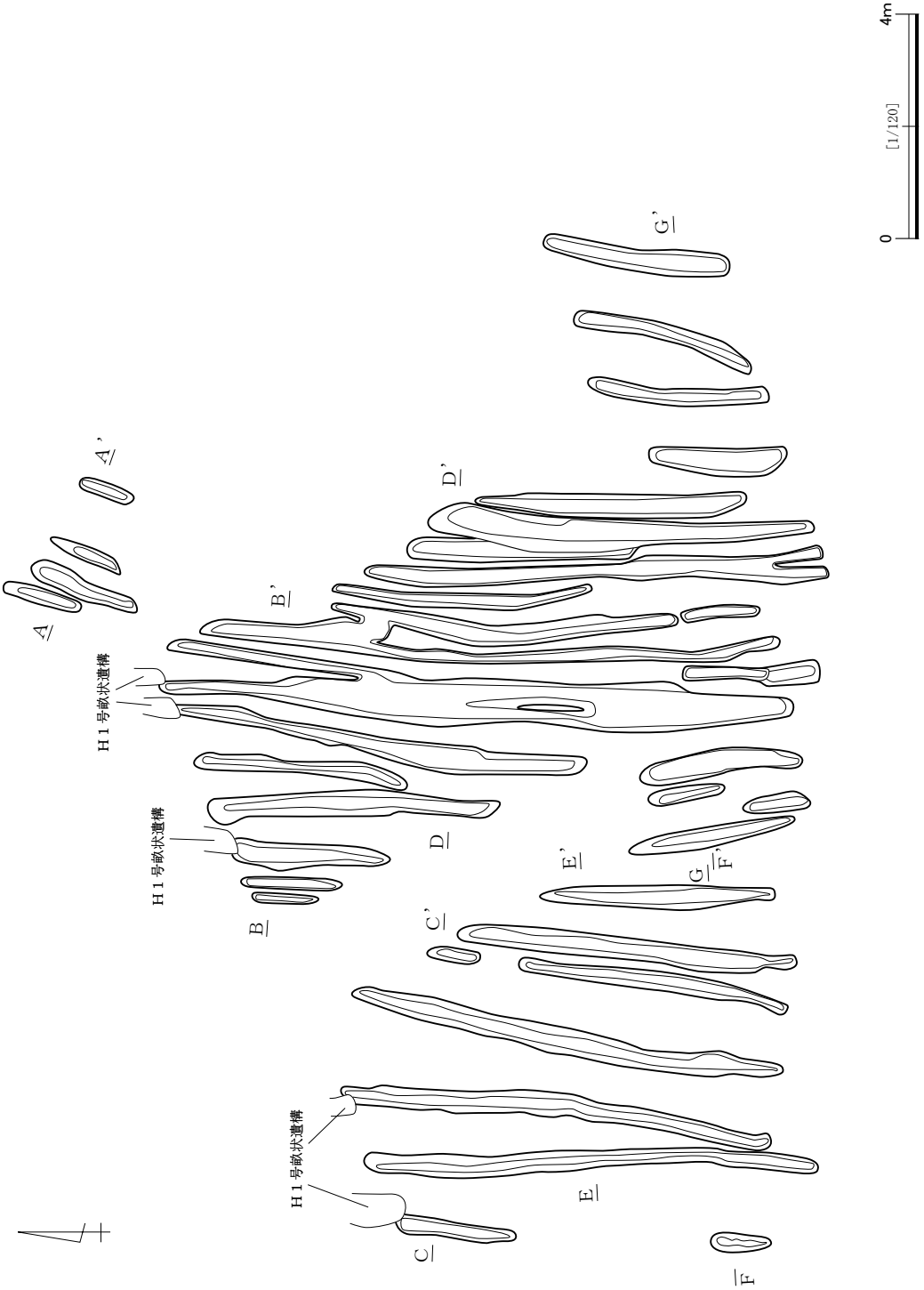
遺物は出土していない。

遺構の時期は検出面から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

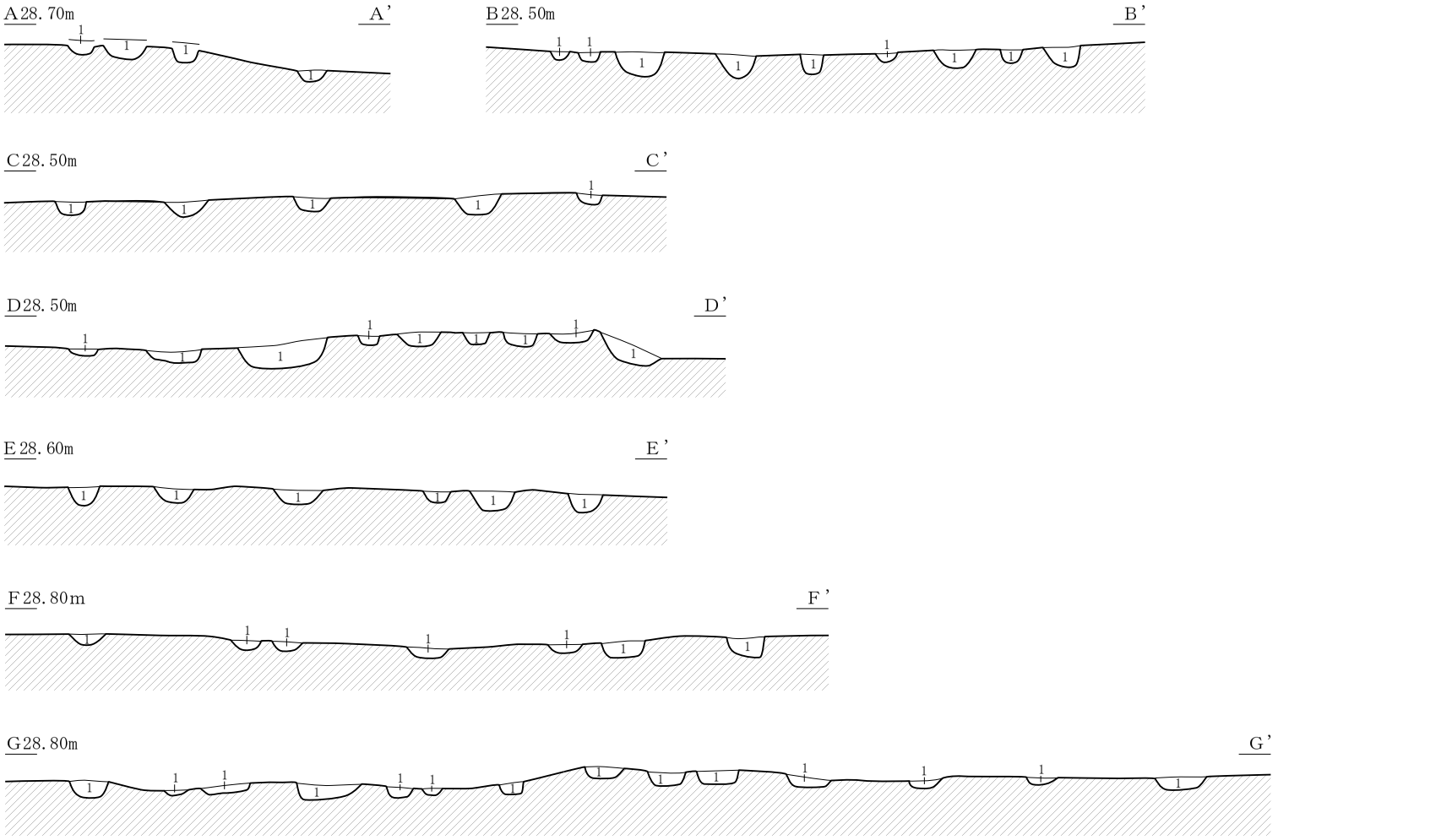
Ｈ５号畝状遺構（第91・99・105図）

Ｃ19～20グリッドに位置している。Ｈ１号畝状遺構の下から発見された。北側は調査区外へ広がると考えられる。東西約7.00ｍ、南北約7.80ｍの範囲に展開している概ね南北方向の畝状遺構である。Ｃ24号ピットに切られている。Ｈ７・８号土坑に切られている。主軸方位はＮ－10°－Ｅを示す。確認された規模は、長さ1.50～6.80ｍ、幅0.23～0.50ｍ、確認面からの深さは0.05～0.15ｍを測る。平面形態はほ線状を呈する。底面はほぼ平坦で、断面形態は逆台形、碗形、皿状を呈する。壁はやや外傾しながら立ち上がる。

覆土は暗褐色土の単層である。



第103図　２区Ｈ４号畝状遺構（１）［1/120］

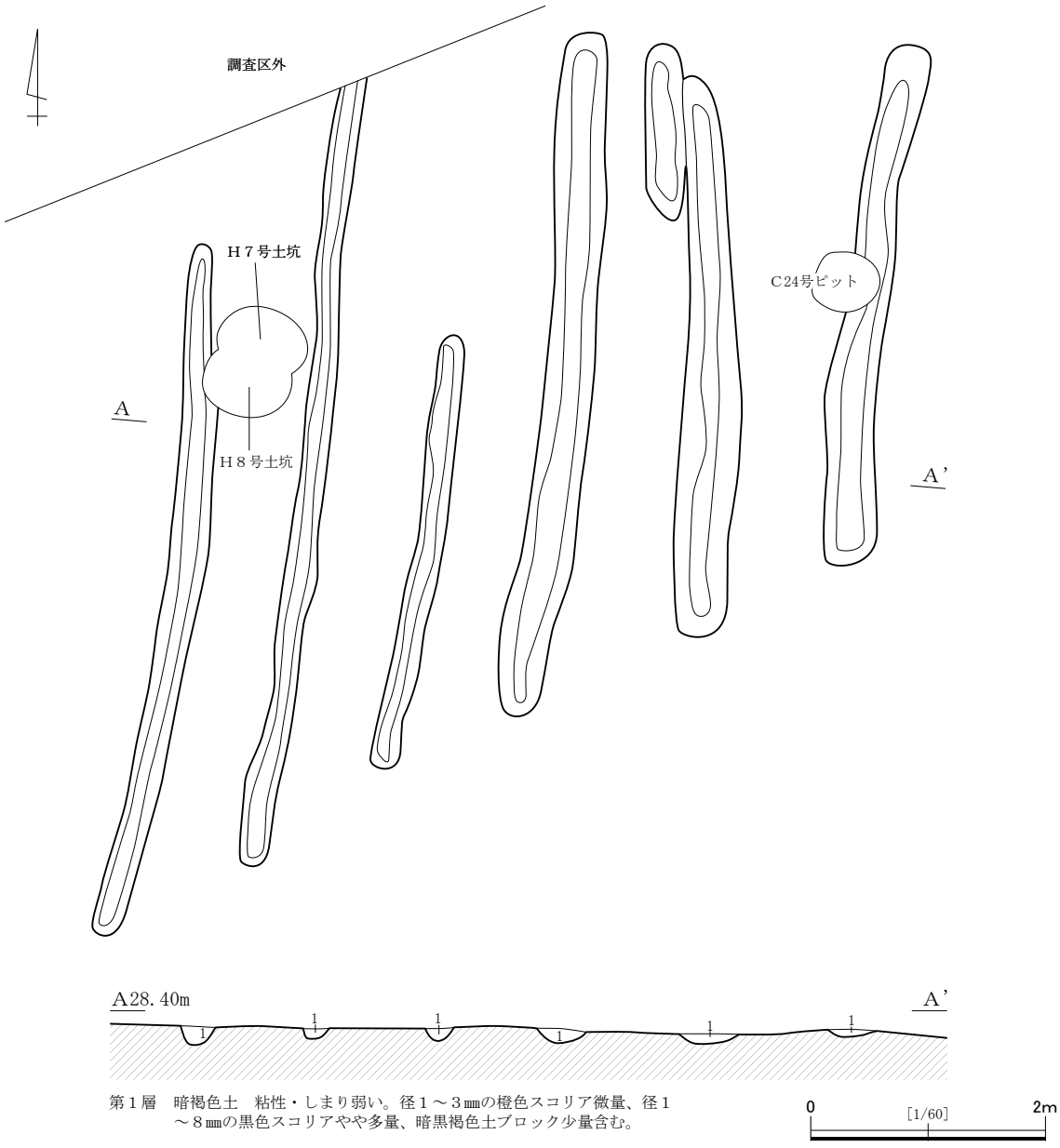


第１層　暗褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～５㎜の黒色スコリアやや多量含む。

第104図　２区Ｈ４号畝状遺構（２）[1/60]

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出面から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である



第105図　２区Ｈ５号畝状遺構[1/60]

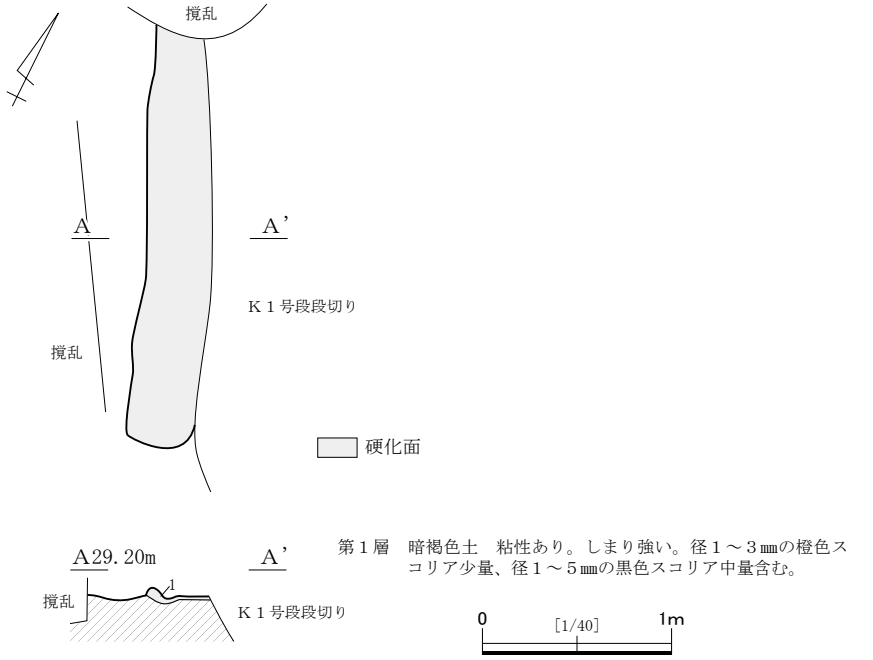
（５）硬化面

Ｈ１号硬化面（第91・106図）

Ｃ・Ｄ22グリッド境中央で発見された。北東側はＫ１号段切り、北側は攪乱に切られている。主軸方位はＮ－22°－Ｗを示す。確認された規模は、長さ2.22ｍ、幅0.34ｍ、確認面からの深さは0.01～0.06ｍを測る。平面形態はほぼ直線状を呈する。周辺に関連する遺構などが確認されておらず性格は不明である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、遺構確認面から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



第106図 ２区Ｈ１号硬化面[1/40]

（６）土坑

Ｈ２号土坑（第91・107図、図版23－２）

Ｃ19グリッド中央で発見された。南約0.30ｍにＨ５号土坑、北東約2.22ｍにＨ８号土坑が確認されている。検出面の標高は28.65ｍである。平面形は円形を呈し、検出規模は径0.95ｍ、確認面からの深さは0.20ｍを測る。断面は逆台形を呈する。底面平坦で、壁はやや急な角度で立ち上がっている。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｈ３号土坑（第91・107図）

Ｃ20グリッド北東寄りで発見された。南西約6.60ｍにＨ６号土坑が確認されている。検出面の標高は28.60ｍである。平面形は円形を呈し、検出規模は径1.10ｍ、確認面からの深さは0.20ｍを測る。断面は皿状を呈する。底面は東側にややくぼみ、壁は緩やかな角度で立ち上がっている。

覆土は暗褐色土主体で２層に分層される。

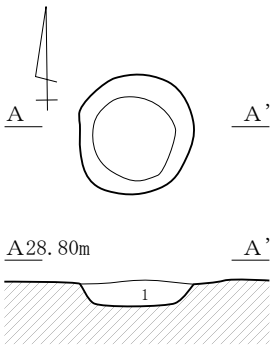
遺物は出土していない。

構の時期は検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｈ４号土坑（第91・107図、図版23－３）

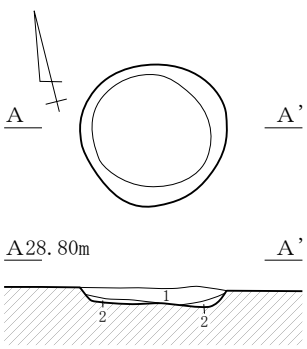
Ｃ19グリッド北東寄りで発見された。南東約0.10ｍにＨ７号土坑、約0.40ｍにＨ８号土坑、東約1.30ｍにＨ６号土坑が確認されている。検出面の標高は28.60ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は南北0.98ｍ、東西0.80ｍ以上で、確認面からの深さは0.15ｍを測る。断面は椀型を呈する。底面はほぼ平

Ｈ２号土坑



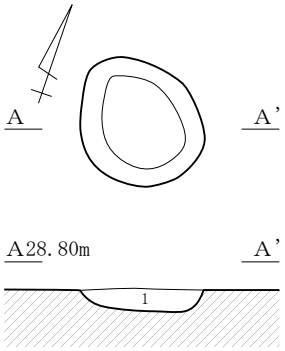
第１層　暗褐色土　粘性・しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・暗黒褐色土ブロック微量、径１～８㎜の黒色スコリアやや多量含む。

Ｈ３号土坑



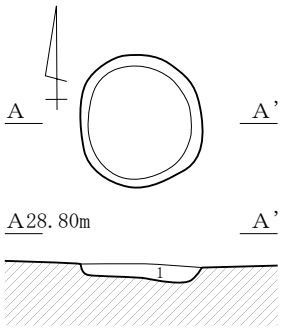
第１層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。
第２層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア・明茶褐色土ブロック少量含む。

Ｈ４号土坑



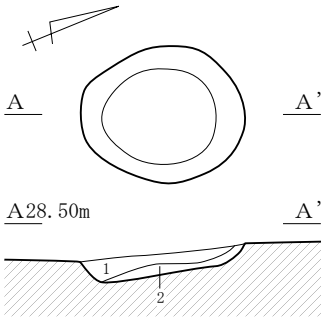
第１層　暗褐色土　粘性・しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～８㎜の黒色スコリア中量、暗黒褐色土ブロック微量含む。

Ｈ５号土坑



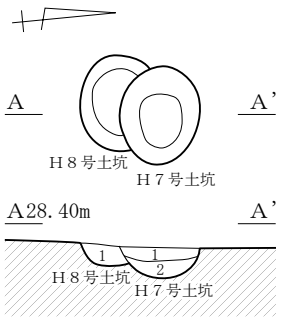
第１層　暗褐色土　粘性・しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・暗黒褐色土ブロック少量、径１～８㎜の黒色スコリア中量、炭化物粒微量含む。

Ｈ６号土坑



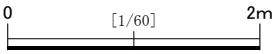
第１層　暗褐色土　粘性・しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～８㎜の黒色スコリアやや多量、暗黒褐色土ブロック少量含む。
第２層　暗褐色土　粘性・しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～８㎜の黒色スコリア中量含む。第１層よりも明るい。

Ｈ７・８号土坑



Ｈ７号土坑
第１層　暗褐色土　粘性・しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・暗黒褐色土ブロック微量、径１～８㎜の黒色スコリア中量含む。
第２層　暗褐色土　粘性・しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～８㎜の黒色スコリア中量含む。第１層よりもやや明るい。

Ｈ８号土坑
第１層　暗褐色土　粘性・しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～８㎜の黒色スコリアやや多量、暗黒褐色土ブロック少量含む。



第107図　２区Ｈ２～８号土坑[1/60]

坦で、壁は西側がやや緩やかに、東側はやや急な角度で立ち上がる。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｈ５号土坑（第91・107図、図版23－４）

Ｃ19グリッド中央南寄りで発見された。北に約0.30ｍにＨ２号土坑が確認されている。検出面の標高は28.59ｍである。平面形は円形を呈し、検出規模は径1.09ｍで、確認面からの深さは0.10ｍを測る。断面は皿状を呈する。底面はやや東側にくぼみ、壁は西側がやや急な角度で、東側がやや緩やかに立ち上がる。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｈ６号土坑（第91・107図、図版23－５）

Ｃ19グリッド北東側で発見された。北東約6.60ｍにＨ３号土坑、南西約0.60ｍにＨ７・８号土坑、西約1.30ｍにＨ４号土坑が確認されている。検出面の標高は28.35ｍである。平面形は楕円形を呈し、検出規模は南北1.30ｍ、東西1.10ｍで、確認面からの深さは0.19ｍを測る。断面は皿状を呈する。底面はほぼ平坦で南側に傾斜している。壁はやや急な角度で立ち上がる。

覆土は暗褐色土主体で２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｈ７号土坑（第91・107図）

Ｃ19グリッド北東寄りで発見された。北西約0.10ｍにＨ４号土坑、北東約0.60ｍにＨ６号土坑が確認されている。検出面の標高は28.23ｍである。平面形は楕円形を呈し、検出規模は東西0.80ｍ、南北0.62ｍで、確認面からの深さは0.23ｍを測る。断面は碗形を呈する。

覆土は暗褐色土主体で２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｈ８号土坑（第91・107図）

Ｃ19グリッド北東寄りで発見された。北側はＨ７号土坑に切られている。南西約2.22ｍにＨ２号土坑、北西約0.40ｍにＨ４号土坑が確認されている。検出面の標高は28.28ｍである。平面形は楕円形を呈すると推察される。検出規模は東西0.76ｍ、南北0.30ｍ以上で、確認面からの深さは0.15ｍを測る。断面は碗形を呈すると思われる。底面はほぼ平坦で、壁は急なやや角度で立ち上がる。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

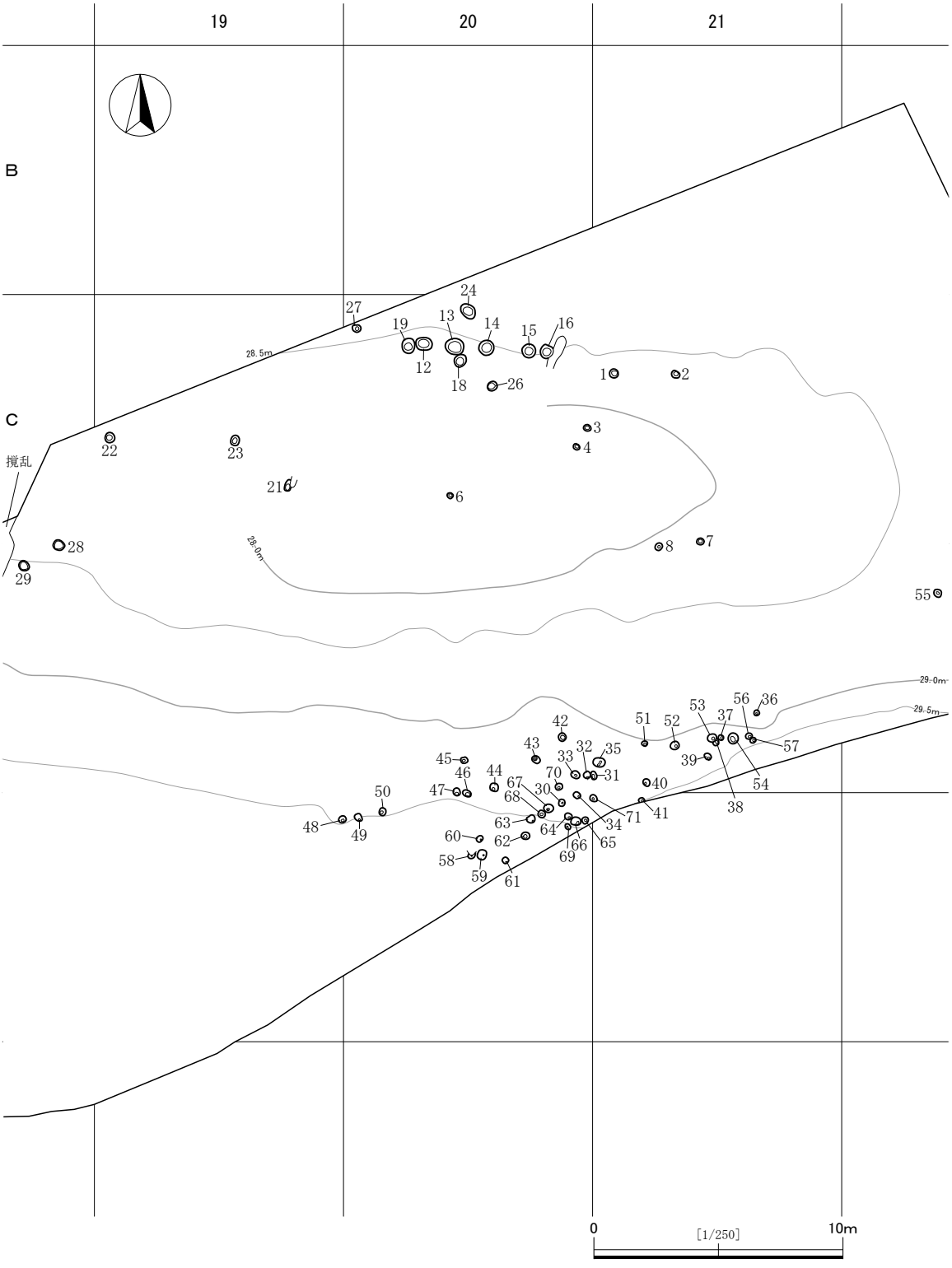
遺構の時期は検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

（７）ピット（第91・108～113図、第20表）

Ｃ～Ｅ18～22グリッドから64基発見された。特に調査区北側中央のＣ20グリッド及び調査区南側中央に集中して分布している。北側の一部に並列している様相を呈するピットがあるが、柱痕など建物址と考えられる痕跡は発見されなかった。その他のピットも規模や深さは一定ではなく、また規則性のある並びも確認されなかった。平面形は円形或いは楕円形で、各々の検出規模については第20表にまとめている。

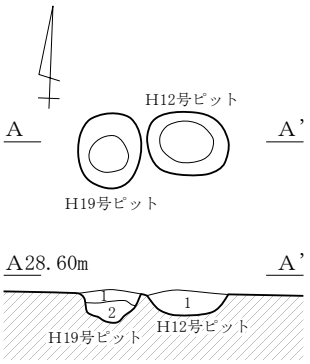
遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



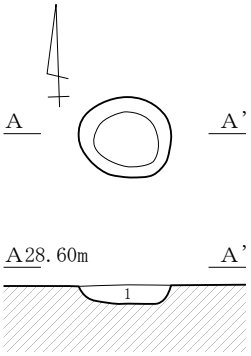
第108図　２区　奈良・平安時代ピット分布図[1/250]

H12・19号ピット



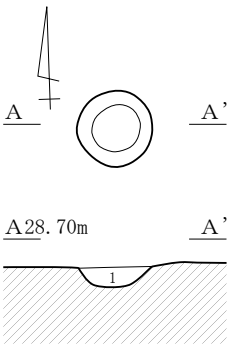
H12号ピット
第１層　褐色土　粘性あり。しまりやや弱い。
径１～３㎜の橙色スコリア中量、径
１～５㎜の黒色スコリア少量含む。
H19号ピット
第１層　暗褐色土　粘性・しまりやや弱い。
径１～３㎜の橙色スコリア・炭化物
粒・暗黒褐色土ブロック微量、径１
～８㎜の黒色スコリア・焼土粒中量
含む。
第２層　暗褐色土　粘性・しまりやや弱い。
径１～３㎜の橙色スコリア・焼土粒
微量、径１～８㎜の黒色スコリア中
量含む。

H13号ピット



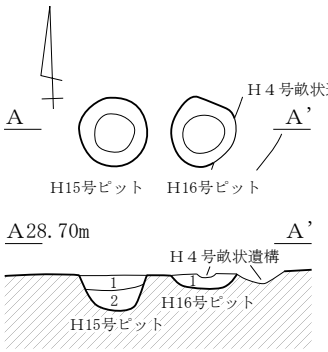
第１層　暗褐色土　粘性・しまりやや弱い。
径１～５㎜の橙色スコリア少量、径
１～８㎜の黒色スコリア中量含む。

H14号ピット



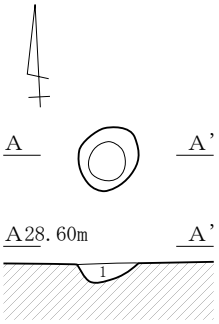
第１層　暗褐色土　粘性・しまりやや弱い。
径１～３㎜の橙色スコリア少量、
径１～８㎜の黒色スコリア中量、
暗黒褐色土ブロック含む。

H15・16号ピット



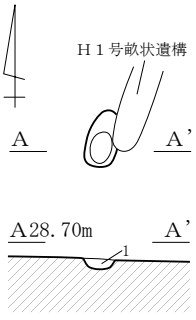
H15号ピット
第１層　褐色土　粘性あり。しまりやや弱い。
径１～３㎜の橙色スコリア中量、径
１～５㎜の黒色スコリア少量含む。
第２層　第１層よりもやや明るく、黒色スコ
リア少ない。
H16号ピット
第１層　暗褐色土　粘性・しまりやや弱い。
径１～３㎜の橙色スコリア・径１～
５㎜の黒色スコリア少量含む。

H18号ピット



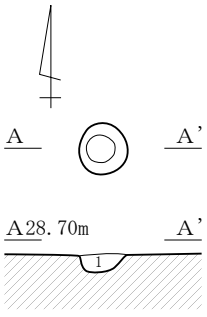
第１層　暗褐色土　粘性・しまりやや弱い。
径１～５㎜の橙色スコリア・径１
～８㎜の黒色スコリア少量含む。

H21号ピット

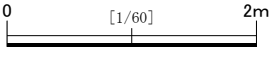


第１層　暗褐色土　粘性・しまりやや弱い。
径１～３㎜の橙色スコリア・暗黒
褐色土ブロック微量、径１～８㎜
の黒色スコリア中量含む。

H22号ピット

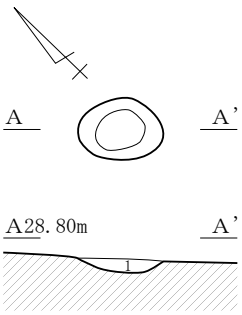


第１層　暗褐色土　粘性・しまりやや弱い。
径１～３㎜の橙色スコリア・暗黒
褐色土ブロック微量、径１～８㎜
の黒色スコリア中量含む。



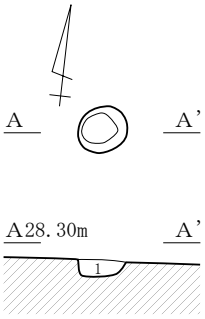
第109図　２区H12～16・18・19・21・22号ピット[1/60]

H24号ピット



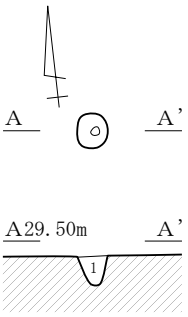
第１層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量、暗茶褐色土ブロック微量含む。

H26号ピット



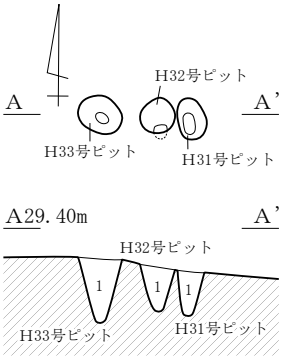
第１層　暗褐色土　粘性あり。しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・暗褐色土ブロック少量、径１～８㎜の黒色スコリア中量含む。

H30号ピット



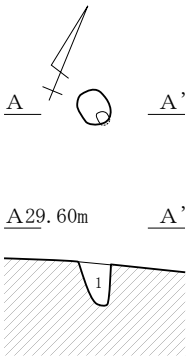
第１層　暗茶灰色土　粘性やや弱い。しまりやや強い。

H31～33号ピット



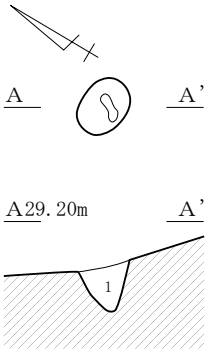
H31～33号ピット
第１層　黒灰色土　粘性やや弱い。しまりやや強い。黒色スコリア含む。

H34号ピット



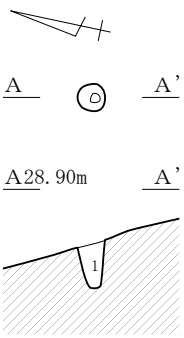
第１層　暗茶灰色土　粘性やや弱い。しまりやや強い。

H35号ピット



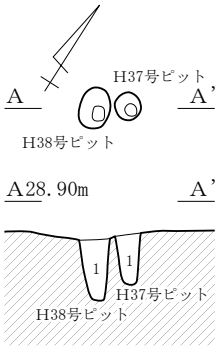
第１層　暗茶灰色土　粘性弱い。しまりやや強い。

H36号ピット



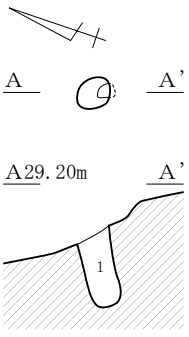
第１層　黒灰色土　粘性やや弱い。しまりやや強い。黒色スコリア含む。

H37・38号ピット

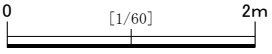


H37・38号ピット
第１層　黒灰色土　粘性やや弱い。しまりやや強い。黒色スコリア含む。

H39号ピット

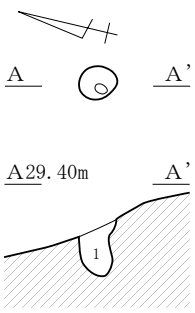


第１層　黒灰色土　粘性やや弱い。しまりやや強い。黒色スコリア含む。



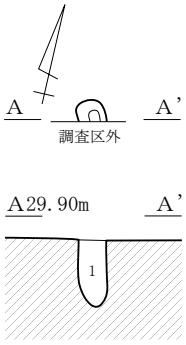
第110図　２区H24・26・30～39号ピット[1/60]

H40号ピット



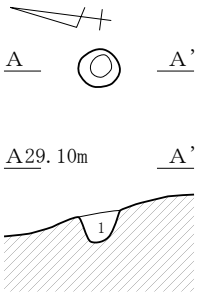
第１層　暗茶灰色土　粘性やや弱い。しまりやや強い。

H41号ピット



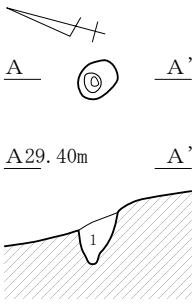
第１層　暗茶灰色土　粘性弱い。しまりやや強い。

H42号ピット



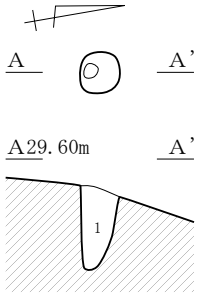
第１層　黒灰色土　粘性・しまりやや強い。橙色スコリア・黄灰色土ブロック含む。

H43号ピット



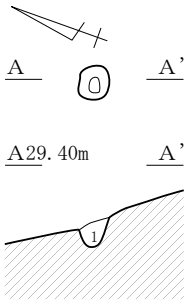
第１層　黒灰色土　粘性・しまりやや強い。橙色スコリア・黄灰色土ブロック含む。

H44号ピット



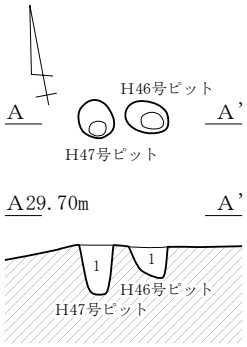
第１層　黒灰色土　粘性・しまりやや強い。橙色スコリア・黄灰色土ブロック含む。

H45号ピット



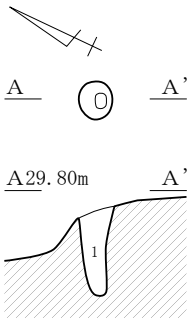
第１層　黒灰色土　粘性・しまりやや強い。橙色スコリア・黄灰色土ブロック含む。

H46・47号ピット



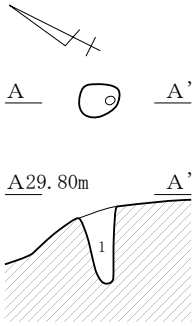
H46・47号ピット
第１層　黒灰色土　粘性・しまりやや強い。橙色スコリア・黄灰色土ブロック含む。

H48号ピット

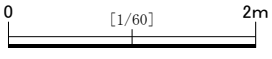


第１層　黒灰色土　粘性・しまりやや強い。橙色スコリア・黄灰色土ブロック含む。

H49号ピット

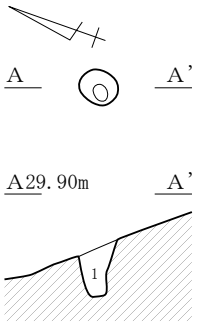


第１層　黒灰色土　粘性・しまりやや強い。橙色スコリア・黄灰色土ブロック含む。



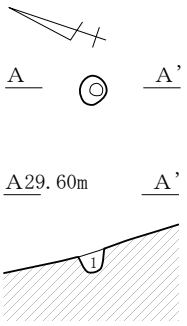
第111図　２区H40～49号ピット[1/60]

H50号ピット



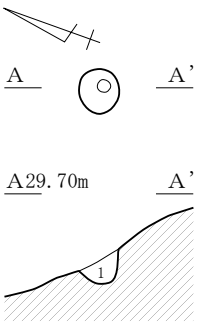
第１層　黒灰色土　粘性・しまりやや強い。橙色スコリア・黄灰色土ブロック含む。

H51号ピット



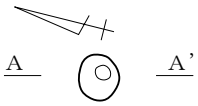
第１層　暗茶褐色土　粘性・しまりやや強い。

H52号ピット



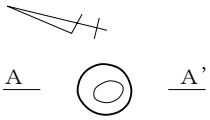
第１層　暗茶褐色土　粘性・しまりやや強い。

H53号ピット



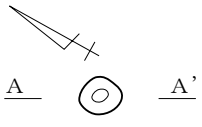
第１層　暗茶褐色土　粘性・しまりやや強い。

H54号ピット



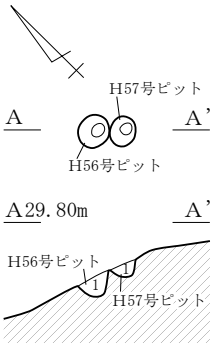
第１層　暗茶褐色土　粘性・しまりやや強い。

H55号ピット



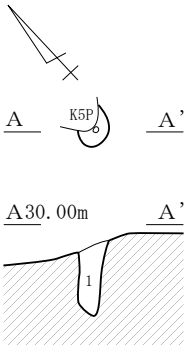
第１層　暗茶褐色土　粘性・しまりやや強い。

H56・57号ピット



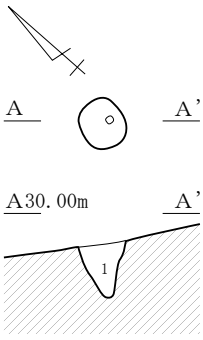
H56・57号ピット
第１層　茶灰色土　粘性・しまりやや強い。

H58号ピット

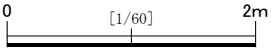


第１層　暗茶褐色土　粘性・しまりやや強い。

H59号ピット

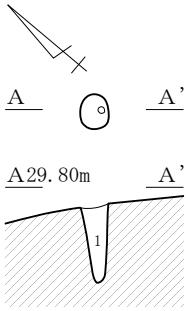


第１層　暗茶灰色土　粘性やや弱い。しまりやや強い。



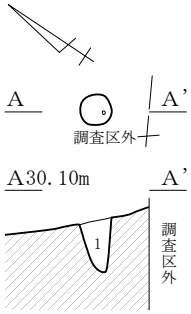
第112図　２区H50～59号ピット[1/60]

H60号ピット



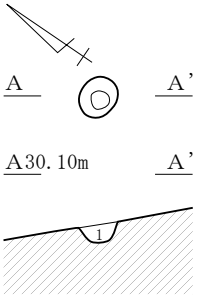
第１層　暗茶灰色土　粘性やや弱い。
しまりやや強い。

H61号ピット



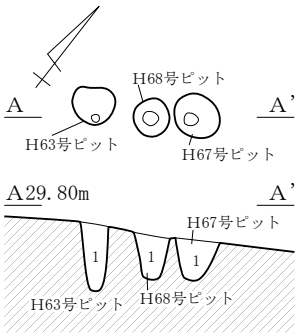
第１層　暗茶灰色土　粘性やや弱い。
しまりやや強い。

H62号ピット



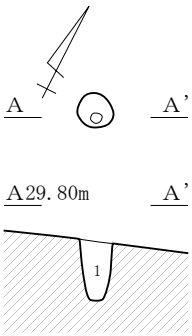
第１層　暗茶灰色土　粘性やや弱い。
しまりやや強い。暗黄灰色土
ブロック多量含む。

H63・67・68号ピット



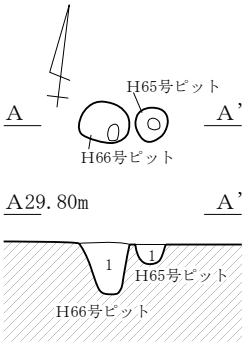
H63・67・68号ピット
第１層　暗茶灰色土　粘性やや弱い。
しまりやや強い。

H64号ピット



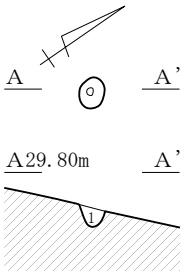
第１層　暗茶灰色土　粘性やや弱い。
しまりやや強い。

H65・66号ピット



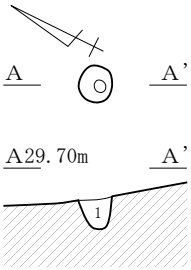
H65号ピット
第１層　暗茶灰色土　粘性やや弱い。
しまりやや強い。
H66号ピット
第１層　暗茶灰色土　粘性やや弱い。
しまりやや強い。暗黄灰色土
ブロック含む。

H69号ピット



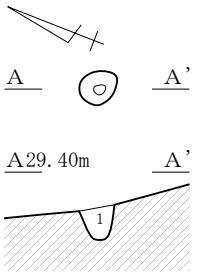
第１層　暗茶灰色土＋暗黄灰色土　粘
性・しまりやや弱い。

H70号ピット

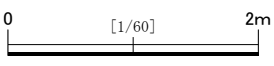


第１層　暗茶灰色土　粘性やや弱い。
しまりやや強い。

H71号ピット



第１層　暗茶灰色土　粘性やや弱い。
しまりやや強い。



第113図　２区H60～71号ピット[1/60]

第20表　２区　古墳時代後期～奈良・平安時代ピット計測表［第108 ～ 113図］

遺構名	グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形
H1号ピット	C21	0.36	0.35	0.14	円形
H2号ピット	C21	0.34	0.29	0.18	円形
H3号ピット	C20	0.30	0.26	0.10	円形
H4号ピット	C20	0.28	0.23	0.13	円形
H6号ピット	C20	0.23	0.23	0.15	円形
H7号ピット	C21・D21	0.29	0.28	0.06	円形
H8号ピット	C21・D21	0.30	0.28	0.16	円形
H12号ピット	C20	0.66	0.52	0.15	楕円形
H13号ピット	C20	0.74	0.66	0.17	円形
H14号ピット	C20	0.60	0.60	0.18	円形
H15号ピット	C20	0.55	0.55	0.28	円形
H16号ピット	C20	0.55	0.52	0.12	円形
H18号ピット	C20	0.55	0.47	0.20	楕円形
H19号ピット	C20	0.61	0.51	0.20	楕円形
H21号ピット	C19	0.45	(0.27)	0.12	楕円形
H22号ピット	C19	0.41	0.39	0.13	円形
H23号ピット	C19	0.42	0.35	0.24	楕円形
H24号ピット	C20	0.70	0.51	0.12	楕円形
H26号ピット	C20	0.42	0.36	0.14	円形
H27号ピット	C20	0.35	0.31	0.34	円形
H28号ピット	C18・C19	0.46	0.41	0.18	円形
H29号ピット	D18	0.44	0.38	0.08	円形
H30号ピット	E20	0.29	0.25	0.26	円形
H31号ピット	D20・21	0.34	0.23	0.43	楕円形
H32号ピット	D20	0.33	0.29	0.61	円形
H33号ピット	D20	0.36	0.28	0.62	楕円形
H34号ピット	D20・E20	0.32	0.25	0.37	楕円形
H35号ピット	D21	0.48	0.36	0.44	楕円形
H36号ピット	D21	0.23	0.22	0.39	円形
H37号ピット	D21	0.22	0.20	0.44	円形
H38号ピット	D21	0.33	0.24	0.57	長方形
H39号ピット	D21	0.34	0.25	0.76	円形
H40号ピット	D21	0.32	0.27	0.45	楕円形
H41号ピット	E21	0.25	(0.18)	0.14	円形
H42号ピット	D20	0.34	0.32	0.41	円形
H43号ピット	D20	0.35	0.28	0.42	楕円形
H44号ピット	D20	0.33	0.32	0.69	方形
H45号ピット	D20	0.29	0.26	0.27	方形
H46号ピット	D20・E20	0.36	0.25	0.27	楕円形
H47号ピット	D20・E20	0.31	0.28	0.42	円形
H48号ピット	E19・20	0.31	0.26	0.74	楕円形
H49号ピット	E20	0.34	0.28	0.63	楕円形
H50号ピット	E20	0.31	0.28	0.46	円形
H51号ピット	D21	0.23	0.21	0.20	円形
H52号ピット	D21	0.36	0.32	0.29	楕円形
H53号ピット	D21	0.38	0.33	0.36	円形
H54号ピット	D21	0.43	0.41	0.41	円形
H55号ピット	D22	0.31	0.29	0.25	方形
H56号ピット	D21	0.27	0.25	0.22	円形
H57号ピット	D21	0.24	0.20	0.14	円形
H58号ピット	E20	0.29	(0.20)	0.61	円形
H59号ピット	E20	0.41	0.36	0.46	円形
H60号ピット	E20	0.38	0.24	0.63	楕円形
H61号ピット	E20	0.25	0.24	0.44	方形
H62号ピット	E20	0.34	0.30	0.17	円形
H63号ピット	E20	0.35	0.32	0.71	円形
H64号ピット	E20	0.30	0.27	0.51	円形
H65号ピット	E20	0.28	0.26	0.25	円形
H66号ピット	E20	0.40	0.33	0.60	楕円形
H67号ピット	E20	0.39	0.34	0.48	楕円形
H68号ピット	E20	0.29	0.29	0.39	円形
H69号ピット	E20	0.25	0.20	0.18	楕円形
H70号ピット	D20	0.29	0.27	0.28	円形
H71号ピット	E20・21	0.33	0.26	0.29	楕円形

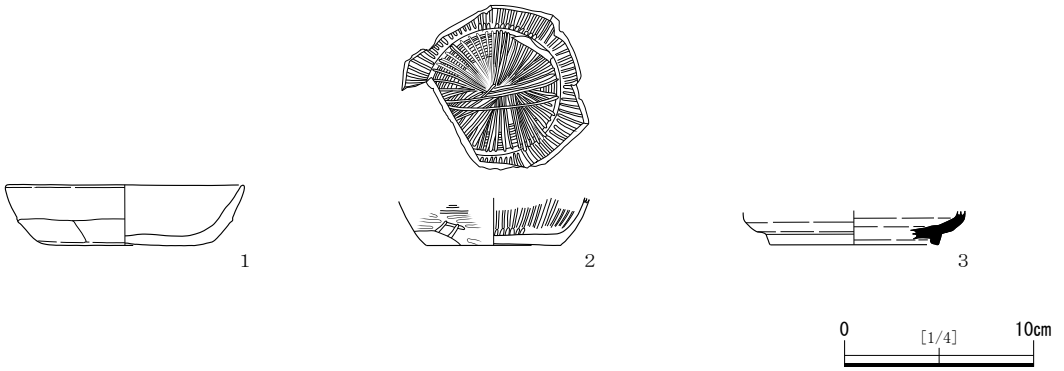
（８）遺構外出土遺物（第114図、第21表、図版149－２）

古墳時代後期～奈良・平安時代の遺構外出土遺物は、土師器坏103点(714.1g)、土師器甕251点(1,168.1g)、須恵器坏３点(9.6g)、須恵器碗１点（8.9g）須恵器蓋１点(8.8g)、須恵器甕７点(191.0g)、須恵器瓶１点(4.0g)、総点数367点、総重量2,104.5gである。このうち３点を図化した。

第114図１は土師器坏である。口縁部及び内面はヨコナデされ、外面体部及び底部はヘラケズリされている。９世紀前半の製品と考えられる。

第114図２は甲斐型坏である。完存する底部からわずかに残る体部下半へやや内湾しながら直立気味に立ち上がる。外面底部は全面ヘラケズリ後まだらに波状のヘラミガキ、外面体部下半はヘラケズリ、外面体部中央が横方向のヘラミガキが施される。内面底部は放射状のヘラミガキ後一部横方向のヘラミガキ、内面体部は縦方向のヘラミガキ、見込みと体部の境にヘラミガキが施される。８世紀後半の製品である。

第114図３は須恵器の高台付埦の底部片である。



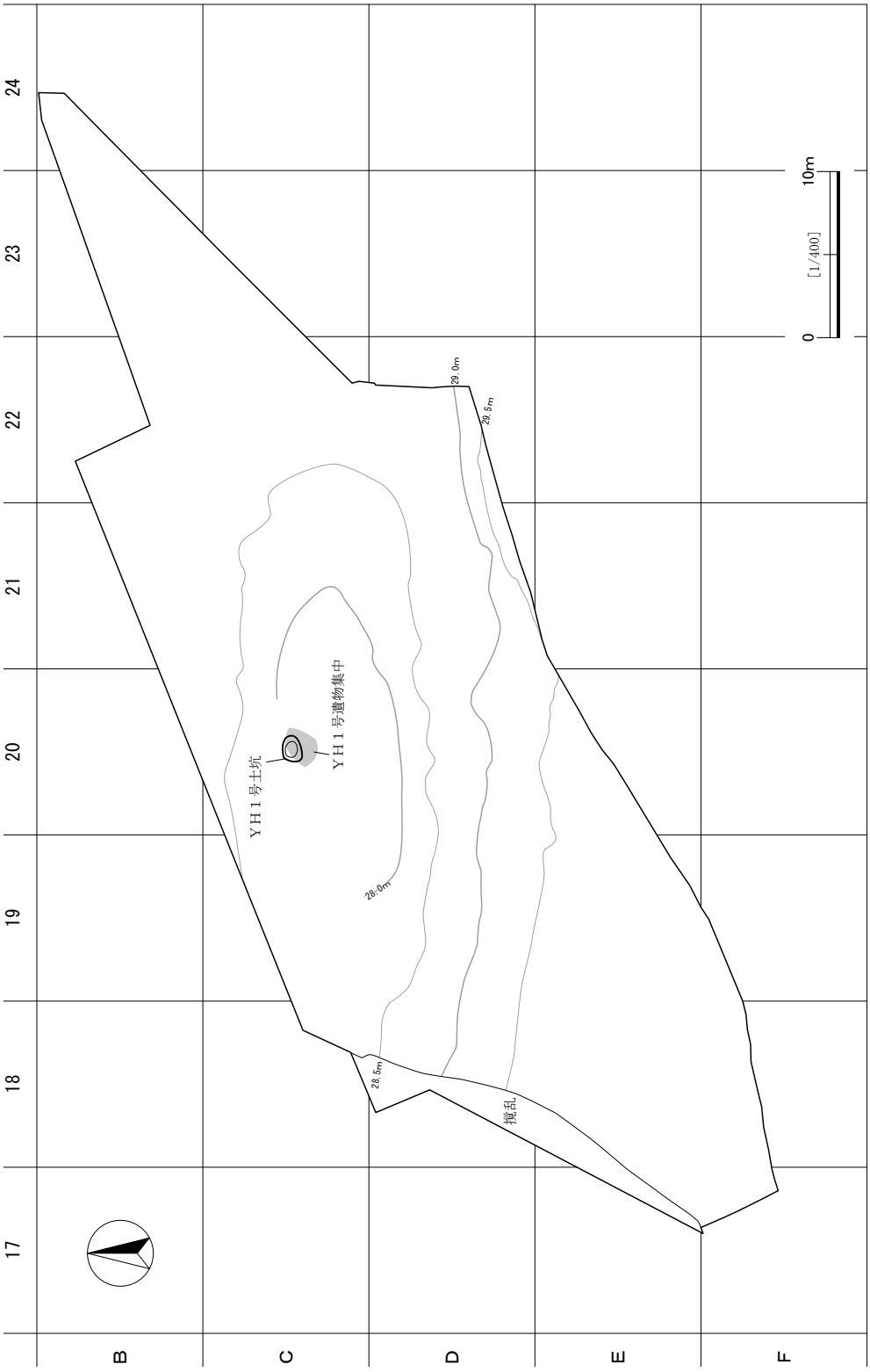
第114図　２区奈良・平安時代遺構外出土遺物[1/4]

第21表　２区奈良・平安時代遺構外出土遺物観察表［第114図］

No.	器種	観察所見　　（　）＝現存値　〔　〕＝復元値
1	土師器 坏	法量(cm)：口径〔12.5〕　底径〔8.0〕　器高3.2　重量38.2g　残存度：口縁部～底部1/4　成形・調整：口縁部ヨコナデ　体部～底部ヘラケズリ　内面　ナデ　胎土：密　角閃石　雲母　小礫　焼成：良好　色調：橙(5YR7/8)　備考　相模型　９世紀前半　出土位置：C20gr
2	土師器 坏	法量(cm)：底径7.0　器高（2.5）重量58.4g　残存度：体部下部～底部4/5　成形・調整：外面底部全面ヘラケズリ　ヘラミガキ　体部下半　ヘラケズリ　体部中央　ヨコヘラミガキ　内面底部～体部放射状ヘラミガキ　体部と見込み境にヘラミガキ　胎土：密　焼成：良好　色調：外　橙（7.5YR6/6）　内　明赤褐色（2.5YR5/8）　備考　甲斐型　８世紀後半　出土位置：C19・20gr
3	須恵器 高台付埦	法量(cm)：高台径〔8.5〕　器高(1.8)　重量8.9g　残存度：底部1/8　成形・調整：内外面　回転ナデ　貼り付け高台　胎土：密　焼成：良好　色調：灰色(5YR7/8)　出土位置：C20gr

４．弥生時代後期～古墳時代前期

２区における弥生時代後期～古墳時代前期の遺構は土坑１、遺物集中１である。基本土層第Ⅸ層上面で検出される。



第115図　２区　弥生時代後期～古墳時代前期遺構配置図[1/400]

調査区は奈良・平安時代同様南から北東へ傾斜しており、中央部分は小規模な谷が入り込んでいる。その中心部から土坑、遺物集中が発見された。

弥生時代後期～古墳時代前期の出土遺物は、壺305点、(2,433.8ｇ)、甕87点(617.6g)、高坏62点(291.3g)、総点数454点、総重量3,342.7gが出土した。

（１）土坑

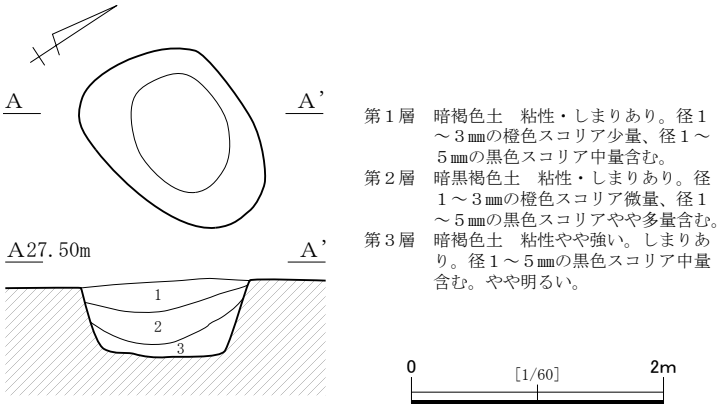
ＹＨ１号土坑（第115・116図）

Ｃ20グリッド中央で発見された。本遺構はＹＨ１号遺物集中とほぼ同じ位置で確認されているが、ＹＨ１号遺物集中を取り上げて精査を行った後に発見された。そのため本遺構とＹＨ１号遺物集中の関連はないと判断した。検出面の標高は27.37ｍである。平面形はやや崩れた隅丸長方形を呈し、検出規模は東西1.53ｍ、南北1.15ｍで、確認面からの深さは0.61ｍを測る。断面は逆台形を呈する。底面はほぼ平坦で、壁はやや急な角度で立ち上がっている。

覆土は暗褐色土が暗黒褐色土をはさむように３層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出面から弥生時代後期～古墳時代前期と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



第116図　２区ＹＨ１号土坑[1/60]

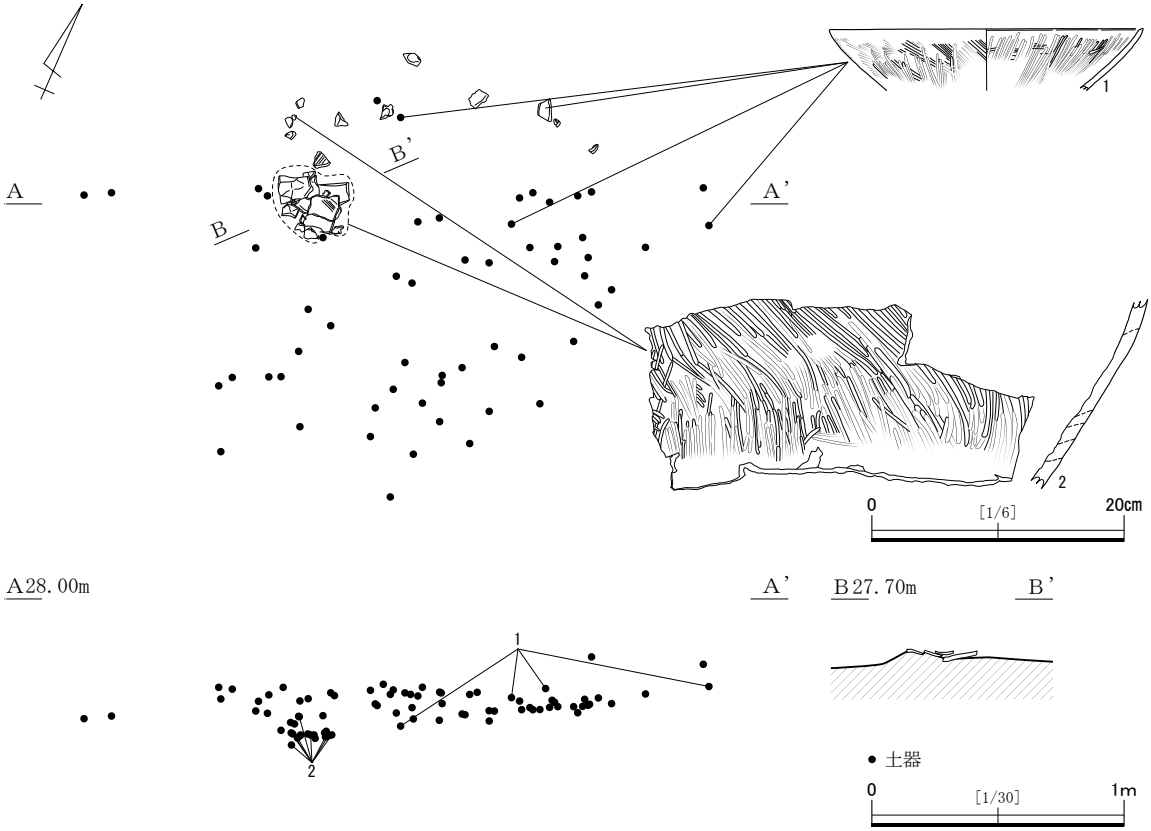
（２）遺物集中

ＹＨ１号遺物集中（第115・117・118図、第22表、図版24－２・150－１）

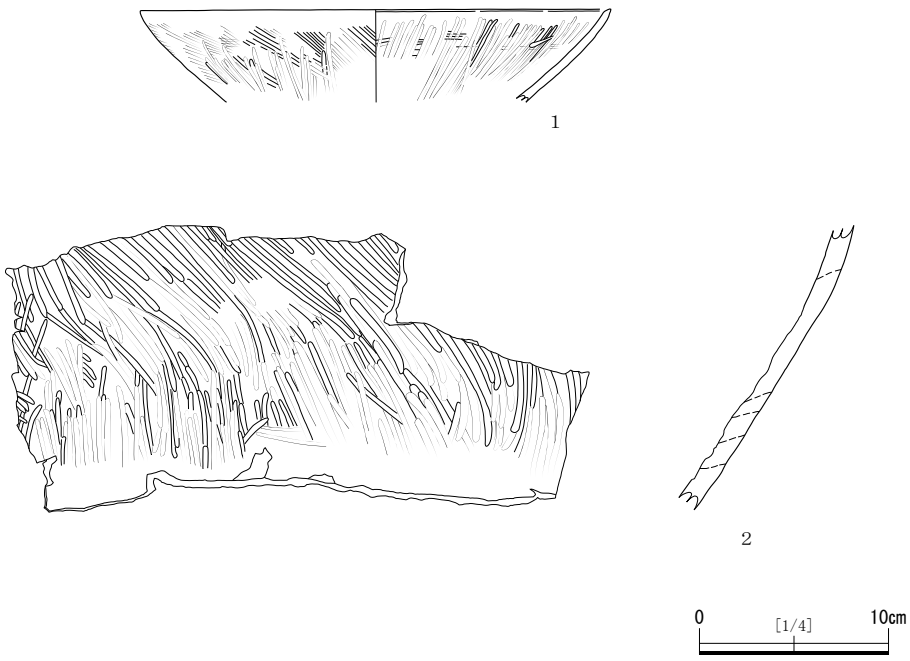
Ｃ20グリッド中央で発見された。東西約2.50ｍ、南北約2.20ｍの範囲に集中している。検出面の標高は27.80～27.40ｍである。

出土遺物の内訳は、壺68点(967.0ｇ)、高坏41点(221.8ｇ)、総点数109点、総重量1,188.8ｇである。このうち２点を図化した。

第118図１は高坏の口縁部である。大きく直線的に開き、内外面ともハケ後ミガキの調整を行っている。第118図２は壺の胴部下半片である。外面はミガキが施され､内面はハケ目調整されているが剥離が著しい。また、内外面とも煤が付着している。



第117図　２区ＹＨ１号遺物集中[1/30・1/6]



第118図　２区ＹＨ１号遺物集中出土遺物[1/4]

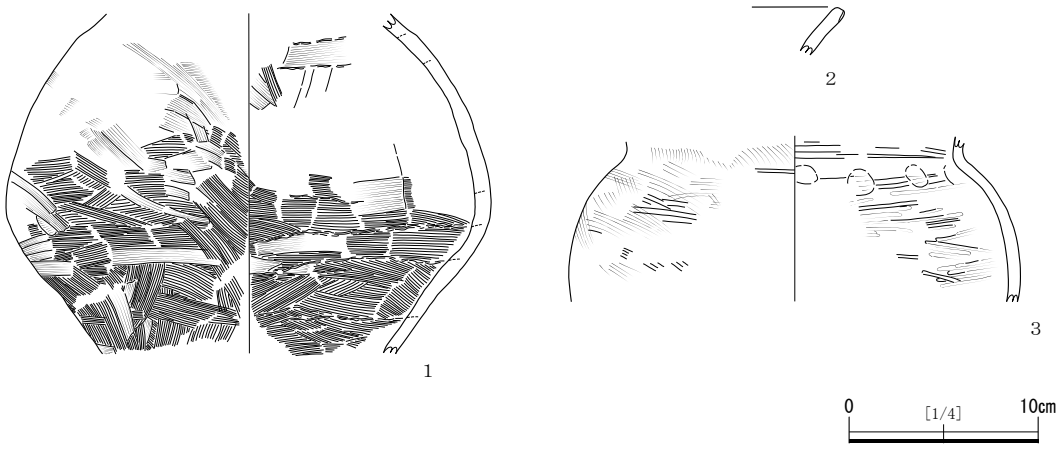
第22表　２区ＹＨ１号遺物集中出土遺物観察表［第118図］

No.	器種	観察所見　　（　）＝現存値　〔　〕＝復元値
1	高坏	法量(cm)：口径〔24.8〕　器高(4.9)　重量56.1g　残存度：口縁部1/4　成形・調整：口唇部ヨコナデ　外面斜めハケ後タテミガキ　内面ヨコハケ後タテミガキ　胎土：密　小礫　細砂粒　雲母　焼成：良好　色調：外　明赤褐色（5YR5/8）　内　明褐色（7.5YR5/6）　出土位置：Ｃ20gr
2	壺	法量(cm)：器高(15.2)　重量659.9g　残存度：胴部下半片　成形・調整：外面タテ・斜めミガキ　内面ヨコハケ　胎土：密　小礫　細砂粒　雲母　焼成：良好　色調：外　明赤褐色（5YR5/8）　内　明褐色（7.5YR5/6）　出土位置：Ｃ20gr　備考：内外面煤付着　内面剥離著しい

（３）遺構外出土遺物（第119図、第23表、図版150－２）

遺構外出土遺物は、Ｃ20グリッドに集中しており、壺237点(1,466.８ｇ)、甕87点(617.6g)、高坏21点(69.５ｇ)、総点数345点、総重量2,153.９ｇが出土した。このうち３点を図化した。

第119図１は壺の胴部片である。最大径は胴部下半にある。内外面とも細かいハケ目が施される。第119図２は口唇部にキザミ目が施された甕の口縁部片である。第119図３は頸部下端～胴部上半の甕片である。外面は太くはっきりとしたハケ目調整が頸部には縦方向、胴部は横方向に施されている。内面には横方向のミガキが施されている。胎土は外面に径１ｍｍほどの白色スコリアが多く確認できる。



第119図　２区弥生時代後期～古墳時代前期遺構外出土遺物[1/4]

第23表　２区弥生時代後期～古墳時代前期遺構外出土遺物観察表［第119図］

No.	器種	観察所見　　（　）＝現存値　〔　〕＝復元値
1	壺	法量(cm)：器高(17.8)　重量288.6g　残存度：胴部片　成形・調整：外面ハケ　内面ハケ　ヘラナデ　胎土：粗　小礫　砂粒　細砂粒　焼成：良好　色調：外　橙色（5YR6/6）　出土位置：Ｃ20gr
2	甕	法量(cm)：器高(2.5)　重量10.9g　残存度：口縁部片　成形・調整：口唇部キザミ　外面タテハケ　内面ヨコハケ　胎土：やや粗　小礫　砂粒　細砂粒　黒色スコリア　焼成：良好　色調：外　橙色（2.5YR6/6）　内　にぶい橙色（7.5YR6/4）　出土位置：Ｃ20gr
3	甕	法量(cm)：器高(8.8)　重量82.9g　残存度：頸部～胴部片　成形・調整：外面ハケ　内面ヨコハケ　指頭痕　ヨコミガキ　胎土：やや粗　小礫　細砂粒　白色スコリア　焼成：良好　色調：外　明赤褐色（5YR5/8）～黒褐色（5YR2/1）　内　明赤褐色（5YR5/8）　出土位置：Ｃ20gr

５．縄文時代

（１）遺構外出土遺物（第120・121図、第24表、図版151旧石器－１）

遺構外出土土器

２区では、早期から中期にかけて土器11点(236.2g)が出土しており、その時期別内訳は、早期後葉の条痕文系土器が5点(180.８ｇ)、前期後葉の諸磯式土器が1点(5.６ｇ)、中期初頭五領ヶ台式土器が１点(17.９ｇ)、中期前葉勝坂式土器が１点(11.１ｇ)、型式判別不明の無文土器が３点(20.８ｇ)となっている。この出土遺物のうち５点を第120図に掲載した。該期土器の分類は、第Ⅲ編の東富岡・中島遺跡で示した基準に基づいている。

第Ⅰ群土器　早期の土器（第120図、図版151－１）

第１類土器　早期後葉から末葉の貝殻条痕文・擦痕文土器（第120図１～４）

第120図１～３は早期後葉の貝殻条痕文系に帰属する資料である。１は外面に繊維痕を残し、条痕文の施文が不明瞭である。内面は縦走の条痕文やナデの調整痕が見られる。胎土に繊維を多く含み、細かい石英、砂粒を多く含む。外面赤褐色で内面黒色を呈す。２は外面にやや強く条痕を施文し明瞭な痕跡が認められる。内面は斜走の条痕文が見られるが器面に凹凸があることから条痕は不鮮明である。胎土には多量の繊維を含み、色調は鈍い褐色を呈す。３も外面を斜走する条痕文を施文し、内面は器面にやや凹凸を残すが斜走又は縦行する条痕文を施文する。胎土に繊維を含み、色調は褐色を呈する。

第120図４は早期後葉の擦痕文系に属する資料である。擦痕文は貝殻以外の篦状工具などの施文具で調整行為による痕跡を見て取れるものを擦痕文とした。外面は縦位で内面は斜位と横位方向に篦状工具痕が見られる。胎土に僅かな繊維を含み、石英、砂粒を含む。色調は暗褐色を呈す。

第Ⅲ群土器　中期の土器（第120図、図版151－１）

第１類土器　中期初頭の五領ヶ台式土器（第120図５）

第120図５は中期初頭の五領ヶ台式土器で、半截竹管による２条の横位施文が施される。内面は摩滅し、胎土に多量の金雲母、長石、砂粒を含む。色調は暗赤褐色を呈す。

第２類土器　中期中葉勝坂式土器（第120図６）

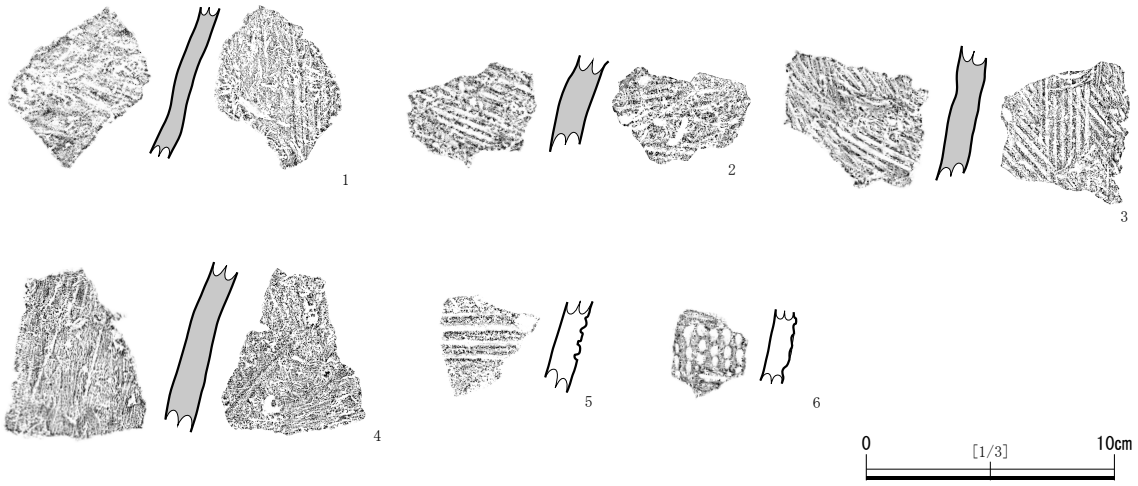
第120図６は中期中葉の勝坂式土器に分類した資料で勝坂1式土器古段階（狢沢式土器併行）に帰属する資料と考えられる。上下に沈線区画を施し、区画内を縦位に角押文が充填されている。内面はナデ調整で胎土は石英、長石を多く含む。色調は暗赤褐色を呈す。

遺構外出土石器（第121図、第24表、図版151－１）

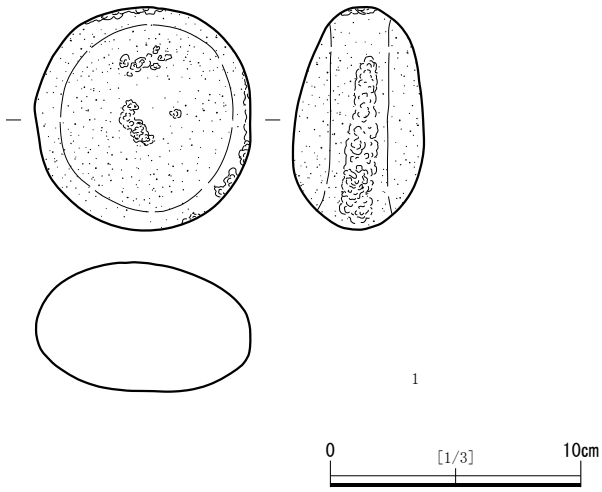
２区南の遺構外から敲石１種１点(592.９ｇ)の石器が出土し、これを図示した。

敲石（第121図１）

第121図１は中粒凝灰岩製の敲石である。敲打痕は表面中央～上部と上端、右側縁～下端に認められ、特に下端寄りの右側縁で著しい。



第120図　２区縄文時代遺構外出土土器［1/3］



第121図　２区縄文時代遺構外出土石器［1/3］

第24表　２区縄文時代遺構外出土石器属性表［第121図］

挿図番号	器種名	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	出土遺構・Gr	備 考
1	敲石	中粒凝灰岩	8.9	8.6	5.2	592.9		２区南

６．旧石器時代

（１）第Ⅰ文化層（第122 ～ 124図、第25表、図版26・27・151－２）

旧石器時代の調査は、調査区域全体に約２×２ｍと約２×３ｍの調査坑（グリッド）を計13箇所設定して、縄文時代最終面から約２ｍの深さまで掘削を行なった。その結果、調査区域南西端に近いＦ－17・18グリッドで、遺物集中が１箇所発見され、調査坑を拡張して周囲の調査を実施した。

遺物集中の位置は地形的には丘陵尾根の北西端の緩斜面で、Ｂ１層下部相当以下が残存していたが、それより上の層は後世の掘削等によって残存していなかった。

他の調査坑では遺構・遺物は発見されなかった。

遺物集中１（第123・124図、第25表）

Ｆ－17・18両グリッドに跨がって所在し、地形の尾根筋に平行する北東－南西方向に長い1.７ｍ×0.６ｍの範囲から石器４点（総重量16.６ｇ）が出土した。石器は、遺物分布範囲全体に散漫な分布状況を示す。石器１点がＬ３層上部から出土しているが、他の３点はいずれもＢ２層から出土している。

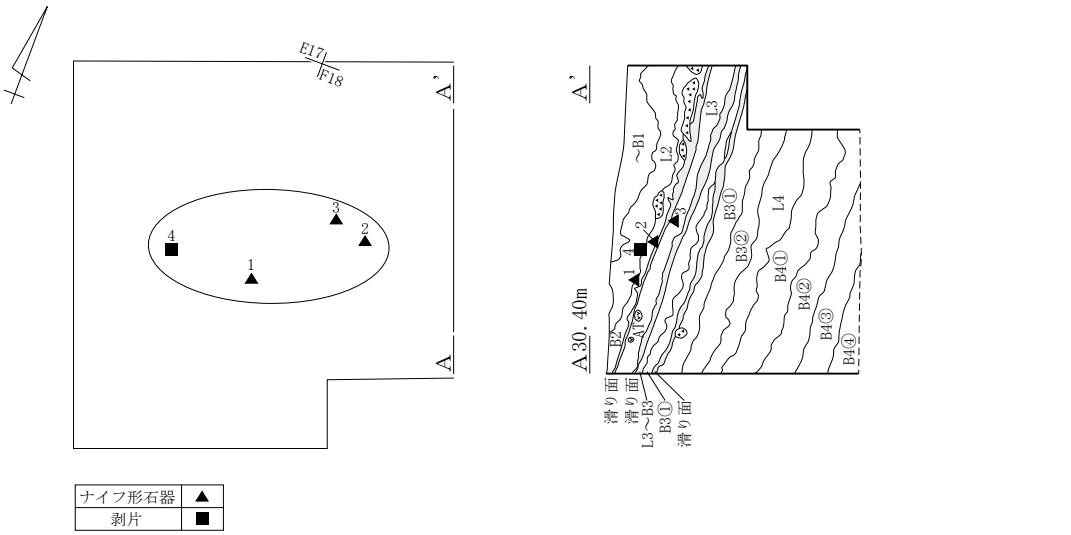
出土石器は、ナイフ形石器３点、剝片１点の計４点である。

第124図１～３はナイフ形石器である。１は横長剝片を素材として基部に加工が施されたものである。先端部には表面（背面）からの連続した平坦な剝離と折れが裏面（腹面）に認められ、平坦な剝離の大半は折れで一部を欠損している。これらの先端部に形成された剝離や折れは、衝撃による可能性が考えられる。表面左側縁の刃部の平面形は弧状を呈し、器体中央の刃角は50°を測る。表面右側縁は直線状を呈する。基部には表裏面からの平坦な調整剝離があり、表面両側縁に重複する微細な剝離が認められる。この微細な剝離は着柄の際に生じた可能性がある。２は横長剝片を素材として二側縁に加工が施された切出状のものである。表面には求心状の剝離が行われた形跡が確認される。先端部は左側縁側に表面からの折れが認められ、右側縁側を調査時に破損している。先端部裏面左側縁側の折れは衝撃による可能性が考えられる。表面右側縁の刃縁には調査時の破損が僅かにみられるが、表面左側縁の刃部の平面形は概ね直線状で、先端部中央の刃角は60°程と想定される。基部を除く刃部より下位は裏面から平坦な調整による剝離が施されている。表面左側縁には先端部の折れ面直下と基部に裏面からの平坦な調整剝離がみられるが、表面中央部左側縁には裏面から急斜度な剝離も施されている。表面基部の両側縁に平坦な調整剝離がある一方、表面右側縁には急斜度な剝離もみられる。微細な剝離は急斜度な剝離を除いて両側縁で平坦な調整剝離と重複するが、基部にあるものは着柄の際に、それ以外のものは衝撃によって生じた可能性が考えられる。３は石核の底面を有する小形の横長剝片を素材として一側縁に加工が施された国府系ともいえるものである。剝片を石核とした際の底面が表面右側縁の刃部を構成し、瀬戸内技法との関連が想定される。先端部の平面形は概ね左右対称である一方、表面に礫面が残る基部は非整形で、平面形は表面右側縁側が突出するいびつな左右非対称を呈する。表面左側縁の刃部の平面形は直線状を呈し、器体中央の刃角は80°を測る。表面左側縁の先端から基端までとその基端から右側縁で直線状となる基部までは平坦な調整剝離が施され、平面形が円弧状を呈する。微細な剝離は表面先端部及び調整剝離の施された上半、刃縁中央から続く基部までにみられ、前者は使用に際して生じ、後者は素材剝片の特徴から、偶発剝離である可能性が考えられ、表面右側縁の基部で重複する平坦な剝離も一連の偶発剝離であると想定される。石材は１～３が全て黒曜石（母岩0b １・２）で、１と３は肉眼観察により同一母岩としたが、産地は１が信州和田峠、２が伊豆柏峠、

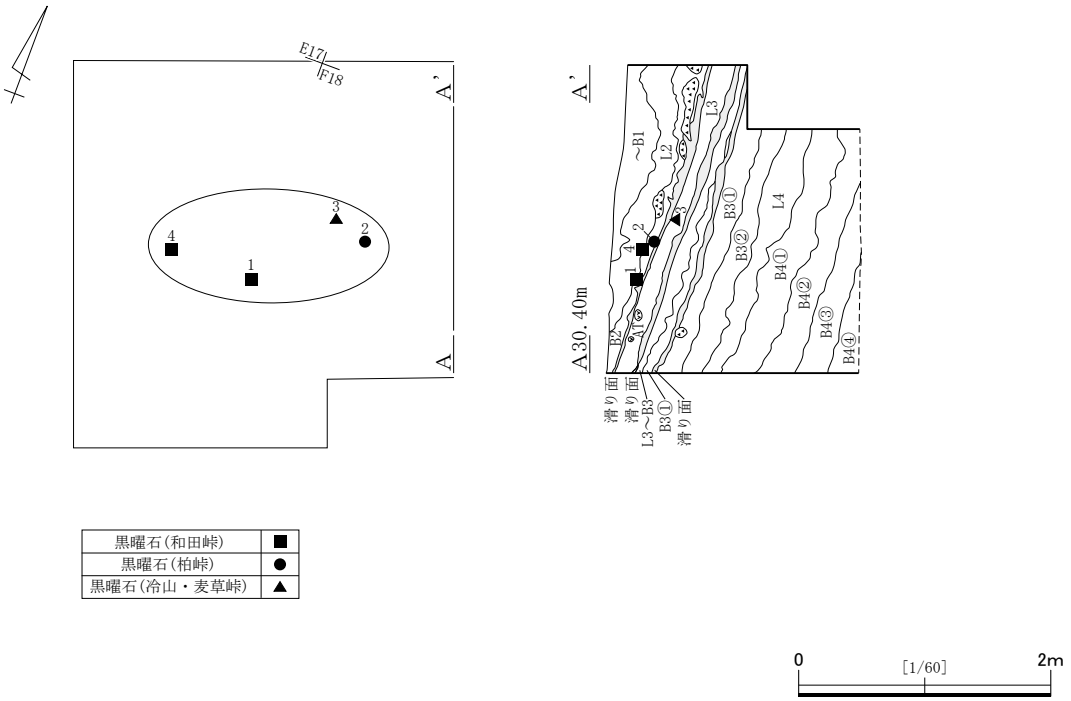


第122図　２区旧石器時代調査範囲図[1/400]

器種別



石材別



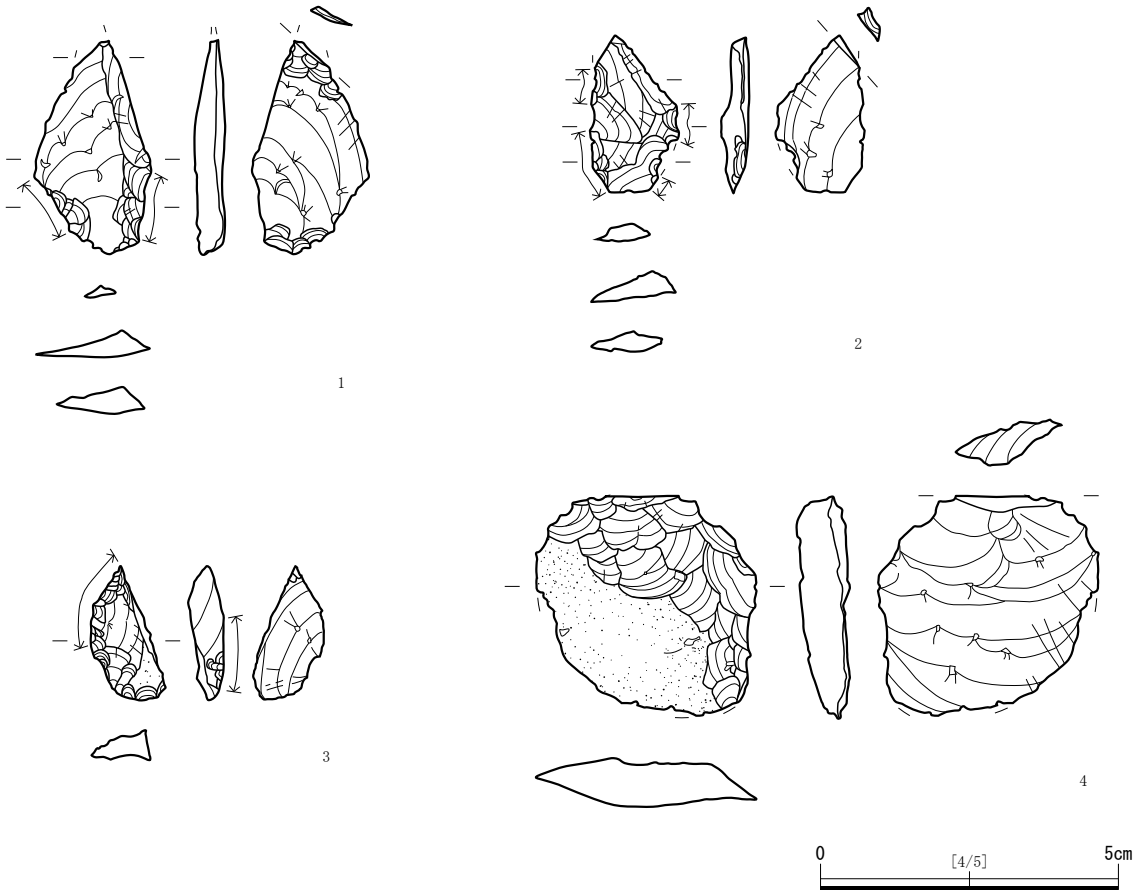
第123図　２区旧石器時代遺物集中器種・石器別分布図[1/60]

３が信州冷山・麦草系と推定された。

第124図４は幅広の剥片である。非調整の単剝離打面で、表面に上下左３方向から打面を転位して剝離作業が行われた痕跡と礫面が確認される。表面末端部が右側縁側に偏るが、長さと幅の比は１：１の値を示す。表面左下部の縁辺には僅かに折れが認められる。石材は黒曜石（母岩0b ３）で、産地は信州和田峠と推定されたが、肉眼観察により１とは別母岩とした。

なお１～４の黒曜石は、信州産と伊豆産が肉眼観察でも識別されたが、産地の詳細については、蛍光X線分析の結果、和田峠産、柏峠産、冷山・麦草系産が推定された。分析の詳細は栗窪・林遺跡（かながわ考古学財団調査報告334所収）出土の試料とともに、第Ⅴ編第２章を参照されたい。

本遺物集中から出土した石器は基部加工、切出状、国府系等のナイフ形石器と剥片で構成される器種組成のあり方から、Ｂ２層石器群の文化期に位置づけられる。接合資料がみられなかったことから、石器製作が行われたとは考えにくいが、当該期の狩猟具ないしは加工具とみなされるナイフ形石器と剝片が器種組成を占めることと、ナイフ形石器と剝片で認められた折れから、本遺物集中は狩猟・解体等の作業を目的として用意された破損品の廃棄場で、当該期の本遺跡は狩猟・解体場と居住地を中継する野営地付近の場であったと考えられる。



第124図　２区旧石器時代出土石器［4/5］

第25表　２区旧石器時代出土石器一覧表［第124図］

挿図番号	器種名	石材	母岩No.	遺存状態	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	出土遺構	取上No.	出土Gr.	備 考
1	ナイフ形石器	黒曜石	ob1	端部欠	(3.6)	2.0	0.5	2.6	遺物集中１	1	F18Gr	和田峠産
2	ナイフ形石器	黒曜石	ob2	端部欠	(2.6)	1.5	0.5	1.6	遺物集中1	3	F18Gr	柏峠産
3	ナイフ形石器	黒曜石	ob1	完形	2.3	1.2	0.6	1.0	遺物集中1	4	F18Gr	冷山・麦草系
4	剝片	黒曜石	ob3	完形	3.7	3.7	0.9	11.4	遺物集中1	2	F17Gr	和田峠産

第Ⅲ編　東富岡・中島遺跡

第１章　基本層序

４区

本地区は富岡丘陵の南東に位置し、地形は北西から南東へ向かって傾斜している。Ｕ・Ｖ列グリッドの境目辺りに宝永スコリア降灰以前の段切りが存在し、南側は一段低い平坦面となっている。段切りの高低差は約1.５ｍほどである。段切り上段には近世以前の土層が良好に堆積しており、表土から関東ローム層までを12層に分層したが、第Ⅳ～Ⅶ層、第Ｘ層、第Ⅺ層は色調やスコリアの量により２層に細分した。一段低い南側の平坦面では上段で検出された第Ⅳ層は認められず、近世の遺構はＶ層上面で検出した。関東ローム層はＬ２相当層まで掘削を行った。

①　Ｕ３、Ｙ２グリッド

第Ⅰ層　表土。

第Ⅱ層　暗灰褐色土　１～３㎜の橙色スコリア少量、１～３㎜の黒色スコリア微量含む。粘性弱い。しまりなし。近世堆積土。

第Ⅲ層　茶褐色土　１～３㎜の橙色スコリア微量、１～３㎜の黒色スコリア微量、下方に宝永スコリアを含む。粘性弱い。しまり弱い。近世堆積土。

第Ⅳ①層　茶褐色土　１～３㎜の橙色スコリアやや多量、１～３㎜の黒色スコリア微量含む。粘性あり。しまりあり。上面で近世遺構確認。

第Ⅳ②層　茶褐色土　１～３㎜の橙色スコリア中量、１～３㎜の黒色スコリア微量含む。粘性あり。しまりあり。第Ⅳ①層よりも暗い色調。上面で中世遺構確認。

第Ⅴ①層　暗茶褐色土　１～３㎜の橙色スコリアやや多量、１～３㎜の黒色スコリア微量含む。粘性あり。しまりあり。奈良・平安時代遺物包含層。

第Ⅴ②層　暗茶褐色土　１～３㎜の橙色スコリアやや多量、１～３㎜の黒色スコリア微量含む。粘性やや強い。しまりあり。第Ⅴ①層よりも暗い色調。奈良・平安時代遺物包含層。

第Ⅵ①層　暗褐色土　１～３㎜の橙色スコリア多量、１～５㎜の黒色スコリア少量含む。粘性やや強い。しまりあり。奈良・平安時代遺物包含層。

第Ⅵ②層　暗褐色土　１～３㎜の橙色スコリアやや多量、１～５㎜の黒色スコリア少量含む。粘性やや強い。しまりあり。奈良・平安時代遺物包含層。

第Ⅶ①層　暗褐色土　１～３㎜の橙色スコリア少量、１～５㎜の黒色スコリア少量含む。粘性やや強い。しまりあり。奈良・平安時代遺物包含層。

第Ⅶ②層　暗褐色土　１～３㎜の橙色スコリア微量、１～５㎜の黒色スコリア少量含む。粘性やや強い。しまりあり。上面で奈良・平安時代遺構確認。

第Ⅷ層　黒褐色土　１～３㎜の橙色スコリア微量、１～８㎜の黒色スコリア多量含む。粘性弱い。しまり弱い。縄文時代遺物包含層。

第Ⅸ層　暗褐色土　１～２㎜の橙色スコリアやや多量、１～５㎜の黒色スコリア少量含む。粘性やや強い。

しまりあり。縄文時代遺物包含層。

第Ⅹ①層　暗茶褐色土　１～５㎜の橙色スコリアやや多量含む。粘性強い。しまり強い。
縄文時代遺物包含層。

第Ⅹ②層　暗茶褐色土　１～５㎜の橙色スコリアやや多量含む。粘性強い。しまり強い。第Ⅹ①層よりも明るい色調。縄文時代遺物包含層。

第Ⅺ①層　茶褐色土　１～５㎜の橙色スコリア中量含む。粘性強い。しまり強い。上面で縄文時代遺構確認。

第Ⅺ②層　茶褐色土　１～５㎜の橙色スコリア少量含む。粘性強い。しまり強い。

第ⅩⅡ層　明茶褐色土　１～５㎜の橙色スコリア少量含む。粘性強い。しまりやや強い。ローム漸移層。

第ⅩⅢ層　暗黄褐色土　１～３㎜の橙色スコリア多量、１～４㎜の橙色スコリア少量含む。粘性やや強い。しまりやや弱い。Ｌ１Ｓ相当層。

②　Ｗ３グリッド

第ⅩⅣ層　黄褐色土　１～４㎜の橙色スコリア多量、１～３㎜の褐色スコリア少量含む。粘性強い。しまりやや弱い。Ｂ０～Ｌ１Ｈ相層。

第ⅩⅤ層　黄褐色土　１～３㎜の橙色のスコリア多量、１～５㎜の黒色スコリアやや多量、１～３㎜の赤色スコリア微量、白色粒子微量含む。粘性やや強い。しまりやや弱い。Ｌ１Ｈ相当層①

第ⅩⅥ層　暗黄褐色土　１～６㎜の橙色のスコリアやや多量、１～５㎜の黒色スコリアやや多量、白色粒子微量含む。粘性やや強い。しまりやや弱い。Ｌ１Ｈ相当層②

第ⅩⅦ層　暗黄褐色土　１～３㎜の橙色のスコリアやや多量、１～３㎜の黒色スコリア微量、白色粒子微量含む。粘性やや強い。しまりやや弱い。Ｌ１Ｈ相当層③

第ⅩⅧ層　暗黄褐色土　１～４㎜の橙色のスコリア少量、１～４㎜の黒色スコリア微量、白色粒子微量含む。粘性強い。しまり強い。Ｌ１Ｈ相当層④

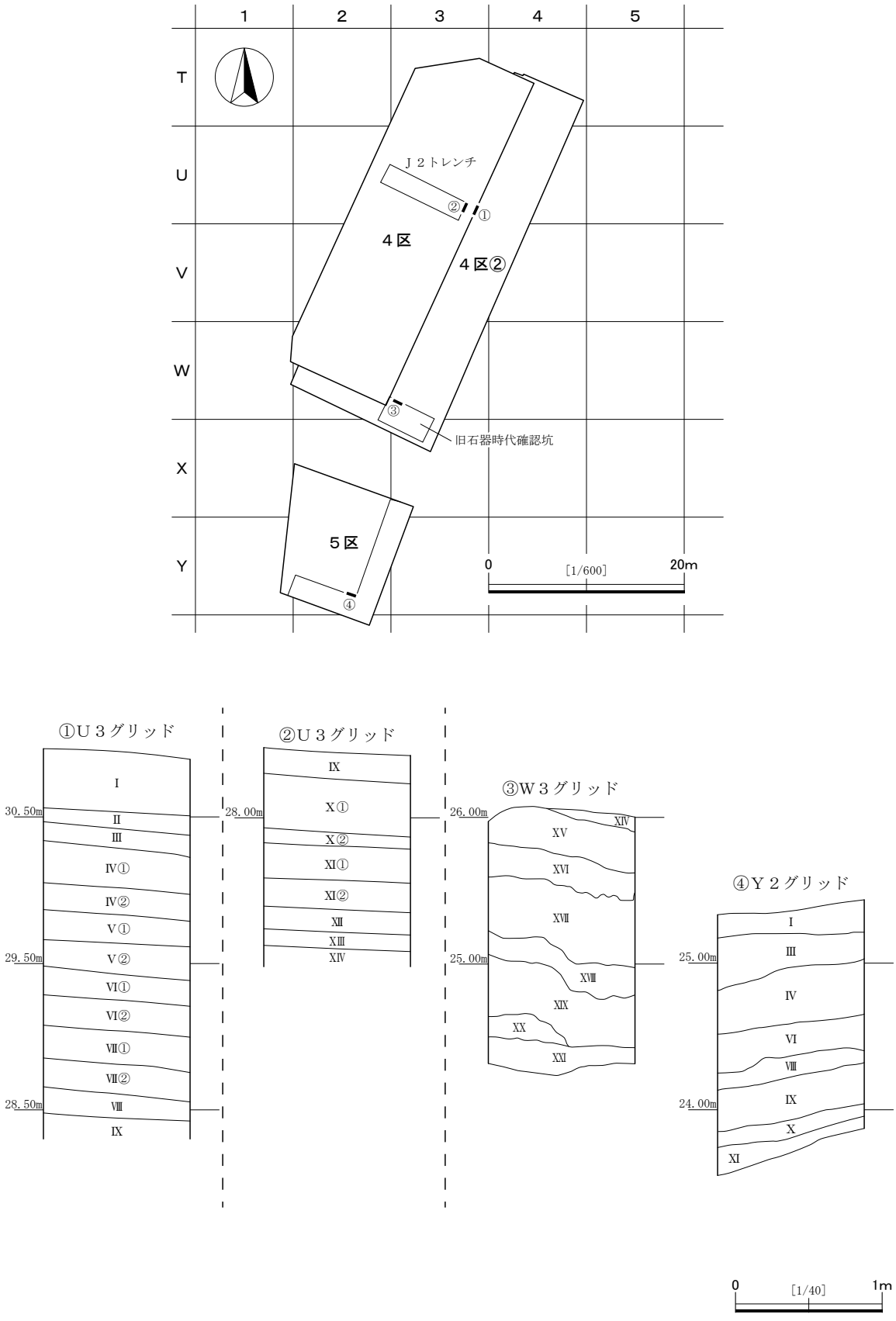
第ⅩⅨ層　暗黄褐色土　１～３㎜の橙色のスコリア少量、１～３㎜の黒色スコリアやや多量、１～10㎜の黒色スコリア微量、１～２㎜の赤～褐色スコリアやや多量、白色粒子微量含む。粘性強い。しまり強い。Ｂ１上部相当層。

第ⅩⅩ層　暗黄褐色土　１～３㎜の橙色のスコリアやや多量、１～10㎜の黒色スコリアやや多量、１～２㎜の赤～褐色スコリアやや多量、白色粒子微量含む。粘性強い。しまり強い。　Ｂ１下部相当層。

第ⅩⅩⅠ層　暗黄褐色土　１～３㎜の橙色のスコリアやや多量、１～５㎜の黒色スコリアやや多量、１～２㎜の赤～褐色スコリアやや多量、白色粒子微量含む。粘性強い。しまり強い。　Ｌ２相当層。

５区

本地区は富岡丘陵の南東に立地する。４区の南側に近接し、地形は北西から南東へ向かって傾斜しているが、調査開始前には平坦に埋め立てられていた。表土を除去すると、北西隅のＹ２グリッド付近は関東ローム層まで削平されていた。南東側は４区と同様の土層が堆積していたが、第Ⅱ層・第Ⅴ層・第Ⅶ層は認められなかった。第Ⅹ層以下からは遺物が出土せず、掘削深度も２ｍを越えたことからそれ以上の掘削は行わなかった。中世の遺構は第Ⅳ層上面で確認されたが、南東隅で発見された溝状遺構は第Ⅸ層上面で検出されており、奈良・平安時代の所産と思われる。



第125図　４区・５区基本土層図[1/600・1/40]

第２章　発見された遺構と遺物

第１節　４区・５区

１．近　世

４区・５区で発見された近世の遺構は段切り２ヶ所、溝状遺構３条、畝状遺構２ヶ所、土坑５基、ピット７基である。基本土層第Ⅳ①、②～Ⅴ①層で検出される。

４区は緩やかに南東側へ低くなる地形に合わせるように段切りが造られ、その平坦な部分に遺構が確認される。５区はローム層まで削平を受け、遺構は発見されていない。検出された遺構から耕作地として活用していることが伺える。

近世の出土遺物は、磁器碗22点(156.0ｇ)、磁器皿３点(10.3ｇ)、磁器小杯２点(2.5ｇ)、磁器瓶類１点(1.9ｇ)、陶器碗９点(38.7ｇ)、陶器餌水入れ１点(1.7ｇ)、陶器皿４点(19.9ｇ)、陶器燈明皿２点(10.0ｇ)、陶器燈明受皿２点(26.7ｇ)、陶器擂鉢３点(38.2ｇ)、陶器甕１点(8.1ｇ)、陶器土瓶１点(0.3ｇ)、陶器徳利２点(34.7ｇ)、陶器燗徳利１点(0.9ｇ)、陶器瓶類２点(43.4ｇ)、陶器器種不明１点(1.7ｇ)、金属製品(釘、鋏、煙管)７点(32.1ｇ)、石製品(砥石・板碑)３点(193.2ｇ)、鉄滓(椀型滓・粒状滓)20点(960.8ｇ)である。なお、鉄滓については出土状況等から確実に中世の所産と判別出来るものはなかったため、近世の項で一括して表記した。総点数87点、総重量1,581.1ｇである。

遺物は遺構外からの出土が大半を占めている。

(１) 段切り

Ｋ１号段切り(第126～128図、第26表、図版29－２・151－３)

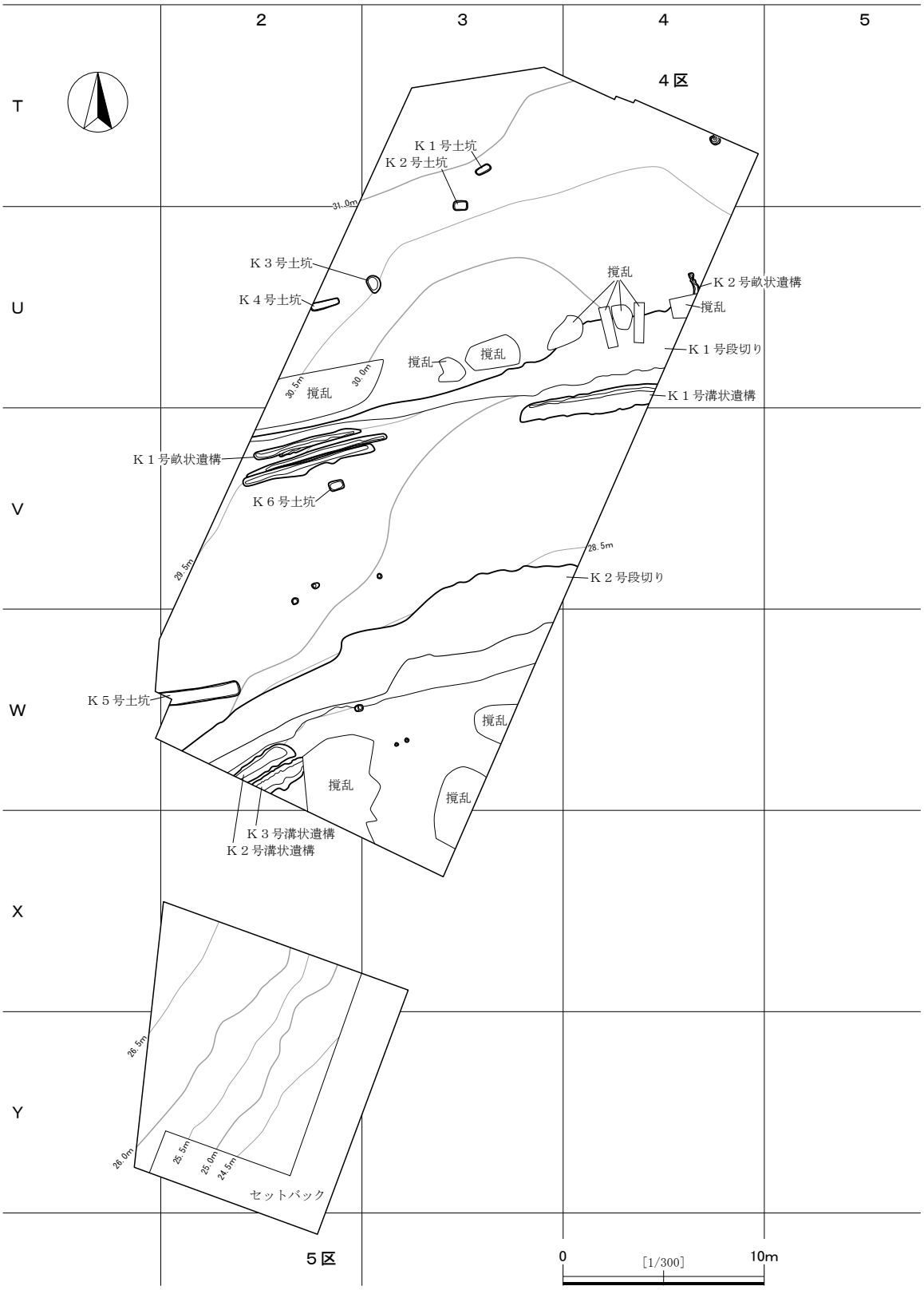
Ｕ・Ｖ２～４グリッドで発見された。台地を東西方向に段切りし、南側に平場を造成している。検出長は22.00m、段切りの幅は4.42ｍで、調査区を横断し両端とも調査区外へ延伸する。上端付近は後世の攪乱が多く、東側の上端は一部切られている。上端の標高は東側が30.30ｍ、西側は29.80ｍである。平場の標高は東側が28.92ｍ、西側が29.22ｍで西側へ向かうにつれ比高差が約1.38ｍから約0.55ｍと小さくなる。段切り下段の東側部分では溝状遺構が確認されている。Ｋ１号溝状遺構として後述するが、東西方向に並走しているため、本遺構に伴うものと考えられる。

覆土は自然堆積の状況を呈する。

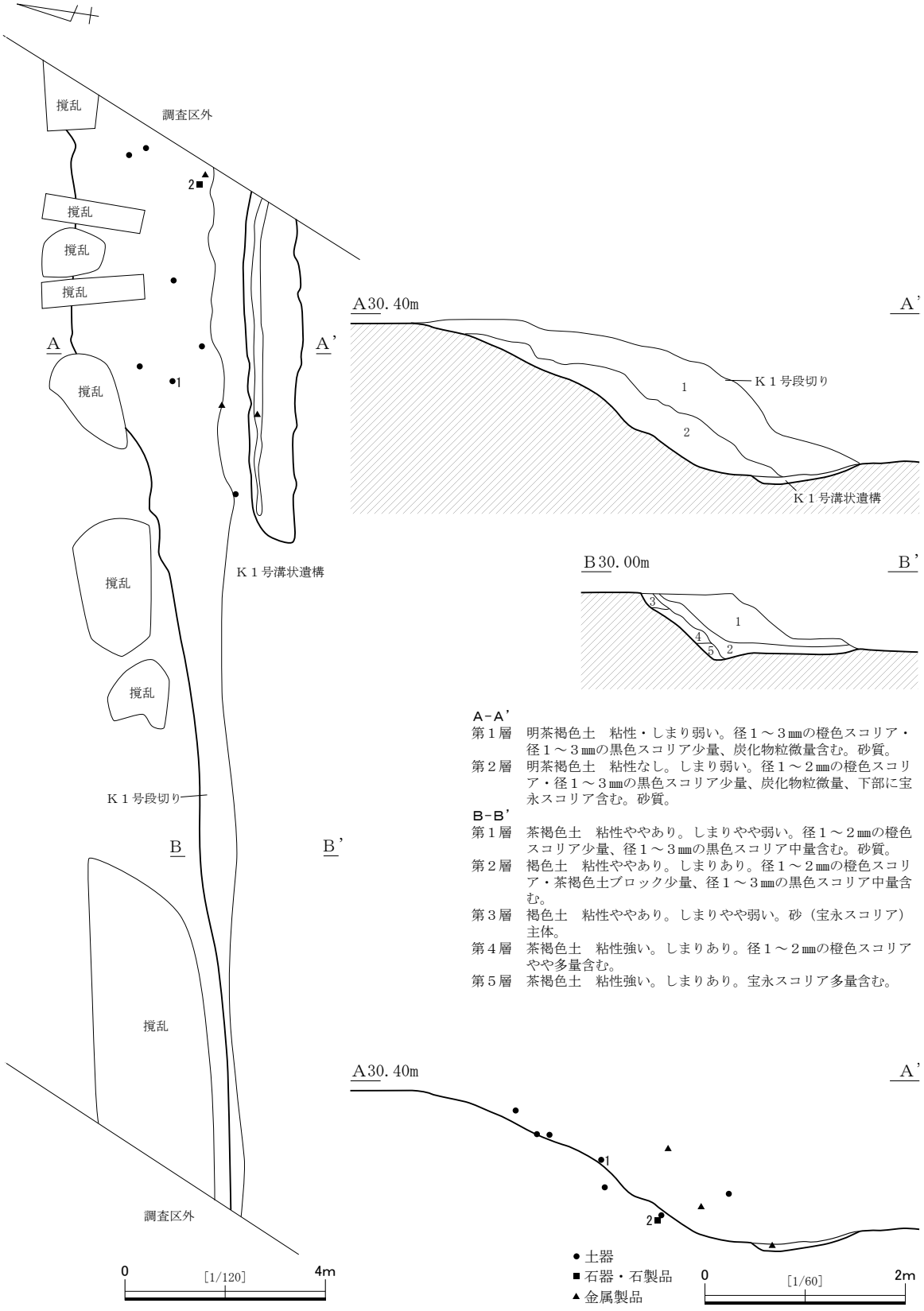
遺物の分布は、東側に集中している。

遺物は磁器碗８点(31.0ｇ)、磁器小杯１点(1.1ｇ)、磁器瓶類１点(1.9ｇ)、陶器碗６点(23.0ｇ)、陶器皿１点(2.3ｇ)、陶器燈明皿１点(4.0ｇ)、陶器徳利１点(19.1ｇ)、陶器器種不明１点(1.7ｇ)、石製品(砥石)１点(187.1ｇ)、鉄滓３点(174.4ｇ)、総点数24点、総重量445.6ｇが出土している。そのうち２点を図化した。

第128図１は肥前産陶器灰釉碗の底部片である。外面上半及び内面には灰釉が施される。外面底部には径１cmの○が押されているが、刻印は認められない。17世紀後半の製品である。２は変質流紋岩製の砥石で上下面２面を使用している。



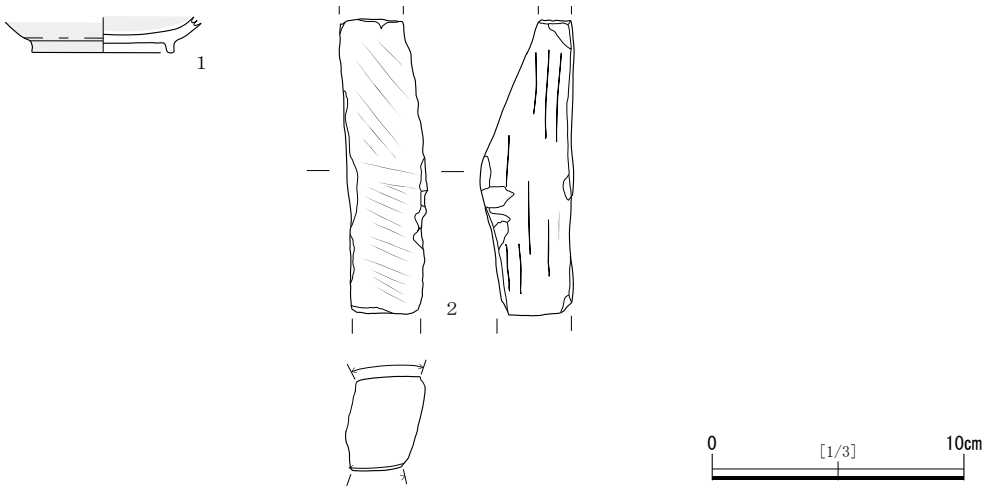
第126図　４区・５区　近世遺構配置図[1/300]



A-A'
第１層　明茶褐色土　粘性・しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア少量、炭化物粒微量含む。砂質。
第２層　明茶褐色土　粘性なし。しまり弱い。径１～２㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア少量、炭化物粒微量、下部に宝永スコリア含む。砂質。

B-B'
第１層　茶褐色土　粘性ややあり。しまりやや弱い。径１～２㎜の橙色スコリア少量、径１～３㎜の黒色スコリア中量含む。砂質。
第２層　褐色土　粘性ややあり。しまりあり。径１～２㎜の橙色スコリア・茶褐色土ブロック少量、径１～３㎜の黒色スコリア中量含む。
第３層　褐色土　粘性ややあり。しまりやや弱い。砂（宝永スコリア）主体。
第４層　茶褐色土　粘性強い。しまりあり。径１～２㎜の橙色スコリアやや多量含む。
第５層　茶褐色土　粘性強い。しまりあり。宝永スコリア多量含む。

第127図　４区Ｋ１号段切り・Ｋ１号溝状遺構[1/120・1/60]



第128図　４区Ｋ１号段切り出土遺物[1/3]

第26表　４区Ｋ１号段切り出土遺物観察表［第128図］

No.	器種	種別	（）＝現存値　〔〕＝復元値 口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	重量(g)	残存度	産地	時期	観察内容
1	灰釉碗	陶器	－	〔5.4〕	(1.4)	12.0	底部1/4	肥前	17世紀後半	胎土 淡黄色、密、微細な黒色粒子を含む 焼成 良好 釉薬 淡黄褐色灰釉 備考 高台無釉・京焼風
No.	器種	石材	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	観察内容			
2	砥石	変質流紋岩	(11.7)	3.5	3.7	187.1	残存度 両端部欠損 備考 上下面２面使用			

遺構の時期は、確認面と出土遺物から近世と考えられる。

Ｋ２号段切り（第126・129～131図、第27表、図版29－２・151－３）

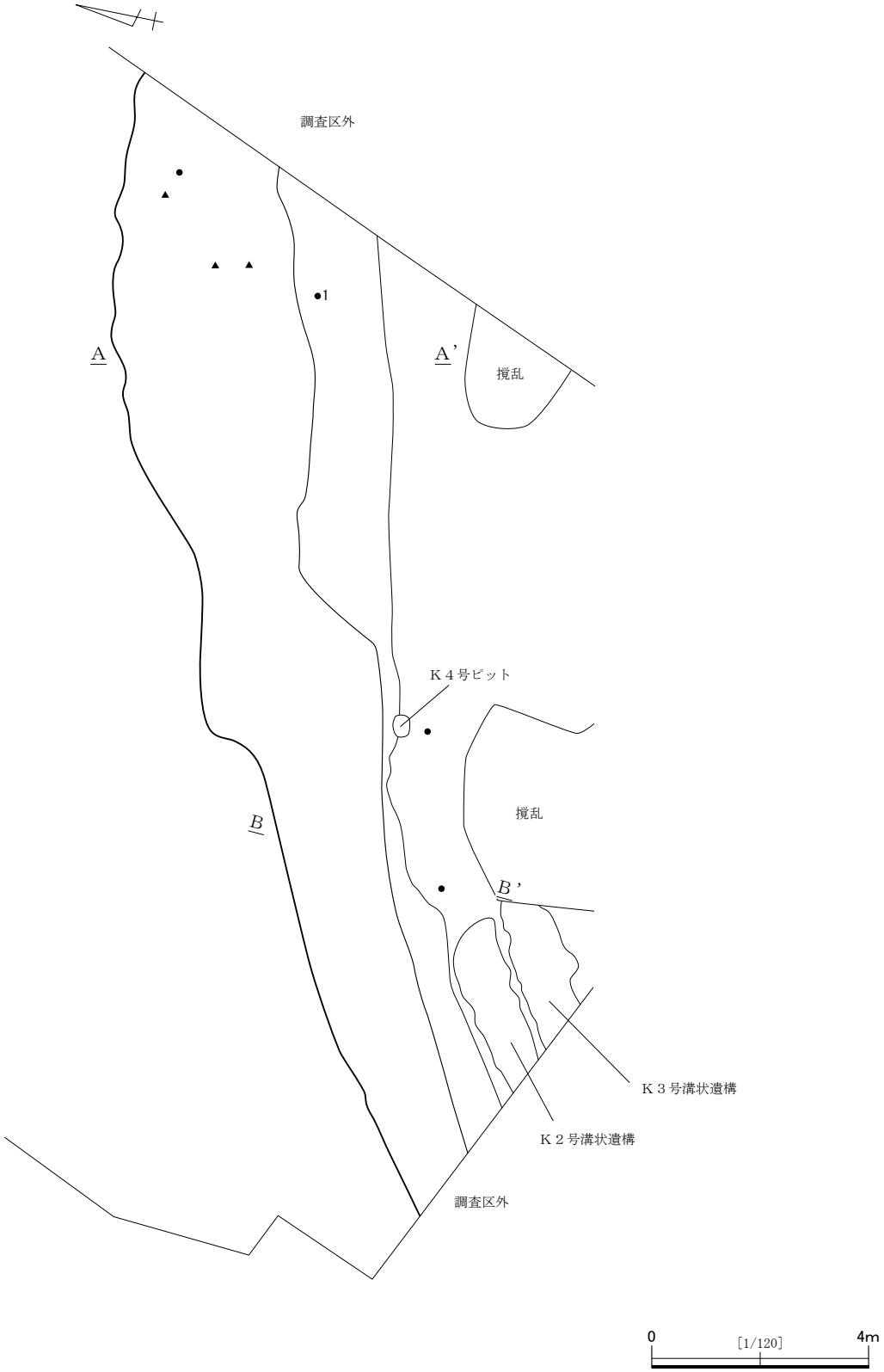
Ｖ・Ｗ２～４グリッドで発見された。南西から東方向に段切りし、南側に平場を造成している。検出長は約22.50ｍ、段切りの幅は2.20～4.42ｍで、南西側、北東側とも調査区外へ延伸する。上端の標高は28.70～28.85ｍ、平場の標高は26.30～26.60ｍで比高差は2.40～2.70ｍを測る。中腹で緩い段が形成されている。段切り下段の西側部分では溝状遺構が確認されている。Ｋ２号溝状遺構、Ｋ３号溝状遺構として後述するが同方向に並走しているため、本遺構に伴うものと考えられる。

覆土は自然堆積の状況を呈する。

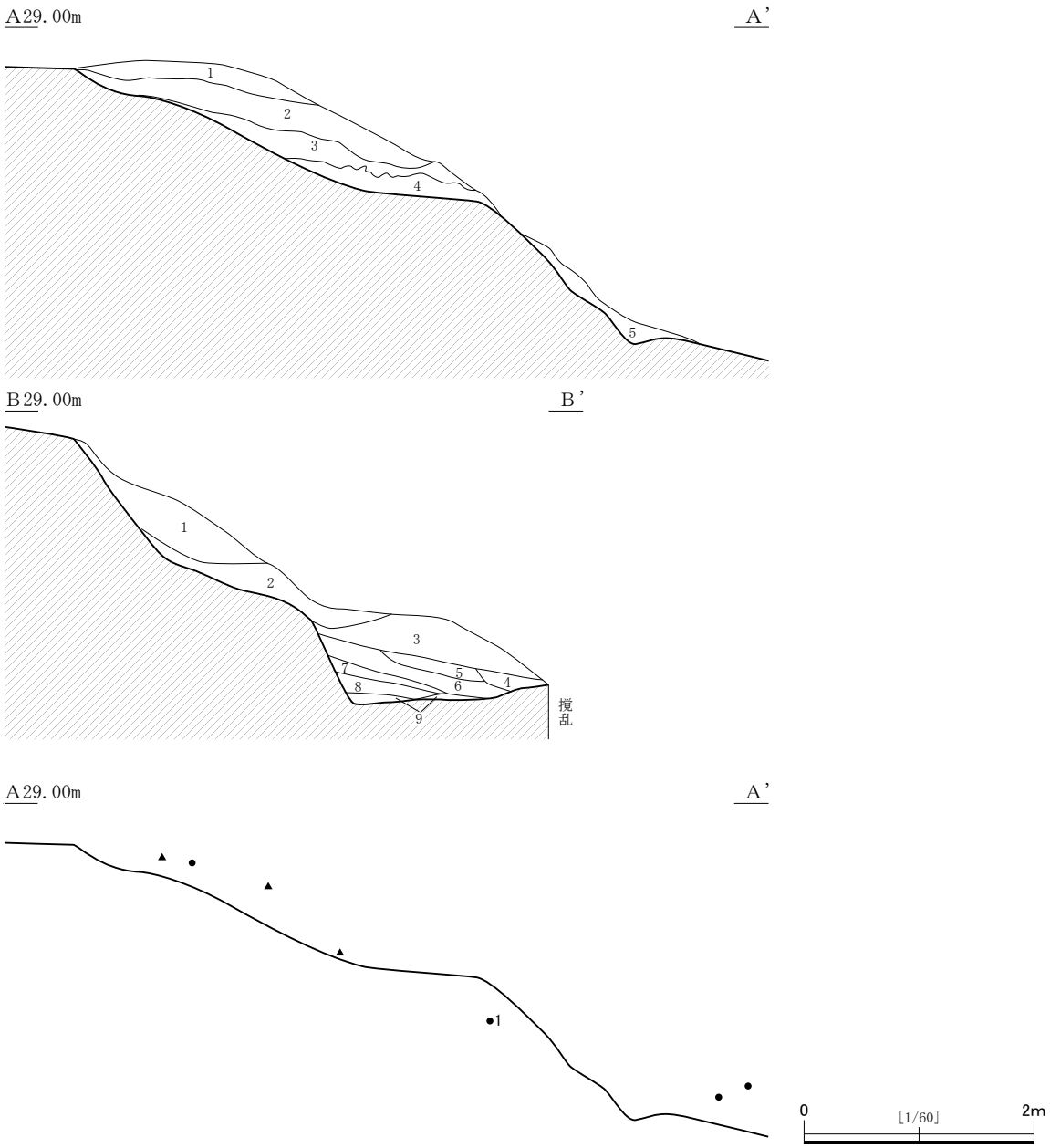
遺物は磁器碗５点(82.8ｇ)、磁器皿３点(10.3ｇ)、陶器碗１点(6.8ｇ)、陶器皿１点(2.2ｇ)、陶器燈明受皿１点(9.1ｇ)、金属製品（鉄釘）２点(5.3ｇ)、鉄滓２点(191.2ｇ)、総点数15点、総重量307.7ｇが出土している。そのうち１点を図化した。

第131図１は肥前産磁器丸形碗の底部片である。外面高台部には体部との境付近に一重圏線が巡る。17世紀初頭の製品である。鉄釘・鉄滓が発見されているが、周辺には鍛冶炉などの遺構は確認されていない。

遺構の時期は、確認面と出土遺物から近世と考えられる。



第129図　４区Ｋ２号段切り・Ｋ２・３号溝状遺構[1/120]



A-A'
第１層　明茶褐色土　粘性・しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア少量、炭化物粒微量含む。砂質。
第２層　明茶褐色土　粘性なし。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア少量、炭化物粒微量、下部に宝永スコリア含む。砂質。
第３層　暗褐色砂質土　粘性・しまりあり。径２～３㎜の橙色スコリア少量、宝永スコリアやや少量含む。第２層に比べてやや褐色がかっている。
第４層　暗褐色砂質土　粘性・しまりやや弱い。径２～３㎜の橙色スコリア微量、径１～２㎜の暗青灰色の宝永スコリアを斑に多量含む。下部北側は、ブロック状で特に多くなる。
第５層　暗褐色砂質土　粘性・しまりやや弱い。径２～３㎜の橙色スコリア微量含む。宝永スコリアは第２層より少ない。

B-B'
第１層　褐色土　粘性あり。しまりややあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア少量、明褐色土ブロック微量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア・明褐色土ブロック少量含む。
第３層　暗茶褐色土　粘性強い。しまりあり。径１～２㎜の橙色スコリア微量、径１～３㎜の黒色スコリア少量含む。
第４層　明茶褐色土　粘性・しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・ロームブロック微量、径１～３㎜の黒色スコリア少量含む。やや砂質。やや灰色味帯びる。
第５層　暗黄褐色土　粘性強い。しまりあり。ローム層。
第６層　明茶褐色土　粘性弱い。しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～３㎜の黒色スコリア・ロームブロック少量含む。やや砂質。やや灰色味帯びる。
第７層　明茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～２㎜の橙色スコリア微量含む。
第８層　明茶褐色土　第６層よりもロームブロック少ない。やや灰色味帯びる。
第９層　黄褐色土　粘性・しまりあり。ロームに明茶褐色土混入。やや赤味帯びる。

第130図　４区Ｋ２号段切り[1/60]



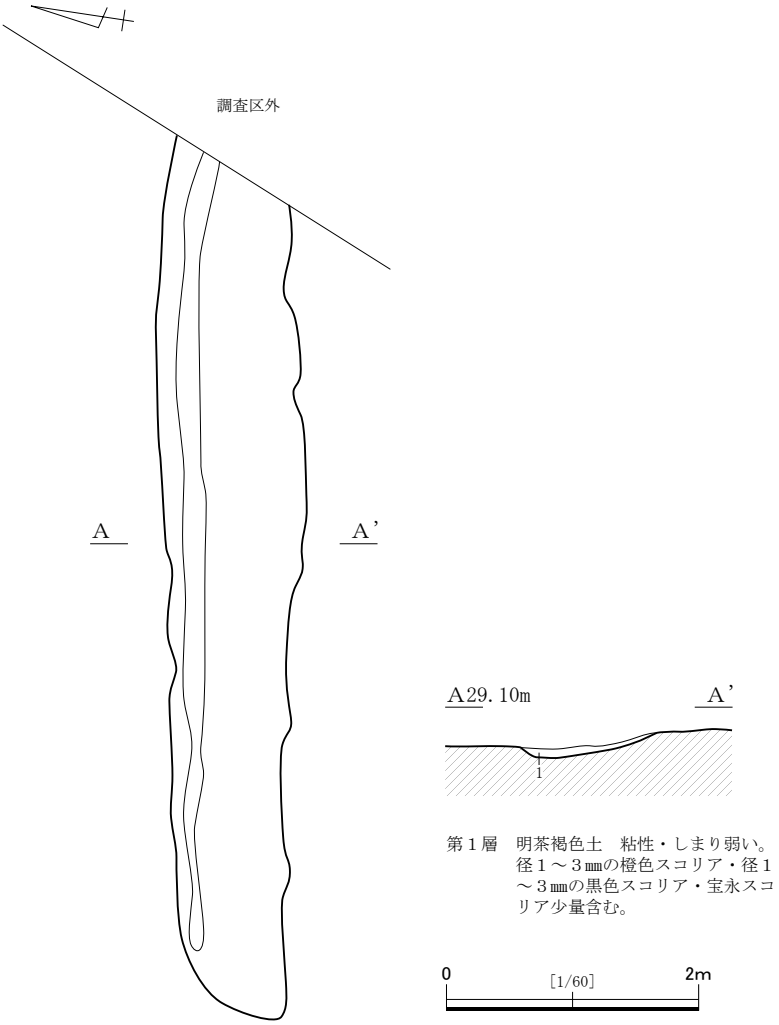
第131図　４区Ｋ２号段切り出土遺物[1/3]

第27表　４区Ｋ２号段切り出土遺物観察表［第131図］

No.	器種	種別	()＝現存値 〔〕＝復元値 口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	残存度	産地	時期	観察内容
1	染付丸形碗	磁器	－	〔4.1〕	(2.6)	70.2	体部下半～底部完存	肥前	17世紀初	素地 灰白色、緻密 焼成 良好 釉薬 呉須・透明釉 文様 高台際一重圏線 備考 高台内無釉

（２）溝状遺構

Ｋ１号溝状遺構（第126・127・132図、図版30－１）



第132図　４区Ｋ１号溝状遺構[1/60]

Ｕ３・Ｖ３・Ｕ４・Ｖ４グリッド境で発見された。主軸方位はＮ－81°－Ｅを示す。検出面の標高は28.92ｍで東側は調査区外へ続いている。検出規模は全長7.10ｍ、幅1.13ｍ、確認面からの深さは0.06ｍを測る。断面形は皿状を呈している。

覆土は宝永スコリアを少量含む明茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、北側にあるＫ１号段切りと並走していることからＫ１号段切りに伴う溝状遺構と考えられる。Ｋ１号段切りと同時期の近世と考えられる。

Ｋ２号溝状遺構（第126・129・133図）

Ｗ２グリッド中央南側で発見された。南東側にはＫ３号溝状遺構が並走している。主軸方位はＮ－58°－Ｅを示す。検出面の標高は26.61ｍである。南西側は調査区外へ延伸する。検出規模は全長3.00ｍ、幅1.00ｍ、確認面からの深さは0.09ｍを測る。断面形は底面がややゆがみがあるが皿状を呈している。

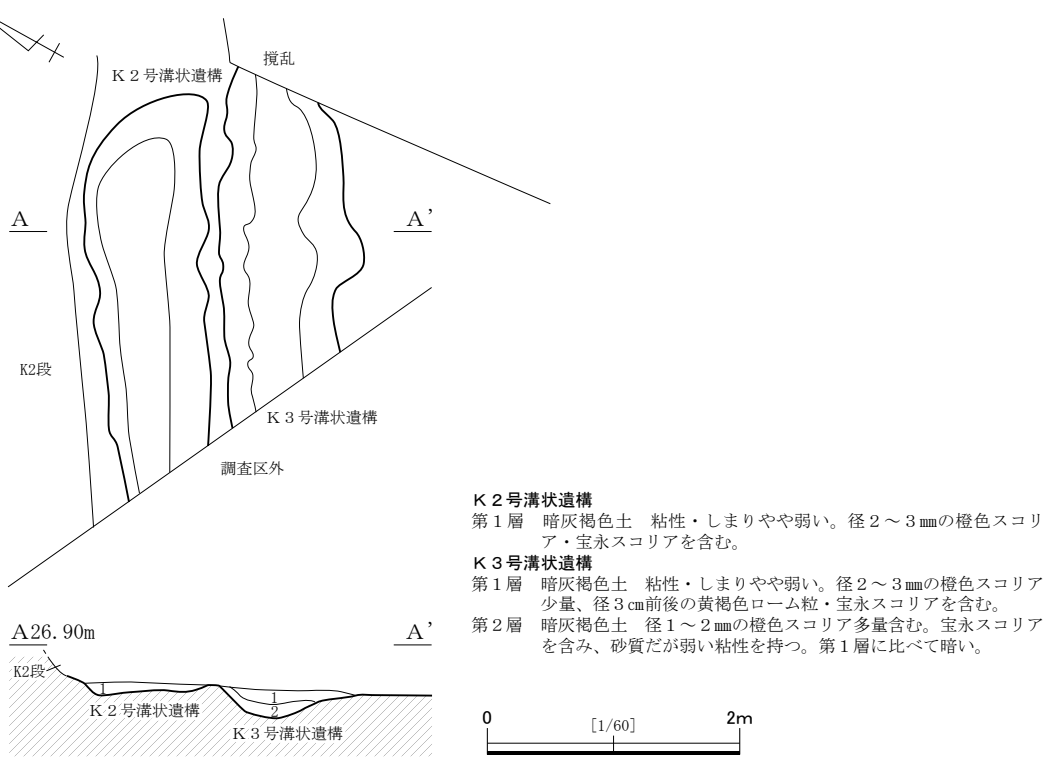
覆土は宝永スコリアを含む暗灰褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、北側にあるＫ２号段切りと並走していることからＫ２号段切りに伴う溝状遺構と考えられる。Ｋ２号段切りと同時期の近世と考えられる。

Ｋ３号溝状遺構（第126・129・133図、図版30－２）

Ｗ２グリッド中央南側で発見された。北西側にはＫ２号溝状遺構が並走している。北東側は攪乱に切ら



第133図　４区Ｋ２・３号溝状遺構[1/60]

れているが、さらに北東側への延伸が確認できないことから、Ｋ２号溝状遺構と同規模で、撹乱内で収束していると考えられる。主軸方位はＮ－61°－Ｅを示す。検出面の標高は26.61ｍである。南西側は調査区外へ延伸する。検出規模は全長2.90ｍ、幅1.10ｍ、確認面からの深さは0.22ｍを測る。断面形は皿状を呈している。

覆土は宝永スコリアを含む暗灰褐色土で２層に分層される。

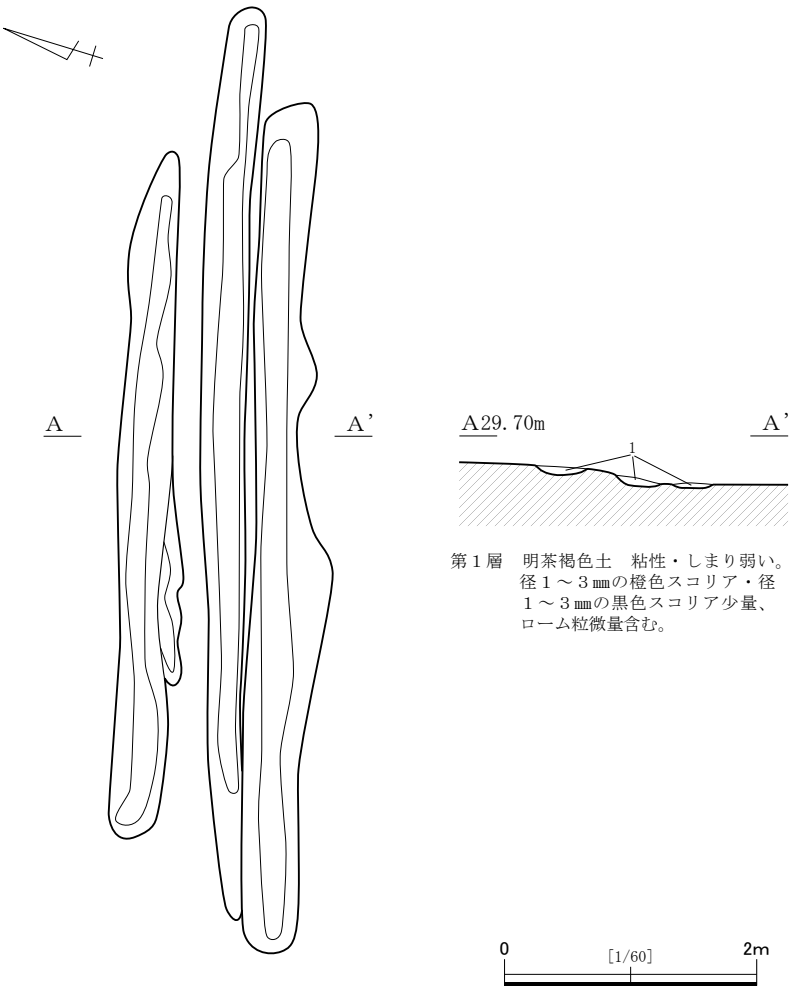
遺物は出土していない。

遺構の時期は、北側にあるＫ２号段切り、Ｋ２号溝状遺構と並走していることからＫ２号段切りに伴う溝状遺構と考えられる。Ｋ２号段切りと同時期の近世と考えられる。

（３）畝状遺構

Ｋ１号畝状遺構（第126・134図）

Ｖ２～３グリッド境北側で発見された。北西側にはＫ１号段切り、南東約0.90ｍにはＫ６号土坑が確認されている。主軸方位はＮ－75°－Ｅを示す。検出面の標高は29.34ｍ～29.50ｍである。東西約7.50ｍ、



第134図　４区Ｋ１号畝状遺構[1/60]

南北約2.50ｍの範囲に長さ5.50ｍ～7.30ｍ、幅0.35～0.63ｍ、深さ0.03～0.07ｍの溝状の掘り込みが、接するように３列並列していることが確認された。断面形は皿状を呈し、覆土は明茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

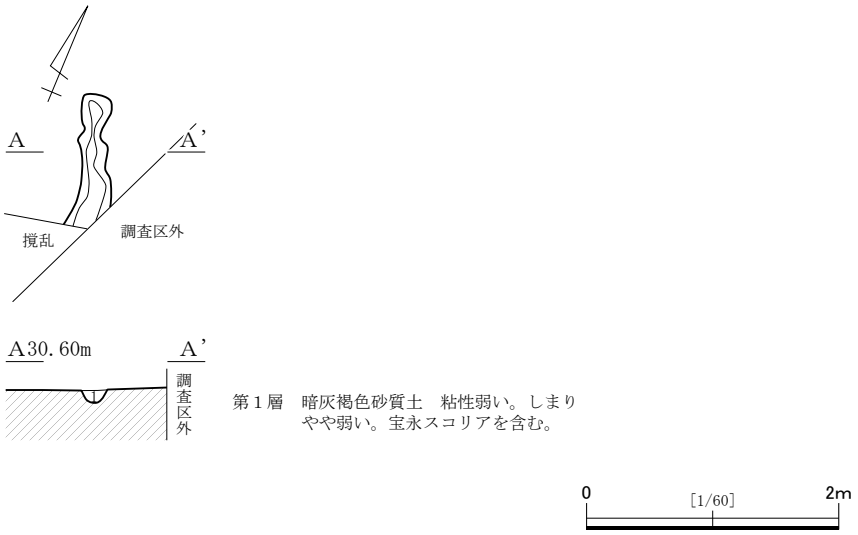
遺構の時期は、Ｋ１号段切りによって造られた平場に確認されていることからＫ１号段切りと同時期の近世と考えられる。

Ｋ２号畝状遺構（第126・135図、図版31－１）

Ｕ４グリッド中央東よりで発見された。南側は後世の攪乱に切られている。主軸方位はＮ－17°－Ｗを示す。検出面の標高は30.40ｍである。長さ1.80ｍ、幅0.23ｍ、深さ0.10ｍの溝状の掘り込みが、１列確認された。断面形は碗状を呈し、覆土は暗灰褐色砂質土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期はＫ１号段切りとほぼ同じ標高で確認されていることから近世と考えられる。



第135図　４区Ｋ２号畝状遺構[1/60]

（４）土坑

Ｋ１号土坑（第126・136図、図版31－２）

Ｔ３グリッド南側中央やや東寄りで発見された。検出面の標高は30.90ｍである。平面形は東西に長い長方形を呈する。長軸方位はＮ－64°－Ｅを示す。検出規模は長軸0.80ｍ、短軸0.34ｍで、確認面からの深さは0.13ｍを測る。底面は平坦で、断面形は逆台形を呈する。

覆土は明茶褐色土と暗褐色土の２層に分層される。

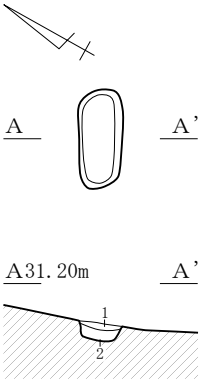
遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられる。

Ｋ２号土坑（第126・136図、図版32－１）

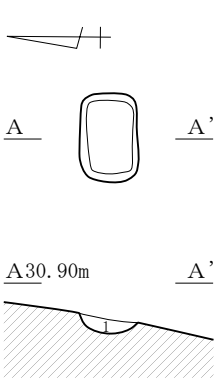
Ｔ･Ｕ３グリッド境中央で発見された。検出面の標高は30.66ｍである。平面形は東西に長い長方形を呈し、長軸方位はＮ－90°－Ｅを示す。検出規模は長軸0.60ｍ、短軸0.45ｍで、確認面からの深さは0.10ｍを

Ｋ１号土坑



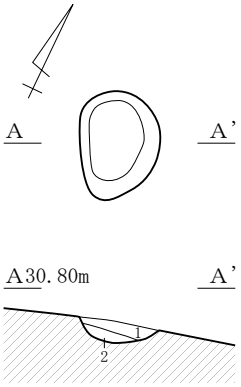
第１層　明茶褐色土　粘性強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリアやや多量、径２～４㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・茶褐色土ブロック少量含む。

Ｋ２号土坑



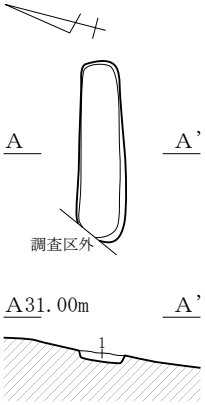
第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・茶褐色土ブロック少量、径１～５㎜の黒色スコリア中量、焼土粒・炭化物粒微量含む。

Ｋ３号土坑



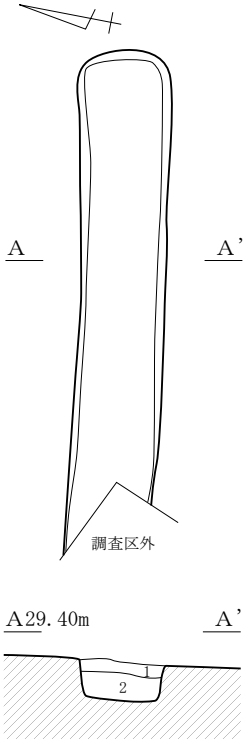
第１層　明茶褐色土　粘性強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリアやや多量、径２～４㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　明茶褐色土　粘性・しまりあり。黒褐色土ブロック少量含む。

Ｋ４号土坑



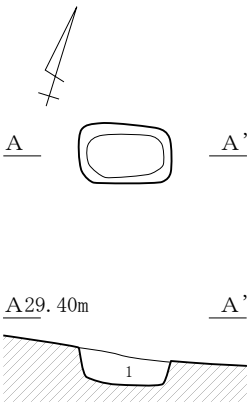
第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・茶褐色土ブロック少量、径１～５㎜の黒色スコリア中量、焼土粒・炭化物粒微量含む。

Ｋ５号土坑

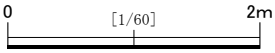


第１層　褐色土　粘性・しまりややあり。径１～２㎜の橙色スコリア・径１～２㎜の黒色スコリア・ロームブロック少量、炭化物粒微量含む。
第２層　暗褐色土　粘性やや強い。しまりややあり。径１～２㎜の橙色スコリア・径１～２㎜の黒色スコリア少量、ロームブロック微量含む。

Ｋ６号土坑



第１層　明茶褐色土　粘性・しまりややあり。明褐色土ブロックやや多量、暗褐色土ブロック少量含む。やや砂質。



第136図　４区Ｋ１～６号土坑[1/60]

測る。底面は平坦であり、断面形は椀型に近い。

覆土は褐色土の単層である。

遺物は石製品板碑片１点（4.4ｇ）が出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ３号土坑（第126・136図）

Ｕ３グリッド西端やや北寄りで発見された。検出面の標高は30.56ｍである。平面形は南北に長い楕円形を呈する。検出規模は長軸0.85ｍ、短軸0.65ｍで、確認面からの深さは0.20ｍを測る。底面は平坦で、断面形は椀型に近い。

覆土は明茶褐色土で２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ４号土坑（第126・136図）

Ｕ２グリッド中央東寄りで発見された。検出面の標高は30.75ｍである。平面形は東西に長い長方形を呈し、長軸方位はＮ－76°－Ｅを示す。検出規模は長軸1.45ｍ、短軸0.38ｍで、確認面からの深さは0.05ｍを測る。底面は平坦で、断面形は逆台形を呈する。

覆土は褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ５号土坑（第126・136図、図版32－２）

Ｗ２グリッド西端中央で発見された。検出面の標高は29.20ｍである。西側は調査区外へ延伸する。平面形は東西に長い長方形を呈し、長軸方位はＮ－80°－Ｅを示す。検出規模は長軸4.00ｍ以上、短軸0.75ｍで、確認面からの深さは0.32ｍを測る。底面は平坦で、断面形は逆台形を呈する。

覆土は褐色土と暗褐色土の２層に分層される。

遺物は陶器土瓶１点（0.3ｇ）が出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ６号土坑（第126・136図、図版33－１）

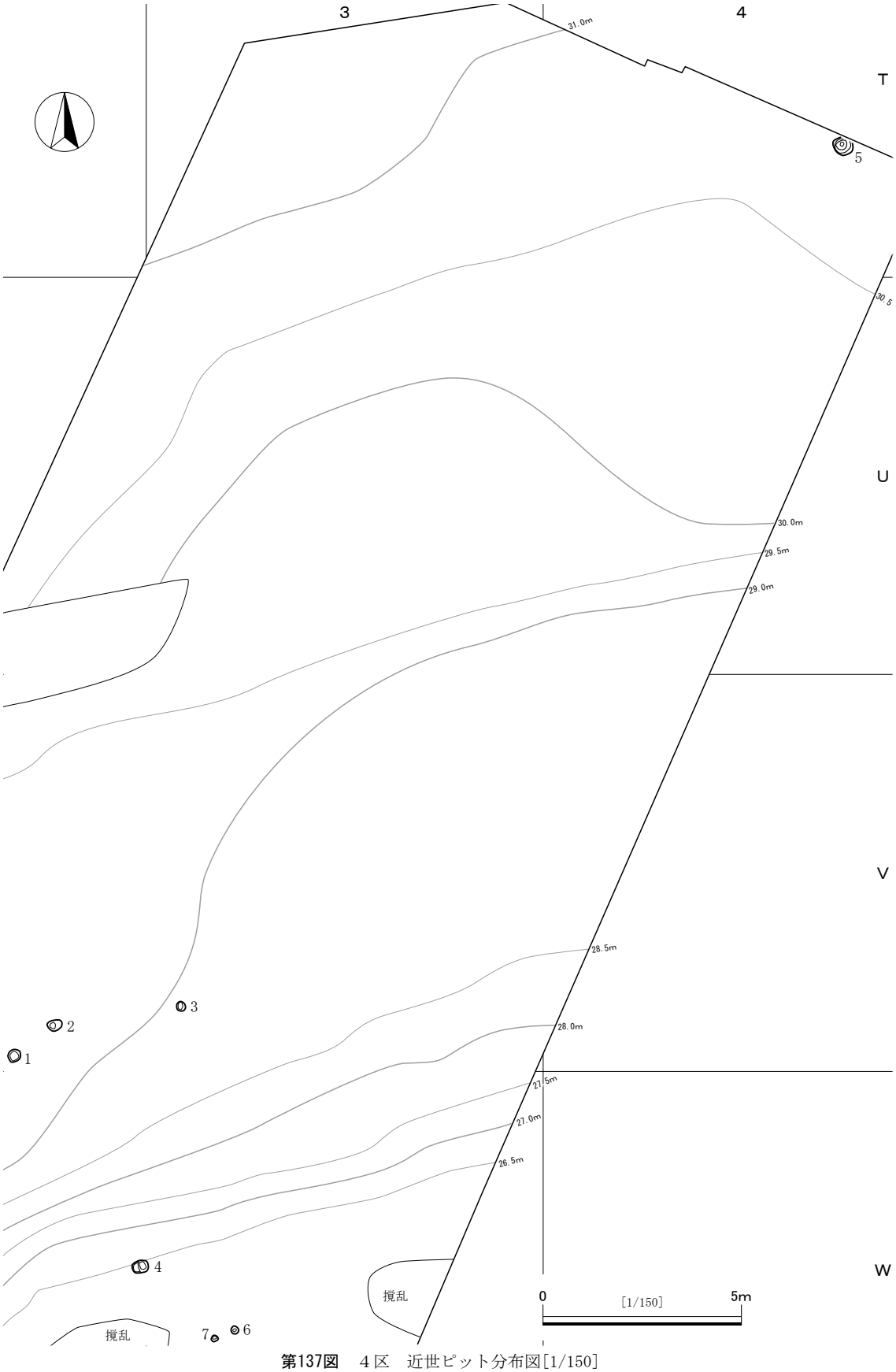
Ｖ２グリッド中央やや北東寄りで発見された。検出面の標高は29.18ｍである。平面形は東西に長い長方形を呈し、長軸方位はＮ－75°－Ｅを示す。検出規模は長軸0.73ｍ、短軸0.48ｍで、確認面からの深さは0.25ｍを測る。底面は平坦で、断面形は逆台形を呈する。

覆土は明茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

（５）ピット（第126・137・138図、第28表）



第137図　４区　近世ピット分布図[1/150]

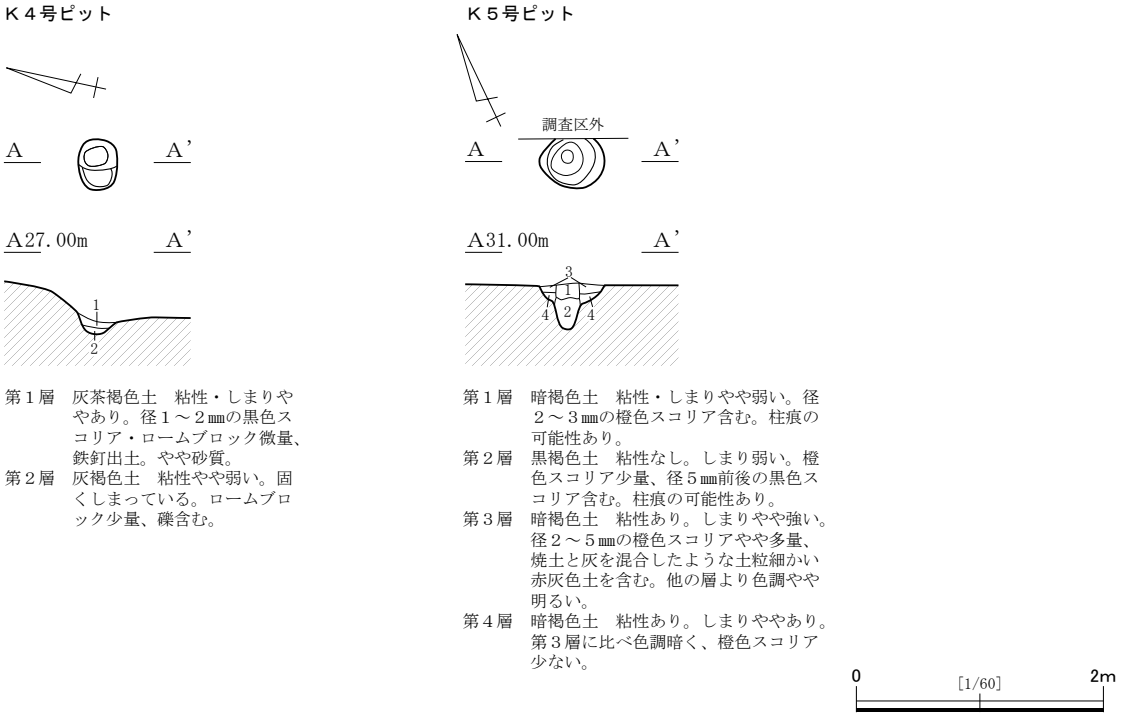
近世のピットは４区南側のＶ・Ｗ２～３グリッド、４区北東側のＴ４グリッドから７発見された。

Ｋ１号段切りで造られた平場にＫ１～３号ピット、Ｋ２号段切りで造られた平場にＫ４・６・７号ピットが確認されている。平面形は円形或いは楕円形で、確認面からの深さは0.14～0.39ｍで0.20ｍが中心である。４区北東隅に確認されたＫ５号ピットの断面観察において、中心に黒褐色土層が確認され柱痕と想定されるが、柱材などは残存していない。周辺にはＫ５号ピット以外確認されていないが、４区北東側調査区外に建物址が存在する可能性が考えられる。

各々の検出規模については第28表にまとめている。

遺物はＫ４号ピットから鉄製釘が２点出土している。Ｋ４号ピットはＫ２号段切りの直下であるが、Ｋ２号段切りからは鉄製釘や鉄滓が確認されており、Ｋ４号ピットに混入した可能性が考えられる。

遺構の時期は検出状況から近世以降と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



第138図　４区Ｋ４・５号ピット[1/60]

第28表　４区　近世ピット計測表［第137・138図］

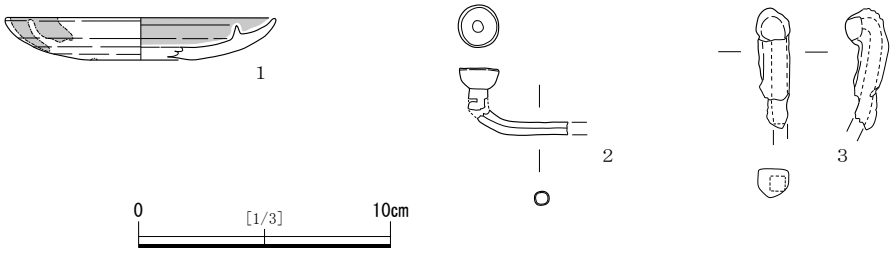
遺構名	グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形
K1号ピット	V2	0.35	0.31	0.14	円形
K2号ピット	V2	0.38	0.28	0.15	楕円形
K3号ピット	V3	0.24	0.23	0.17	円形
K4号ピット	W2・3	0.41	0.32	0.39	楕円形
K5号ピット	T4	0.53	(0.40)	0.38	円形
K6号ピット	W3	0.21	0.19	0.19	円形
K7号ピット	W3	0.17	0.17	0.27	円形

（６）遺構外出土遺物（第139図、第29表、図版151－３）

近世の遺構外出土遺物は、磁器碗９点(42.2ｇ)、磁器小杯１点(1.4ｇ)、陶器碗２点(8.9ｇ)、陶器餌水入れ１点(1.7ｇ)、陶器皿２点(15.4ｇ)、陶器燈明皿１点(6.0ｇ)、陶器燈明受皿１点(17.6ｇ)、陶器擂鉢３点(38.2ｇ)、陶器甕１点(8.1ｇ)、陶器徳利１点(15.6ｇ)、陶器燗徳利１点(0.9ｇ)、陶器瓶・瓶類２点(43.4ｇ)、金属製品（鉄釘・鎹・煙管）５点(26.8ｇ)、石製品（砥石）１点(1.7ｇ)、鉄滓15点(595.2ｇ)である。総点数46点、総重量823.1ｇである。そのうち３点を図化した。

第139図１は瀬戸・美濃産の陶器灰釉燈明受皿である。内面及び外面口唇部に灰釉が施釉されている。19世紀の所産である。

第139図２は銅製煙管の火皿と雁首である。接合はしないが同一個体である。３は鉄製鎹の屈曲部分である。



第139図　４・５区近世遺構外出土遺物[1/3]

第29表　４・５区近世遺構外出土遺物観察表［第139図］

No.	器種	種別	()＝現存値 〔〕＝復元値 口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	残存度	産地	時期	観察内容
1	灰釉燈明受皿	陶器	〔10.6〕	〔4.0〕	2.2	17.6	口縁部1/8・体部～底部1/4	瀬戸・美濃	19世紀	胎土 淡黄褐色、密、黒色粒子を含む 焼成 良好 釉薬 淡緑色灰釉 出土位置 表土
No.	種別	材質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	観察項目			
2	煙管雁首	銅	(3.6)	0.7	0.7	5.2	残存度 火皿と雁首分離しているがほぼ完形			
3	鎹	鉄	(4.8)	1.1	1.2	10.6	残存度 下端部欠損 備考 表面に錆著しい 出土位置 V3gr			

２．中　世

４区・５区で発見された中世の遺構は土坑５基、ピット31基である。基本土層第Ⅳ層上面から検出される。



第140図　４区・５区　中世遺構配置図[1/300]

４区・５区とも南東へやや急に傾斜し下がる地形である。４区では遺構が確認されず、包含層から遺物が出土している。５区は標高25.0ｍ～ 26.0ｍ付近から遺構が確認されている。遺物は遺構に伴わず、全て遺構外出土である。円形土坑の検出により、５区は耕作地として土地利用されていたことが伺える。

中世の出土遺物は、青磁碗１点(0.5g)、青磁鉢１点(9.2ｇ)、白磁碗１点(6.7ｇ)、陶器碗２点(30.2ｇ)、陶器天目碗１点(16.9ｇ)、陶器壺２点(41.2ｇ)、陶器甕３点(53.3ｇ)、陶器片口鉢１点(33.2ｇ)、陶器擂鉢３点(57.2ｇ)、陶器蓋１点(13.6ｇ)、瓦器土器火鉢２点(36.3ｇ)、かわらけ398点(1,359.1ｇ)、土製品(鞴の羽口)２点(12.0ｇ)、金属製品(釘・板状製品)２点(9.2g)、銭貨３点(4.8ｇ)、総計423点、総重量1,683.4ｇである。

(１) 土坑

Ｃ１号土坑(第140 ～ 142図、図版34－１)

Ｙ２グリッド中央北西寄りで発見された。北東約2.50ｍにＣ２号土坑、北側約2.90ｍにＣ４号土坑が確認されている。検出面の標高は25.55ｍである。平面形は南北にやや長い楕円形を呈する。検出規模は長径0.80ｍ、短径0.65ｍ、確認面からの深さは0.15ｍを測る。底面は平坦で、断面形は皿状を呈する。

覆土は暗褐色土と褐色土の２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ２号土坑(第140 ～ 142図、図版34－２)

Ｙ２グリッド北東側で発見された。南西約2.50ｍにＣ１号土坑、北西約1.70ｍにＣ４号土坑が確認されている。検出面の標高は24.80ｍである。平面形は南北にやや長い楕円形を呈する。検出規模は長径0.92ｍ、短径0.74ｍ、確認面からの深さは0.10ｍを測る。底面は平坦で、断面形は皿状を呈する。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ３号土坑(第140 ～ 142図、図版34－３)

Ｘ２グリッド中央南端で発見された。南西約0.80ｍにＣ４号土坑、北東約0.35ｍにＣ５号土坑が確認されている。検出面の標高は25.77ｍである。平面形は南北にやや長い楕円形を呈する。検出規模は長径0.70ｍ、短径0.57ｍ、確認面からの深さは0.10ｍを測る。底面は平坦で、断面形は皿状を呈する。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

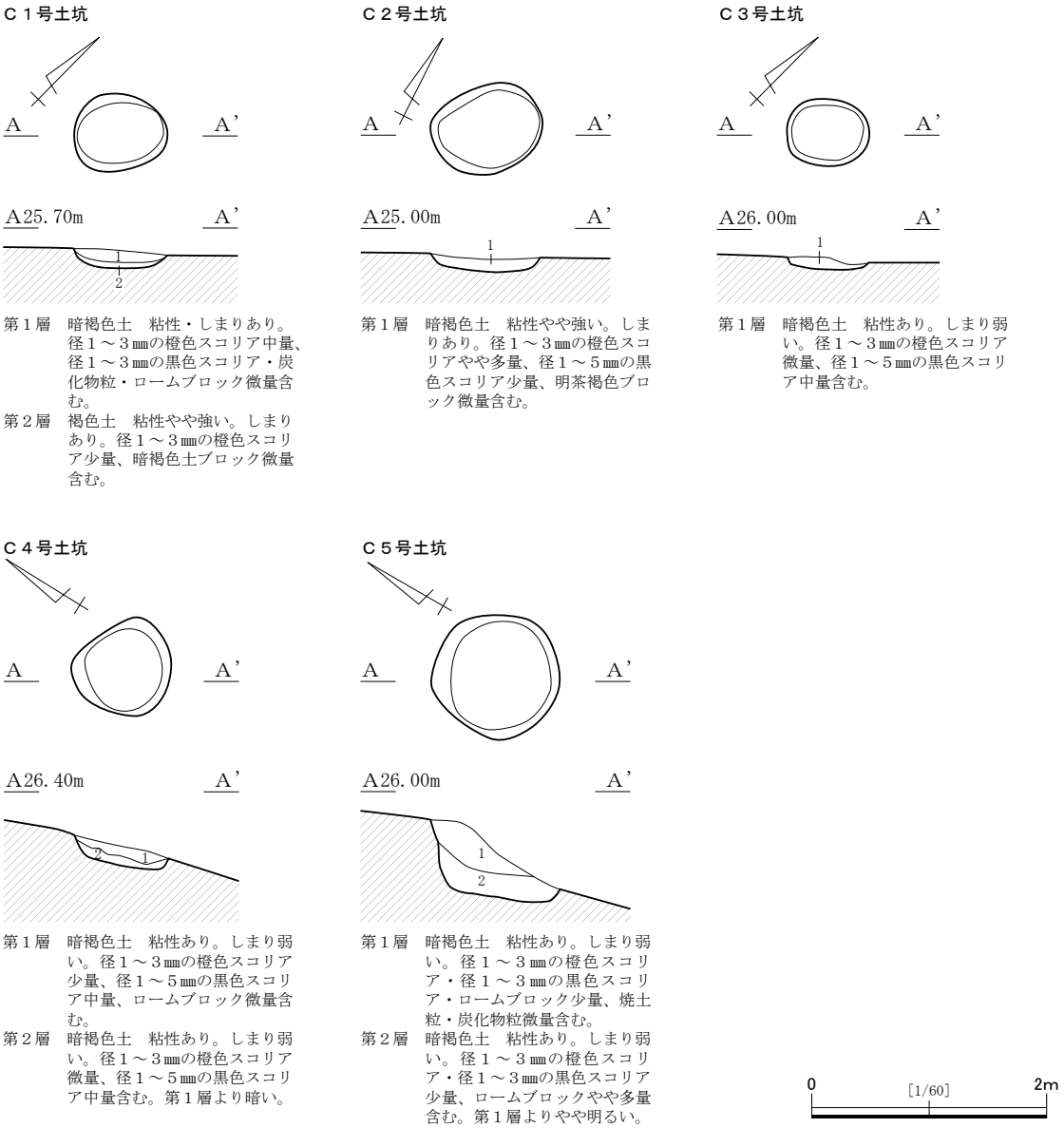
遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ４号土坑(第140 ～ 142図)

Ｘ２グリッド南東側で発見された。北東約0.80ｍにＣ３号土坑、南東約1.70ｍにＣ２号土坑、南側約2.90ｍにＣ１号土坑が確認されている。検出面の標高は北側で26.05ｍである。平面形はやや不正な円形



第141図　５区　中世土坑分布図[1/100]



第142図　５区Ｃ１～５号土坑[1/60]

を呈する。検出規模は径0.85ｍ、確認面からの深さは0.15ｍを測る。底面は平坦で、やや南側に傾斜する。断面形は皿状を呈する。

覆土は暗褐色土主体で２層に分層され、第２層が第１層より暗い。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ５号土坑（第140 ～ 142図、図版34－４）

Ｘ２グリッド南東側で発見された。南西約0.35ｍにＣ３号土坑、約1.80ｍにＣ４号土坑が確認されている。検出面の標高は25.78ｍである。平面形は円形を呈する。検出規模は径1.10ｍ、確認面からの深さは

0.58ｍを測る。底面は平坦で、やや南側に傾斜する。断面形は逆台形を呈する。

覆土は暗褐色土主体で２層に分層され、第２層が第１層より明るい。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

（２）ピット（第143～147図、第30表）

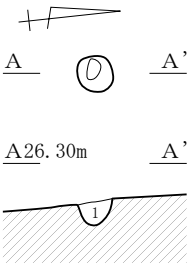
Ｙ１・ＸＹ２グリッドで31発見された。主に標高26.0ｍ付近に多く見られる。

平面形は円形或いは楕円形で、確認面からの深さは0.20～0.40ｍが中心である。断面形態はＵ字状が多い。



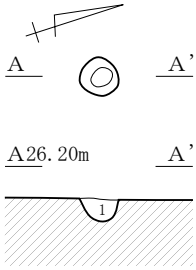
第143図　５区中世ピット分布図[1/100]

Ｃ１号ピット



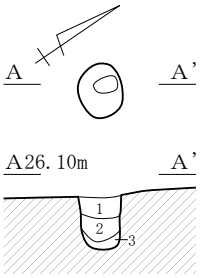
第１層　褐色土　粘性やや強い。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。

Ｃ２号ピット



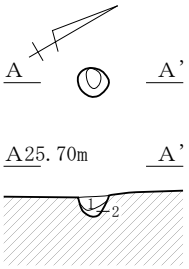
第１層　褐色土　粘性やや強い。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。

Ｃ３号ピット



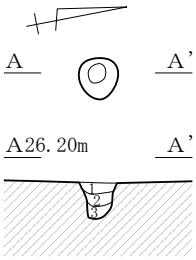
第１層　明褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリアやや多量、径１～３㎜の黒色スコリア少量含む。
第２層　明褐色土　粘性やや強い。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～３㎜の黒色スコリア少量、ロームブロック微量含む。
第３層　明褐色土　粘性やや強い。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～３㎜の黒色スコリア・ロームブロック少量含む。

Ｃ４号ピット



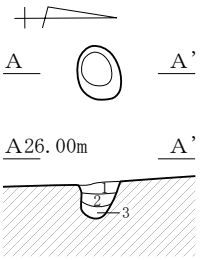
第１層　明褐色土　粘性やや強い。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～３㎜の黒色スコリア少量、ロームブロック微量含む。
第２層　明褐色土　粘性やや強い。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～３㎜の黒色スコリア・ロームブロック少量含む。

Ｃ５号ピット



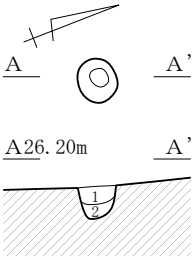
第１層　明褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア・ローム粒少量含む。
第２層　明褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア少量、ローム粒微量含む。
第３層　明褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア少量、ロームブロック微量含む。

Ｃ６号ピット



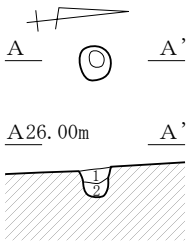
第１層　明褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア・ローム粒少量含む。
第２層　明褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア少量、ローム粒微量含む。
第３層　明褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア少量、ロームブロック微量含む。

Ｃ７号ピット



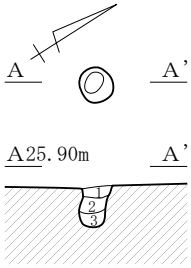
第１層　褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア・ローム粒少量含む。
第２層　褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア少量、ローム粒微量含む。

Ｃ８号ピット

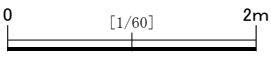


第１層　褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア・ローム粒少量含む。
第２層　褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア少量、ローム粒微量含む。

Ｃ９号ピット

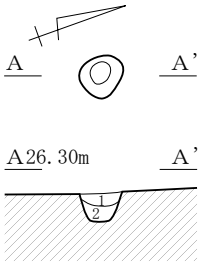


第１層　明褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリアやや多量、径１～３㎜の黒色スコリア少量含む。
第２層　明褐色土　粘性やや強い。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～３㎜の黒色スコリア少量、ロームブロック微量含む。
第３層　明褐色土　粘性やや強い。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～３㎜の黒色スコリア・ロームブロック少量含む。



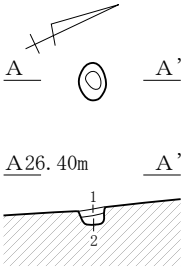
第144図　５区Ｃ１～９号ピット[1/60]

C10号ピット



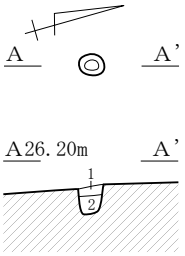
第１層　褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア・ローム粒少量含む。
第２層　褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア少量、ローム粒微量含む。

C11号ピット



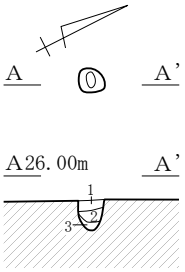
第１層　褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア・ローム粒少量含む。
第２層　褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア少量、ローム粒微量含む。

C12号ピット



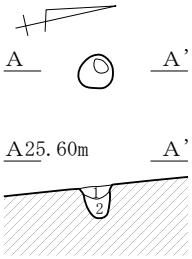
第１層　褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア・ローム粒少量含む。
第２層　褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア少量、ローム粒微量含む。

C13号ピット



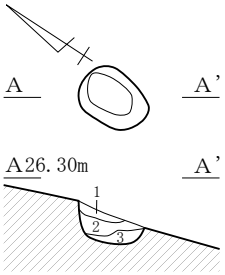
第１層　明褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリアやや多量、径１～３㎜の黒色スコリア少量含む。
第２層　明褐色土　粘性やや強い。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～３㎜の黒色スコリア少量、ロームブロック微量含む。
第３層　明褐色土　粘性やや強い。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～３㎜の黒色スコリア・ロームブロック少量含む。

C14号ピット



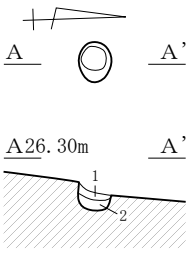
第１層　褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア・ローム粒少量含む。
第２層　褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア少量、ローム粒微量含む。

C15号ピット



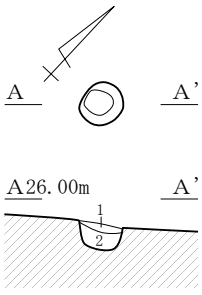
第１層　明褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリアやや多量、径１～３㎜の黒色スコリア少量含む。
第２層　明褐色土　粘性やや強い。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～３㎜の黒色スコリア少量、ロームブロック微量含む。
第３層　明褐色土　粘性やや強い。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～３㎜の黒色スコリア・ロームブロック少量含む。

C16号ピット



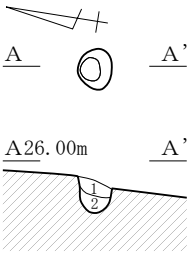
第１層　褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア・ローム粒少量含む。
第２層　褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア少量、ローム粒微量含む。

C17号ピット

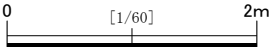


第１層　明褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。
第２層　明褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。第１層よりもしまりに欠ける。

C18号ピット

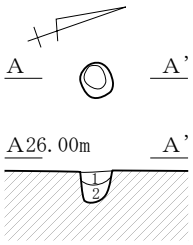


第１層　明褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。
第２層　明褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。第１層よりもしまりに欠ける。



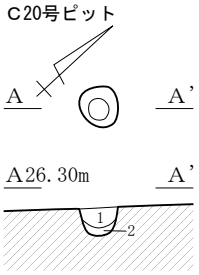
第145図　５区Ｃ10～18号ピット[1/60]

C19号ピット



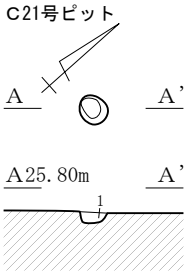
第１層　明褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。
第２層　明褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。第１層よりもしまりに欠ける。

C20号ピット



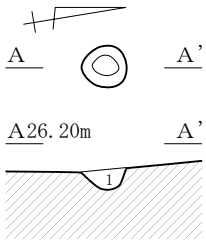
第１層　褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア・ローム粒少量含む。
第２層　明褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア・ロームブロック少量含む。第１層よりも明るい。

C21号ピット



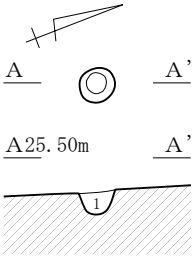
第１層　暗褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・明褐色土ブロック少量、径１～３㎜の黒色スコリア微量含む。

C22号ピット



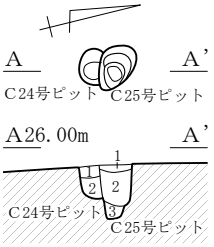
第１層　褐色土　粘性やや強い。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。

C23号ピット



第１層　暗褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～２㎜の橙色スコリア中量、炭化物粒微量含む。

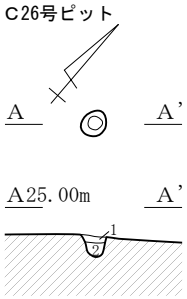
C24・25号ピット



C24号ピット
第１層　暗褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～２㎜の橙色スコリア中量含む。
第２層　暗褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～２㎜の橙色スコリア少量含む。

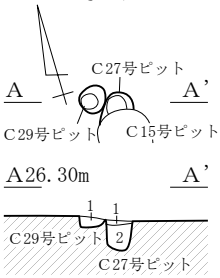
C25号ピット
第１層　褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア・ローム粒少量含む。
第２層　褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア少量、ローム粒微量含む。
第３層　褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア少量含む。

C26号ピット



第１層　暗褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量含む。
第２層　暗褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、明茶褐色土ブロック微量含む。

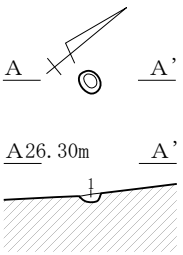
C27・29号ピット



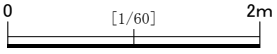
C27号ピット
第１層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア少量含む。
第２層　暗褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・明茶褐色土ブロック微量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。

C29号ピット
第１層　明褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、ロームブロック微量含む。

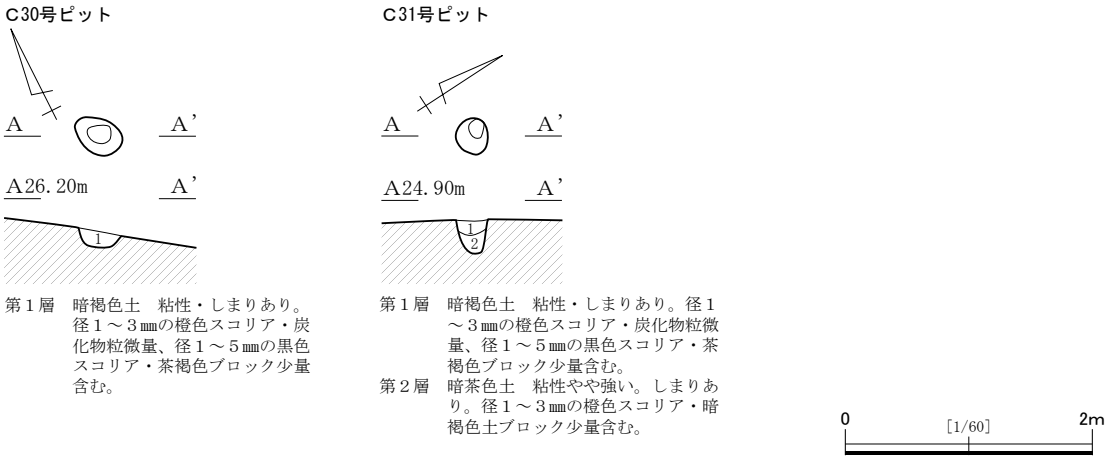
C28号ピット



第１層　明褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、ロームブロック微量含む。



第146図　５区Ｃ19～29号ピット[1/60]



第147図　５区Ｃ30・31号ピット[1/60]

形状や間隔に規則性が認められず、柱痕なども確認されなかった。各々の検出規模については第30表にまとめている。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

第30表　５区　中世ピット計測表［第143～147図］

遺構名	グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形
C1号ピット	Y1	0.31	0.29	0.25	円形
C2号ピット	Y1・2	0.32	0.30	0.15	円形
C3号ピット	Y2	0.44	0.36	0.50	円形
C4号ピット	Y2	0.26	0.24	0.20	円形
C5号ピット	Y2	0.34	0.31	0.32	円形
C6号ピット	Y2	0.45	0.36	0.31	楕円形
C7号ピット	Y2	0.35	0.32	0.22	円形
C8号ピット	Y2	0.27	0.25	0.36	円形
C9号ピット	Y2	0.28	0.27	0.40	円形
C10号ピット	X2	0.35	0.32	0.26	円形
C11号ピット	X2	0.30	0.21	0.15	楕円形
C12号ピット	X2・Y2	0.22	0.17	0.24	円形
C13号ピット	Y2	0.22	0.19	0.30	円形
C14号ピット	Y2	0.28	0.27	0.32	円形
C15号ピット	X2	0.60	0.43	0.40	楕円形
C16号ピット	X2	0.31	0.25	0.24	円形

遺構名	グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形
C17号ピット	Y2	0.37	0.33	0.27	円形
C18号ピット	Y2	0.33	0.28	0.33	円形
C19号ピット	Y2	0.28	0.25	0.26	円形
C20号ピット	X2	0.32	0.30	0.22	円形
C21号ピット	X2・Y2	0.25	0.20	0.12	楕円形
C22号ピット	Y2	0.36	0.33	0.16	円形
C23号ピット	Y2	0.30	0.26	0.34	円形
C24号ピット	Y2	0.29	(0.19)	0.29	楕円形
C25号ピット	Y2	0.40	0.28	0.46	楕円形
C26号ピット	Y2	0.20	0.18	0.08	円形
C27号ピット	X2	0.27	(0.18)	0.28	楕円形
C28号ピット	X2	0.19	0.16	0.07	円形
C29号ピット	X2	0.23	0.20	0.22	円形
C30号ピット	X2	0.38	(0.25)	0.16	楕円形
C31号ピット	Y2	0.30	0.25	0.31	円形

（３）遺構外出土遺物（第148図、第31表、図版152）

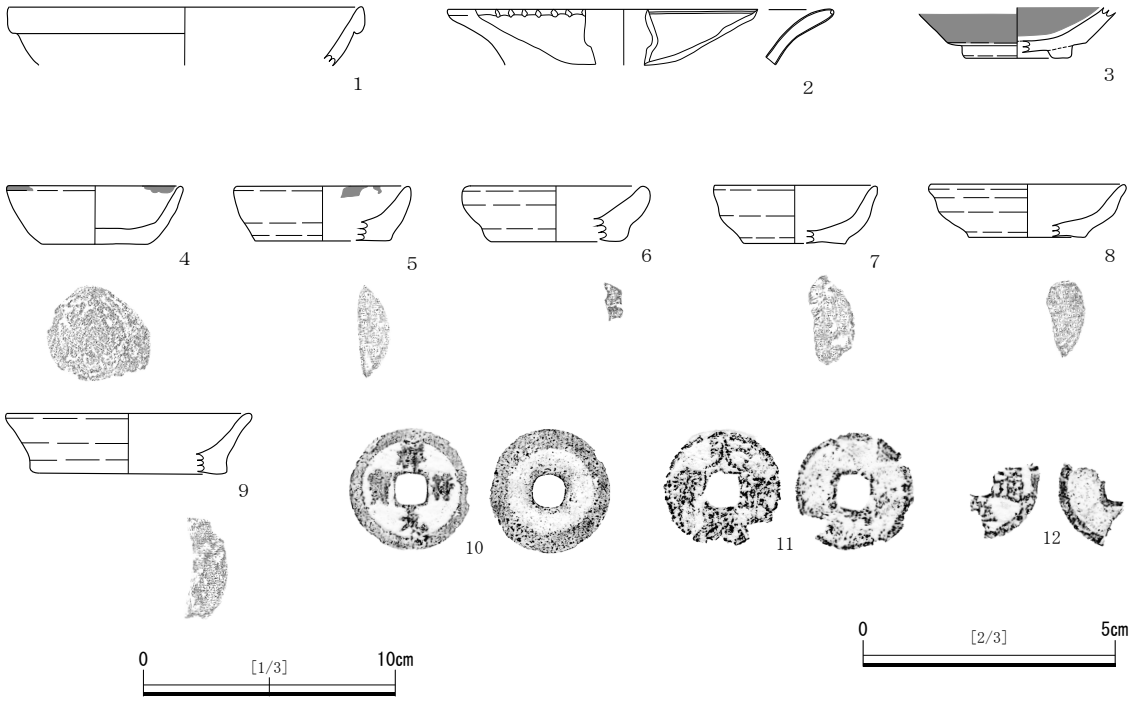
中世の遺構外出土遺物は、青磁碗１点(0.5g)、青磁鉢１点(9.2ｇ)、白磁碗１点(6.7ｇ)、陶器碗２点(30.2ｇ)、陶器天目碗１点(16.9ｇ)、陶器壺２点(41.2ｇ)、陶器甕３点(53.3ｇ)、陶器片口鉢１点(33.2ｇ)、陶器擂鉢３点(57.2ｇ)、陶器蓋１点(13.6ｇ)、瓦器火鉢２点(36.3ｇ)、かわらけ398点(1,359.1ｇ)、土製品（鞴の羽口）２点(12.0ｇ)、金属製品（鉄釘・板状）２点(9.2ｇ)、銭貨３点(4.8ｇ)、総点数423点、総重量1,683.4ｇである。そのうち12点を図化した。

第148図１・２は舶載磁器である。１は白磁玉縁碗の口縁部片である。11世紀後半～12世紀前半の所産である。２は青磁折縁皿の口縁部片で口唇部には刻みがみられる。内面口縁端部には３条の沈線が観察される。

第148図３は瀬戸・美濃産陶器で、３は天目碗の体部下半～底部片である。内面には灰釉が施され、外面体部下半から底部には釉がみられない。底部には四角い高台が貼りつけられている。

第148図４～９はかわらけである。４～８は口径6.3～7.6㎝、底径3.9～5.3㎝、器高2.1～2.3㎝の小型のもので、４～６は口縁部が内湾し、７～８は口唇部が外反する。ロクロ整形で内面はナデが施されている。４は薄手で口唇部内外に煤が付着している。５～７は器肉が厚く、５は口唇部内面に煤が付着している。６は発泡しており、口唇部と内面に鉄滓が付着している。取瓶に使用していたものであろう。９は４～８に比してやや大きい。中世後期の所産である。

第148図10～12は銅製の銭貨である。10は北宋銭の「祥符元寶」で1008年初鋳造のものである。11は北宋銭の「大観通寶」で1107年初鋳造のものである。12は上部と下部の半分が欠損しており「□楽通□」のみ判読できる。



第148図　４・５区中世遺構外出土遺物[1/3・2/3]

第31表 ４・５区中世遺構外出土遺物観察表［第148図］

No.	器種	種別	（）＝現存値 〔〕＝復元値 口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	残存度	産地	時期	観察内容
1	白磁 玉縁碗	磁器	〔14.0〕	－	(2.3)	6.7	口縁部 1/15	中国	11世紀後半～12世紀前半	素地 灰白色、緻密 焼成 堅緻 釉薬 乳白色白磁 備考 口縁玉縁 出土位置 V3gr
2	青磁 折縁皿	磁器	〔13.6〕	－	(2.2)	9.2	口縁部 1/10	中国	13世紀	素地 灰白色、緻密 焼成 堅緻 釉薬 灰オリーブ青磁 備考 口唇部刻み 出土位置 W3gr
3	天目碗	陶器	－	〔3.4〕	(2.0)	16.9	底部1/4	瀬戸・美濃	14世紀	胎土 にぶい橙、密、黒色粒子を含む 焼成 良好 釉薬 黄褐色鉄釉 備考 外面体部下半から高台無釉 出土位置 V3gr
4	かわらけ	土器	〔7.0〕	4.2	2.3	25.6	口縁部1/8～底部4/5	在地	14世紀～15世紀	胎土 橙色、密、小礫・角閃石・雲母・雲母を含む 焼成 良好 備考 口唇部煤付着、底部回転糸切り痕やや不明瞭 出土位置 V3gr
5	かわらけ	土器	〔7.0〕	〔5.3〕	2.2	12.1	口縁部～底部1/4	在地	14世紀～15世紀	胎土 淡橙色、密、赤色スコリア・雲母・白色針状物質を含む 焼成 良好 備考 口唇部煤付着、底部回転糸切り痕不明瞭 出土位置 V3gr
6	かわらけ	土器	〔7.4〕	〔5.4〕	2.2	6.5	口縁部～底部1/4	在地	14世紀～15世紀	胎土 褐灰色、密、黒色スコリアを含む 焼成 良好 備考 取瓶として転用、内面に鉄滓付着 出土位置 U3gr
7	かわらけ	土器	〔6.3〕	〔3.9〕	2.2	10.0	口縁部1/8～底部1/2	在地	14世紀～15世紀	胎土 橙色、密、赤色スコリア・角閃石・石英を含む 焼成 良好 備考 底部回転糸切り痕不明瞭 出土位置 V3gr
8	かわらけ	土器	〔7.6〕	〔4.5〕	2.1	9.0	口縁部わずかに残・体部～底部1/4	在地	14世紀～15世紀	胎土 橙色、密、赤色スコリア・白色粒子・角閃石・雲母を含む 焼成 良好 備考 底部回転糸切り痕不明瞭 出土位置 W3gr
9	かわらけ	土器	〔9.5〕	〔7.0〕	2.4	12.5	口縁部1/8～底部1/6	在地	15世紀前半	胎土 橙色、密、黒色スコリア・角閃石・雲母を含む 焼成 良好 備考 底部回転糸切り痕不明瞭 出土位置 U3gr

No.	銭名	材質	銭径(mm)	穿径(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	残存度	備考
10	祥符元寶	銅	24.8	6.1	1.0	2.7	完形	鋳造地 北宋 初鋳年 1008年 備考 真書 出土位置 ４区一括
11	大観通寶	銅	24.1	6.6	1.2	1.6	完形	鋳造地 北宋 初鋳年 1107年 出土位置 U3gr
12	□楽通□	銅	〔26.0〕	－	1.0	0.5	2/3	備考「永」、「寶」欠損 出土位置 ４区 一括

３．奈良・平安時代

４区・５区で発見された奈良・平安時代の遺構は溝状遺構２条、土坑８基、ピット20基である。基本土層第Ⅷ②層上面から検出される。



第149図　４区・５区　奈良・平安時代遺構配置図[1/300]

４区・５区とも南東へやや急に傾斜する地形である。５区では溝状遺構が１条確認されたのみで、それ以外の遺構は４区全体で確認されている。円形土坑の検出により、４区は耕作地として土地利用されていたことが伺える。また、４区、５区に確認された溝状遺構は南東側を区画するような形状をしており、耕作地との境界を造り出している可能性が考えられる。遺物は４区は調査区全体から出土している。

奈良・平安時代の出土遺物は、土師器坏19点(92.５ｇ)、土師器甕57点(220.8g)、須恵器坏４点(22.0g)、須恵器埦１点(10.9g)、須恵器甕23点(608.6g)、須恵器瓶２点(14.8g)、灰釉陶器瓶２点(22.8g)、土師器器種不明14点(16.９ｇ)、総点数122点、総重量1,009.3gが出土した。

遺物の出土量は少ない。

（１）溝状遺構

Ｈ１号溝状遺構（第149・150図、図版35－２）

Ｔ～Ｗ２～４グリッドで発見された。４区中央を一部途切れながら南北方向に進み、Ｔ３グリッド南東側でほぼ直角に東へ向きを変える。その東端は調査区外へ延伸すると思われる。Ｕ３グリッドではＨ１号土坑に切られている。南北方向の主軸方位はＮ－17°－Ｅを示し、東西方向の主軸方位はＮ－94°－Ｅである。検出面の標高は屈曲部分が最も高く30.55ｍ、南端は最も低く標高20.20ｍである。検出規模は南北方向が5.00ｍ、3.20ｍ途切れ、さらに北へ20.00ｍ、東へ屈曲し12.50ｍで調査区外へ延伸する。幅0.20～0.90ｍ、確認面からの深さは0.10～0.35ｍを測る。断面形は逆台形、南端は浅い皿状を呈している。底面は平坦でが、壁はやや急な角度で立ち上がっている。

覆土は暗茶褐色土と暗褐色土の２層に分層され、南端では明褐色土を含む暗褐色土の単層となる。

遺物は、土師器坏５点(21.９ｇ)、須恵器甕１点(51.４ｇ)、総点数６点、総重量73.３ｇが出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

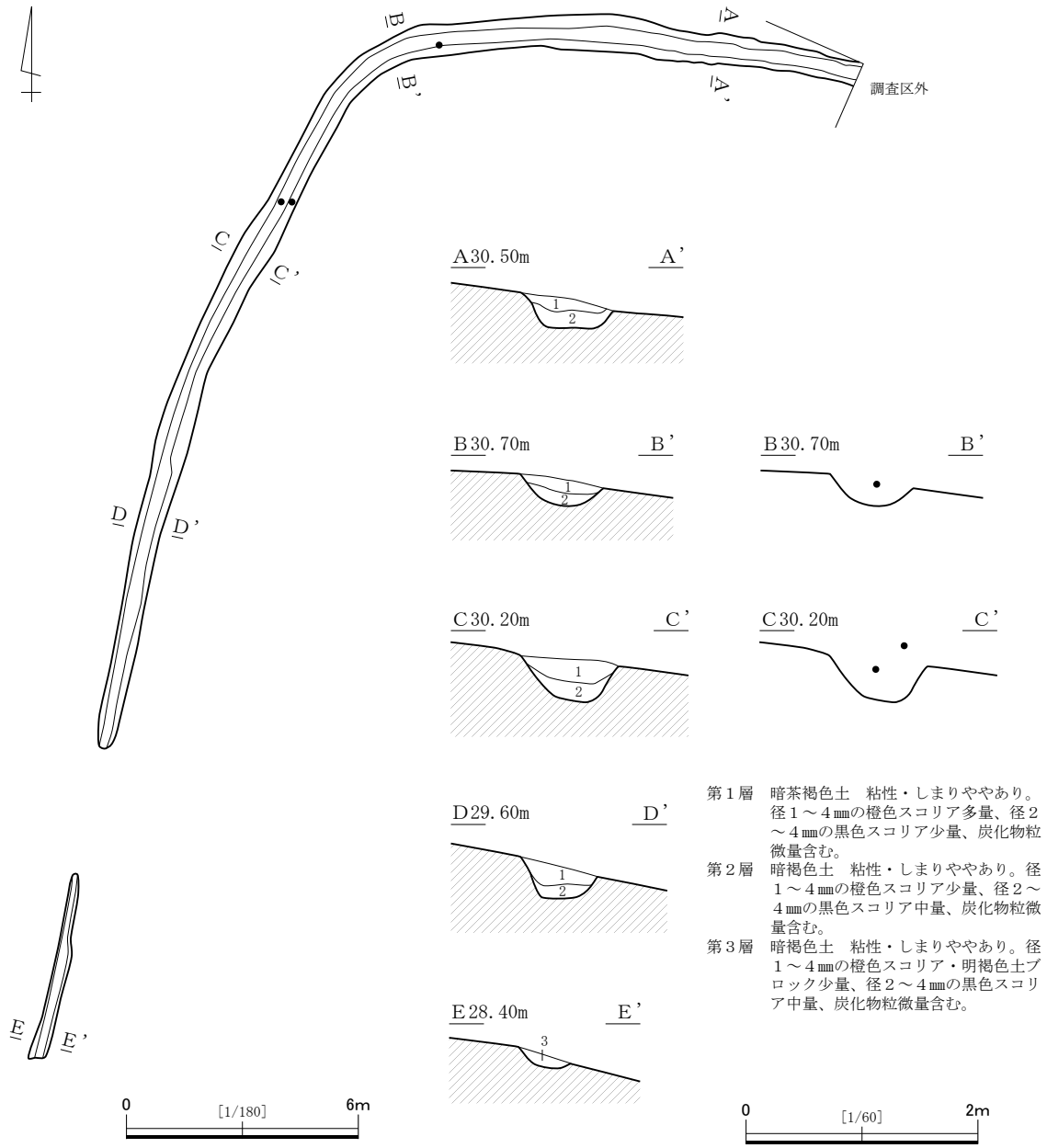
Ｈ２号溝状遺構（第149・151図、図版36－１）

Ｙ２グリッド中央南寄りで発見された。南北方向から直角に南東へ向きを変える。その両端は調査区外へ延伸すると思われる。南北方向の主軸方位はＮ－48°－Ｅを示し、東西方向の主軸方位はＮ－138°－Ｅである。検出面の標高は24.37ｍである。検出規模は南北方向が1.51ｍ、南東へ屈曲し1.90ｍで調査区外へ延伸する。幅0.45ｍ､確認面からの深さは0.06ｍを測る。断面形は逆台形を呈している。底面は平坦でが、壁はやや急な角度で立ち上がっている。

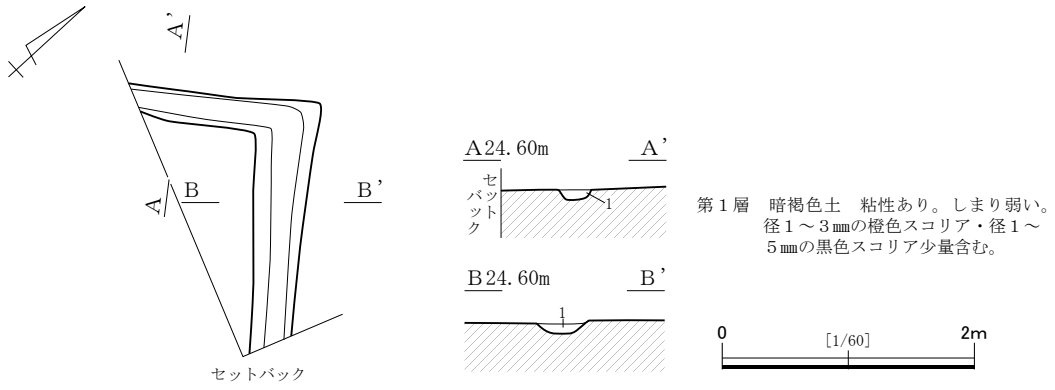
覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



第150図　４区Ｈ１号溝状遺構[1/180・1/60]



第151図　５区Ｈ２号溝状遺構[1/60]

（２）土坑

Ｈ１号土坑（第149・152図、図版36－２）

Ｕ３グリッド北西寄りで発見された。北東約8.00ｍにＨ２号土坑、南東約2.00ｍにＨ５号土坑、約2.50ｍにＨ３号土坑が確認されている。検出面の標高は29.60ｍである。平面形は円形を呈する。検出規模は径0.98ｍ、確認面からの深さは0.16ｍを測る。断面は皿状を呈する。底面は平坦で、壁は北西側がやや急な角度、南東側が緩やかな角度で立ち上がっている。

覆土は第１層が暗茶褐色土、第２層が暗褐色土の２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｈ２号土坑（第149・152図、図版36－３）

Ｕ３グリッド北東隅で発見された。南西約8.00ｍにＨ１号土坑、北東約2.80ｍにＨ４号土坑、南西約8.00ｍにＨ５号土坑が確認されている。検出面の標高は29.62ｍである。平面形はやや南北に長い楕円形を呈する。検出規模は南北1.21ｍ、東西1.01ｍで、確認面からの深さは0.22ｍを測る。断面は逆台形を呈する。底面は平坦で、壁はやや急な角度で立ち上がっている。

覆土は第１層が暗茶褐色土、第２層が暗褐色土の２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｈ３号土坑（第149・152図）

Ｕ３グリッド南端中央で発見された。北西約2.50ｍにＨ１号土坑が確認されている。検出面の標高は28.78ｍである。平面形は東西に長い楕円形を呈する。検出規模は東西1.44ｍ、南北1.00ｍで、確認面からの深さは0.18ｍを測る。断面は逆台形を呈する。底面は平坦で、壁はやや急な角度で立ち上がっている。

覆土は暗茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｈ４号土坑（第149・152図、図版36－４）

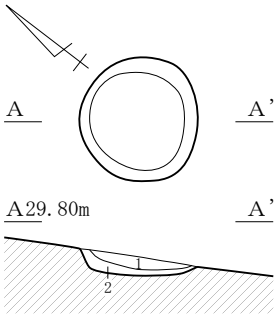
Ｔ４グリッド南西側で発見された。南西約2.80ｍにＨ２号土坑、北東約4.80ｍにＨ６号土坑が確認されている。検出面の標高は29.83ｍである。平面形は東西に長い楕円形を呈する。検出規模は東西1.08ｍ、南北0.74ｍで、確認面からの深さは0.20ｍを測る。断面は逆台形を呈する。底面は平坦で、壁はやや急な角度で立ち上がっている。

覆土は暗茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

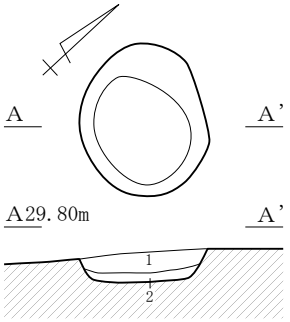
遺構の時期は検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｈ１号土坑



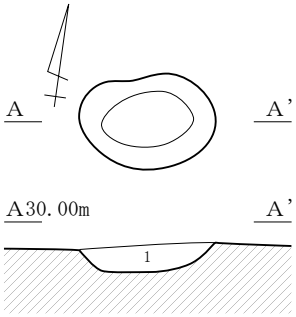
第１層　暗茶褐色土　粘性ややあり。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア多量、径１～３㎜の黒色スコリア少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
第２層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～３㎜の黒色スコリア少量含む。

Ｈ２号土坑



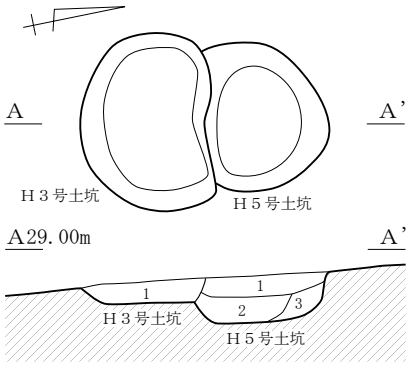
第１層　暗茶褐色土　粘性・しまりややあり。径１～３㎜の橙色スコリア多量、径２～４㎜の黒色スコリア少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
第２層　暗褐色土　粘性・しまりややあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径２～４㎜の黒色スコリア中量含む。

Ｈ４号土坑



第１層　暗茶褐色土　粘性・しまりやや弱い。径１～５㎜の橙色スコリアやや多量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。

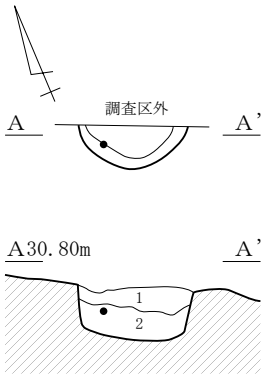
Ｈ３・５号土坑



Ｈ３号土坑
第１層　暗茶褐色土　粘性・しまりややあり。径１～３㎜の橙色スコリア多量、径１～４㎜の黒色スコリア少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。

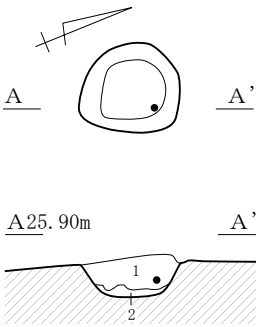
Ｈ５号土坑
第１層　暗茶褐色土　粘性・しまりややあり。径１～２㎜の橙色スコリア（やや黄白色）多量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。
第２層　暗黒褐色土　粘性あり。しまりややあり。径１～２㎜の橙色スコリア（やや黄白色）少量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。
第３層　第２層よりもやや明るい。

Ｈ６号土坑



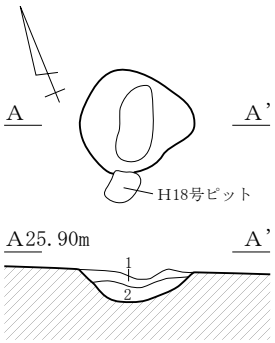
第１層　暗茶褐色土　粘性・しまりややあり。径１～２㎜の橙色スコリア少量含む。
第２層　暗茶褐色土　しまりやや弱い。

Ｈ７号土坑



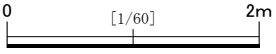
第１層　暗褐色土　しまりやや弱い。径１～２㎜の黄褐色土粒少量、径２～３㎜の橙色スコリア含む。
第２層　暗褐色土　しまりやや弱い。第１層より橙色スコリア多量含む。黄褐色土粒を含まない。

Ｈ８号土坑



第１層　暗褐色土　粘性弱い。しまりやや弱い。径２～３㎜の橙色スコリア少量、黒色スコリアやや多量含む
第２層　暗褐色土　第１層よりスコリア少なく、粘性増す。

● 土器



第152図　４区Ｈ１～８号土坑[1/60]

Ｈ５号土坑（第149・152図、図版36－５）

Ｕ３グリッド中央南側で発見された。北西約2.00ｍにＨ１号土坑、北東約8.00ｍにＨ２号土坑が確認されている。検出面の標高は29.82ｍである。南側の上端をＨ３号土坑に切られている。平面形は円形を呈すると思われる。検出規模は径1.20ｍで、確認面からの深さは0.37ｍを測る。断面は逆台形を呈する。底面は平坦で、壁は急な角度で立ち上がっている。

覆土は暗茶褐色土と暗黒褐色土の２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｈ６号土坑（第149・152図）

Ｔ４グリッド南東寄りで発見された。検出面の標高は約30.61ｍである。北側半分は調査区外へ延びる。平面形は円形或いは楕円形を呈すると思われ、検出規模は南北0.85ｍ、東西0.35ｍ以上で、確認面からの深さは0.41ｍを測る。断面は箱形を呈する。底面はほぼ平坦で、壁は直線的に立ち上がる。

覆土は暗茶褐色土で２層に分層され、第１層より第２層がしまりがやや弱い。

遺物は、土師器甕１点（5.1ｇ）が出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｈ７号土坑（第149・152図）

Ｗ３グリッド中央南側で発見された。北側にＨ８号土坑が隣接している。検出面の標高は約25.75ｍである。平面形はやや方形に近い円形を呈する。検出規模は径0.80ｍで、確認面からの深さは0.32ｍを測る。断面は逆台形を呈する。底面はほぼ平坦で、壁は南側ではやや緩やかな角度、北側ではやや急な角度で立ち上がる。

覆土は暗褐色土で２層に分層され、第１層より第２層が橙色スコリアを多量に含む。

遺物は、土師器甕１点（2.4ｇ）が出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｈ８号土坑（第149・152図）

Ｗ３グリッド中央南側で発見された。南西側の上端をＨ18号ピットに切られている。南側にＨ７号土坑が隣接している。検出面の標高は25.75ｍである。平面形はやや歪みのある円形を呈し、検出規模は径0.90ｍで、確認面からの深さは0.22ｍを測る。断面は皿状を呈する。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかな角度で立ち上がる。

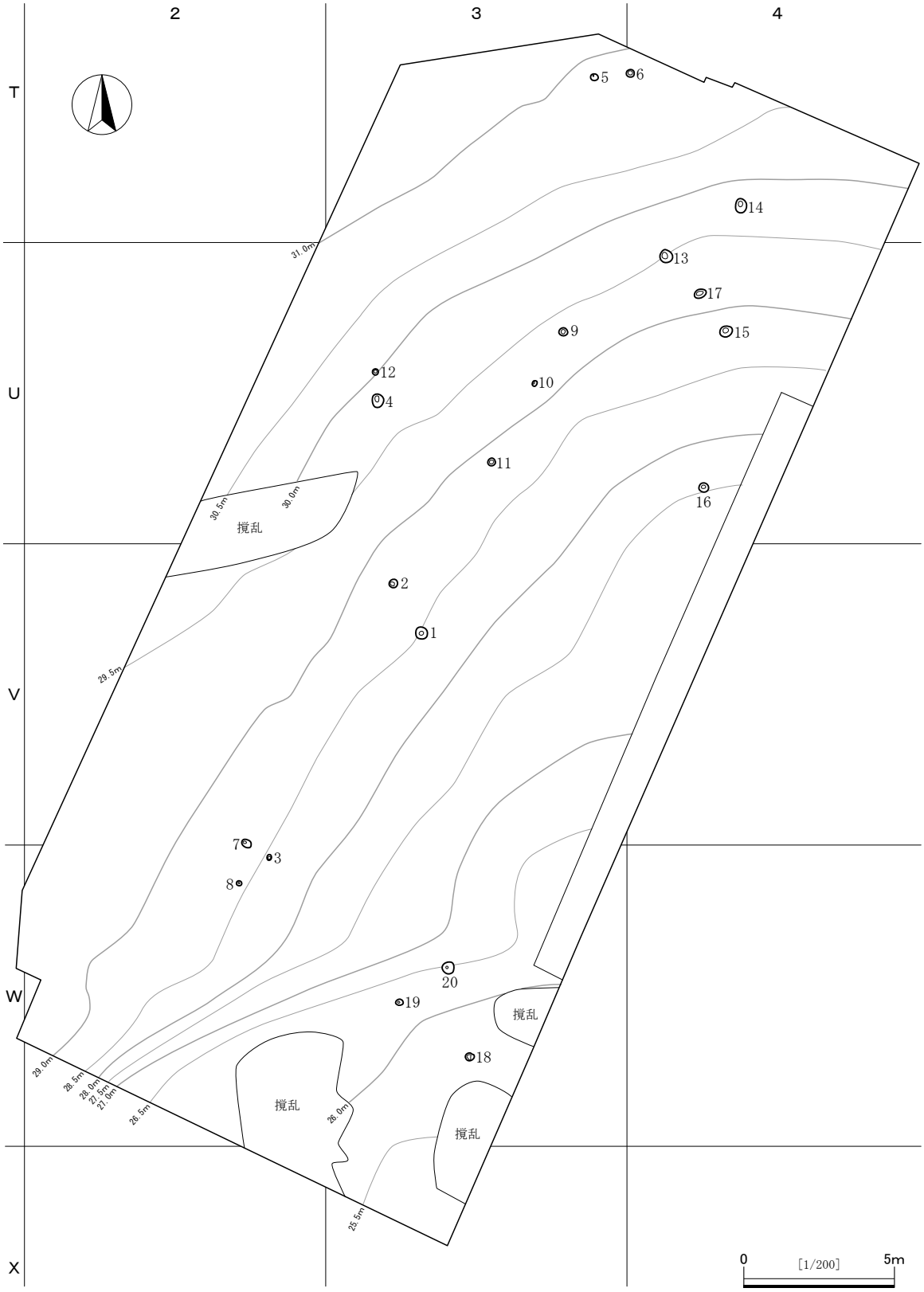
覆土は暗褐色土で２層に分層され、第１層より第２層がスコリア少なく粘性が増す。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

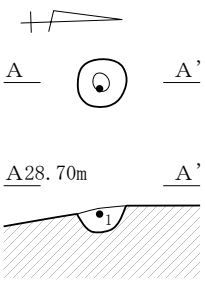
（３）ピット（第153 ～ 155図、第32表）

４区全体に20基発見された。平面形は円形或いは楕円形を呈し、確認面からの深さは0.10 ～ 0.30ｍを



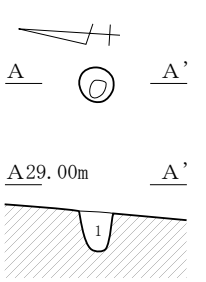
第153図　４区　奈良・平安時代ピット分布図[1/200]

Ｈ１号ピット



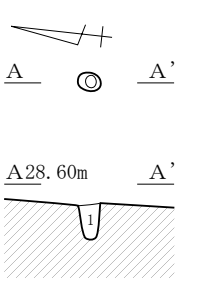
第１層　暗茶褐色土　粘性・しまりややあり。径１～３㎜の橙色スコリア多量、径１～４㎜の黒色スコリア少量、炭化物粒微量含む。

Ｈ２号ピット



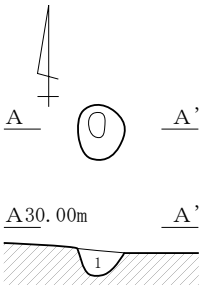
第１層　暗茶褐色土　粘性・しまりややあり。径１～３㎜の橙色スコリア多量、径１～４㎜の黒色スコリア少量含む。

Ｈ３号ピット



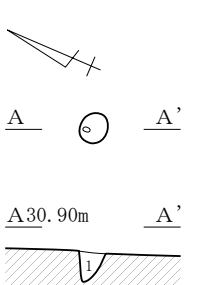
第１層　暗茶褐色土　粘性・しまりややあり。径１～３㎜の橙色スコリア多量、径１～４㎜の黒色スコリア少量含む。

Ｈ４号ピット



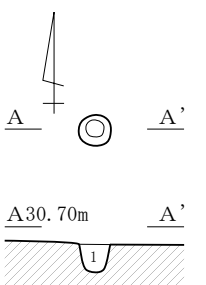
第１層　暗茶褐色土　粘性・しまりややあり。径１～３㎜の橙色スコリア多量、径１～４㎜の黒色スコリア少量含む。

Ｈ５号ピット



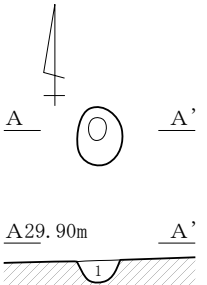
第１層　暗褐色土　粘性・しまりややあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～４㎜の黒色スコリア多量含む。

Ｈ６号ピット



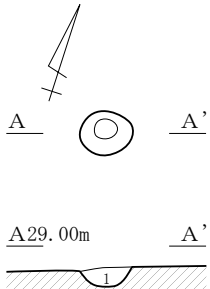
第１層　暗褐色土　粘性・しまりややあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～４㎜の黒色スコリア多量含む。

Ｈ14号ピット



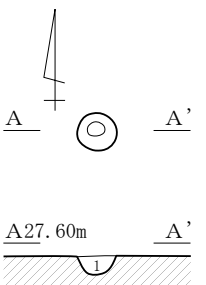
第１層　暗茶褐色土　粘性・しまりやや弱い。径１～５㎜の橙色スコリアやや多量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。

Ｈ15号ピット

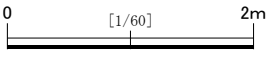


第１層　暗茶褐色土　粘性やや弱い。しまりあり。径１～５㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリアやや少量含む。

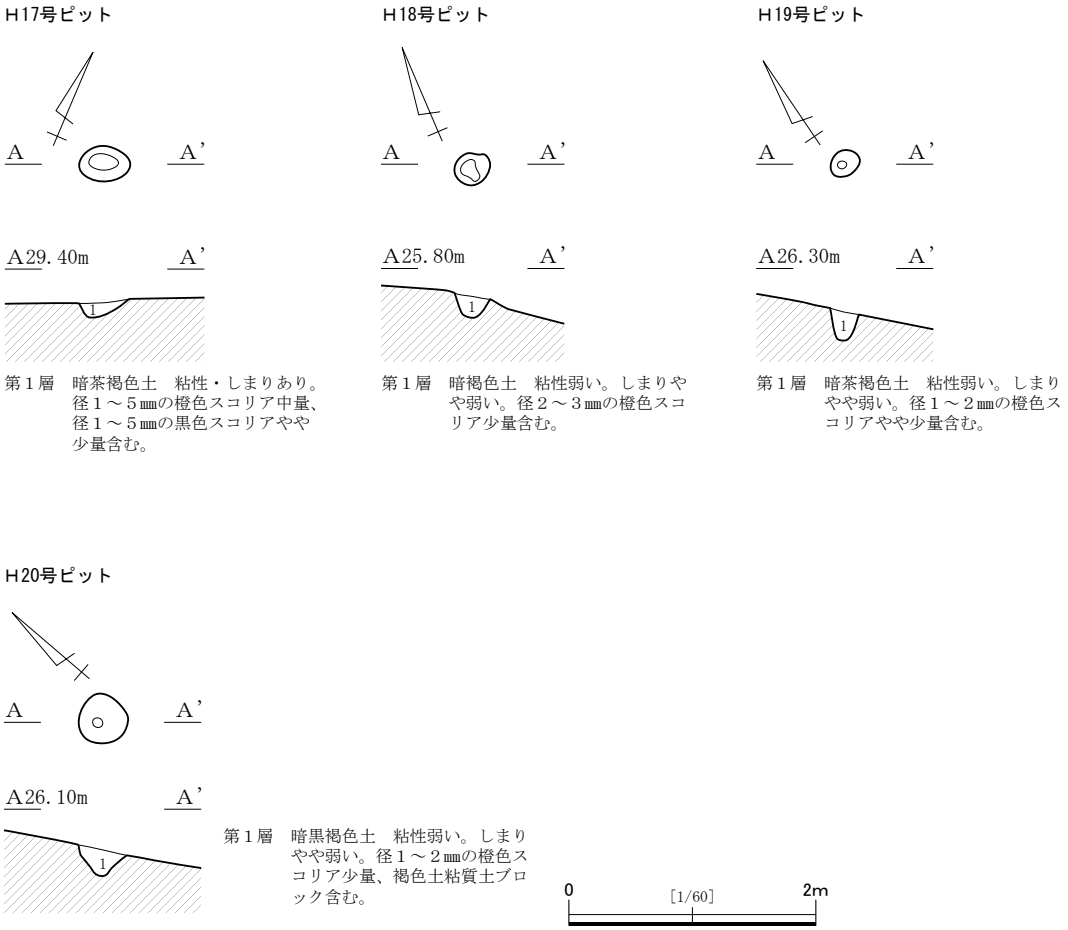
Ｈ16号ピット



第１層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～５㎜の橙色スコリアやや多量、径１～５㎜の黒色スコリアやや少量含む。



第154図　４区Ｈ１～６・14～16号ピット[1/60]



第155図　４区H17～20号ピット[1/60]

第32表　４区　奈良・平安時代ピット計測表［第154・155図］

遺構名	グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形	遺構名	グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形
H1号ピット	V3	0.39	0.39	0.25	円形	H11号ピット	U3	0.25	0.24	0.11	円形
H2号ピット	V3	0.28	0.28	0.34	円形	H12号ピット	U3	0.21	0.20	0.09	円形
H3号ピット	W2	0.20	0.15	0.27	楕円形	H13号ピット	U4	0.42	(0.30)	0.20	円形
H4号ピット	U3	0.43	0.37	0.25	楕円形	H14号ピット	T4	0.48	0.37	0.21	楕円形
H5号ピット	T3	0.25	0.22	0.25	円形	H15号ピット	U4	0.42	0.35	0.19	円形
H6号ピット	T3・4	0.27	0.26	0.25	円形	H16号ピット	U4	0.31	0.31	0.17	円形
H7号ピット	V2・W2	0.34	0.25	0.18	楕円形	H17号ピット	U4	0.41	0.28	0.17	楕円形
H8号ピット	W2	0.17	0.17	0.23	円形	H18号ピット	W3	0.29	0.25	0.23	円形
H9号ピット	U3	0.30	0.26	0.14	円形	H19号ピット	W3	0.25	0.21	0.26	円形
H10号ピット	U3	0.19	0.15	0.20	円形	H20号ピット	W3	0.41	0.40	0.25	円形

測る。断面形態は碗形が多い。形状や間隔に規則性が認められず、柱痕なども確認されなかった。各々の検出規模については第32表にまとめている。

発見された20基中、遺物が出土したのはＨ１号ピットのみである。

遺物は、須恵器甕１点(27.5g)が出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

（４）遺構外出土遺物

奈良・平安時代の遺構外出土遺物は、土師器坏14点(70.６ｇ)、土師器甕55点(213.3g)、須恵器坏４点(22.0g)、須恵器埦１点(10.9g)、須恵器甕21点(529.7g)、須恵器瓶２点(14.8g)、灰釉陶器瓶２点(22.8g)、土師器器種不明14点(16.９ｇ)、総点数113点、総重量901.0gが出土した。

小片のため図化していない。

４．弥生時代後期～古墳時代前期

４区・５区における弥生時代後期～古墳時代前期の遺構は確認されていない。

遺物は壺・甕の破片が１点ずつ出土している。Ｗ３グリッド及びＹ２グリッドの弥生時代後期～古墳時代前期の包含層にあたる第Ⅸ層から発見された。

弥生時代後期～古墳時代前期において土地利用されていないことが伺える。

（１）遺構外出土遺物

弥生時代後期～古墳時代前期の遺構外出土遺物は、４区から土器甕１点(15.６ｇ)、５区から土器壺１点(16.0g)、総点数２点、総重量31.6gである。

小片のため図化していない。

５．縄文時代

４区（４区・４区②）の縄文時代の調査は、調査区に対して11箇所のトレンチを設定し調査を実施した。その結果、台地頂部の緩斜面部で土坑等の遺構が検出されたため、その周囲をさらに拡張し遺構範囲の把握に努めた。検出された遺構は土坑３基、ピット12基であった。

（１）土坑

Ｊ１号土坑（第157図、第158図、図版37－２・38－１・153－１）

調査区北東端のＵ４グリッドに位置する。確認面は基本土層第Ⅺ層で、標高27.25ｍを測る。周囲に遺構は見られない。平面形は円形で、規模は開口部で長径1.21ｍ、短径1.08ｍ、深さ0.33ｍを測り、断面形は浅い擂鉢形を呈する。主軸方位はＮ－61°－Ｅを示す。覆土は暗褐色系で上下２層中に炭化物を含み、坑底部では炭化物ブロックを検出したものの坑内で火を焚いた痕跡は認められなかった。

遺物は、覆土中より２点の土器が出土し、このうち第158図１の完形土器は遺構確認面において検出され、口縁が土坑中央に向け意図して横向きに据え置かれたものと思われる。口縁部が強く外反し、口縁で僅かに立ち上がる。口唇部に小さい瘤状貼付文が施されている。胴部は円筒形を呈し、器面はナデ調整を施すが輪積みの凹凸が認められる。底面に網代痕を残している。器厚は1.5㎝を超え全体的に厚く、胎土は白色粒や砂粒を含むものの雲母粒は含まれていない。第Ⅲ群第１類土器で中期初頭の五領ヶ台式土器に帰属するものと思われる。第158図２は土坑下層から出土した胴部破片で、半截竹管による縦位の集合沈線による「ｒ」形文が描出されている。胎土は多量の金雲母と少量の石英粒を含む。色調は鈍い暗褐色を呈す。第１類の五領ヶ台１式土器に比定される。

遺構の時期は、出土遺物の帰属時期から中期初頭五領ヶ台式期の所産と考えられる。

Ｊ２号土坑（第157図、図版38－２）

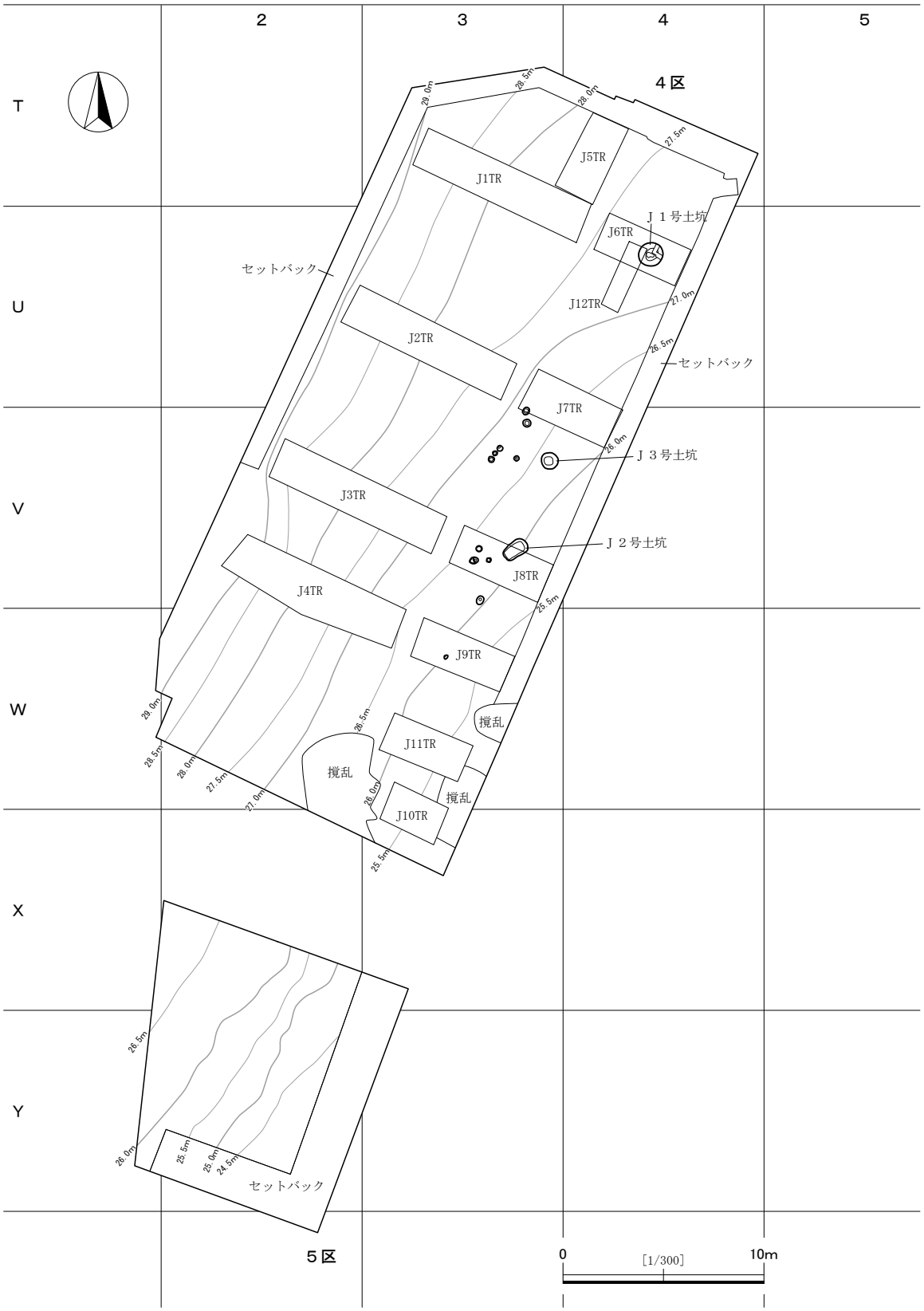
調査区中央のＶ３グリッドに位置する。確認面は基本土層第Ⅺ層で、標高は26.10ｍを測る。本土坑の周辺には５基のピットが所在し、北に４ｍ離れてＪ３号土坑が位置する。平面形は隅丸長方形で、規模は開口部で長径1.29ｍ、短径0.71ｍ、深さ0.5ｍを測り、断面形はタライ形を対する。主軸方位はＮ―56°―Ｅを示す。覆土は暗茶褐色系で遺物の出土は無かった。

Ｊ３号土坑（第157図、図版39－１）

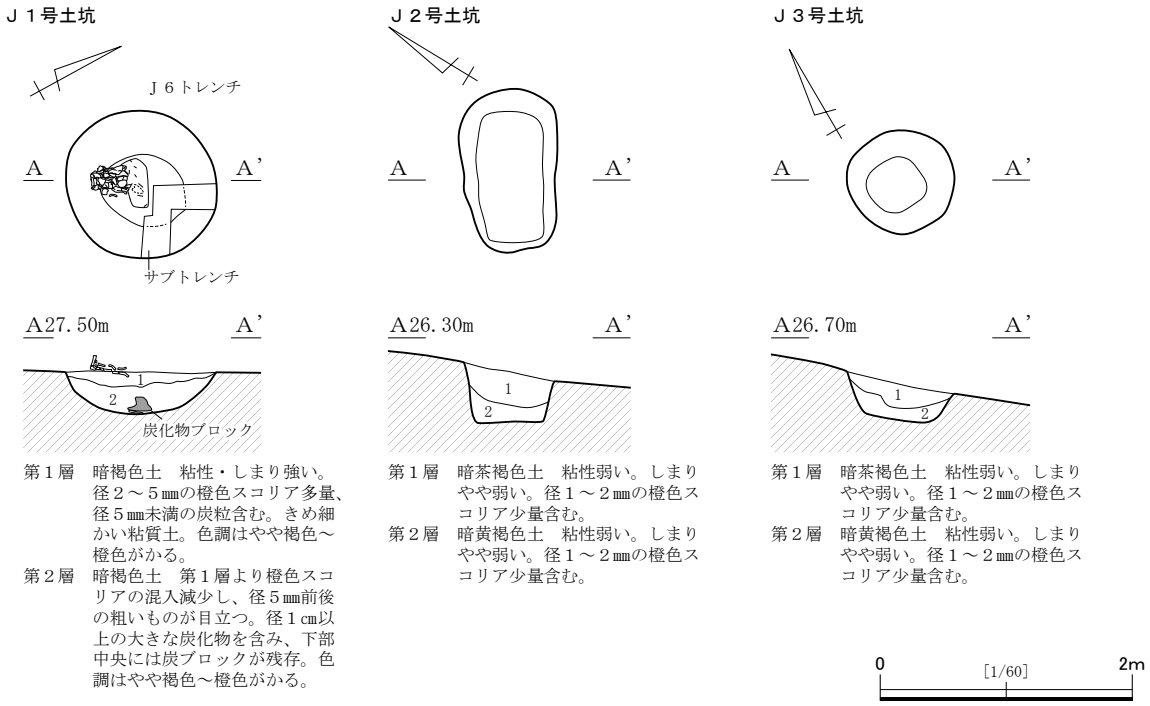
調査区中央のＶ３グリッドに位置する。確認面は基本土層第Ⅻ層で、標高26.44ｍを測る。本土坑の周辺には６基のピットが所在する。平面形は円形で、規模は開口部で長径0.84ｍ、深さ0.29ｍを測り、断面形は逆台形を呈する。主軸方位はＮ－12°－Ｗを示す。覆土は暗茶褐色系で遺物の出土は無かった。

（２）ピット（第159・160図）

該期のピットは12基確認され、遺構確認面は基本土層Ⅻ層中で確認された。１号ピットはＷ３グリッドに位置し、ピット２～ピット６はＶ３グリッド南側の第２号土坑周辺において検出された。ピットの平面形は円形又は楕円形で、規模は開口部の長軸径で0.20ｍ～0.44ｍ、深さは0.09～0.30ｍを測り全体的に浅い。



第156図　４区・５区　縄文時代遺構配置図[1/300]



第157図　４区Ｊ１～３号土坑[1/60]

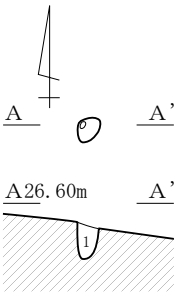


第158図　４区Ｊ１号土坑出土土器［1/3］



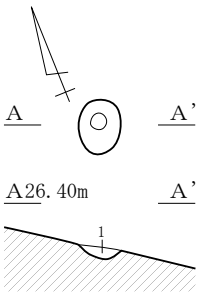
第159図　４区　縄文時代ピット分布図[1/150]

Ｊ１号ピット



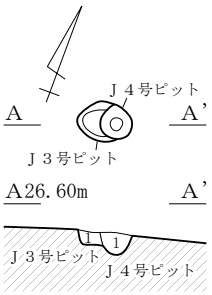
第１層　暗茶褐色土　粘性弱い。しまり強い。径１～２㎜の橙色スコリア少量含む。

Ｊ２号ピット



第１層　暗茶褐色土　粘性弱い。しまり強い。径１～２㎜の橙色スコリア少量含む。

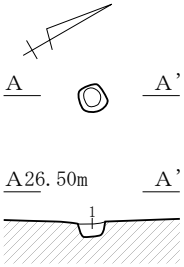
Ｊ３・４号ピット



Ｊ３号ピット
第１層　暗茶褐色土　粘性弱い。しまりやや弱い。径１～２㎜の橙色スコリア微量含む。

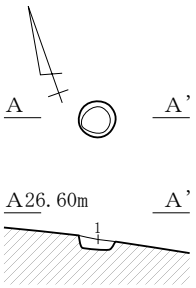
Ｊ４号ピット
第１層　暗茶褐色土　粘性弱い。しまりやや弱い。径１～２㎜の橙色スコリア少量含む。

Ｊ５号ピット



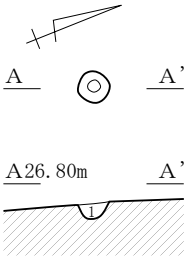
第１層　暗茶褐色土　粘性弱い。しまりやや弱い。径１～２㎜の橙色スコリア少量含む。

Ｊ６号ピット



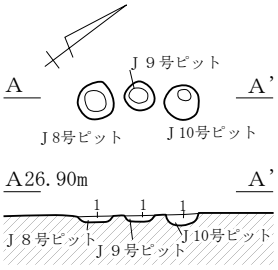
第１層　暗茶褐色土　粘性弱い。しまりやや弱い。径１～２㎜の橙色スコリア少量含む。

Ｊ７号ピット



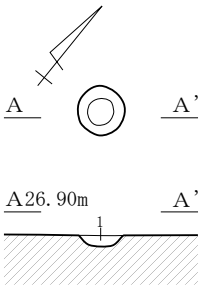
第１層　暗茶褐色土　粘性弱い。しまりやや弱い。径１～２㎜の橙色スコリア少量含む。

Ｊ８～10号ピット



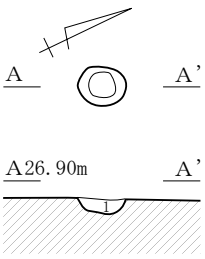
Ｊ８～10号ピット
第１層　暗茶褐色土　粘性弱い。しまりやや弱い。径１～２㎜の橙色スコリア微量含む。

Ｊ11号ピット

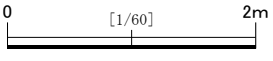


第１層　暗茶褐色土　粘性弱い。しまりやや弱い。径１～２㎜の橙色スコリア少量含む。

Ｊ12号ピット



第１層　暗茶褐色土　粘性弱い。しまりやや弱い。径１～２㎜の橙色スコリア少量含む。



第160図　４区Ｊ１～12号ピット[1/60]

第33表　４区　縄文時代ピット計測表［第159・160図］

遺構名	グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形	遺構名	グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形
J1号ピット	W3	0.23	0.15	0.35	楕円形	J7号ピット	V3	0.26	0.26	0.16	円形
J2号ピット	V3	0.44	0.34	0.15	楕円形	J8号ピット	V3	0.32	0.30	0.08	円形
J3号ピット	V3	0.34	(0.30)	0.15	－	J9号ピット	V3	0.24	0.23	0.08	円形
J4号ピット	V3	0.29	0.23	0.19	不整形	J10号ピット	V3	0.28	0.28	0.13	円形
J5号ピット	V3	0.22	0.22	0.14	円形	J11号ピット	V3	0.39	0.39	0.11	円形
J6号ピット	V3	0.30	0.30	0.11	円形	J12号ピット	V3	0.39	0.32	0.14	楕円形

覆土は暗茶褐色を主とし、出土遺物は出土しなかった。

ピット７～ピット12はＶ３グリッド北側の第３号土坑周辺において検出された。ピットの平面形は円形で、規模は開口部の長軸径で0.20ｍ～0.40ｍで深さは0.10～0.20ｍと浅い。覆土は暗茶褐色を主とし遺物の出土は無かった。

（３）遺構外出土遺物

遺構外出土土器

４区では、早期から後期にわたる土器153点(5,161.8g)が出土している。遺構外から出土した該期土器が150点(2,674.9g)出土しており、その時期別内訳は、早期後葉の野島式土器が４点(221ｇ)、早期後葉から末葉の条痕文系土器・擦痕文土器26点(557.5ｇ)、中期初頭の五領ヶ台式土器が９点(178.5ｇ)、中期中葉の勝坂式土器が３点(55ｇ)、中期後葉の加曽利Ｅ式土器が３点(113.3ｇ)、同じく中期後葉の曽利式土器が１点(96.3ｇ)、後期前葉の堀之内式土器が５点(130.7ｇ)、型式判別不明の無文土器で繊維を含む土器６点(88.8ｇ)、繊維を含まない無文土器92点(1,233.8ｇ)となっている。このうち21点を第161図に掲載した。該期土器の分類については、今回報告する東富岡及び栗窪地区の各遺跡から出土した資料を対象に、型式学的特徴に基づいて以下のとおり分類を行った。遺構内の出土土器についても下記分類基準に当てはめている。

第Ⅰ群土器　早期の土器
第１類土器　早期後葉の野島式土器
第２類土器　早期後葉の茅山下層式土器
第３類土器　早期末葉の土器類
第４類土器　早期後葉から末葉の貝殻条痕文・擦痕文土器
第Ⅱ群土器　前期の土器
第１類土器　前期後葉の諸磯式土器
第Ⅲ群土器　中期の土器
第１類土器　中期初頭の五領ヶ台式土器
第２類土器　中期中葉の勝坂式土器
第３類土器　中期後葉の加曽利Ｅ式土器

第４類土器　中期後葉の曽利式土器

第Ⅳ群土器　後期の土器

第１類土器　後期初頭の称名寺式土器

第２類土器　後期前葉の堀之内式土器

第Ⅴ群土器　型式判別不明の無文土器

第１類土器　胎土に繊維を含む土器

第２類土器　胎土に繊維を含まない土器

第Ⅰ群土器　早期の土器

第１類土器　早期後葉の野島式土器（第161図１～４・153－１・153－２）

第161図１は刻み付隆線文で文様を区画したもので、口縁は小波状口縁で、口唇部に刻みをもつものである。隆線文により縦横区画し、さらに斜位にも細隆線文は配す。文様を描いた内部に沈線文を充填し、内外面に条痕文を残す。胎土は細かい砂粒を多く含み繊維も少量含まれる。色調は暗赤褐色を呈す。２は細隆線文で区画文を作出する。内面に横位の条痕文を残すが、器面は摩滅し器壁が５ｍｍと薄い。色調は黒褐色を呈す。３は細隆線を縦位に貼付け、区画内を細沈線により格子目文を施文している。内面は横位の条痕文を残す。器壁は薄く５ｍｍ程である。胎土は細かい長石を多く含む。色調は黒褐色を呈する。４は口縁が外反しながら立ち上がり、口縁部文様帯として細隆線文により単位のある横帯区画文を配し、区画内には2条単位の斜位隆線を組み込むように貼付ける。区画文内の地文として沈線が充填されている。内面は横位の条痕文を施し、胎土は細かい石英、長石と粗い砂粒を含み、僅かに繊維も含まれる。色調は灰褐色を呈する。

第２類土器　早期後葉の茅山下層式土器

早期後葉の茅山下層式土器を本類に一括した。本遺跡では出土していない。

第３類土器　早期末葉の土器類

早期末葉の刺突文や低平な隆帯文が施される土器を本類に一括した。本遺跡では出土していない。

第４類土器　早期後葉から末葉の貝殻条痕文・擦痕文土器（第161図５～10）

貝殻条痕文もしくは擦痕文が施された早期後葉から末葉に帰属すると考えられる土器を本類に一括した。胎土中に繊維を含むものと含まないものとがある。

第161図５は口縁部が直線的に立ち上がり、口唇部はやや内削ぎ状である。内外面とも斜位の貝殻条痕文を残す。条痕文の溝底は他の土器とは異なり僅かに広く３ｍｍ程の角張った凹みとなっている。胎土には繊維を含まず石英、砂粒を含む。色調は赤褐色を呈す。６は内外面とも縦位の貝殻条痕文を施文し、７は内外面とも斜位に条痕文が施文される。８は尖底部直上で内外面に斜位の条痕文が施され器壁が薄い。６～８の胎土には繊維は見られない。９の外面は横位の貝殻条痕文で内面はナデ調整のみで、10の外面は縦横方向で内面は横位の貝殻条痕文が施されている。９、10の胎土に僅かに繊維が含まれている。

第Ⅱ群土器　前期の土器

第１類土器　前期後葉の諸磯式土器

前期後半の諸磯式土器を本類に一括した。本遺跡では出土していない。

第Ⅲ群土器　中期の土器

第１類土器　中期初頭の五領ヶ台式土器（第161図11 ～ 14）

中期初頭の五領ヶ台式土器に分類した資料を本類にあてた。

第161図11は地文無文で垂下する3条の沈線と半月形の刺突列点文が配される。内面はナデ調整で胎土は石英、長石、金雲母を含む。色調は暗赤褐色を呈す。12は幅広の半截竹管による縦位の不揃いな平行沈線文を施文する。器面はやや摩滅し胎土は長石、砂粒、金雲母を多量に含む。色調は黒褐色を呈す。13は縦位に半截竹管による平行沈線文を施文され、内面は横位のミガキ調整で胎土は石英、長石、金雲母を多く含む。色調は褐色を呈す。14は単節LRの縦位施文と結節文が施文される。胎土は石英、長石を多く含み、色調は暗褐色を呈す。

第２類土器　中期中葉の勝坂式土器（第161図15）

中期中葉の勝坂式土器に分類した資料を本類にあてた。

第161図15は口縁部片で隆帯による横帯の楕円形区画文を配し、隆帯に沿ってキャタピラ文を施文する。口縁には眼鏡状突起が付されていたものと思われる。長石、砂粒、金雲母を含む。色調は褐色を呈す。勝坂１式新段階（新道式土器併行）に帰属する資料と考えられる。

第３類土器　中期後葉の加曽利Ｅ式土器（第161図16 ～ 18）

中期後葉の加曽利Ｅ式土器と考えられる資料を本類にあてた。

第161図16は2条沈線による磨消懸垂文と単節LRの縦位施文される。胎土は細かい長石、砂粒を含み、色調は明るい褐色を呈す。加曽利Ｅ３式に比定される。17は無節ｒを縦位施文。内面は横方向のミガキ調整し、色調は褐色を呈す。18は浅鉢形土器で口縁部が「く」の字状に内屈し、屈曲部に細かい刻みを加え、沈線による文様帯区画文を施す。内外面にミガキを施し、胎土は長石粒を多く含む。

第４類土器　中期後葉の曽利式土器

中期後半の曽利式土器を本類に一括した。本遺跡では出土していない。

第Ⅳ群土器　後期の土器

第１類土器　後期前葉の堀之内式土器（第161図19・20）

第161図19は垂下する2条の曲線文が施文され、内面は粗い横位ナデ調整を施す。胎土は長石、砂粒、粗い白色粒を含む。20は外反しながら立ち上がり、口縁下に僅かに肥厚する。外面は縦方向、内面は横方向のミガキ調整を施し、胎土は長石、砂粒、小礫を含む。色調は暗褐色を呈す。これらは堀之内１式に帰属する資料と考えられる。

第Ｖ群土器　型式判別不明の無文土器

型式判別できない無文の胴部資料を本群に一括した。胎土中の混和材から時期的な特徴を伺うこともできようが時期を判別するのは難しく、繊維を含まれているかいないかで分別したが複数時期の資料が混在しているものと思われる。

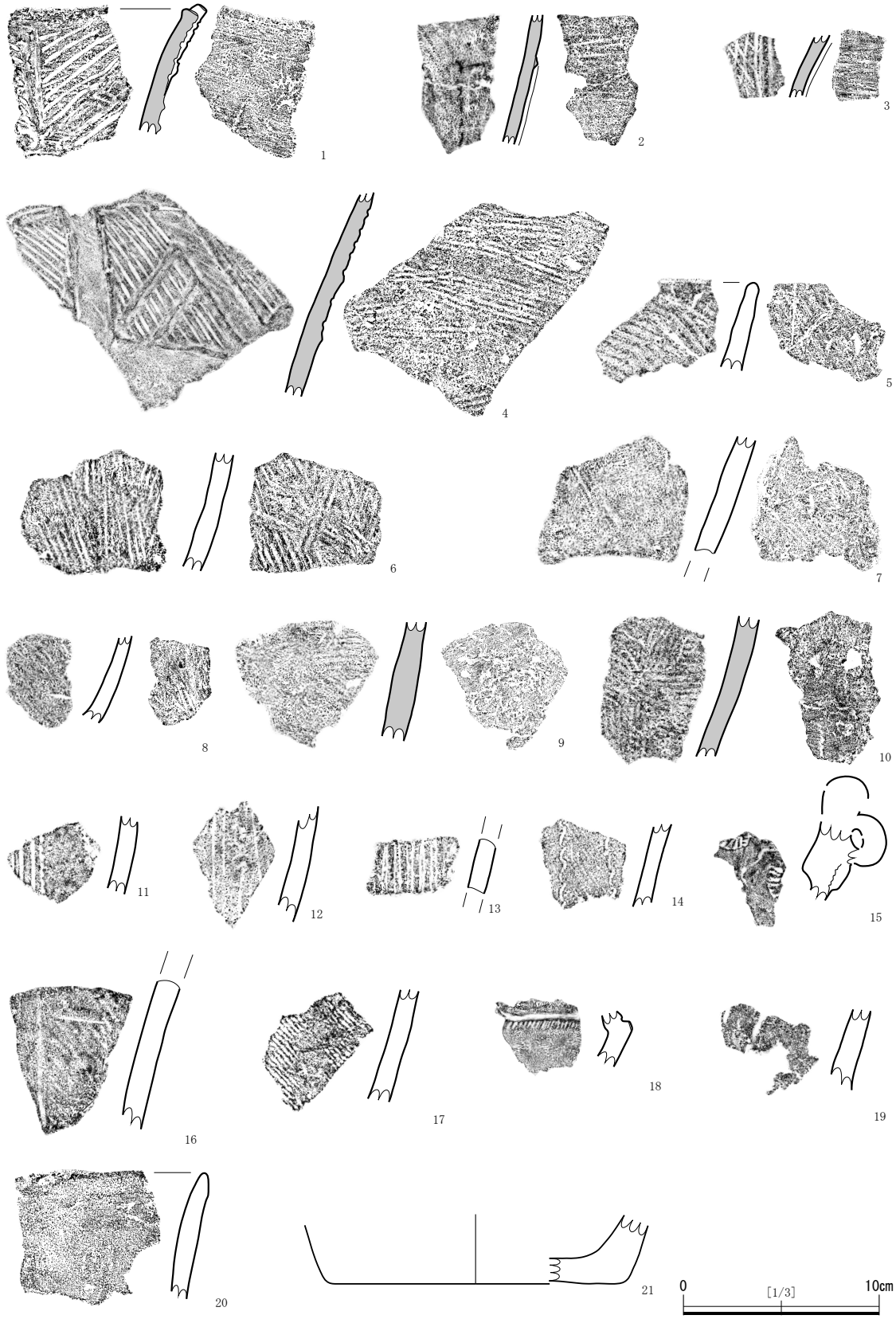
第１類土器　胎土に繊維を含む土器。本遺跡では出土していない。

第２類土器　胎土に繊維を含まない土器（第161図21）

底径があり器壁も厚い底部である。胎土には長石、粗い砂粒を含むなど中期の様相がみられる。

遺構外出土石器（第162図、第34表、図版154－１）

石器は５区では出土しなかったが、４区・４区②の遺構外から６種計19点（2,667.5ｇ）が出土した。内



第161図　４区縄文時代遺構外出土土器［1/3］

訳は石皿１点(128.２ｇ)、磨石３点(1,073.１ｇ)、打製石斧５点(406.１ｇ)、残核１点(915.１ｇ)、剥片８点(144.２ｇ)、砕片１点(0.８ｇ)である(第34表)。

遺構外石器19点の分布は、ホルンフェルス製の打製石斧１点(一括)と黒曜石(Ｖ－３グリッド)・チャート(Ｕ－３グリッド)製の剥片２点が４区にあるが、他は４区②に偏在する。

このうち２点を図示した。以下、器種毎に記載する。

石皿(第162図１)

第162図１は変質安山岩製の石皿である。扁平な摩耗痕がみとめられる皿部を上面とした。上面から側縁部が遺存するが、断片である。Ｕ－３グリッドから出土している。

磨石(第162図２)

扁平な円礫を素材とし、磨り面を有するものを一括した。４区②で完形品１点、破損品２点が出土している。破損品２点はともに器体の大半を欠損する。石材の内訳は、細粒凝灰岩１点、富士玄武岩１点、花崗岩１点である。第162図２は細粒凝灰岩製の磨石である。完形品で、扁平な円礫を素材とし、平面形が長楕円形を呈する。全面に磨り面がみとめられる。表裏面にヒビがみられ、左側縁部は面取り状を呈する。Ｕ－４グリッドから出土している。

打製石斧

４区(一括)で１点、４区②(Ｕ－４グリッド)で４点出土している。石材の内訳は、ホルンフェルスフェルス２点、砂岩２点、粘板岩１点である。ホルンフェルス製の２点は基部か刃部のみが遺存するもの、砂岩製の２点は刃部・基部を欠損するものと基部のみが遺存するもの、粘板岩製の１点は基部のみが遺存するもの等で構成されるが、いずれも平面形は撥形か短冊形等かが判然としない。

残核

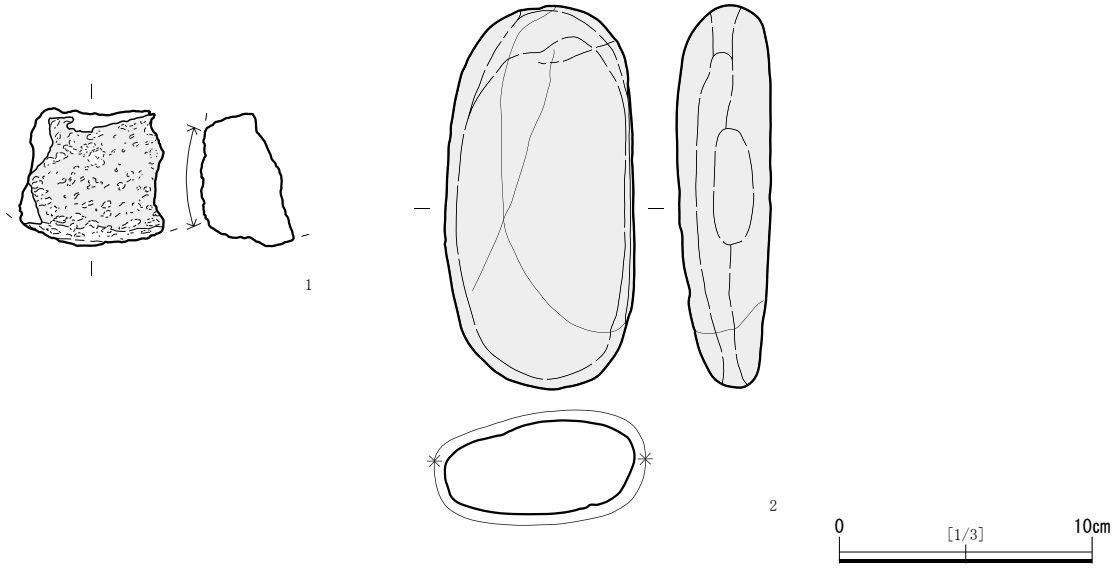
Ｕ－４グリッドで１点出土している。石材は変質斑糲岩で、扁平な礫の分割面を作業面として剥片剥離が行われた形跡が認められる。

剥片

４区(Ｕ・Ｖ－３グリッド)で２点、４区②(Ｕ－４・Ｗ－３グリッド)で６点が出土している。石材の内訳は、ガラス質黒色安山岩３点、ホルンフェルス２点、変質玄武岩１点、黒曜石１点、チャート１点で、ガラス質黒色安山岩・ホルンフェルスフェルス・変質玄武岩製のものは、打製石斧や粗製石匙等の大形石器の調整剥片か素材剥片、黒曜石・チャート製のものは石核調整剥片か石錐や石匙等の小形石器の素材剥片等である可能性が考えられる。

砕片

Ｕ－４グリッドで１点出土している。石材は黒曜石である。



162図　４区縄文時代遺構外出土石器［1/3］

第34表　４区縄文時代遺構外出土石器属性表［第162図］

挿図番号	器種名	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	出土遺構・Gr	備 考
1	石皿	変質安山岩	(5.4)	(5.7)	(4.0)	128.2	U3Gr	４区②
2	磨石	細粒凝灰岩	15.2	7.6	3.7	740.4	U4Gr	４区②
	剝片	ホルンフェルス	(3.0)	4.7	0.6	8.6	U4Gr	４区②
	打製石斧	ホルンフェルス	(7.3)	4.6	1.3	51.1	U4Gr	４区②
	打製石斧	粘板岩	(5.3)	(4.2)	(1.9)	43.8	U4Gr	４区②
	剝片	変質玄武岩	(6.7)	(5.3)	(1.5)	60.3	U4Gr	４区②
	磨石	富士玄武岩	(5.8)	(7.0)	(3.2)	189.3	U4Gr	４区②
	磨石	花崗岩	(5.0)	(5.8)	3.2	143.4	U4Gr	４区②
	剝片	ガラス質黒色安山岩	(2.6)	(4.0)	(0.6)	2.8	U4Gr	４区②
	剝片	ガラス質黒色安山岩	(3.2)	(3.1)	(1.1)	8.5	U4Gr	４区②
	剝片	黒曜石	(3.3)	(1.6)	(1.1)	2.8	V3Gr	４区
	剝片	ホルンフェルス	(5.5)	(5.1)	(1.8)	46.1	W3Gr	４区②
	剝片	ガラス質黒色安山岩	5.8	(1.9)	0.7	6.8	U4Gr	４区②
	砕片	黒曜石	2.1	0.9	0.6	0.8	U4Gr	４区②
	打製石斧	砂岩	(11.7)	7.0	2.2	207.0	U4Gr	４区②
	残核	変質斑糲岩	8.5	14.0	(5.2)	915.1	U4Gr	４区②
	打製石斧	砂岩	(7.1)	(5.0)	(2.0)	83.8	U4Gr	４区②
	剝片	チャート	(4.3)	(2.7)	1.0	8.3	U3Gr	４区
	打製石斧	ホルンフェルス	(3.5)	4.5	1.1	20.4	４区	４区

６．旧石器時代

（１）第Ⅰ文化層（第163 ～ 165図、第35表、図版42・154－２）

旧石器時代の調査は、４・５区あわせた調査区域全体に約２×２ｍの調査坑を計７箇所設定して、縄文時代最終面から約２ｍの深さまで掘削を行なった。その結果、４区南端に近いＸ－３グリッドで、遺物が１点発見され、調査坑を拡張して周囲の調査を実施した。

遺物の位置は、地形的には丘陵尾根の西端の緩斜面で、Ｌ１Ｓ層下部相当以下が残存していたが、それより上の層は後世の掘削等によって残存していなかった。

他の調査坑では遺構・遺物は発見されなかった。

出土遺物（第164・165図、第35表）

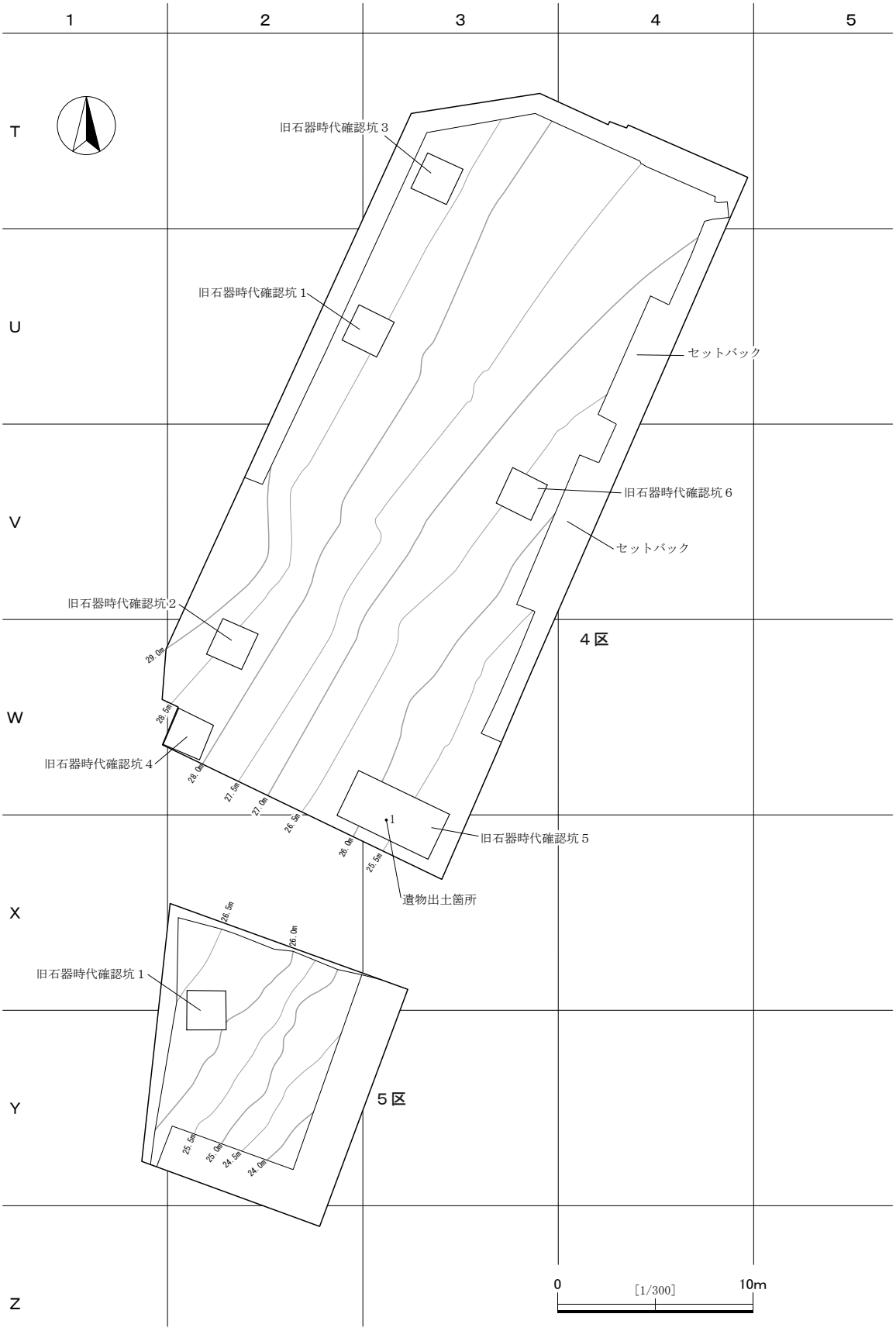
Ｘ－３グリッドから石器１点（総重量27.1ｇ）が出土した。石器は、Ｌ１Ｈ層上部（Ｌ１Ｈ②層上部）から出土している。

出土石器は剝片１点である。

第165図１は幅広の剝片である。打面は縁辺の一部に平坦な調整剝離が施された礫面で、表面には打面を90°転位して剝離作業が行われた形跡が確認される。末端部には表面からの折れが認められるが、平面形は逆三角形状を呈する。本剝片は打面部を除く表面に礫面がみられないことから、作業面の形成過程で生じたものと考えられる。器体全体に風化が著しく、裏面中央部に浅い剝落がみられる。

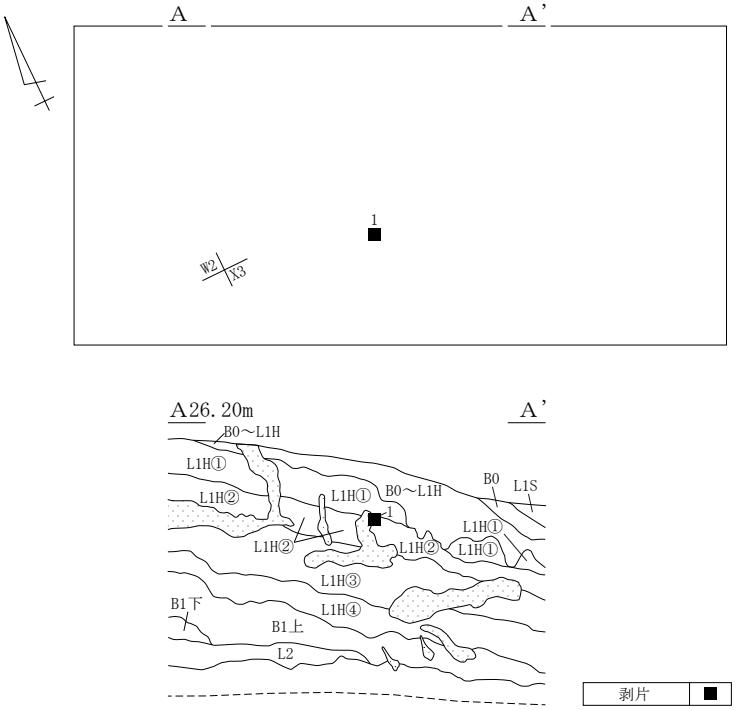
石材は流紋岩質凝灰岩（母岩RG １）で、在地系産と推定される。

出土遺物は剝片１点で、他に細石刃や槍先形尖頭器等の文化期認定を裏付ける石器はなかったが、本剝片は出土層位がＬ１Ｈ上部であることにより、Ｌ１Ｈ層上部石器群の文化期に位置づけておく。

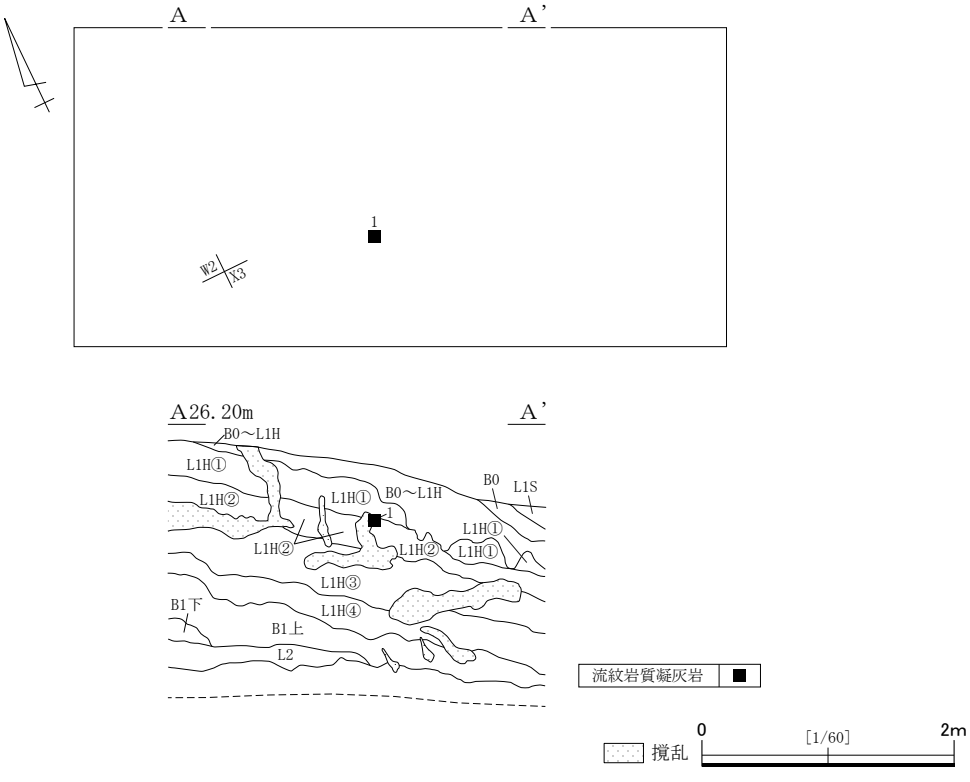


第163図　４・５区旧石器時代調査範囲[1/300]

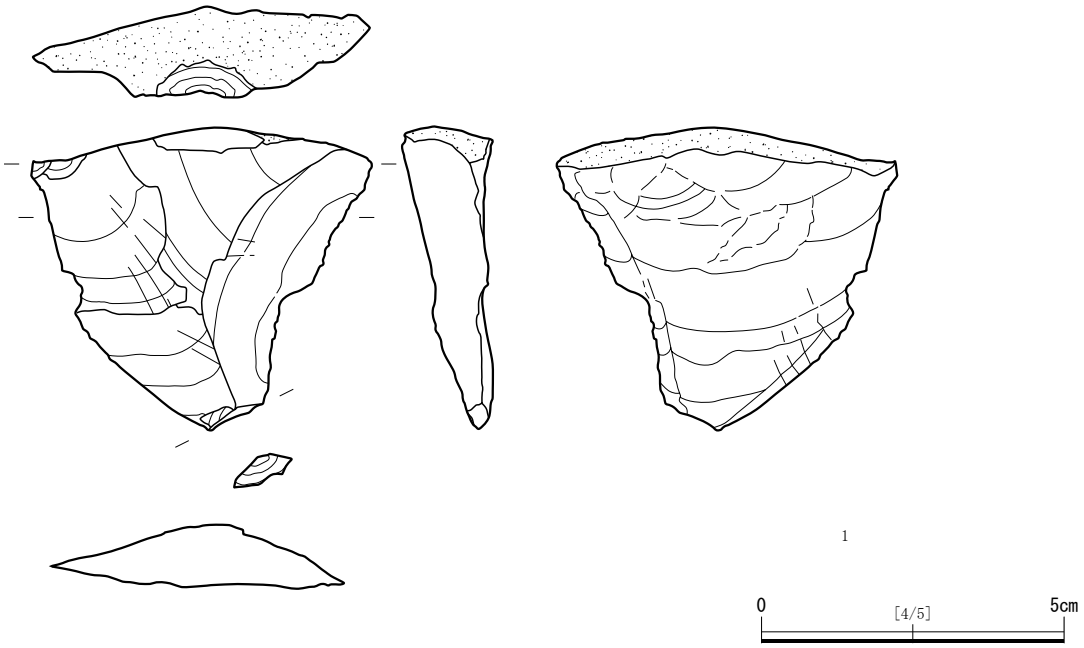
器種別



石材別



第164図　４区旧石器時代遺物集中器種・石材分布図[1/60]



第165図　４区旧石器時代出土石器［4/5］

第35表　４区旧石器時代遺構外出土石器一覧表［第165図］

挿図番号	器種名	石材	母岩 No.	遺存状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	出土遺構	取上 No.	出土 Gr.	備 考
第165図1	剝片	流紋岩質凝灰岩	RG1	末端欠	5.0	5.6	1.5	27.1		1	X3Gr	

第Ⅳ編　粟窪・林窪遺跡

第１章　基本層序

８区

本地区は富岡丘陵から字林台へ続く台地の南側に広がる谷戸に位置している。調査前は盛り土によって平坦を呈していたが、もともとの地形は北西から南東に傾斜しており、Ｘグリッド列では谷戸の湿地を構成する暗青灰色土が検出されている。Ｗ13グリッド以西には大粒の黒色スコリアを多量に含む黒褐土層が堆積しており、上面で奈良･平安時代の遺構が確認されている。Ⅸ層は遺物を含まない青灰褐色土層である。８区②として調査を実施した東側部分は表土直下のⅱ層上層で近世の遺構が発見されたのみである。遺物はおもにＷ・Ｘ13グリッドのⅱ～ⅳ層中より近世及び中世の遺物が出土している。ⅶ層は暗青灰褐色を呈する土層で遺構・遺物とも発見されなかった。

①　Ｖ13・Ｗ13グリッド

第Ⅰ層　表土。

第Ⅱ層　明褐色土　１～３㎜の橙色スコリアやや多量、１～３㎜の黒色スコリア微量含む。粘性あり。しまりあり。中世堆積土。

第Ⅲ層　茶褐色土　１～３㎜の橙色スコリア微量、１～５㎜の黒色スコリア微量含む。粘性あり。しまりあり。上面で中世遺構確認。

第Ⅳ層　暗茶褐色土　１～３㎜の橙色スコリア微量、１～５㎜の黒色スコリア少量含む。粘性なし。しまりあり。奈良・平安時代遺物包含層。

第Ⅴ層　暗褐色土　１～３㎜の橙色スコリア微量、１～５㎜の黒色スコリア中量含む。粘性あり。しまりやや弱い。奈良・平安時代遺物包含層。

第Ⅵ層　暗褐色土　１～３㎜の橙色スコリア微量、１～５㎜の黒色スコリア少量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。奈良・平安時代遺物包含層。

第Ⅶ層　黒褐色土　１～３㎜の橙色スコリア微量、１～８㎜の黒色スコリア中量含む。粘性やや弱い。しまりやや弱い。上面で奈良・平安時代遺構確認。

第Ⅷ層　黒褐色土　１～３㎜の橙色スコリア微量、１～８㎜の黒色スコリアやや多量含む。粘性やや弱い。しまりやや弱い。

第Ⅸ層　青灰褐色土　１～５㎜の黒色スコリア少量含む。粘性やや強い。しまりあり。

②　Ｗ14グリッド

第ⅰ層　表土。

第ⅱ層　明褐色土　１～３㎜の橙色スコリア少量、１～３㎜の黒色スコリア微量含む。粘性あり。しまりあり。上面で近世の遺構を確認。

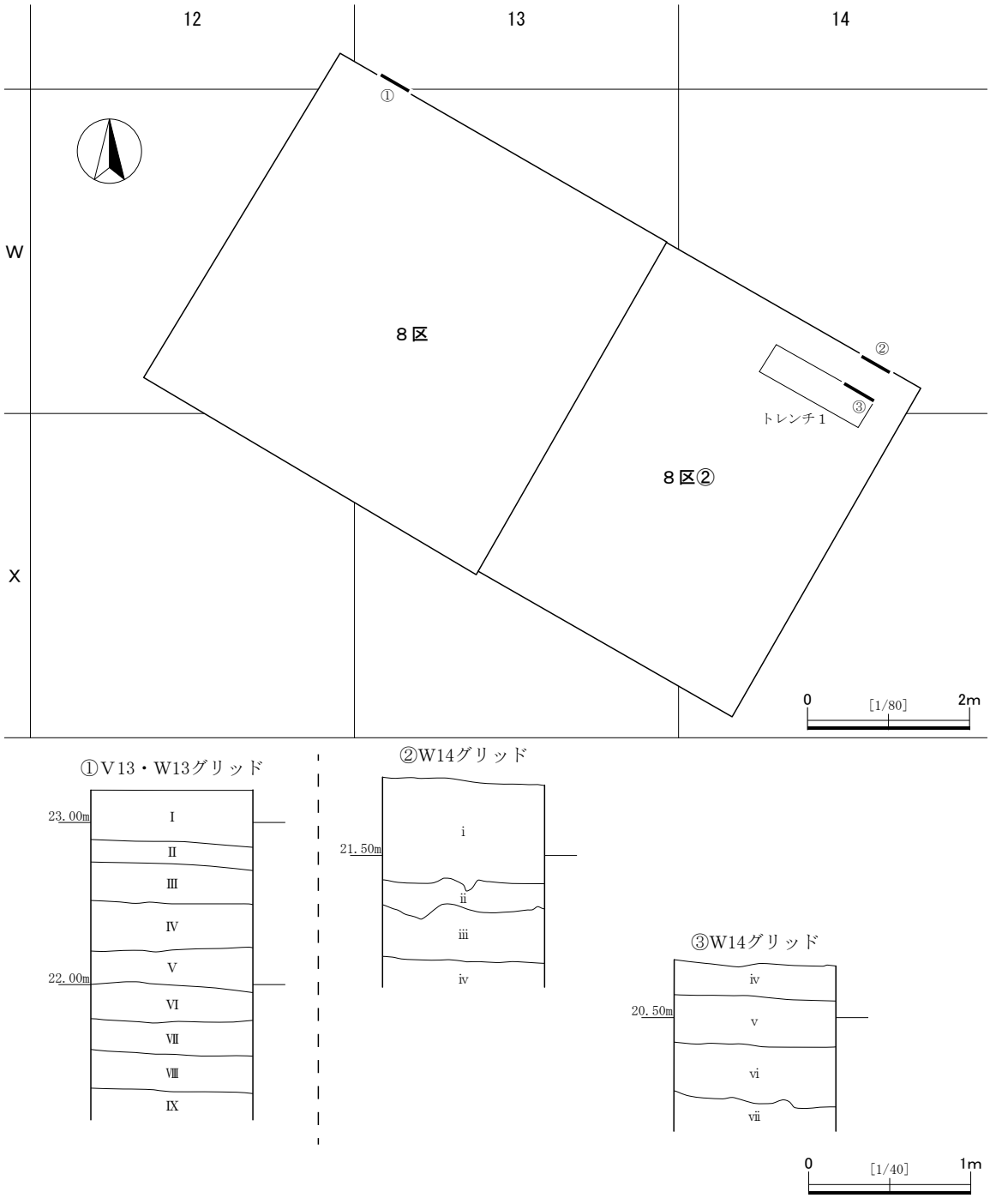
第ⅲ層　灰褐色土　１～３㎜の橙色スコリア微量、１～５㎜の黒色スコリア微量含む。粘性あり。しまりあり。

第ⅳ層　暗灰色土　１～３㎜の橙色スコリア微量、１～５㎜の黒色スコリア少量含む。粘性やや強い。しまりあり。

第ｖ層　暗灰褐色土　１～５㎜の黒色スコリア少量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。
第vi層　青灰色土　１～５㎜の黒色スコリア中量含む。粘性やや強い。しまりあり。
第vii層　暗青灰褐色土　１～５㎜の黒色スコリア微量含む。粘性やや強い。しまりあり。

９区

本地区は富岡丘陵から字林台へ続く台地の南側の裾部と南側に広がる谷戸の間に位置している。南東側には谷戸が入り込んでおり、地形は北西から南東に向かって傾斜している。調査区は逆Ｌ字状を呈しており、



第166図　８区・８区②基本土層図[1/200・1/40]

北側の東西に延びる部分（Ｔ・Ｕ13 ～ 16グリッド）と東側の南北に延びる部分の南側（ＷＸ15グリッド）では土層の堆積状況は異なっている。表土直下の状況は、Ｔ・Ｕ13グリッド以西は関東ローム層まで削平されていて、遺構はローム面で確認した。Ｔ・Ｕ14グリッド以東は中世の整地に伴う土層が分厚く堆積している状況であった。第Ⅱ層上面で近世、第Ⅲ層上面で中世１面、第ⅩⅣ層上面で中世２面の遺構を確認した。Ｗ15グリッド以南は谷戸が入り込んでいる。第ⅲ層上面で近世の遺構を確認したが、それより下層には湿地を構成する灰茶褐色土が堆積しており、遺構は認められなかった。

①　Ｕ15・16グリッド（南壁）

第Ⅰ層　表土。

第Ⅱ層　褐色土　１～３㎜の橙色スコリア少量、１～５㎜の黒色スコリア微量含む。粘性あり。しまりあり。上面で近世遺構確認。

第Ⅲ層　暗褐色土　１～３㎜の橙色スコリア少量、１～５㎜の黒色スコリア微量、褐色土ブロック微量含む。粘性あり。しまりあり。上面で中世遺構確認。

第Ⅳ層　暗褐色土　１～３㎜の橙色スコリア微量、１～５㎜の黒色スコリア少量、褐色土ブロック微量含む。粘性あり。しまりあり。中世遺物包含層。

第Ⅴ層　暗褐色土　１～３㎜の橙色スコリア微量、１～５㎜の黒色スコリア少量、ロームブロック少量含む。粘性やや強い。しまりあり。中世遺物包含層。

第Ⅵ層　暗褐色土　１～３㎜の橙色スコリア少量、１～５㎜の黒色スコリア少量、粘性やや強い。しまりあり。中世遺物包含層。

第Ⅶ層　暗褐色土　１～３㎜の橙色スコリア少量、１～５㎜の黒色スコリア少量、含む。粘性やや強い。しまりあり。中世遺物包含層。

第Ⅷ層　暗褐色土　１～３㎜の橙色スコリア少量、１～５㎜の黒色スコリア少量、ロームブロック微量含む。粘性やや強い。しまりあり。中世遺物包含層。

第Ⅸ層　褐色土　１～３㎜の橙色スコリア少量、１～５㎜の黒色スコリア微量、ロームブロック微量含む。粘性やや強い。しまりあり。中世遺物包含層。

第Ⅹ層　暗茶褐色土　１～３㎜の橙色スコリア微量、１～５㎜の黒色スコリア少量、ロームブロック微量含む。粘性やや強い。しまりあり。中世遺物包含層。

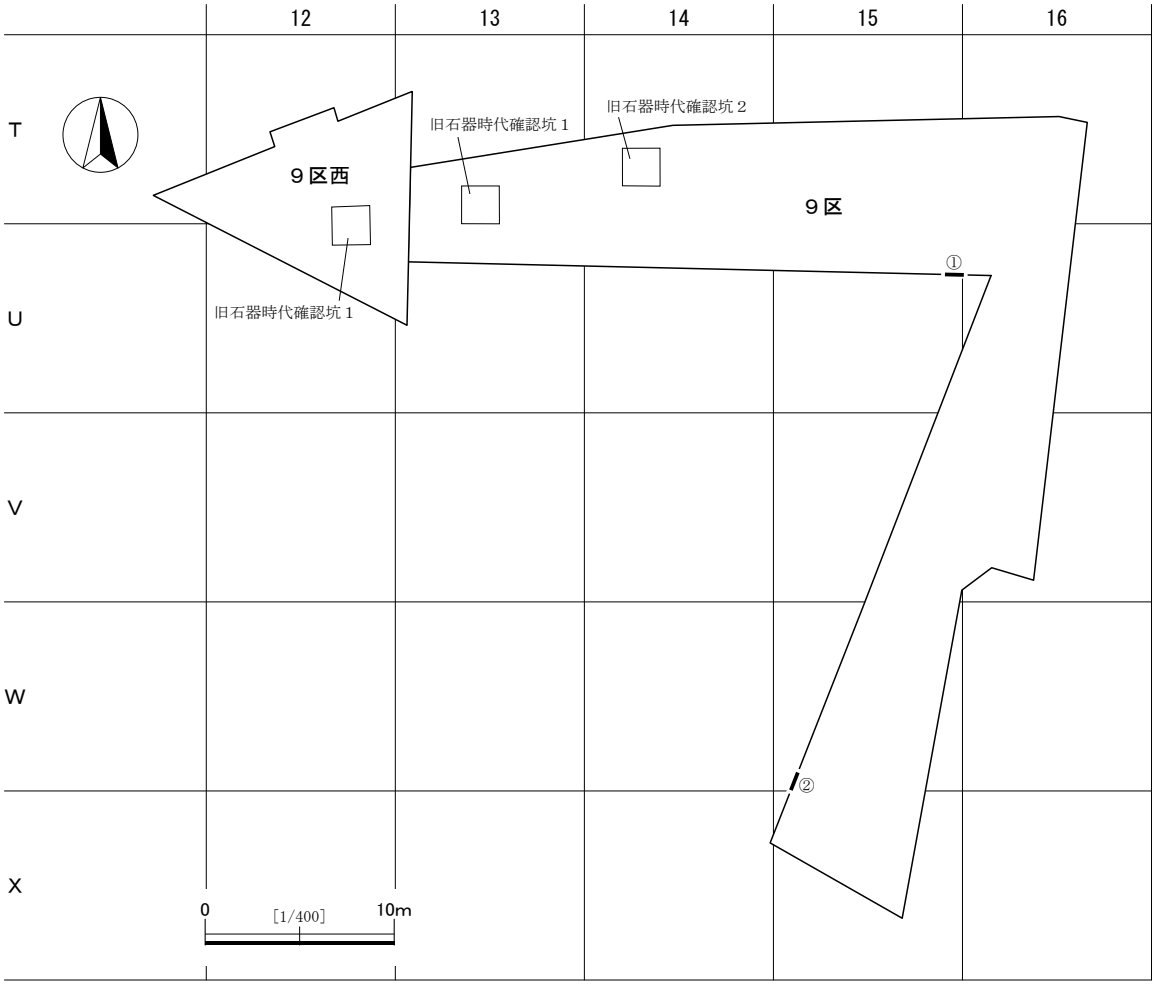
第ⅩⅠ層　暗茶褐色土　１～３㎜の橙色スコリア少量、１～５㎜の黒色スコリア微量含む。粘性やや強い。しまりあり。中世遺物包含層。

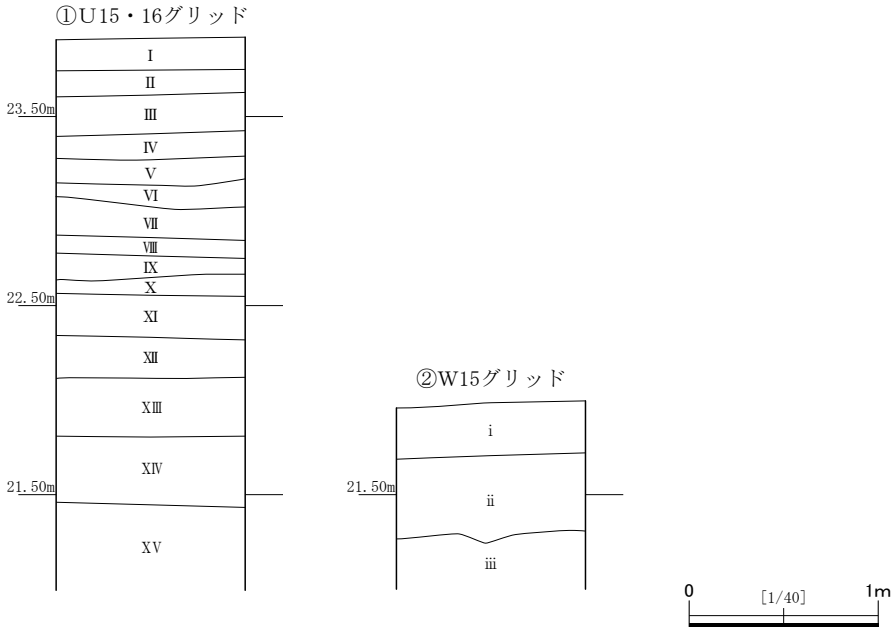
第ⅩⅡ層　暗茶褐色土　１～３㎜の橙色スコリア少量、１～５㎜の黒色スコリア微量含む。粘性あり。しまりあり。鉄分による凝固がやや認められる。中世遺物包含層。

第ⅩⅢ層　暗茶褐色土　１～３㎜の橙色スコリア少量、１～５㎜の黒色スコリア微量含む。粘性あり。しまりやや強い。鉄分による凝固が認められる。中世遺物包含層。

第ⅩⅣ層　黒灰褐色土　１～５㎜の黒色スコリア多量含む。粘性やや強い。しまり強い。鉄分による凝固が認められる。上面で中世遺構確認。

第ⅩⅤ層　黒灰褐色土　１～５㎜の黒色スコリア多量含む。粘性やや強い。ⅩⅣ層よりもしまり強く、鉄分の凝固著しい。





第167図　９区・９区西基本土層図[1/400・1/40]

② W15グリッド（西壁）

第ⅰ層　表土。

第ⅱ層　旧耕作土　下部に宝永スコリアが認められる。粘性弱い。しまり弱い。

第ⅲ層　灰茶褐色土　１～３㎜の橙色スコリア多量含む。粘性あり。しまり強い。上面で近世遺構確認。

10区

本地区は富岡丘陵から字林台へ続く台地の南側に広がる谷戸際に位置している。地形は北東から南西に向かって傾斜している。表土直下の土層堆積状況は、調査区の北端は縄文時代の土層（Ｘ層）まで削平されていたが、調査区中央以南には近世以前の土層が堆積していた。中世の遺構はⅣ層上面、奈良・平安時代の遺構はＶ層上面で検出したが、Ⅳ層の厚さは一定ではなく、中世及び奈良・平安時代のピットを明確に区別することはできなかった。

① ＡＡ18グリッド（東壁）

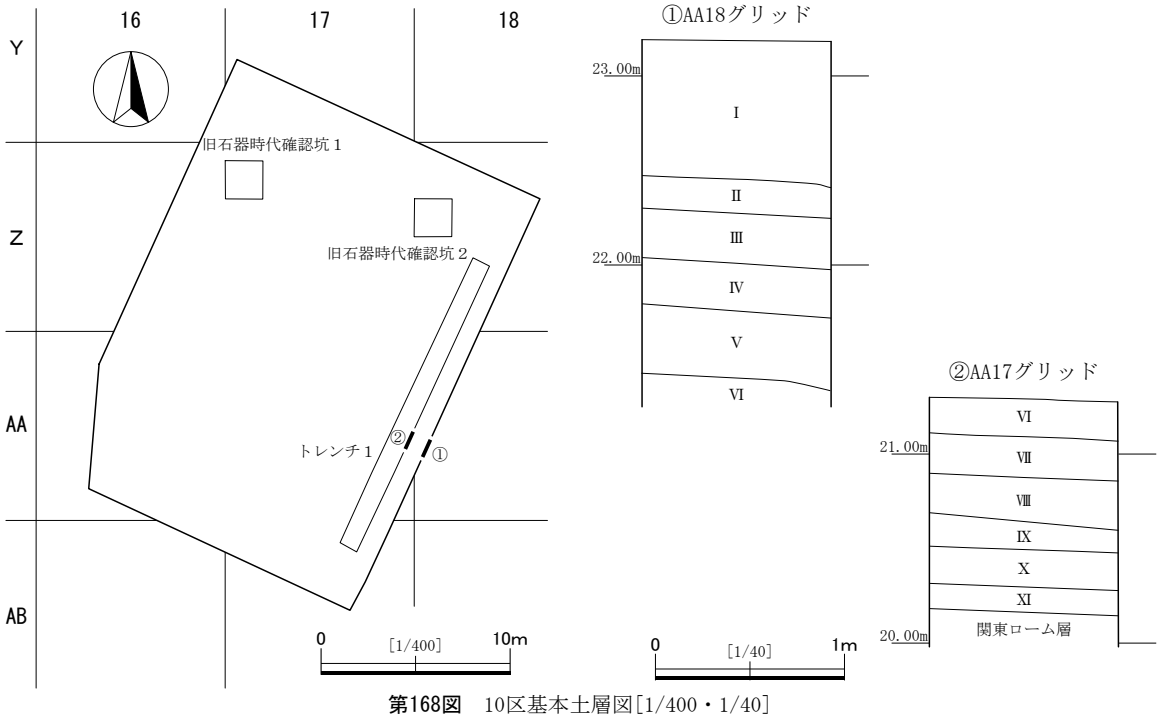
第Ⅰ層　表土

第Ⅱ層　灰褐色土　１～３㎜の橙色スコリア少量、１～３㎜の黒色スコリア少量、下部に宝永スコリア含む。粘性弱い。しまり弱い。近世堆積土。

第Ⅲ層　茶褐色土　１～３㎜の橙色スコリア中量、１～３㎜の黒色スコリア微量、ロームブロック微量含む。粘性あり。しまりあり。近世堆積土。

第Ⅳ層　暗茶褐色土　１～３㎜の橙色スコリア少量、１～３㎜の黒色スコリア微量含む。粘性あり。しまりあり。上面で中世遺構確認。

第Ⅴ層　暗褐色土　１～３㎜の橙色スコリア微量、１～５㎜の黒色スコリ少量含む。粘性あり。しまりあり。上面で奈良・平安時代遺構確認。



第168図　10区基本土層図[1/400・1/40]

② ＡＡ17グリッド（東壁）

第Ⅵ層　暗褐色土　１～３㎜の橙色スコリア少量、１～８㎜の黒色スコリやや多量含む。粘性あり。しまりあり。

第Ⅶ層　黒褐色土　１～３㎜の橙色スコリア微量、１～８㎜の黒色スコリア多量含む。粘性弱い。しまり弱い。

第Ⅷ層　暗褐色土　１～３㎜の橙色スコリア微量、１～３㎜の黒色スコリア少量含む。粘性あり。しまりあり。

第Ⅸ層　褐色土　１～３㎜の橙色スコリア微量含む。粘性やや強い。しまりあり。

第Ｘ層　明茶褐色土　１～３㎜の橙色スコリ微量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。

第Ⅺ層　明茶褐色土　１～３㎜の橙色スコリ少量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。ローム漸移層。

13区

本地区は富岡丘陵から字林台へ続く台地の南側の裾部に位置している。西側には谷戸が入り込んでおり、地形は東から西に向かって傾斜している。調査区東端付近及び南東側Ｗグリッド列付近は関東ローム層まで削平されていたが、19グリッド列以西は中世後半と推定される関東ローム層主体の整地層（第Ⅶ層）が認められ、上面で中世１面の遺構を検出した。また、第Ⅸ層上面で中世の２面の遺構が確認されたが、遺構が発見されたのは第Ⅸ層上面までであった。調査区西端は急激に落ち込んでおり、下層（第ＸＶ層以下）には暗灰褐色～黒灰色を呈する土層が堆積していた。

Ｔ17グリッド（北壁）・Ｖ19グリッド

第Ⅰ層　現代の盛土。

第Ⅱ層　表土。

第Ⅲ層　暗褐色土　１～３㎜の橙色スコリア中量、１～３㎜の黒色スコリア少量、ロームブロック微量含む。粘性弱い。しまり弱い。近世堆積土。

第Ⅳ層　暗褐色土　１～３㎜の橙色スコリアやや多量、１～５㎜の黒色スコリア微量含む。粘性あり。しまりやや強い。上面で近世遺構確認。

第Ⅴ層　茶褐色土　１～３㎜の橙色スコリアやや多量、ロームブロック微量含む。粘性あり。しまりやや強い。中世遺物包含層。

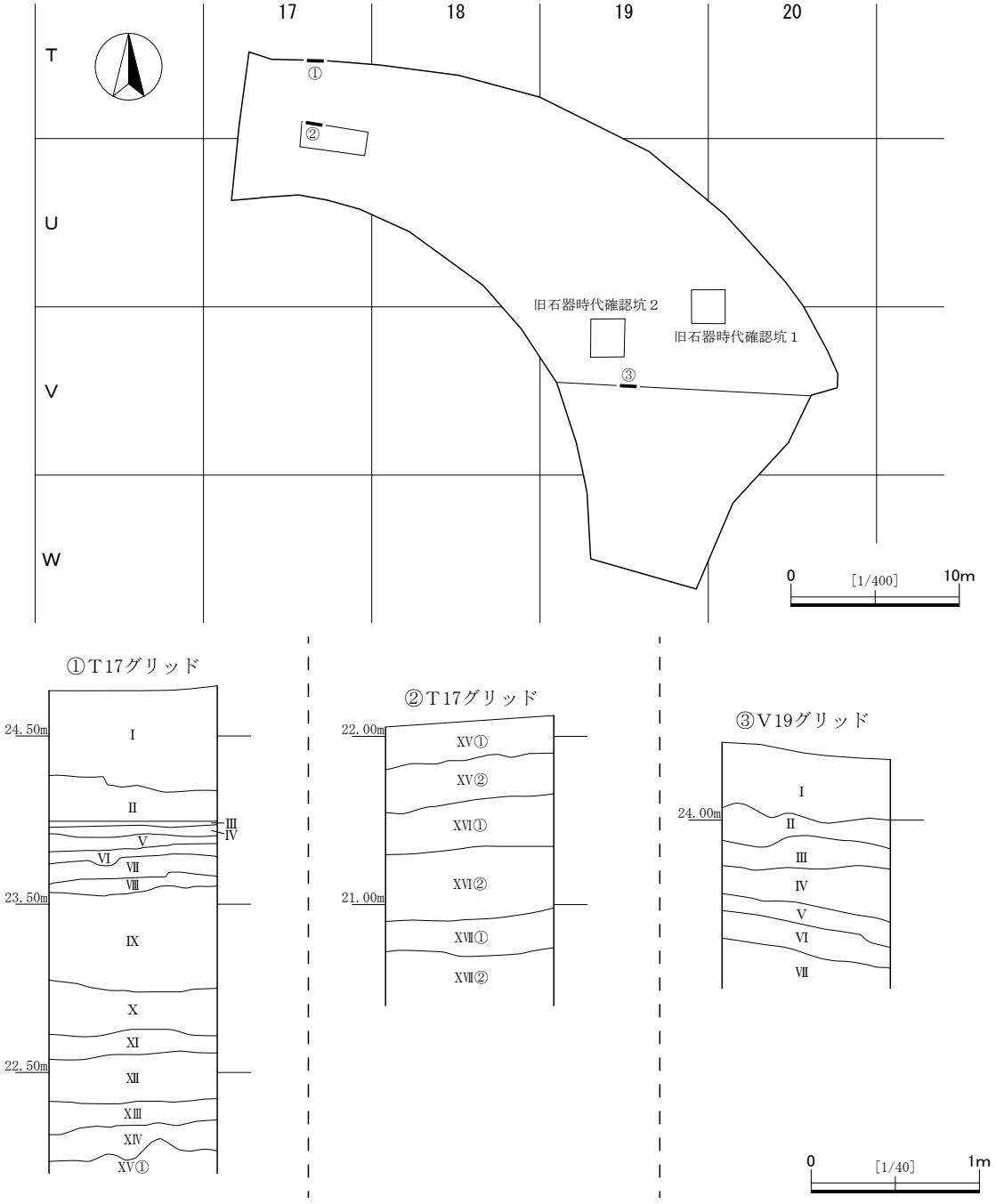
第Ⅵ層　茶褐色土　１～３㎜の橙色スコリア中量、１～５㎜の黒色スコリア微量、ロームブロックを微量含む。粘性あり。しまりあり。中世遺物包含層。

第Ⅶ層　暗黄褐色土　ロームブロック主体。粘性やや強い。しまりやや強い。整地層。上面で中世（１面）遺構確認。

第Ⅷ層　暗茶褐色土　１～３㎜の橙色スコリア少量、１～５㎜の黒色スコリア微量、ロームブロックを微量含む。粘性あり。しまりあり。中世遺物包含層。

第Ⅸ層　暗茶褐色土　１～３㎜の橙色スコリア中量、１～５㎜の黒色スコリア微量含む。粘性あり。しまりあり。上面で中世（２面）遺構確認。

第Ｘ層　暗茶褐色土　１～３㎜の橙色スコリア少量、１～５㎜の黒色スコリア微量含む。粘性あり。しまりあり。



第169図　13区基本土層図[1/400・1/40]

第ＸⅠ層　茶褐色土　１～３㎜の橙色スコリア微量、１～５㎜の黒色スコリア少量含む。粘性あり。しまりやや強い。

第ＸⅡ層　暗茶褐色土　１～３㎜の橙色スコリア少量、１～５㎜の黒色スコリア少量含む。粘性あり。しまりあり。

第ＸⅢ層　明茶褐色土　１～３㎜の橙色スコリア微量、１～５㎜の黒色スコリア少量含む。粘性やや強い。しまりあり。

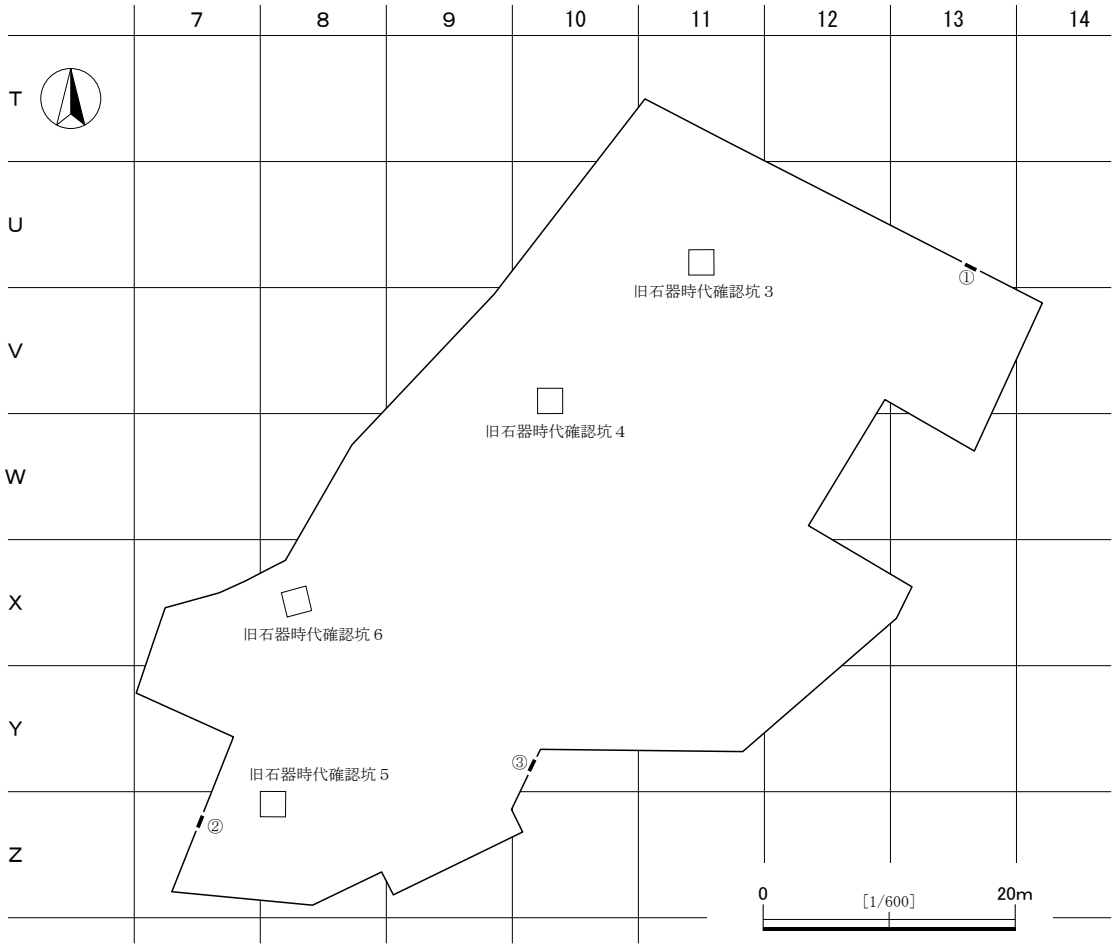
第ＸⅣ層　茶褐色土　１～３㎜の橙色スコリア微量、１～５㎜の黒色スコリア中量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。

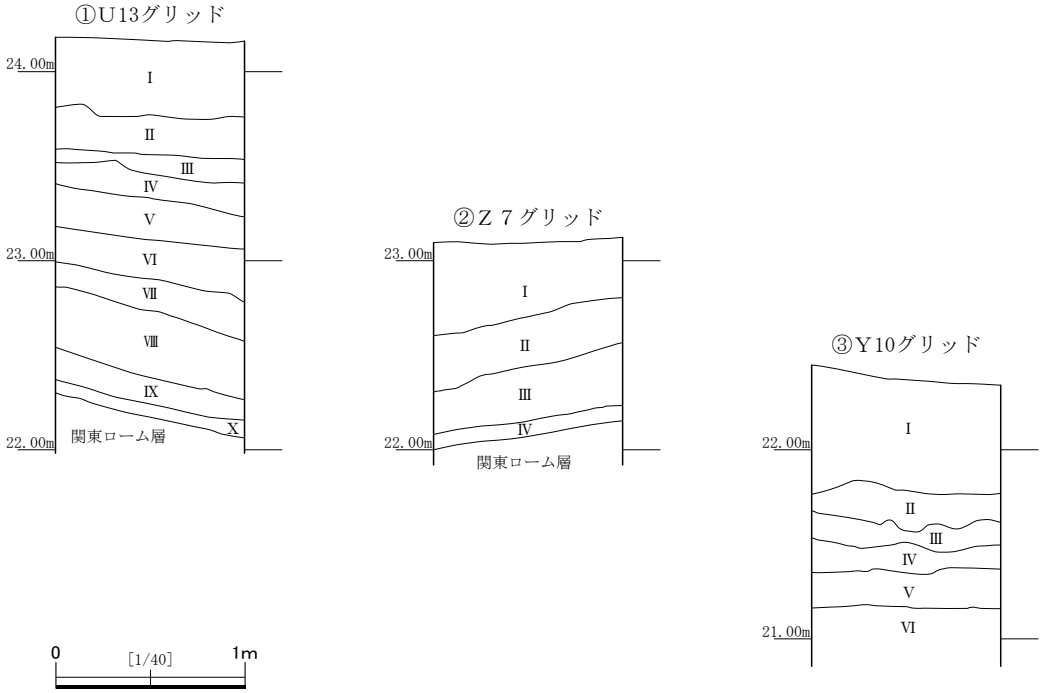
第ＸⅤ①層　灰褐色土　１～５㎜の黒色スコリアやや多量含む。粘性やや弱い。しまりやや強い。
第ＸⅤ②層　暗灰褐色土　１～５㎜の黒色スコリアやや多量含む。粘性やや弱い。しまりやや強い。
第ＸⅥ①層　黒灰褐色土　１～８㎜の黒色スコリア多量含む。粘性弱い。しまりあり。
第ＸⅥ②層　黒灰褐色土　１～８㎜の黒色スコリアやや多量含む。粘性弱い。しまりあり。
第ＸⅦ①層　黒灰色土　１～８㎜の黒色スコリア多量含む。粘性弱い。しまりあり。
第ＸⅦ②層　黒灰色土　１～８㎜の黒色スコリアやや多量含む。粘性弱い。しまりあり。

調整池②

本地区は富岡丘陵から字林台へ続く台地の南側に位置する。南東側に谷戸が入り込んでおり、地形は南東に向かって低く傾斜している。中世の土地利用によって調査区西端は関東ローム層まで削平されていたが、北東側のＵ・Ｖ13グリッドでは奈良・平安時代以前の土層が堆積しているのが確認された。また、谷戸が入り込んでいる調査区南東のＸ12・Ｙ11グリッド付近では遺構は発見されておらず、谷戸湿地を構成する暗青灰色～黒灰色の粘質土が検出されている。

第Ⅰ層　近年の盛土（関東ローム主体）。
第Ⅱ層　表土。
第Ⅲ層　暗茶褐色土　１～３㎜の橙色スコリア少量、１～５㎜の黒色スコリア少量含む。粘性あり。
　　しまりあり。上面で近世遺構確認。
第Ⅳ層　暗褐色土　１～３㎜の橙色スコリア少量、１～５㎜の黒色スコリア少量含む。粘性あり。
　　しまりやや弱い。上面で中世遺構確認。
第Ⅴ層　暗褐色土　１～３㎜の橙色スコリア微量、１～５㎜の黒色スコリア中量含む。粘性あり。
　　しまりあり。上面で中世遺構確認。
第Ⅵ層　黒褐色土　１～３㎜の橙色スコリア微量、１～８㎜の黒色スコリアやや多量含む。粘性弱い。
　　しまり弱い。
第Ⅶ層　暗茶褐色土　１～５㎜の橙色スコリア少量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。
第Ⅷ層　茶褐色土　１～５㎜の橙色スコリア中量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。
第Ⅸ層　明茶褐色土　１～５㎜の橙色スコリア少量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。
第Ⅹ層　明茶褐色土　１～５㎜の橙色スコリア微量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。ローム漸移層。





第170図　調整池②区基本土層図[1/600・1/40]

第２章　発見された遺構と遺物

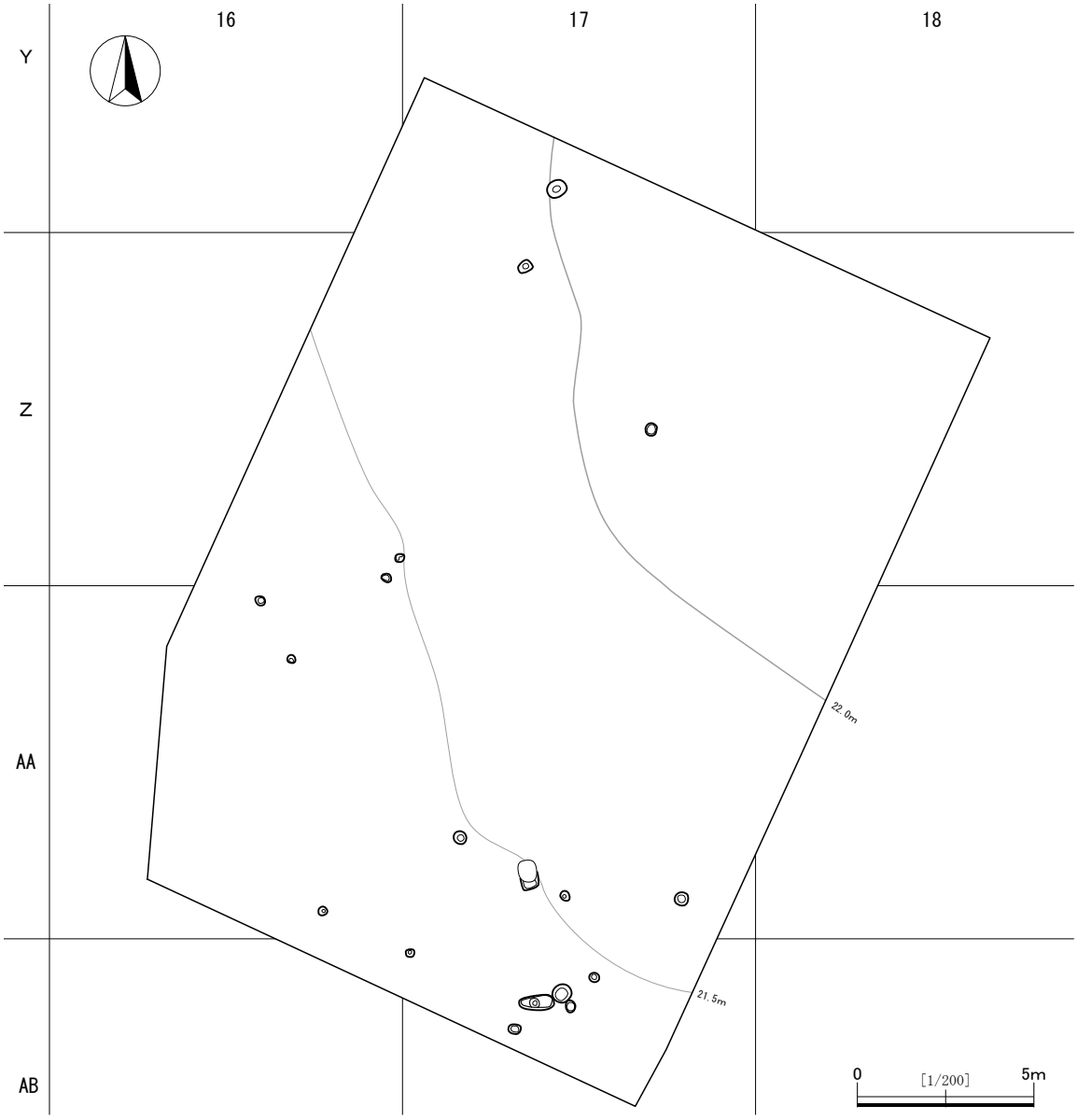
第１節　10区

１．近　世

10区で発見された近世の遺構はピット18である。

調査区は北東から南西に向かって傾斜しており、ピットの多くは南東側に分布している。検出された遺構から土地利用されていないことが伺える。

近世の出土遺物は、磁器碗３点(5.4ｇ)、磁器皿２点(5.5ｇ)、磁器瓶２点(364.1ｇ)、磁器蓋物1点(1.0ｇ)、磁器香炉１点(23.9ｇ)、磁器鉢１点(4.9ｇ)、陶器碗３点(43.9ｇ)、陶器皿３点(20.9ｇ)、陶

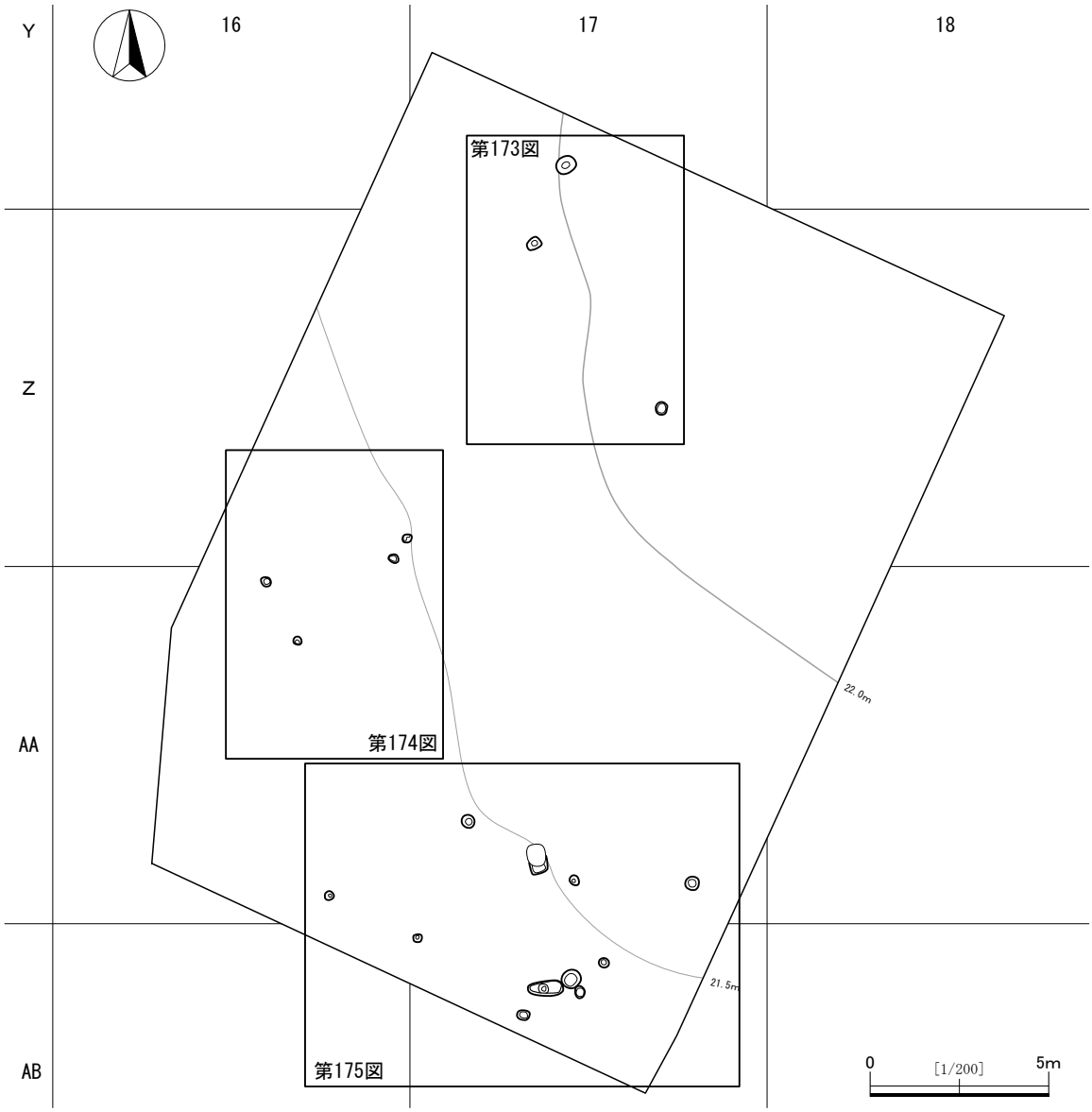


第171図　10区　近世遺構配置図[1/200]

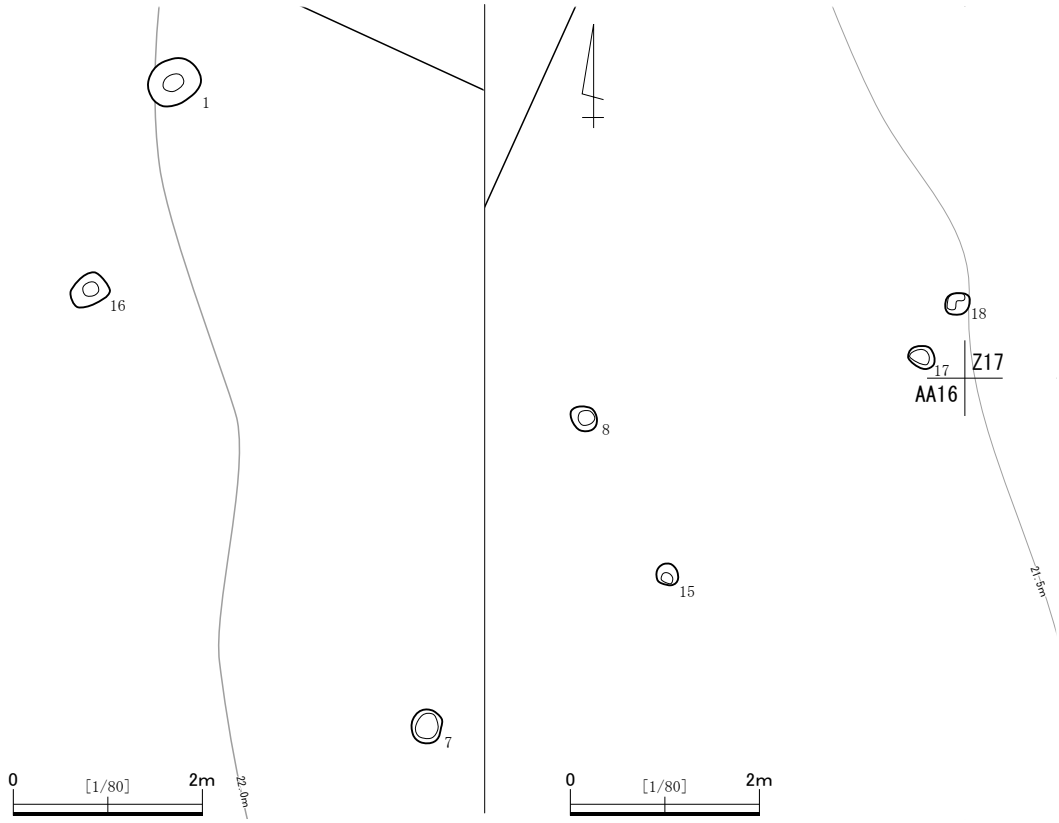
器燈明皿１点(1.5ｇ)、陶器香炉１点(2.9ｇ)、陶器擂鉢１点(37.4ｇ)、陶器片口鉢１点(4.9ｇ)、陶器土瓶１点(2.3ｇ)、金属製品(板状)１点(30.3ｇ)、石製品(石臼・砥石)５点(19,123.9ｇ)、鉄滓９点(321.7ｇ)である。なお、鉄滓については出土状況等から確実に中世の所産と判別出来るものはなかったため、近世の項で一括して表記した。総点数36点、総重量19,994.5ｇである。

（１）ピット(第171～177図、第36・37表、図版154－３)

近世のピットは調査区全体で18発見されている。主に調査区南側ＡＡ16・17、ＡＢ16・17に集中しており、西側、北側にも３～４基ずつ確認されている。平面形は円形或いは楕円形を呈し、確認面からの深さは0.10～0.30ｍが中心で、0.40ｍ、0.60ｍと比較的深さのあるピットも確認できる。断面形態はＵ字状が多い。形状や間隔に規則性が認められず、柱痕なども確認されなかった。各々の検出規模については第36表にまとめている。

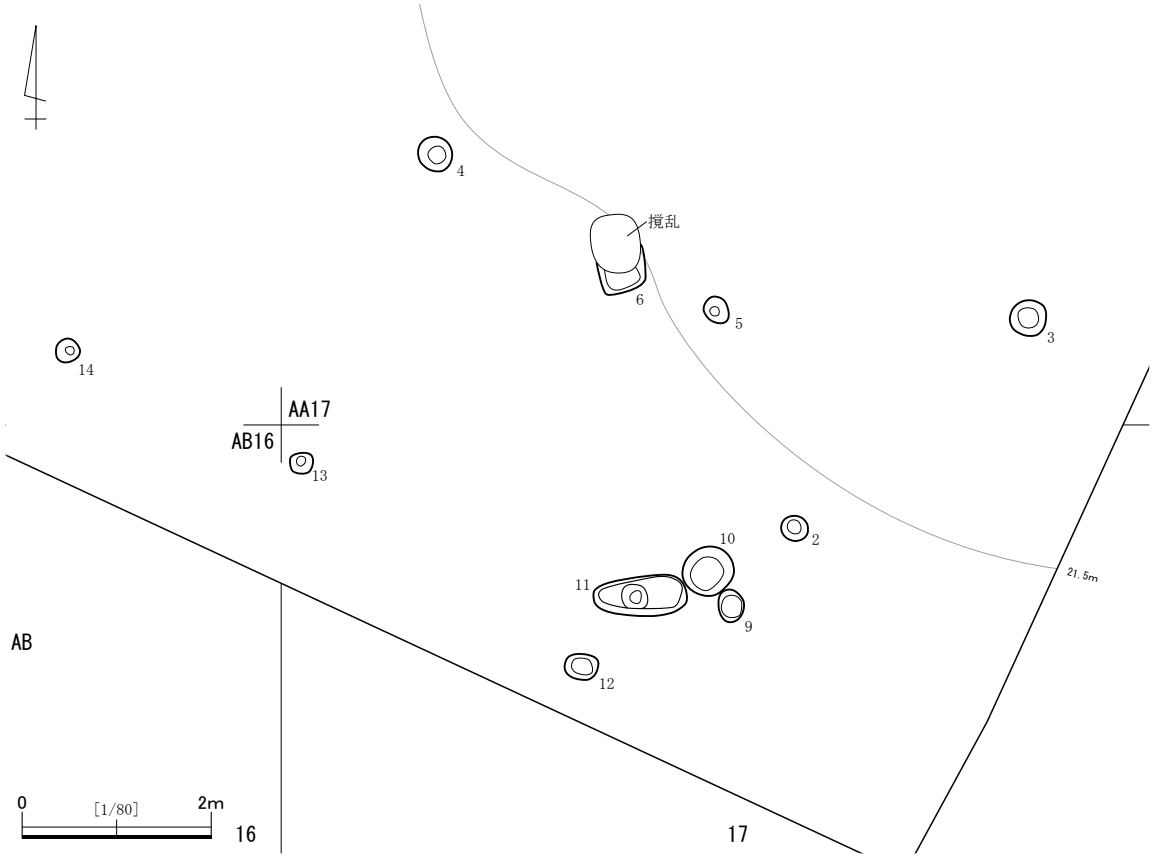


第172図　10区　近世ピット分布図[1/200]



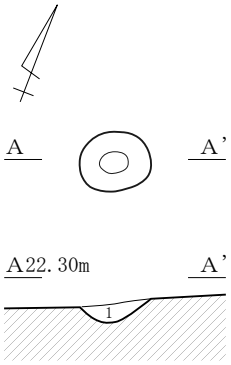
第173図　10区　近世ピット（１）[1/80]

第174図　10区　近世ピット（２）[1/80]



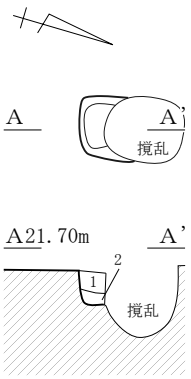
第175図　10区　近世ピット（３）[1/80]

Ｋ１号ピット



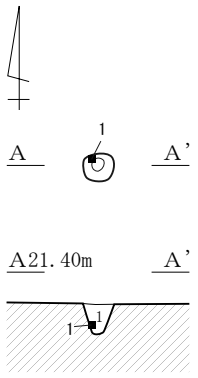
第１層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、ローム粒微量含む。

Ｋ６号ピット



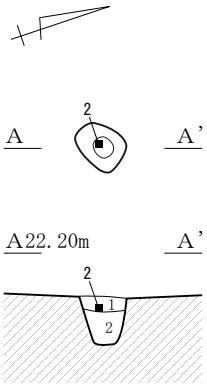
第１層　灰褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。やや砂質土。
第２層　灰褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

Ｋ13号ピット



第１層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、炭化物粒微量含む。

Ｋ16号ピット



第１層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、ローム粒微量含む。
第２層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、ローム粒少量含む。

■ 石製品

0　[1/60]　2m

第176図　10区Ｋ１・６・13・16号ピット[1/60]

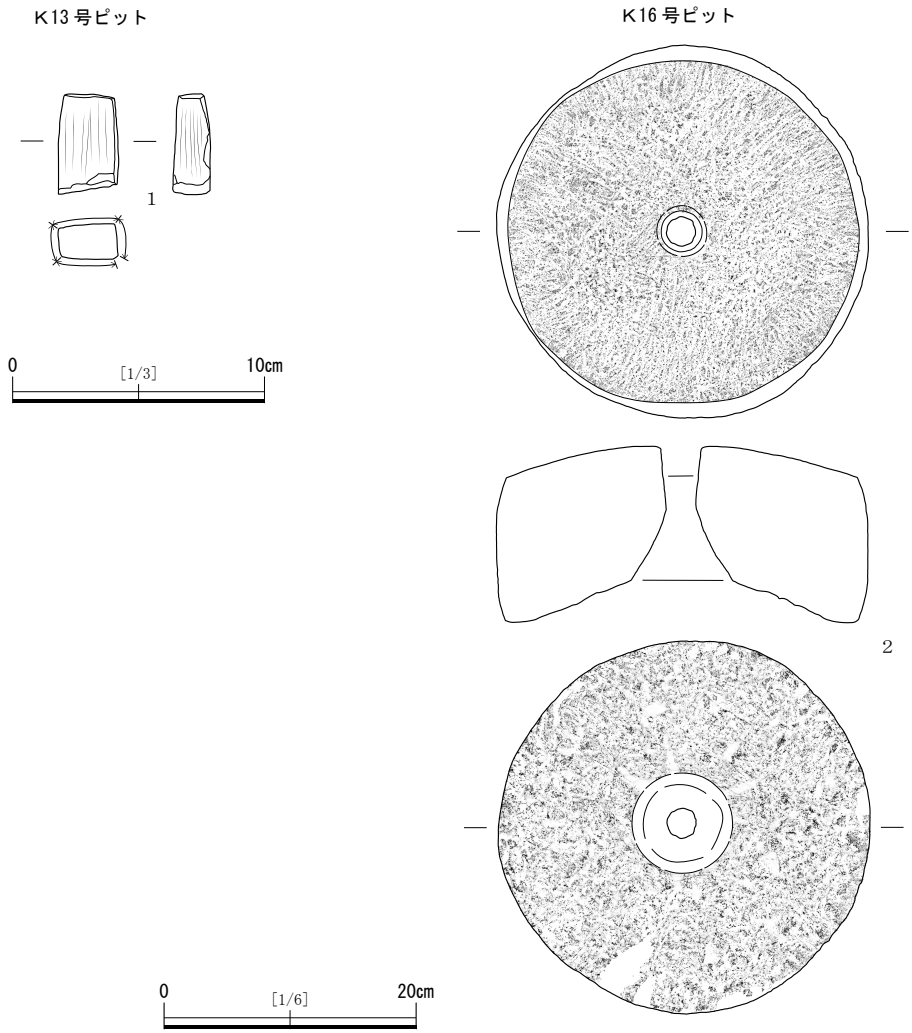
第36表　10区　近世ピット計測表［第171～176図］

遺構名	グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形	遺構名	グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形
K1号ピット	Y17	0.56	0.46	0.20	楕円形	K10号ピット	AB17	0.54	0.50	0.27	円形
K2号ピット	AB17	0.30	0.27	0.10	円形	K11号ピット	AB17	1.01	0.44	0.32	楕円形
K3号ピット	AA17	0.38	0.38	0.24	円形	K12号ピット	AB17	0.37	0.27	0.16	楕円形
K4号ピット	AA17	0.37	0.36	0.34	円形	K13号ピット	AB17	0.26	0.20	0.30	楕円形
K5号ピット	AA17	0.27	0.26	0.56	楕円形	K14号ピット	AA16	0.27	0.24	0.25	円形
K6号ピット	AA17	0.50	(0.32)	0.36	方形	K15号ピット	AA16	0.28	0.24	0.16	円形
K7号ピット	Z17	0.36	0.32	0.12	楕円形	K16号ピット	Z17	0.42	0.38	0.39	楕円形
K8号ピット	AA16	0.29	0.26	0.12	円形	K17号ピット	Z16	0.30	0.23	0.10	楕円形
K9号ピット	AB17	0.34	0.27	0.14	楕円形	K18号ピット	Z16・Z17	0.26	0.23	0.16	楕円形

遺物はＫ13、16号ピットから出土している。出土遺物は、石製品砥石１点(23.9g)、石臼１点(19㎏)であり、この２点を図化した。

第177図１は石製砥石である。形状は柱状を呈するが両端は欠損している。使用部分については側面４面に使用痕が見受けられる。材質は変質流紋岩である。Ｋ13号ピット出土である。２は石製品石臼の下臼である。完形で、中心にある軸受径は2.40 ～ 3.20㎝を測る。臼面はふくみがやや急でありまた、溝の痕跡も判然としない。使用頻度が高かったものと考えられる。材質は多孔質安山岩である。Ｋ16号ピット出土である。

遺構の時期は、年代を推定できる陶磁器類の出土がみられなかったため、検出状況から近世と想定されるが、詳細な時期等は不明である。



第177図　10区近世ピット出土遺物[1/3・1/6]

第37表　10区近世ピット出土遺物観察表［第177図］

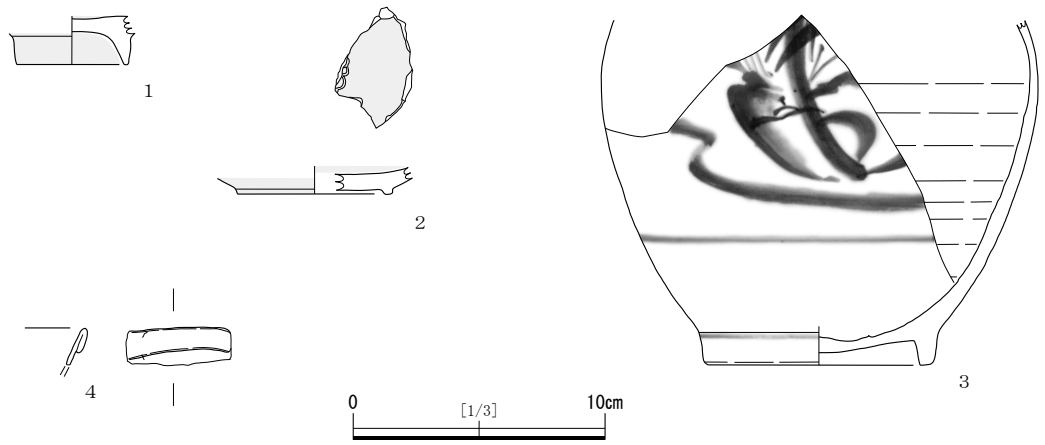
No.	種別	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	観察内容
1	砥石	変質流紋岩	(4.0)	2.4	1.5	23.9	残存度 上下面・側面の４面使用 備考 両端部欠損 出土位置 K13号ピット
2	石臼	多孔質安山岩	29.6	29.5	14.0	19,000.0	残存度 完形 備考 下臼、軸径3.3cm 位置 K16号ピット

（２）遺構外出土遺物（第178図、第38表、図版154－３）

近世の遺構外出土遺物は、磁器碗３点(5.4ｇ)、磁器皿２点(5.5ｇ)、磁器鉢１点(4.9ｇ)、磁器瓶２点(364.1ｇ)、磁器蓋物1点(1.0ｇ)、磁器香炉１点(23.9ｇ)、陶器碗３点(43.9ｇ)、陶器皿３点(20.9ｇ)、陶器燈明皿１点(1.5ｇ)、陶器香炉１点(2.9ｇ)、陶器擂鉢１点(37.4ｇ)、陶器片口鉢１点(4.9ｇ)、陶器土瓶１点(2.3ｇ)、金属製品（板状製品）１点(30.3ｇ)、石製品（石臼・砥石）３点(100.0ｇ)、鉄滓９点(321.7ｇ)である。総点数34点、総重量970.6ｇである。

そのうち４点を図化した。

第178図１～３は磁器片である。１は肥前産陶器灰釉呉器碗の高台部である。内外面は施釉されている。２は瀬戸・美濃産陶器灰釉皿の底部である。３は肥前産磁器染付瓶の胴部上半から底部片である。４は銅製鍋の口縁部片である。器厚１㎜ほどの胴部から外側へ約1.0㎝折り返して口縁部を作り出している。



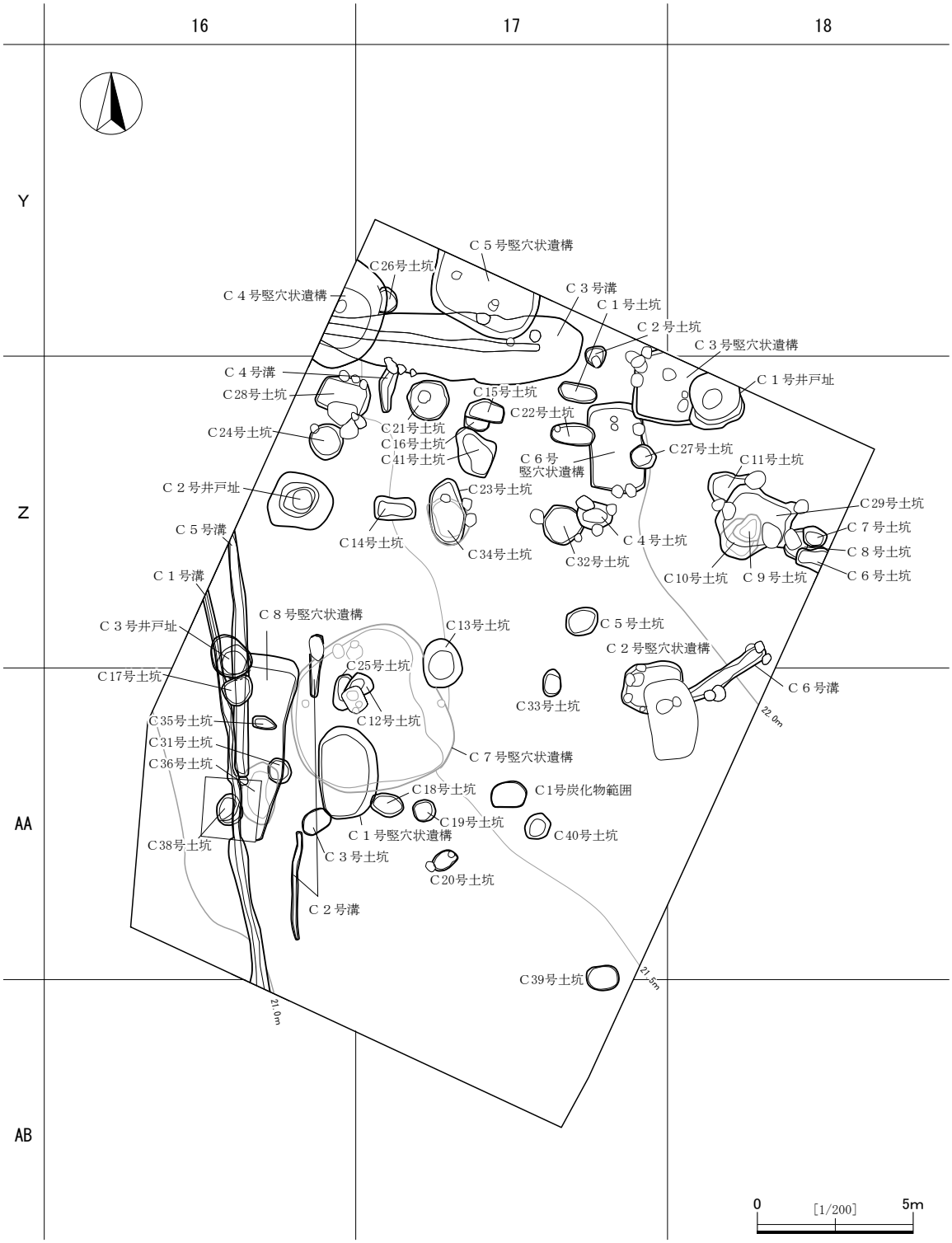
第178図　10区近世遺構外出土遺物[1/3]

第38表　10区近世遺構外出土遺物観察表［第178図］

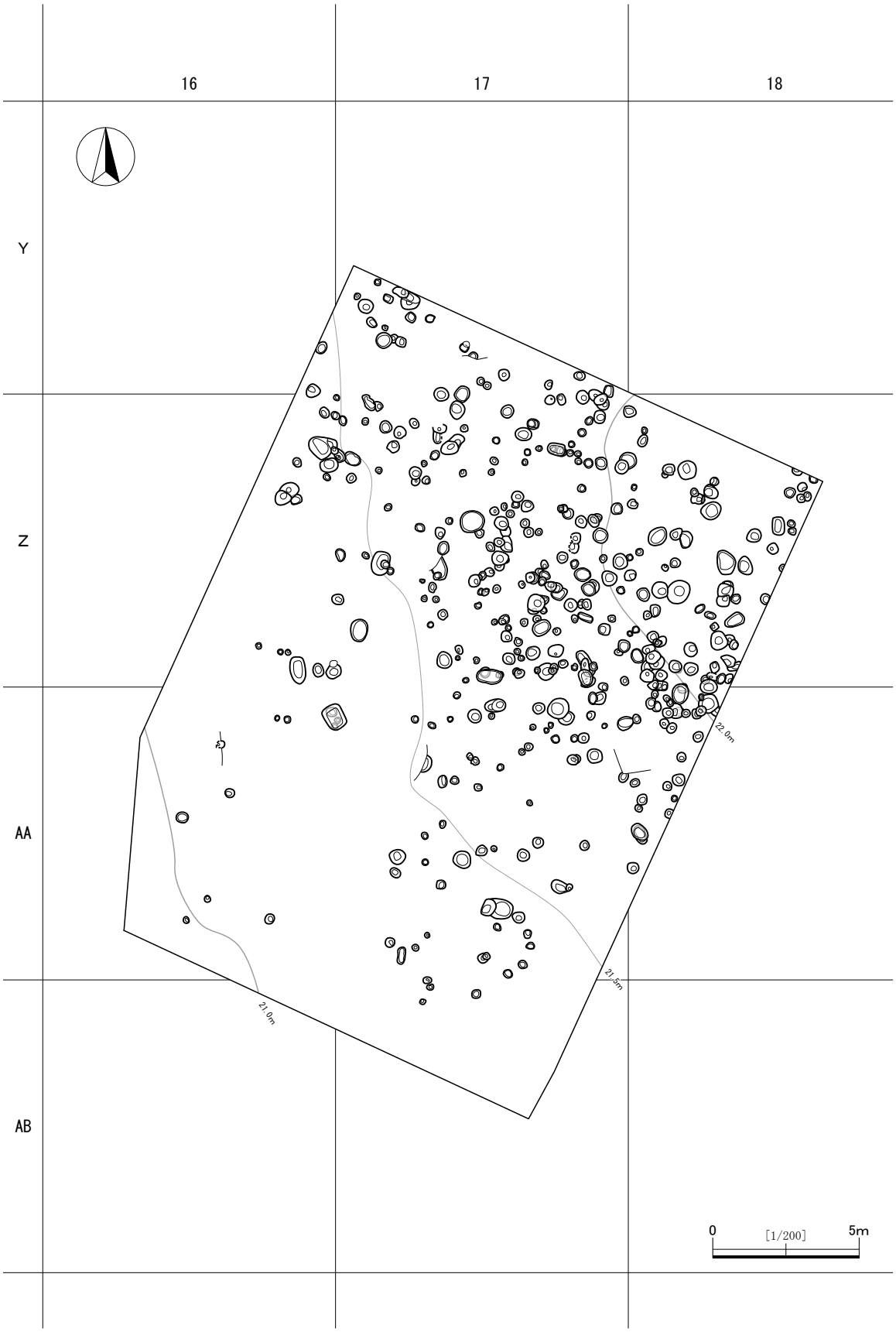
No.	器種	種別	()＝現存値 〔〕＝復元値 口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	残存度	産地	時期	観察内容
1	灰釉呉器碗	陶器	—	4.4	(1.9)	36.2	高台部完存	肥前	17世紀	胎土 密、浅黄色 焼成 良好 釉薬 オリーブ黄色 出土位置 表土
2	灰釉皿	陶器	—	〔5.8〕	(1.1)	9.5	底部1/5	瀬戸・美濃	19世紀	胎土 やや粗 にぶい黄橙色 焼成 良好 釉薬 オリー黄色 灰釉 出土位置 表土
3	染付瓶	磁器	—	9.2	(13.7)	334.8	体部1/2・底部1/3	肥前	近世	素地 緻密、灰色 焼成 堅緻 釉薬 呉須・透明釉 文様 外面草花文と一重圏線・高台一重圏線 出土位置 表土
No.	器種	材質	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	観察内容			
4	鍋	銅	4.1	1.5	0.4	10.2	残存度 口縁部破片 備考 縁を折り曲げ二重に成形			

２．中　世

10区で発見された中世の遺構は竪穴状遺構８基、溝状遺構６条、井戸址３基、土坑39基、ピット413基、炭化物範囲１ヶ所である。



第179図　10区　中世遺構配置図（ピット除く）［1/200］



第180図　10区　中世遺構配置図（ピットのみ）[1/200]

調査区は地形的に北東から南西へ緩やかに傾斜している。遺構は基本土層Ⅳ層上面で確認され、ほぼ全体に分布がみられるが、南側はやや希薄になる。中世において井戸や柱痕の残るピットの存在から生活域の展開が北側にあると想定される。

中世の出土遺物は青磁碗３点(57.７ｇ)、白磁皿２点(6.２ｇ)、白磁壺１点(1.４ｇ)、青白磁蓋１点(8.6g)、陶器碗１点(3.4g)、陶器皿６点(176.８ｇ)、陶器壺1点(2.３ｇ)、陶器甕31点(1,628.０ｇ)、陶器壺・甕３点(34.８ｇ)、陶器水注把手１点(9.７ｇ)、陶器鉢１点(10.８ｇ)、陶器片口鉢２点(27.６ｇ)、陶器擂鉢９点(416.６ｇ)、瓦質土器３点(30.０ｇ)、かわらけ407点(2,661.１ｇ)、土製品(土錘・鞴)３点(23.６ｇ)、金属製品(釘・刀子・小刀・鍋)４点(48.４ｇ)、銭貨７点(12.９ｇ)、石製品(砥石・石臼・石鉢)７点(2,989.７ｇ)、木製品(棒状・板状)７点、鉄滓20点(1,239.６ｇ)である。総点数520点、総重量9,389.２ｇである。

種類も豊富であり、舶載陶磁器やかわらけの出土量など注目される。

(１) 竪穴状遺構

Ｃ１号竪穴状遺構(第179・181～183図、第39表、図版42－１・155)

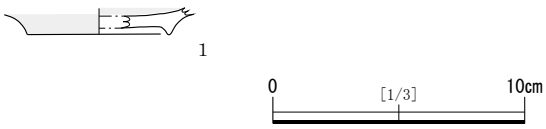
ＡＡ16・17グリッド境中央やや北寄りで発見された。検出面の標高は21.51ｍである。平面形は南北に長い楕円形を呈し、長軸方位は真北を示す。検出規模は長軸2.94ｍ、短軸1.90ｍで、確認面からの深さは北側で0.15ｍ、南側が浅くなり0.08ｍを測る。底面は平坦で、断面形は皿状に近い。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は陶器皿１点(8.４ｇ)が出土し、第181図に図化した。

第181図１は瀬戸・美濃産陶器灰釉皿の底部片である。高台部及び内外面は灰釉のツケガケが施される。高台内に重ね焼きの跡が２ヶ所残る。16世紀の製品と考えられる。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から16世紀と考えられる。



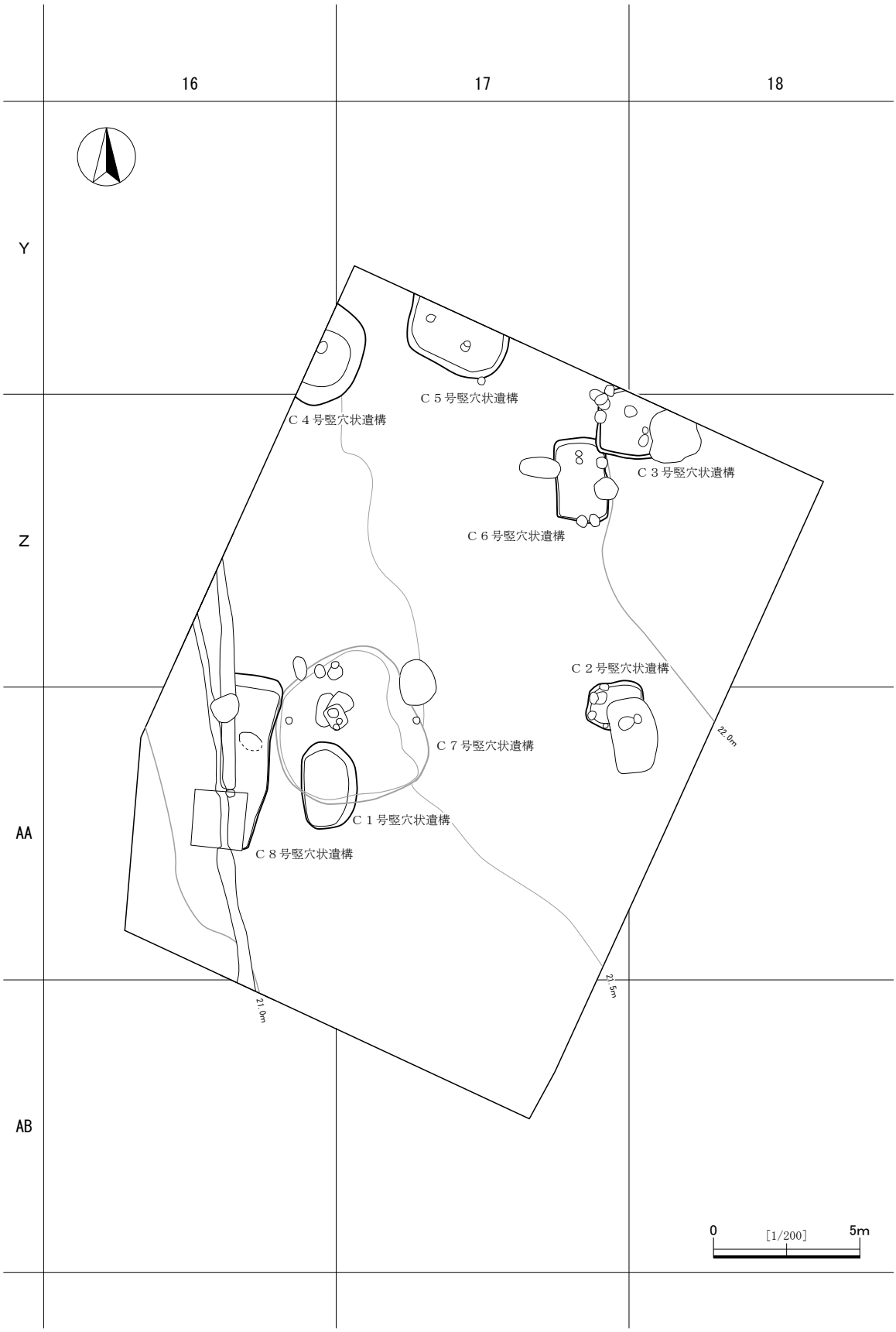
第181図　10区Ｃ１号竪穴状遺構出土遺物[1/3]

第39表　10区Ｃ１号竪穴状遺構出土遺物観察表［第181図］

No.	器種	種別	()＝現存値 〔〕＝復元値 口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	残存度	産地	時期	観察内容
1	灰釉皿	陶器	―	〔5.6〕	(1.0)	8.4	底部1/4	瀬戸・美濃	16世紀	胎土 にぶい黄橙色 焼成 良好 釉薬 オリーブ色 備考 高台内に重ね焼きの目跡

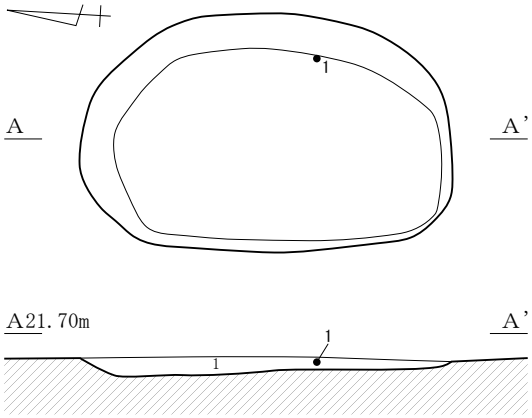
Ｃ２号竪穴状遺構(第179・182・183図、図版42－２)

Ｚ～ＡＡ17・18グリッド境で発見された。東側にＣ６号溝状遺構が確認されているが南東側の攪乱により切り合い関係は不明である。また、西側はＣ205、206、208ピットに切られている。検出面の標高は21.95ｍ～22.15ｍである。平面形は攪乱により不明瞭ではあるが方形或いは不整方形を呈すると思われる。



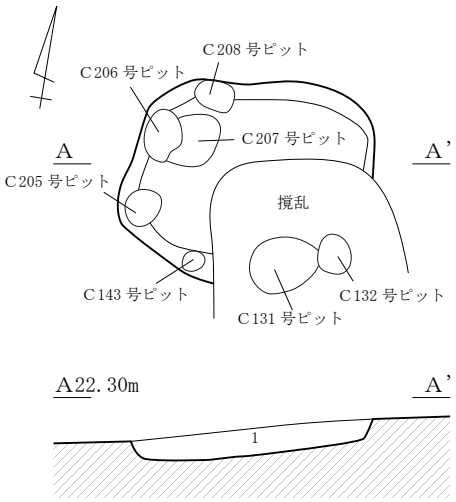
第182図　10区　中世竪穴状遺構分布図[1/200]

Ｃ１号竪穴状遺構



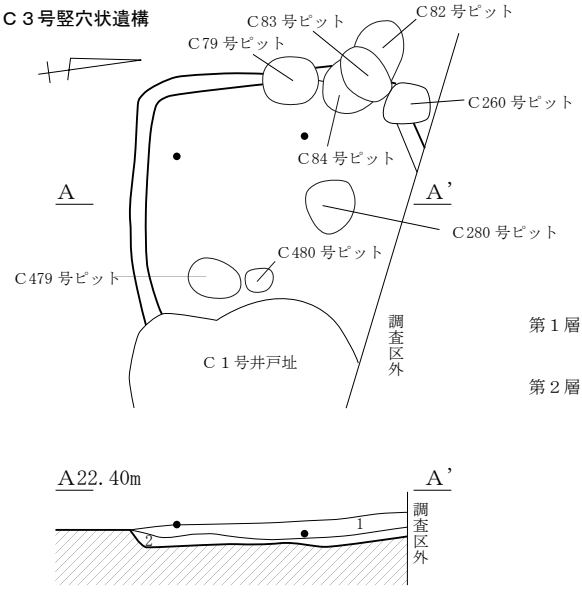
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、乳白色土ブロック微量、ローム粒やや多量、炭化物粒微量含む。

Ｃ２号竪穴状遺構



第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒・乳白色土ブロック・焼土粒微量含む。

Ｃ３号竪穴状遺構



第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリアやや多量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒少量含む。

第２層　明茶褐色土　粘性やや強く、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリアやや多量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、径１～２㎜のローム粒微量含む。

● 土器

0　[1/60]　2m

第183図　10区Ｃ１～３号竪穴状遺構[1/60]

検出規模は東西1.85ｍ、南北1.51ｍ以上で、確認面からの深さは北側で0.20ｍを測る。底面は平坦で、断面形は箱型に近い。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｃ３号竪穴状遺構（第179・182・183図、図版43－１）

Ｙ～Ｚ17、Ｚ18グリッド境で発見された。北東側は調査区外へ延伸すると思われ、東側はＣ１号井戸に壊されている。また、中央はＣ205、206、208ピットに切られている。検出面の標高は22.11ｍ～22.21ｍである。平面形は攪乱により不明瞭ではあるが方形或いは不整方形を呈すると思われる。検出規模は南北2.29ｍ、東西2.20ｍ以上で、確認面からの深さは0.15～0.21ｍを測る。底面はやや起伏があり、断面形は皿状に近い。

覆土は茶褐色土及び明茶褐色の２層に分層される。

遺物は珪質粘土岩製（鳴滝産）の砥石片１点（18.7ｇ）が出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｃ４号竪穴状遺構（第179・182・184図）

Ｙ・Ｚ16・17グリッド境で発見された。西側は調査区外へ展開すると思われる。北東約1.40ｍにＣ５号竪穴状遺構がある。検出面の標高は21.72ｍである。平面形は円形或いは楕円形を呈すると考えられる。検出規模は南北3.60ｍ、東西1.61ｍ以上で、確認面からの深さは0.82ｍを測る。底面は平坦で、断面形は逆台形を呈する。

覆土は６層に分層され、上層にあたる第１層から第３層が暗茶褐色土、第４層から第６層が茶褐色土に分層される。

遺物は常滑産陶器甕３点（99.3ｇ）、かわらけ５点（30.4ｇ）、総点数８点、総重量129.7gが出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ５号竪穴状遺構（第179・182・184図、図版43－２）

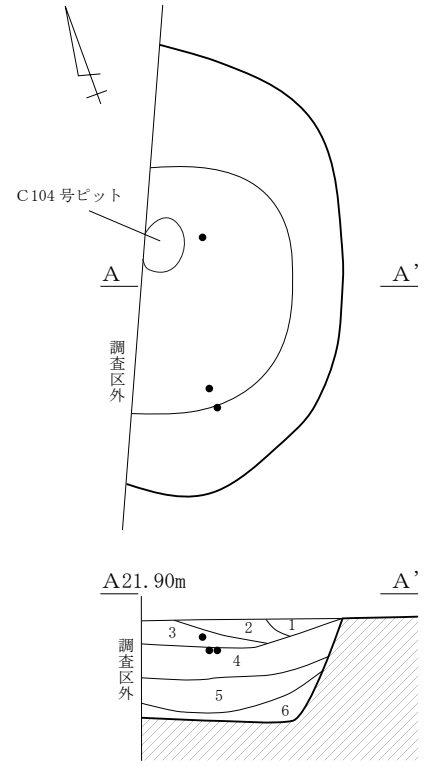
Ｙ17グリッド中央で発見された。北側は調査区外へ展開すると思われる。南西約1.40ｍにＣ４号竪穴状遺構がある。南側上端はＣ289号ピットに切られている。検出面の標高は21.81ｍである。平面形は方形或いは不整方形を呈すると思われる。検出規模は東西3.55ｍ、南北1.85ｍ以上で、確認面からの深さは0.15ｍを測る。底面は平坦で、断面形は逆台形を呈する。

覆土は第１層が茶褐色土、第２・３層が暗茶褐色土で３層に分層される。

遺物は常滑産陶器甕１点（57.6ｇ）が出土したが、小片のため図化していない。

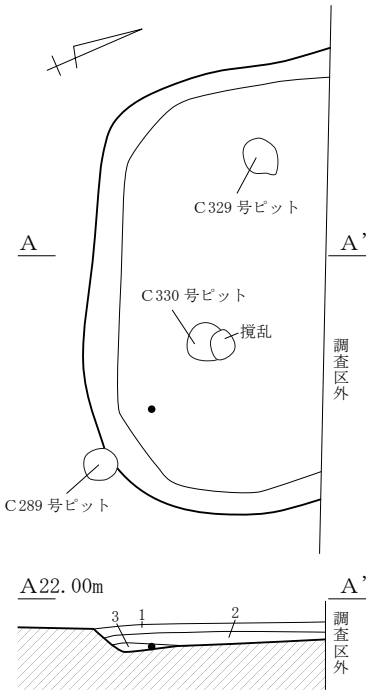
遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ４号竪穴状遺構



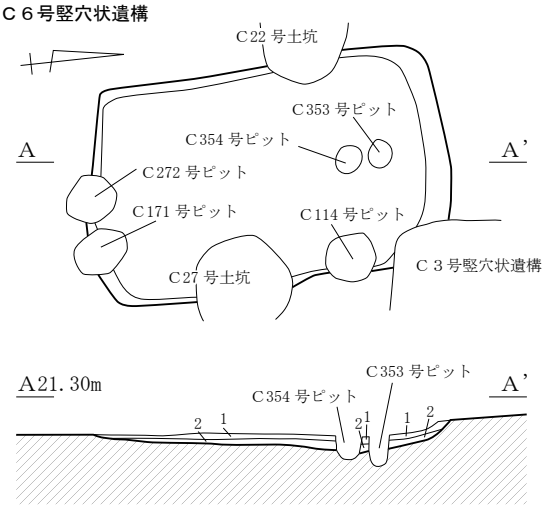
第１層　暗茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、径１～３㎜のローム粒微量、炭化物粒微量含む。
第２層　暗茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、径１～５㎜のローム粒やや多量含む。
第３層　暗茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。
第４層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリアやや多量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒少量含む。
第５層　茶褐色土　粘性・しまりやや強い。径１～５㎜の橙色スコリア中量、径１～３㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒・ローム粒微量含む。
第６層　茶褐色土　粘性・しまりやや強い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～３㎜の黒色スコリア微量含む。

Ｃ５号竪穴状遺構



第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒少量含む。
第２層　暗茶褐色土　粘性あり、しまりやや強い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒中量、炭化物粒微量含む。
第３層　暗茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、径１～２㎜のローム粒微量含む。

Ｃ６号竪穴状遺構



第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒少量、明茶褐色土ブロック微量含む。
第２層　明茶褐色土　粘性・しまりやや強い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、茶褐色土ブロック少量含む。

● 土器

0　[1/60]　2m

第184図　10区Ｃ４～６号竪穴状遺構[1/60]

Ｃ６号竪穴状遺構（第179・182・184図、図版44－１）

Ｚ17グリッド北東側で発見された。北東角はＣ３号竪穴状遺構、西壁はＣ22号土坑、東壁はＣ27号土坑、Ｃ114号ピット、南壁はＣ171、272号ピットにそれぞれ切られている。検出面の標高は北側が21.14ｍ、南側が21.02ｍである。平面形は南北に長い楕円形を呈し、長軸方位は真北を示す。検出規模は南北2.84ｍ、東西1.80ｍで、確認面からの深さは0.05～0.10ｍを測る。底面はやや起伏があり、断面形は皿状に近い。

覆土は茶褐色土及び明茶褐色の２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｃ７号竪穴状遺構（第179・182・185・186図、図版44－２・155）

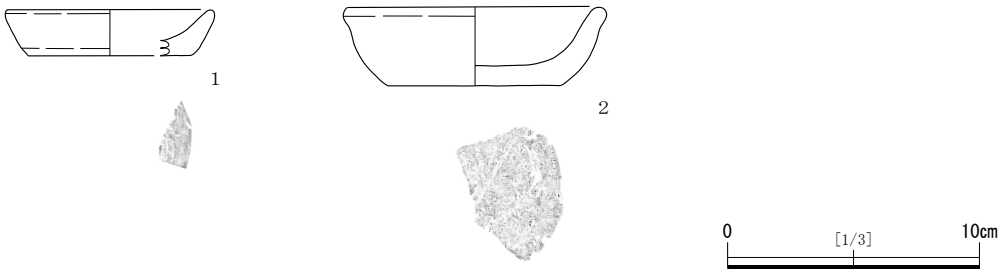
Ｚ～ＡＡ16・17グリッド境で発見された。北東側はＣ13号土坑、Ｃ397号ピット、北西側はＣ130号ピットに上端を切られている。検出面の標高は21.45ｍである。平面形は不整方形或いは不整円形を呈する。検出規模は東西4.90ｍ、南北5.20ｍで、確認面からの深さは0.45ｍを測る。底面はやや起伏があり、断面形は皿状に近い。

覆土は茶褐色土で２層に分層される。

遺物は瀬戸産陶器碗１点（3.4ｇ）、常滑産陶器水注把手１点（9.7ｇ）、常滑産陶器甕２点（83.1ｇ）、常滑産陶器片口鉢１点（18.0ｇ）、かわらけ24点（181.8ｇ）、鉄滓１点（3.9ｇ）、総点数30点、総重量299.9ｇである。そのうち２点を図化した。

第185図１・２はかわらけである。１は平らな底部から直線的に短く立ち上がる。器壁の厚い小型のかわらけである。２は糸切り痕が残る平らな底部からやや丸みをもって立ち上がり、口縁部は外反する。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から15世紀の所産と考えられる。

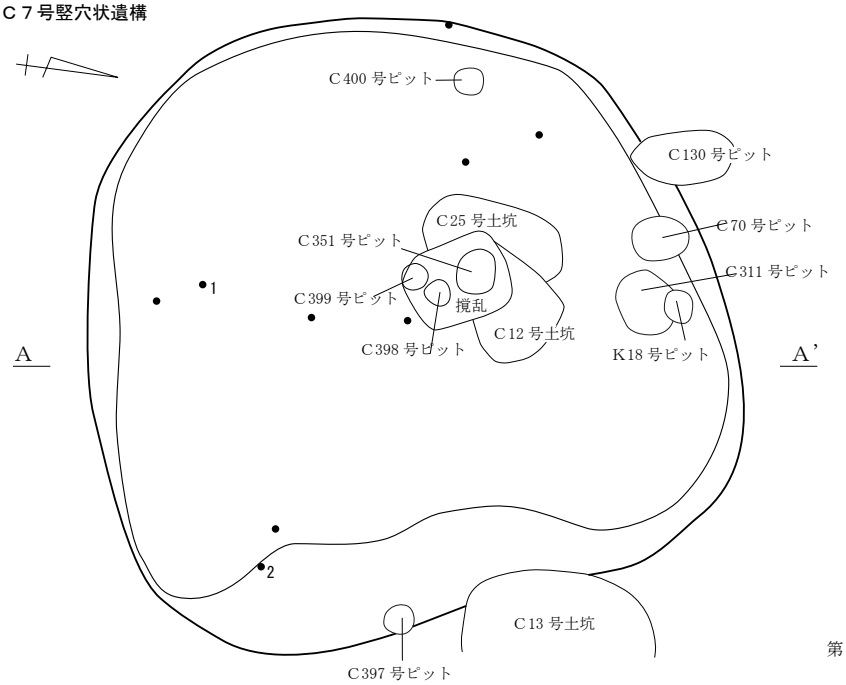


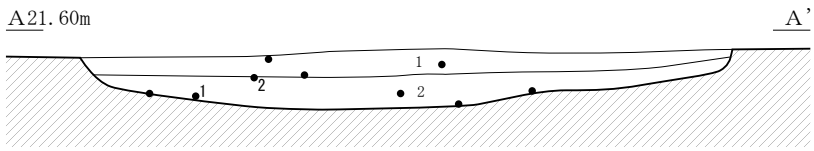
第185図　10区Ｃ７号竪穴状遺構出土遺物[1/3]

第40表　10区Ｃ７号竪穴状遺構出土遺物観察表［第185図］

No.	器種	種別	()＝現存値〔〕＝復元値 口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	残存度	産地	時期	観察内容
1	かわらけ	土器	〔8.0〕	〔6.4〕	1.8	7.5	口縁部～底部1/6	在地	15世紀	胎土 橙色、密、赤色スコリア・角閃石・雲母を含む 焼成 良好 備考 底部回転糸切り痕確認できず
2	かわらけ	土器	〔10.0〕	〔6.8〕	3.1	41.2	口縁部1/8・体部1/2・底部1/3	在地	15世紀	胎土 橙色、やや粗、砂粒・角閃石・白色針状物質・雲母を含む 焼成 良好 備考 底部回転糸切り痕

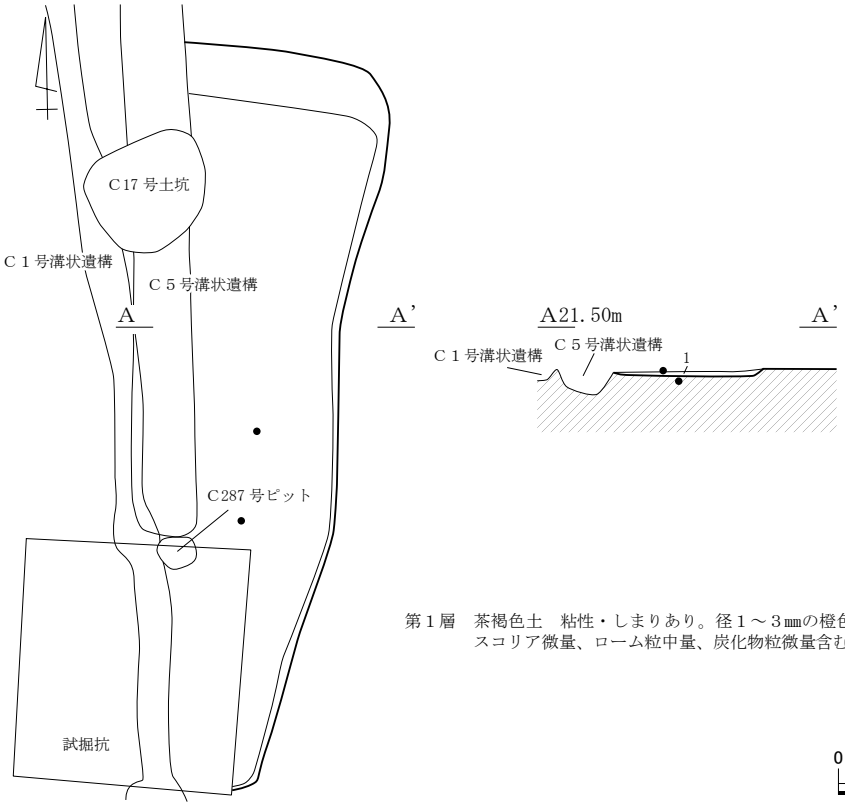
Ｃ７号竪穴状遺構





第１層　茶褐色土　粘性弱く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒・ローム粒微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒少量、炭化物粒微量含む。

Ｃ８号竪穴状遺構



第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒中量、炭化物粒微量含む。

● 土器

0　[1/60]　2m

第186図　10区Ｃ７・８号竪穴状遺構[1/60]

Ｃ８号竪穴状遺構（第179・182・186図）

Ｚ～ＡＡ16グリッド境で発見された。検出面の標高は21.15ｍである。西側はＣ287号ピット、Ｃ１、５号溝状遺構に切られており、覆土も浅いため西側のプランは確認できなかった。残存部分から平面形は長方形を呈すると想定される。検出規模は南北6.00ｍ、東西1.60ｍ以上で、確認面からの深さは0.04ｍを測る。底面は平坦で、断面形は皿状に近い。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物はかわらけ２点（6.2ｇ）が出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

（２）溝状遺構

Ｃ１号溝状遺構（第179・187・188図、図版45－１）

Ｚ～ＡＢ16グリッドやや東寄りで発見された。主軸方位はＮ－８°－Ｗを示し、両端は調査区外へ延伸する。北側でＣ17号土坑に、試掘坑付近ではＣ287号ピットに切られている。検出面の標高は21.20～21.27ｍである。検出規模は全長13.22ｍ、幅0.44～0.60ｍ、確認面からの深さは0.09～0.20ｍを測る。断面形は碗形を呈している。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物はかわらけ４点（18.9ｇ）が出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｃ２号溝状遺構（第179・187・189図、図版45－１）

Ｚ～ＡＡ16グリッド東寄りで発見された。残存状況が悪く北側と南側に分断している。主軸方位はＮ－５°－Ｅを示し、北端はＣ130号ピットに切られている。検出面の標高は北側が21.34ｍ、南側が21.24ｍで南に向かい低くなる。北の検出長は2.15ｍ、南の検出長は4.00ｍ、分断部分の距離は4.25ｍ9である。幅0.18～0.30ｍ、確認面からの深さは0.09～0.15ｍを測る。断面形は北側が皿状、南側は逆台形を呈している。

覆土は褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

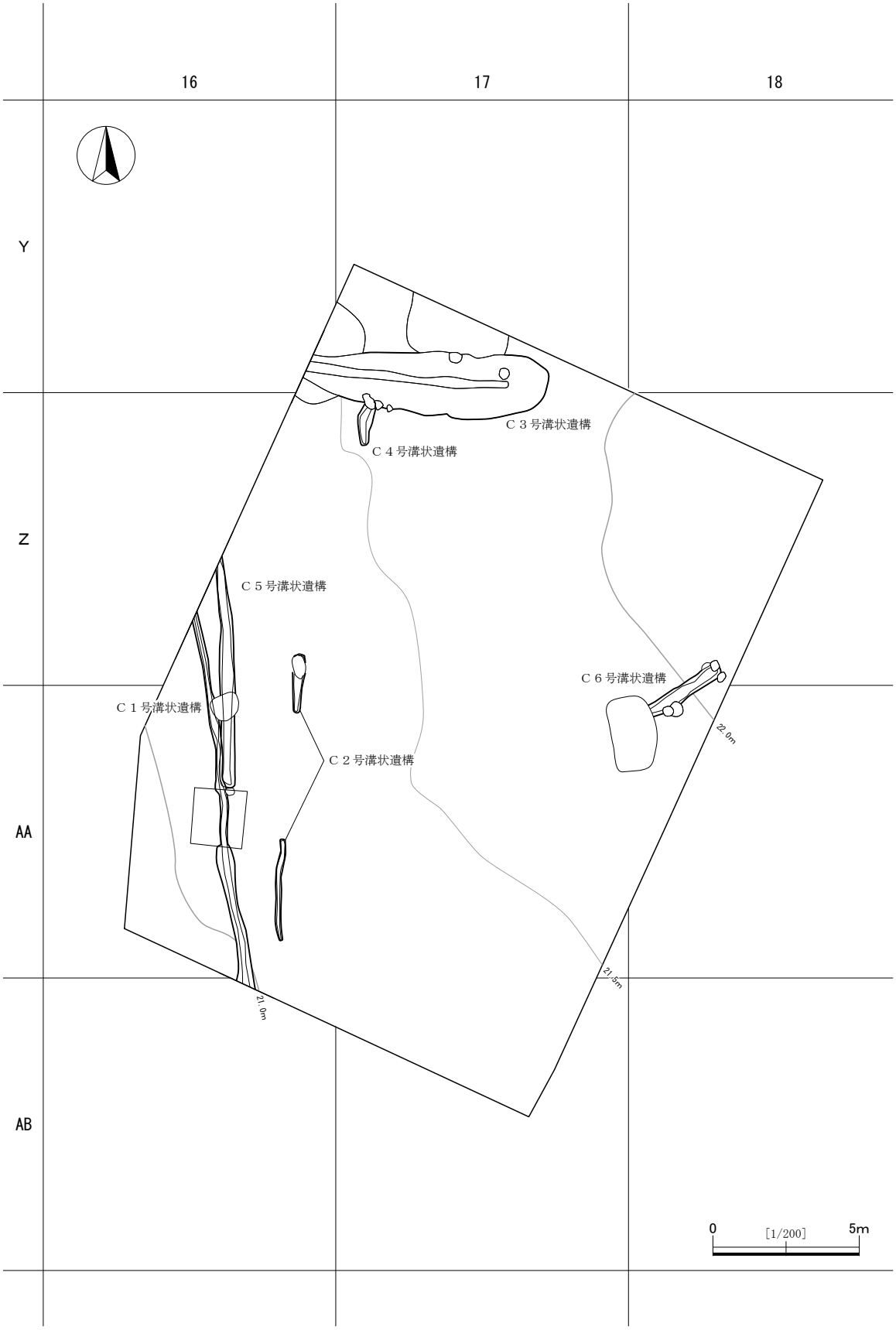
遺構の時期は、Ｃ７号竪穴状遺構の下から発見されており中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｃ３号溝状遺構（第179・187・190・191図、第41表、図版45－２・155・157－１）

Ｙ・Ｚ16～17グリッド境で発見された。主軸方位はＮ－95°－Ｅを示し、西端は調査区外へ延伸する。北側はＣ５号竪穴状遺構、西側はＣ４号竪穴状遺構に切られている。検出面の標高は21.79ｍである。検出規模は全長8.18ｍ、上端幅2.04ｍ、下端幅0.30ｍ、確認面からの深さは1.25ｍを測る。断面形はＶ字形を呈している。

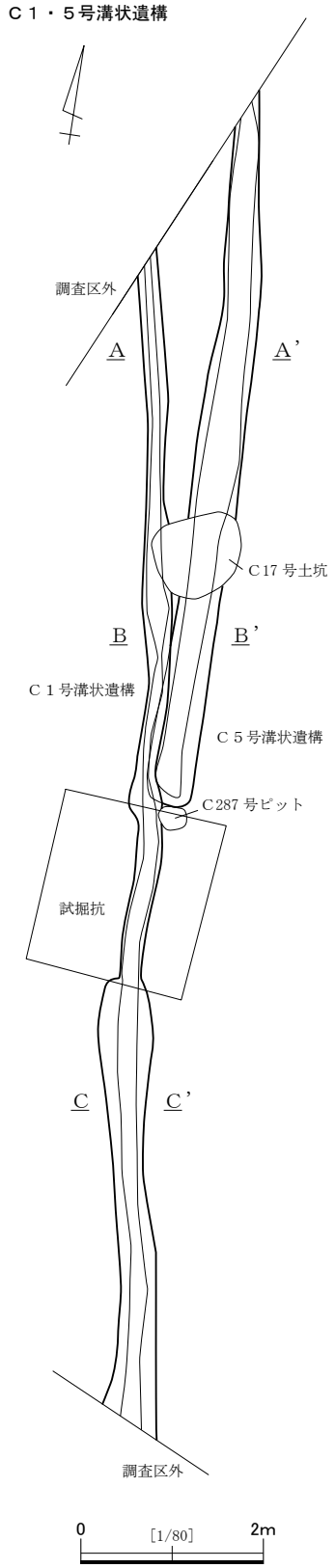
覆土は５層からなり、上層は茶褐色主体で３層、下層は暗茶褐色主体で２層に分層される。

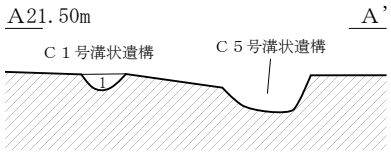
規模の大きさ、断面形から区画溝の可能性も考えられる。

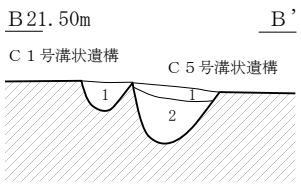


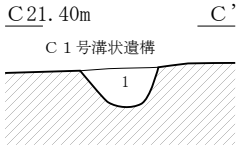
第187図　10区　中世溝状遺構分布図[1/200]

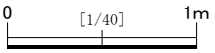
Ｃ１・５号溝状遺構









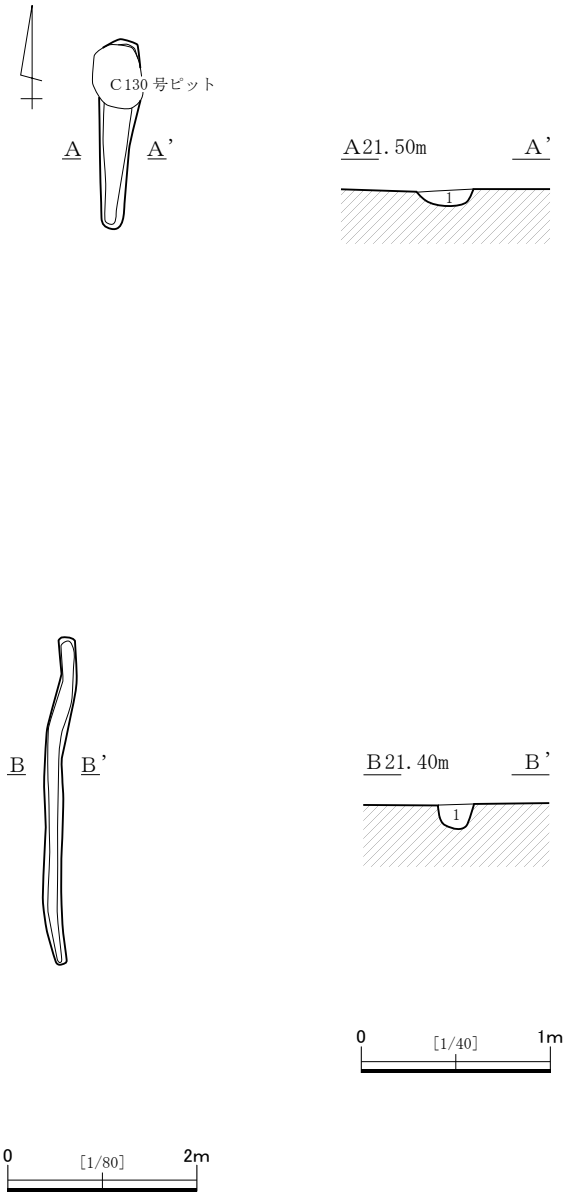


Ｃ１号溝状遺構
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。

Ｃ５号溝状遺構
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリアやや多量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、径１㎜以下のローム粒微量含む。

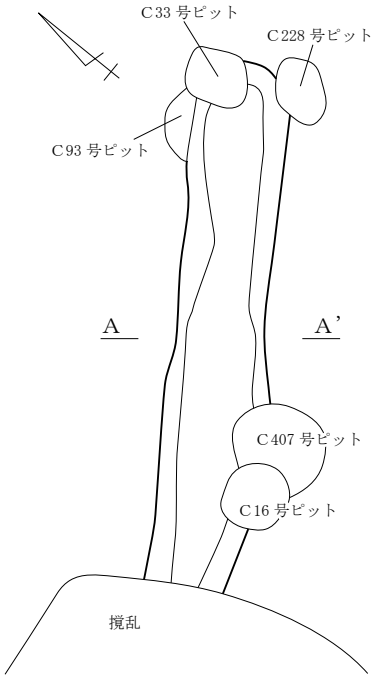
第188図　10区Ｃ１・５号溝状遺構[1/80・1/40]

Ｃ２号溝状遺構



第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリアやや多量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒・暗褐色土ブロック・ローム粒微量含む。

Ｃ６号溝状遺構



第１層　暗褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少7量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、炭化物粒微量含む。
第２層　暗褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少7量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、暗褐色土ブロック微量含む。

第189図　10区Ｃ２・６号溝状遺構[1/80・1/40]

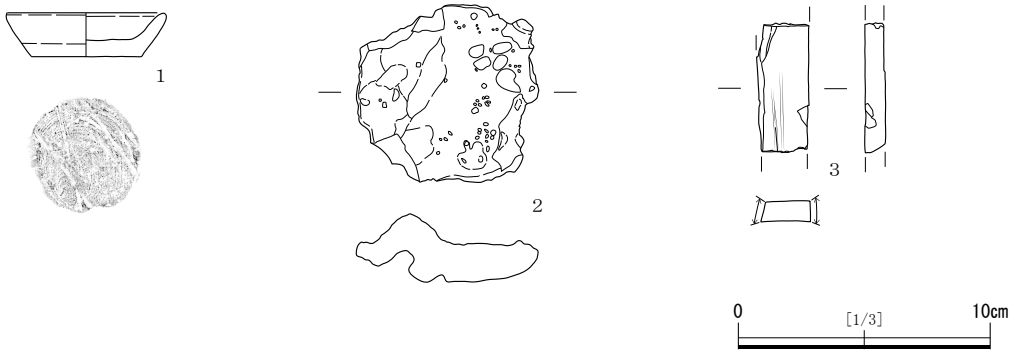
遺物は白磁皿１点(3.1ｇ)、常滑産陶器甕２点(94.1ｇ)、かわらけ３点(60.1ｇ)、椀型滓１点(177.7ｇ)、砥石１点(15.6ｇ)、総点数８点、総重量350.6ｇである。そのうち３点を図化した。

第190図１はかわらけである。糸切り痕、スノコ痕が残る平らな底部から直線的に短く立ち上がる。器壁の厚い小型のかわらけである。

第190図２は椀型滓である。内外面とも発泡している。

第190図３は砥石である。薄く扁平な仕上げ砥で石材は流紋岩である。

遺構の時期は、出土したかわらけから15世紀前半～中頃と考えられるが、Ｃ４・５号竪穴状遺構以前の中世と推定される。



第190図　10区Ｃ３号溝状遺構出土遺物[1/3]

第41表　10区Ｃ３号溝状遺構出土遺物観察表［第190図］

No.	器種	種別	()＝現存値 〔〕＝復元値 口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	残存度	産地	時期	観察内容
1	かわらけ	土器	6.2	4.3	1.7	27.0	口縁部～体部3/4・底部完存	在地	15世紀前半～中頃	胎土 橙色、密、白色針状物質･角閃石･雲母･赤色スコリアを含む 焼成 良好 備考 底部回転糸切り痕・スノコ痕
No.	器種	材質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	観察内容			
2	椀型滓	鉄	7.1	7.2	1.5	177.9	備考 器面が発砲			
No.	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	観察内容			
3	砥石	流紋岩	(5.1)	2.1	0.8	15.6	残存度 両端部欠損 備考 上下面・側面の４面使用、仕上げ砥			

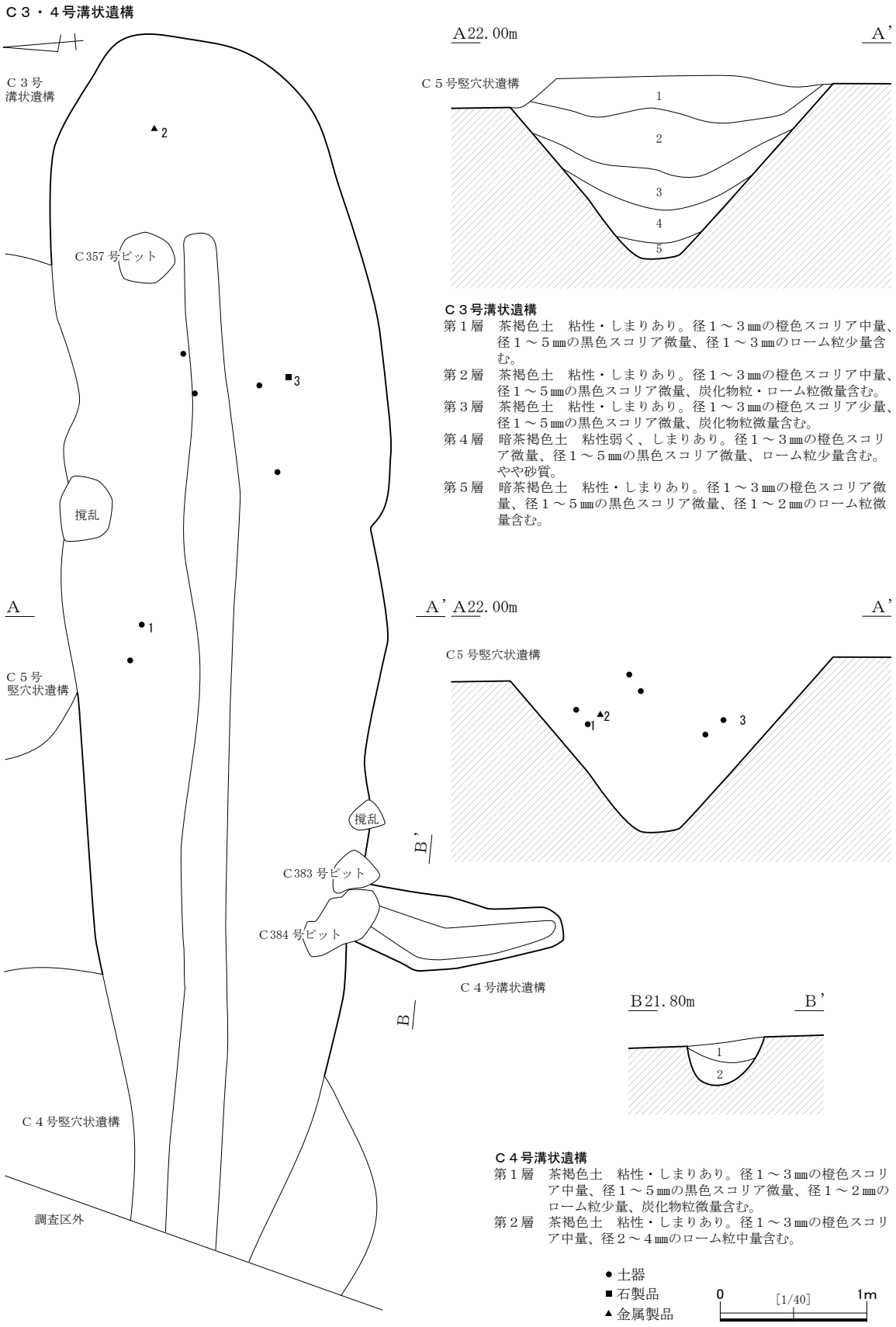
Ｃ４号溝状遺構（第179・187・191図）

Ｚ17グリッド北西角で発見された。主軸方位はＮ－９°－Ｅを示し、北側はＣ３号溝状遺構、Ｃ383、384号ピットに切られている。検出面の標高は21.62ｍである。検出規模は全長1.40ｍ、幅0.52ｍ、確認面からの深さは0.30ｍを測る。断面形は碗形に近い。

覆土は茶褐色土で２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、Ｃ３号溝状遺構以前の中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



Ｃ３号溝状遺構

第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、径１～３㎜のローム粒少量含む。

第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒・ローム粒微量含む。

第３層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。

第４層　暗茶褐色土　粘性弱く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。やや砂質。

第５層　暗茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、径１～２㎜のローム粒微量含む。

Ｃ４号溝状遺構

第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、径１～２㎜のローム粒少量、炭化物粒微量含む。

第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径２～４㎜のローム粒中量含む。

第191図　10区Ｃ３・４号溝状遺構[1/40]

Ｃ５号溝状遺構（第179・187・188図）

Ｚ～ＡＡ16グリッドやや東寄りで発見された。主軸方位はＮ－２°－Ｗを示し、北端は調査区外へ延伸する。中央部分はＣ17号土坑、南端はＣ１号溝状遺構に切られている。検出面の標高は21.26ｍである。検出規模は全長8.00ｍ、幅0.45ｍ、確認面からの深さは0.17～0.30ｍを測る。断面形は碗形に近い。

覆土は茶褐色土で２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｃ６号溝状遺構（第179・187・189図）

Ｚ～ＡＡ18グリッド西寄りで発見された。主軸方位はＮ－55°－Ｅを示し、南西端は攪乱により壊されている。北東端はＣ33、93、228号ピット、南西壁はＣ16、407号ピットに切られている。検出面の標高は22.06ｍである。検出規模は全長2.87ｍ、幅0.48ｍ、確認面からの深さは0.22ｍを測る。断面形は箱形を呈している。

覆土は暗褐色土で２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

（３）井戸址

Ｃ１号井戸址（第179・192・193図、図版46－１）

Ｚ18グリッド北西隅で発見された。北側の上端の一部は調査区外へ延びる。検出面の標高は22.44ｍである。平面形は円形であるが南半分は半円形の段をもつテラスが確認される。検出規模は上端径1.60ｍ以上で、テラス部分を含めると南北1.81ｍ、下端径は0.48ｍを測る。確認面からの深さはテラスまで0.30ｍ、下端まで1.56ｍを測る。断面は南側に段を有する逆台形を呈する。底面は平坦で、壁は急な角度で立ち上がる。

覆土はテラス部分が褐色土、下層は茶褐色土と暗黄褐色土の３層に分層されるが第２層の茶褐色土が主体である。

遺物は常滑産陶器片口鉢１点（9.6ｇ）、かわらけ５点（27.7ｇ）、総点数６点、総重量37.3ｇであるが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

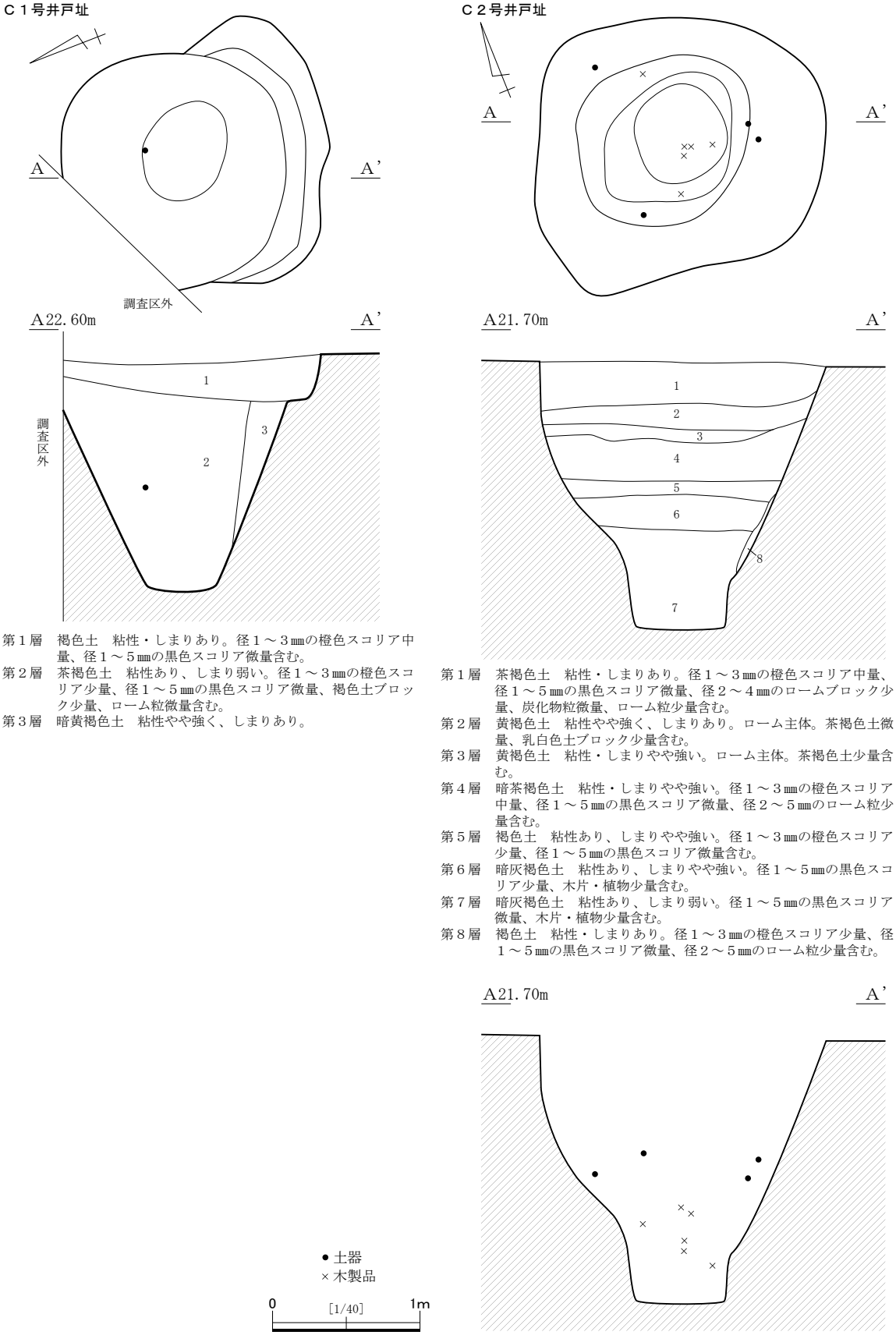
Ｃ２号井戸址（第179・192・193図、図版46－２）

Ｚ16グリッド中央東側で発見された。検出面の標高は21.50ｍである。平面形は南側にやや歪みのある円形を呈する。検出規模は径1.75～1.95ｍ、下端径は0.62ｍ、確認面からの深さは1.83ｍを測る。断面は漏斗状に近い。底面は平坦で、壁は底面から0.30ｍ垂直、上端までは西側は丸みをもちながら、東側は直線的に立ち上がる。

覆土は８層に分層され、第１～４層はローム主体層或いはローム粒が含まれる層であるが、第５～８層はスコリアや木片等混じる層となっている。



第192図　10区　中世井戸址・土坑・炭化物範囲分布図[1/200]



第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、褐色土ブロック少量、ローム粒微量含む。
第３層　暗黄褐色土　粘性やや強く、しまりあり。

第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、径２～４㎜のロームブロック少量、炭化物粒微量、ローム粒少量含む。
第２層　黄褐色土　粘性やや強く、しまりあり。ローム主体。茶褐色土微量、乳白色土ブロック少量含む。
第３層　黄褐色土　粘性・しまりやや強い。ローム主体。茶褐色土少量含む。
第４層　暗茶褐色土　粘性・しまりやや強い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、径２～５㎜のローム粒少量含む。
第５層　褐色土　粘性あり、しまりやや強い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第６層　暗灰褐色土　粘性あり、しまりやや強い。径１～５㎜の黒色スコリア少量、木片・植物少量含む。
第７層　暗灰褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～５㎜の黒色スコリア微量、木片・植物少量含む。
第８層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、径２～５㎜のローム粒少量含む。

第193図　10区Ｃ１・２号井戸址[1/40]

遺物は常滑産陶器甕１点(122.8ｇ)、かわらけ９点(53.2ｇ)、木製品(棒状・板状)６点、総計16点、総重量176.0ｇであるが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

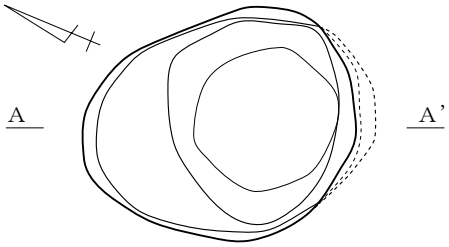
Ｃ３号井戸址(第179・192・194図、図版47－１)

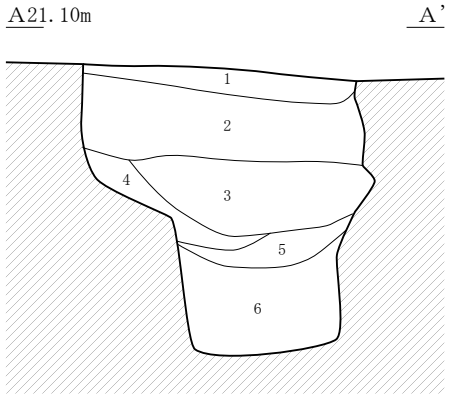
Ｚ～ＡＡ16グリッド中央東よりで発見された。Ｃ１、５号溝状遺構、Ｃ８号竪穴状遺構の下から確認された。検出面の標高は20.92ｍである。平面形は上端が北西―南東が長い楕円形、下端は円形を呈する。検出規模は北西―南東1.56ｍ、北東―南西1.24ｍ、下端径は0.78ｍ、確認面からの深さは1.52ｍを測る。底面は平坦で、壁は底面から0.50～0.70ｍは垂直、上端までは西側が段をもち、東側は中程で僅かにオーバーハングして垂直に立ち上がる。

覆土は６層に分層される。

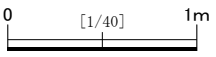
遺物はかわらけ７点(32.2ｇ)であるが、小片のため図化していない。

遺構の時期はＣ１、５号溝状遺構、Ｃ８号竪穴状遺構以前の中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。





第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒・焼土粒微量、ローム粒少量含む。
第２層　茶褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、径１～２㎜のローム粒微量、炭化物粒微量含む。
第３層　暗灰褐色土　粘性・しまりあり。径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。
第４層　灰褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量含む。
第５層　明褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量含む。
第６層　明黄褐色土　粘性やや強く、しまりあり。ローム主体。明褐色土ブロック少量含む。



第194図　10区Ｃ３号井戸址[1/40]

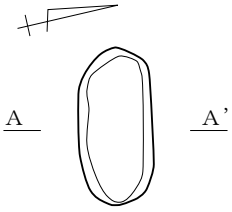
(４) 土坑

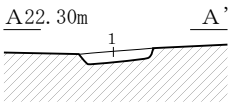
Ｃ１号土坑(第179・192・195図、図版47－２)

Ｚ17グリッド北東側で発見された。北側約0.80ｍにＣ２号土坑、南側約0.50ｍにＣ22号土坑が確認されている。検出面の標高は22.16ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.26ｍ、短軸0.59ｍで、確認面からの深さは0.08ｍを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は明褐色土の単層である。

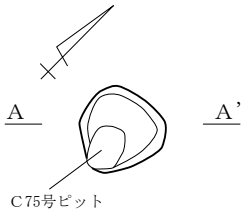
Ｃ１号土坑

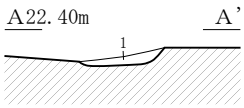




第１層　明褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒やや多量、径２㎜以下のローム粒中量含む。

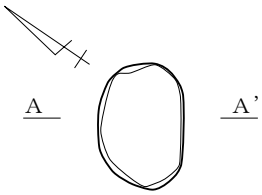
Ｃ２号土坑

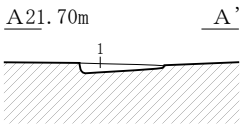




第１層　明褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

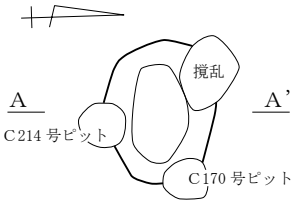
Ｃ３号土坑

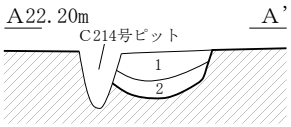




第１層　明褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒やや中量、径３㎜以下のローム粒中量含む。

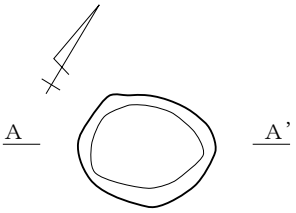
Ｃ４号土坑

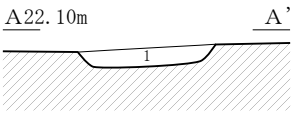




第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、焼土粒・炭化物粒微量、褐色土ブロック少量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。

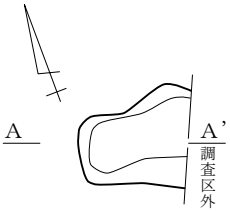
Ｃ５号土坑

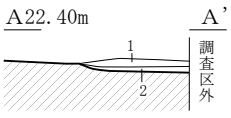




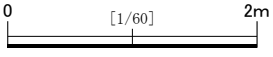
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

Ｃ６号土坑





第１層　明褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、径２～３㎜のローム粒中量、炭化物粒微量含む。
第２層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～２㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒少量含む。



第195図　10区Ｃ１～６号土坑[1/60]

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ２号土坑（第179・192・195図、図版47－２）

Ｙ～Ｚ17グリッド境東寄りで発見された。南側約0.80ｍにＣ１号土坑が確認されている。検出面の標高は22.26ｍである。平面形は不整円形を呈し、規模は径0.68ｍで、確認面からの深さは0.10ｍを測る。底面は平坦で、断面は浅い皿状を呈する。

覆土は明褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ３号土坑（第179・192・195図、図版47－３）

ＡＡ16グリッド中央東寄りで発見された。東側約2.00ｍにＣ18号土坑が確認されている。検出面の標高は21.44ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.01ｍ、短軸0.68ｍで、確認面からの深さは0.08ｍを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は明褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ４号土坑（第179・192・195図、図版47－４）

Ｚ17グリッド中央東寄りで発見された。上端を攪乱、Ｃ170、214号ピットに切られている。南側約2.50ｍにＣ５号土坑が確認されている。検出面の標高は22.03ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.15ｍ、短軸0.90ｍで、確認面からの深さは0.37ｍを測る。底面は平坦で、断面形は碗形を呈する。

覆土は第１層が茶褐色土、第２層が褐色土の２層に分層される。

遺物はかわらけ２点（8.5ｇ）出土しているが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｃ５号土坑（第179・192・195・196図、第42表、図版48－１・155）

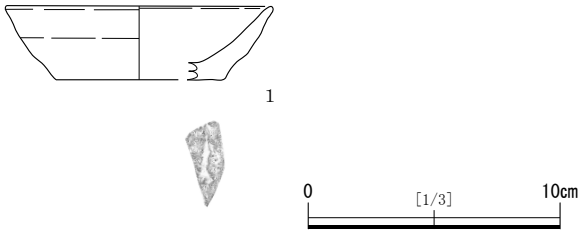
Ｚ17グリッド南東側で発見された。北側約2.50ｍにＣ４号土坑、南西約1.30ｍにＣ33号土坑が確認されている。検出面の標高は22.00ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.10ｍ、短軸0.99ｍで、確認面からの深さは0.14ｍを測る。底面は平坦で、断面形は逆台形を呈する。

覆土は茶灰色土の単層である。

遺物はかわらけ３点（17.7ｇ）出土しているが、そのうち１点を図化した。

第196図１はかわらけである。底部からやや丸みをもって立ち上がり、口唇部はやや外反する。

遺構の時期は、出土したかわらけから14世紀後半～15世紀と推定される。



第196図　10区Ｃ５号土坑出土遺物[1/3]

第42表　10区Ｃ５号土坑出土遺物観察表［第196図］

No.	器種	種別	()＝現存値 〔〕＝復元値 口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	残存度	産地	時期	観察内容
1	かわらけ	土器	〔10.5〕	〔6.6〕	2.9	13.6	口縁部～体部1/8・底部1/6	在地	14世紀後半～15世紀	胎土 橙色、密、細砂粒・雲母・角閃石を含む 焼成 良好 備考 底部回転糸切り痕確認できず

Ｃ６号土坑（第179・192・195図、図版48－５）

Ｚ18グリッド中央やや南寄りで発見された。東端は調査区外へ延びる。北側にＣ７号土坑が隣接し、北西約1.30ｍにＣ９、10号土坑が確認されている。検出面の標高は22.18ｍである。平面形は楕円形を呈すると想定される。検出規模は長軸0.87ｍ以上、短軸0.82ｍで、確認面からの深さは0.10ｍを測る。底面は平坦で、断面形は皿状を呈すると思われる。

覆土は明褐色土及び褐色土の２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ７号土坑（第179・192・197図、図版48－５）

Ｚ18グリッド中央で発見された。南側にＣ６号土坑が隣接し、西側約1.30ｍにＣ９、10号土坑が確認されている。検出面の標高は22.15ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸0.74ｍ、短軸0.68ｍで、確認面からの深さは0.08ｍを測る。底面は平坦で、断面形は皿状を呈する。

覆土は褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ８号土坑（第179・192・197図、図版48－５）

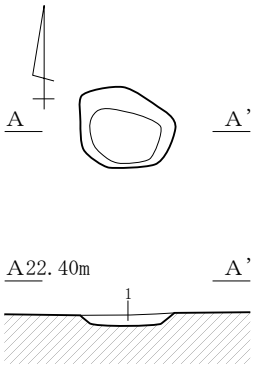
Ｚ18グリッド中央やや南寄りで発見された。西側をＣ254号ピット、Ｃ29号土坑、北東側をＣ７号土坑、南東側をＣ６号土坑に切られている。検出面の標高は22.24ｍである。平面形は楕円形を呈すると想定される。検出規模は長軸1.00ｍ、短軸0.70ｍ以上で、確認面からの深さは0.11ｍを測る。底面は平坦で、断面形は皿状を呈する。

覆土は褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

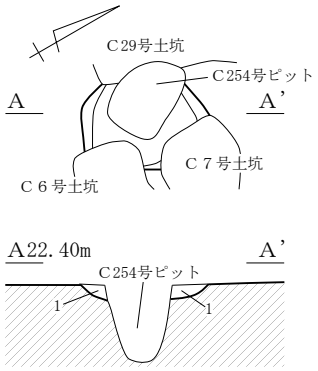
遺構の時期はＣ６・７・29号土坑以前の中世と推定されるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ７号土坑



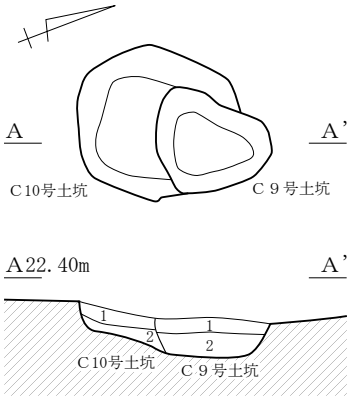
第１層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、明褐色土ブロック少量、ローム粒微量含む。

Ｃ８号土坑



第１層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。

Ｃ９・10号土坑



Ｃ９号土坑

第１層　暗茶褐色土　粘性・しまりやや強い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。

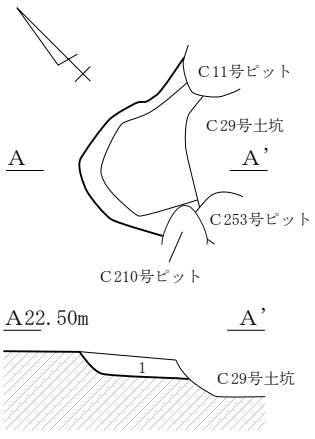
第２層　茶褐色土　粘性・しまりやや強い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～３㎜のローム粒微量含む。

C10号土坑

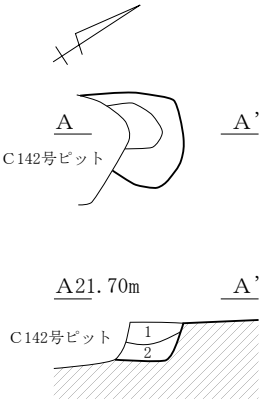
第１層　明茶褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、径１～２㎜の明褐色土少量含む。

第２層　明茶褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、径１～３㎜のローム粒少量、炭化粒微量、焼土粒微量含む。

C11号土坑



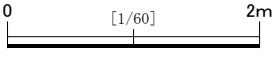
C12号土坑



第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒・ロームブロック少量含む。

第２層　暗茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、暗褐色土ブロック少量、ローム粒・ロームブロック微量含む。

第１層　褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、暗茶褐色土ブロック少量含む。



第197図　10区Ｃ７～12号土坑[1/60]

Ｃ９号土坑（第179・192・197図、図版48－５）

Ｚ18グリッド中央やや西寄りで発見された。Ｃ29号土坑の下から確認された。東側約1.30ｍにＣ６、７号土坑が確認されている。検出面の標高は22.10ｍである。平面形はやや歪な楕円形を呈する。検出規模は長軸0.91ｍ、短軸0.75ｍで、確認面からの深さは0.31ｍを測る。底面は平坦で、断面形は碗形を呈する。

覆土は暗茶褐色土及び茶褐色土の２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況からＣ29号土坑以前の中世と推定されるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ10号土坑（第179・192・197図、図版48－５）

Ｚ18グリッド中央やや西寄りで発見された。Ｃ29号土坑の下から確認された。北東側をＣ９号土坑に切られている。検出面の標高は22.21ｍである。平面形はやや歪な楕円形を呈すると推定される。検出規模は長軸1.30ｍ以上、短軸1.18ｍで、確認面からの深さは0.20ｍを測る。底面は北側へやや傾斜している。

覆土は明茶褐色で２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況からＣ９、29号土坑以前の中世と推定されるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ11号土坑（第179・192・197図、図版48－５）

Ｚ18グリッド中央やや北西寄りで発見された。南側から東側をＣ210、211、253号ピット、Ｃ29号土坑に切られており、平面形は不明である。検出面の標高は22.34ｍ、検出規模は東西1.15ｍ以上、南北1.10ｍ以上、確認面からの深さは0.20ｍを測る。断面は逆台形を呈する。底面は平坦で、壁はやや急な角度で立ち上がる。

覆土は褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ12号土坑（第179・192・197図、図版48－２）

ＡＡ16～17グリッド境北端で発見された。南側をＣ142号ピットに切られており、平面形は不明である。検出面の標高は21.52ｍ、検出規模は東西0.75ｍ、南北0.71ｍ以上、確認面からの深さは0.30ｍを測る。底面は平坦で、壁は急な角度で立ち上がる。

覆土は茶褐色土、暗茶褐色土の２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ13号土坑（第179・192・198・199図、第43表、図版48－３・156）

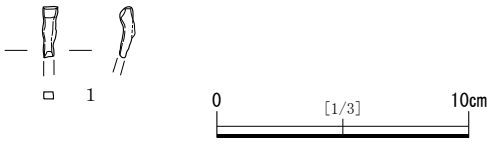
Ｚ～ＡＡ17グリッド境西寄りで発見された。検出面の標高は21.62ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.56ｍ、短軸1.24ｍで、確認面からの深さは0.48ｍを測る。底面は平坦で、断面形は碗形を呈する。

覆土は茶褐色土、褐色土、暗褐色土の３層に分層される。

遺物はかわらけ５点（19.5ｇ）、金属製品鉄釘１点（1.1ｇ）、総点数６点、総重量20.6ｇである。そのうち１点を図化した。

第198図１は鉄製品釘である。先端部が欠損している。断面は四角形を呈する。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



第198図　10区Ｃ13号土坑出土遺物[1/3]

第43表　10区Ｃ13号土坑出土遺物観察表［第198図］

No.	種別	材質	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	観察内容
1	釘	鉄	(2.0)	0.4	0.3	1.1	残存度 先端部欠損 備考 断面四角

Ｃ14号土坑（第179・192・199図）

Ｚ17グリッド中央東側で発見された。西側約1.40ｍにＣ２号井戸址、東側約0.80ｍにＣ23、34号土坑が確認されている。検出面の標高は21.69ｍである。平面形はやや歪な長方形を呈し、長軸方位はＮ－90°－Ｗを示す。検出規模は長軸1.32ｍ、短軸0.74ｍで、確認面からの深さは0.32ｍを測る。底面は北側へ傾斜している。断面形は碗形に近い。

覆土は褐色土で２層に分層される。

遺物はかわらけ12点（40.6ｇ）出土しているが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｃ15号土坑（第179・192・199図、図版48－４）

Ｚ17グリッド中央北寄りで発見された。検出面の標高は約21.91ｍである。平面形はやや歪な長方形を呈し、長軸方位はＮ－78°－Ｗを示す。検出規模は長軸1.21ｍ、短軸0.72ｍで、確認面からの深さは0.21ｍを測る。底面は平坦で、断面形は箱形に近い。

覆土は茶褐色土で２層に分層される。

遺物は常滑産陶器甕３点（112.6ｇ）、かわらけ１点（5.2ｇ）、総点数４点、総重量117.8ｇ出土しているが、小片のため図化していない。

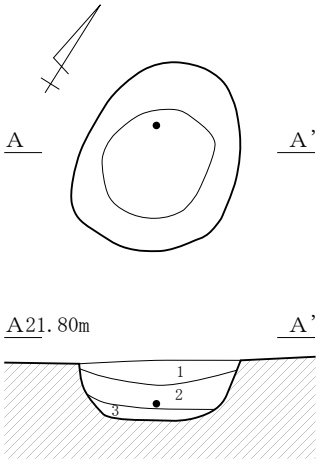
遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｃ16号土坑（第179・192・199図、図版48－４）

Ｚ17グリッド中央北寄りで発見された。北側をＣ15号土坑に切られており、平面形は不明である。検出面の標高は21.91ｍ、検出規模は東西0.80ｍ、南北0.36ｍ以上で、確認面からの深さは0.16ｍを測る。底面は平坦で、壁は直線的に立ち上がる。

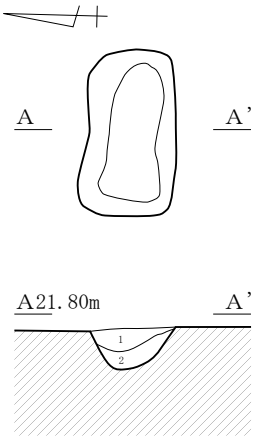
覆土は黄茶褐色土の単層である。

Ｃ13号土坑



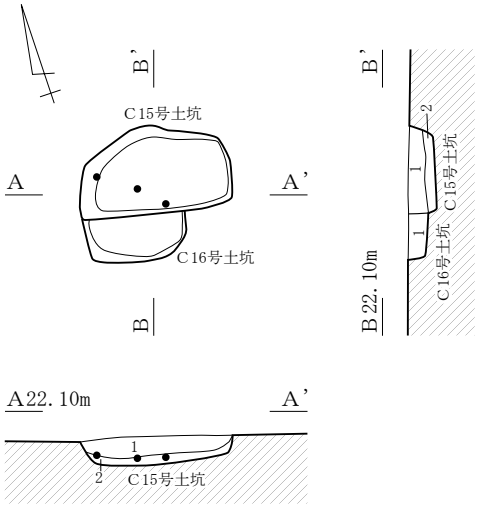
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア中量、暗褐色土ブロック・炭化物粒微量含む。
第３層　暗褐色土　粘性・しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、褐色土ブロック少量、炭化物粒微量含む。

Ｃ14号土坑



第１層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒・焼土粒微量含む。
第２層　褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、明褐色土ブロック微量含む。

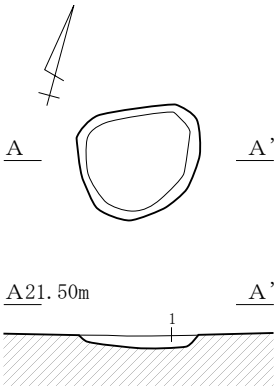
Ｃ15・16号土坑



Ｃ15号土坑
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒・ローム粒微量含む。

Ｃ16号土坑
第１層　黄茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。

Ｃ17号土坑



第１層　暗茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒・明褐色土ブロック微量含む。

● 土器

0　[1/60]　2m

第199図　10区Ｃ13～17号土坑[1/60]

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況からＣ15号土坑以前の中世と推定されるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ17号土坑（第179・192・199図、図版49－１）

ＡＡ16グリッド中央北端で発見された。検出面の標高は21.26ｍである。平面形は不整楕円形を呈し、検出規模は長軸0.96ｍ、短軸0.88ｍで、確認面からの深さは0.10ｍを測る。底面は平坦で、断面は浅い皿状を呈する。

覆土は暗茶褐色土の単層である。

遺物はかわらけ２点（3.9ｇ）出土しているが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｃ18号土坑（第179・192・200図、図版49－２）

ＡＡ17グリッド中央西側で発見された。東側約0.28ｍにＣ19号土坑、西側約2.00ｍにＣ３号土坑が確認されている。検出面の標高は21.58ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.05ｍ、短軸0.74ｍで、確認面からの深さは0.14ｍを測る。底面は平坦で西へ傾斜する。断面は逆台形を呈する。

覆土は第１・２層暗茶褐色土、第３層は明茶褐色土の３層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ19号土坑（第179・192・200図、図版49－３）

ＡＡ17グリッド中央西寄りで発見された。西側約0.28ｍにＣ18号土坑、約2.00ｍにＣ３号土坑が確認されている。検出面の標高は21.64ｍである。平面形は円形を呈し、規模は径0.72ｍで、確認面からの深さは0.26ｍを測る。断面は箱形を呈する。底面は平坦で、壁は急な角度で立ち上がる。

覆土は茶褐色土で２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ20号土坑（第179・192・200図、図版49－４）

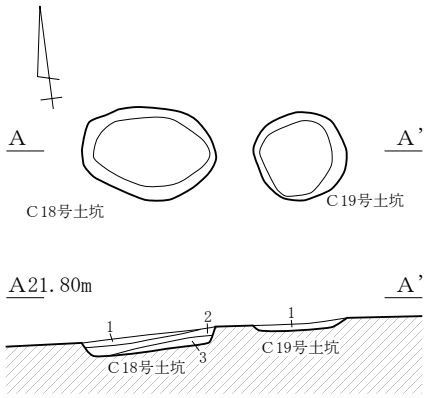
ＡＡ17グリッド南西寄りで発見された。東側約0.28ｍにＣ19号土坑、西側約2.00ｍにＣ３号土坑が確認されている。検出面の標高は21.58ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.05ｍ、短軸0.74ｍで、確認面からの深さは0.14ｍを測る。底面は平坦で西へ傾斜する。断面は逆台形を呈する。

覆土は第１・２層暗茶褐色土、第３層は明茶褐色土の３層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ18・19号土坑



Ｃ18号土坑

第１層　暗茶褐色土　粘性あり、しまりやや強い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒・焼土粒・暗茶褐色土ブロック微量含む。

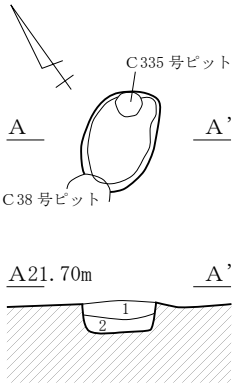
第２層　暗茶褐色土　粘性あり、しまりやや強い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、暗褐色土ブロック少量、明茶褐色土ブロック微量含む。

第３層　明茶褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、暗茶褐色土ブロック微量含む。

Ｃ19号土坑

第１層　明茶褐色土　粘性あり、しまりやや強い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、径１～２㎜のローム粒・暗褐色土ブロック微量含む。

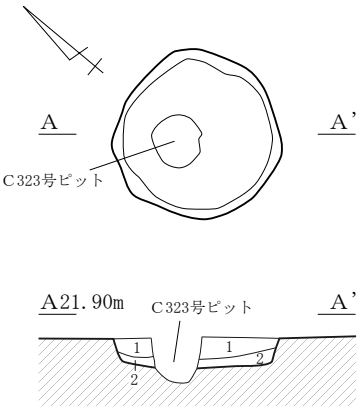
Ｃ20号土坑



第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。

第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物微量、径１㎜のローム粒微量含む。

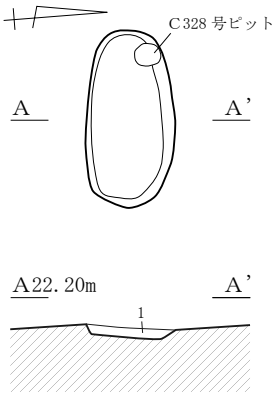
Ｃ21号土坑



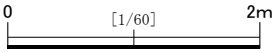
第１層　暗茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、炭化物粒微量含む。

第２層　暗茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、明茶褐色土ブロック少量含む。

Ｃ22号土坑



第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒・炭化物粒微量含む。



第200図　10区Ｃ18～22号土坑[1/60]

Ｃ21号土坑（第179・192・200図、図版49－５）

Ｚ17グリッド北西側で発見された。覆土をＣ323号ピットに切られている。検出面の標高は21.72ｍである。平面形は円形を呈し、規模は径1.31ｍで、確認面からの深さは0.24ｍを測る。断面は箱形を呈する。底面は平坦で、壁は西側がやや緩やかに東側がやや急な角度で立ち上がる。

覆土は暗茶褐色土で２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ22号土坑（第179・192・200図、図版49－６）

Ｚ17グリッド北東側で発見された。北側約0.50ｍにＣ１号土坑が確認されている。覆土をＣ328号ピットに切られている。検出面の標高は21.99ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.43ｍ、短軸0.72ｍで、確認面からの深さは0.08ｍを測る。底面は平坦で、断面形は逆台形を呈する。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物はかわらけ２点（5.5ｇ）出土しているが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｃ23号土坑（第179・192・201図、図版49－７）

Ｚ17グリッド中央西寄りで発見された。西側約0.80ｍにＣ14号土坑が確認されている。東側の上端をＣ61、137号ピットに切られている。検出面の標高は21.82ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸2.02ｍ、短軸1.16ｍで、確認面からの深さは0.17ｍを測る。底面は平坦で、断面形は逆台形を呈する。

覆土は暗茶褐色土の単層である。

遺物はかわらけ３点（11.7ｇ）出土しているが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｃ24号土坑（第179・192・201図、図版49－８）

Ｚ16グリッド北東寄りで発見された。北西側上端をＣ77号ピット、北東側上端をＣ118号ピットに切られている。検出面の標高は21.52ｍである。平面形は円形を呈し、規模は径1.17ｍで、確認面からの深さは0.23ｍを測る。断面は箱形を呈する。底面は平坦で、壁は急な角度で立ち上がる。

覆土は暗褐色土の単層である。

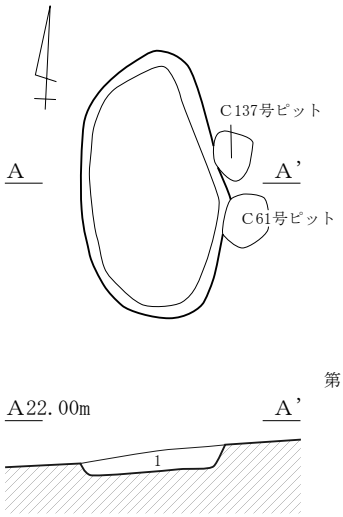
遺物はかわらけ１点（3.6ｇ）、鉄滓１点（32.2ｇ）、総点数２点、総重量35.8ｇ出土しているが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｃ25号土坑（第179・192・201図、図版50－１）

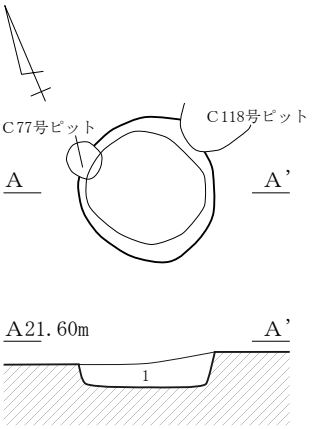
ＡＡ16グリッド北東端で発見された。東側をＣ12号土坑、Ｃ142号ピットに切られている。検出面の標高は21.46ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.18ｍ、短軸0.50ｍ以上で、確認面からの深さは0.26ｍを測る。底面は平坦で、断面形は逆台形を呈する。

Ｃ23号土坑



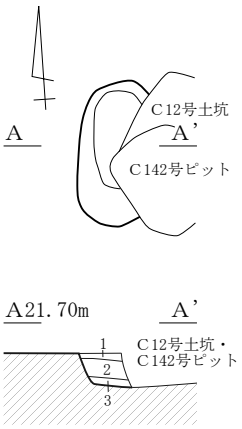
第１層　暗茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒少量、暗褐色土ブロック微量含む。

Ｃ24号土坑



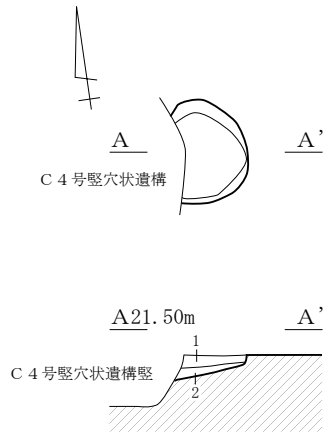
第１層　暗褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、暗褐色土ブロック微量含む。

Ｃ25号土坑



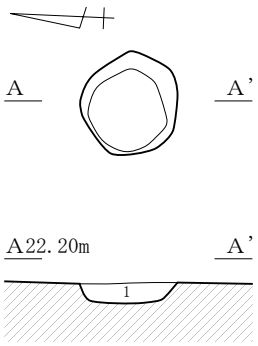
第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒・ローム粒微量、径１～２㎜ローム粒微量含む。
第３層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、径１～２㎜ローム粒少量含む。

Ｃ26号土坑

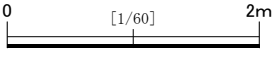


第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒・ローム粒微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量含む。

Ｃ27号土坑



第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、径１～２㎜のローム粒微量含む。



第201図　10区Ｃ23～27号土坑[1/60]

覆土は第１層が茶褐色土、第２・３層は褐色土で３層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ26号土坑（第179・192・201図、図版50－２）

Ｙ17グリッド南西隅で発見された。西側はＣ４号竪穴状遺構に切られており、平面形は不明である。検出面の標高は21.30ｍ、検出規模は南北0.84ｍ、東西0.50ｍ以上、確認面からの深さは0.19ｍを測る。底面は平坦で、東へ傾斜している。壁は急な角度で立ち上がる。

覆土は茶褐色土で２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況からＣ４号竪穴状遺構以前の中世と推定されるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ27号土坑（第179・192・201図、図版50－３）

Ｚ17グリッド北東側で発見された。検出面の標高は21.11ｍである。平面形は円形を呈し、規模は径0.78ｍで、確認面からの深さは0.16ｍを測る。断面は逆台形を呈する。底面は平坦で断面は逆台形を呈する。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ28号土坑（第179・192・202図、図版50－４）

Ｚ16・17グリッド境北寄りで発見された。北側をＣ273、363、379号ピット、南側をＣ106、107、108号ピットに切られている。検出面の標高は21.56ｍである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はＮ－72°－Ｗを示す。検出規模は東西1.64ｍ、南北1.12ｍで、確認面からの深さは約.19ｍを測る。底面は平坦で、壁は西側が急な角度で東側はやや緩やかな角度で立ちあがる。

覆土は茶褐色土で２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

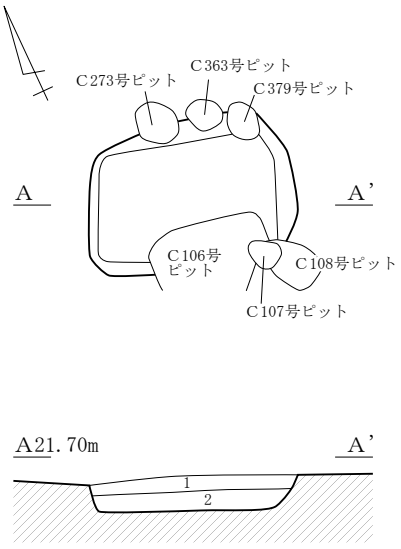
Ｃ29号土坑（第179・192・202・203図、第44表、図版155・157－１）

Ｚ18グリッド中央やや西寄りで発見された。北側をＣ211号ピット、西側をＣ210、253号ピット、南側をＣ245号ピット、東側をＣ188、254号ピットに切られている。検出面の標高は22.28ｍである。平面形は歪な不整形を呈する。検出規模は東西2.13ｍ、南北1.64ｍで、確認面からの深さは0.23ｍを測る。底面は平坦で、断面は皿状を呈する。

覆土は褐色土の単層である。

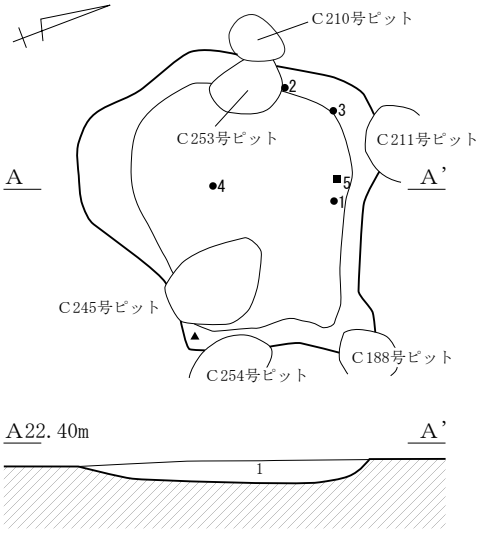
遺物は瀬戸・美濃産陶器皿２点（138.1ｇ）、瀬戸・美濃産陶器擂鉢１点（105.8ｇ）、かわらけ１点（21.2ｇ）、鉄滓（粒状滓）１点（22.0ｇ）、砥石１点（100.3ｇ）、総点数６点、総重量387.4ｇである。そのうち５点を図化した。

C28号土坑

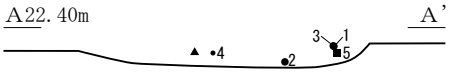


第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径1～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量、炭化物粒微量含む。

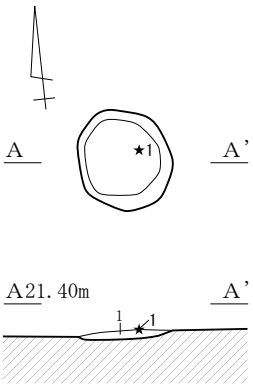
C29号土坑



第１層　褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、暗茶褐色土ブロック少量含む。

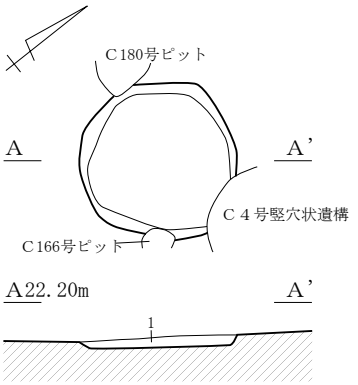


C31号土坑



第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、径１～２㎜ローム粒微量、ローム粒少量含む。

C32号土坑



第１層　暗褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、炭化物粒・焼土粒・暗褐色土ブロック微量含む。

● 土器
■ 石製品
▲ 金属製品
★ 銭

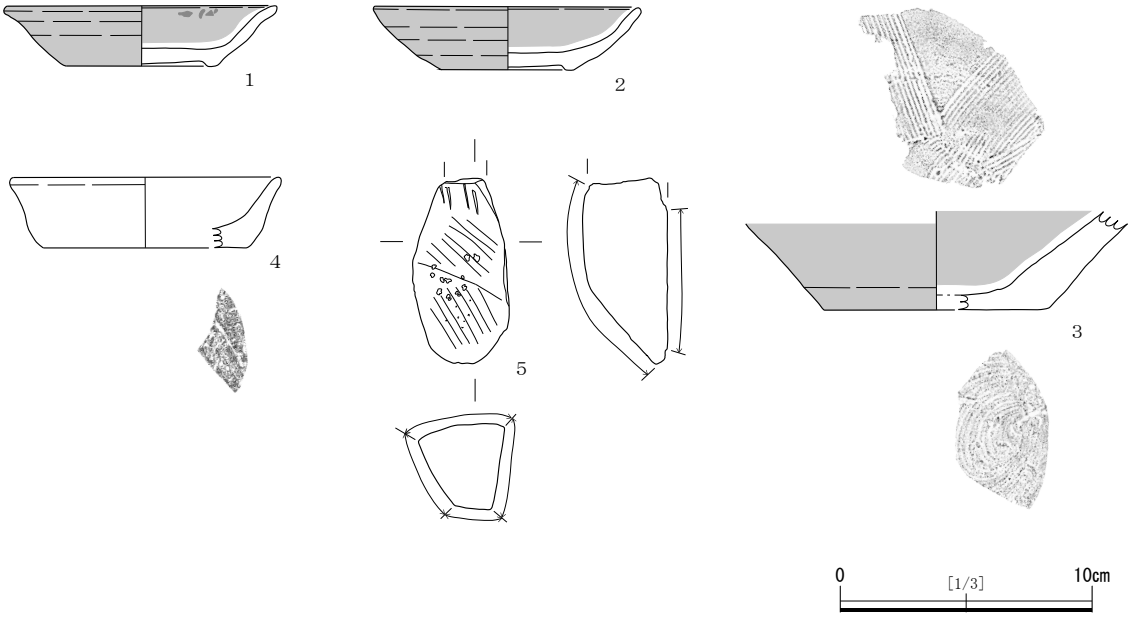
0　[1/60]　2m

第202図　10区Ｃ28・29・31・32号土坑[1/60]

第203図１・２は瀬戸・美濃産陶器鉄釉皿である。１はほぼ完形で、２は約1/4の残存である。どちらも見込みには目跡、高台内には重ね焼き痕が残る。16世紀中頃の所産である。

第203図３は瀬戸･美濃産陶器擂鉢の底部片である。内外面には鉄釉が施され、底部には糸切り痕が残る。見込みには10条１単位の磨り目が見られる。16世紀以降の所産である。

第203図４はかわらけである。スノコ痕が残る底部から直線的に立ち上がる。口唇部はやや外反する。器壁の厚い小型のかわらけである。15世紀の所産である。



第203図　10区Ｃ29号土坑出土遺物[1/3]

第44表　10区Ｃ29号土坑出土遺物観察表［第203図］

No.	器種	種別	()＝現存値 〔〕＝復元値 口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	残存度	産地	時期	観察内容
1	鉄釉皿	陶器	10.7	5.6	2.4	104.6	ほぼ完形・口縁部２ヶ所欠損	瀬戸・美濃	16世紀中頃	胎土 浅黄橙色、密 焼成 良好 釉薬 内外面鉄釉 備考 見込み目跡、高台内重ね焼き跡 内側面スス付着
2	鉄釉皿	陶器	〔10.5〕	〔4.9〕	2.5	33.5	口縁部1/4・底部1/3	瀬戸・美濃	16世紀中頃	胎土 にぶい橙色、密 焼成 良好 釉薬 内外面鉄釉 備考 見込み目跡、高台内重ね焼き跡
3	鉄釉擂鉢	陶器	—	〔9.0〕	(3.9)	105.8	底部1/4	瀬戸・美濃	16世紀以降	胎土 橙色、密 焼成 良好 釉薬 内外面鉄釉 備考 10条１単位の擂り目
4	かわらけ	土器	〔10.6〕	〔8.0〕	2.3	21.2	口縁部1/9・体部1/4・底部1/8	在地	15世紀	胎土 褐色、密、白色針状物質・角閃石・雲母を含む 焼成 良好 備考 底部スノコ痕
No.	種別	材質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	観察内容			
5	砥石	変質流紋岩	(7.3)	3.9	3.4	100.3	残存度 片端部欠損 備考 上下面・側面の５面使用			

第203図５は砥石である。片端部が欠損しているが側面など５面が使用されている。石材は変質流紋岩である。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世後期と推定される。

Ｃ31号土坑（第179・192・202・204図、第45表、図版50－５・156）

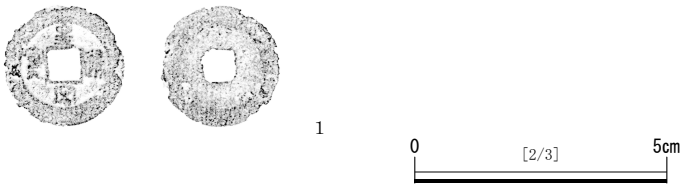
ＡＡ16グリッド北東側で発見された。検出面の標高は21.20ｍある。平面形は円形を呈し、検出規模は径0.79ｍで、確認面からの深さは0.06ｍを測る。底面は平坦で、断面は皿状を呈する。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は銅銭１点（2.5ｇ）で図化した。

第204図１は北宋銭である。完形で初鋳年は1039年である。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



第204図　10区Ｃ31号土坑出土遺物[2/3]

第45表　10区Ｃ31号土坑出土遺物観察表［第204図］

No.	銭名	材質	銭径(mm)	穿径(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	残存度	観察内容
1	皇宋通寶	銅	24.3	6.2	0.9	2.5	完形	鋳造地 北宋 初鋳年 1039年 備考 篆書

Ｃ32号土坑（第179・192・202図、図版50－６）

Ｚ17グリッド中央東寄りで発見された。北西側をＣ180号ピット、東側をＣ４号土坑、南東側をＣ116号ピットに切られている。検出面の標高は21.94ｍある。平面形は円形を呈し、検出規模は径1.24ｍで、確認面からの深さは0.08ｍを測る。底面は平坦で、断面は皿状を呈する。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ33号土坑（第179・192・205図、図版50－７）

ＡＡ17グリッド北端東寄りで発見された。検出面の標高は21.78ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸0.89ｍ、短軸0.56ｍで、確認面からの深さは0.32ｍを測る。底面は北側へ傾斜し、断面形は碗形を呈する。

覆土は第１層が暗灰褐色土、第２層は暗茶褐色土の２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ34号土坑（第179・192・205図、図版50－８）

Ｚ17グリッド中央西寄りで発見された。西側約0.80ｍにＣ14号土坑が確認されている。全体がＣ23号土坑に、北側はＣ387号ピットに切られている。検出面の標高は21.72ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.55ｍ、短軸1.21ｍで、確認面からの深さは0.29ｍを測る。底面は平坦で、壁は南側がやや緩やかに立ち上がる。

覆土は暗茶褐色土で、２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ35号土坑（第179・192・205図）

ＡＡ16グリッド北東側で発見された。検出面の標高は21.16ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は南北0.74ｍ、東西0.45ｍ、確認面からの深さは0.06ｍを測る。底面は平坦で、東断面は皿状を呈する。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と推定されるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ36号土坑（第179・192・205図）

ＡＡ16グリッド中央北東寄りで発見された。西側でＣ38号土坑と接している。北西側の上端をＣ287号ピットに切られている。検出面の標高は20.80ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸2.04ｍ、短軸1.11ｍ、確認面からの深さは0.20ｍを測る。底面は西側へ傾斜している。壁は西側が緩やかに、東側は急な角度で立ちあがる。

覆土は茶褐色土で２層に分層される。

遺物は常滑産陶器甕１点（18.0ｇ）、かわらけ４点（16.4ｇ）、総点数５点、総重量34.4ｇ出土しているが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｃ38号土坑（第179・192・206図、図版51－１）

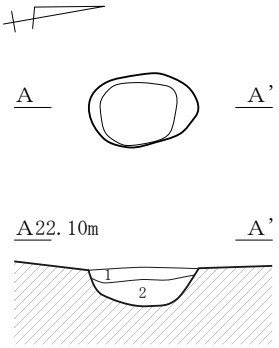
ＡＡ16グリッド中央やや東寄りで発見された。東側でＣ36号土坑と接している。また東側をＣ１号溝状遺構に切られている。検出面の標高は約20.83ｍである。平面形は円形を呈し、検出規模は径1.00ｍで、確認面からの深さは0.30ｍを測る。底面は南西側で１段テラスをもち、壁は緩やかに立ち上がる。

覆土は第１層が暗灰褐色土、第２層が暗茶褐色土で２層に分層される。

遺物は出土していない。

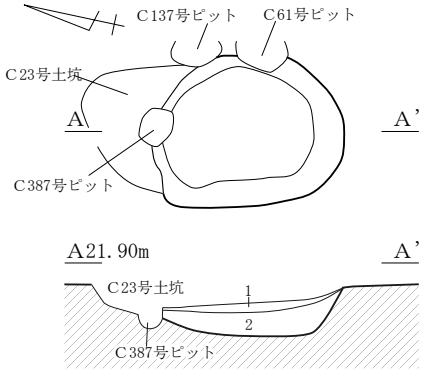
遺構の時期は検出状況からＣ１号溝状遺構以前の中世と推定されるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ33号土坑



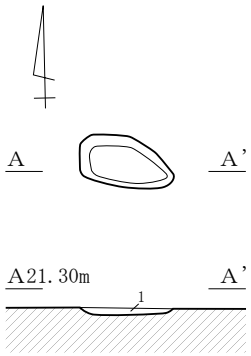
第１層　暗灰褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。
第２層　暗茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒・ローム粒微量含む。

Ｃ34号土坑



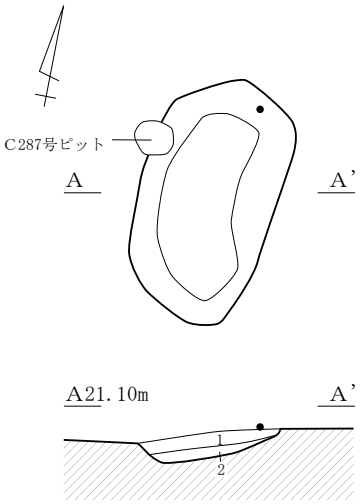
第１層　暗茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒・焼土粒微量、径１㎜以下のローム粒微量含む。
第２層　暗茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒・暗褐色土ブロック微量含む。

Ｃ35号土坑

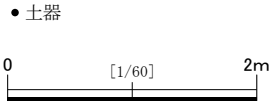


第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリアやや多量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。

Ｃ36号土坑

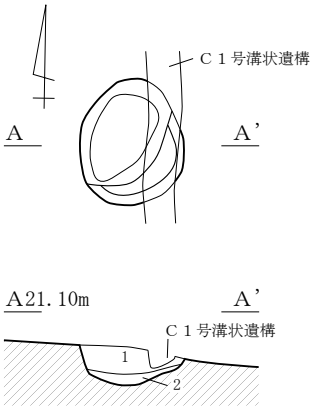


第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。



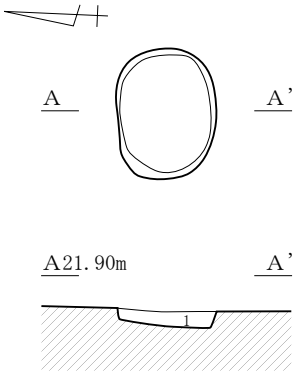
第205図　10区Ｃ33～36号土坑[1/60]

C38号土坑



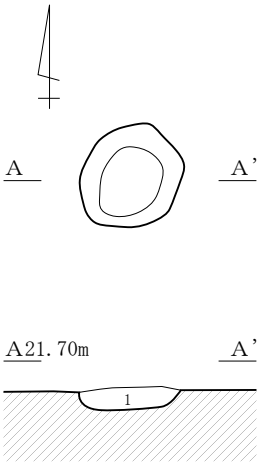
第１層　暗灰褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、暗褐色土ブロック微量含む。
第２層　暗茶褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、暗灰褐色土ブロック微量含む。

C39号土坑



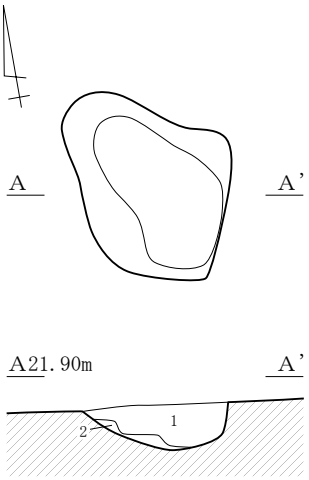
第１層　明茶褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～３㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒・暗褐色土ブロック微量含む。

C40号土坑

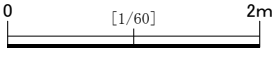


第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア中量、炭化物粒微量含む。

C41号土坑



第１層　暗茶褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～２㎜のロームブロック微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、暗茶褐色土ブロック・径１～２㎜のロームブロック微量含む。



第206図　10区Ｃ38～41号土坑[1/60]

Ｃ39号土坑（第179・192・205図）

ＡＡ～ＡＢ17グリッド境東寄りで発見された。検出面の標高は21.62ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.04ｍ、短軸0.80ｍで、確認面からの深さは0.13ｍを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は明茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ40号土坑（第179・192・206・207図、第46表、図版51－２・155・157－１）

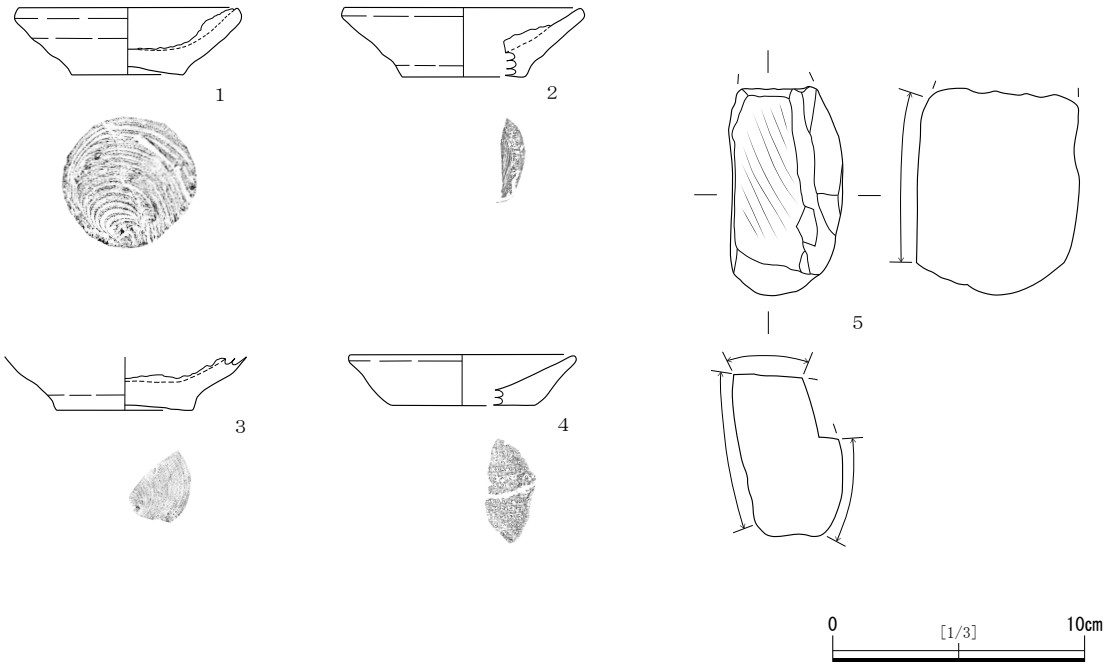
ＡＡ17グリッド中央やや東寄りで発見された。北西約0.50ｍに炭化物範囲が確認されている。検出面の標高は21.50ｍである。平面形は円形を呈し、規模は径0.90ｍで、確認面からの深さは0.18ｍを測る。底面は平坦で断面は碗形を呈する。

覆土は炭化物粒を微量に含む茶褐色土の単層である。

遺物はかわらけ17点（189.6ｇ）、石製品砥石１点（338.9ｇ）、総点数18点、総重量528.5ｇである。そのうち６点を図化した。

第207図１～４はかわらけである。１～３は糸切り痕の残る底部から直線的に大きく外反しながら口縁に至る。器肉は厚く、取瓶に転用されているため見込みは発泡し口辺部は歪んでいる。４は平らな底部から直線的に大きく外反しながら口縁に至る。器壁は厚く、小型である。13世紀代の所産である。

第207図５は石製品砥石である。片端部は欠損しているが側面など３使用している。石材は変質安山岩である。



第207図　10区Ｃ40号土坑出土遺物[1/3]

第46表　10区Ｃ40号土坑出土遺物観察表［第207図］

No.	器種	種別	()＝現存値 〔〕＝復元値 口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	残存度	産地	時期	観察内容
1	かわらけ	土器	〔8.7〕	〔4.5〕	2.6	22.3	口縁部～体部1/4・底部1/2	在地	13世紀代	胎土 褐灰色、密、黒色粒子・白色粒子・細かい砂粒を含む 焼成 良好 備考 底部回転糸切り痕 取瓶として転用、内面に鉄滓付着
2	かわらけ	土器	〔9.4〕	〔4.8〕	2.7	17.6	口縁部わずかに残る・体部1/4・底部1/3	在地	13世紀代	胎土 褐灰色、密、黒色粒子・白色粒子を含む 焼成 良好 備考 底部回転糸切り痕 取瓶として転用、内面に鉄滓付着
3	かわらけ	土器	—	5.5	(2.1)	64.3	体部1/2・底部残存	在地	13世紀代	胎土 にぶい黄橙色～黒褐色、密、黒色粒子・白色粒子・細かい砂粒を含む 焼成 良好 備考 底部回転糸切り痕 取瓶として転用、内面に鉄滓付着
4	かわらけ	土器	〔8.9〕	〔5.8〕	2.0	17.4	口縁部わずかに残る・体部～底部1/4	在地	13世紀代	胎土 赤褐色、密、赤色スコリア・白色針状物質・石英・砂粒をふくむ 焼成 良好 備考 底部回転糸切り痕
No.	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	観察内容			
5	砥石	変質安山岩	(8.4)	4.5	6.7	338.9	残存度 片端部欠損 備考 側面の３面使用			

本土坑は周辺の土坑とは様相を異にするかわらけや砥石といった出土遺物や、北西に炭化物範囲の存在から鍛冶関連の遺構の可能性、或いは周辺に鍛冶関連の遺構があった可能性が示唆される。遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世前期と推定される。

Ｃ41号土坑（第179・192・206図）

Ｚ17グリッド北西側で発見された。検出面の標高は21.71ｍである。平面形は不整楕円形を呈する。検出規模は長軸1.74ｍ、短軸1.28ｍで、確認面からの深さは0.35ｍを測る。底面はやや平坦で、壁は西側が緩やかに、東側は急な角度で立ちあがる。

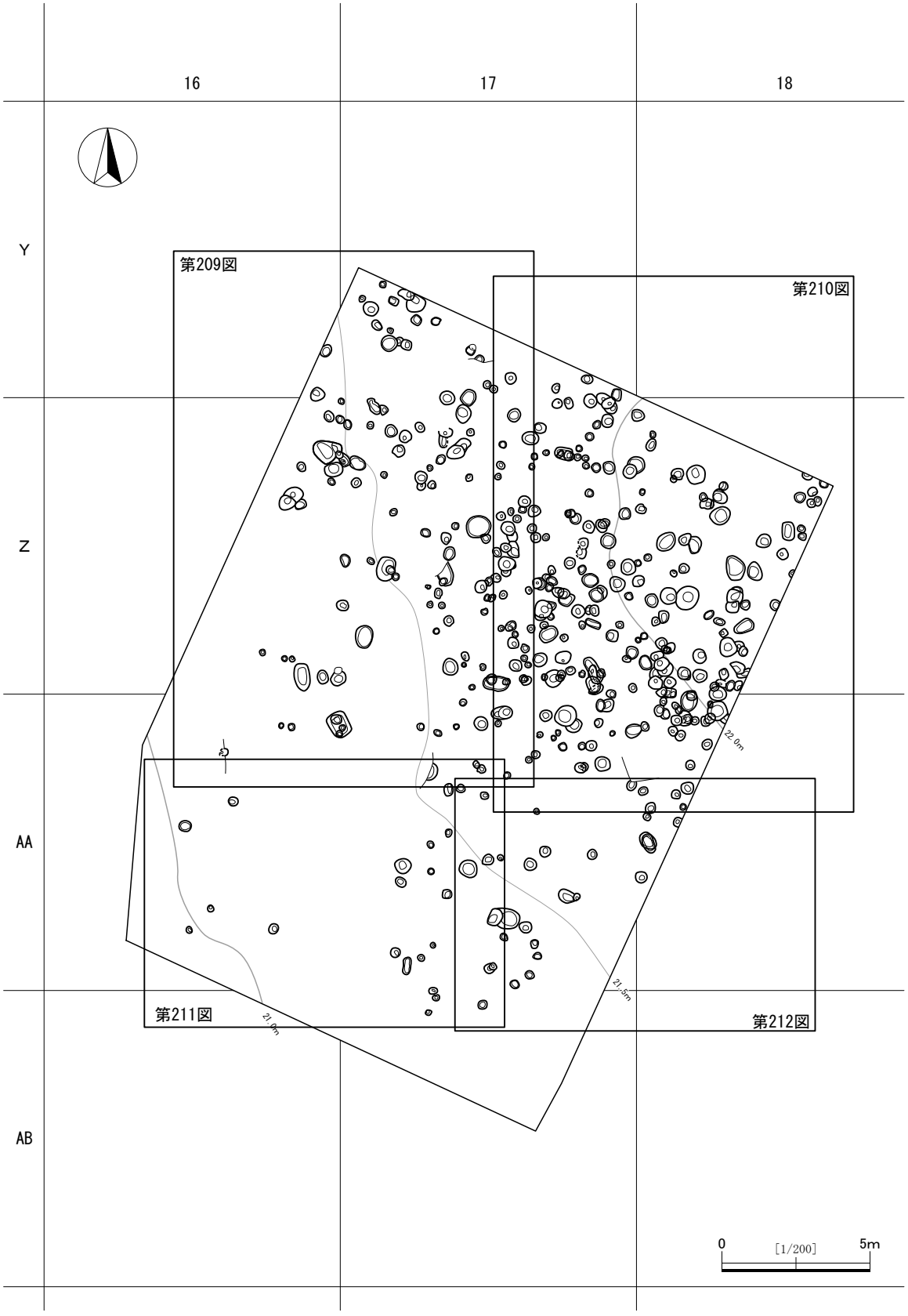
覆土は第１層が暗茶褐色土、第２層は茶褐色土で２層に分層される。

遺物は出土していない。

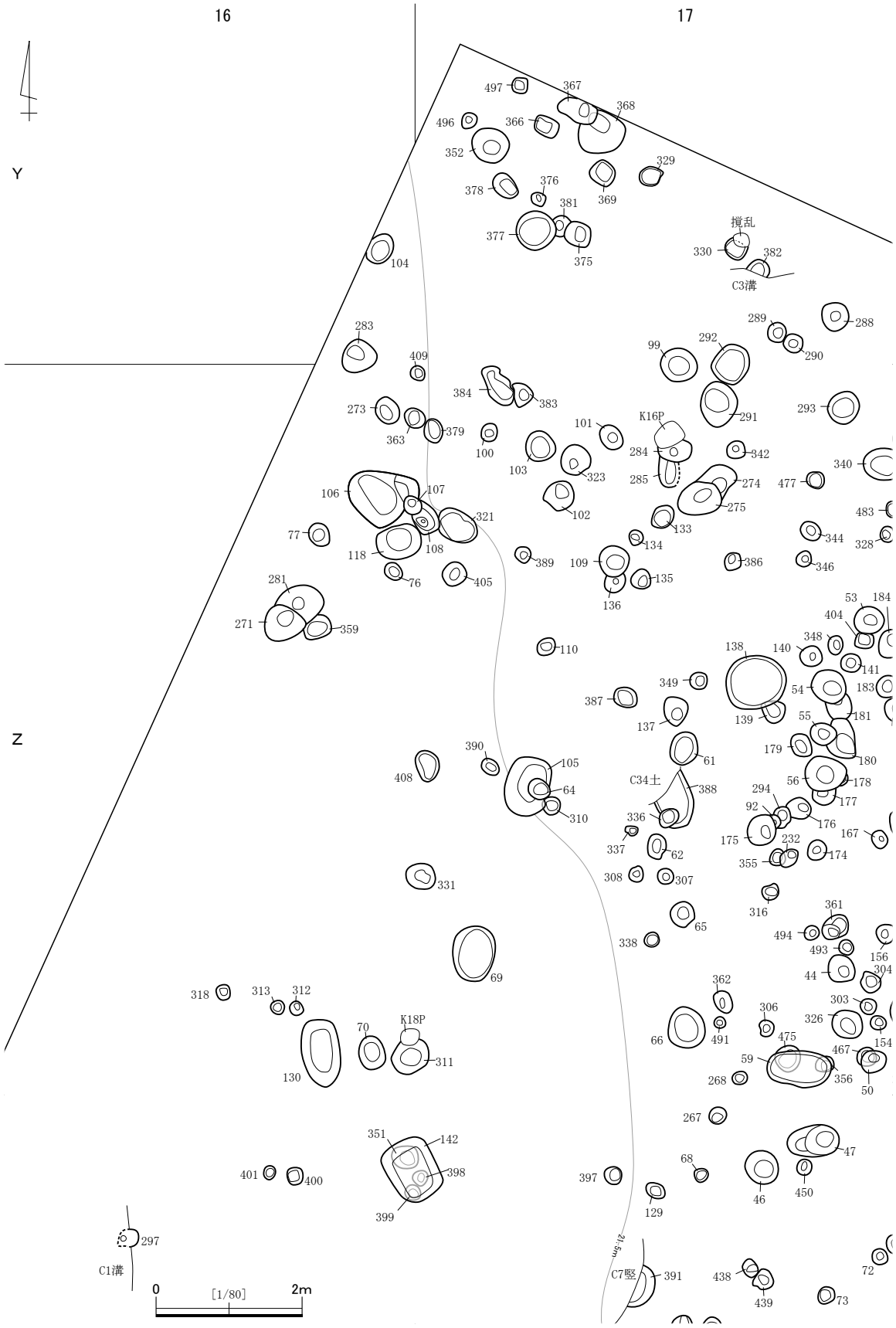
遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

（５）ピット（第180・208～232図、第47・48表、図版48－２・51－３・156）

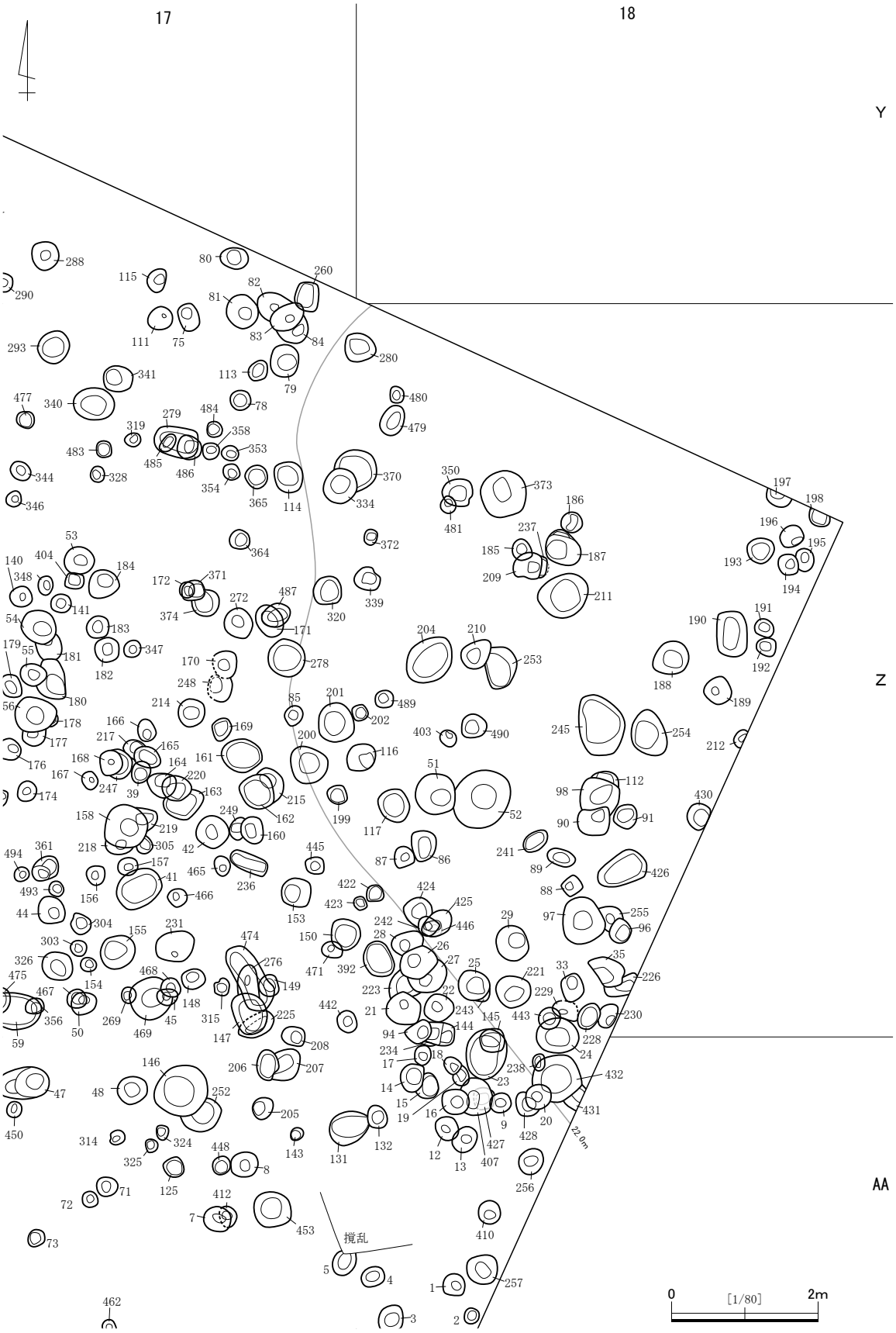
調査区全体で413基発見されているが、主に北東側に集中している。規模や深さは一定ではなく、また規則性のある並びも確認されなかったが、柱痕が残るピットがわずかに発見されている。ほとんどが北東側での確認であり、建物跡などが北東側へ展開していく可能性が考えられる。平面形は円形或いは楕円形で、各々の検出規模については第48表にまとめている。



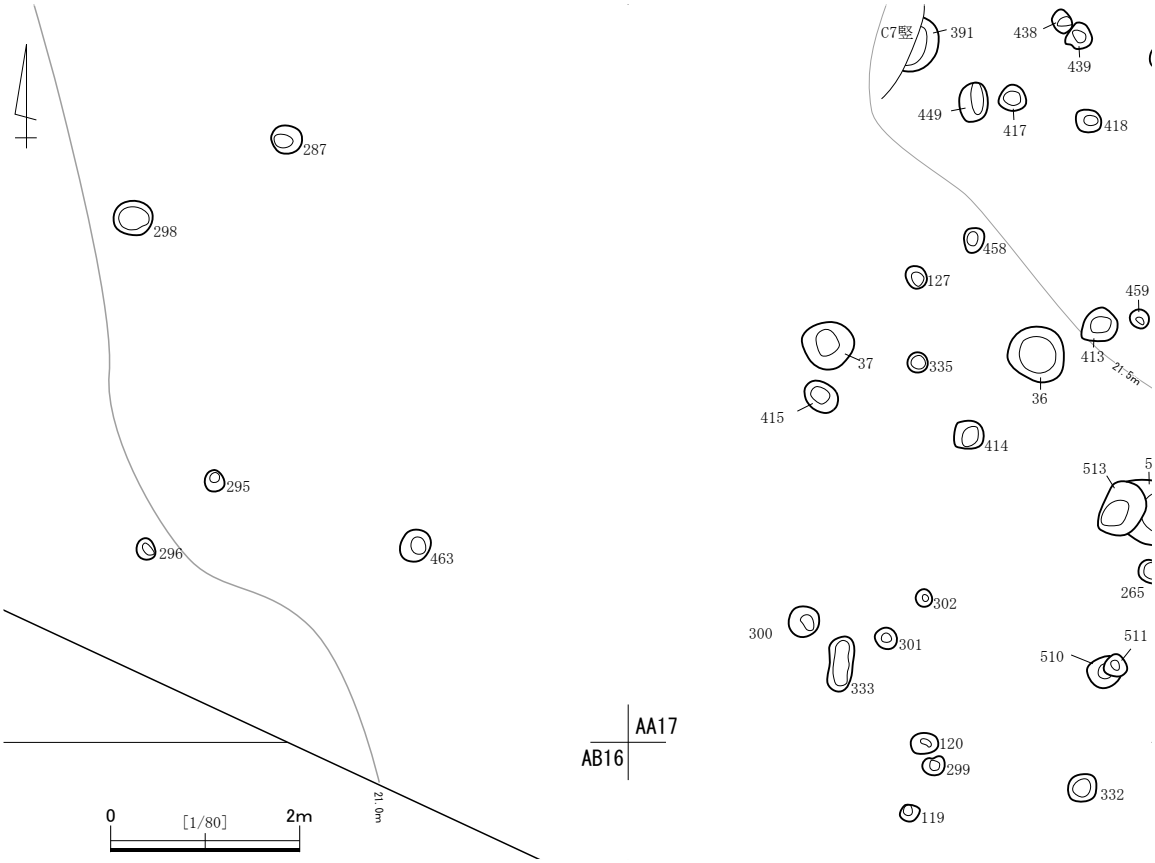
第208図　10区　中世ピット分布図[1/200]



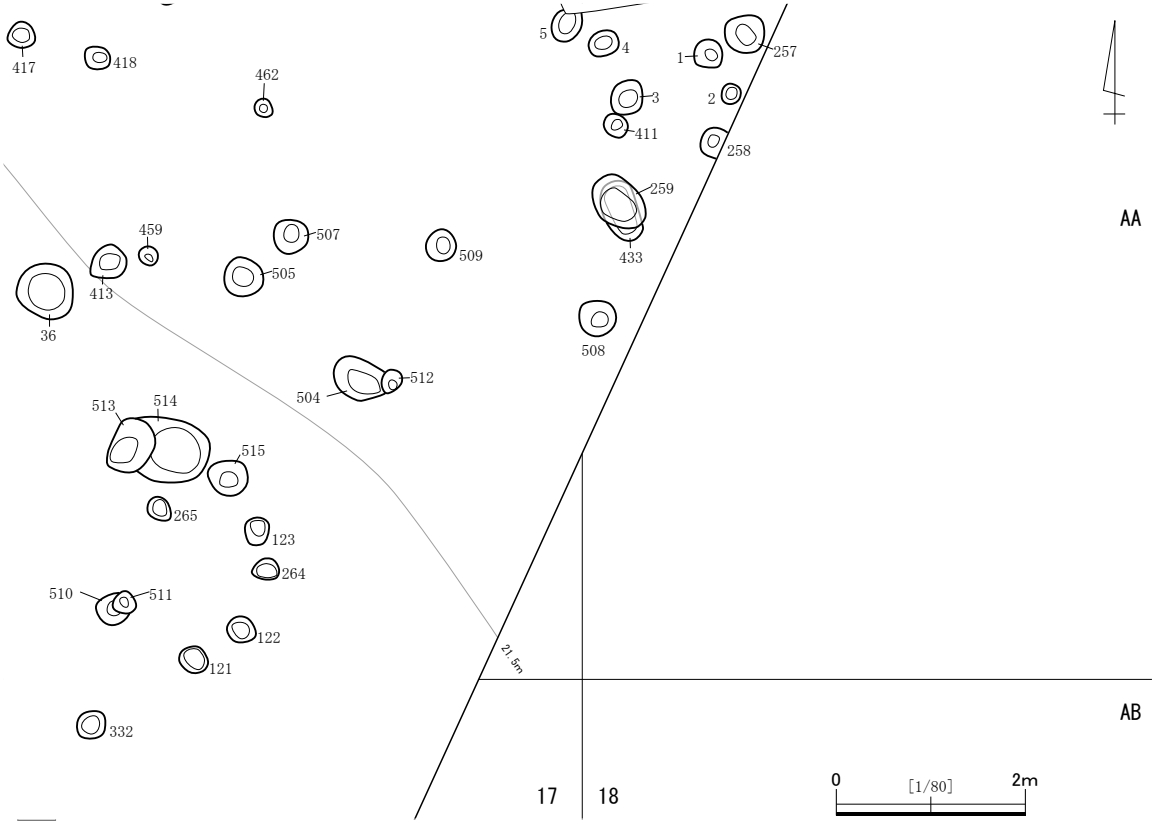
第209図　10区　中世ピット（１）[1/80]



第210図　10区　中世ピット（２）[1/80]

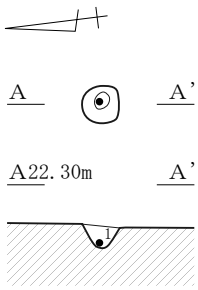


第211図　10区　中世ピット（３）[1/80]



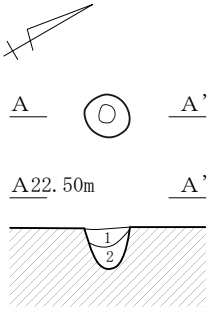
第212図　10区　中世ピット（４）[1/80]

Ｃ１号ピット



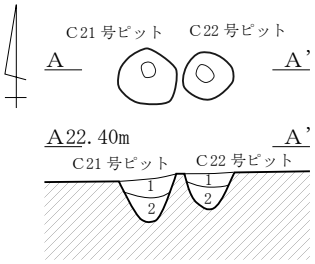
第１層　褐色土　粘性弱く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

C20号ピット



第１層　褐色土　粘性弱く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～5㎜の黒色スコリア少量含む。
第２層　第１層より色調暗い。

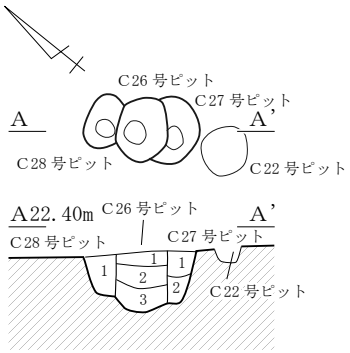
C21・22号ピット



C21号ピット
第１層　茶褐色土　粘性弱く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～5㎜の黒色スコリア少量、炭化物粒少量含む。
第２層　茶褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

C22号ピット
第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

C26～28号ピット

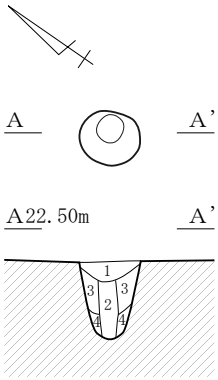


C26号ピット
第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、炭化物粒少量含む。
第２層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。
第３層　褐色土　第２層に類似。第２層より色調暗い。

C27号ピット
第１層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～5㎜の黒色スコリア少量含む。

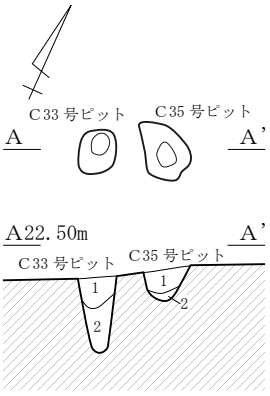
C28号ピット
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～5㎜の黒色スコリア微量含む。

C29号ピット



第１層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～5㎜の黒色スコリア少量含む。
第２層　褐色土　第１層より色調暗い。
第３層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。
第４層　暗褐色土　粘性あり、しまりや や強い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。

C33・35号ピット



C33号ピット
第１層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～5㎜の黒色スコリア少量含む。
第２層　褐色土　第１層より色調暗い。

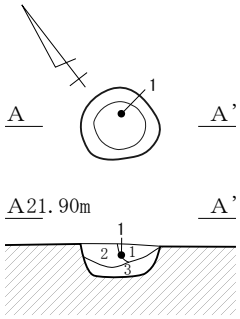
C35号ピット
第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～5㎜の黒色スコリア微量、明褐色土ブロック少量、ローム粒少量含む。

● 土器

0　[1/60]　2m

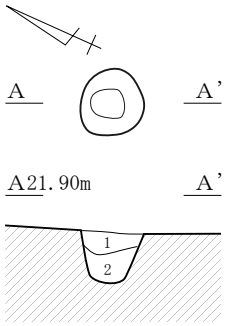
第213図　10区Ｃ１・20～22・26～29・33・35号ピット[1/60]

C36号ピット



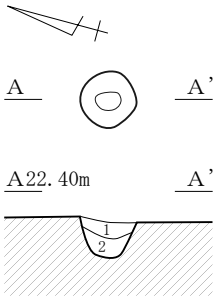
第１層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～5㎜の黒色スコリア少量含む。
第２層　褐色土　粘性あり、しまりやや強い。径１～３㎜の橙色スコリアやや多量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒少量含む。
第３層　褐色土　粘性あり、しまりやや強い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

C37号ピット



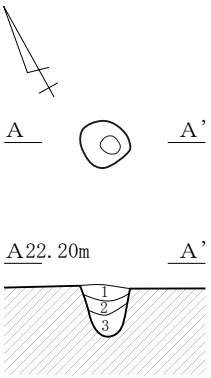
第１層　褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒、ローム粒少量含む。
第２層　褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～5㎜の黒色スコリア少量含む。

C42号ピット



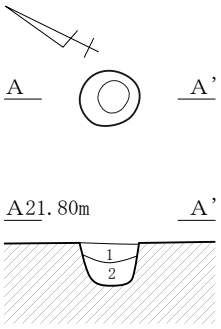
第１層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～5㎜の黒色スコリア少量含む。
第２層　褐色土　第１層より色調暗い。

C44号ピット



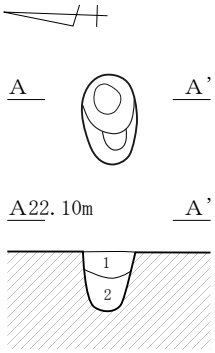
第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第３層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。第２層より色調暗く、しまっている。

C46号ピット



第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

C47号ピット



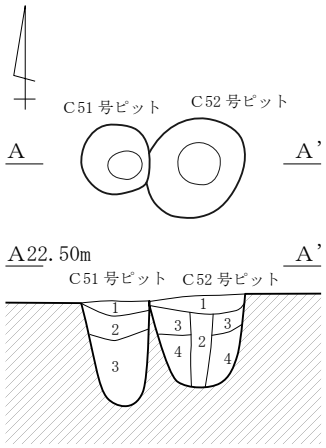
第１層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、焼土粒微量含む。
第２層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

● 土器

0　[1/60]　2m

第214図　10区Ｃ36・37・42・44・46・47号ピット[1/60]

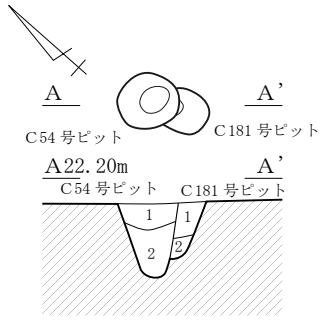
C51・52号ピット



C51号ピット
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。
第２層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。
第３層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、ローム粒少量含む。

C52号ピット
第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。
第２層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、ローム粒少量含む。
第３層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。
第４層　褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

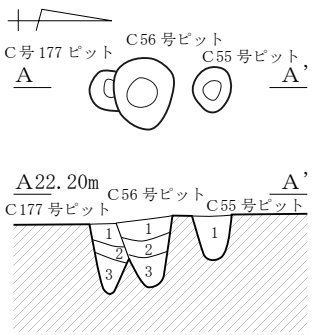
C54・181号ピット



C54号ピット
第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。
第２層　褐色土　第１層より色調暗い。

C181号ピット
第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、焼土粒微量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

C55・56・177号ピット

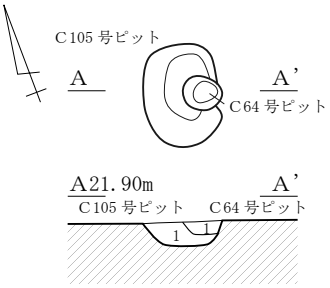


C55号ピット
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。

C56号ピット
第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。
第３層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

C177号ピット
第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　暗褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。
第３層　暗褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、茶褐色土ブロック少量含む。

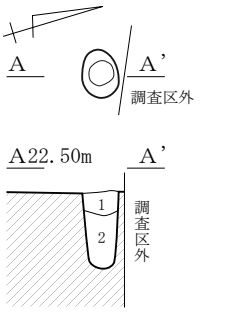
C64・105号ピット



C64号ピット
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。

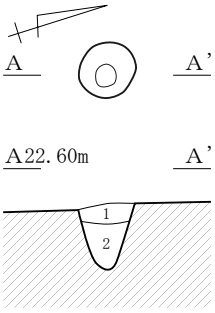
C105号ピット
第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

C80号ピット



第１層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、ローム粒少量含む。
第２層　褐色土　第１層より色調暗い。

C81号ピット

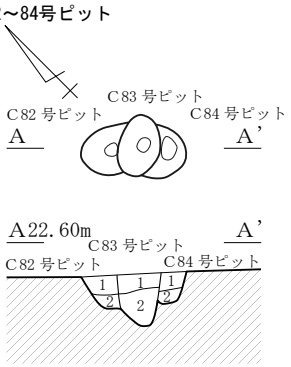


第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。

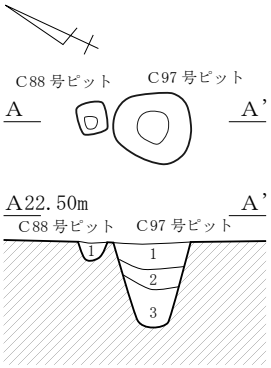
0　[1/60]　2m

第215図　10区Ｃ51・52・54～56・64・80・81・105・177・181号ピット[1/60]

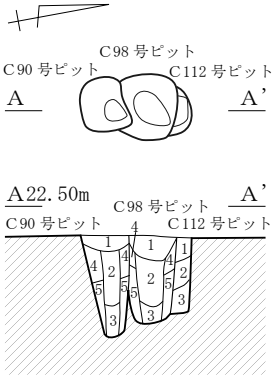
C82～84号ピット



C88・97号ピット



C90・98・112号ピット



C82号ピット
第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。

C83号ピット
第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。
第２層　明褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量含む。

C84号ピット
第１層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　明褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、褐色土ブロック少量含む。

C88号ピット
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

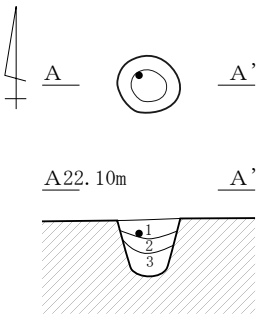
C97号ピット
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。
第３層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

C90号ピット
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。
第２層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。
第３層　暗褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。
第４層　褐色土　粘性あり、しまりやや強い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。
第５層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

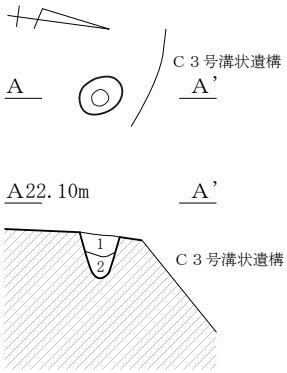
C98号ピット
第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、焼土粒微量含む。
第２層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。
第３層　褐色土　褐色土ブロック微量含む。
第４層　暗茶褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、炭化物粒微量、明褐色土ブロック微量含む。
第５層　暗茶褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量含む。

C112号ピット
第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。
第２層　褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、明褐色土ブロック少量含む。
第３層　褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

C99号ピット



C101号ピット



第１層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。
第２層　暗黄褐色土　粘性あり、しまり弱い。ローム主体。褐色土少量含む。
第３層　明褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。

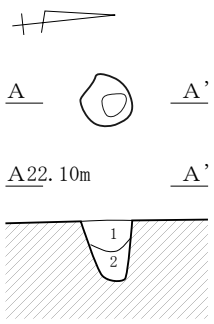
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。
第２層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

● 土器

0　[1/60]　2m

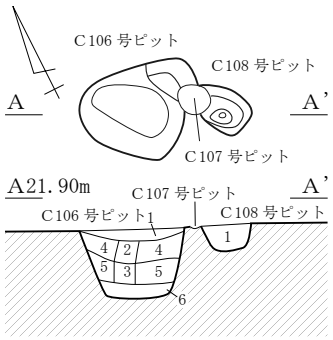
第216図　10区C82～84・88・90・97～99・101・112号ピット[1/60]

Ｃ102号ピット



第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。
第２層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

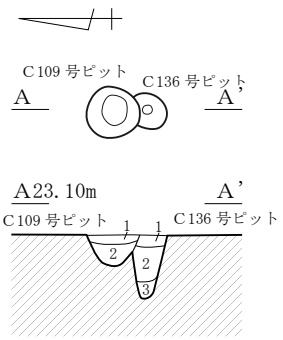
Ｃ106・108号ピット



Ｃ106号ピット
第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。
第３層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第４層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第５層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量含む。
第６層　明褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量含む。

Ｃ108号ピット
第１層　褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

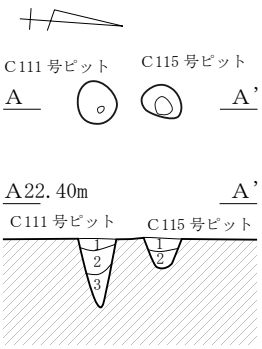
Ｃ109・136号ピット



Ｃ109号ピット
第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりやや強い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

Ｃ136号ピット
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第３層　明褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量含む。

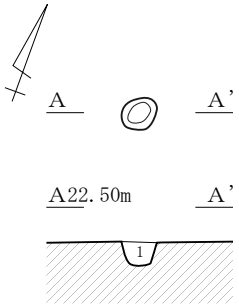
Ｃ111・115号ピット



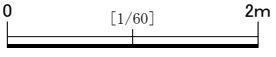
Ｃ111号ピット
第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。
第２層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第３層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

Ｃ115号ピット
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。

Ｃ113号ピット

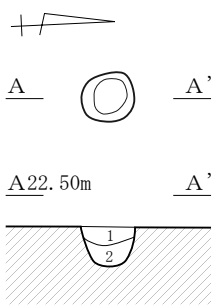


第１層　明茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。



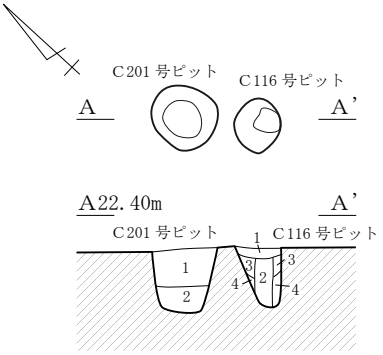
第217図　10区Ｃ102・106・108・109・111・113・115・136号ピット[1/60]

C114号ピット



第１層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

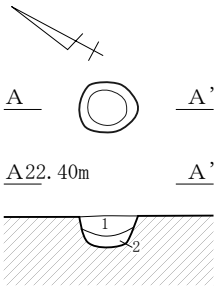
C116・201号ピット



C116号ピット
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第３層　暗茶褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、明褐色土ブロック少量含む。
第４層　暗茶褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

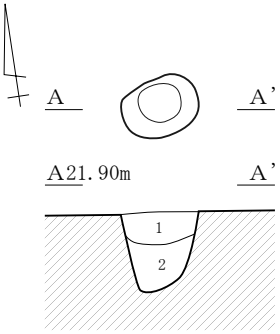
C201号ピット
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

C117号ピット



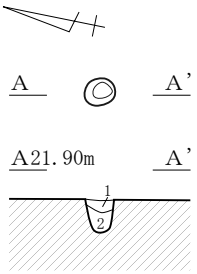
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

C118号ピット



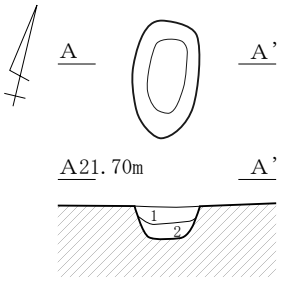
第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、明褐色土ブロック少量含む。

C127号ピット



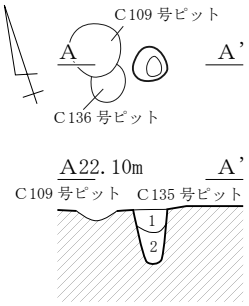
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

C130号ピット



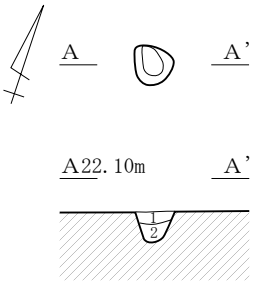
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

C135号ピット

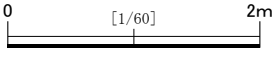


第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。
第２層　褐色土　径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

C139号ピット

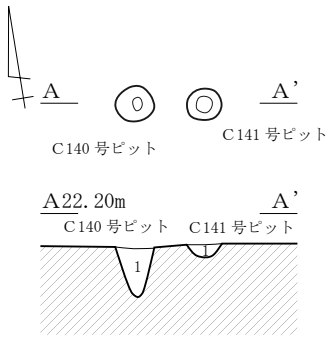


第１層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。



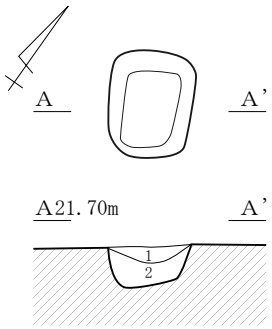
第218図　10区C114・116～118・127・130・135・139・201号ピット[1/60]

C140・141号ピット



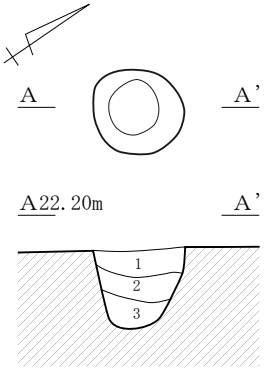
C140・141号ピット
第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

C142号ピット



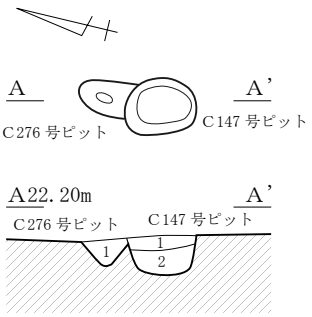
第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

C146号ピット



C146号ピット
第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第３層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

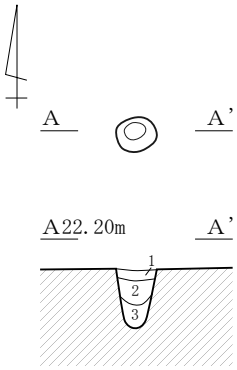
C147・276号ピット



C147号ピット
第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。
第２層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

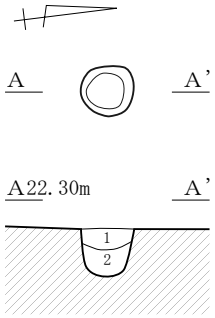
C276号ピット
第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物微量含む。

C148号ピット

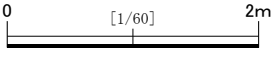


第１層　褐色土　粘性弱く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。
第２層　褐色土　粘性弱く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第３層　褐色土　第２層よりしまり強い。

C150号ピット

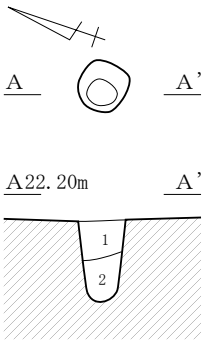


第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。



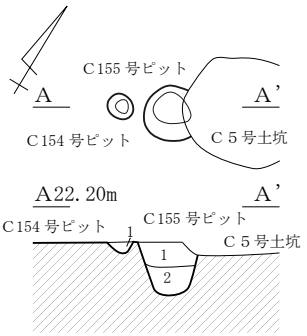
第219図　10区Ｃ140～142・146～148・150・276号ピット[1/60]

Ｃ153号ピット



第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

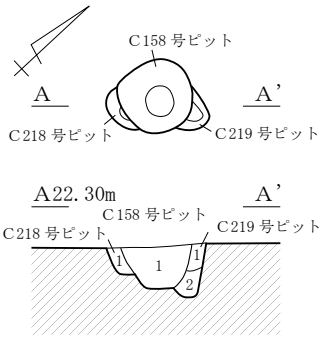
Ｃ154・155号ピット



Ｃ154号ピット
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

Ｃ155号ピット
第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

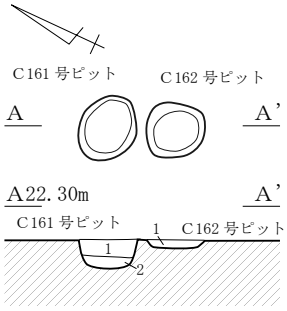
Ｃ158・218・219号ピット



Ｃ158号ピット
第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。

Ｃ218・219号ピット
第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

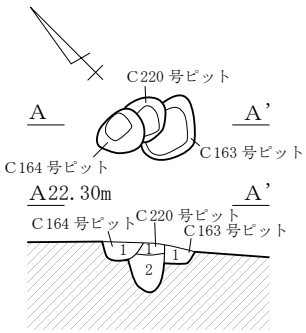
Ｃ161・162号ピット



Ｃ161号ピット
第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

Ｃ162号ピット
第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

Ｃ163・164・220号ピット

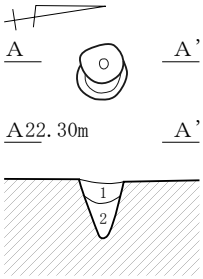


Ｃ163号ピット
第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、褐色土ブロック微量含む。

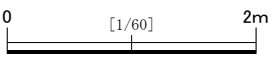
Ｃ164号ピット
第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。

Ｃ220号ピット
第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、暗茶褐色土ブロック少量含む。

Ｃ168号ピット

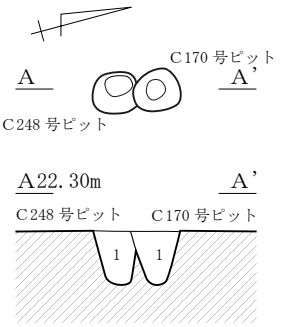


第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。



第220図　10区Ｃ153～155・158・161～164・168・218～220号ピット[1/60]

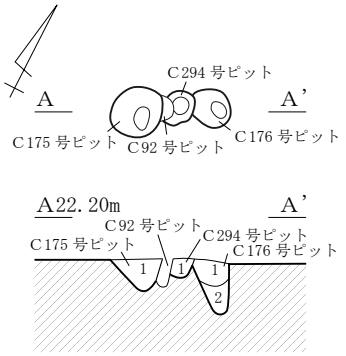
C170・248号ピット



C170号ピット
第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

C248号ピット
第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

C175・176・294号ピット

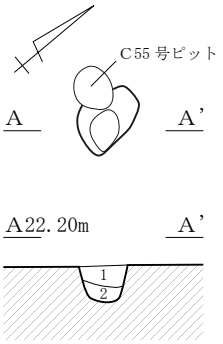


C175号ピット
第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

C176号ピット
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

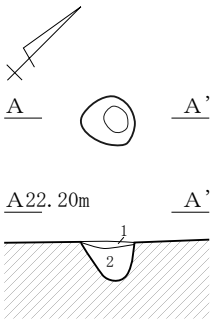
C294号ピット
第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。

C180号ピット



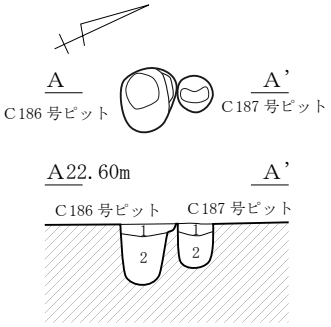
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

C184号ピット



第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

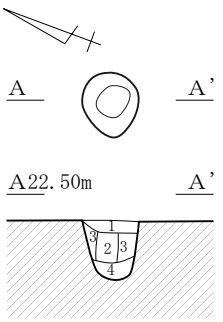
C186・187号ピット



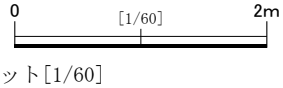
C186号ピット
第１層　明茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、炭化物粒微量、ローム粒少量含む。
第２層　明茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量含む。

C187号ピット
第１層　明茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、炭化物粒微量、ローム粒少量含む。
第２層　明茶褐色土　粘性弱く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量含む。

C188号ピット

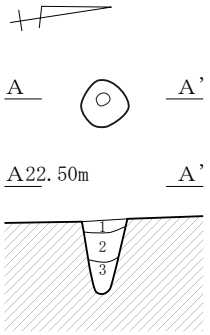


第１層　明茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、炭化物粒微量、ローム粒少量含む。
第２層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、ローム粒微量含む。
第３層　明茶褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量含む。
第４層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量含む。



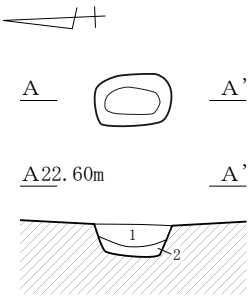
第221図　10区　C170・175・176・180・184・186～188・248・294号ピット[1/60]

Ｃ189号ピット



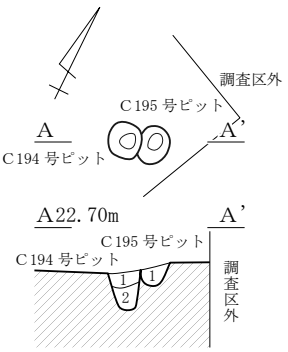
第１層　明茶褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、ローム粒少量含む。
第２層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、ローム粒微量含む。
第３層　明茶褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量含む。

Ｃ190号ピット



第１層　明茶褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、ローム粒中量含む。
第２層　明茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、ローム粒微量含む。

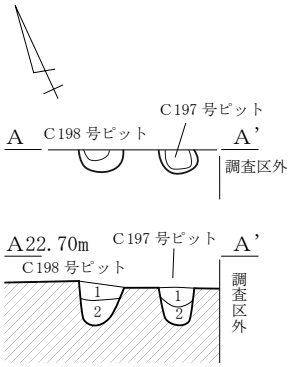
Ｃ194・195号ピット



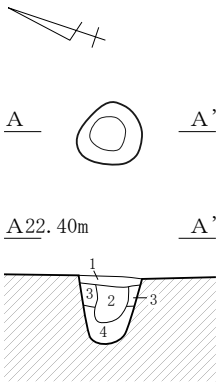
Ｃ194号ピット
第１層　明茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、ローム粒少量含む。
第２層　明茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量含む。

Ｃ195号ピット
第１層　明茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、ローム粒少量含む。

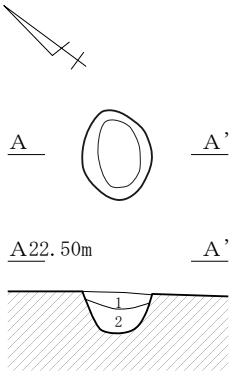
Ｃ197・198号ピット



Ｃ200号ピット



Ｃ204号ピット

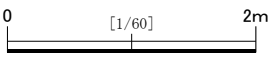


Ｃ197号ピット
第１層　明褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。
第２層　明褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

Ｃ198号ピット
第１層　明褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。
第２層　明褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

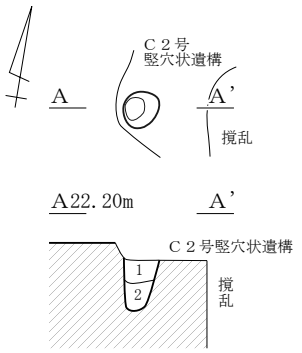
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　暗褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第３層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第４層　暗褐色土　径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。



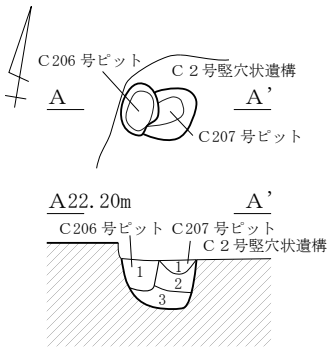
第222図　10区Ｃ189・190・194・195・197・198・200・204号ピット[1/60]

C205号ピット



第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。
第２層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

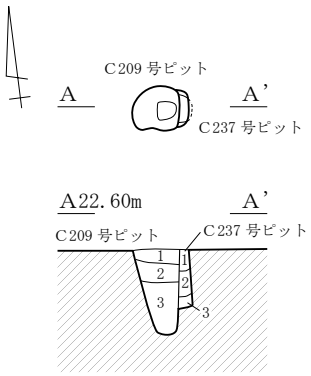
C206・207号ピット



C206号ピット
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、焼土粒微量含む。

C207号ピット
第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、暗褐色土ブロック微量含む。
第３層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。

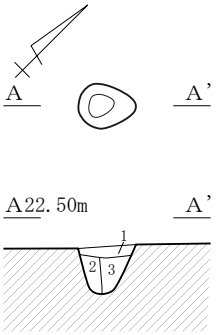
C209・237号ピット



C209号ピット
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。
第２層　明褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、ローム粒少量含む。
第３層　明褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量含む。

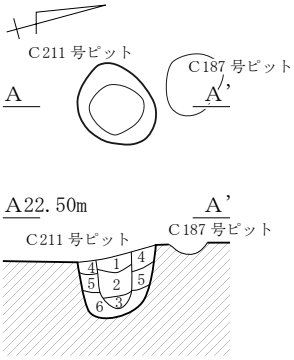
C237号ピット
第１層　褐色土　粘性あり、しまりやや強い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　暗黄褐色土　粘性やや強く、しまりあり。ローム主体。褐色土ブロック少量含む。
第３層　黄褐色土　粘性やや強く、しまりあり。ローム主体。褐色土ブロック微量含む。

C210号ピット



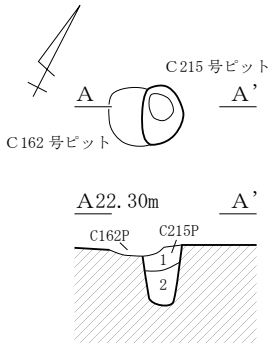
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。
第２層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。
第３層　明褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、ローム粒中量含む。

C211号ピット

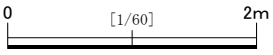


第１層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、明褐色土ブロック微量含む。
第２層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、暗褐色土ブロック少量含む。
第３層　暗茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、ローム粒少量含む。
第４層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、ローム粒微量含む。
第５層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、ローム粒少量含む。
第６層　明褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、ローム粒中量含む。

C215号ピット

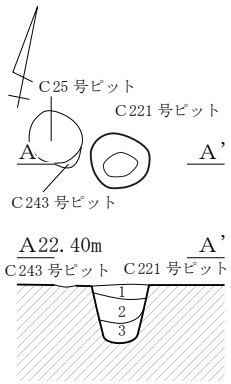


第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。



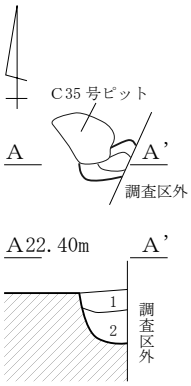
第223図　10区Ｃ205～207・209～211・215・237号ピット[1/60]

C221号ピット



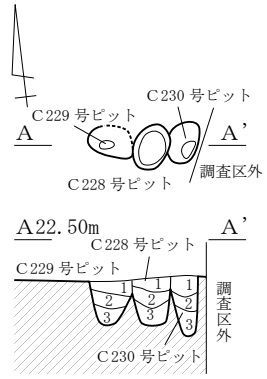
第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。
第３層　暗茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

C226号ピット



第１層　暗褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、茶褐色土ブロック少量含む。
第２層　暗褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。

C228・229・230号ピット

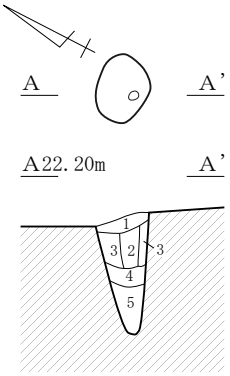


C228号ピット
第１層　暗茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、茶褐色土ブロック少量含む。
第３層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、暗褐色土ブロック少量含む。

C229号ピット
第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量含む。
第２層　暗褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、茶褐色土ブロック微量含む。
第３層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、暗褐色土ブロック微量含む。

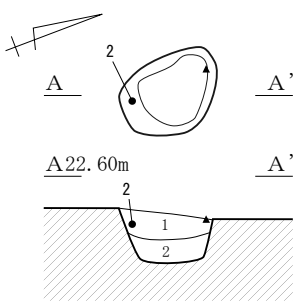
C230号ピット
第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。
第２層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。
第３層　暗褐色土　粘性・しまりあり。　径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量＜ローム粒少量含む。

C231号ピット



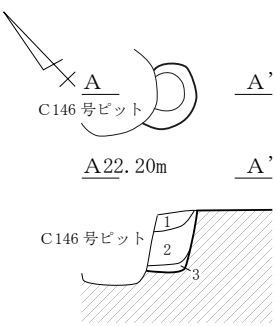
第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、焼土粒微量含む。
第２層　暗褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。
第３層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、茶褐色土ブロック少量含む。
第４層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、褐色土ブロック少量含む。
第５層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

C245号ピット



第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、焼土粒微量、ローム粒微量含む。
第２層　明茶褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、炭化物粒少量、ローム粒少量含む。

C252号ピット



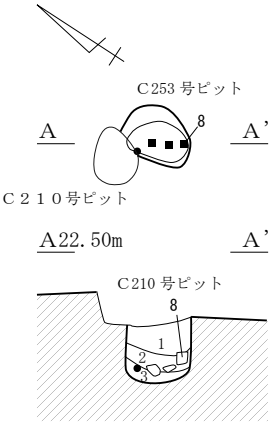
第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。
第２層　暗茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、暗茶褐色土ブロック少量含む。
第３層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、茶褐色土ブロック微量含む。

● 土器

0　[1/60]　2m

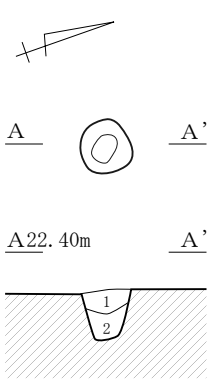
第224図　10区Ｃ221・226・228～231・245・252号ピット[1/60]

C253号ピット



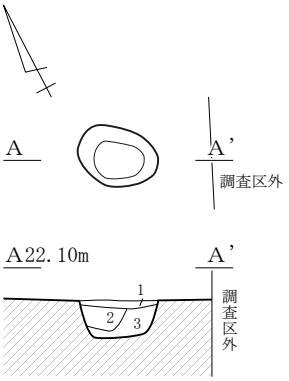
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒少量含む。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。
第３層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

C257号ピット



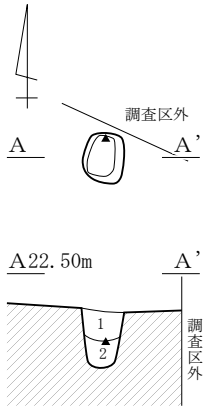
第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。
第２層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

C259号ピット



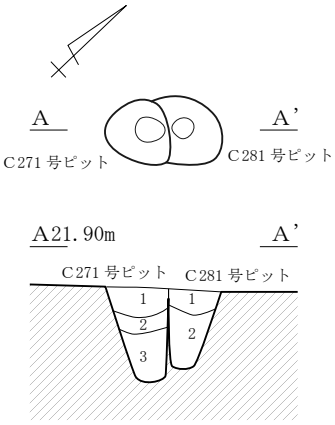
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、焼土粒微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、焼土粒微量含む。
第３層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

C260号ピット



第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。

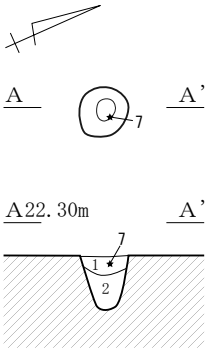
C271・281号ピット



C271号ピット
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒少量含む。
第２層　暗茶褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。
第３層　暗茶褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量含む。

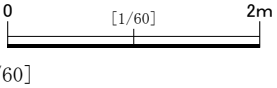
C281号ピット
第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

C272号ピット



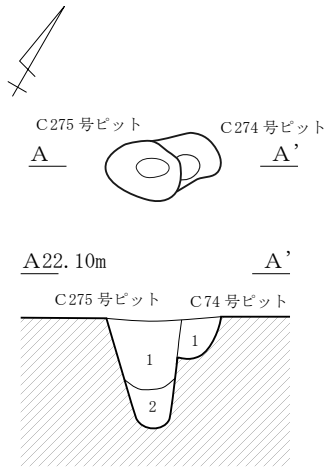
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、焼土粒微量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

■石器・石製品
▲金属製品
★銭

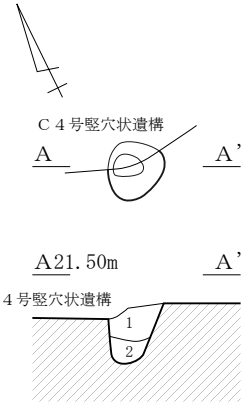


第225図　10区Ｃ253・257・259・260・271・272・281号ピット[1/60]

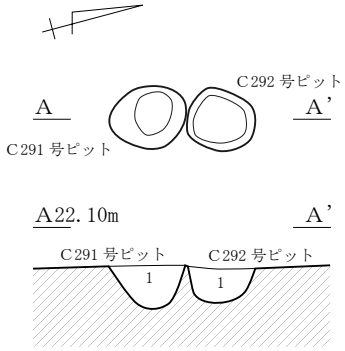
C274・275号ピット



C283号ピット



C291・292号ピット



C274号ピット

第１層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒中量含む。

C275号ピット

第１層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

第２層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、明茶褐色土ブロック少量含む。

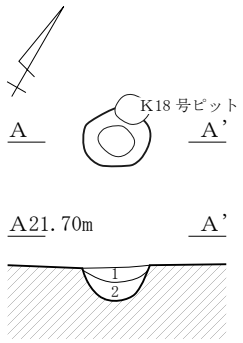
第１層　褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

第２層　褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。

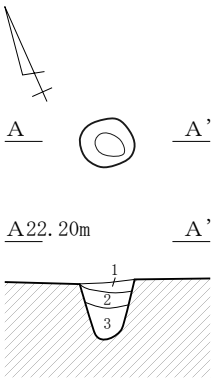
C291・292号ピット

第１層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。

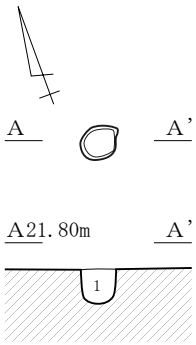
C311号ピット



C326号ピット



C329号ピット



第１層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量、暗褐色土ブロック少量含む。

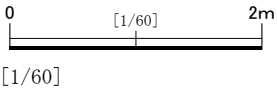
第２層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、炭化物粒微量、茶褐色土ブロック少量含む。

第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア中量、炭化物粒微量含む。

第２層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

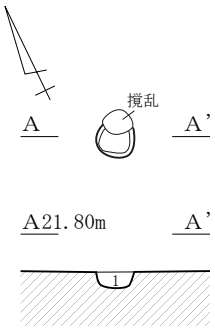
第３層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、ローム粒少量含む。



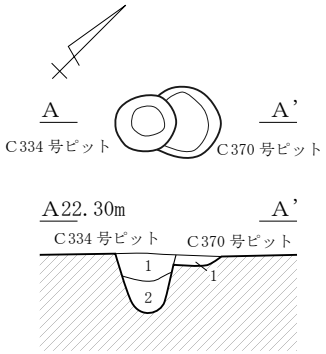
第226図　10区C274・275・283・291・292・311・326・329号ピット[1/60]

Ｃ330号ピット



第１層　暗茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、ローム粒微量含む。

Ｃ334・370号ピット



Ｃ334号ピット

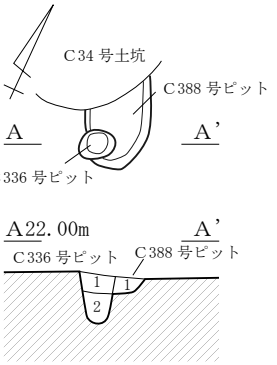
第１層　明茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、ローム粒微量含む。

第２層　暗褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

Ｃ370号ピット

第１層　暗黄褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。

Ｃ336・388号ピット



Ｃ336号ピット

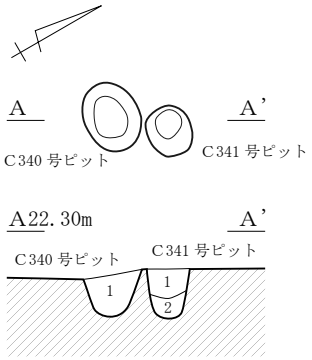
第１層　明茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。

第２層　暗茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

Ｃ388号ピット

第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。

Ｃ340・341号ピット



Ｃ340号ピット

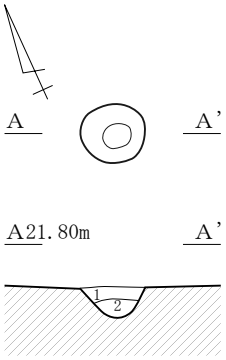
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。

Ｃ341号ピット

第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。

第２層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

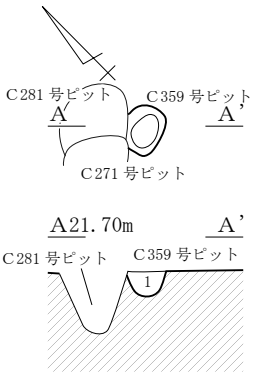
Ｃ352号ピット



第１層　黄褐色土　粘性やや強く、しまりあり。ローム主体。茶褐色土ブロック少量含む。

第２層　明褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。

Ｃ359号ピット

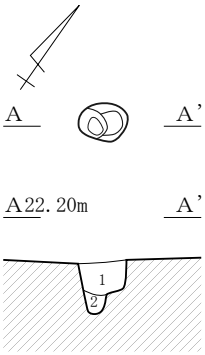


第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

0　[1/60]　2m

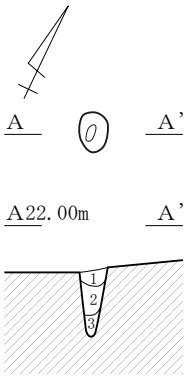
第227図　10区Ｃ330・334・336・340・341・352・359・370・388号ピット[1/60]

C361号ピット



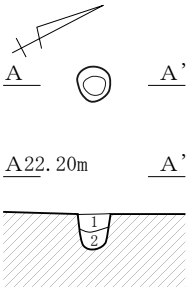
第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。
第２層　暗茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、茶褐色土ブロック少量含む。

C362号ピット



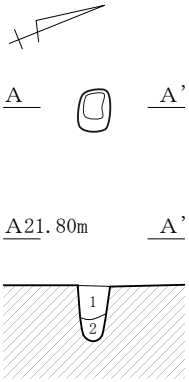
第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。
第２層　暗茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、茶褐色土ブロック少量含む。
第３層　暗茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

C364号ピット



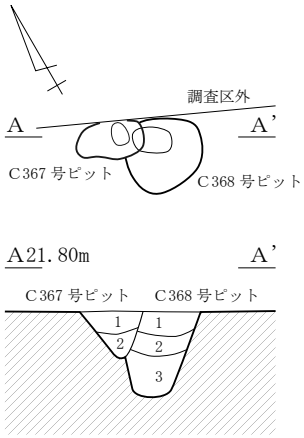
第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。
第２層　暗茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。

C366号ピット



第１層　暗茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。
第２層　暗茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。

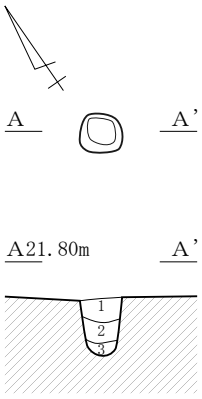
C367・368号ピット



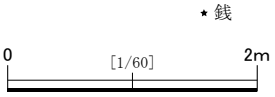
C367号ピット
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。
第２層　暗茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。

C368号ピット
第１層　明茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。
第2層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。
第３層　暗茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

C369号ピット

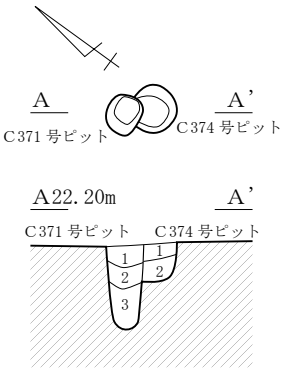


第１層　暗茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。
第２層　暗茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。
第３層　暗茶褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。



第228図　10区Ｃ361・362・364・366～369号ピット[1/60]

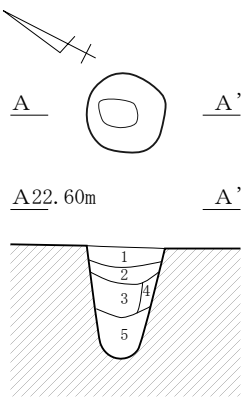
C371・374号ピット



C371号ピット
第１層　暗茶褐色土　粘性・しまりあり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。
第２層　暗茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、茶褐色土ブロック少量含む。
第３層　暗茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

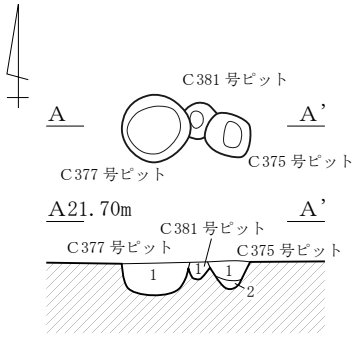
C374号ピット
第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。
第２層　褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

C373号ピット



第１層　明茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。
第２層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。
第３層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。
第４層　暗黄褐色土　粘性やや強く、しまりあり。ローム主体。茶褐色土ブロック微量含む。
第５層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。

C375・377・381号ピット

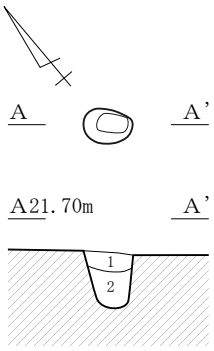


C375号ピット
第１層　暗茶褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。
第２層　暗茶褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。

C377号ピット
第１層　明茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

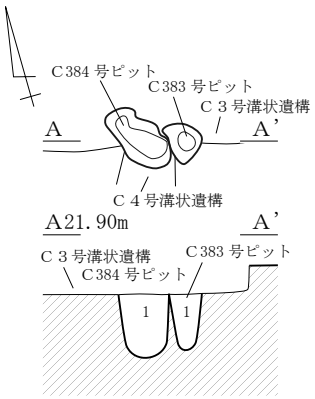
C381号ピット
第１層　茶褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。

C378号ピット



第１層　茶褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。
第２層　暗茶褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。

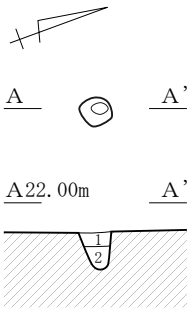
C383・384号ピット



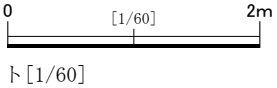
C383号ピット
第１層　暗茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。

C384号ピット
第１層　明茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒少量含む。

C386号ピット

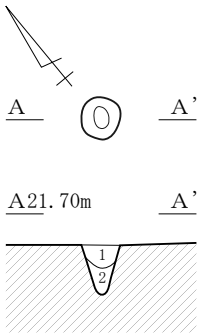


第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　暗茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。



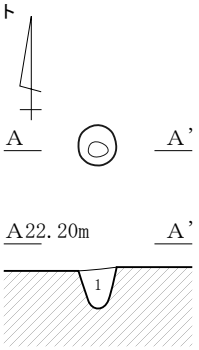
第229図　10区Ｃ371・373～375・377・378・381・383・384・386号ピット[1/60]

C405号ピット



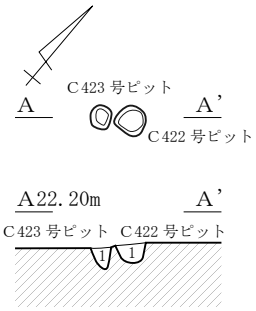
第１層　暗茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。
第２層　暗褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、明褐色土ブロック少量含む。

C410号ピット



第１層　暗茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

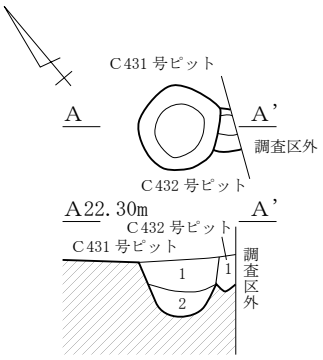
C422・423号ピット



C422号ピット
第１層　明茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。

C423号ピット
第１層　明茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。

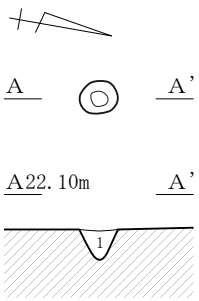
C431・432号ピット



C431号ピット
第１層　明茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

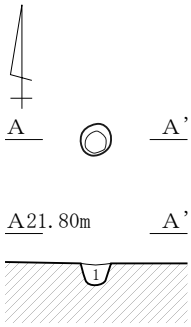
C432号ピット
第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、炭化物粒微量、焼土粒微量含む。
第２層　暗褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

C442号ピット



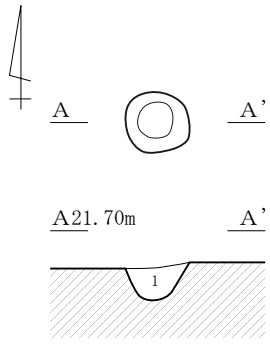
第１層　暗茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、炭化物粒微量、焼土粒微量含む。

C448号ピット

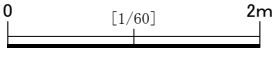


第１層　暗茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、炭化物粒微量含む。

C453号ピット

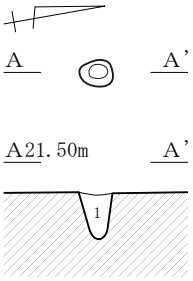


第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。



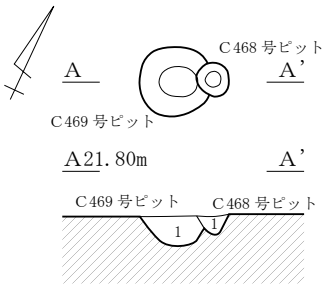
第230図　10区C405・410・422・423・431・432・442・448・453号ピット[1/60]

C458号ピット



第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、焼土粒微量含む。

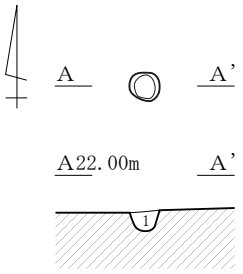
C468・469号ピット



C468号ピット
第１層　明茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

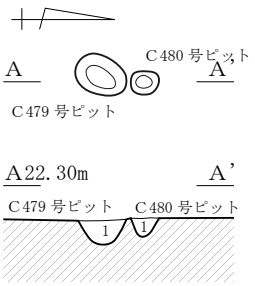
C469号ピット
第１層　明茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

C477号ピット



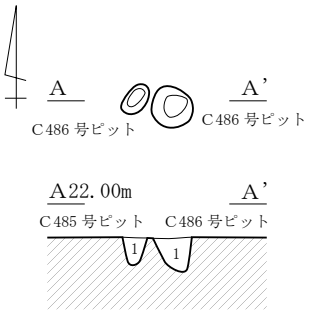
第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

C479・480号ピット



C479・480号ピット
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

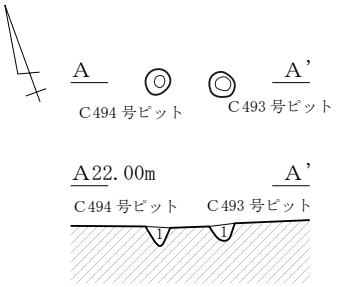
C486・487号ピット



C486号ピット
第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

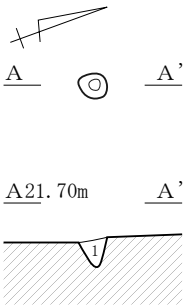
C487号ピット
第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。

C493・494号ピット



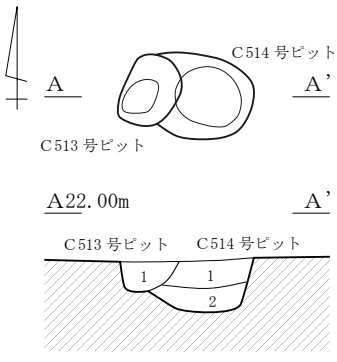
C493・494号ピット
第１層　茶褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

C496号ピット



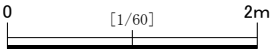
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。

C513・514号ピット

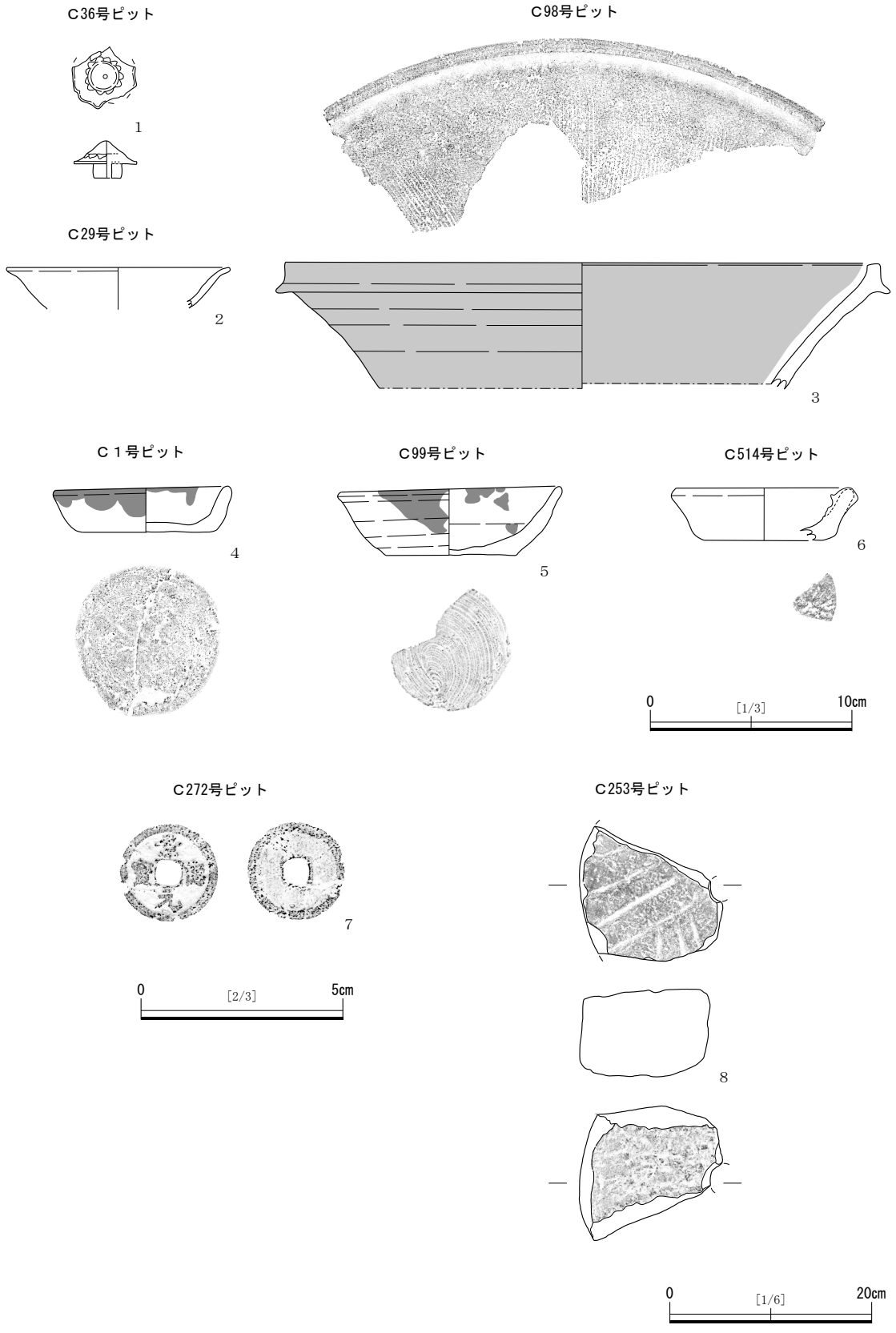


C513号ピット
第１層　明茶褐色土　粘性・しまりやや強い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。

C514号ピット
第１層　明褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、焼土粒微量含む。
第２層　赤褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。



第231図　10区Ｃ458・468・469・477・479・480・486・487・493・494・496・513・514号ピット[1/60]



第232図　10区中世ピット出土遺物[1/3・2/3・1/6]

第47表　10区中世ピット出土遺物観察表［第232図］

No.	器種	種別	()＝現存値〔〕＝復元値 口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	残存度	産地	時期	観察内容
1	青白磁水注蓋	磁器	3.1	—	1.8	8.6	摘み部のみ完形	景徳鎮	13世紀	素地 灰白色、緻密 焼成 堅緻 釉薬 明青灰色、外面のみ施釉 備考 縁を花輪状、軸部径６㎜深さ・1.3㎜の孔有 出土位置 Ｃ３号ピット
2	白磁端反皿	磁器	〔11.0〕	—	(2.1)	3.1	口縁部1/9	中国	15世紀	素地 灰白色、緻密 焼成 堅緻 釉薬 灰白色白磁 出土位置 Ｃ245号ピット
3	錆釉擂鉢	陶器	〔29.4〕	—	(6.2)	173.4	口縁部1/4・体部破片	瀬戸・美濃	15世紀後半～16世紀	胎土 浅黄橙色、密、砂粒・小礫を含む 焼成 良好 釉薬 暗褐色錆釉 備考 10条１単位の擂り目 出土位置 Ｃ98号ピット
4	かわらけ	土器	8.5	7.0	2.3	60.2	口縁部～体部7/8、底部完存	在地	13世紀前半	胎土 橙色、密、細かい砂粒・角閃石・雲母を含む 焼成 やや不良 備考 灯明皿として使用、内外面スス付着、底部回転糸切り痕不明瞭 出土位置 Ｃ１号ピット
5	かわらけ	土器	10.8	6.4	3.4	73.7	口縁部～体部1/2・底部2/3	在地	14世紀末～15世紀前半	胎土 橙色～黒褐色、密、角閃石・雲母を含む 焼成 良好 備考 内外面スス付着、底部回転糸切り痕 出土位置 Ｃ99号ピット
6	かわらけ	土器	〔8.6〕	〔6.7〕	2.6	12.2	口縁部～底部1/8	在地	13世紀	胎土 にぶい褐色、密、細かい砂粒 焼成 良好 備考 取瓶に転用、内面に銅滓付着 出土位置 Ｃ514号ピット

No.	銭名	材質	銭径(㎜)	穿径(㎜)	厚さ(㎜)	重量(g)	残存度	観察内容
7	景徳元寶	銅	24.0	6.3	1.0	1.9	完形	鋳造地 北宋 初鋳年 1004年 備考 真書 出土位置 Ｃ272号ピット

No.	種別	材質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	観察内容
8	石臼	安山岩	〔28.8〕	—	8.7	2,243.8	残存度 1/8 備考 下臼、棒芯穴3.0cm 出土位置 Ｃ253号ピット

各ピットからの出土遺物は以下のとおりである。Ｃ１号ピットからかわらけ１点(60.2ｇ)、Ｃ15号ピットから陶器壺甕１点(8.3ｇ)、Ｃ34号ピットからかわらけ１点(5.4ｇ)、Ｃ36号ピットから青白磁水注蓋１点(8.6ｇ)、かわらけ２点(6.2ｇ)、不明石製品１点(6.7ｇ)、Ｃ37号ピットからかわらけ２点(3.8ｇ)、Ｃ43号ピットからかわらけ２点(4.5ｇ)、Ｃ50号ピットからかわらけ1点(11.3ｇ)、Ｃ51号ピットから陶器皿１点(13.7ｇ)、Ｃ98号ピットから陶器擂鉢１点(173.4ｇ)、Ｃ99号ピットからかわらけ1点(73.7ｇ)、Ｃ106号ピットからかわらけ２点(20.4ｇ)、Ｃ112号ピットから陶器擂鉢１点(29.1ｇ)、Ｃ147号ピットからかわらけ１点(4.7ｇ)、Ｃ155号ピットからかわらけ１点(6.2ｇ)、Ｃ173号ピットからかわらけ１点(1.6ｇ)、Ｃ180号ピットからかわらけ２点(21.3ｇ)、Ｃ200号ピットからかわらけ２点(9.2ｇ)、Ｃ213号ピットからかわらけ１点(1.6ｇ)、Ｃ227号ピットから鉄滓１点(53.7ｇ)、Ｃ245号ピットから白磁皿１点(3.1ｇ)、鉄滓１点(15.6ｇ)、Ｃ250号ピットからかわらけ２点(12.4ｇ)、Ｃ253号ピットから石臼１点(2,243.8ｇ)、Ｃ260号ピットから鉄滓１点(86.6ｇ)、Ｃ269号ピットから陶器甕

１点(28.9ｇ)、器種不明瓦質土器１点(14.4ｇ)、C272号ピットから銭貨１点(1.9ｇ)、C299号ピット陶器甕１点(59.7ｇ)、C306号ピットからかわらけ１点(3.5ｇ)、C335号ピットからかわらけ１点(6.8ｇ)、C368号ピット青磁碗１点(5.4ｇ)、C388号ピットかわらけ１点(3.1ｇ)、C395号ピットからかわらけ１点(3.0ｇ)、C396号ピットからかわらけ１点(10.0ｇ)、鉄滓１点(7.5ｇ)、C415号ピットからかわらけ１点(1.6ｇ)、C416号ピットからかわらけ１点(5.2ｇ)、C442号ピットから鉄製刀子１点(11.4ｇ)、C466号ピットから陶器壺１点(2.3ｇ)、C471号ピットからかわらけ３点(4.6ｇ)、C498号ピットからかわらけ３点(10.0ｇ)、C499号ピットからかわらけ５点(22.2ｇ)、C500号ピットからかわらけ５点(20.0ｇ)、C501号ピットからかわらけ２点(13.4ｇ)、C502号ピットからかわらけ２点(22.3ｇ)、C503号ピットからかわらけ１点(2.9ｇ)、C504号ピットからかわらけ１点(5.3ｇ)、C505号ピットからかわらけ２点(4.8ｇ)、C506号ピットからかわらけ２点(3.7ｇ)、C507号ピットからかわらけ２点(5.8ｇ)、C508号ピットからかわらけ１点(15.1ｇ)、C509号ピットからかわらけ３点(17.9ｇ)である。

総点数80点、総重量3,197.8ｇであり、そのうち８点を図化した。

第232図１は青白磁の水注蓋である。一輪の花のような形状で縁は完存していないが花弁を模っている。内面は無釉である。景徳鎮窯で13世紀代の所産である。２は白磁端反り皿の口縁部片である。15世紀の所産である。

第232図３は瀬戸・美濃産陶器錆釉擂鉢の口縁部～胴部上半約1/9である。15世紀後半～16世紀の所産である。

第232図４～６はかわらけである。４は不明瞭な糸切り痕とスノコ痕を残す底部から直線的に短く立ち上がる。口唇部には煤が付着しており、燈明皿と考えられる。13世紀前半と思われる。５は糸切り痕が残る底部からやや丸みをもって立ち上がり、口縁部は外反する。底部中央は薄い。14世紀末～15世紀前半の所産である。６は小片である。内面に銅滓が残り、発泡していることから取瓶に転用されていたと考えられる。13世紀か。第232図７は北宋銭「景徳元宝」である。完形で初鋳年は1004年である。８は石臼である。下臼で残存度は1/8である。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と考えられる。

第48表　10区中世ピット計測表［第208～231図］

遺構名	グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形	遺構名	グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形
C1号ピット	AA18	0.30	0.30	0.33	円形	C14号ピット	AA18	0.39	0.32	0.19	楕円形
C2号ピット	AA18	0.22	0.21	0.15	円形	C15号ピット	AA18	0.36	(0.28)	0.21	楕円形
C3号ピット	AA17･18	0.37	0.34	0.38	楕円形	C16号ピット	AA18	0.37	0.35	0.42	円形
C4号ピット	AA17	0.32	0.27	0.12	円形	C17号ピット	AA18	0.28	0.23	0.19	楕円形
C5号ピット	AA17	(0.34)	0.32	0.12	楕円形	C18号ピット	AA18	0.25	0.21	0.17	楕円形
C7号ピット	AA17	0.37	0.34	0.53	円形	C19号ピット	AA18	0.25	(0.23)	0.19	楕円形
C8号ピット	AA17	0.38	0.34	0.50	楕円形	C20号ピット	AA18	0.37	0.34	0.39	円形
C9号ピット	AA18	0.29	0.26	0.14	円形	C21号ピット	AA17･18	0.47	0.44	0.64	円形
C12号ピット	AA18	0.34	0.29	0.15	円形	C22号ピット	AA18	0.38	0.37	0.59	円形
C13号ピット	AA18	0.37	0.31	0.32	楕円形	C23号ピット	AA18	0.70	0.55	0.08	楕円形

C24号ピット	AA18	0.58	0.49	0.24	楕円形
C25号ピット	AA18	0.43	0.41	0.31	円形
C26号ピット	AA18	0.52	0.42	0.48	楕円形
C27号ピット	AA18	0.54	(0.37)	0.42	楕円形
C28号ピット	AA18	0.44	(0.28)	0.38	楕円形
C29号ピット	AA18	0.50	0.42	0.60	円形
C33号ピット	AA18	0.37	0.30	0.66	楕円形
C35号ピット	AA18	0.49	0.40	0.53	不整形
C36号ピット	AA17	0.63	0.60	0.30	円形
C37号ピット	AA17	0.53	0.51	0.34	円形
C39号ピット	Z17	0.31	0.25	0.17	円形
C41号ピット	AA17	0.65	0.50	0.20	楕円形
C42号ピット	Z17･AA17	0.45	0.45	0.30	円形
C44号ピット	AA17	0.38	0.37	0.44	円形
C45号ピット	AA17	0.29	0.23	0.18	楕円形
C46号ピット	AA17	0.49	0.44	0.37	円形
C47号ピット	AA17	0.72	0.44	0.50	楕円形
C48号ピット	AA17	0.41	0.38	0.24	円形
C50号ピット	AA17	0.36	0.31	0.33	楕円形
C51号ピット	Z17	0.56	0.55	0.80	円形
C52号ピット	Z17	0.81	(0.76)	0.72	楕円形
C53号ピット	Z17	0.41	0.38	0.31	円形
C54号ピット	Z17	0.49	0.44	0.52	円形
C55号ピット	Z17	0.36	0.31	0.21	円形
C56号ピット	Z17	0.57	0.49	0.60	円形
C59号ピット	AA17	0.89	0.51	0.11	長方形
C61号ピット	Z17	0.47	0.38	0.16	楕円形
C62号ピット	Z17	0.35	0.25	0.28	不整形
C64号ピット	Z17	0.32	0.28	0.12	円形
C65号ピット	AA17	0.34	0.32	0.16	不整形
C66号ピット	AA17	0.58	0.52	0.16	円形
C68号ピット	AA17	0.19	0.19	0.13	円形
C69号ピット	AA17	0.77	0.58	0.23	楕円形
C70号ピット	AA16	0.46	0.36	0.33	楕円形
C71号ピット	AA17	0.30	0.27	0.15	円形

C72号ピット	AA17	0.22	0.21	0.08	円形
C73号ピット	AA17	0.26	0.23	0.05	円形
C75号ピット	Z17	0.38	0.27	0.52	楕円形
C76号ピット	Z16	0.27	0.22	0.17	楕円形
C77号ピット	Z16	0.34	0.28	0.52	円形
C78号ピット	Z17	0.28	0.28	0.15	円形
C79号ピット	Z17	0.45	0.38	0.25	楕円形
C80号ピット	Z17	0.39	0.29	0.54	楕円形
C81号ピット	Z17	0.46	0.42	0.50	楕円形
C82号ピット	Z17	0.45	(0.35)	0.46	楕円形
C83号ピット	Z17	0.50	0.34	0.33	楕円形
C84号ピット	Z17	0.43	(0.31)	0.26	楕円形
C85号ピット	Z17	0.29	0.24	0.16	楕円形
C86号ピット	Z18･AA18	0.42	0.34	0.17	楕円形
C87号ピット	AA18	0.29	0.28	0.32	円形
C88号ピット	Z18	0.26	0.24	0.40	方形
C89号ピット	Z18	0.40	0.23	0.17	長方形
C90号ピット	Z17	0.45	0.40	0.80	方形
C91号ピット	Z17	0.34	0.31	0.10	円形
C92号ピット	Z17	0.21	(0.10)	0.30	楕円形
C94号ピット	AA18	0.36	0.28	0.28	楕円形
C96号ピット	AA18	0.33	0.28	0.24	円形
C97号ピット	AA18	0.58	0.64	0.66	円形
C98号ピット	Z17	0.53	(0.47)	0.74	楕円形
C99号ピット	Z17	0.51	0.47	0.40	円形
C100号ピット	Z17	0.26	0.22	0.23	楕円形
C101号ピット	Z17	0.37	0.29	0.32	楕円形
C102号ピット	Z17	0.40	0.40	0.45	円形
C103号ピット	Z17	0.42	0.41	0.17	円形
C104号ピット	Z16	0.44	(0.32)	0.28	楕円形
C105号ピット	Z17	0.82	(0.60)	0.25	楕円形
C106号ピット	Z16	0.86	(0.84)	0.59	円形
C107号ピット	Z16	0.27	0.24	0.42	円形
C108号ピット	Z16	0.42	(0.41)	0.28	円形
C109号ピット	Z17	0.43	0.41	0.26	円形

C110号ピット	Z17	0.28	0.23	0.26	楕円形	C148号ピット	AA17	0.32	0.27	0.44	円形
C111号ピット	Z17	0.35	0.32	0.57	円形	C149号ピット	AA17	0.30	0.30	0.11	円形
C112号ピット	Z17	0.40	(0.17)	0.62	楕円形	C150号ピット	AA17	0.43	0.40	0.31	円形
C113号ピット	Z17	0.31	0.26	0.21	円形	C153号ピット	AA17	0.40	0.39	0.58	円形
C114号ピット	Z17	0.42	0.39	0.31	円形	C154号ピット	AA17	0.22	0.20	0.10	円形
C115号ピット	Z17	0.34	0.26	0.26	楕円形	C155号ピット	AA17	0.46	(0.37)	0.40	円形
C116号ピット	Z17	0.44	0.38	0.47	円形	C156号ピット	AA17	0.27	0.26	0.10	円形
C117号ピット	Z17･18	0.47	0.40	0.25	楕円形	C157号ピット	AA17	0.28	0.25	0.11	円形
C118号ピット	Z16	0.62	0.46	0.64	楕円形	C158号ピット	Z17･AA17	0.62	0.61	0.34	円形
C119号ピット	AB17	0.20	0.18	0.19	円形	C160号ピット	Z17･AA17	0.38	0.31	0.23	楕円形
C120号ピット	AB17	0.29	0.22	0.22	楕円形	C161号ピット	Z17	0.56	0.47	0.22	楕円形
C121号ピット	AB17	0.32	0.28	0.20	円形	C162号ピット	Z17	0.51	0.47	0.08	円形
C122号ピット	AB17	0.31	0.28	0.15	円形	C163号ピット	Z17	0.57	(0.38)	0.34	楕円形
C123号ピット	AB17	0.30	0.26	0.21	円形	C164号ピット	Z17	(0.34)	0.34	0.15	楕円形
C125号ピット	AA17	0.27	0.27	0.11	円形	C165号ピット	Z17	0.38	0.28	0.21	楕円形
C127号ピット	AA17	0.25	0.21	0.26	楕円形	C166号ピット	Z17	0.31	0.24	0.28	楕円形
C129号ピット	AA17	0.28	0.20	0.13	楕円形	C167号ピット	Z17	0.24	0.23	0.25	円形
C130号ピット	AA16	0.94	0.53	0.28	楕円形	C168号ピット	Z17	0.34	0.31	0.45	円形
C131号ピット	AA17	(0.55)	0.46	0.26	楕円形	C169号ピット	Z17	0.33	0.27	0.11	楕円形
C132号ピット	AA17	0.32	0.27	0.16	楕円形	C170号ピット	Z17	0.38	0.34	0.42	円形
C133号ピット	Z17	0.36	0.29	0.08	楕円形	C171号ピット	Z17	0.47	0.35	0.19	楕円形
C134号ピット	Z17	0.21	0.20	0.06	円形	C172号ピット	Z17	0.22	0.20	0.20	円形
C135号ピット	Z17	0.28	0.27	0.41	円形	C174号ピット	Z17	0.28	0.27	0.10	円形
C136号ピット	Z17	0.30	(0.25)	0.49	楕円形	C175号ピット	Z17	0.41	0.39	0.30	円形
C137号ピット	Z17	0.40	0.34	0.35	楕円形	C176号ピット	Z17	0.32	(0.30)	0.35	円形
C138号ピット	Z17	0.84	0.74	0.10	円形	C177号ピット	Z17	0.34	(0.23)	0.50	楕円形
C139号ピット	Z17	0.35	0.32	0.24	楕円形	C178号ピット	Z17	0.19	(0.06)	0.17	楕円形
C140号ピット	Z17	0.31	0.28	0.42	円形	C179号ピット	Z17	0.34	0.27	0.24	円形
C141号ピット	Z17	0.28	0.25	0.10	円形	C180号ピット	Z17	0.54	(0.42)	0.30	楕円形
C142号ピット	AA16	0.86	0.68	0.32	長方形	C181号ピット	Z17	(0.36)	(0.35)	0.52	円形
C143号ピット	AA17	0.20	0.17	0.13	円形	C182号ピット	Z17	0.33	0.33	0.12	円形
C144号ピット	AA18	(0.38)	0.32	0.31	楕円形	C183号ピット	Z17	0.31	0.30	0.20	円形
C145号ピット	AA18	0.34	0.32	0.10	方形	C184号ピット	Z17	0.43	0.40	0.33	円形
C146号ピット	AA17	0.76	0.70	0.56	楕円形	C185号ピット	Z18	0.30	0.26	0.17	円形
C147号ピット	AA17	0.58	0.45	0.32	楕円形	C186号ピット	Z18	0.29	0.28	0.35	円形

C187号ピット	Z18	0.49	0.47	0.44	円形	C228号ピット	AA18	0.38	0.28	0.36	楕円形
C188号ピット	Z18	0.52	0.46	0.43	楕円形	C229号ピット	AA18	0.37	0.26	0.34	楕円形
C189号ピット	Z18	0.37	0.36	0.61	円形	C230号ピット	AA18	0.35	0.24	0.53	楕円形
C190号ピット	Z18	0.63	0.42	0.24	長方形	C231号ピット	AA17	0.53	0.42	1.01	楕円形
C191号ピット	Z18	0.27	0.24	0.14	円形	C232号ピット	Z17	0.29	(0.13)	0.15	楕円形
C192号ピット	Z18	0.27	0.25	0.12	円形	C234号ピット	AA18	(0.20)	(0.05)	0.23	楕円形
C193号ピット	Z18	0.36	0.36	0.11	円形	C235号ピット	Z18	0.58	(0.43)	0.71	楕円形
C194号ピット	Z18	0.30	0.27	0.31	円形	C236号ピット	AA17	0.54	0.24	0.19	長方形
C195号ピット	Z18	0.32	(0.24)	0.19	楕円形	C237号ピット	Z18	0.31	(0.14)	0.48	楕円形
C196号ピット	Z18	0.33	0.29	0.40	円形	C238号ピット	AA18	0.24	0.17	0.15	楕円形
C197号ピット	Z18	0.36	(0.18)	0.28	楕円形	C241号ピット	Z18･AA18	0.38	0.25	0.16	長方形
C198号ピット	Z18	0.32	(0.19)	0.24	楕円形	C242号ピット	AA18	0.27	0.26	0.34	円形
C199号ピット	Z17	0.27	0.26	0.15	円形	C243号ピット	AA18	(0.30)	(0.13)	0.30	楕円形
C200号ピット	Z17	0.53	0.51	0.52	円形	C245号ピット	Z18	0.85	0.63	0.42	楕円形
C201号ピット	Z17	0.54	0.49	0.52	円形	C247号ピット	Z17	0.41	(0.29)	0.11	楕円形
C202号ピット	Z17	0.22	0.21	0.19	円形	C248号ピット	Z17	(0.36)	0.33	0.42	円形
C204号ピット	Z18	0.74	0.57	0.32	楕円形	C249号ピット	Z17	0.32	(0.19)	0.13	楕円形
C205号ピット	AA17	0.32	0.28	0.50	円形	C252号ピット	AA17	0.54	(0.38)	0.53	楕円形
C206号ピット	AA17	0.43	0.30	0.31	楕円形	C253号ピット	Z18	0.57	0.43	0.56	楕円形
C207号ピット	AA17	0.45	(0.36)	0.44	楕円形	C254号ピット	Z18	0.65	0.47	0.39	楕円形
C208号ピット	AA17	0.33	0.26	0.28	円形	C255号ピット	AA18	(0.35)	(0.28)	0.34	楕円形
C209号ピット	Z18	0.38	0.37	0.51	円形	C256号ピット	AA18	0.38	0.33	0.13	楕円形
C210号ピット	Z18	0.46	0.36	0.38	楕円形	C257号ピット	AA18	0.43	0.41	0.40	円形
C211号ピット	Z18	0.70	0.58	0.60	楕円形	C258号ピット	AA18	0.32	(0.23)	0.24	楕円形
C212号ピット	Z18	0.26	(0.14)	0.28	楕円形	C259号ピット	AA17･18	0.65	0.47	0.29	楕円形
C214号ピット	Z17	0.39	0.36	0.49	円形	C260号ピット	Z17	0.40	0.33	0.29	楕円形
C215号ピット	Z17	0.48	(0.28)	0.50	楕円形	C264号ピット	AB17	0.29	0.23	0.12	楕円形
C217号ピット	Z17	(0.25)	0.25	0.28	円形	C265号ピット	AB17	0.29	0.23	0.13	楕円形
C218号ピット	AA17	0.39	(0.16)	0.25	楕円形	C267号ピット	AA17	0.25	0.23	0.42	円形
C219号ピット	Z17	0.36	(0.23)	0.59	楕円形	C268号ピット	AA17	0.21	0.18	0.16	円形
C220号ピット	Z17	0.40	0.35	0.40	円形	C269号ピット	AA17	0.23	0.20	0.16	円形
C221号ピット	AA18	0.47	0.45	0.40	円形	C271号ピット	Y16	0.57	0.51	0.77	楕円形
C223号ピット	AA18	(0.42)	(0.37)	0.25	楕円形	C272号ピット	Z17	0.43	0.38	0.42	楕円形
C225号ピット	AA17	0.53	0.30	0.27	長方形	C273号ピット	Y16	0.38	0.32	0.25	楕円形
C226号ピット	AA18	(0.44)	(0.35)	0.47	楕円形	C274号ピット	Z17	0.45	(0.43)	0.45	円形

C275号ピット	Z17	0.60	0.48	0.85	楕円形	C314号ピット	AA17	0.22	0.20	0.38	円形
C276号ピット	AA17	(0.43)	0.34	0.18	楕円形	C315号ピット	AA17	0.24	0.21	0.26	楕円形
C278号ピット	Z17	0.51	0.50	0.12	円形	C316号ピット	Z17･AA17	0.25	0.23	0.13	円形
C279号ピット	Z17	0.61	0.42	0.16	長方形	C318号ピット	AA16	0.22	0.19	0.16	方形
C280号ピット	Z17	0.42	0.40	0.39	円形	C319号ピット	Z17	0.21	0.20	0.12	円形
C281号ピット	Z16	0.58	(0.50)	0.63	楕円形	C320号ピット	Z17	0.39	0.38	0.12	円形
C283号ピット	Z16	0.47	0.46	0.50	円形	C321号ピット	Z16･17	0.59	0.42	0.07	楕円形
C284号ピット	Z17	0.47	(0.29)	0.47	楕円形	C323号ピット	Z17	0.42	0.41	0.58	円形
C285号ピット	Z17	(0.38)	0.36	0.24	円形	C324号ピット	AA17	0.21	0.17	0.21	円形
C287号ピット	AA16	0.33	0.30	0.23	円形	C325号ピット	AA17	0.18	0.17	0.10	円形
C288号ピット	Z17	0.40	0.37	0.42	円形	C326号ピット	AA17	0.44	0.40	0.47	円形
C289号ピット	Z17	0.28	0.25	0.20	円形	C328号ピット	Z17	0.22	0.20	0.14	円形
C290号ピット	Z17	0.27	0.26	0.30	円形	C329号ピット	Y17･Z17	0.32	0.27	0.31	楕円形
C291号ピット	Z17	0.63	0.51	0.37	楕円形	C330号ピット	Z17	0.30	(0.25)	0.18	楕円形
C292号ピット	Z17	0.55	0.48	0.20	楕円形	C331号ピット	Z16	0.41	0.36	0.28	円形
C293号ピット	Z17	0.46	0.41	0.11	円形	C332号ピット	AB17	0.34	0.31	0.16	円形
C294号ピット	Z17	0.30	(0.23)	0.16	楕円形	C333号ピット	AB17	0.60	0.28	0.19	長方形
C295号ピット	AA16	0.23	0.21	0.12	円形	C334号ピット	Z17	0.49	0.45	0.40	円形
C296号ピット	AA16	0.23	0.20	0.11	楕円形	C335号ピット	AA17	0.22	0.22	0.11	円形
C297号ピット	AA16	0.30	0.25	0.28	楕円形	C336号ピット	Z17	0.31	0.24	0.38	楕円形
C298号ピット	AA16	0.42	0.37	0.12	円形	C337号ピット	Z17	0.17	0.14	0.10	楕円形
C299号ピット	AB17	0.24	0.20	0.16	楕円形	C338号ピット	AA17	0.21	0.21	0.06	円形
C300号ピット	AB17	0.32	0.33	0.24	円形	C339号ピット	Z17	0.35	0.33	0.25	円形
C301号ピット	AB17	0.24	0.22	0.20	円形	C340号ピット	Z17	0.56	0.44	0.33	楕円形
C302号ピット	AB17	0.19	0.17	0.16	円形	C341号ピット	Z17	0.41	0.36	0.44	円形
C303号ピット	AA17	0.23	0.22	0.13	円形	C342号ピット	Z17	0.25	0.25	0.31	円形
C304号ピット	AA17	0.29	0.26	0.14	楕円形	C344号ピット	Z17	0.30	0.25	0.21	円形
C305号ピット	Z17･AA17	0.24	(0.19)	0.14	楕円形	C346号ピット	Z17	0.23	0.21	0.20	円形
C306号ピット	AA17	0.23	0.20	0.07	楕円形	C347号ピット	Z17	0.24	0.23	0.14	円形
C307号ピット	Z17	0.22	0.22	0.22	円形	C348号ピット	Z17	0.26	0.20	0.15	楕円形
C308号ピット	Z17	0.23	0.20	0.17	楕円形	C349号ピット	Z17	0.20	0.20	0.09	円形
C310号ピット	Z17	0.26	0.25	0.15	円形	C350号ピット	Z18	0.42	0.38	0.22	楕円形
C311号ピット	AA16	0.52	(0.47)	0.24	楕円形	C351号ピット	AA16	0.37	0.32	0.14	円形
C312号ピット	AA16	0.20	0.18	0.20	円形	C352号ピット	Y17	0.51	0.48	0.23	円形
C313号ピット	AA16	0.19	0.19	0.14	円形	C353号ピット	Z17	0.24	0.21	0.25	円形

C354号ピット	Z17	0.24	0.22	0.18	円形	C397号ピット	AA17	0.25	0.24	0.21	円形
C355号ピット	Z17	0.23	0.22	0.10	円形	C398号ピット	AA16	0.21	0.20	0.08	円形
C356号ピット	AA17	0.26	0.22	0.14	楕円形	C399号ピット	AA16	0.23	0.22	0.09	円形
C358号ピット	Z17	0.23	0.22	0.08	円形	C400号ピット	AA16	0.24	0.22	0.10	円形
C359号ピット	Z16	0.39	0.32	0.36	楕円形	C401号ピット	AA16	0.19	0.11	0.12	楕円形
C361号ピット	AA17	0.40	0.32	0.42	楕円形	C403号ピット	Z18	0.25	0.21	0.15	円形
C362号ピット	AA17	0.33	0.24	0.54	楕円形	C404号ピット	Z17	0.26	0.22	0.40	方形
C363号ピット	Z16	0.30	0.26	0.15	円形	C405号ピット	Z16･17	0.34	0.31	0.39	円形
C364号ピット	Z17	0.29	0.27	0.29	円形	C407号ピット	AA18	0.52	(0.42)	0.30	楕円形
C365号ピット	Z17	0.32	0.30	0.22	円形	C408号ピット	Z16	0.44	0.32	0.16	楕円形
C366号ピット	Y17	0.35	0.27	0.45	方形	C409号ピット	Z16	0.21	0.20	0.18	円形
C367号ピット	Y17	0.57	(0.30)	0.35	楕円形	C410号ピット	AA18	0.32	0.31	0.30	円形
C368号ピット	Y17	0.66	(0.58)	0.75	楕円形	C411号ピット	AA17	0.27	0.23	0.10	楕円形
C369号ピット	Z17	0.34	0.32	0.43	円形	C412号ピット	AA17	0.30	0.23	0.25	楕円形
C370号ピット	Z17	0.57	(0.50)	0.11	楕円形	C413号ピット	AA17	0.41	0.35	0.18	楕円形
C371号ピット	Z17	0.32	0.27	0.62	方形	C414号ピット	AA17	0.32	0.30	0.50	方形
C372号ピット	Z17	0.22	0.18	0.13	円形	C415号ピット	AA17	0.39	0.30	0.24	楕円形
C373号ピット	Z18	0.63	0.63	0.83	円形	C417号ピット	AA17	0.29	0.28	0.08	円形
C374号ピット	Z17	0.38	(0.33)	0.32	楕円形	C418号ピット	AA17	0.27	0.25	0.13	円形
C375号ピット	Z17	0.36	0.33	0.42	円形	C422号ピット	AA17	0.23	0.22	0.12	円形
C376号ピット	Z17	0.21	0.18	0.29	円形	C423号ピット	AA17	0.19	0.17	0.15	円形
C377号ピット	Z17	0.54	0.53	0.17	円形	C424号ピット	AA18	0.38	(0.34)	0.17	楕円形
C378号ピット	Z17	0.39	0.28	0.45	楕円形	C425号ピット	AA18	0.45	0.31	0.25	楕円形
C379号ピット	Z16	0.34	0.25	0.28	楕円形	C426号ピット	AA18	0.70	0.45	0.17	楕円形
C381号ピット	Z17	(0.29)	(0.24)	0.22	楕円形	C427号ピット	AA18	0.30	0.29	0.19	方形
C382号ピット	Z17	0.32	(0.19)	0.18	楕円形	C428号ピット	AA18	0.36	(0.28)	0.47	楕円形
C383号ピット	Z17	0.34	0.27	0.62	楕円形	C430号ピット	Z18	0.36	0.30	0.15	楕円形
C384号ピット	Z17	0.62	0.35	0.38	楕円形	C431号ピット	AA18	(0.37)	(0.21)	0.36	楕円形
C386号ピット	Z17	0.25	0.23	0.26	円形	C432号ピット	AA18	0.68	0.64	0.42	楕円形
C387号ピット	Z17	0.33	0.27	0.16	円形	C433号ピット	AA17･18	0.66	0.39	0.14	長方形
C388号ピット	Z17	(0.72)	(0.55)	0.18	楕円形	C438号ピット	AA17	0.25	0.20	0.16	楕円形
C389号ピット	Z17	0.22	0.22	0.14	円形	C439号ピット	AA17	0.29	0.29	0.22	楕円形
C390号ピット	Z17	0.27	0.20	0.10	楕円形	C442号ピット	AA17	0.31	0.26	0.18	円形
C391号ピット	AA17	0.61	(0.27)	0.14	楕円形	C443号ピット	AA18	0.30	0.29	0.39	円形
C392号ピット	AA17	0.51	0.38	0.22	楕円形	C445号ピット	AA17	0.26	0.24	0.25	円形

C446号ピット	AA18	0.25	0.21	0.14	楕円形	C484号ピット	Z17	0.22	0.21	0.13	円形
C448号ピット	AA17	0.27	0.24	0.16	円形	C485号ピット	Z17	0.28	0.17	0.19	長方形
C449号ピット	AA17	0.41	0.31	0.25	楕円形	C486号ピット	Z17	0.34	0.34	0.26	円形
C450号ピット	AA17	0.22	0.20	0.09	楕円形	C487号ピット	Z17	0.41	0.32	0.17	楕円形
C453号ピット	AA17	0.50	0.49	0.27	円形	C489号ピット	Z17	0.25	0.24	0.33	円形
C458号ピット	AA17	0.27	0.22	0.29	円形	C490号ピット	Z18	0.34	0.33	0.36	円形
C459号ピット	AA17	0.21	0.20	0.10	円形	C491号ピット	AA17	0.16	0.16	0.12	円形
C462号ピット	AA17	0.20	0.19	0.13	円形	C493号ピット	AA17	0.21	0.20	0.15	円形
C463号ピット	AA16	0.35	0.31	0.20	楕円形	C494号ピット	AA17	0.22	0.20	0.12	円形
C465号ピット	AA17	0.28	0.22	0.14	楕円形	C496号ピット	Y17	0.24	0.20	0.24	円形
C466号ピット	AA17	0.25	0.25	0.20	円形	C497号ピット	Y17	0.22	0.22	0.27	方形
C467号ピット	AA17	0.27	0.26	0.17	円形	C504号ピット	AA17	(0.54)	0.48	0.62	楕円形
C468号ピット	AA17	0.28	0.26	0.17	円形	C505号ピット	AA17	0.42	0.42	0.40	円形
C469号ピット	AA17	0.58	0.56	0.24	円形	C507号ピット	AA17	0.37	0.37	0.27	円形
C471号ピット	AA17	0.29	0.23	0.39	楕円形	C508号ピット	AA17	0.39	0.38	0.29	円形
C474号ピット	AA17	0.92	0.45	0.32	長方形	C509号ピット	AA17	0.34	0.32	0.29	円形
C475号ピット	AA17	0.37	0.35	0.10	円形	C510号ピット	AB17	0.33	(0.30)	0.42	楕円形
C477号ピット	Z17	0.25	0.23	0.12	円形	C511号ピット	AB17	0.25	0.24	0.62	円形
C479号ピット	Z17	0.43	0.31	0.20	楕円形	C512号ピット	AA17	0.26	0.20	0.50	楕円形
C480号ピット	Z17	0.23	0.19	0.14	円形	C513号ピット	AA17･AB17	0.64	0.44	0.28	長方形
C481号ピット	Z18	0.24	0.21	0.35	楕円形	C514号ピット	AA17･AB17	(0.78)	0.72	0.40	楕円形
C483号ピット	Z17	0.23	0.21	0.11	円形	C515号ピット	AB17	0.43	0.39	0.21	円形

（６）炭化物範囲

Ｃ１号炭化物範囲（第179・192・233図、図版51－４）

ＡＡ17グリッド中央で発見された。南東約0.50ｍにＣ40号土坑が確認されている。検出面の標高は約21.45ｍである。平面形は楕円形を呈し、長軸方位はＮ－92°－Ｗを示す。検出規模は長軸約1.14ｍ、短軸約0.83ｍで、確認面からの深さは約0.09ｍを測る。底面は平坦である。

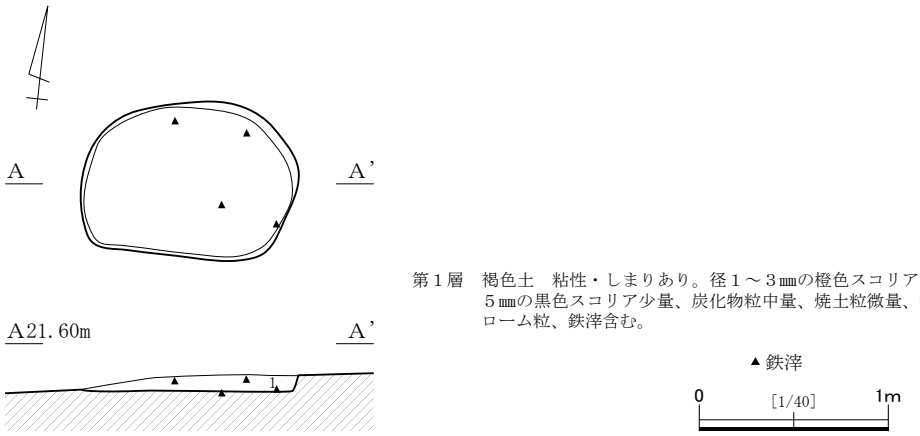
覆土は褐色土の単層である。

遺物は鉄滓４点（122.2ｇ）出土しているが、粒状滓のため図化していない。

先にも述べたが、近距離にあるＣ40号土坑は取瓶に使用したかわらけや砥石など出土しており、鍛冶関連遺構とも考えられる遺構である。このＣ１号炭化物範囲では粒状滓を含んだ覆土をもつことから、Ｃ40号土坑と関連が考えられる。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ１号炭化物範囲



第233図　10区Ｃ１号炭化物範囲[1/40]

（７）遺構外出土遺物（第234図、第49表、図版157－２・158－１）

中世の遺構外出土遺物は、青磁碗２点(52.３ｇ)、白磁壺１点(1.４ｇ)、陶器皿２点(16.６ｇ)、陶器甕16点(951.９ｇ)、陶器壺・甕２点(26.5g)、陶器鉢１点(10.８ｇ)、陶器擂鉢６点(108.３ｇ)、瓦質土器火鉢２点(15.６ｇ)、かわらけ234点(1,483.５ｇ)、土製品３点(23.６ｇ)、銭貨５点(8.５ｇ)、石製品（砥石）１点(265.７ｇ)、金属製品２点(35.９ｇ)、鉄滓８点(718.２ｇ)、木製品（用途不明）１点である。総点数286点、総重量3,718.８ｇである。そのうち15点を図化した。

第234図１は青磁碗の底部である。無文で高台内は無釉である。

第234図２・３は常滑産陶器甕の口縁部片である。２は15世紀前半、３は14世紀後半～15世紀の所産である。

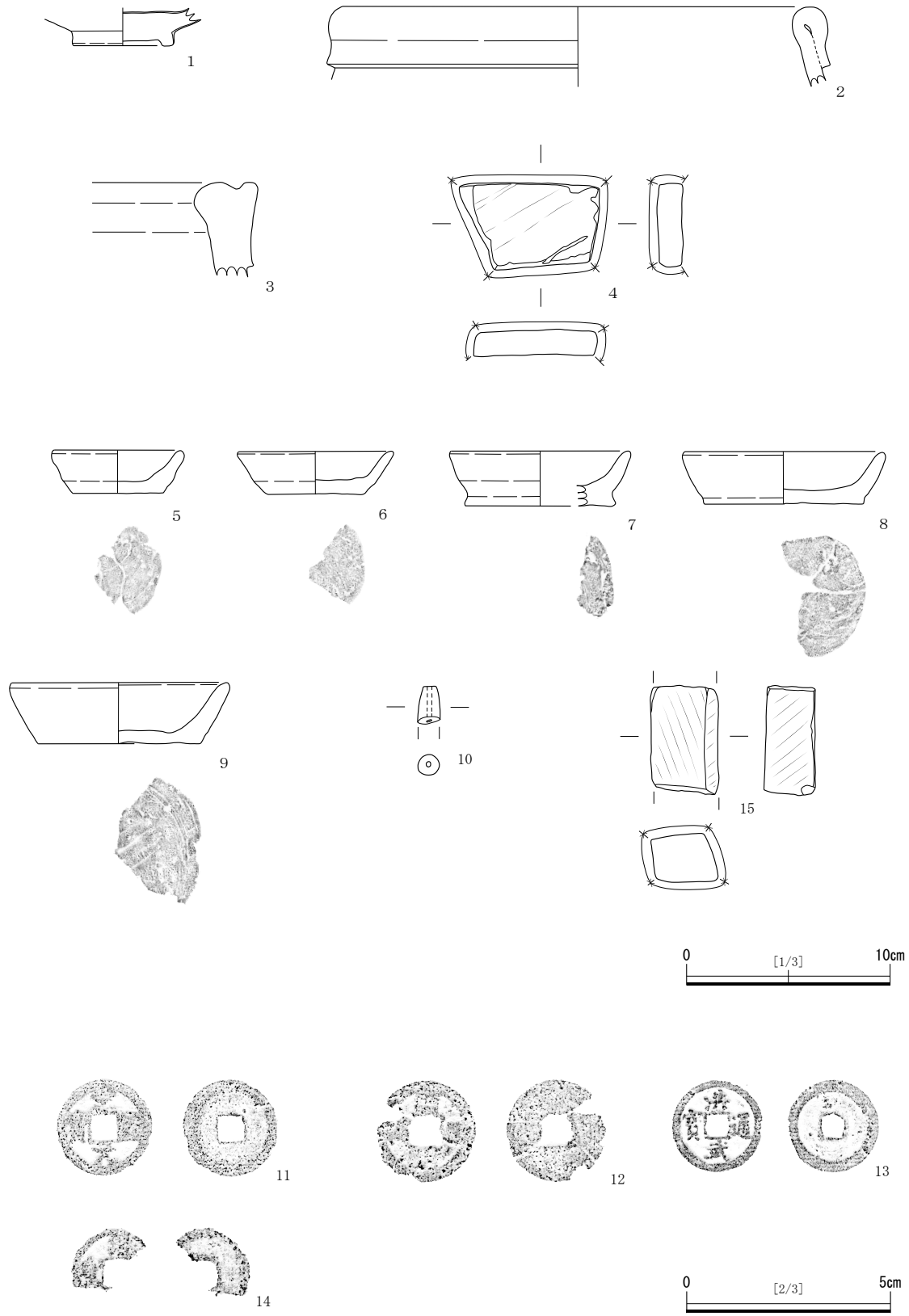
第234図４は常滑産陶器甕胴部片を転用した研磨陶片である。側面５面使用している。

第234図５～９はかわらけである。５～７は糸切り痕が残る底部から直線的に立ち上がる。口唇部はやや外反する小型のかわらけである。６は口唇部から体部まで煤が付着しており、燈明皿として使用されている。８～９は糸切り痕が残る底部から直線的に立ち上がる。口唇部は肥厚している。14世紀後半～15世紀の所産である。

第234図10は土製品土錘である。片端部は欠損している。孔径は３㎜である。

第234図11～14は銭である。11は明銭「洪武通寶」である。完形で初鋳年は1368年である。12～13北宋銭である。12は「宋通元寶」である。ほぼ完形で摩滅が著しい。初鋳年は960年である。13は12と同様「宋通元寶」と思われるが摩滅が著しい。14は「寶」のみ残存している。

第234図15は石製砥石である。両端部欠損しており上下面及び側面の４面を使用している。



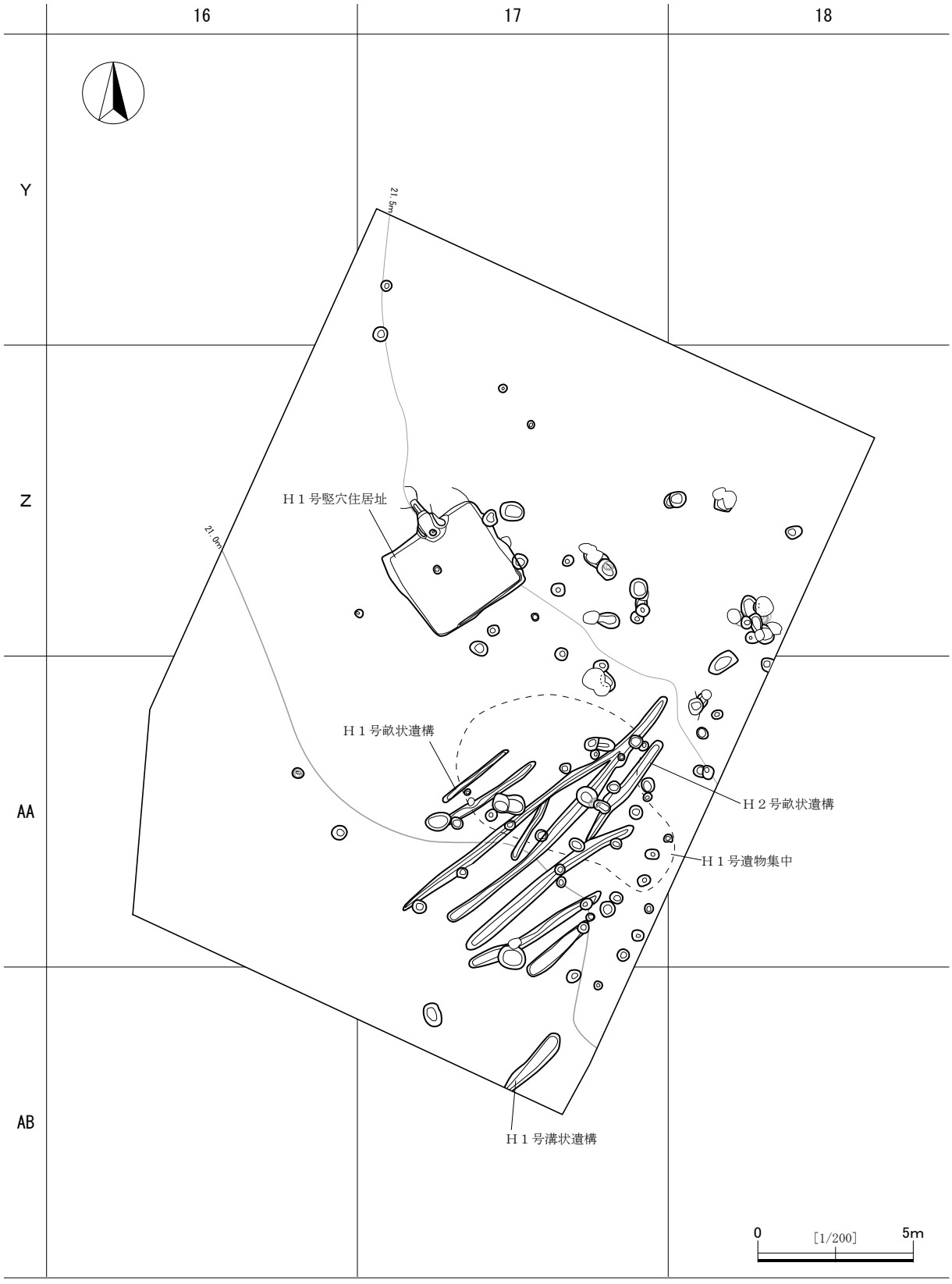
第234図　10区中世遺構外出土遺物[1/3・2/3]

第49表　10区中世遺構外出土遺物観察表［第234図］

No.	器種	種別	()＝現存値〔〕＝復元値 口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	残存度	産地	時期	観察内容
1	青磁碗	磁器	—	4.4	(1.9)	51.0	底部1/2	中国	中世	素地 灰色、緻密 焼成 堅緻 釉薬 灰オリーブ色 青磁 出土位置 表土
2	甕	陶器	〔22.7〕	—	(3.9)	55.4	口縁部1/9	常滑	15世紀前半	胎土 灰黄褐色、密 焼成 良好 備考 常滑甕第３段階９・10型式 出土位置 Z17gr
3	甕	陶器	—	—	(4.5)	93.4	口縁部破片	常滑	14世紀後半～15世紀	胎土 暗褐色、白色粒子を含む 焼成 良好 備考 常滑甕第３段階８・９型式 出土位置 Y17gr
4	研磨陶片	陶器	4.3	6.9	1.2	55.8	体部破片	常滑	中世	胎土 褐灰色、密、小礫・白色粒子を含む 焼成 良好 備考 常滑甕体部破片を転用、側面の５面使用 出土位置 AB17gr
5	かわらけ	土器	〔6.3〕	〔4.4〕	2.1	18.4	口縁部～体部1/4・底部1/3	在地	14世紀後半～15世紀	胎土 にぶい黄褐色、密、角閃石・白色針状物質・細かい砂粒・石英を含む 焼成 良好 備考 底部回転糸切り痕 出土位置 AA17gr
6	かわらけ	土器	〔7.5〕	〔4.6〕	2.1	16.2	口縁部～底部1/4	在地	14世紀後半～15世紀	胎土 にぶい黄褐色、密、角閃石・白色針状物質を含む 焼成 良好 備考 灯明皿として使用口唇部に煤付着、底部回転糸切り痕・スノコ痕 出土位置 AA17gr
7	かわらけ	土器	〔8.7〕	〔7.3〕	2.7	22.8	口縁部～底部1/5	在地	14世紀後半～15世紀	胎土 にぶい橙色、やや粗、角閃石・砂粒・径３～５㎜の赤色スコリアを含む 焼成 良好 備考 底部回転糸切り痕 出土位置　Z17gr
8	かわらけ	土器	〔9.7〕	〔7.8〕	2.6	37.0	口縁部～体部1/4・底部1/3	在地	14世紀後半～15世紀	胎土 にぶい橙色、密、角閃石・白色針状物質を含む 焼成 良好 備考 底部回転糸切り痕不明瞭 出土位置 AA16gr
9	かわらけ	土器	〔10.5〕	〔8.0〕	2.0	36.6	口縁部～体部1/7・底部1/4	在地	15世紀	胎土 にぶい橙色、やや粗、角閃石・砂粒・石英を含む 焼成 良好 備考 底部回転糸切り痕 出土位置　Z17gr
No.	器種	種別	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	残存度	産地	胎土・釉薬等	
10	土錘	土製品	(1.8)	1.1	1.0	2.1	端部欠損	在地	胎土 橙色、密、細かい砂粒を含む 焼成 良好 備考 通し穴径３㎜ 出土位置 AA17gr	

No.	銭名	材質	銭径 (mm)	穿径 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	残存度	観察内容
11	洪武通寶	銅	23.0	5.3	1.3	2.9	完形	鋳造地 明 初鋳年 1368年 備考「通」の文字マ頭・単点 出土位置 Z18gr
12	宋通元寶	銅	24.0	6.2	1.1	2.5	ほぼ完形	鋳造地 北宋 初鋳年 960年 備考 摩滅が著しい 出土位置 Z18gr
13	宋通 元寶ヵ	銅	(25.0)	(7.0)	1.0	1.8	4/5	鋳造地 北宋 初鋳年 960年 備考 摩滅が著しい 出土位置 Z18gr
14	□□□寶	銅	(23.0)	(6.4)	1.1	1.0	1/3	鋳造地 不明 初鋳年 不明 備考 錆と欠損のため銭名不明、「寶」のみ残 出土位置 Z17gr
No.	種別	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	観察内容	
15	砥石	銚子 砂岩	(5.4)	3.4	2.5	82.7	残存度 両端面欠損 備考 上下面・側面の４面使用 出土位置 AB17gr	

３．奈良・平安時代



第235図　10区　奈良・平安時代遺構配置図[1/200]

10区で発見された奈良･平安時代の遺構は竪穴住居址１軒、溝状遺構１条、畝状遺構２ヶ所、ピット93基、遺物集中１ヶ所である。

10区は中世同様地形的に北東から南西へ緩やかに傾斜している。遺構は基本土層第Ⅵ層上面で確認され、南東側に集中している。奈良・平安時代において南東側に生活域が展開すると考えられる。

奈良・平安時代の出土遺物は、土師器坏496点(3,598.０ｇ)、土師器甕2,165点(15,990.6g)、須恵器坏62点(413.9g)、須恵器蓋７点(126.0g)、須恵器甕55点(852.0g)、須恵器瓶12点(146.５ｇ)、灰釉陶器埦４点(8.4g)、灰釉陶器瓶２点(64.9g)、総点数2,803点、総重量21,200.3gが出土した。
遺物の出土量は少ない。

（１）竪穴住居址

Ｈ１号竪穴住居址（第235～240図、第50表、図版52－１・52－２・53－１・158－２）

Ｚ17グリッド南西側に位置している。カマド先端部をＣ14号土坑、北東壁の上端をＣ34号土坑、東壁上端中央をＣ175号ピットに切られている。平面形態は方形を呈する。残存する規模は、東西約3.65ｍ、南北約3.33ｍを測り、主軸方位はＮ－33°－Ｗを示す。壁はほぼ直線的に立ち上がり、床面までの深度は0.83～0.90ｍを測る。床は平坦で中央部分が硬化している。周溝は東壁の南端から南壁約3/4の壁際に確認され、規模は幅0.10～0.15ｍ、深さ0.05ｍ、断面形態はＵ字状を呈する。覆土は暗褐色土を主体に分層され、掘り方はやや明るい褐色土主体である。

床下土坑は、住居中央およびカマド寄りに３基確認されている。平面形態は円形または楕円形を呈する。残存する規模は住居東側の床下土坑１が径0.90ｍ、深さ0.25ｍ、住居中央の床下土坑２は東西径1.45ｍ、深さ0.25ｍ、住居西側の床下土坑３は東西径0.88ｍ、南北0.75ｍ、深さ0.12ｍを測る。覆土は１～２層に分層される。

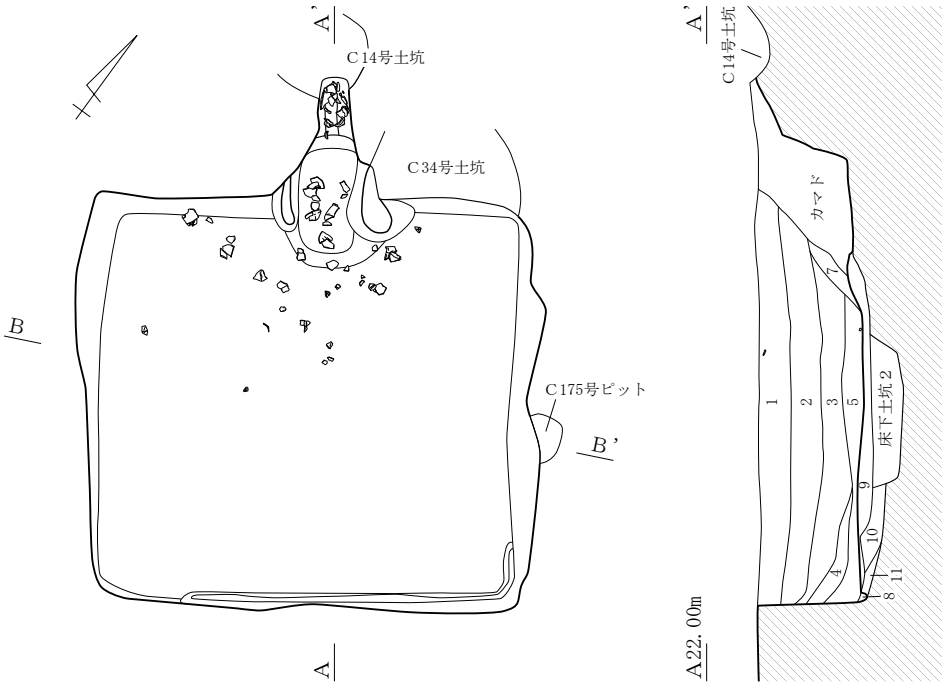
カマドは北壁中央を0.99ｍ掘り込み設置されている。北壁から0.52ｍ部分で段を設け、煙道と燃焼部を分離している。残存する規模は、煙道部から燃焼部まで1.52ｍ、両袖間1.12ｍを測る。煙道部には土師器甕が確認され、補強材として使用されていたと思われる。燃焼部には焼土が少量含まれていたが、明確な火床は検出されなかった。焚口部、袖部周辺には遺物が集中して出土している。掘り方は、平面形態が楕円形を呈し、東西径0.80ｍ、南北径0.96ｍを測る。
遺物出土状況は住居全体に分布しており、そのほとんどが土師器甕である。

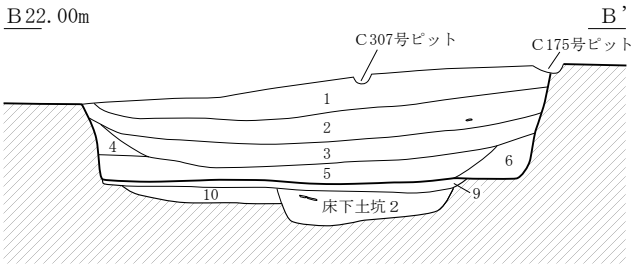
出土遺物は、土師器坏14点(191.1g)、土師器甕285点(5,505.1g)、総点数299点、総重量5,696.2gである。このうち５点を図化した。

第240図１は土師器坏である。外面は摩耗しているが、口縁部及び内面はヨコナデされ、外面体部及び底部はヘラケズリされている。口径、底径が広く８世紀後半の製品と考えられる。

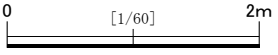
第240図２～５は土師器甕である。２・３は長胴甕の口縁部～胴部片である。２は底部と口縁部半分が欠損しており、カマド煙道部から出土していることから煙り出しとして使用されていたと思われる。３はカマド付近から出土している。４は胴張甕の口縁部～胴部片である。５は底部片で木葉痕が残る。
遺構の時期は出土遺物から８世紀後半と考えられる。

床面



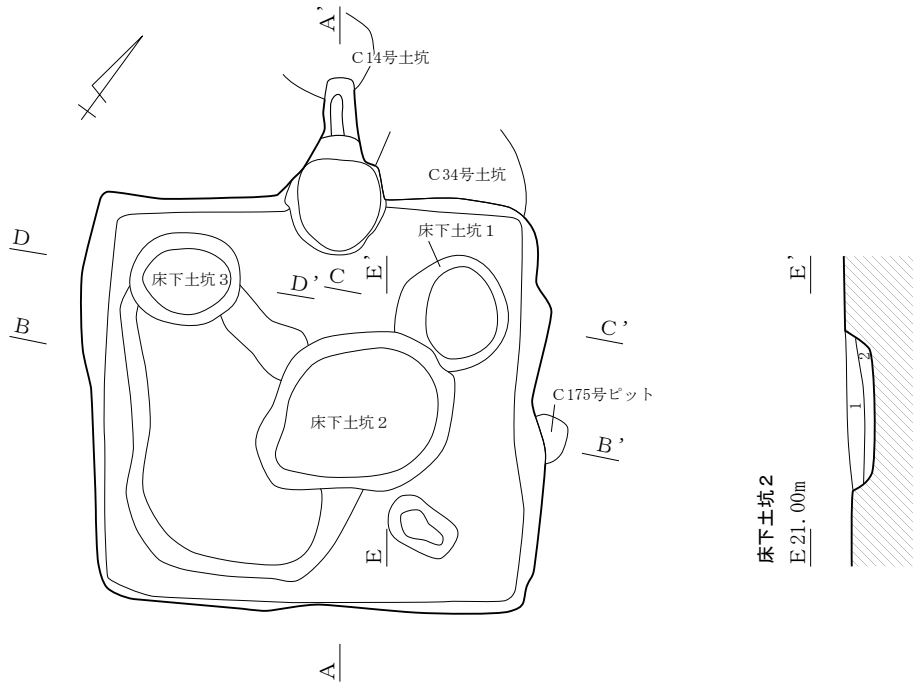


第１層　暗褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・焼土粒・炭化物粒微量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。
第２層　暗褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜のローム粒・焼土粒・炭化物粒微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。
第３層　暗褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・焼土粒・炭化物粒・暗黒褐色土ブロック微量、径１～５㎜の黒色スコリア・径２～５㎜のローム粒少量含む。
第４層　暗黒褐色土　粘性・しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径２～３㎜のローム粒微量、径１～８㎜の黒色スコリアやや多量含む。
第５層　明褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜のローム粒微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。
第６層　明褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～２㎜のローム粒・暗黒褐色土ブロック微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。
第７層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～２㎜のローム粒・焼土粒・粘土微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。
第８層　暗褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。（周溝）
第９層　褐色土　粘性あり。しまりやや強い。径１～３㎜の橙色スコリア・炭化物粒微量、径１～５㎜の黒色スコリア・径２～５㎜のローム粒少量含む。中央部分硬化している。（掘り方）
第10層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア・径３～５㎜のローム粒少量含む。（掘り方）
第11層　黄白褐色土　粘性やや強い。しまりあり。ローム主体。褐色土ブロック少量含む。（掘り方）

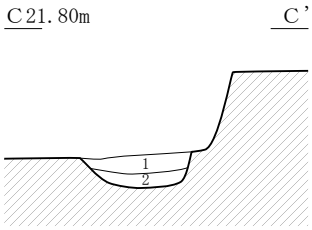


第236図　10区Ｈ１号竪穴住居址（１）[1/60]

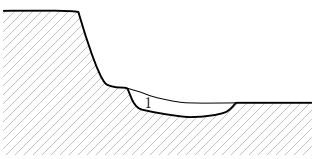
掘り方



床下土坑１



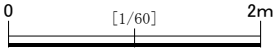
床下土坑３



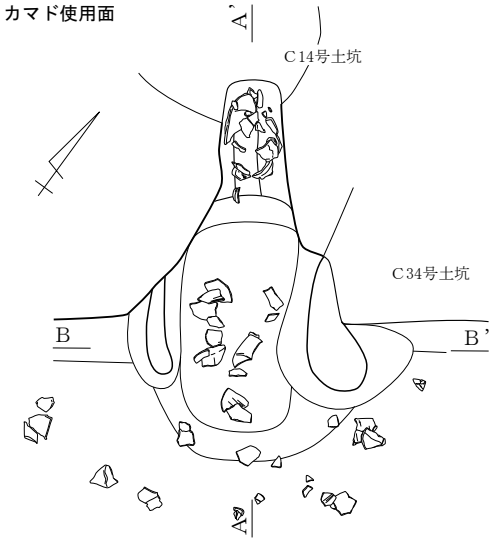
床下土坑1
第１層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・焼土粒微量、径１～５㎜の黒色スコリア・径１～４㎜のローム粒・炭化物粒少量含む。
第２層　明褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜のローム粒中量、炭化物粒微量含む。

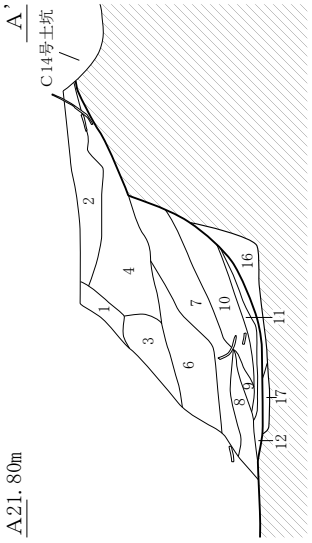
床下土坑２
第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア・炭化物粒微量、径１～２㎜のローム粒少量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア・径１～３㎜のローム粒微量含む。

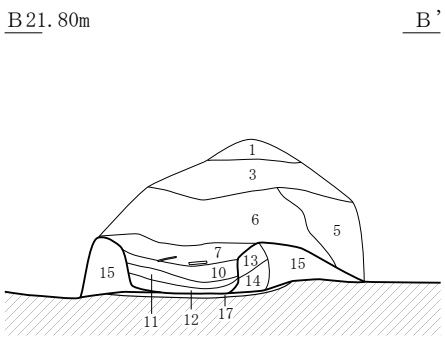
床下土坑３
第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア・炭化物粒微量、径１～４㎜のローム粒少量含む。

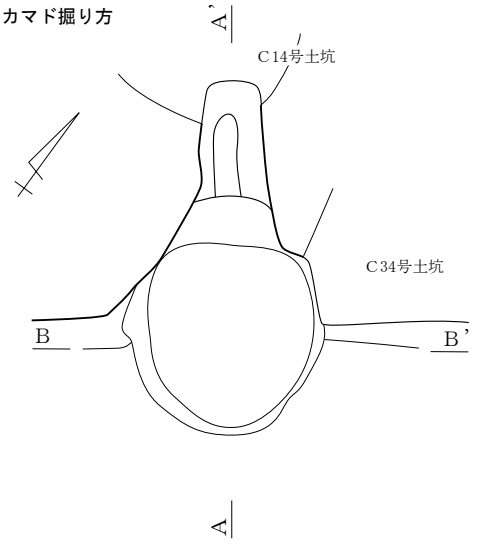


第237図　10区Ｈ１号竪穴住居址（２）[1/60]





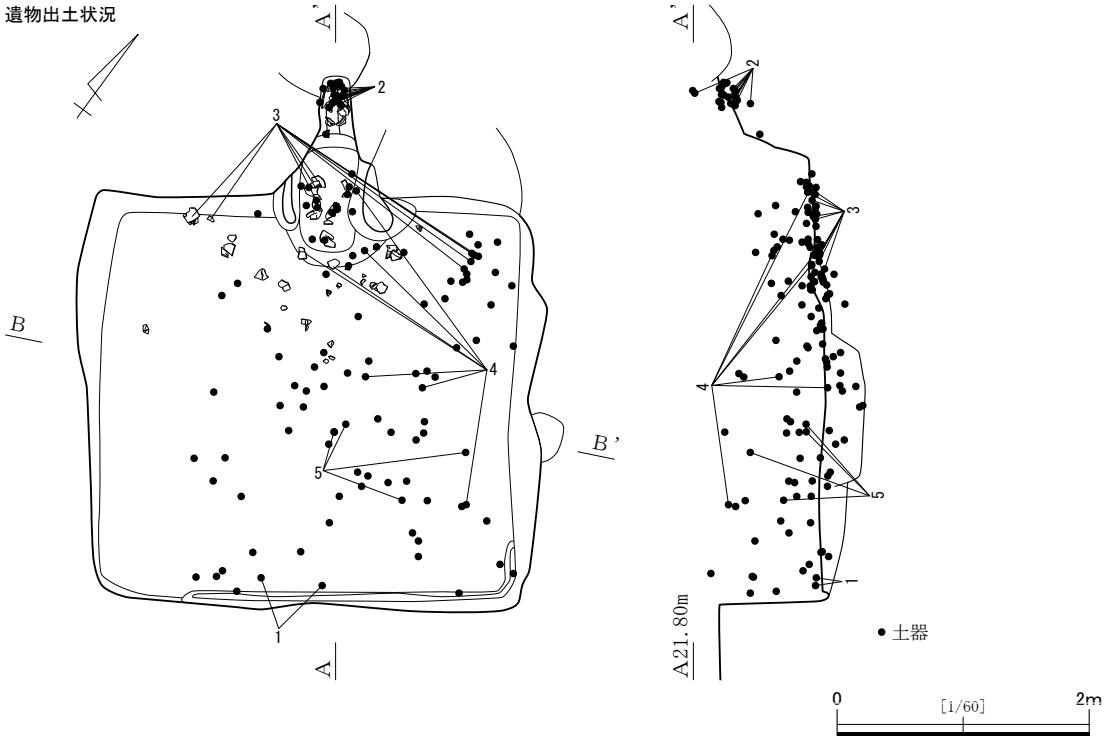




第１層　暗褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア中量、径１㎜以下のローム粒微量含む。
第２層　明褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量、径１～３㎜のローム粒中量含む。
第３層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量、径１～５㎜のローム中量含む。
第４層　暗褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア・径１㎜以下のローム少量含む。
第５層　暗褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～２㎜のローム粒微量、径１～５㎜の黒色スコリア・暗黒褐色土ブロック少量含む。
第６層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア・径１～５㎜のローム粒少量含む。
第７層　暗黄褐色土　粘性やや強い。しまりあり。ローム主体。粘土少量含む。
第８層　明褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～２㎜のローム粒微量含む。
第９層　暗黄褐色土　粘性あり。しまり弱い。ローム主体。
第10層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・炭化物粒・乳褐色土ブロック微量、径１～３㎜のローム粒・焼土粒少量含む。
第11層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。上部に炭化物粒を多量、焼土粒少量、径１㎜以下のローム粒微量含む。
第12層　明褐色土　粘性・しまりあり。炭化物粒・焼土粒微量含む。
第13層　明褐色土　粘性・しまりあり。焼土粒・炭化物粒・径１～２㎜のローム粒少量含む。（袖）
第14層　暗黄褐色土　粘性やや強い。しまりあり。ローム主体。焼土粒・炭化物粒微量含む。（袖）
第15層　暗黄褐色土　粘性やや強い。しまりあり。ローム主体。焼土粒微量含む。（袖）
第16層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア・炭化物粒微量、径１～２㎜のローム粒少量含む。（掘り方）
第17層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア・炭化物粒・乳褐色土ブロック微量、径１～３㎜のローム粒・焼土粒少量含む。（掘り方）

0　[1/30]　1m

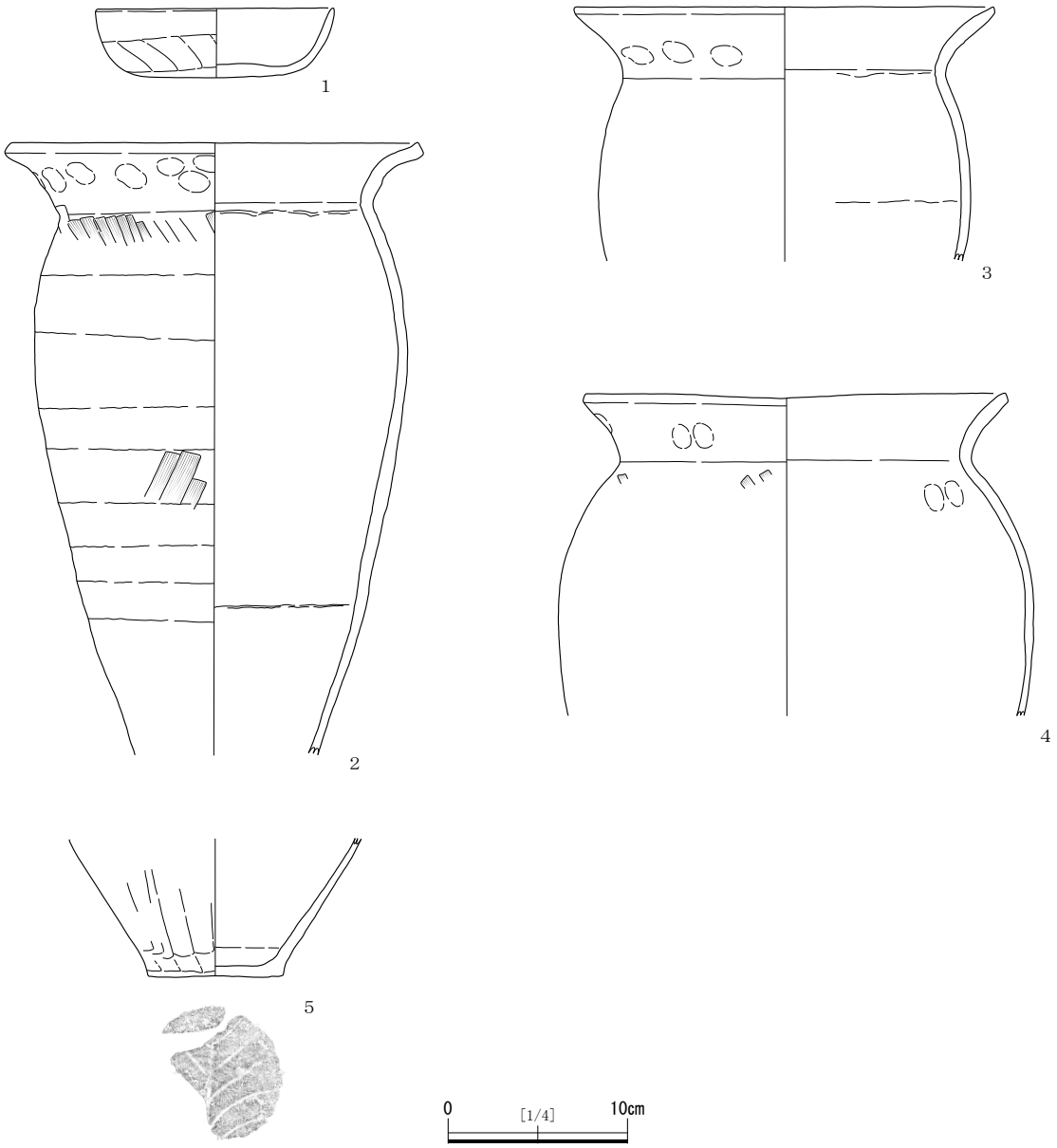
第238図　10区Ｈ１号竪穴住居址（３）[1/30]



第239図　10区Ｈ１号竪穴住居址（４）[1/60]

第50表　10区Ｈ１号竪穴住居跡出土遺物観察表［第240図］

No.	器種	観察所見　　（　）＝現存値　〔　〕＝復元値
1	土師器 坏	法量(cm)：口径13.1　底径7.6　器高3.9　重量114.5g　残存度：口縁部1/3～体部3/4　底部4/5 成形・調整：外面　口縁部ヨコナデ　体部ナデ　内面　口縁部ヨコナデ　胴部ヨコハケ　指頭痕 胎土：密　角閃石　雲母　細砂粒　焼成：良好　色調：外　橙（5YR7/6）　内　橙（5YR7/8）出土位置：カマド　覆土
2	土師器 甕	法量(cm)：口径〔22.6〕　器高(34.1)　重量1,343.7ｇ　残存度：口縁部1/4　頸部～胴部一部欠 成形・調整：外面　口縁部ヨコナデ　指頭痕　胴部ナデ　タテハケ　内面　口縁部ヨコナデ　胴部ナデ　胎土：密　雲母　細砂粒　焼成：良好　色調：橙（7.5YR6/6）　出土位置：カマド　覆土
3	土師器 甕	法量(cm)：口径〔23.3〕　器高(14.2)　重量361.2g　残存度：口縁部～胴部1/2　成形・調整：外面　口縁部ヨコナデ　指頭痕　胴部ナデ　内面　口縁部ヨコナデ　胴部ナデ　胎土：密　角閃石　雲母　細砂粒　砂粒　雲母　焼成：良好　色調：橙（7.5YR7/6）　出土位置：カマド　覆土
4	土師器 甕	法量(cm)：口径〔23.4〕　器高(17.9)　重量290.7g　残存度：口縁部1/4　胴部1/3　成形・調整：外面　口縁部ヨコナデ　指頭痕　胴部ナデ　タテハケ　内面　口縁部ヨコナデ　胴部ヨコナデ　指頭痕　胎土：密　角閃石　石英　細砂粒　スコリア　焼成：良好　色調：外　橙（5YR7/8）　内　橙（5YR6/8）出土位置：覆土
5	土師器 甕	法量(cm)：底径7.6　器高(7.7)　重量148.2g　残存度：底部2/3　胴部下部3/4　成形・調整：外面　胴部ヘラナデ　底部木葉痕　内面　ヨコナデ　胎土：密　角閃石　石英　砂粒　細砂粒　白色粒子　焼成：良好　色調：外　にぶい橙（7.5YR7/4）～黒褐（7.5YR3/1）　内　橙（5YR6/6）　出土位置：覆土



第240図　10区Ｈ１号竪穴住居址出土遺物[1/4]

（２）溝状遺構

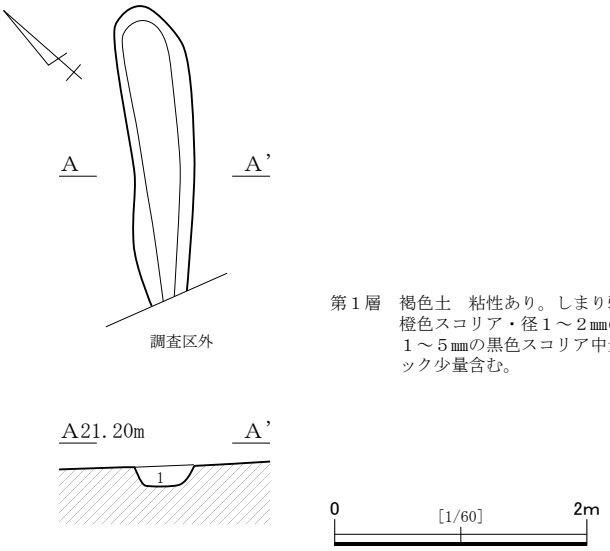
Ｈ１号溝状遺構（第235・241図、図版53－２）

ＡＢ17グリッド中央北寄りで発見された。南側は調査区外へ延伸すると思われる。主軸方位はＮ－42°－Ｅを示し、検出面の標高は21.05ｍである。検出規模は全長2.40ｍ、幅0.50ｍ、確認面からの深さは0.15ｍを測る。。底面はほぼ平坦で、断面形は逆台形を呈している。

覆土は褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



第241図　10区Ｈ１号溝状遺構[1/60]

（３）畝状遺構

Ｈ１号畝状遺構（第235・242図、図版54－１）

ＡＡ・ＡＢ17リッドに位置している。東西約7.00ｍ、南北約9.30ｍの範囲に展開している北東―南西方向の畝状遺構である。Ｃ414号ピット、Ｃ458号ピットに切られている。主軸方位はＮ－52°－Ｅを示す。確認された規模は、長さ2.66～11.00ｍ、幅0.19～0.46ｍ、確認面からの深さは0.05～0.15ｍを測る。平面形態はほぼ直線状を呈する。底面はほぼ平坦で、断面形態は逆台形、Ｕ字状、皿状を呈する。壁はやや外傾しながら立ち上がる。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

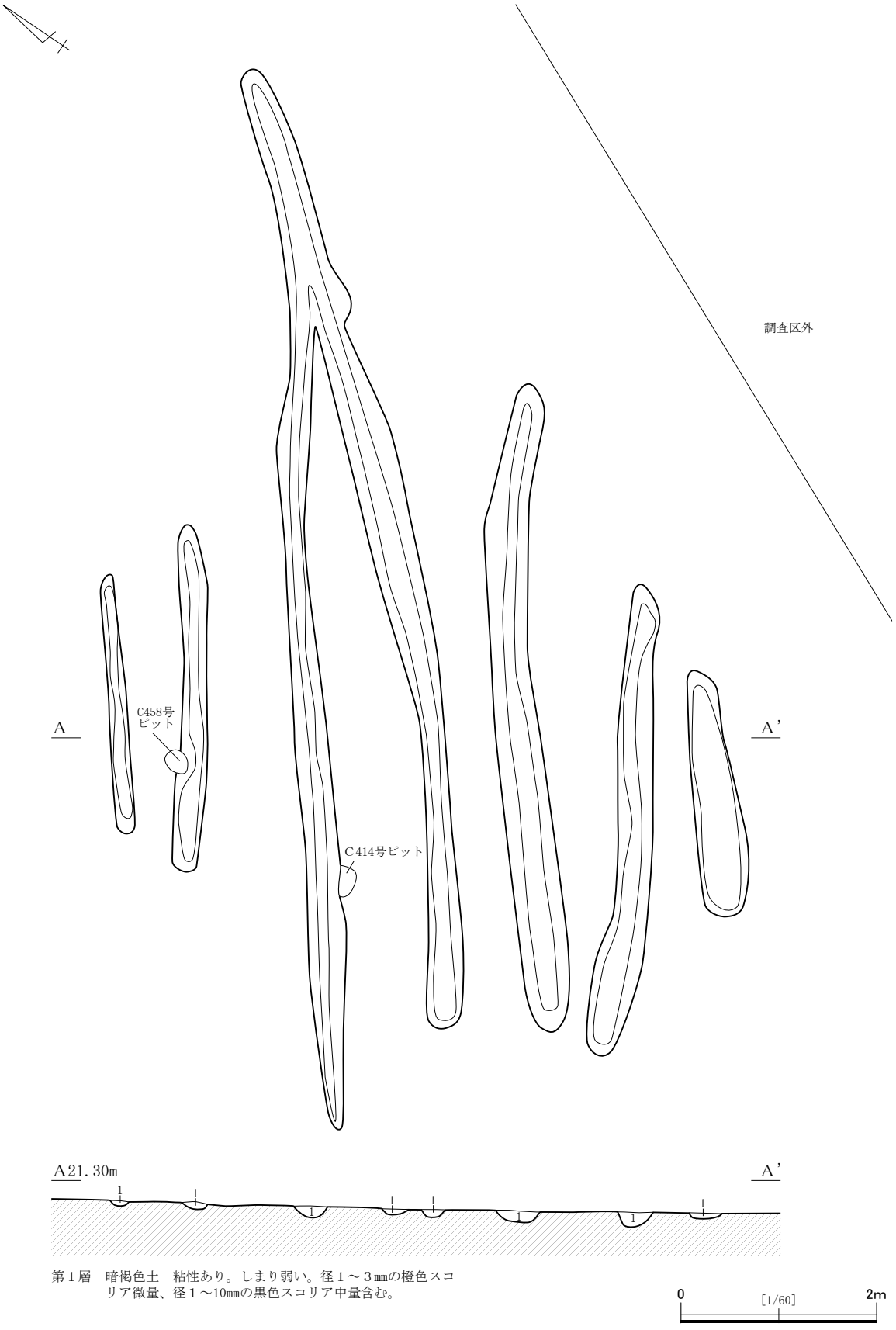
Ｈ２号畝状遺構（第235・243図）

ＡＡ17グリッドに位置している。東西約1.90ｍ、南北約6.20ｍの範囲に展開している概ね南北方向の畝状遺構である。東側は調査区外へ広がる可能性も考えられる。２列しか確認されなかったが、どちらもＨ１号畝状遺構に切られる。主軸方位はＮ－30°－Ｅを示す。確認された規模は、長さ2.35～4.00ｍ、幅0.21～0.51ｍ、確認面からの深さは0.08ｍを測る。平面形態はほぼ直線状を呈する。底面はほぼ平坦で、断面形態は碗形を呈する。壁はやや外傾しながら立ち上がる。

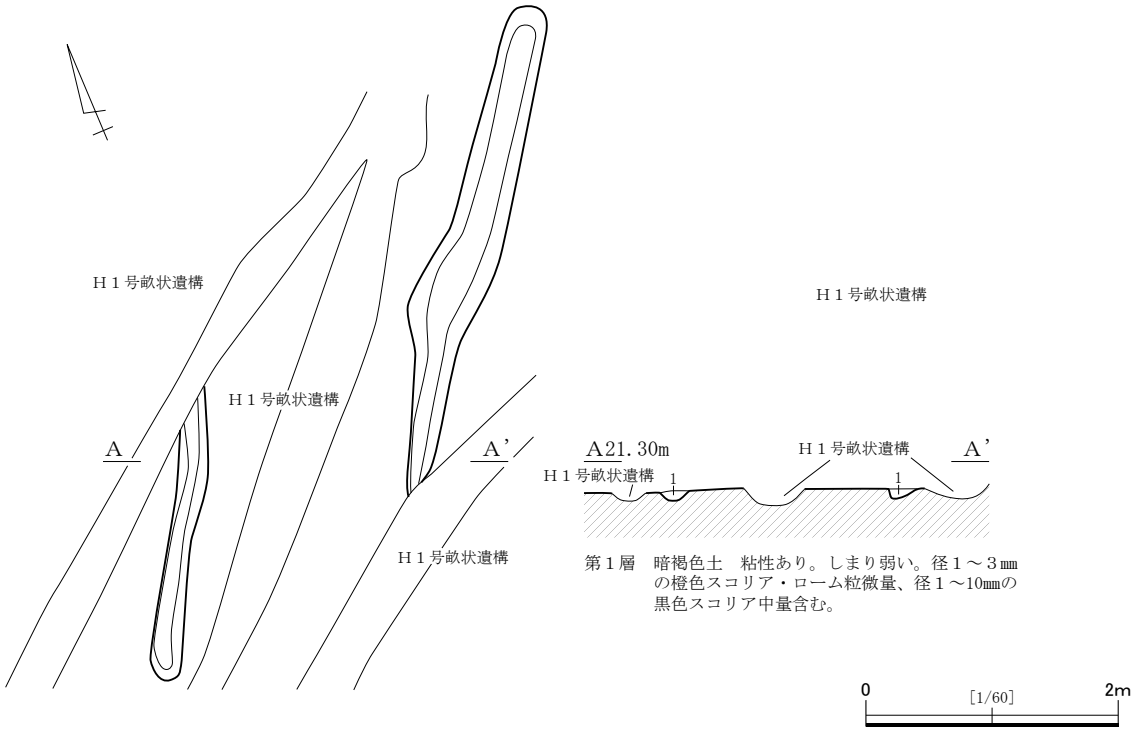
覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



第242図　10区Ｈ１号畝状遺構[1/60]

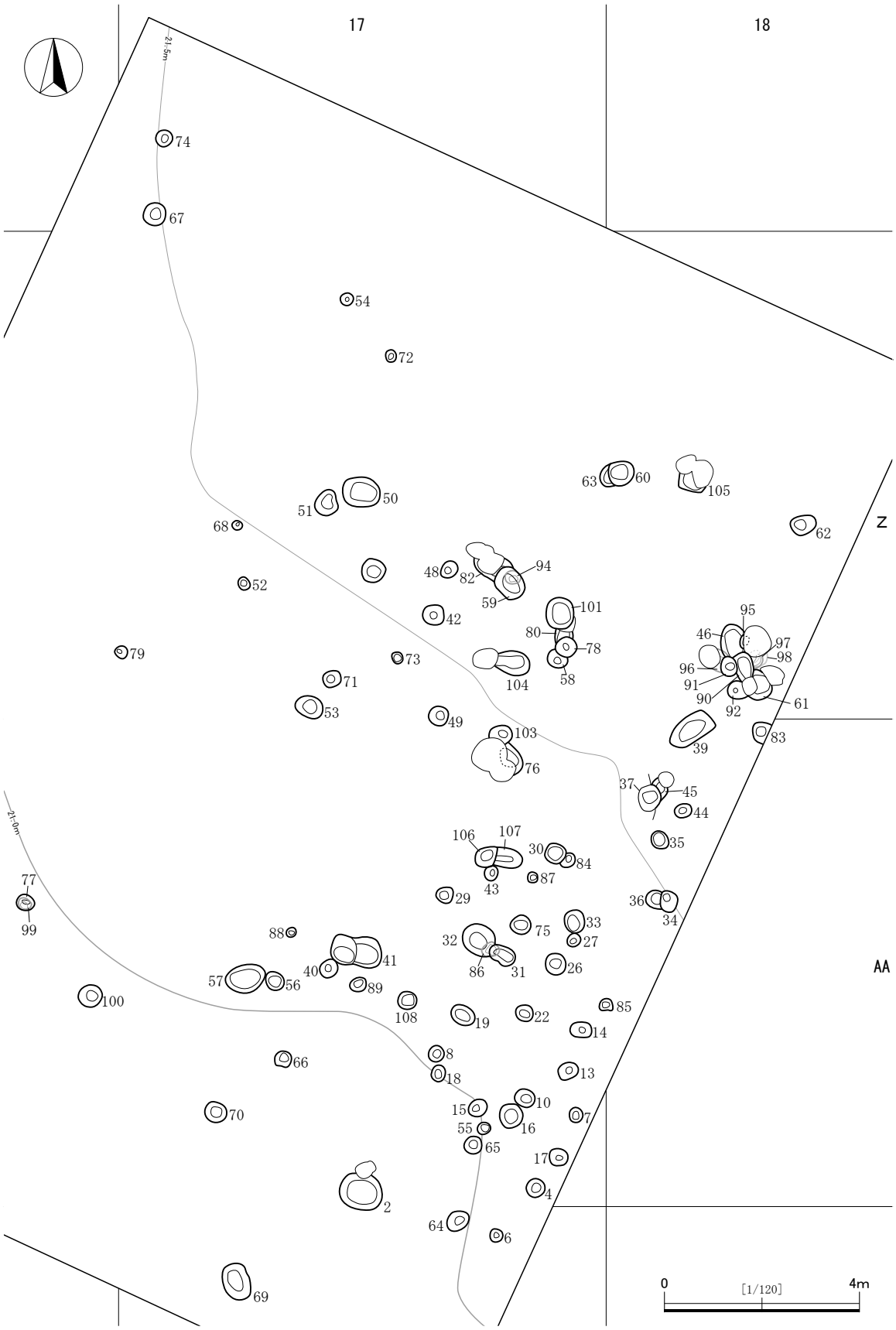


第243図　10区Ｈ２号畝状遺構[1/60]

（４）ピット（第235・244～254図、第51・52表、図版158－２）

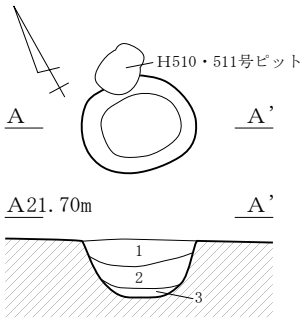
調査区全体から93基発見されているが、主に調査区南東側に集中して分布している。一部に並列している様相を呈するピットがあるが、柱痕など建物址と考えられる痕跡は発見されなかった。その他のピットも規模や深さは一定ではなく、また規則性のある並びも確認されなかった。平面形は円形或いは楕円形で、各々の検出規模については第52表にまとめている。

各ピットからの出土遺物は以下のとおりである。Ｈ４号ピットから土師器甕１点(2.3g)、Ｈ12号ピットから土師器坏１点(5.6g)、土師器甕７点(25.8g)、Ｈ14号ピットから土師器坏１点(3.7g)、土師器甕１点(4.5g)、Ｈ15号ピットから須恵器坏１点(12.4g)、Ｈ16号ピットから土師器坏２点(10.5g)、土師器甕３点(16.1g)、Ｈ26号ピットから土師器甕１点(2.6g)、Ｈ34号ピットから須恵器坏１点(1.6g)、Ｈ37号ピットから土師器甕４点(18.3g)、Ｈ40号ピットから土師器坏１点(26.5g)、土師器甕５点(27.9g)、須恵器坏１点(39.7ｇ)、Ｈ41号ピットから土師器坏10点(169.6g)、土師器甕34点(306.5g)、Ｈ42号ピットから土師器甕４点(22.6g)、須恵器坏蓋１点(43.8ｇ)、Ｈ43号ピットから土師器甕４点(17.4g)、Ｈ44号ピットから土師器甕１点(16.3g)、Ｈ45号ピットから土師器甕１点(3.6g)、Ｈ46号ピットから土師器甕１点(4.1g)、Ｈ48号ピットから土師器甕１点(3.9g)、Ｈ49号ピットから須恵器甕１点(3.1g)、Ｈ50号ピットから土師器甕１点(6.1g)、Ｈ51号ピットから土師器坏１点(2.5g)、土師器甕２点(11.4g)、Ｈ52号ピットから土師器坏１点(4.1g)、Ｈ53号ピットから土師器甕４点(18.0g)、Ｈ54号ピットから土師器甕１点(4.1g)、Ｈ55号ピットから土師器坏１点(6.5g)、Ｈ56号ピットから土師器坏１点(3.0g)、Ｈ57号ピットから土師器坏２点(10.6g)、須恵器坏１点(2.0g)、Ｈ58号ピットから土師器甕１点(4.3g)、Ｈ59号ピットから須恵器坏１点(6.1g)、Ｈ60号ピットから土師器甕１点(3.1g)、Ｈ61号ピットから土師器坏２点(5.7g)、土師器甕１点(1.6g)、Ｈ62号ピットから土師器甕１点(14.8g)、Ｈ64号ピットから土師器甕６点(33.2g)、Ｈ65号ピ



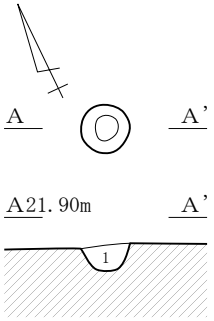
第244図　10区　奈良・平安時代ピット分布図[1/120]

Ｈ２号ピット



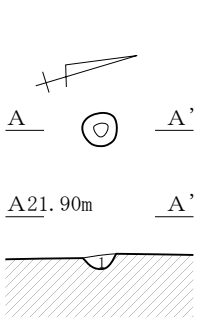
第１層　明茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～３㎜の黒色スコリア・炭化物粒微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。
第３層　暗褐色土　粘性・しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。

Ｈ４号ピット



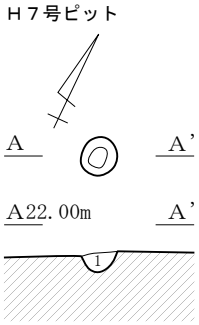
第１層　明茶褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～３㎜の黒色スコリア微量含む。

Ｈ６号ピット



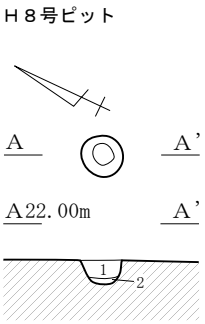
第１層　明茶褐色土　粘性・しまりやや強い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～３㎜の黒色スコリア微量含む。

Ｈ７号ピット



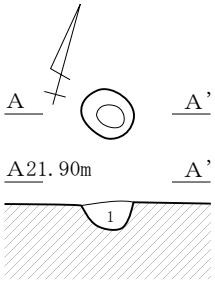
第１層　明茶褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～３㎜の黒色スコリア微量含む。

Ｈ８号ピット



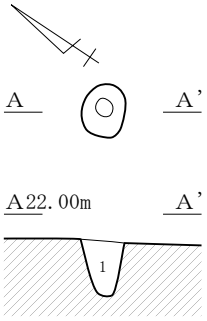
第１層　明茶褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～３㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～３㎜の黒色スコリア微量含む。

Ｈ10号ピット



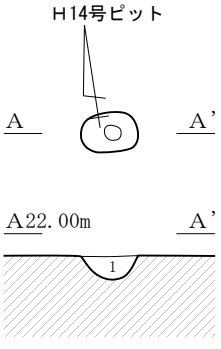
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～３㎜の黒色スコリア・焼土粒・炭化物粒微量含む。

Ｈ13号ピット



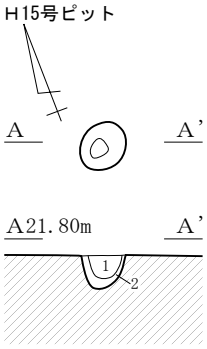
第１層　明茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～３㎜の黒色スコリア微量含む。

Ｈ14号ピット

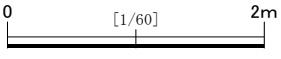


第１層　明茶褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～３㎜の黒色スコリア・炭化物粒・焼土粒微量含む。

Ｈ15号ピット

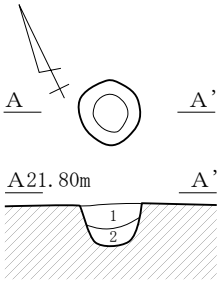


第１層　明茶褐色土　粘性やや強い。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～３㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～３㎜の黒色スコリア・炭化物粒微量含む。



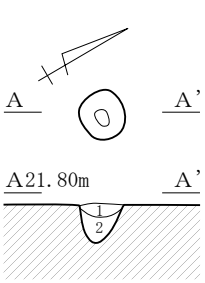
第245図　10区Ｈ２・４・６～８・10・13～15号ピット[1/60]

H16号ピット



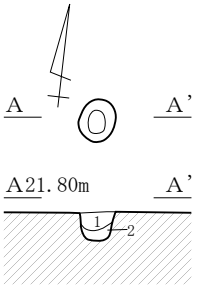
第１層　明茶褐色土　粘性・しまりやや強い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～３㎜の黒色スコリア・炭化物粒微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

H17号ピット



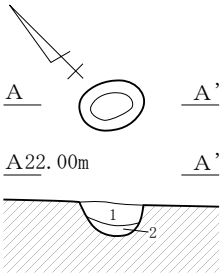
第１層　明茶褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～３㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

H18号ピット



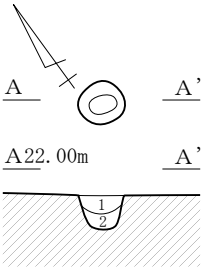
第１層　明茶褐色土　粘性・しまりやや強い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～３㎜の黒色スコリア・炭化物粒微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～３㎜の黒色スコリア微量含む。

H19号ピット



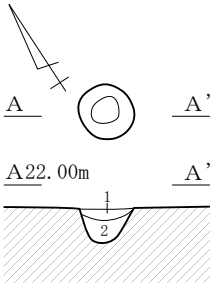
第１層　明茶褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～３㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～３㎜の黒色スコリア微量含む。

H22号ピット



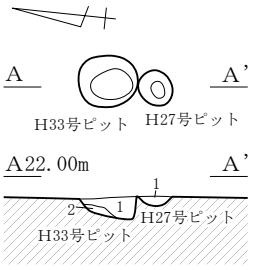
第１層　明茶褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～３㎜の黒色スコリア・炭化物粒微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

H26号ピット



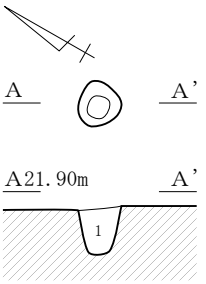
第１層　明茶褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～３㎜の黒色スコリア・炭化物粒微量・焼土粒少量含む。
第２層　茶褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア少量、焼土粒微量含む。

H27・33号ピット



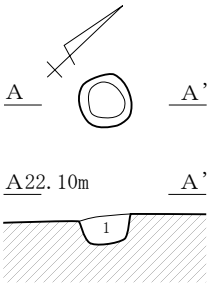
H27号ピット
第１層　明茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～３㎜の黒色スコリア・焼土粒微量含む。
H33号ピット
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～３㎜の黒色スコリア微量・焼土粒中量含む。
第２層　暗褐色土　粘性・しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。

H29号ピット

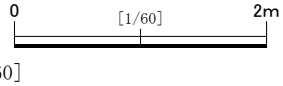


第１層　茶褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～３㎜の黒色スコリア微量含む。

H30号ピット

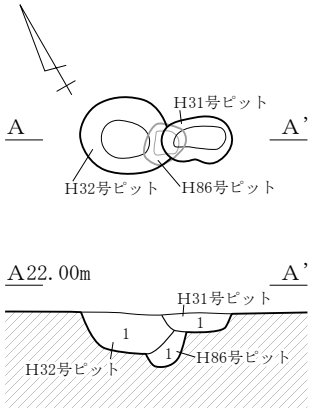


第１層　茶褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～３㎜の黒色スコリア・焼土粒・暗褐色土ブロック微量含む。



第246図　10区H16～19・22・26・27・29・30・33号ピット[1/60]

H31・32・86号ピット

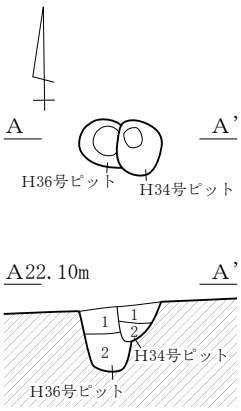


H31号ピット
第１層　茶褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～３㎜の黒色スコリア微量含む。

H32号ピット
第１層　茶褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～３㎜の黒色スコリア・焼土粒・炭化物粒微量含む。

H86号ピット
第１層　茶褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

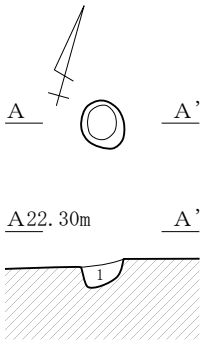
H34・36号ピット



H34号ピット
第１層　茶褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～３㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　暗褐色土　粘性・しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。

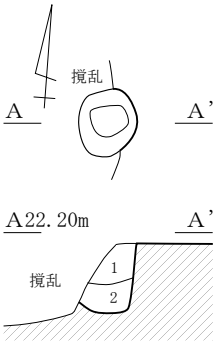
H36号ピット
第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。
第２層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・焼土粒・炭化物粒微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

H35号ピット



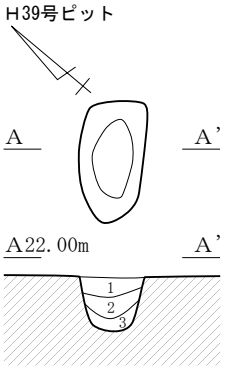
第１層　茶褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～３㎜の黒色スコリア微量含む。

H37号ピット



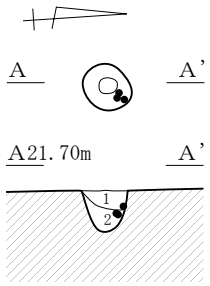
第１層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。
第２層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～３㎜の黒色スコリア中量含む。

H39号ピット



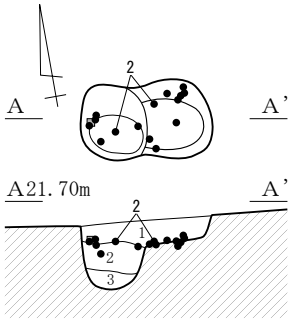
第１層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。
第２層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア中量、ロームブロック・暗黒褐色土ブロック微量含む。
第３層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・明茶褐色土ブロック少量、径１～５㎜の黒色スコリア中量、ロームブロック微量含む。

H40号ピット



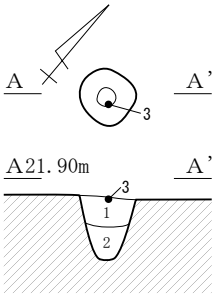
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒子少量含む。
第２層　暗褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

H41号ピット



第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア・焼土粒・炭化物粒微量含む。
第２層　暗茶褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
第３層　暗褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア中量、暗茶褐色土ブロック少量含む。

H42号ピット



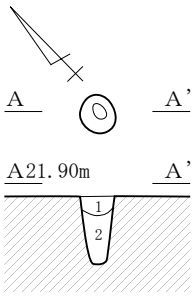
第１層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。
第２層　暗褐色土　粘性・しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。

● 土器　▫ 礫

0　[1/60]　2m

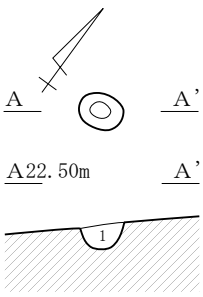
第247図　10区H31・32・34～37・39・40～42・86号ピット[1/60]

H43号ピット



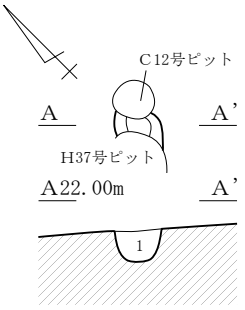
第１層　褐色土　粘性・しまり弱い。径１～２㎜の橙色スコリア・炭化物粒微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。
第２層　暗褐色土　粘性・しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。

H44号ピット



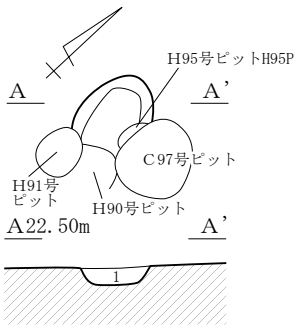
第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～２㎜の橙色スコリア微量、径１～３㎜の黒色スコリア少量含む。

H45号ピット



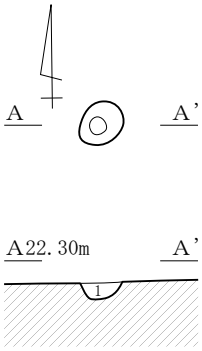
第１層　褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア少量含む。

H46号ピット



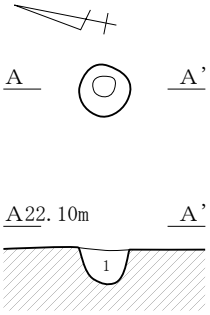
第１層　茶褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

H48号ピット



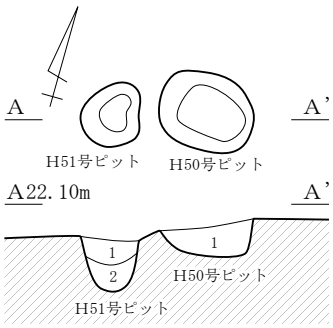
第１層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

H49号ピット



第１層　茶褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア・炭化物粒微量含む。

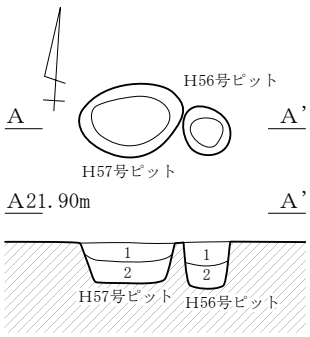
H50・51号ピット



H50号ピット
第１層　茶色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア・炭化物粒微量含む。

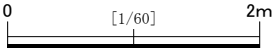
H51号ピット
第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～２㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

H56・57号ピット



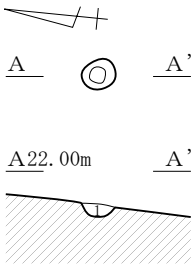
H56号ピット
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～３㎜の黒色スコリア・焼土粒・炭化物粒微量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

H57号ピット
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア・炭化物粒微量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、炭化物粒微量含む。



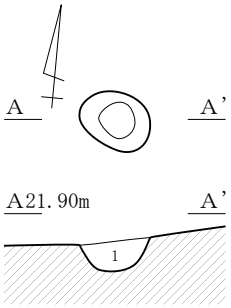
第248図　10区H43～46・48～51・56・57号ピット[1/60]

H52号ピット



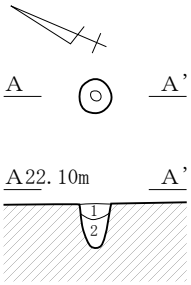
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア・炭化物粒微量含む。

H53号ピット



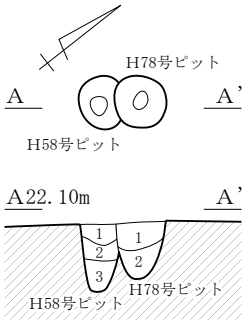
第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア・焼土粒・炭化物粒微量含む。

H54号ピット



第１層　茶褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

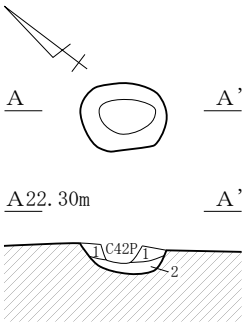
H58・78号ピット



H58号ピット
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア・炭化物粒微量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・暗褐色土ブロック少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第３層　褐色土　粘性あり。しまりやや強い。径１～３㎜の橙色スコリア・炭化物粒・茶褐色土ブロック微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

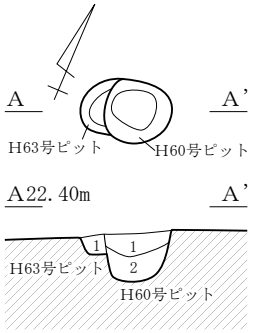
H78号ピット
第１層　茶褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

H59号ピット



第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア・焼土粒・炭化物粒微量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

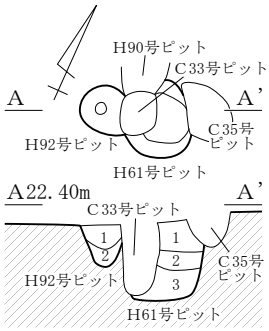
H60・63号ピット



H63号ピット
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア・ローム粒微量含む。

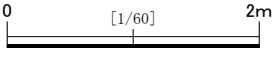
H60号ピット
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア・茶褐色土ブロック少量含む。

H61・92号ピット



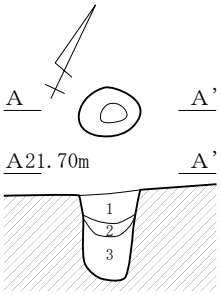
H61号ピット
第１層　茶褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量、茶褐色土ブロック微量含む。
第３層　暗褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量、明茶褐色土ブロック微量含む。

H92号ピット
第１層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・炭化物粒少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。



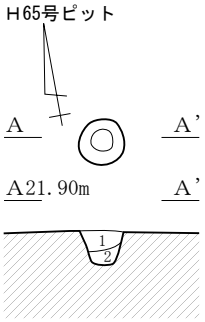
第249図　10区H52～54・58～61・63・78・92号ピット[1/60]

H64号ピット



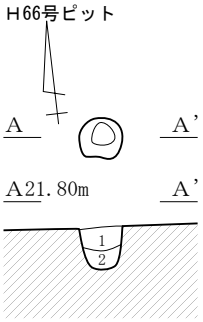
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア・茶褐色土ブロック少量含む。
第３層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。

H65号ピット



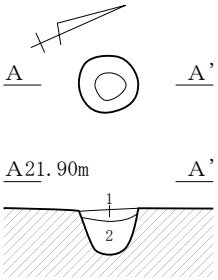
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア・炭化物粒微量含む。
第２層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・茶褐色土ブロック微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

H66号ピット



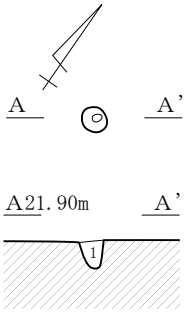
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。炭化物粒・焼土粒微量含む。
第２層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア・茶褐色土ブロック少量含む。

H67号ピット



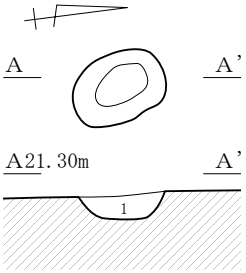
第１層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～３㎜の黒色スコリア少量、炭化物粒微量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア・炭化物粒微量含む。

H68号ピット



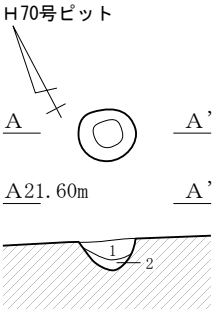
第１層　茶褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

H69号ピット



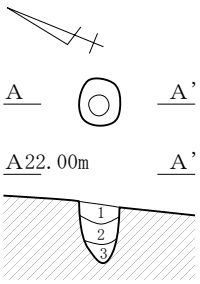
第１層　暗茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量、炭化物粒微量含む。

H70号ピット



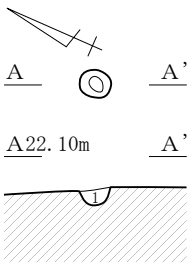
第１層　暗茶褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量、炭化物粒微量含む。
第２層　暗茶褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア・暗褐色土ブロック少量含む。

H71号ピット

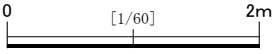


第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア・炭化物粒微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第３層　暗茶褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア・炭化物粒微量含む。

H72号ピット

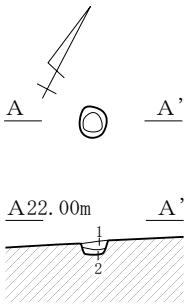


第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア・炭化物粒微量含む。



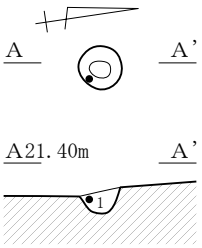
第250図　10区H64～72号ピット[1/60]

Ｈ73号ピット



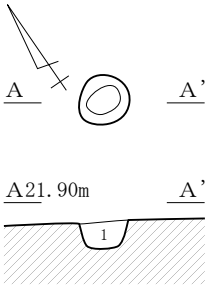
第１層　茶褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、暗褐色土ブロック少量含む。

Ｈ74号ピット



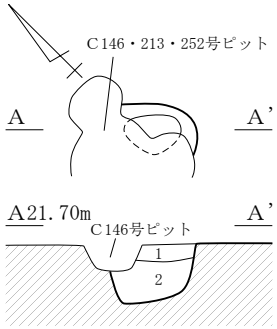
第１層　明茶褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア・ローム粒微量含む。

Ｈ75号ピット



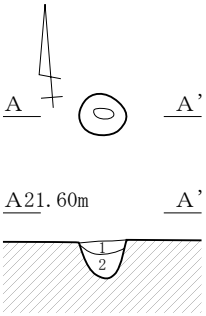
第１層　茶褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア・炭化物粒微量含む。

Ｈ76号ピット



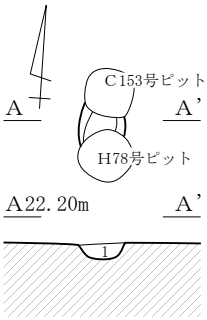
第１層　暗茶褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量、炭化物粒微量含む。
第２層　暗茶褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量、暗黒褐色土ブロック微量含む。

Ｈ77号ピット



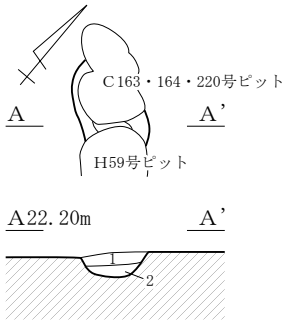
第１層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア・ローム粒微量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア・ローム粒微量含む。

Ｈ80号ピット



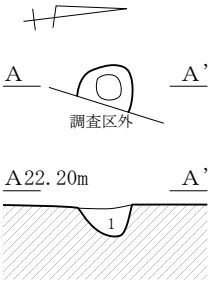
第１層　茶褐色土　粘性あり。粘性弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

Ｈ82号ピット



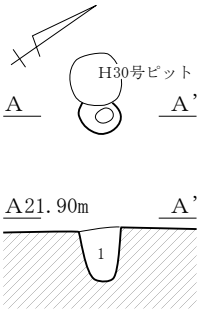
第１層　茶褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、暗褐色土ブロック少量含む。
第２層　暗褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア・茶褐色土ブロック微量含む。

Ｈ83号ピット

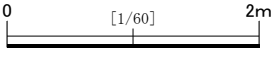


第１層　茶褐色土　粘性あり。粘性弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア・炭化物粒微量含む。

Ｈ84号ピット

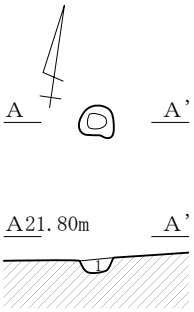


第１層　暗茶褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア・炭化物粒微量含む。



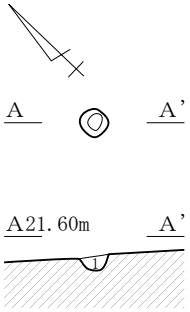
第251図　10区Ｈ73～77・80・82～84号ピット[1/60]

H85号ピット



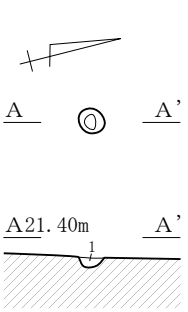
第１層　暗茶褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

H87号ピット



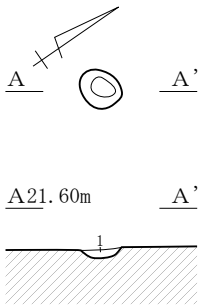
第１層　茶褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量、炭化物粒微量含む。

H88号ピット



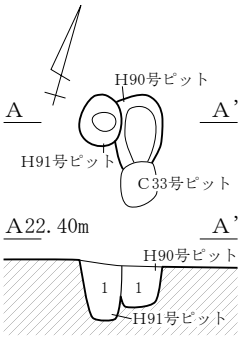
第１層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。

H89号ピット



第１層　茶褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量、炭化物粒微量含む。

H90・91号ピット



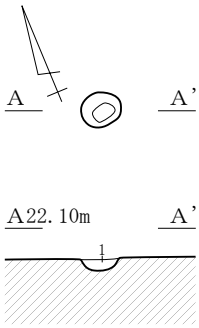
H90号ピット

第１層　茶褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、・径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

H91号ピット

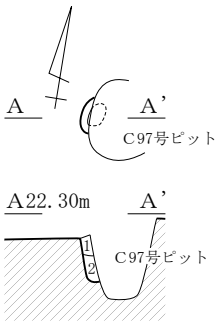
第１層　茶褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量、炭化物粒微量含む。

H94号ピット



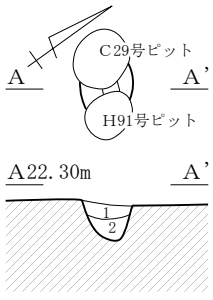
第１層　茶褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

H95号ピット



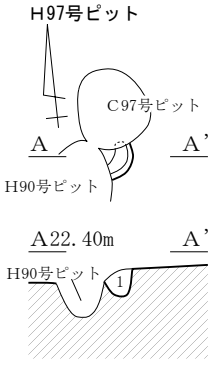
第１層　茶褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・茶褐色土ブロック微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

H96号ピット

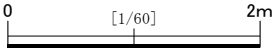


第１層　茶褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　暗褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア・茶褐色土ブロック少量含む。

H97号ピット

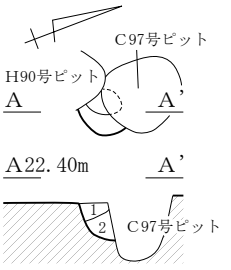


第１層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量、炭化物粒微量含む。



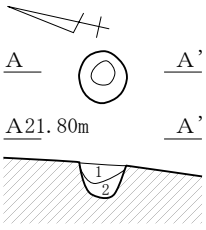
第252図　10区H85・87～91・94～97号ピット[1/60]

H98号ピット



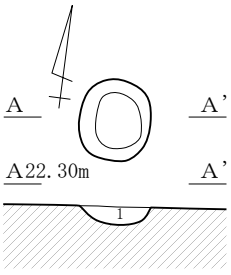
第１層　茶褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　暗褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア・茶褐色土ブロック少量含む。

H100号ピット



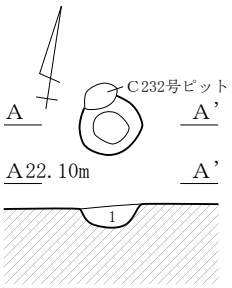
第１層　褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量、ローム粒微量含む。
第２層　褐色土　粘性やや強い。しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～３㎜の黒色スコリア微量含む。

H101号ピット



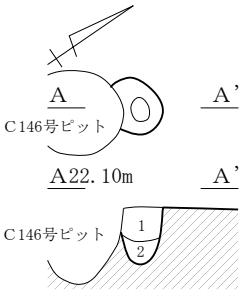
第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～３㎜の黒色スコリア少量、明褐色土ブロック微量含む。

H102号ピット



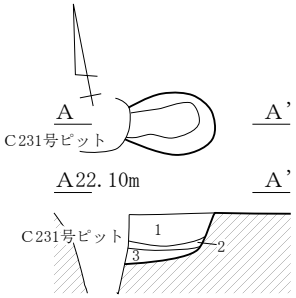
第１層　茶褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア・炭化物粒・焼土粒微量含む。

H103号ピット



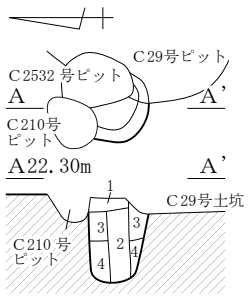
第１層　茶褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

H104号ピット



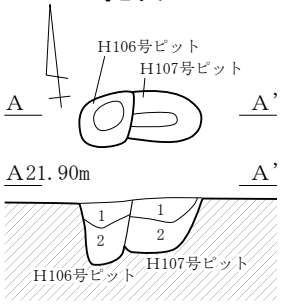
第１層　茶褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア・炭化物粒・焼土粒・暗褐色土ブロック微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第３層　暗褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。

H105号ピット



第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　暗褐色土　粘性あり、しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第３層　明褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。
第４層　明褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。

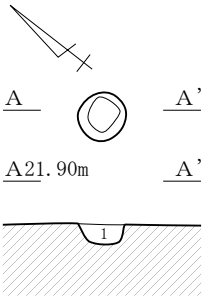
H106・107号ピット



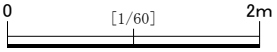
H106号ピット
第１層　茶褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第２層　暗茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア・暗黒褐色土ブロック少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

H107号ピット
第１層　暗茶褐色土　粘性あり。しまり弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア・炭化物粒・暗黒褐色土ブロック微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア・炭化物粒微量含む。

H108号ピット



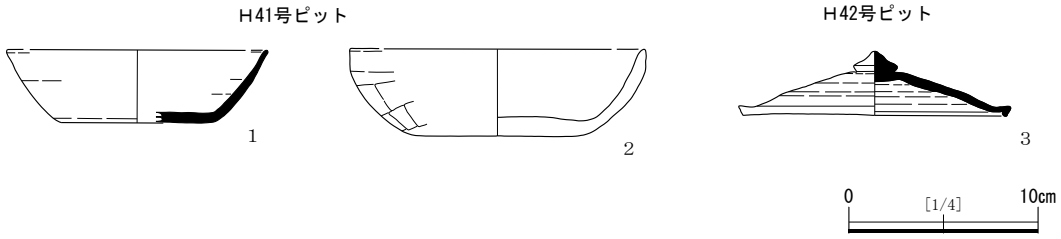
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア・炭化物粒微量含む。



第253図　10区H98・100～108号ピット[1/60]

ットから土師器甕２点(2.3g)、Ｈ66号ピットから土師器坏１点(7.0g)、土師器甕１点(16.7g)、Ｈ67号ピットから須恵器甕１点(4.8g)、Ｈ68号ピットから土師器甕１点(4.9g)、Ｈ69号ピットから土師器坏３点(11.9g)、Ｈ70号ピットから土師器坏２点(8.0g)、土師器甕３点(20.0g)、Ｈ71号ピットから土師器甕１点(3.5g)、Ｈ72号ピットから土師器坏１点(7.9g)、Ｈ73号ピットから土師器甕１点(5.8g)、Ｈ74号ピットから須恵器甕１点(116.3g)、Ｈ75号ピットから土師器坏２点(13.5g)、Ｈ76号ピットから土師器坏１点(7.8g)、土師器甕３点(13.1g)、Ｈ77号ピットから土師器甕１点(6.0g)、Ｈ78号ピットから土師器甕１点(1.9g)、Ｈ79号ピットから土師器甕１点(2.5g)である。総点数143点、総重量1,179.4gで、このうち３点を図化した。

第254図１は須恵器坏である。南比企窯の製品で底部は外周ヘラケズリが施されている。８世紀中頃のものである。Ｈ40号ピット出土である。２は須恵器坏である。器面は荒れ調整が不明瞭な部分もあるが、口縁部及び内面はヨコナデされ、外面体部及び底部はヘラケズリされている。残存度は口縁部がわずかで底部は完存しており８世紀後半の製品と考えられる。Ｈ41号ピット出土である。３は須恵器蓋である。扁平な擬宝珠形の紐がつく。８世紀代の所産である。Ｈ42号ピット出土である。



第254図　10区奈良・平安時代ピット出土遺物[1/4]

第51表　10区奈良・平安時代ピット出土遺物観察表［第254図］

No.	器種	観察所見　　(　)＝現存値　〔　〕＝復元値
1	須恵器坏	法量(cm)：口径〔13.6〕　底径〔8.0〕　器高3.9　重量39.7g　残存度：口縁部わずか　体部1/4　底部1/2弱　成形・調整：内外面回転ナデ　底部回転糸切り後外周ヘラケズリ　内面爪先技法　胎土：密　白色針状物質　白色スコリア　小礫　黒色粒　焼成：良好　色調：灰（5Y5/1）　出土位置：H40号ピット　備考：南比企　８世紀中頃
2	土師器坏	法量(cm)：口径〔15.5〕底径9.0　器高4.6　重量91.6g　残存度：口縁部1/16　体部1/8　底部ほぼ完形　成形・調整：外面　口縁部ヨコナデ　体部～底部ヘラケズリ　内面　ナデ　胎土：やや粗　角閃石　小礫　スコリア　焼成：良好　色調：橙（5YR7/8）　出土位置：H41号ピット　備考：８世紀後半
3	須恵器蓋	法量(cm)：口径〔13.8〕　器高3.4　重量43.8g　残存度：摘まみ部完存　口縁部～体部1/4　成形・調整：外面回転ヘラケズリ　回転ナデ　内面回転ナデ　胎土：密　白色粒　小礫　焼成：良好　色調：灰（7.5Y5/1）　出土位置：H42号ピット　備考：歪みあり　摘まみ部疑宝珠状　８世紀代

第52表　10区　奈良・平安時代ピット計測表［第244 ～ 253図］

遺構名	グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形	遺構名	グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形
H2号ピット	AB17	0.89	(0.74)	0.46	楕円形	H46号ピット	Z18	(0.63)	0.56	0.16	楕円形
H4号ピット	AA17	0.49	0.38	0.21	円形	H48号ピット	Z17	0.39	0.31	0.16	楕円形
H6号ピット	AB17	0.27	0.27	0.12	円形	H49号ピット	Z17･AA17	0.40	0.40	0.29	円形
H7号ピット	AA17	0.31	0.28	0.14	円形	H50号ピット	Z17	0.77	0.62	0.29	長方形
H8号ピット	AA17	0.35	0.32	0.18	円形	H51号ピット	Z17	0.55	0.48	0.45	楕円形
H10号ピット	AB17	0.42	0.37	0.20	円形	H52号ピット	Z17	0.27	0.24	0.12	楕円形
H13号ピット	AA17	0.42	0.34	0.45	楕円形	H53号ピット	Z17	0.59	0.45	0.26	長方形
H14号ピット	AA17	0.45	0.32	0.18	長方形	H54号ピット	Z17	0.27	0.26	0.33	円形
H15号ピット	AA17	0.41	0.35	0.26	円形	H55号ピット	AA17	0.28	0.25	0.14	円形
H16号ピット	AA17	0.50	0.48	0.35	円形	H56号ピット	AA17	0.42	0.36	0.37	円形
H17号ピット	AB17	0.38	0.36	0.46	円形	H57号ピット	AA17	0.83	0.59	0.34	楕円形
H18号ピット	AA17	0.35	0.28	0.25	楕円形	H58号ピット	Z17	0.43	(0.33)	0.55	楕円形
H19号ピット	AA17	0.52	0.39	0.30	楕円形	H59号ピット	Z17	0.68	(0.54)	0.26	楕円形
H22号ピット	AA17	0.37	0.34	0.26	円形	H60号ピット	Z18	0.55	0.53	0.37	円形
H26号ピット	AA17	0.45	0.41	0.29	円形	H61号ピット	Z18	(0.62)	(0.46)	0.66	楕円形
H27号ピット	AA17	0.29	0.26	0.07	円形	H62号ピット	Z18	0.52	0.40	0.47	楕円形
H28号ピット	AA17	0.37	0.34	0.37	円形	H63号ピット	Z17･18	0.47	(0.28)	0.16	楕円形
H29号ピット	AA17	0.35	0.35	0.38	円形	H64号ピット	AB17	0.50	0.39	0.73	楕円形
H30号ピット	AA17	0.42	0.41	0.25	方形	H65号ピット	AA17	0.38	0.36	0.27	円形
H31号ピット	AA17	0.57	0.39	0.16	楕円形	H66号ピット	AA17	0.34	0.33	0.38	円形
H32号ピット	AA17	(0.67)	(0.61)	0.33	楕円形	H67号ピット	Y17	0.47	0.45	0.37	円形
H33号ピット	AA17	0.48	0.41	0.21	楕円形	H68号ピット	Z17	0.21	0.20	0.22	円形
H34号ピット	AA18	0.45	0.36	0.32	楕円形	H69号ピット	AB17	0.77	0.55	0.22	長方形
H35号ピット	AA18	0.40	0.35	0.22	円形	H70号ピット	AA17	0.45	0.42	0.22	円形
H36号ピット	AA18	0.39	(0.34)	0.49	楕円形	H71号ピット	Z17	0.37	0.33	0.56	楕円形
H37号ピット	AA18	0.56	0.47	0.56	楕円形	H72号ピット	Z17	0.25	0.22	0.15	円形
H39号ピット	AA18	0.97	0.55	0.42	楕円形	H73号ピット	Z17	0.25	0.22	0.10	円形
H40号ピット	AA17	0.41	0.35	0.32	円形	H74号ピット	Y17	0.34	0.34	0.26	円形
H41号ピット	AA17	1.05	0.66	0.46	楕円形	H75号ピット	AA17	0.42	0.40	0.22	円形
H42号ピット	Z17	0.44	0.41	0.52	円形	H76号ピット	AA17	(0.70)	(0.23)	0.55	楕円形
H43号ピット	AA17	0.31	0.28	0.54	円形	H77号ピット	AA16	0.38	0.33	0.29	楕円形
H44号ピット	AA18	0.36	0.28	0.23	楕円形	H78号ピット	AA16	0.42	0.42	0.49	方形
H45号ピット	AA18	(0.45)	(0.26)	0.28	楕円形	H79号ピット	Z16･17	0.26	0.26	0.22	円形

H80号ピット	Z17	(0.39)	(0.34)	0.12	楕円形
H82号ピット	Z17	(0.65)	(0.64)	0.19	楕円形
H83号ピット	AA18	0.44	(0.33)	0.25	楕円形
H84号ピット	AA17	0.34	(0.25)	0.43	楕円形
H85号ピット	AA17･18	0.28	0.25	0.12	楕円形
H86号ピット	AA17	(0.34)	(0.30)	0.28	楕円形
H87号ピット	AA17	0.22	0.20	0.13	円形
H88号ピット	AA17	0.21	0.20	0.08	円形
H89号ピット	AA17	0.36	0.30	0.08	楕円形
H90号ピット	Z18	(0.56)	(0.41)	0.39	楕円形
H91号ピット	Z18	0.41	0.33	0.51	楕円形
H92号ピット	Z18	0.40	(0.36)	0.33	楕円形
H94号ピット	Z17	0.33	0.28	0.22	円形
H95号ピット	Z18	0.33	(0.17)	0.34	楕円形

H96号ピット	Z18	(0.46)	(0.27)	0.32	楕円形
H97号ピット	Z18	(0.29)	(0.21)	0.24	楕円形
H98号ピット	Z18	(0.35)	(0.34)	0.39	楕円形
H99号ピット	AA16	0.29	0.25	0.51	円形
H100号ピット	AA17	0.41	0.39	0.30	円形
H101号ピット	AA17	0.65	0.57	0.15	楕円形
H102号ピット	Z17	0.50	0.47	0.17	円形
H103号ピット	AA17	0.47	(0.37)	0.43	楕円形
H104号ピット	AA17	(0.70)	0.50	0.43	楕円形
H105号ピット	Z18	0.82	(0.58)	0.31	楕円形
H106号ピット	AA17	0.54	0.42	0.55	楕円形
H107号ピット	AA17	(0.57)	0.41	0.53	楕円形
H108号ピット	AA17	0.39	0.37	0.15	円形

（５）遺物集中

Ｈ１号遺物集中（第235・255～257図、第53表、図版54－２・158－２・159－１）

ＡＡ17グリッド中央やや東寄りに位置している。東西約6.50ｍ、南北約5.50ｍの範囲に土師器坏、甕などが集中しており、接合関係も確認されたため遺物集中として扱うこととした。周辺では当該期の遺構としてピットが確認されており、その出土遺物から関係性や周辺の確認作業を行ったが遺構と判断できる掘り込みなどは検出されなかった。

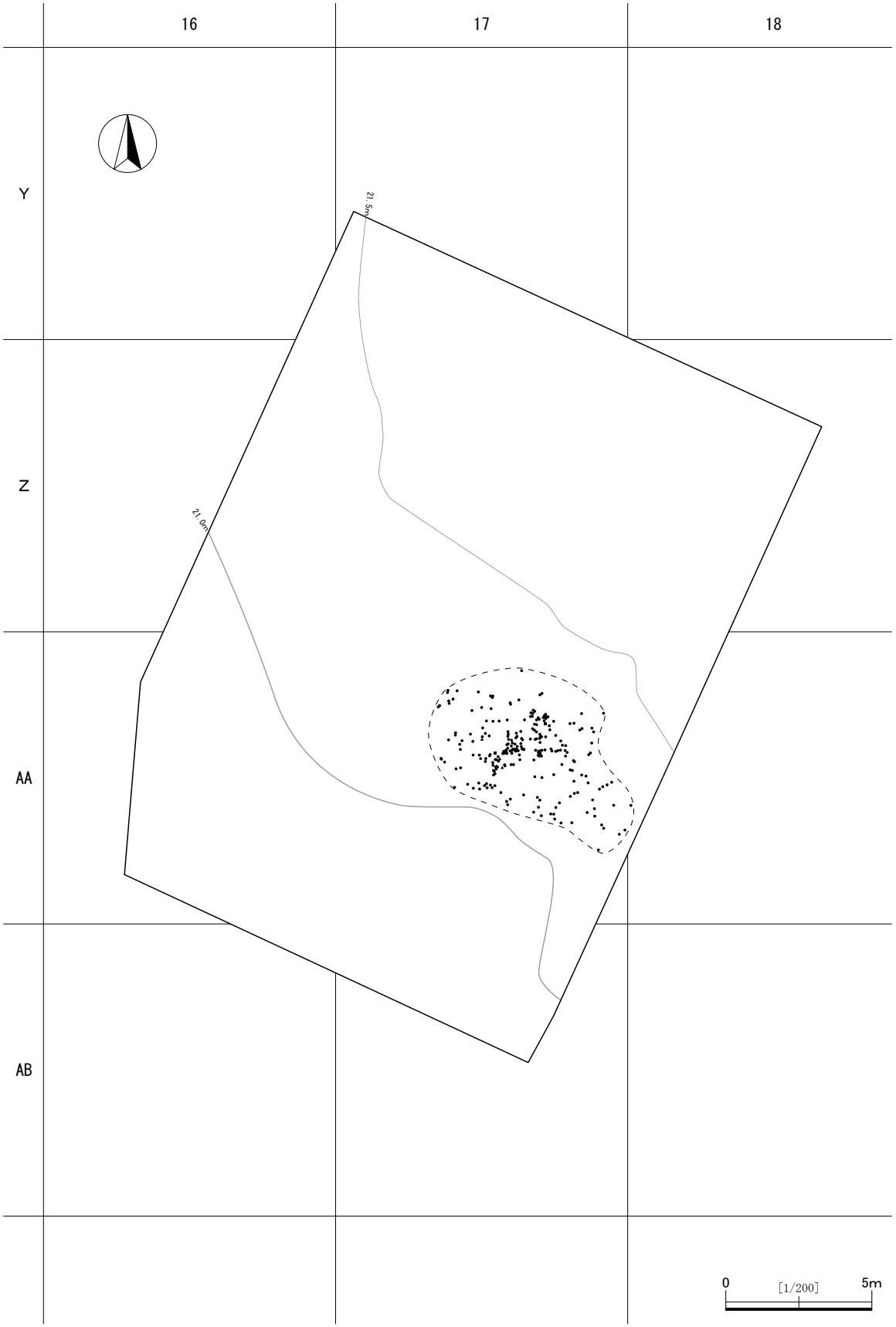
出土遺物は、土師器坏96点(1,280.0g)、土師器甕343点(3,204.1g)、須恵器坏７点(104.9g)、灰釉陶器瓶２点(64.9g)、総点数448点、総重量4,653.9gである。このうち９点を図化した。

第257図１～４は土師器坏である。口縁部及び内面はヨコナデされ、外面体部及び底部はヘラケズリされている。８世紀中頃から９世紀前半に比定される。１は口縁部が大きく歪んでいる。２は完形で内面口唇部に煤が付着している。

第257図５～７は土師器甕で木葉痕が残る底部片である。８世紀代の所産であると考えられる。

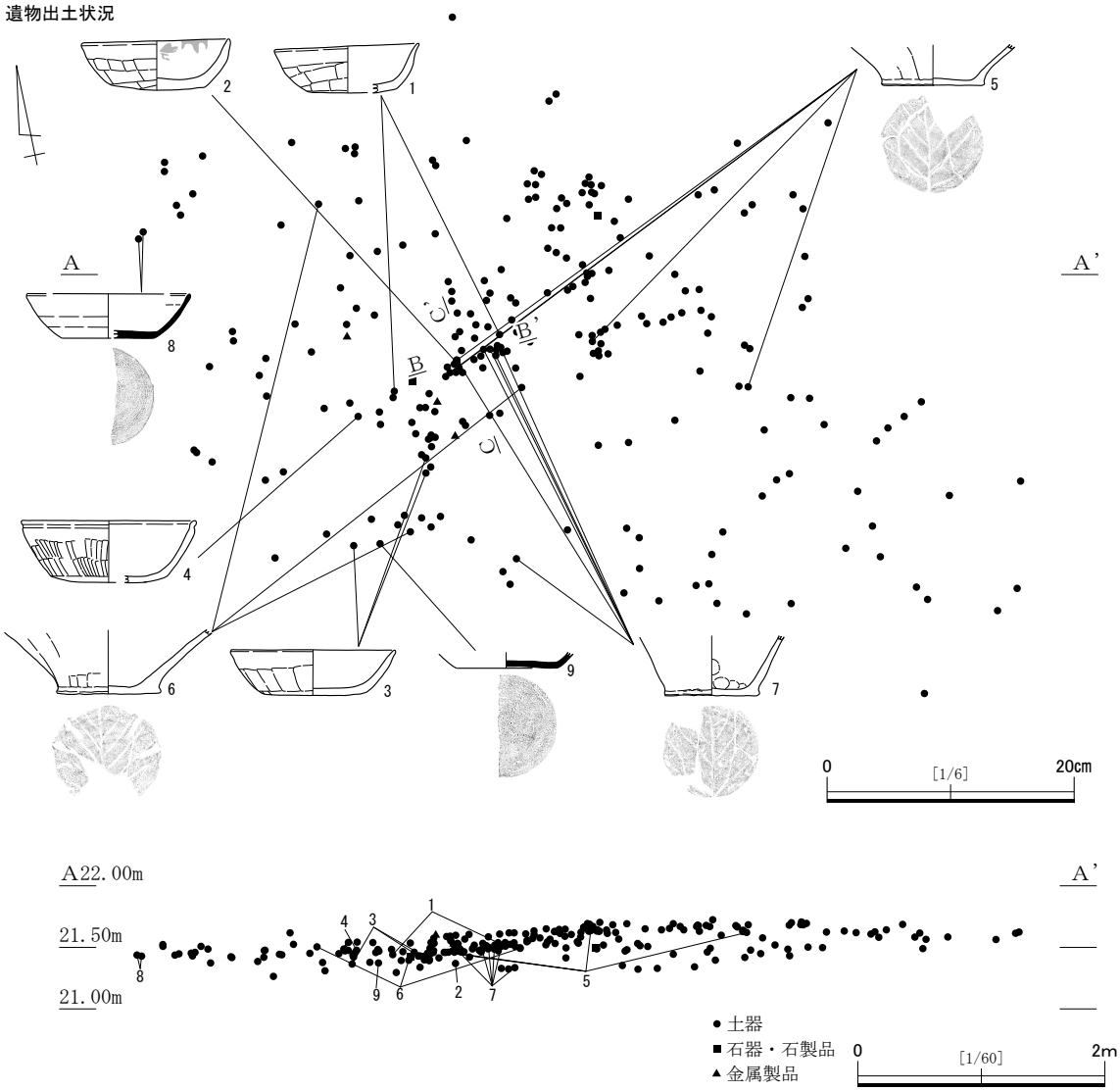
第257図８～９は須恵器坏である。南比企窯の製品で底部は外周ヘラケズリが施されている。８は火襷がみられる。

帰属時期についてはおおむね８世紀代と考えられよう

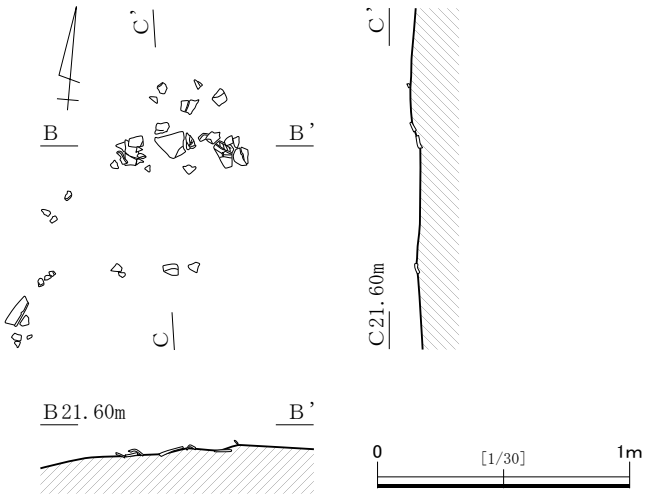


第255図　10区　Ｈ１号遺物集中位置図[1/200]

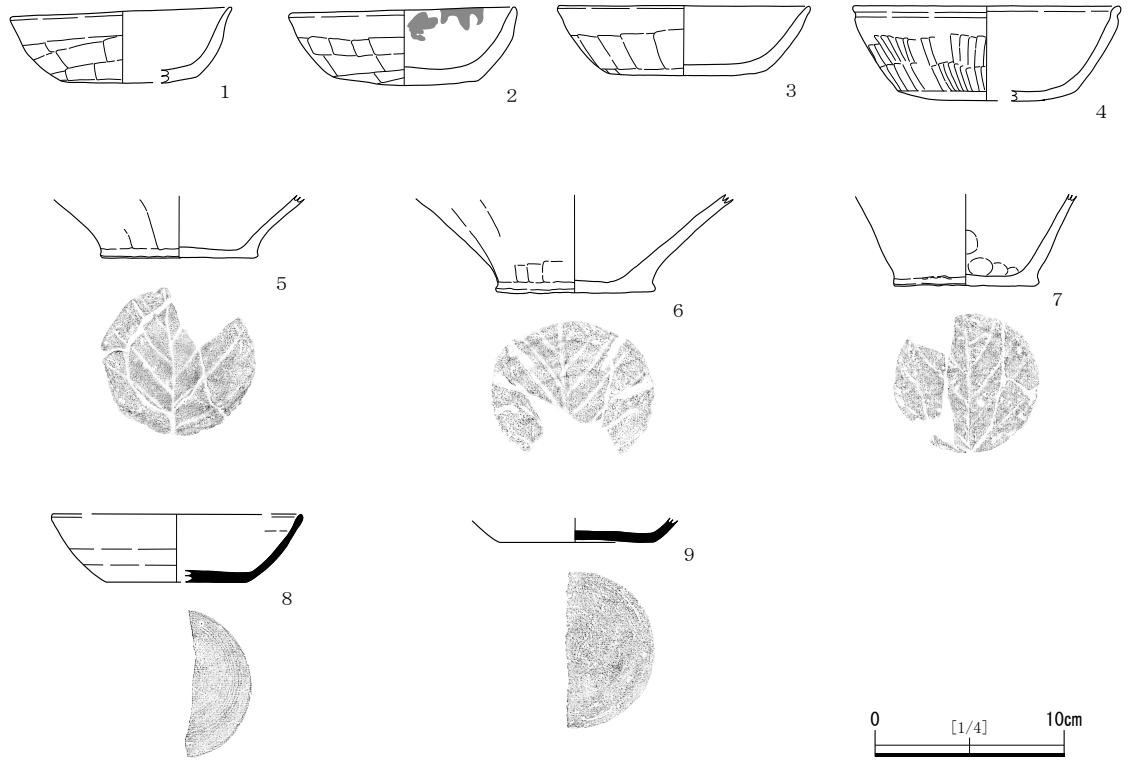
遺物出土状況



遺物微細図



第256図　10区Ｈ１号遺物集中[1/60・1/30・1/6]



第257図　10区Ｈ１号遺物集中出土遺物[1/4]

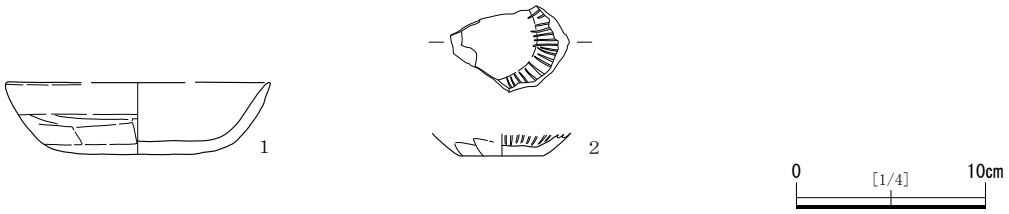
第53表　10区Ｈ１号遺物集中出土遺物観察表［第257図］

No.	器種	観察所見　　（　）＝現存値　〔　〕＝復元値
1	土師器 坏	法量(cm)：口径11.5　底径7.2　器高4.0　重量79.1g　残存度：口縁部～体部2/3　底部わずか　成形・調整：外面　口縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ　内面　ナデ　胎土：密　細砂粒　焼成：良好　色調：橙（5YR6/8）出土位置：AA17～18gr　備考：８世紀後半～９世紀前半
2	土師器 坏	法量(cm)：口径11.9　底径7.6　器高4.2　重量167.6g　残存度：完形　成形・調整：外面　口縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ　内面　ナデ　胎土：密　小礫　雲母　細砂粒　焼成：良好　色調：橙（5YR7/8）出土位置：AA17gr　備考：８世紀後半～９世紀前半　口縁内面煤付着
3	土師器 坏	法量(cm)：口径〔13.2〕　底径8.3　器高3.7　重量74.6g　残存度：口縁部～体部1/3　底部1/2弱　成形・調整：外面　口縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ　内面　ナデ　胎土：密　白色粒子　焼成：良好　色調：橙（5YR7/8）出土位置：AA17gr　備考：８世紀後半～９世紀前半
4	土師器 坏	法量(cm)：口径14.0　底径8.3〔9.4〕　器高5.0　重量74.6g　残存度：口縁部1/2　体部2/5　底部1/4　成形・調整：外面　口縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ　内面　ナデ　胎土：密　細砂粒　焼成：良好　色調：橙（5YR7/6）出土位置：AA17gr　備考：８世紀後半～９世紀前半
5	土師器 甕	法量(cm)：底径8.1　器高(3.3)　重量65.9g　残存度：底部ほぼ完存　成形・調整：外面　胴部ヘラナデ　底部木葉痕　内面　ナデ　胎土：密　角閃石　雲母　砂粒　石英　焼成：良好　色調：外橙（7.5YR7/6）～黒（7.5YR2/1）　内　橙（5YR6/6）出土位置：AA17gr　備考：８世紀代
6	土師器 甕	法量(cm)：底径8.5　器高(5.2)　重量136.6g　残存度：底部4/5　胴部破片　成形・調整：外面　胴部ヘラナデ　底部木葉痕　内面　ナデ　胎土：密　スコリア　雲母　細砂粒　焼成：良好　色調：外　橙（5YR6/6）　内　にぶい橙（7.5YR7/3）出土位置：AA17gr　備考：８世紀代
7	土師器 甕	法量(cm)：底径7.5　器高(4.9)　重量101.7g　残存度：底部ほぼ完存　成形・調整：外面　胴部ヘラナデ　底部木葉痕　内面　ナデ　指頭痕　胎土：密　角閃石　雲母　細砂粒　焼成：良好　色調：外　褐（7.5YR4/4）～黒褐（7.5YR3/11）　内　橙（7.5YR6/6）出土位置：AA17gr　備考：８世紀代
8	須恵器 坏	法量(cm)：口径〔13.1〕　底径〔7.5〕　器高3.6　重量42.2g　残存度：口縁部1/9　体部1/4　底部1/2弱　成形・調整：内外面回転ナデ　底部回転糸切り後回転ヘラケズリ　胎土：密　白色針状物質　細砂粒　焼成：良好　色調：褐灰（10YR4/1）出土位置：AA17gr　備考：８世紀後半～９世紀前半　南比企　内外面火襷
9	須恵器 坏	法量(cm)：底径8.0　器高(1.3)　重量33.8g　残存度：底部1/2　成形・調整：内外面回転ナデ　底部回転糸切り後回転ヘラケズリ　胎土：密　白色針状物質　白色粒子　焼成：良好　色調：灰（5Y5/1）出土位置：AA17gr　備考：８世紀後半～９世紀前半　南比企

（８）遺構外出土遺物（第258図、第53表、図版159－１）

奈良・平安時代の遺構外出土遺物は、土師器坏353点(1,822.5g)、土師器甕1,436点(6,636.2g)、須恵器坏50点(247.2g)、須恵器蓋６点(82.2g)、須恵器甕52点(727.8g)、須恵器瓶12点(146.5g)、灰釉陶器碗４点(8.４ｇ)、総点数1,913点、総重量9,670.8gである。このうち２点を図化した。

第258図１は相模型土師器坏である。口縁部及び内面はヨコナデされ、外面体部及び底部はヘラケズリされている。９世紀前半の製品と考えられる。２は甲斐型坏の底部片である。内外面とも剥離がみられるが、外面体部下半はヘラケズリ、内面体部は縦方向の暗文が施され、見込みにはない。底径は小さく９世紀後半の製品である。



第258図　10区奈良・平安時代遺構外出土遺物[1/4]

第54表　10区奈良・平安時代遺構外出土遺物観察表［第258図］

No.	器種	観察所見　　（　）＝現存値　〔　〕＝復元値
1	土師器坏	法量(cm)：口径〔13.8〕　底径7.7　器高3.8　重量57.4g　残存度：口縁部1/5　体部1/4　成形・調整：外面　口縁部ヨコナデ　体部ヘラケズリ　内面　ナデ　胎土：やや粗　小礫　角閃石　石英　焼成：良好　色調：橙（5YR7/8）出土位置：AA18gr　備考：９世紀前半
2	土師器坏	法量(cm)：底径〔4.4〕　器高（2.2）　重量16.4g　残存度：底部1/3　成形・調整：外面　体部ヘラケズリ　内面　放射状暗文　胎土：密　白色粒子　雲母　角閃石　焼成：良好　色調：明赤褐色（5YR5/8）出土位置：Z16・17gr　備考：甲斐型　９世紀後半

４．弥生時代後期～古墳時代前期

10区における弥生時代後期～古墳時代前期の遺構は確認されていない。

遺物は壺が出土している。ＡＡ17、ＡＢ16グリッドの弥生時代後期～古墳時代前期の包含層にあたる第Ⅷ層～第Ⅸ層から発見された。

（１）遺構外出土遺物

弥生時代後期～古墳時代前期の遺構外出土遺物は壺２点(29.３ｇ)である。小片のため図化していない。壺は胴部片で外面にわずかに赤彩が残る。

５．縄文時代

（１）遺構外出土遺物（第259・260図、第55表）

10区は、富岡丘陵から字林台へ続く台地の南側に広がる谷戸際に位置する。地形は北東から南西に向かって傾斜し、西に谷戸が入り込んでいる。縄文時代に属する遺構は無いが、遺構外から遺物が出土している。

遺構外出土土器

10区の遺構外から該期土器が６点（71.５ｇ）出土している。その時期別内訳は、前期後葉の諸磯式土器が1点（13.３ｇ）、中期中葉の勝坂式土器が１点（18.４ｇ）、型式判別不明の無文土器で胎土に繊維を含まない土器4点（39.８ｇ）となっている。このうち2点を第259図に掲載した。該期土器の分類は、第Ⅲ編の東富岡・中島遺跡で示した基準に基づいている。

第Ⅱ群土器　前期の土器

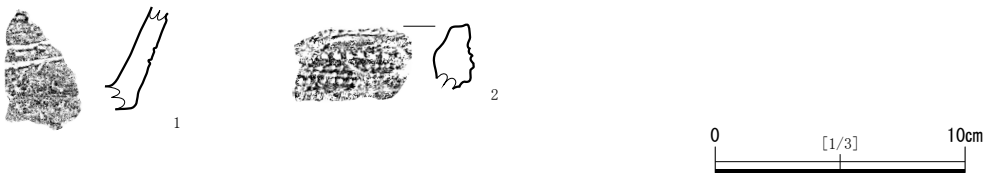
第１類土器　前期後葉の諸磯式土器（第259図１、図版159－２）

第259図１は底部から底部直上で半截竹管による横位の平行沈線文を施文する。胎土は長石、砂粒、小礫を多く含み、色調は明赤褐色を呈す。諸磯式ｂ式土器と考えられる。

第Ⅲ群土器　中期の土器

第２類土器　中期中葉の勝坂式土器（第259図２、図版159－２）

第259図２は中期前葉の勝坂１式土器新段階（新道式土器併行）に帰属する資料と考える。口縁部はやや外反気味に立ち上がり、口唇部は角頭状である。口縁に沿って隆帯が巡り両脇を角押、押引文を施し、隆帯上に縦列に角押文を押し当て施文される。内面は丁寧なミガキを施し、胎土は細かい石英、長石、砂粒を多く含む。色調は明赤褐色を呈す。



第259図　10区縄文時代遺構外出土土器［1/3］

遺構外出土石器（第260図、第55表、図版159－２）

10区の遺構外から出土した石器は、２種計３点（182.１ｇ）で、内訳は打製石斧２点（180.６ｇ）、剝片１点（1.５ｇ）である（第55表）。

遺構外石器３点の分布は、出土位置を判定できなかった一括資料を除くと西側に偏在する。

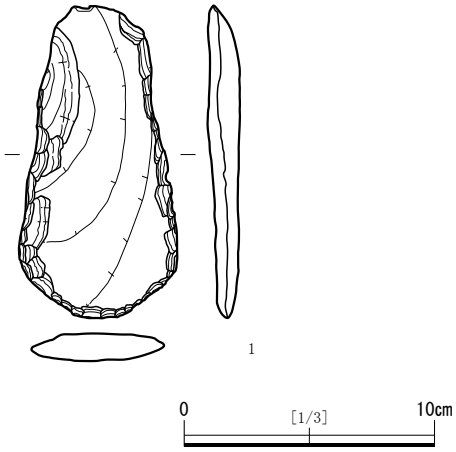
このうち１点を図示した。以下、器種毎に記載する。

打製石斧（第260図１）

２点（一括・Ｚ－16グリッド）出土している。２点の内訳は基部の一部を調査時に破損するもの（第260図１）と刃部を欠損するもので、石材はともにホルンフェルスである。第260図１はホルンフェルス製の打製石斧で、平面形は撥形を呈する。素材剝片時の主要剝離面を表面、礫面を裏面としたが、器体全体に風化が著しく剝落がみられる。

剝片

ＡＡ－17グリッドで１点出土している。石材は黒曜石で、上部を欠損するが、背稜部がみとめられることから作業面の形成過程で生じたものと考えられる。



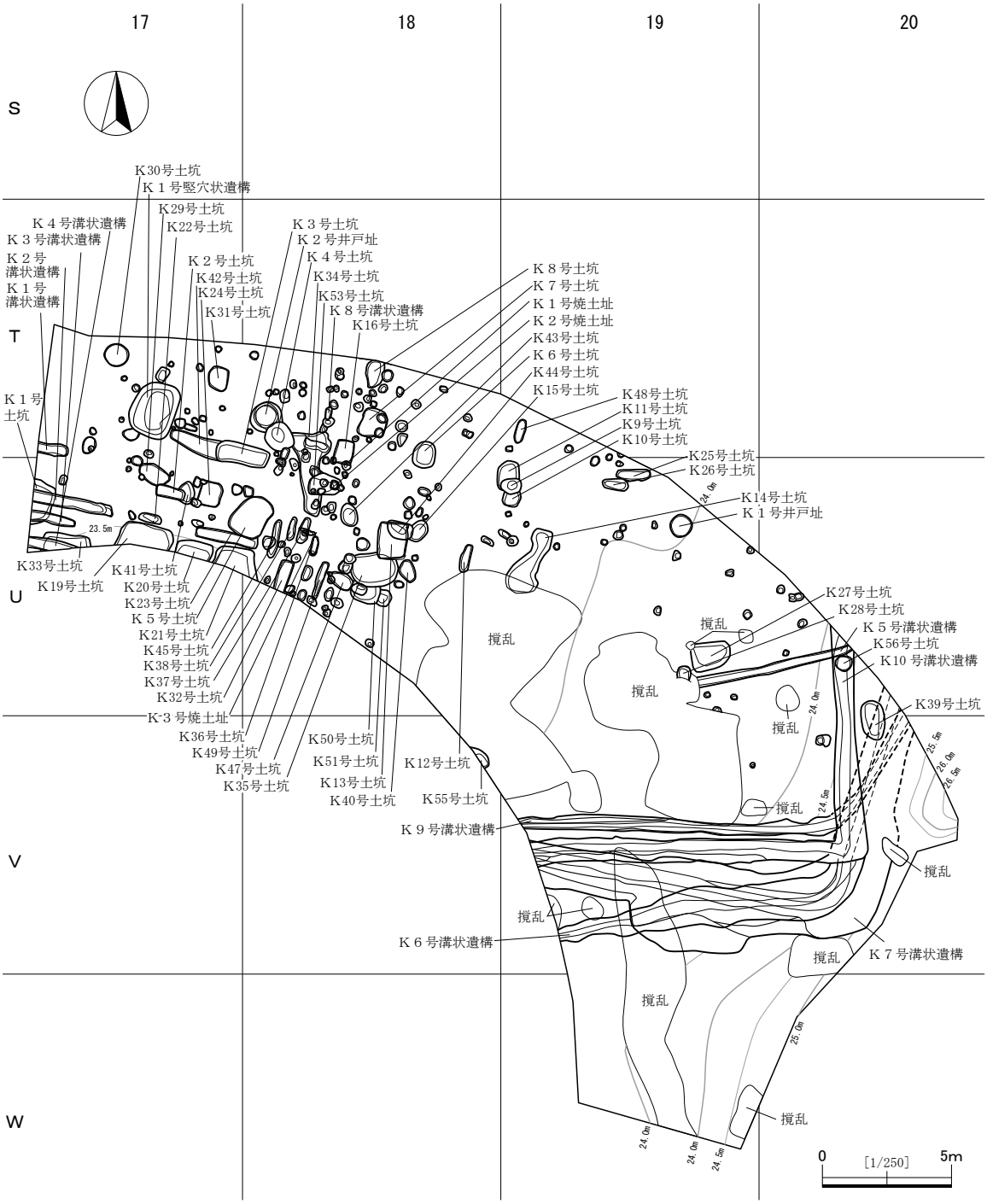
第260図　10区縄文時代遺構外出土石器［1/3］

第55表　10区縄文時代遺構外出土石器属性表［第260図］

挿図番号	器種名	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	出土遺構・Gr	備 考
1	打製石斧	ホルンフェルス	12.5	6.3	1.3	123.6	10区	
	剝片	黒曜石	(2.4)	(1.3)	0.7	1.5	AA17Gr	
	打製石斧	ホルンフェルス	(8.2)	5.1	1.1	57.0	Z16Gr	

第２節　13区

１．近　世



第261図　13区　近世遺構配置図[1/250]

13区で発見された近世の遺構は竪穴状遺構１基、溝状遺構10条、井戸址２基、土坑51基、ピット153基である。調査区西側では基本土層第Ⅳ層上面で確認している。

本地区は台地南側の裾部に位置している。地形は東から西に向かって傾斜している。東側及び南東側はローム層まで削平されており、調査区中央から南東側の広い範囲が撹乱を受けていたが、遺構や遺物が多数発見された。

遺構は南西側と北東側に分布している。検出された遺構から耕作地として活用していることが伺える。

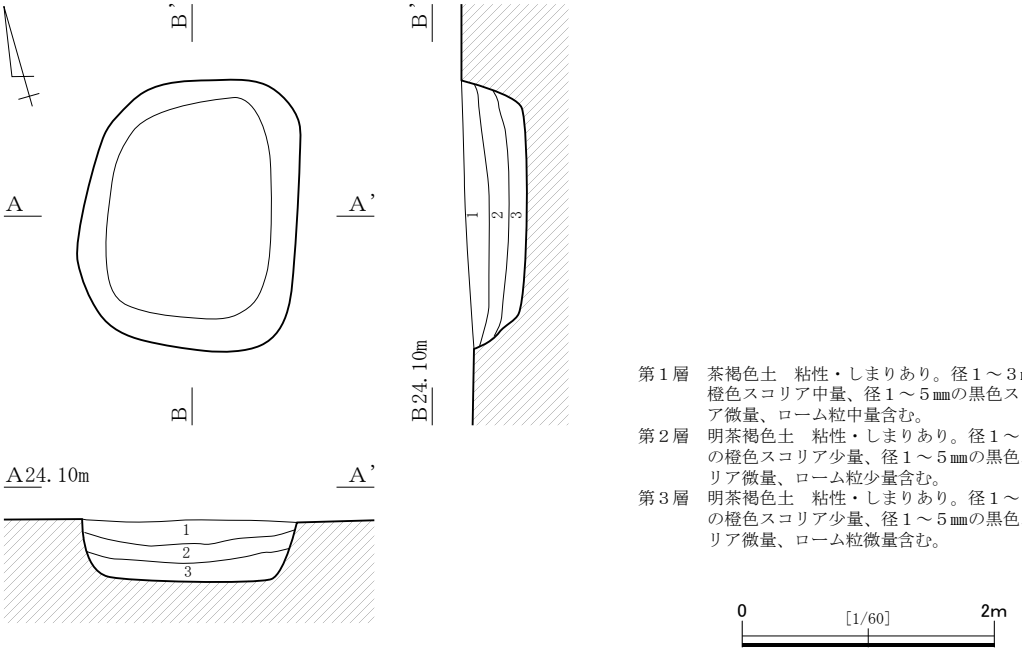
近世の出土遺物は、磁器碗33点(251.4ｇ)、磁器皿４点(569.8ｇ)、磁器小杯５点(34.7ｇ)、磁器仏飯器１点(99.9ｇ)、磁器瓶類１点(5.4ｇ)、磁器鉢１点(2.0ｇ)、磁器徳利１点(0.8ｇ)、磁器段重蓋１点(4.5ｇ)、陶器碗14点(99.9ｇ)、陶器皿14点(179.2ｇ)、陶器燈明皿１点(81.5ｇ)、陶器香炉２点(70.4ｇ)、陶器擂鉢７点(219.8ｇ)、陶器鉢７点(322.4ｇ)、陶器徳利１点(32.5ｇ)、陶器瓶類２点(15.2ｇ)、陶器器形不明１点(4.0ｇ)、土製品(鞴の羽口・七輪)２点(96.0ｇ)、金属製品(刀子・鍋・煙管・釘)４点(38.5ｇ)、石製品(火打石１点・砥石３点、軽石１点、不明石製品１点)６点217.2ｇ、鉄滓７点(788.5ｇ)である。なお、鉄滓については出土状況等から確実に中世の所産と判別出来るものはなかったため、近世の項で一括して表記した。総点数115点、総重量3,066.9ｇである。

(１) 竪穴状遺構

Ｋ１号竪穴状遺構(第261・262図、図版57－１)

Ｔ17グリッド南東寄りで発見された。検出面の標高は23.83ｍである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はＮ－21°－Ｅを示す。検出規模は長軸2.08ｍ、短軸1.64ｍで、確認面からの深さは0.50ｍ、底面は平坦で、断面形は箱形に近い。

覆土は第１層が茶褐色土、第２、３層が明茶褐色土に分層される。



第262図　13区Ｋ１号竪穴状遺構[1/60]

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

（２）溝状遺構

Ｋ１号溝状遺構（第261・263図、図版57－２）

Ｔ17グリッド南端で発見された。主軸方位はＮ－82°－Ｗを示し、西側は調査区外へ延伸する。南側約1.45ｍにＫ２号溝状遺構、北東約2.60ｍにＫ１号竪穴状遺構が確認されている。検出面の標高は23.73ｍである。検出規模は全長1.16ｍ、約0.48ｍ、確認面からの深さは0.13ｍを測る。断面形は碗形を呈している。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ２号溝状遺構（第261・263図、図版58－１）

Ｕ17グリッドやや北西寄りで発見された。主軸方位はＮ－78°－Ｗを示し、西側は調査区外へ延伸する。北側約1.40ｍにＫ１号溝状遺構、南側約0.30ｍにＫ３号溝状遺構が確認されている。検出面の標高は23.57ｍである。検出規模は全長3.08ｍ、幅0.44ｍ、確認面からの深さは0.29ｍを測る。断面形は碗形を呈している。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ３号溝状遺構（第261・263図、図版58－１）

Ｕ17グリッド北西寄りで発見された。主軸方位はＮ－78°－Ｗを示し、西側は調査区外へ延伸する。北側約0.30ｍにＫ２号溝状遺構、南側約0.57ｍにＫ４号溝状遺構が確認されている。検出面の標高は23.57ｍである。検出規模は全長1.64ｍ以上、幅0.36ｍ、確認面からの深さは0.36ｍを測る。断面形はＵ字状を呈している。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

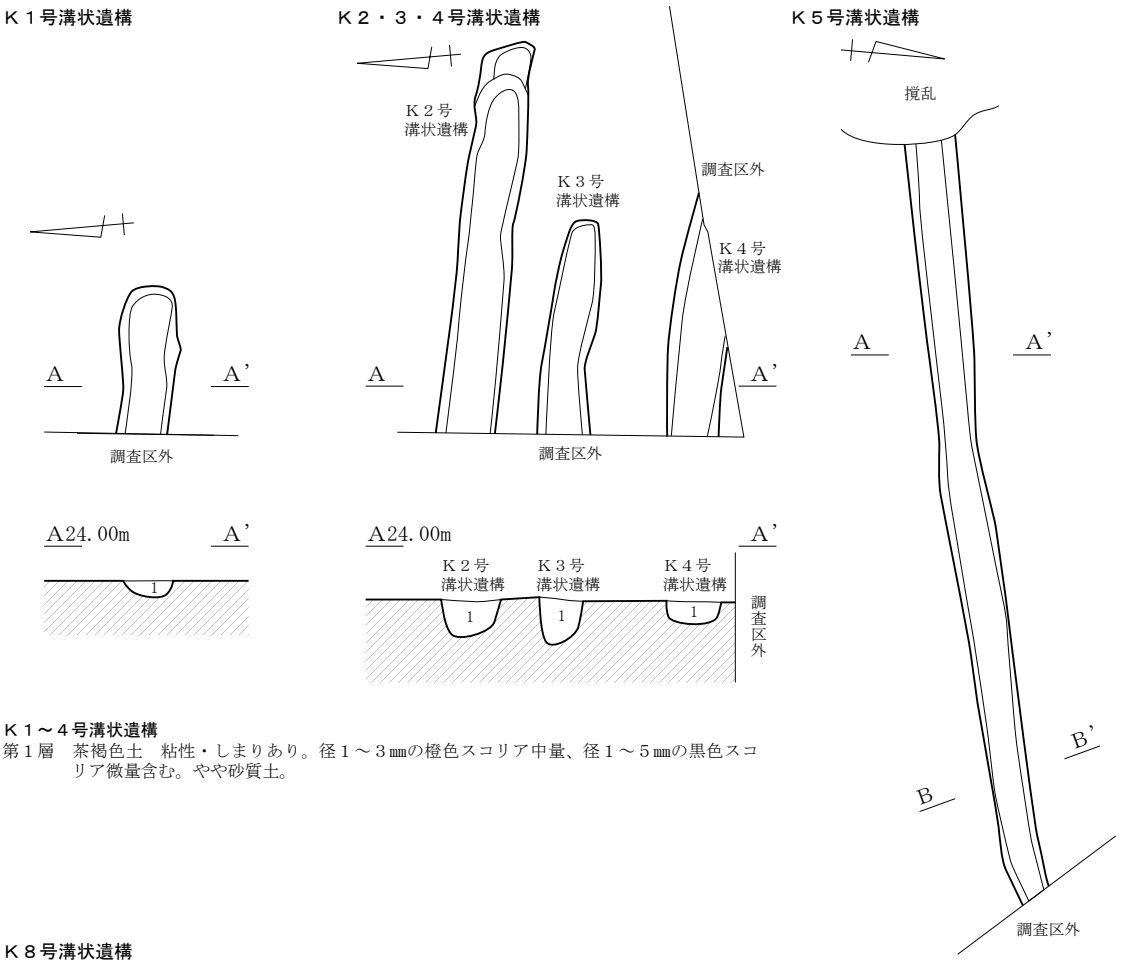
Ｋ４号溝状遺構（第261・263図、図版58－１）

Ｕ17グリッド北西寄りで発見された。主軸方位はＮ－79°－Ｗを示し、両端は調査区外へ延伸する。北側約0.57ｍにＫ３号溝状遺構が確認されている。検出面の標高は23.57ｍである。検出規模は全長1.68ｍ、幅0.42ｍ、確認面からの深さは0.16ｍを測る。断面形は箱形を呈している。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。



Ｋ１～４号溝状遺構
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。やや砂質土。

第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、焼土粒微量、ローム粒微量含む。

第１層　茶褐色土　粘性・しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、炭化物粒微量、ローム粒微量、暗茶褐色土ブロック微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、焼土粒微量、ローム粒微量含む。

● 土器

0　[1/60]　2m

第263図　13区Ｋ１～５・８号溝状遺構[1/60]

また、Ｋ１～４号溝状遺構はほぼ同じ主軸方位、覆土、確認面の高さや長さなどから、同一時期の耕作跡と考えられる。

Ｋ５号溝状遺構（第261・263図）

Ｕ19～20グリッド南側で発見された。主軸方位はＮ－77°－Ｅを示し、西側は攪乱に切られ、東側は調査区外へ延伸する。検出面の標高は24.20～24.30ｍである。検出規模は全長6.10ｍ、幅0.40ｍ、確認面からの深さは0.10～0.25ｍを測る。断面形は碗形を呈している。

覆土は茶褐色土で２層に分層され、第２層は粘性・しまりがある。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ６号溝状遺構（第261・264・265図、第56表、図版58－２・160）

Ｖ19・20グリッドで発見された。Ｋ10号溝状遺構に切られる北側からわずかに南へ向かい、直角に近い角度で西へ向きを変え、西側調査区外へ延伸する。検出面の標高は西側が撹乱により上端が削られ低くなっており、24.02ｍ、中央部分は24.23ｍである。検出規模は南北方向0.80ｍ、東西方向11.00ｍである。幅は東側が1.56ｍ、西側は上部を攪乱され0.85ｍと狭い。確認面からの深さは西側が0.35ｍ、東側が0.65ｍを測るが底面の標高は同一である。断面形は底面が狭い逆台形を呈している。

覆土は宝永スコリアを含む層で４層に分層される。

遺物は、磁器碗５点（83.2ｇ）、磁器皿１点（549.3ｇ）、磁器仏飯器１点（99.9ｇ）、陶器碗３点（19.7ｇ）、陶器皿２点（63.8ｇ）、陶器燈明皿２点（81.5ｇ）、陶器擂鉢３点（135.6ｇ）、土器鞴羽口１点（71.5ｇ）、総計17点、総重量1,104.5ｇである。そのうち５点を図化した。

第265図１は肥前産磁器皿である。口縁部～体部は3/4、底部は完存する。内外面及び高台内は明緑灰色青磁釉が施され、削り出された低い高台は錆釉が確認される。見込みには圏線とその中に牡丹の文様が印刻されている。17世紀後半の所産である。２は肥前産白磁碗である。体部1/2、高台部1/3が残存し、口縁部は欠損している。17世紀後半～18世紀の所産である。３は肥前産磁器染付仏飯器である。口縁部～体部は1/4､脚部は完存している。口縁部に１ヶ所､呉須による草文が染め付けられている。18世紀の所産である。

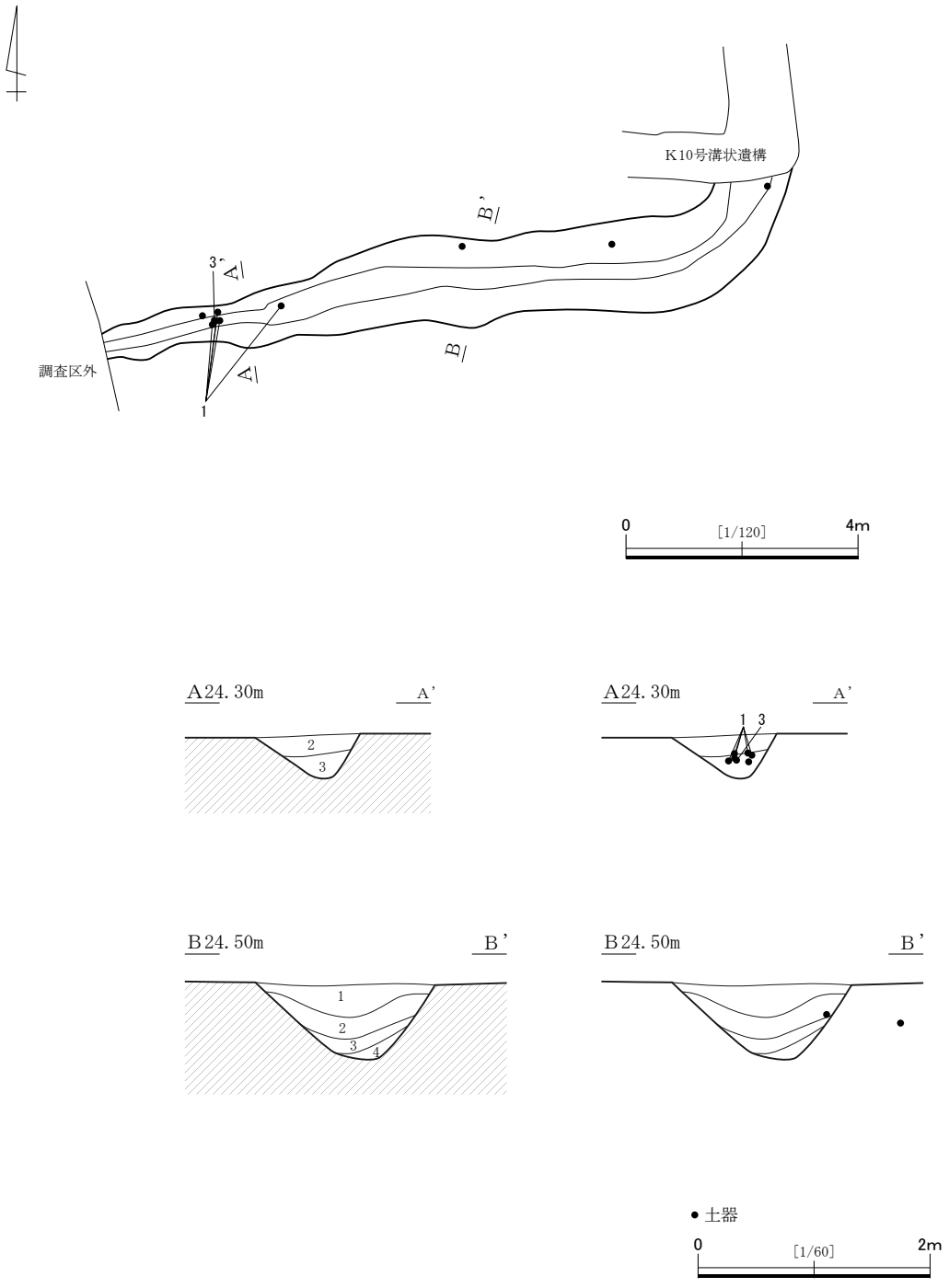
第265図４は志戸呂産鉄釉灯明皿である。ほぼ完形で､口唇部には芯を受ける部分が貼り付けられている。16世紀以降の所産である。

第265図５は土製品鞴の羽口の一部である。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から宝永火山灰降下後に埋まった近世と考えられる。

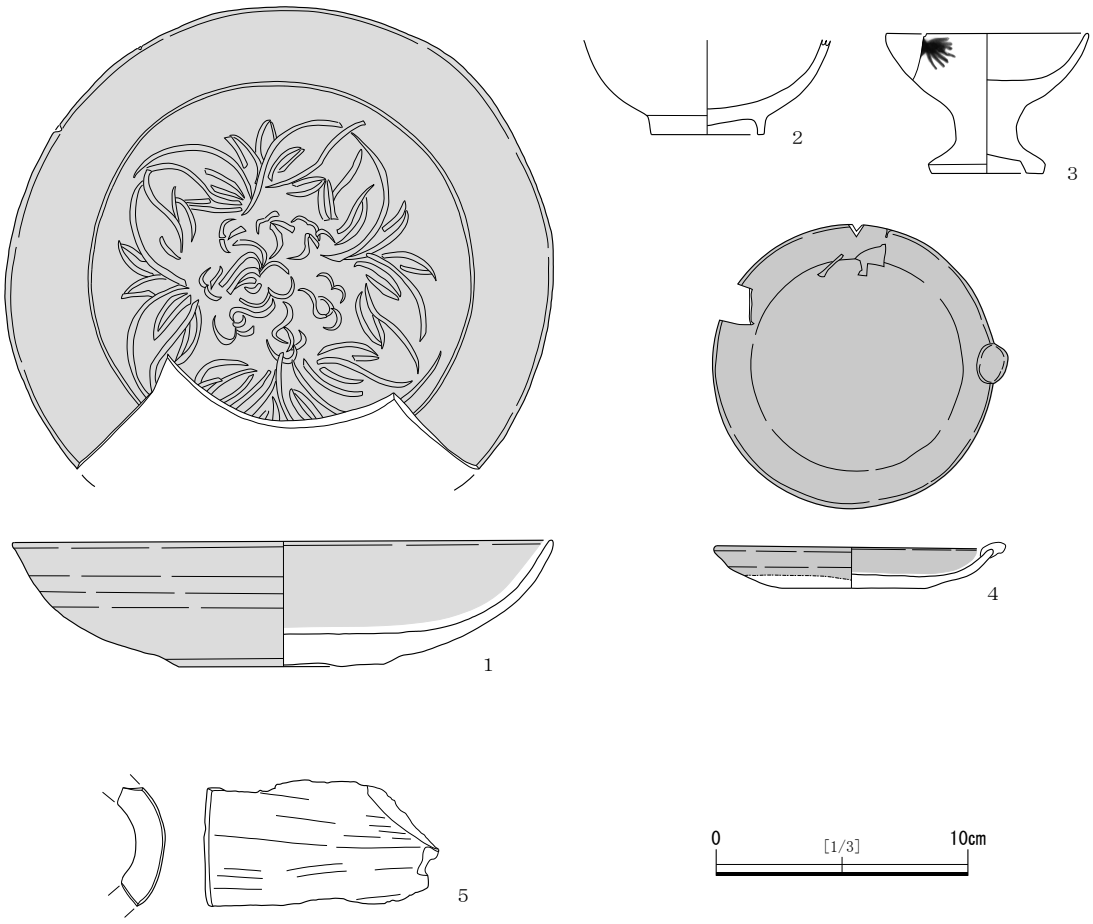
Ｋ７号溝状遺構（第261・266・267図、第57表、図版160）

Ｖ19・20グリッド南側で発見された。。Ｋ10号溝状遺構に切られる北側からわずかに南へ向かい、直角に近い角度で西へ向きを変え、西側調査区外へ延伸する。Ｋ６号溝状遺構とほぼ重なっている。北側はローム層まで削平を受けているため消失しているが、壁面に断面が確認されており、Ｋ９号溝状遺構に切られながら調査区外へ延伸することが判明した。検出面の標高は西側が撹乱により上端が削られ低くなっており、約24.03ｍ、中央部分は24.52ｍである。検出規模は南北方向1.70ｍ、東西方向11.80ｍである。北



第１層　暗褐色土　　粘性・しまりやや弱い。宝永スコリア中量含む。
第２層　黒褐色土　　粘性・しまりなし。細粒の宝永スコリア主体。
第３層　灰褐色土　　粘性・しまりなし。粗粒の宝永スコリア主体。
第４層　明茶褐色土　粘性あり、しまりやや弱い。宝永スコリア少量含む。

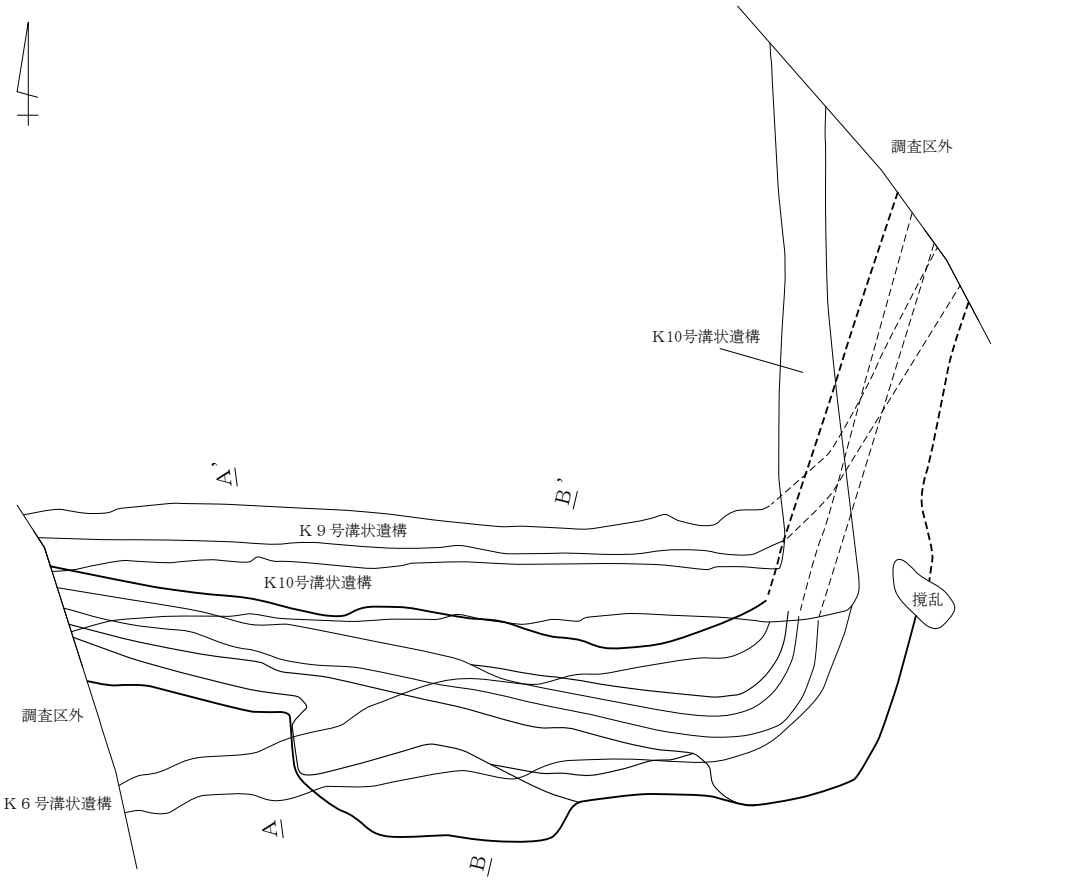
第264図　13区Ｋ６号溝状遺構[1/120・1/60]



第265図　13区Ｋ６号溝状遺構出土遺物[1/3]

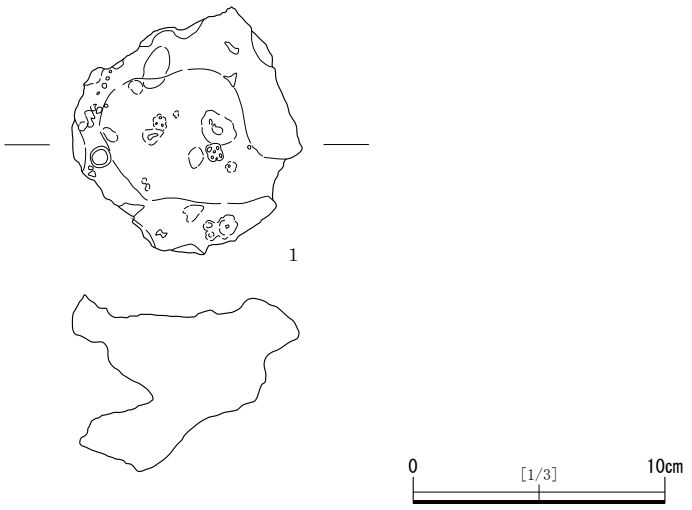
第56表　13区Ｋ６号溝状遺構出土遺物観察表［第265図］

No.	器種	種別	()＝現存値 〔〕＝復元値 口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	残存度	産地	時期	観察内容
1	青磁釉皿	磁器	21.3	6.5	4.0	549.3	口縁部～体部3/4・底部完存	肥前	17世紀後半	素地 灰白色、緻密 焼成 堅緻 釉薬 明緑灰色青磁釉 備考 見込に牡丹の文様、底部に錆化粧
2	白磁碗	磁器	—	〔4.2〕	(3.3)	67.1	体部1/2・高台1/3	肥前	17世紀後半～18世紀	素地 灰白色、緻密 焼成 堅緻 釉薬 淡灰色白磁
3	染付仏飯碗	磁器	〔7.9〕	3.7	6.6	99.9	口縁部～体部1/4・脚部～底部完存	肥前	18世紀	素地 灰白色、緻密、黒色粒を含む 焼成 堅緻 釉薬 呉須・透明釉 文様 草文
4	鉄釉灯明皿	陶器	10.9	5.7	1.8	81.5	ほぼ完形・口縁部2ヶ所欠損	志戸呂	16世紀以降	胎土 橙色、密、白色粒子を含む 焼成 良好 釉薬 赤褐色鉄釉 備考 釉薬つけ掛け
No.	種別	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存度	産地	年代	観察内容
5	鞴羽口	土製品	(9.2)	(4.8)	(1.3)	71.5	不明	在地	近世	胎土 灰褐色、密黒色粒子・白色粒子を含む



第１層　暗茶褐色土　粘性やや強い、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。
第２層　茶褐色土　粘性やや強い、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、ローム粒少量含む。
第３層　明茶褐色土　粘性やや強い、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、ローム粒中量含む。

第266図　13区Ｋ７号溝状遺構[1/120・1/60]



第267図　13区Ｋ７号溝状遺構出土遺物[1/3]

第57表　13区Ｋ７号溝状遺構出土遺物観察表［第267図］

No.	種別	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	観察内容
1	椀型滓	鉄	9.8	9.0	6.3	485.4	備考 器面発泡

側はローム層まで削平を受けており、平面は確認できなかったが、北東壁に覆土が確認でき方向を推定することができた。幅はコーナー部分で南側の上端が大きく膨らみ2.30 ～ 3.50ｍ、西へ進む部分は1.63ｍを測る。確認面からの深さは西側が1.15ｍ、東側が0.75ｍを測る。断面形は西側に段をもつ逆台形を呈している。

覆土は茶褐色土を主体に第１層は暗茶褐色土、第３層は明茶褐色土と３層に分層される。

遺物は鉄滓１点（485.4ｇ）が出土した。そのうち１点を図化した。

第267図１は碗型滓である。器面は発泡している。

遺構の時期はＫ６号溝状遺構に切られており、覆土の宝永火山灰が含まれていないことから、宝永火山灰降下する以前に埋まった近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ８号溝状遺構（第261・263図）

Ｔ18グリッド南西寄りで発見された。主軸方位はＮ－18°－Ｅを示す。中央はＫ183号ピットに切られている。検出面の標高は約23.85ｍである。検出規模は全長1.05ｍ、幅0.24ｍ、確認面からの深さは0.28ｍを測る。断面形はＵ字状を呈している。

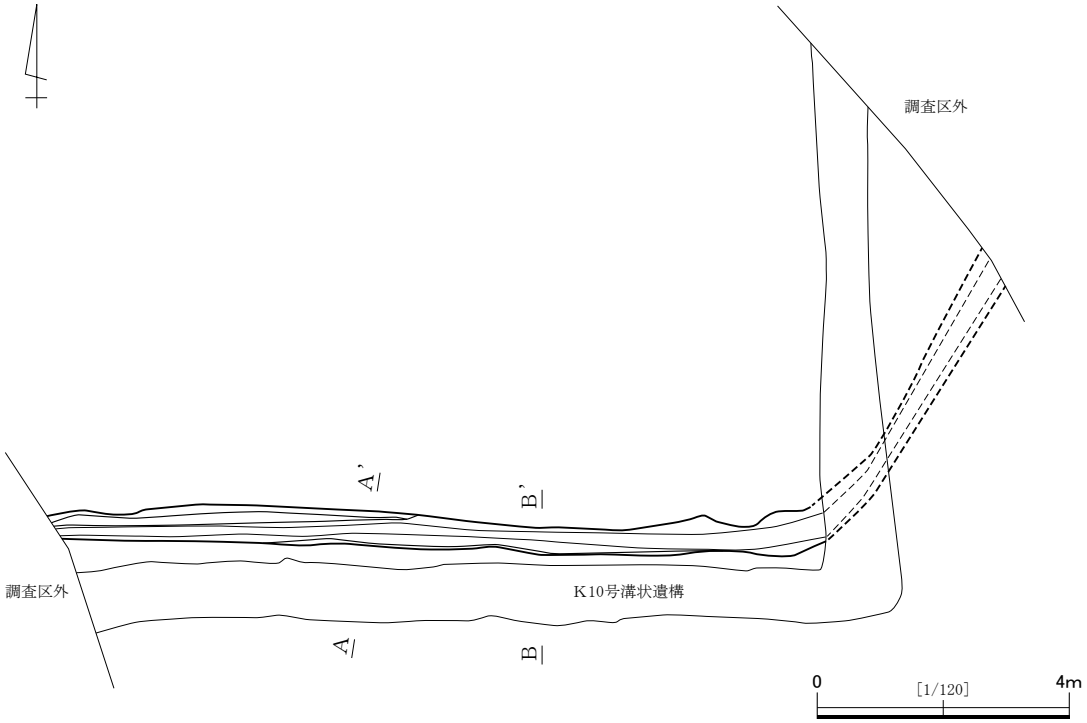
覆土は褐色土の単層である。

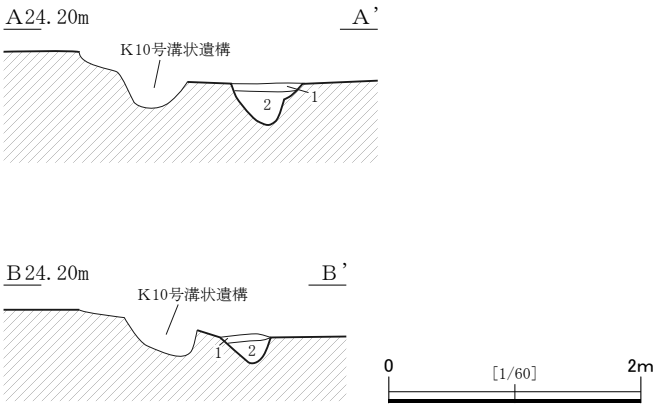
遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ９号溝状遺構（第261・268・269図、第58表、図版58－２・160）

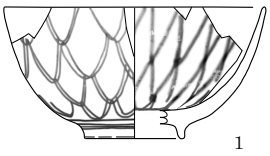
Ｖ19・20グリッド中央で発見された。確認された範囲では主軸方位はＮ－90°－Ｅを示し、西端は調査区外へ延伸する。北東側はローム層まで削平を受けているため消失しているが壁面に断面が確認されており、向きを北東に変え調査区外へ延伸することが判明した。検出面の標高は23.79～23.81ｍである。検出

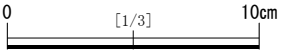




第１層　茶褐色土　粘性・しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりやや弱い径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

第268図　13区Ｋ９号溝状遺構[1/120・1/60]





第269図　13区Ｋ９号溝状遺構出土遺物[1/3]

第58表　13区Ｋ９号溝状遺構出土遺物観察表［第269図］

No.	器種	種別	()＝現存値〔〕＝復元値			重量(g)	残存度	産地	時期	観察内容
			口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)					
1	染付丸形碗	磁器	〔10.3〕	〔3.7〕	5.2	31.7	口縁部わずかに残る・体部1/4・底部わずかに残る	肥前	18世紀	素地 灰白色、緻密 焼成 堅緻 釉薬 呉須・透明釉 文様 内面一重網目文見込二重圏線内菊花文か、外面二重網目文・高台際一重圏線・高台二重圏線

規模は確認できる東西方向が12.10ｍ、幅0.42 ～ 0.70ｍ、確認面からの深さは0.24 ～ 0.33ｍを測る。断面形は碗形を呈している。

覆土は茶褐色土で２層に分層される。

遺物は肥前産磁器碗１点(31.7ｇ)が出土し、図化した。

第269図１は肥前産磁器染付丸形碗である。口縁部はわずか、体部1/4、底部はわずかに残存する。外面は二重網目文、高台際に二重圏線、内面は一重網目文、見込みに二重圏線とその中に菊花文と思われる文様が呉須により染め付けられている。18世紀の所産である。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から18世紀と考えられる。

Ｋ10号溝状遺構（第261・270・271図、第59表、図版58－２・160）

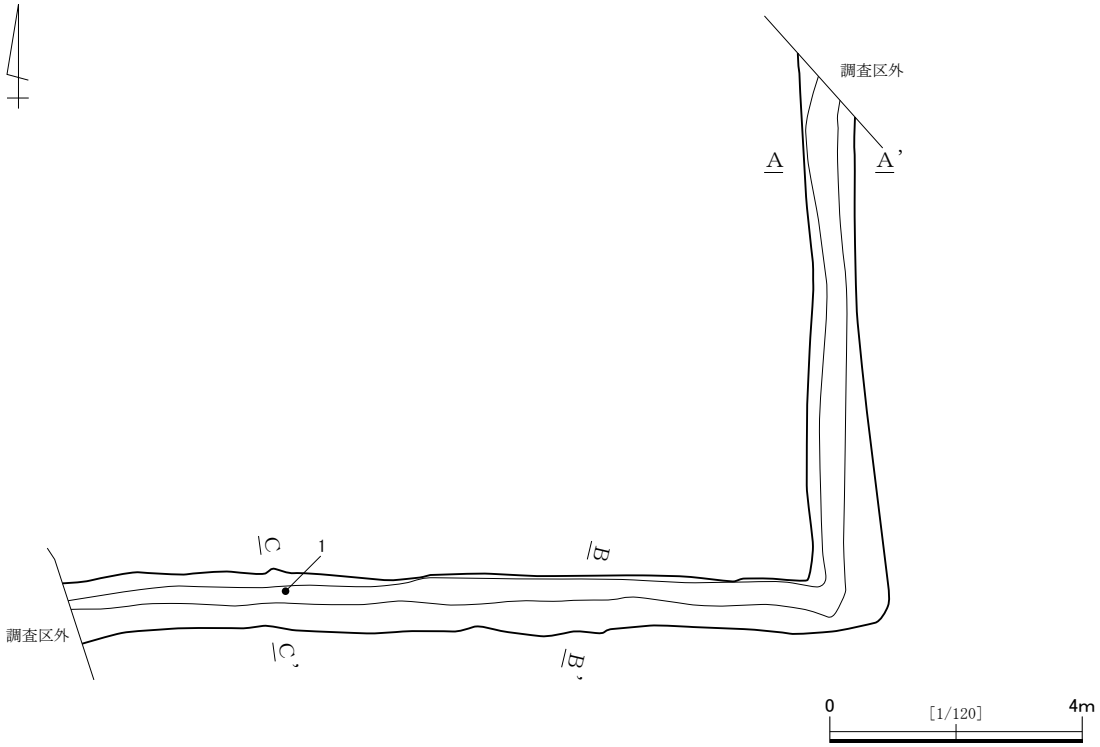
Ｖ19・20、Ｕ20グリッドで発見された。北側調査区端から南に延び、直角に近い角度で西へ向きを変え西側調査区外へ延伸する。検出面の標高は24.05 ～ 24.35ｍである。検出規模は南北方向8.10ｍ、東西方向12.18ｍである。確認面からの深さは0.25 ～ 0.53ｍを測る。断面形は逆台形及び碗形を呈している。

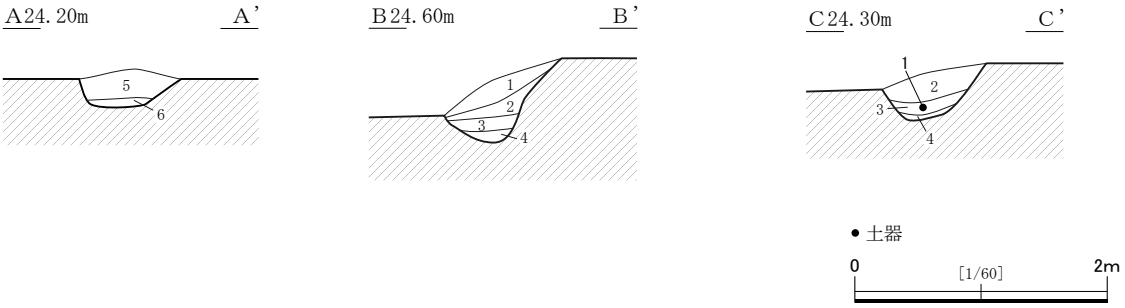
覆土は第１～４層は宝永スコリア主体の茶褐色土、第５～６層は宝永宝永スコリア層で６層に分層される。

遺物は肥前産磁器碗２点(48.8ｇ)、砥石と思われる石製品１点(103.0ｇ)が出土し、総点数３点、総重量151.8ｇそのうち２点を図化した。

第271図１・２は肥前産磁器碗の底部である。１はわずかに残る外面体部に呉須による梅鉢文、草文が染め付けられている。２は底部に厚みがある。1、２とも18世紀の所産である。

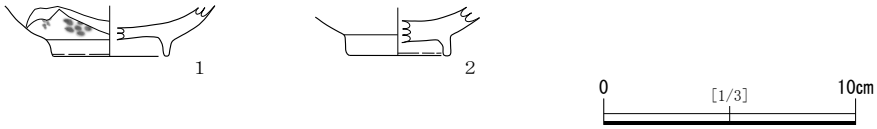
遺構の時期はＫ９号溝状遺構を切っており、出土遺物から宝永スコリア降下後に埋まった18世紀以降と考えられる。





第１層　茶褐色土　宝永スコリア多量。やや灰色味帯びる。
第２層　茶褐色土　宝永スコリアやや中量。やや灰色味帯びる。
第３層　茶褐色土　宝永スコリアやや多量。やや灰色味帯びる。
第４層　茶褐色土　宝永スコリアやや少量。やや灰色味帯びる。
第５層　細粒の宝永スコリア主体。
第６層　粗粒の宝永スコリア主体。

第270図　13区Ｋ10号溝状遺構[1/120・1/60]



第271図　13区Ｋ10号溝状遺構出土遺物[1/3]

第59表　13区Ｋ10号溝状遺構出土遺物観察表［第271図］

No.	器種	種別	()＝現存値 〔〕＝復元値 口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	残存度	産地	時期	観察内容
1	染付丸形碗	磁器	—	4.3	(2.0)	20.4	底部1/2	肥前	18世紀	素地 灰白色、緻密、黒色粒を含む 焼成 堅緻 釉薬 呉須・透明釉 文様 梅鉢・草文
2	碗	磁器	—	3.8	(1.9)	28.4	底部1/2	肥前	18世紀	素地 灰白色、緻密、黒色粒を含む 焼成 堅緻 釉薬 透明釉

（３）井戸址

Ｋ１号井戸址（第261・272図、図版59－１）

Ｕ19グリッド北東側で発見された。検出面の標高は23.90ｍである。北西約1.90ｍにＫ25号土坑、約2.40ｍにＫ26号土坑が確認されている。平面形は円形を呈する。検出規模は直径0.90ｍ、深さは3.00ｍまで確認されたが湧水のため底部は不明である。断面形は円筒形を呈し、上端から0.40ｍと0.90ｍに足掛け穴が南北２ヶ所ずつ穿たれている。

覆土は宝永スコリア主体の灰褐色土である。

遺物は肥前産磁器碗１点(1.4ｇ)、瀬戸・美濃産陶器皿１点(10.6ｇ)、産地不明陶器瓶類１点(6.4ｇ)、総点数３点、総重量18.4ｇ出土しているが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から近世と考えられるが、詳細な時期等は不明である。

Ｋ２号井戸址（第261・272図、図版59－２）

Ｔ18グリッド南西角で発見された。南東側の上端はＫ４号土坑に切られる。検出面の標高は23.95ｍである。平面形は円形を呈する。検出規模は上端径1.26ｍで、上端から0.30ｍで径0.80ｍと狭まり、また0.90ｍに広がる。確認面からの深さは1.48ｍまで確認されたが湧水のため底部は不明である。断面は段を有する円筒形を呈する。

覆土は茶褐色土で５層に分層される。

遺物は出土していない。

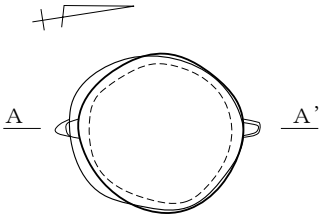
遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

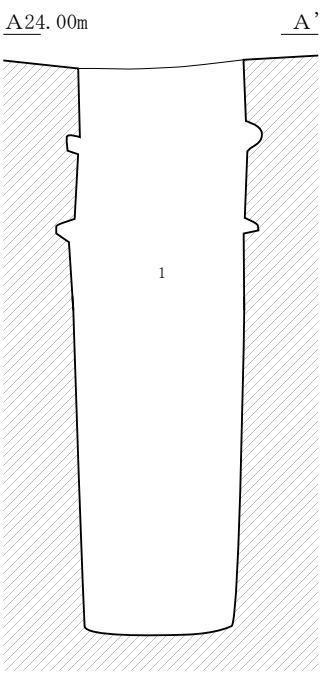
（４）土坑

Ｋ１号土坑（第261・273図、図版58－１）

Ｕ17グリッド北西側で発見された。Ｋ２、３号溝状遺構に上端を切られている西側は調査区外に広がる。南東約0.50ｍにＫ33号土坑、東側約2.80ｍにＫ19号土坑が確認されている。検出面の標高は23.58ｍで、検出規模は南北1.80ｍ、東西0.85ｍ以上で確認面からの深さは約0.32ｍを測る。底面は平坦で、壁はやや

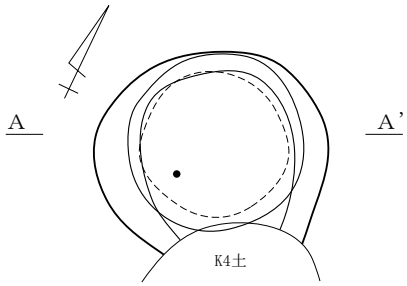
Ｋ１号井戸址

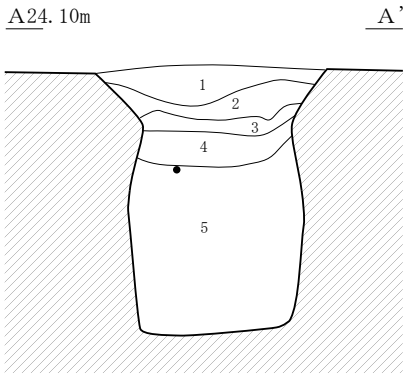




第１層　灰褐色土　粘性・しまりなし。宝永スコリア主体。
ローム粒微量含む。

Ｋ２号井戸址





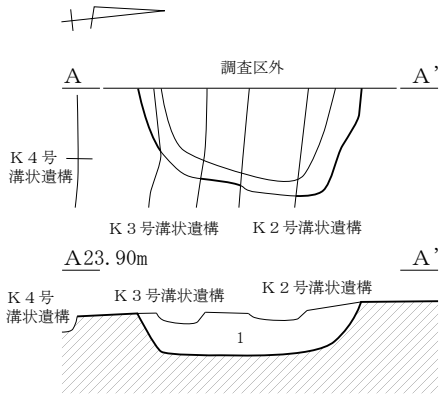
第１層　茶褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性やや強く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。第１層より色調暗い。
第３層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第４層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。
第５層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。

● 土器

0　[1/40]　1m

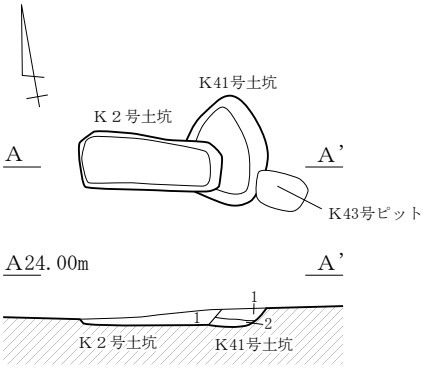
第272図　13区Ｋ１・２号井戸址[1/40]

Ｋ１号土坑



第１層　黒灰褐色土　粘性・しまりなし。宝永スコリア主体。

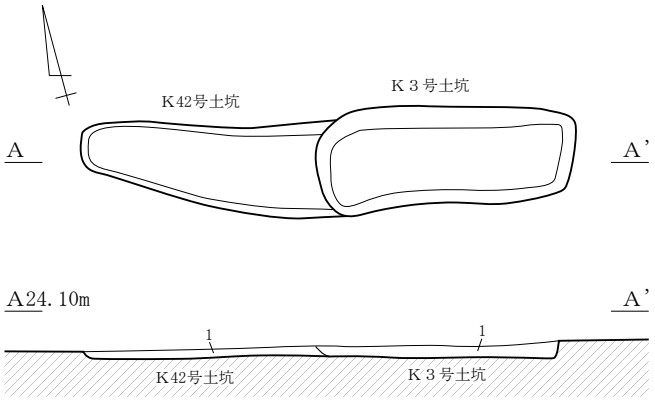
Ｋ２・41号土坑



Ｋ２号土坑
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。やや砂質土。

K41号土坑
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。
第２層　明茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

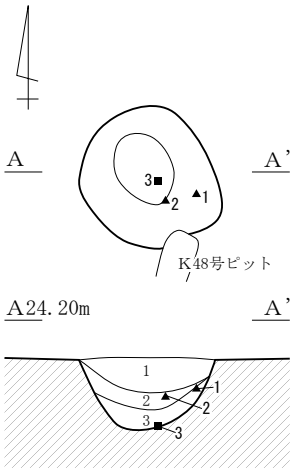
Ｋ３・42号土坑



Ｋ３号土坑
第１層　明茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、焼土粒微量、ローム粒微量含む。

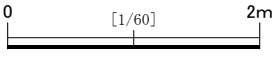
K42号土坑
第１層　明茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒少量含む。

Ｋ４号土坑



第１層　茶褐色土　粘性・しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア中量、茶褐色土ブロック少量含む。砂質やや強い。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。砂質やや強い。
第３層　暗茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、炭化物粒微量含む。

■ 石器・石製品
▲ 金属製品



第273図　13区Ｋ１～４・41・42号土坑[1/60]

緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形を呈する。

覆土は黒灰褐色土の宝永スコリア主体の単層である。

遺物は出土していない。

本遺構は宝永の火山灰を処分した大型の土坑と考えられ、時期は、検出状況から18世紀初頭と考えられる。

Ｋ２号土坑（第261・273図、図版60－１）

Ｕ17グリッド北東寄りで発見された。南側約0.76ｍにＫ22号土坑が確認されている。検出面の標高は23.75ｍである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はＮ－77°－Ｗを示す。検出規模は長軸1.14ｍ、短軸0.45ｍで、確認面からの深さは0.12ｍを測る。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。断面形は浅い皿状を呈する。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ３号土坑（第261・273図、図版60－２）

Ｔ・Ｕ17、Ｔ・Ｕ18グリッド境で発見された。北側約2.10ｍにＫ31号土坑、北東約0.40ｍにＫ４号土坑、南側約2.55ｍにＫ５号土坑、約1.00ｍにＫ24号土坑が確認されている。検出面の標高は23.89ｍである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はＮ－75°－Ｗを示す。検出規模は長軸2.05ｍ、短軸0.80ｍで、確認面からの深さは0.11ｍを測る。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。断面形は箱形を呈する。

覆土は明茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ４号土坑（第261・273・274図、第60表、図版60－３・160・161－１）

Ｔ18グリッド南西角で発見された。南側の上端をＫ48号ピットに切られている。北西約2.30ｍにＫ31号土坑、南西側約0.40ｍにＫ３号土坑が確認されている。検出面の標高は23.90ｍである。平面形はほぼ円形を呈する。検出規模は径1.15ｍで、確認面からの深さは0.56ｍを測る。底面は平坦だが東側がやや高くなっている。断面形は碗形を呈する。

覆土は第１・２層が茶褐色土、第３層が暗茶褐色土の３層に分層される。

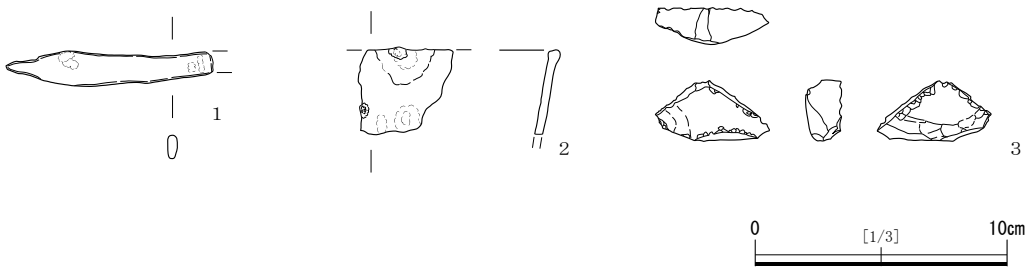
遺物は瀬戸・美濃産陶器瓶類１点（8.8ｇ）、鉄製刀子１点（12.1ｇ）、鉄製鍋１点（19.1ｇ）、石製火打石１点（16.8ｇ）、総点数４点、総重量56.8ｇが出土し、そのうち３点を図化した。

第274図１は刀子である。完形であるが、錆が著しい。

第274図２は鍋の口縁部から体部片である。非常に薄く錆が著しい。

第274図３は火打石で打痕が観察される。石材は瑪瑙である。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。



第274図　13区Ｋ４号土坑出土遺物[1/3]

第60表　13区Ｋ４号土坑出土遺物観察表［第274図］

No.	種別	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	観察内容
1	刀子	鉄	8.2	0.9	0.4	12.1	残存度 完形 備考 表面の錆が著しい
2	鍋	鉄	3.4	3.7	0.3	19.1	残存度 体部破片 備考 表面の錆が著しい
No.	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	観察内容
3	火打石	瑪瑙	2.4	4.5	1.4	16.8	備考 稜線に打痕

Ｋ５号土坑（第261・275図、図版60－４）

Ｕ17・18グリッド境北寄りで発見された。北約2.55ｍにＫ３号土坑、北西約0.70ｍにＫ24号土坑、東約0.40ｍにＫ45号土坑が確認されている。検出面の標高は23.85ｍである。平面形は丸みをもつ長方形を呈し、長軸方位はＮ－44°－Ｅを示す。検出規模は長軸1.74ｍ、短軸1.35ｍで、確認面からの深さは0.09ｍを測る。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。断面形は逆台形を呈する。

覆土は宝永スコリア主体の褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ６号土坑（第261・275・276図、第61表、図版60－５・160）

Ｔ・Ｕ18グリッド境西寄りで発見された。北東約3.30ｍにＫ48号土坑、東約2.50ｍにＫ９～11号土坑、南約2.05ｍにＫ15号土坑が確認されている。検出面の標高は23.90ｍである。平面形は楕円形を呈し、長軸方位はＮ－10°－Ｅを示す。検出規模は長軸1.01ｍ、短軸0.85ｍで、確認面からの深さは0.23ｍを測る。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形を呈する。

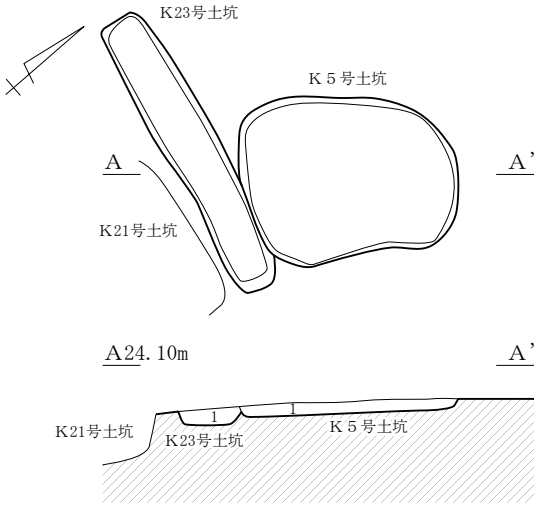
覆土は第１層は暗茶褐色土、第２層は茶褐色土の２層に分層される。

遺物は瀬戸・美濃産陶器碗１点（37.1ｇ）が出土し、図化した。

第276図１は、陶器天目碗の高台部片である。内面には天目釉が残る。16世紀末の所産である。

遺構の時期は検出状況と出土遺物から16世紀末であると考えられる。

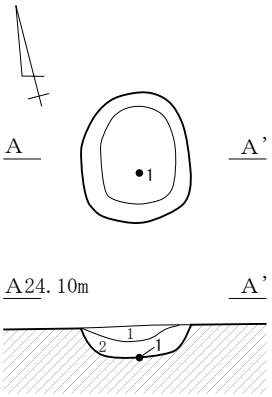
Ｋ５・23号土坑



Ｋ５号土坑
第１層　褐色土　粘性・しまりなし。宝永スコリア主体。茶褐色土ブロック微量含む。

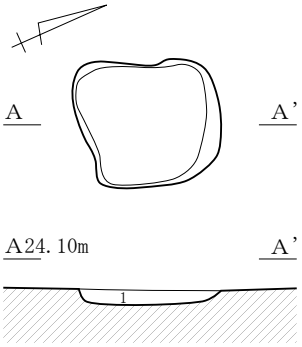
K23号土坑
第１層　褐色土　粘性やや弱く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。

Ｋ６号土坑

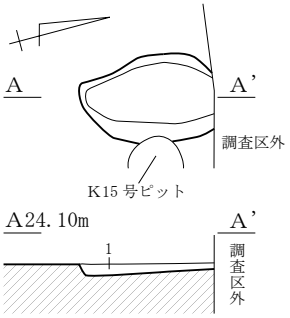


第１層　暗茶褐色土　粘性・しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。砂質やや強い。
第２層　茶褐色土　　粘性やや弱く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。砂質やや強い。

Ｋ７号土坑

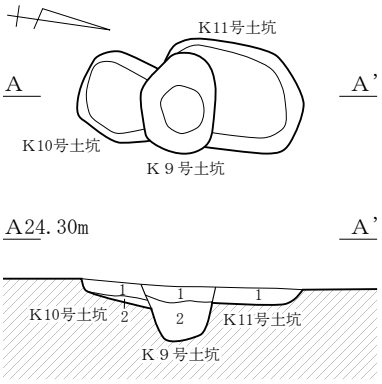


Ｋ８号土坑



Ｋ７・８号土坑
第１層　茶褐色土　粘性・しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア中量、炭化物粒微量、焼土粒微量、ローム粒微量含む。砂質やや強い。

Ｋ９・10・11号土坑



Ｋ９号土坑
第１層　茶褐色土　粘性・しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア中量、炭化物粒微量、焼土粒微量含む。
第２層　暗褐色土　粘性・しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア中量、宝永スコリア中量含む。

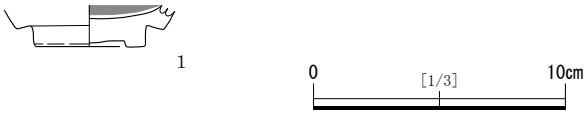
K10号土坑
第１層　暗茶褐色土　粘性・しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、焼土粒微量含む。砂質やや強い。
第２層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。

K11号土坑
第１層　暗茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒粒微量含む。

● 土器

0　[1/60]　2m

第275図　13区Ｋ５～11・23号土坑[1/60]



第276図　13区Ｋ６号土坑出土遺物[1/3]

第61表　13区Ｋ６号土坑出土遺物観察表［第276図］

No.	器種	種別	()＝現存値 〔〕＝復元値 口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	残存度	産地	時期	観察内容
1	天目碗	陶器	―	3.6	(1.6)	37.1	高台部破片	瀬戸・美濃	16世紀末	胎土 にぶい黄橙色、密、黒色粒子・細かい赤色スコリ暗赤褐色天目釉

Ｋ７号土坑（第261・275図、図版60－６）

Ｔ18グリッド中央南側で発見された。北約0.80ｍにＫ８号土坑、南西約0.45ｍにＫ16号土坑が確認されている。検出面の標高は23.85ｍである。平面形はやや歪な方形を呈する。検出規模は長軸1.14ｍ、短軸1.01ｍで、確認面からの深さは0.11ｍを測る。底面は平坦で、壁は南側がやや急に立ち上がり、北側が緩やかに立ち上がる。断面形は皿状を呈する。

覆土はやや砂質の強い茶褐色土の単層である。

遺物は瀬戸・美濃産陶器皿１点(1.4ｇ)が出土したが、小片のため図化していない。

構の時期は検出状況と出土遺物から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ８号土坑（第261・275図、図版60－７）

Ｔ18グリッド中央やや南寄りで発見された。南約0.80ｍにＫ７号土坑が確認されている。北側は調査区外に広がると思われる。東側の上端の一部をＫ15号ピットに切られている。検出面の標高は23.85ｍである。平面形は楕円形を呈すると想定される。検出規模は長軸1.08ｍ以上、短軸0.71ｍで、確認面からの深さは0.08ｍを測る。底面は平坦で、断面形は皿状を呈する。

覆土はやや砂質の強い茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ９号土坑（第261・275図、図版60－８）

Ｕ19グリッド北西角で発見された。東約3.05ｍにＫ26号土坑が確認されている。検出面の標高は23.95ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸0.79ｍ、短軸0.58ｍで、確認面からの深さは0.43ｍを測る。底面は平坦で、壁は直線的に立ち上がる。断面形は逆台形を呈する。

覆土は第１層が茶褐色土、第２層が暗褐色土の２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ10号土坑（第261・275・277図、第62表、図版61－１・161－１）

Ｕ19グリッド北西角で発見された。南西約3.05ｍにＫ15号土坑、約2.10ｍにＫ12号土坑、南東約1.18

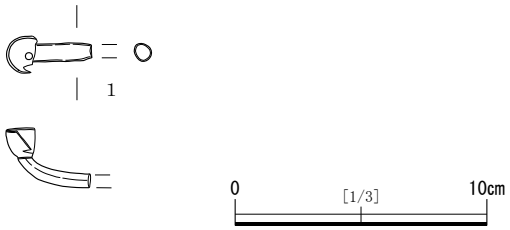
ｍにＫ14号土坑が確認されている。北側をＫ９号土坑に切られている。検出面の標高は23.98ｍである。平面形は正方形を呈すると推定される。検出規模は東西0.66ｍ、南北0.50ｍ以上で、確認面からの深さは0.18ｍを測る。底面は平坦で北側へやや傾斜している。

覆土は第１層が暗茶褐色土、第２層が暗褐色土の２層に分層される。

遺物は銅製煙管１点(3.5ｇ)が出土し、図化した。

第277図１は煙管雁首である。火受け部が1/2欠損している。

遺構の時期は、検出状況からＫ９号土坑以前の近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。



第277図　13区Ｋ10号土坑出土遺物[1/3]

第62表　13区Ｋ10号土坑出土遺物観察表［第277図］

No.	種別	材質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	観察内容
1	煙管雁首	銅	(3.4)	0.7	0.7	3.5	残存度 火皿部1/2欠損

Ｋ11号土坑（第261・275図、図版60－８）

Ｕ19グリッド北西角で発見された。北約0.80ｍにＫ48号土坑、西約2.50ｍにＫ６号土坑、東約3.30ｍにＫ26号土坑が確認されている。南側をＫ９号土坑に切られている。検出面の標高は23.90ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は、長軸1.08ｍ、短軸0.85ｍ、確認面からの深さは0.13ｍを測る。底面は平坦で、壁はやや緩やかな角度で立ち上がる。

覆土は暗茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況からＫ９号土坑以前の近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ12号土坑（第261・278図、図版61－２）

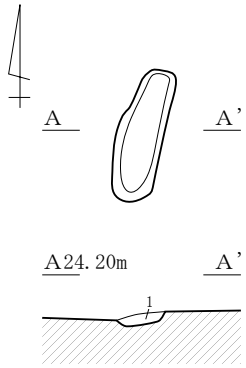
Ｕ18グリッド東側で発見された。北東約2.10ｍにＫ10号土坑、北西約1.60ｍにＫ15号土坑、東約2.00ｍにＫ14号土坑が確認されている。検出面の標高は23.91ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.09ｍ、短軸0.39ｍ、確認面からの深さは0.10ｍを測る。底面は平坦で、壁は急な角度で立ち上がる。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

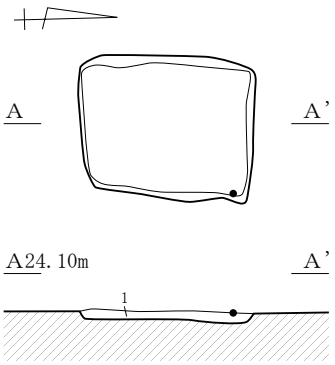
遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ12号土坑



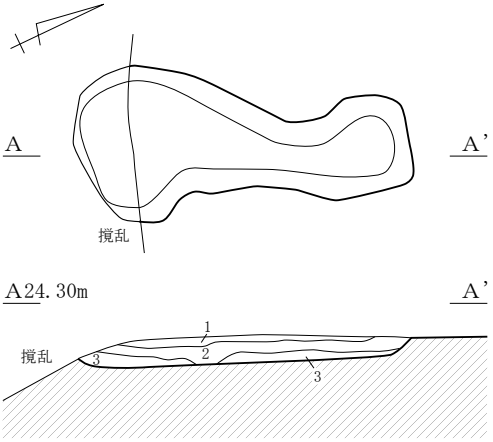
第１層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。

Ｋ13号土坑



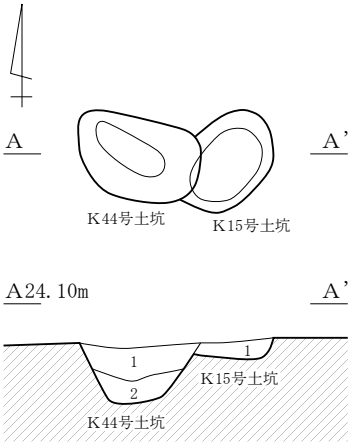
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。

Ｋ14号土坑



第１層　茶褐色土　粘性・しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア中量、炭化物粒微量含む。砂質やや強い。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。砂質やや強い。
第３層　茶褐色土　粘性・しまりあり。第２層より色調暗い。炭化物粒微量含む。

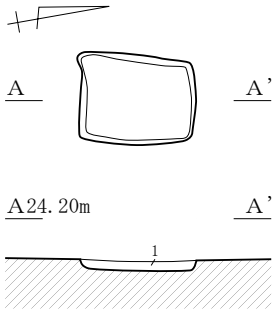
Ｋ15・44号土坑



Ｋ15号土坑
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。

Ｋ44号土坑
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒少量、明褐色土ブロック微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒少量含む。

Ｋ16号土坑



第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、焼土粒微量、ローム粒微量含む。

● 土器

0　[1/60]　2m

第278図　13区Ｋ12～16・44号土坑[1/60]

Ｋ13号土坑（第261・278図、図版61－３）

Ｕ18グリッド北東寄りで発見された。検出面の標高は23.81ｍである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はＮ－３°－Ｅを示す。検出規模は長軸1.40ｍ、短軸1.15ｍで、確認面からの深さは0.10ｍを測る。底面は平坦で、断面形は箱型を呈する。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ14号土坑（第261・278図、図版61－４）

Ｕ19グリッド西端で発見された。北西側約1.18ｍにＫ10号土坑、北東約2.90ｍにＫ26号土坑、西約2.00ｍにＫ12号土坑が確認されている。南側は上端を攪乱により切られている。検出面の標高は24.05ｍである。平面形は瓢箪形のように括れている部分がある。検出規模は長軸1.48ｍ以上、短軸は北から0.80ｍ、0.54ｍ、1.25ｍで、確認面からの深さは0.23ｍを測る。底面は平坦である。

覆土は茶褐色土で３層に分層され、第１～２層は砂質がやや強く、第３層は第２層より色調が暗い。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ15号土坑（第261・278図、図版61－５）

Ｕ18グリッド北東側で発見された。北約2.05ｍにＫ６号土坑、北東約3.05ｍにＫ10号土坑、南約0.70ｍにＫ40号土坑が確認されている。西側上端をＫ44号土坑に切られている。検出面の標高は23.84ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸0.90ｍ、短軸0.63ｍで、確認面からの深さは0.15ｍを測る。底面は平坦で、東側がやや高くなる。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ16号土坑（第261・278図、図版61－６）

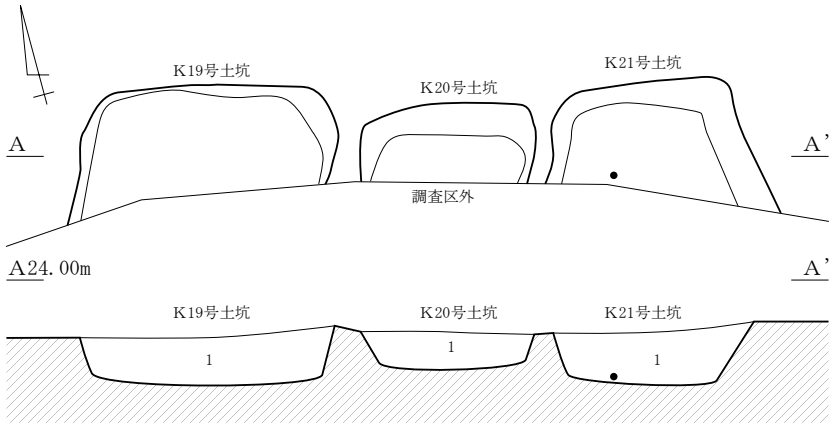
Ｔ・Ｕ18グリッド境やや西寄りで発見された。北西約0.45ｍにＫ７号土坑、西約0.20ｍにＫ34号土坑、南約0.50ｍにＫ53号土坑が確認されている。平面形は長方形を呈し、長軸方位はＮ－13°－Ｅを示す。検出面の標高は23.87ｍ、検出規模は長軸0.93ｍ、短軸0.74ｍで、確認面からの深さは0.08ｍを測る。底面は平坦で、壁は直線的に立ち上がる。断面形は箱型を呈する。

覆土は褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

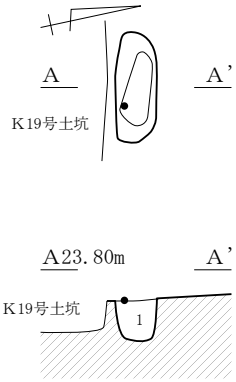
遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ19～21号土坑



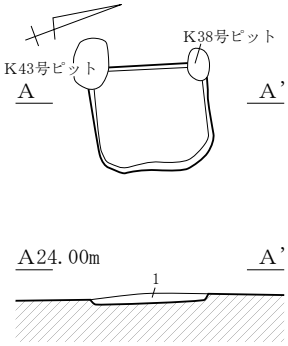
Ｋ19・20・21号土坑
第１層　黒灰褐色土　粘性・しまりなし。宝永スコリア主体。

Ｋ22号土坑



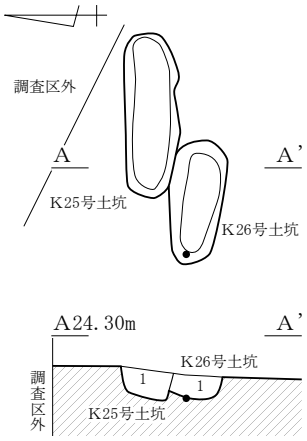
第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒中量含む。

Ｋ24号土坑



第１層　茶褐色土　粘性やや弱く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。

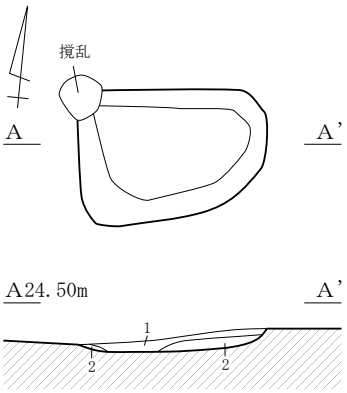
Ｋ25・26号土坑



Ｋ25号土坑
第１層　灰褐色土　粘性・しまりなし。宝永スコリア主体。茶褐色土ブロック少量含む。

Ｋ26号土坑
第１層　茶褐色土　粘性やや弱く、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。

Ｋ27号土坑



第１層　茶褐色土　粘性・しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、炭化物粒微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア中量、宝永スコリア中量、ローム粒微量含む。

● 土器

0　[1/60]　2m

第279図　13区Ｋ19～22・24～27号土坑[1/60]

Ｋ19号土坑（第261・279図、図版62－１）

Ｕ17グリッド北東寄りで発見された。Ｋ20、21号土坑と隣接している。南側は調査区外へ広がる。検出面の標高は23.60ｍである。平面形は方形または長方形を呈すると考えられる。検出規模は長軸2.05ｍ、短軸0.95ｍ以上で、確認面からの深さは0.40ｍを測る。断面は箱形を呈する。底面は平坦で、壁は急な角度で立ち上がる。

覆土は黒灰褐色土の宝永スコリア主体の単層である。

遺物は出土していない。

本遺構は宝永の火山灰を処分した大型の土坑と考えられ、時期は、検出状況から18世紀初頭と考えられる。

Ｋ20号土坑（第261・279図、図版61－１）

Ｕ17グリッド北東寄りで発見された。Ｋ19、21号土坑と隣接している。南側は調査区外へ広がる。検出面の標高は23.60ｍである。平面形は方形または長方形を呈すると考えられる。検出規模は長軸1.40ｍ、短軸0.63ｍ以上で、確認面からの深さは0.29ｍを測る。断面は箱形を呈する。底面は平坦で、壁は急な角度で立ち上がる。

覆土は黒灰褐色土の宝永スコリア主体の単層である。

遺物は出土していない。

本遺構は宝永の火山灰を処分した大型の土坑と考えられ、時期は、検出状況から18世紀初頭と考えられる。

Ｋ21号土坑（第261・279図、図版61－１）

Ｕ17･18グリッド境やや北寄りで発見された。Ｋ19、20号土坑と隣接している。南側は調査区外へ広がる。検出面の標高は23.60ｍである。平面形は方形または長方形を呈すると考えられる。検出規模は長軸1.80ｍ、短軸1.00ｍ以上で、確認面からの深さは0.53ｍを測る。断面は逆台形を呈する。底面は平坦で、壁は急な角度で立ち上がる。

覆土は黒灰褐色土の宝永スコリア主体の単層である。

遺物は出土していない。

本遺構は宝永の火山灰を処分した大型の土坑と考えられ、時期は、検出状況から18世紀初頭と考えられる。

Ｋ22号土坑（第261・279図、図版60－７）

Ｕ17グリッドやや北東寄りで発見された。検出面の標高は23.58ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.43ｍ、短軸0.72ｍで、確認面からの深さは0.08ｍを測る。底面は平坦で、断面形はＵ字状を呈する。

覆土は褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ23号土坑（第261・275図、図版60－８）

Ｕ17・18グリッド境北寄りで発見された。北約0.80ｍにＫ24号土坑、南約0.18ｍにＫ20、21号土坑が確認されている。北東上端の一部がＫ５号土坑に切られている。検出面の標高は23.77ｍである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はＮ－77°－Ｗを示す。検出規模は長軸2.34ｍ、短軸0.45ｍで、確認面からの深さは0.14ｍを測る。底面は平坦で、壁はやや急な角度で立ち上がる。断面形は逆台形を呈する。

覆土は褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況からＫ５号土坑より古い近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ24号土坑（第261・279図、図版62－２）

Ｕ17グリッド北東寄りで発見された。北西角をＫ38号ピット、南西角をＫ43号ピットに切られている。検出面の標高は23.82ｍである。平面形は方形を呈し、検出規模は長軸0.95ｍ、短軸0.85ｍ、確認面からの深さは0.06ｍを測る。底面は平坦で、断面は箱形を呈する。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ25号土坑（第261・279図、図版62－３）

Ｕ19グリッド中央南端で発見された。西約3.70ｍにＫ11号土坑が確認されている。検出面の標高は24.07ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.33ｍ、短軸0.45ｍで、確認面からの深さは0.20ｍを測る。底面は平坦で、やや北側が高くなる。断面形は逆台形を呈する。

覆土は灰褐色土の宝永スコリア主体の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ26号土坑（第261・279図）

Ｕ19グリッド中央南端で発見された。北東上端をＫ25号土坑に切られている。検出面の標高は24.00ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.00ｍ、短軸0.45ｍで、確認面からの深さは0.16ｍを測る。底面は平坦で、やや北側が高くなる。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ27号土坑（第261・279図、図版62－４）

Ｕ19グリッド南東角で発見された。北西角を攪乱に切られている。検出面の標高は23.40ｍである。平面形はやや丸みのある長方形を呈し、長軸方位はＮ－81°－Ｅを示す。検出規模は長軸1.51ｍ、短軸1.10ｍで、確認面からの深さは0.14ｍを測る。底面は平坦で、やや北側が高くなる。検出規模は径0.78ｍで、

確認面からの深さは0.16ｍを測る。底面は平坦で断面は皿状を呈する。

覆土は茶褐色土で２層に分層され、第２層は宝永スコリアが中量含まれている。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ28号土坑（第261・280図、図版62－５）

Ｕ19グリッド南東角で発見された。南側は攪乱に切られている。検出面の標高は24.03ｍである。平面形は円形を呈すると考えられ、検出規模は径0.50ｍ、確認面からの深さは0.20ｍを測る。底面は平坦、断面は逆台形を呈する。

覆土は灰褐色土の宝永スコリア主体の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ29号土坑（第261・280図、図版63－１）

Ｕ17グリッド北側やや東寄りで発見された。北約1.20ｍにＫ42号土坑、南約1.20ｍにＫ22号土坑が確認されている。南西側をＫ128号ピット、南東側をＫ２号土坑に切られている。検出面の標高は23.75ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.25ｍ、短軸0.70ｍで、確認面からの深さは0.05ｍを測る。底面は平坦である。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ30号土坑（第261・280図、図版63－２）

Ｔ17グリッド中央で発見された。南東約3.10ｍにＫ31号土坑が確認されている。検出面の標高は23.72ｍである。平面形は歪な円形を呈する。検出規模は径0.95ｍで、確認面からの深さは0.06ｍを測る。底面は平坦である。

覆土は褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ31号土坑（第261・280図、図版63－３）

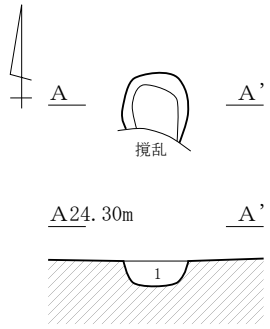
Ｔ17グリッド東側で発見された。北西約3.10ｍにＫ30号土坑が確認されている。検出面の標高は23.93ｍである。平面形はやや丸みのある長方形を呈し、長軸方位はＮ－31°－Ｅを示す。検出規模は長軸0.81ｍ、短軸0.75ｍで、確認面からの深さは0.05ｍを測る。底面は平坦である。断面は皿状を呈する。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

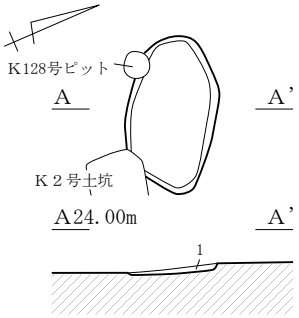
遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ28号土坑



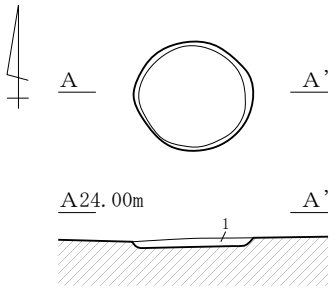
第１層　灰褐色土　粘性・しまりなし。宝永スコリア主体。明褐色土ブロック少量含む。

Ｋ29号土坑



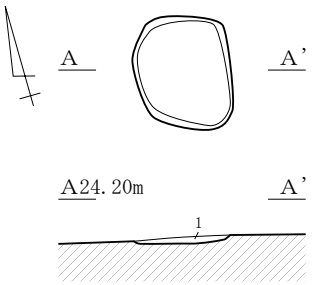
第１層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、暗褐色土ブロック微量含む。

Ｋ30号土坑



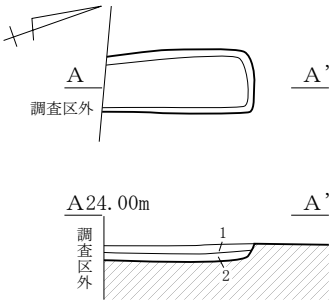
第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒中量、暗褐色土ブロック微量含む。

Ｋ31号土坑



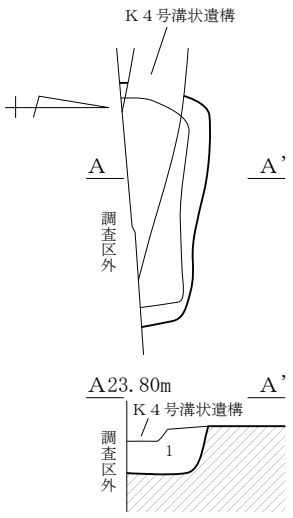
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒中量、暗褐色土ブロック微量含む。

Ｋ32号土坑



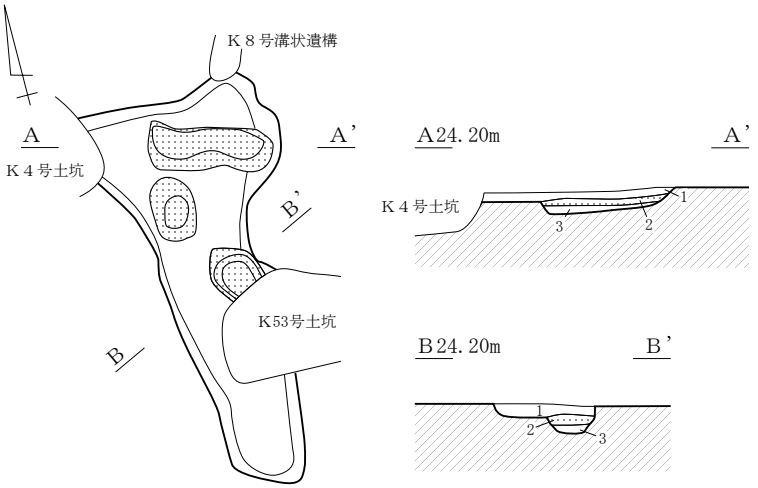
第１層　茶褐色土　粘性あり、しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量、暗褐色土ブロック微量含む。
第２層　褐色土　粘性・しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

Ｋ33号土坑

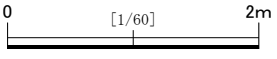


第１層　黒灰褐色土　粘性・しまりなし。宝永スコリア主体。

Ｋ34号土坑



第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、焼土粒微量、ローム粒微量含む。
第２層　赤褐色土　粘性・しまりやや弱い。焼土主体。炭化物粒微量、灰微量、茶褐色土ブロック微量含む。
第３層　明茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、焼土粒微量含む。



第280図　13区Ｋ28～34号土坑[1/60]

Ｋ32号土坑（第261・280図）

Ｕ18グリッド中央西側で発見された。南側は調査区外へ延伸する。西約0.80ｍにＫ21号土坑、東約1.09ｍにＫ49号土坑が確認されている。検出面の標高は23.80ｍである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はＮ－15°－Ｅを示す。検出規模は長軸1.20ｍ以上、短軸0.52ｍで、確認面からの深さは0.14ｍを測る。底面は平坦である。

覆土は第１層が茶褐色土、第２層が褐色土の２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ33号土坑（第261・280図、図版58－１）

Ｕ17グリッド北西側で発見された。南側は調査区外へ広がる。西側上端はＫ４号溝状遺構に切られる。検出面の標高は23.57ｍである。平面形は方形または長方形を呈すると考えられる。検出規模は長軸1.70ｍ、短軸0.62ｍ以上で、確認面からの深さは0.35ｍを測る。断面は箱形を呈する。底面は平坦で、壁は急な角度で立ち上がる。

覆土は黒灰褐色土の宝永スコリア主体の単層である。

遺物は出土していない。

遺構は宝永の火山灰を処分した大型の土坑と考えられ、時期は、検出状況から18世紀初頭と考えられる。

Ｋ34号土坑（第261・280図、図版63－４）

Ｔ、Ｕ18グリッド境西寄りで発見された。北側上端をＫ８号溝状遺構、北西側をＫ４号土坑、南東側をＫ54号土坑に切られている。検出面の標高は23.89ｍである。平面形は不整長方形を呈する。検出規模は長軸3.31ｍ、短軸0.60～1.50ｍで、確認面からの深さは0.10～0.20ｍを測る。底面は平坦であるが、焼土主体の層をもつ掘り込みが３ヶ所確認される。

覆土は３層に分層される。第１層は焼土粒、炭化物粒を含む茶褐色土、第２層は掘り込みの上面で確認された焼土主体の赤褐色土、第３層は明茶褐色土である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられ、周辺で確認された焼土址との関連する可能性もあるが機能などについては不明である。

Ｋ35号土坑（第261・281図、図版63－５）

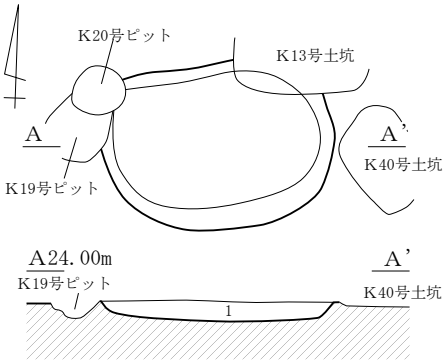
Ｕ18グリッド中央で発見された。東側にＫ40号土坑が隣接する。北西側はＫ19、20号ピット、北東上端をＫ13号土坑に切られている。検出面の標高は23.77ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.74ｍ、短軸1.34ｍで、確認面からの深さは0.14ｍを測る。底面は平坦である。断面形は皿状を呈する。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

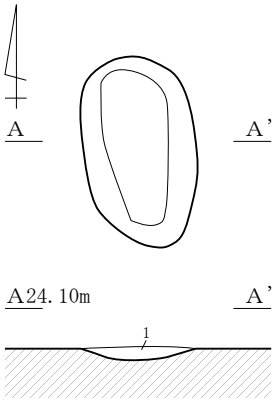
遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ35号土坑

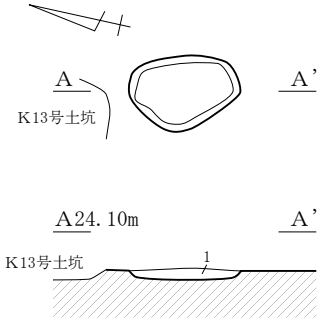


第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒中量含む。

Ｋ39号土坑



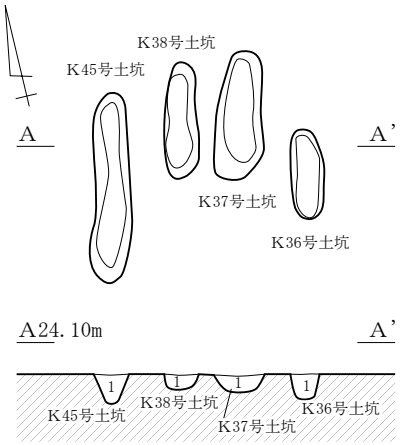
Ｋ40号土坑



Ｋ39・40号土坑

第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒中量含む。

Ｋ36・37・38・45号土坑



Ｋ36号土坑

第１層　茶褐色土　粘性あり、しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、ローム粒微量含む。

Ｋ37号土坑

第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、炭化物粒微量、焼土粒微量含む。

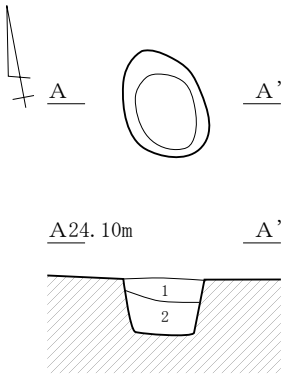
Ｋ38号土坑

第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、暗褐色土ブロック微量含む。

Ｋ45号土坑

第１層　茶褐色土　粘性・しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

Ｋ43号土坑



第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒少量、暗褐色土ブロック微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性あり、しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、ローム粒微量、暗褐色土ブロック微量含む。



第281図　13区Ｋ35～40・43・45号土坑[1/60]

Ｋ36号土坑（第261・281図、図版64－１）

Ｕ18グリッド北西寄りで発見された。西側にＫ37、38、45号土坑が隣接している。検出面の標高は23.72ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸0.73ｍ、短軸0.26ｍ、確認面からの深さは0.13ｍを測る。底面は平坦である。壁はやや急な角度で立ちあがる。東側に展開しているＫ37、38、45号土坑は検出状況が同様の状況をしており、同時期に存在していた耕作痕と考えられる。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は肥前産磁器徳利１点（0.８ｇ）が出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況と出土遺物から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ37号土坑（第261・281図、図版64－１）

Ｕ18グリッド北西寄りで発見された。東側にＫ36号土坑、西側にＫ38、45号土坑が隣接している。検出面の標高は23.85ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.01ｍ、短軸0.36ｍ、確認面からの深さは0.25ｍを測る。底面は平坦である。壁はやや急な角度で立ちあがる。断面形は逆台形を呈する。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

周辺で確認されたＫ36、38、45号土坑は検出状況が同様の状況をしており、同時期に存在していた耕作痕と考えられる。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ38号土坑（第261・281図、図版64－１）

Ｕ18グリッド北西寄りで発見された。東側にＫ36、37号土坑、西側にＫ45号土坑が隣接している。検出面の標高は23.85ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸0.93ｍ、短軸0.26ｍ、確認面からの深さは0.11ｍを測る。底面は平坦である。壁はやや急な角度で立ちあがる。断面形は逆台形を呈する。周辺で確認されたＫ36、37、45号土坑は検出状況が同様の状況をしており、同時期に存在していた耕作痕と考えられる。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ39号土坑（第261・281図、図版63－６）

Ｕ・Ｖ20グリッド境中央で発見された。西側にＫ10号溝状遺構が確認されている。検出面の標高は23.80ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.51ｍ、短軸0.90ｍで、確認面からの深さは0.08ｍを測る。底面は平坦で壁は緩やかに立ち上がる。断面形は皿状を呈する。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ40号土坑（第261・281図）

Ｕ18グリッド北西寄りで発見された。北西にＫ13号土坑が隣接している。検出面の標高は23.82ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸0.81ｍ、短軸0.60ｍで、確認面からの深さは0.08ｍを測る。底面は平坦で壁は緩やかに立ち上がる。断面形は皿状を呈する。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ41号土坑（第261・273図、図版63－７）

Ｕ17グリッド北西側で発見された。北西約0.48ｍにＫ29号土坑、東約0.10ｍにＫ24号土坑が確認されている。西側をＫ２号土坑、南東側上端をＫ43号ピットに切られている。検出面の標高は23.75ｍである。平面形は不整楕円形を呈する。検出規模は長軸0.85ｍ、短軸0.65ｍで、確認面からの深さは0.15ｍを測る。底面はやや平坦で、壁は西側が緩やかに、東側は急な角度で立ちあがる。

覆土は第１層が茶褐色土、第２層は明茶褐色土で２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況からＫ２号土坑より古い近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ42号土坑（第261・273図）

Ｔ・Ｕ17グリッド境東寄りで発見された。北約1.90ｍにＫ31号土坑、南約1.20ｍにＫ41号土坑が確認されている。東側をＫ３号土坑に切られている。検出面の標高は23.84ｍである。平面形はやや丸みをもつ長方形を呈し、、長軸方位はＮ－75°－Ｗを示す。検出規模は長軸1.86ｍ以上、短軸0.75ｍで、確認面からの深さは0.06ｍを測る。底面は平坦で、断面は皿状を呈する。

覆土は明茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況からＫ３号土坑より古い近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ43号土坑（第261・281図、図版63－８）

Ｕ18グリッド中央北寄りで発見された。検出面の標高は23.84ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸0.90ｍ、短軸0.64ｍで、確認面からの深さは0.45ｍを測る。底面は平坦で、壁は急な傾斜で立ちあがる。断面形は逆台形を呈する。

覆土は茶褐色土が主体で２層に分層され、第２層はしまりがやや弱い。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ44号土坑（第261・278図）

Ｕ18グリッド北東寄りで発見された。北東約2.30ｍにＫ６号土坑、南東約0.80ｍにＫ40号土坑、西側約1.20ｍにＫ43号土坑が確認されている。検出面の標高は23.78ｍである。平面形は楕円形を呈する。検

出規模は長軸1.05ｍ、短軸0.65ｍで、確認面からの深さは0.44ｍを測る。底面は平坦で、壁は西側がやや急に、東側がやや緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形を呈する。

覆土は茶褐色土で２層に分層される。第１層には明褐色ブロックが微量含まれる。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ45号土坑（第261・281図、図版64－１）

Ｕ18グリッド北西側で発見された。東側にＫ36～38土坑が隣接している。検出面の標高は23.85ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.53ｍ、短軸0.26ｍ、確認面からの深さは0.16ｍを測る。壁はやや急な角度で立ちあがる。断面形は逆台形を呈する。西側に展開しているＫ36～38号土坑は検出状況が同様の状況をしており、同時期に存在していた耕作痕と考えられる。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ47号土坑（第261・282図）

Ｕ18グリッド中央で発見された。西側でＫ49号土坑、東側でＫ50、51号土坑と隣接している。西側をＫ168号ピットに切られている。検出面の標高は23.85ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.00ｍ、短軸0.60ｍで、確認面からの深さは0.06ｍを測る。底面は平坦を呈する。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ48号土坑（第261・282図）

Ｔ19グリッド南西端で発見された。南約0.80ｍにＫ11号土坑が確認されている。検出面の標高は23.88ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸0.95ｍ、短軸0.35ｍ、確認面からの深さは0.05ｍを測る。壁はやや急な角度で立ちあがる。断面形は逆台形を呈する。

覆土は褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

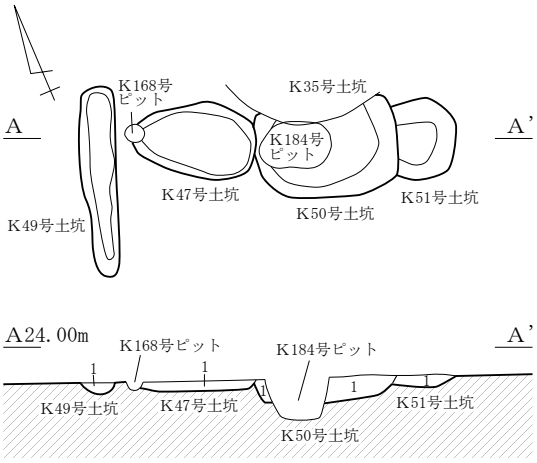
Ｋ49号土坑（第261・282図）

Ｕ18グリッド中央西寄りで発見された。東側にＫ47、50、51号土坑が隣接している。検出面の標高は23.85ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.52ｍ、短軸0.29ｍで、確認面からの深さは0.09ｍを測る。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。断面形は碗形を呈する。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

Ｋ47・49～51号土坑



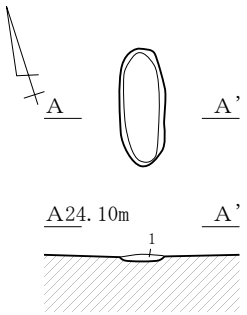
Ｋ47号土坑
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、焼土粒微量、ローム粒少量含む。

Ｋ49号土坑
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア小量、径１～５㎜の黒色スコリア小量、炭化物粒微量、ローム粒少量含む。

Ｋ50号土坑
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。

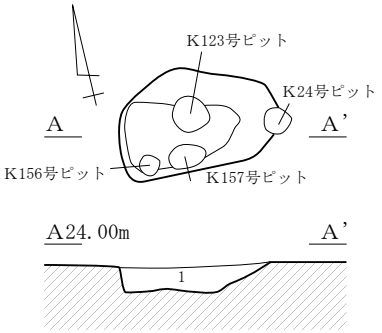
Ｋ51号土坑
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。

Ｋ48号土坑



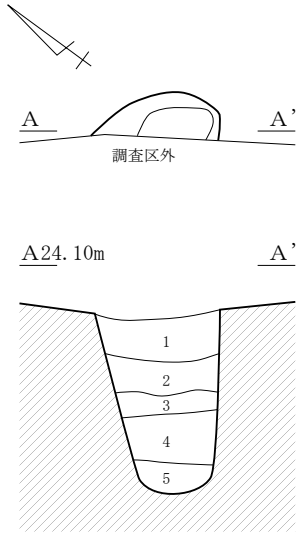
第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒中量、暗褐色土ブロック微量含む。

Ｋ53号土坑



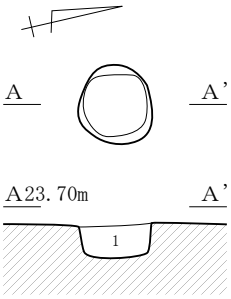
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、焼土粒微量、ローム粒微量含む。

Ｋ55号土坑

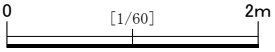


第１層　茶褐色土　粘性あり、しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、宝永スコリア中量、炭化物粒微量含む。
第２層　灰褐色土　粘性・しまりなし。宝永スコリア主体。茶褐色土ブロック少量含む。
第３層　茶褐色土　粘性・しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、宝永スコリア中量含む。
第４層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、宝永スコリア中量含む。
第５層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。

Ｋ56号土坑



第１層　茶褐色土　粘性・しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア・宝永スコリア中量、ローム粒微量含む。



第282図　13区Ｋ47～51・53・55・56号土坑[1/60]

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ50号土坑（第261・282図、図版64－３）

Ｕ18グリッド中央で発見された。西側の上端の一部をＫ47号土坑に、西寄り下端をＫ184号ピットに、北側をＫ35号土坑に切られている。検出面の標高は23.80ｍである。平面形は楕円形を呈すると考えられる。検出規模は長軸1.14ｍ以上、短軸0.70ｍ以上で、確認面からの深さは0.19ｍを測る。底面は平坦である。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は瀬戸・美濃産陶器鉢１点（8.0ｇ）が出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況と出土遺物から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ51号土坑（第261・282図、図版64－４）

Ｕ18グリッド中央で発見された。西側をＫ50号土坑に切られている。検出面の標高は23.80ｍである。平面形は円形或いは楕円形を呈すると考えられる。検出規模は長軸0.65ｍ、短軸0.45ｍ以上で、確認面からの深さは0.09ｍを測る。底面は平坦である。

覆土は茶褐色土の単層でローム粒を少量含む。

遺物は肥前産磁器碗１点（2.4ｇ）が出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況と出土遺物から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ53号土坑（第261・282図）

Ｕ18グリッド北西側で発見された。東側上端をＫ24号ピット、覆土をＫ123・156・157号ピットに切られている。検出面の標高は23.85ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.30ｍ、短軸0.83ｍで、確認面からの深さは0.17ｍを測る。底面は平坦でやや東側が高くなる。壁は西側が急に、東側が緩やかに立ち上がる。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ55号土坑（第261・282図）

Ｖ18グリッド北東角で発見された。南西側は調査区外へ広がる。検出面の標高は23.87ｍである。平面形は不明。検出規模は長軸0.66ｍ、短軸0.16ｍ以上、確認面からの深さは1.35ｍを測る。底面は平坦で、断面はＵ字状を呈する。

覆土は５層に分層され、第１～４層までは宝永スコリア主体もしくは中量含む。

遺物は肥前産陶器碗２点（6.0ｇ）が出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況と出土遺物から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ56号土坑（第261・282図、図版64－５）

Ｕ20グリッド南西側で発見された。Ｋ10号溝状遺構の底面から確認された。検出面の標高は23.75ｍで

ある。平面形は円形を呈し、検出規模は径0.65ｍで、確認面からの深さは0.40ｍを測る。底面は平坦で、断面は箱形を呈する。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

（５）焼土址

Ｋ１号焼土址（第261・283図）

Ｕ18グリッド中央北端で発見された。検出面の標高は23.82ｍである。平面形は円形を呈し、検出規模は径0.36ｍで、確認面からの深さは0.06ｍを測る。底面はやや平坦で、壁は緩やかに立ちあがる。

覆土は第１層が焼土を含む層、第２層は明褐色土で２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ２号焼土址（第261・283図）

Ｕ18グリッド中央北側で発見された。検出面の標高は23.78ｍである。平面形は円形或いは楕円形を呈すると思われる。検出規模は南北0.440ｍ、東西0.30ｍ以上で、確認面からの深さは0.09ｍを測る。

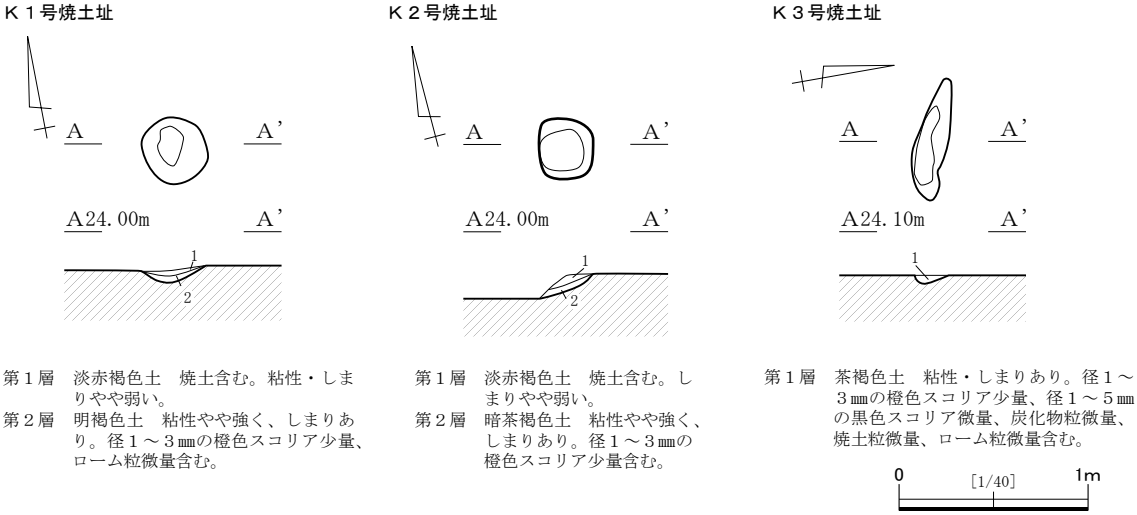
覆土は第１層が焼土を含む層、第２層は暗茶褐色土で２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｋ３号焼土址（第261・283図）

Ｕ18グリッド北西側で発見された。検出面の標高は23.88ｍである。平面形は不整楕円形を呈する。検出規模は長軸0.66ｍ、短軸0.18ｍで、確認面からの深さは0.05ｍを測る。底面はやや平坦で、壁は北側が緩やかに、南側は急な角度で立ちあがる。



第283図　13区Ｋ１～３号焼土址[1/40]

覆土は第１層が茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

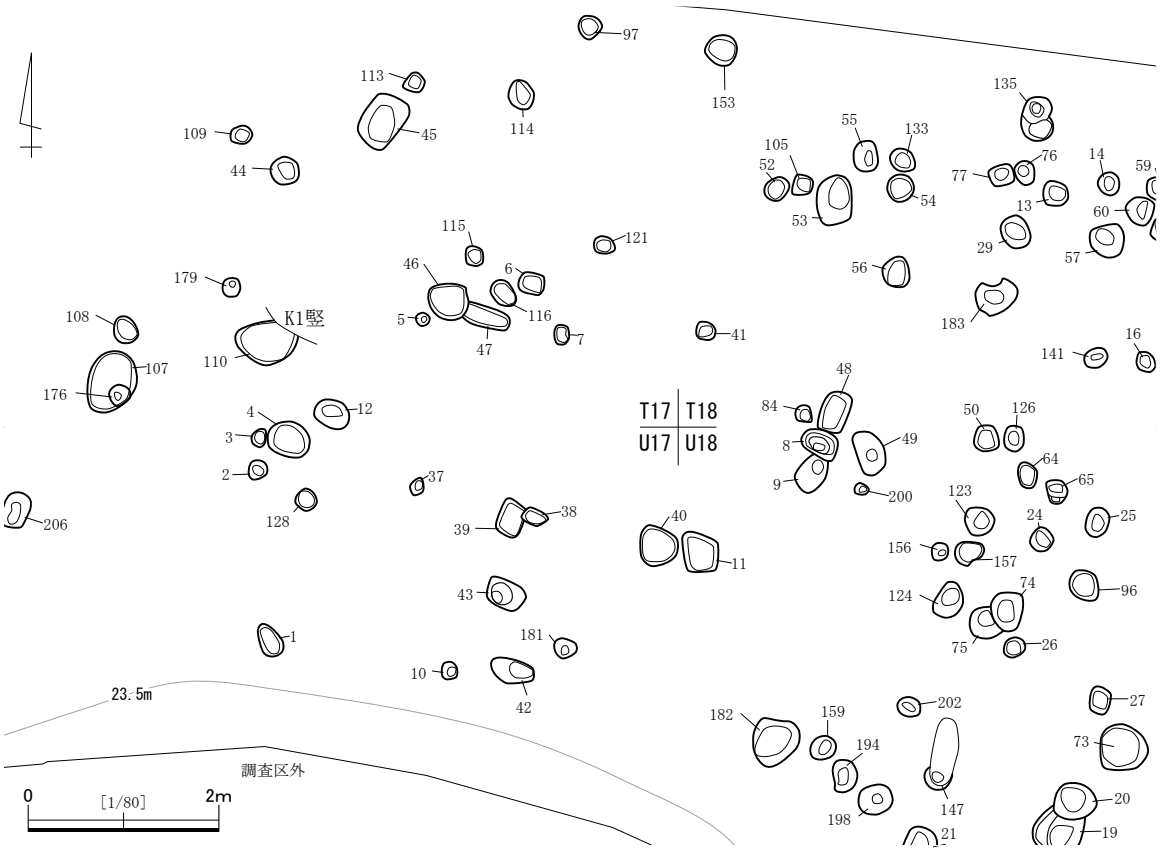
遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

（６）ピット（第261・284 ～ 289図、第63・64表、図版160）

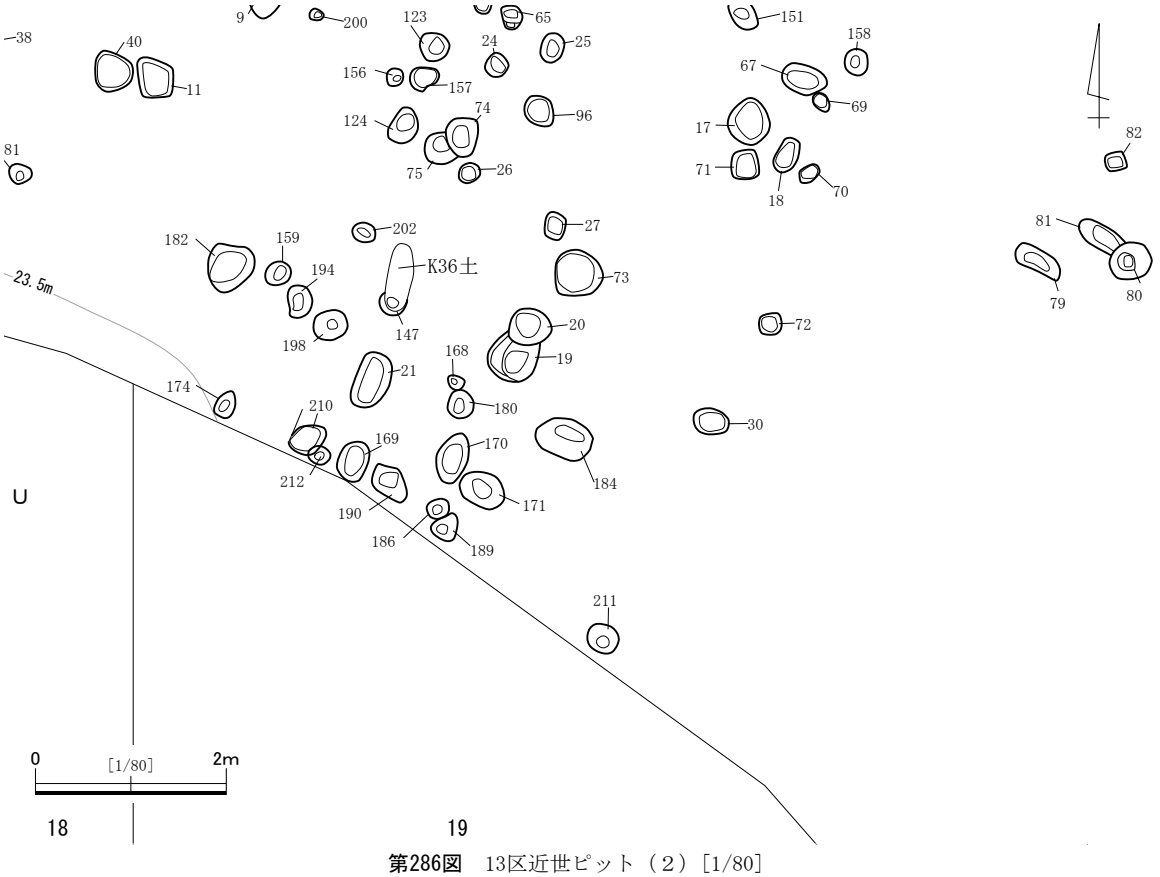
近世のピットは調査区北側から153基発見された。主に調査区西側のＴ・Ｕ17 ～ 18グリッドに集中して



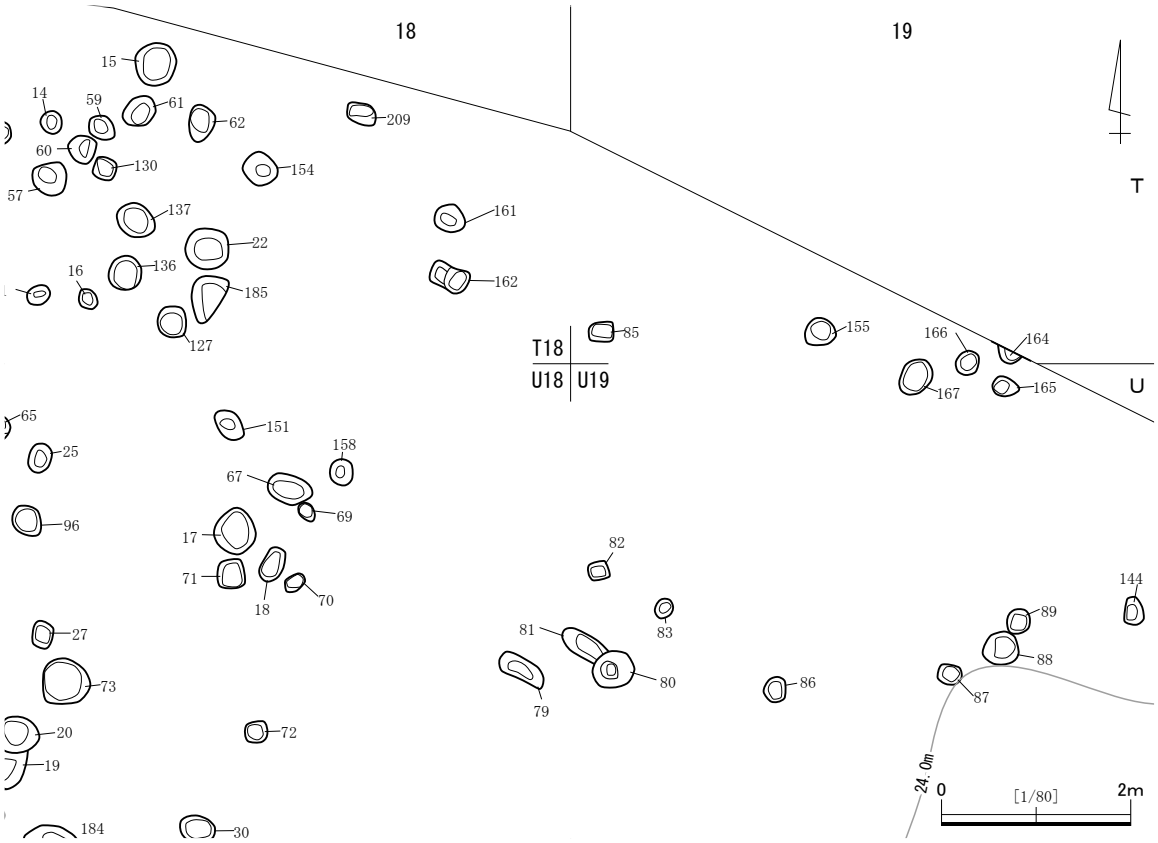
第284図　13区近世ピット分布図[1/250]



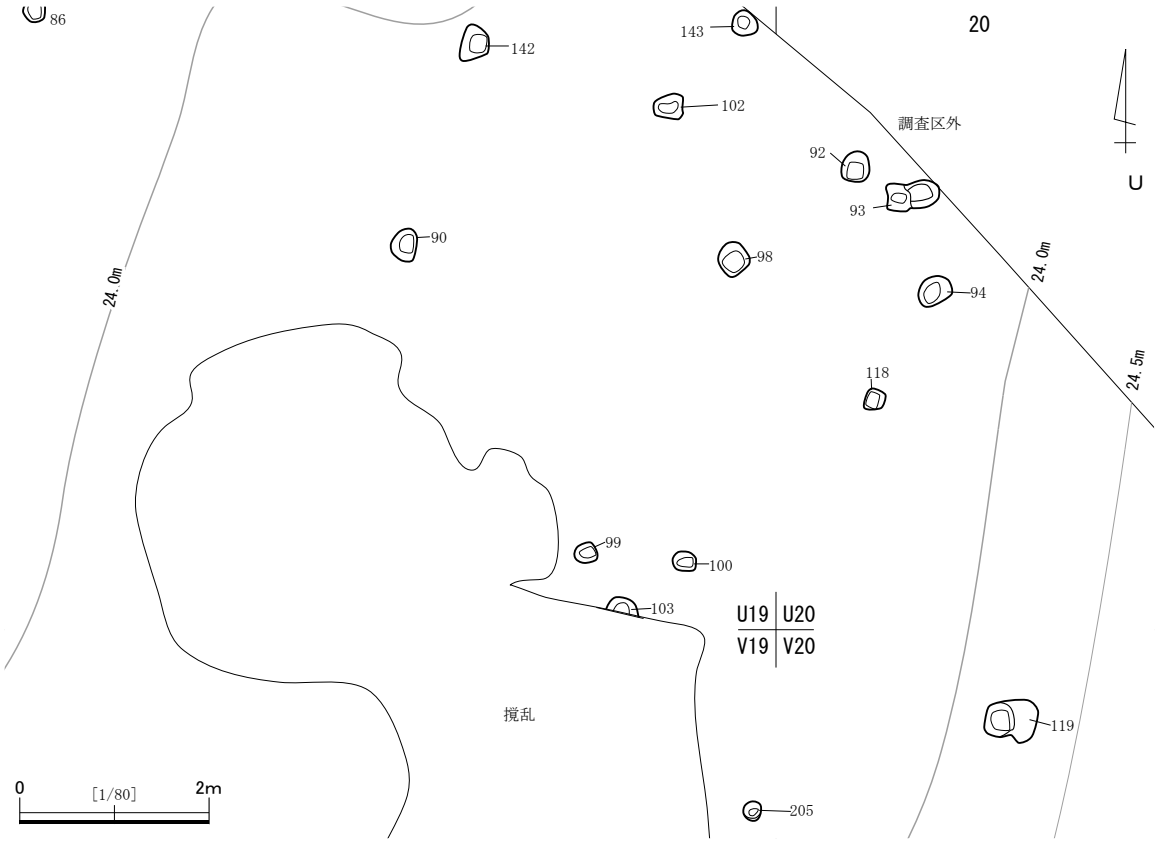
第285図　13区近世ピット（１）[1/80]



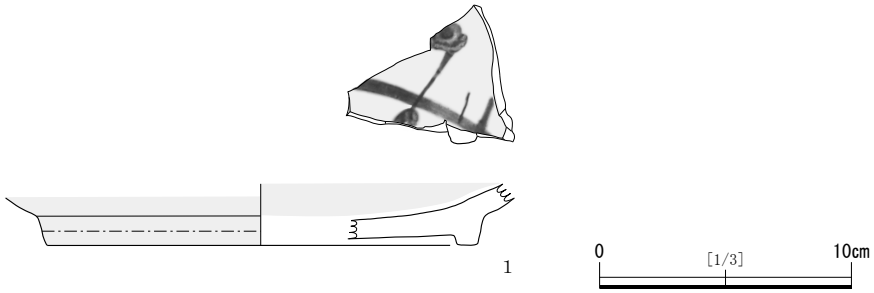
第286図　13区近世ピット（２）[1/80]



第287図　13区近世ピット（３）[1/80]



第288図　13区近世ピット（４）[1/80]



第289図　13区K81号ピット出土遺物[1/3]

第63表　13区K81号ピット出土遺物観察表［第289図］

No.	器種	種別	()＝現存値〔〕＝復元値			重量 (g)	残存度	産地	時期	観察内容
			口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)					
1	灰釉鉄絵鉢	陶器	—	〔16.4〕	(2.3)	46.0	底部1/10	瀬戸・美濃	18世紀後半	胎土 浅黄色、密 焼成 良好 釉薬 灰釉 文様 見込みに鉄絵 備考 高台内釉拭き取り

第64表　13区　近世ピット計測表［第284 ～ 288図］

遺構名	グリッド	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形	遺構名	グリッド	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形
K1号ﾋﾟｯﾄ	U17	0.37	0.24	0.07	楕円形	K21号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.61	0.37	0.19	長方形
K2号ﾋﾟｯﾄ	U17	0.22	0.20	0.12	円形	K22号ﾋﾟｯﾄ	T18	0.46	0.44	0.13	円形
K3号ﾋﾟｯﾄ	U17	0.20	0.16	0.05	楕円形	K24号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.25	0.23	0.09	円形
K4号ﾋﾟｯﾄ	T17･U17	0.45	0.37	0.08	楕円形	K25号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.32	0.24	0.13	楕円形
K5号ﾋﾟｯﾄ	T17	0.15	0.15	0.12	円形	K26号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.23	0.20	0.04	円形
K6号ﾋﾟｯﾄ	T17	0.27	0.23	0.08	方形	K27号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.29	0.22	0.17	方形
K7号ﾋﾟｯﾄ	T17	0.21	0.16	0.06	方形	K29号ﾋﾟｯﾄ	T18	0.36	0.29	0.31	楕円形
K8号ﾋﾟｯﾄ	U18	(0.40)	0.29	0.28	長方形	K30号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.38	0.28	0.11	楕円形
K9号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.40	0.30	0.32	楕円形	K37号ﾋﾟｯﾄ	U17	0.19	0.15	0.05	楕円形
K10号ﾋﾟｯﾄ	U17	0.19	0.17	0.17	方形	K38号ﾋﾟｯﾄ	U17	0.27	0.17	0.07	楕円形
K11号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.42	0.39	0.12	楕円形	K39号ﾋﾟｯﾄ	U17	0.41	(0.28)	0.09	楕円形
K12号ﾋﾟｯﾄ	T17･U17	0.38	0.29	0.23	楕円形	K40号ﾋﾟｯﾄ	U17	0.44	0.40	0.09	楕円形
K13号ﾋﾟｯﾄ	T18	0.27	0.26	0.26	円形	K41号ﾋﾟｯﾄ	T18	0.21	0.19	0.04	方形
K14号ﾋﾟｯﾄ	T18	0.25	0.23	0.10	円形	K42号ﾋﾟｯﾄ	U17	0.47	0.27	0.20	楕円形
K15号ﾋﾟｯﾄ	T18	0.46	0.44	0.32	円形	K43号ﾋﾟｯﾄ	U17	0.42	0.29	0.65	楕円形
K16号ﾋﾟｯﾄ	T18	0.24	0.19	0.08	楕円形	K44号ﾋﾟｯﾄ	T17	0.30	0.30	0.17	円形
K17号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.50	0.44	0.12	楕円形	K45号ﾋﾟｯﾄ	T17	0.59	0.42	0.20	長方形
K18号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.39	0.23	0.11	長方形	K46号ﾋﾟｯﾄ	T17	0.42	0.39	0.12	楕円形
K19号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.51	(0.50)	0.17	円形	K47号ﾋﾟｯﾄ	T17	(0.49)	0.24	0.06	楕円形
K20号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.39	0.45	0.63	円形	K48号ﾋﾟｯﾄ	T18･U18	0.45	0.30	0.14	長方形

K49号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.49	0.26	0.21	長方形
K50号ﾋﾟｯﾄ	T18･U18	0.28	0.26	0.16	円形
K52号ﾋﾟｯﾄ	T18	0.27	0.23	0.14	楕円形
K53号ﾋﾟｯﾄ	T18	0.52	0.38	0.44	長方形
K54号ﾋﾟｯﾄ	T18	0.29	0.28	0.11	円形
K55号ﾋﾟｯﾄ	T18	0.33	0.25	0.32	長方形
K56号ﾋﾟｯﾄ	T18	0.32	0.29	0.08	円形
K57号ﾋﾟｯﾄ	T18	0.36	0.36	0.56	円形
K59号ﾋﾟｯﾄ	T18	0.28	0.26	0.23	円形
K60号ﾋﾟｯﾄ	T18	0.30	0.29	0.21	円形
K61号ﾋﾟｯﾄ	T18	0.38	0.29	0.19	楕円形
K62号ﾋﾟｯﾄ	T18	0.40	0.27	0.18	楕円形
K64号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.29	0.20	0.06	楕円形
K65号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.26	0.22	0.12	楕円形
K67号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.48	0.31	0.14	楕円形
K69号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.22	0.16	0.04	楕円形
K70号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.25	0.16	0.04	楕円形
K71号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.31	0.29	0.14	方形
K72号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.24	0.23	0.05	方形
K73号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.50	0.49	0.41	円形
K74号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.42	0.35	0.43	楕円形
K75号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.35	(0.31)	0.41	円形
K76号ﾋﾟｯﾄ	T18	0.26	0.21	0.15	楕円形
K77号ﾋﾟｯﾄ	T18	0.26	0.22	0.13	方形
K79号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.53	0.23	0.15	長方形
K80号ﾋﾟｯﾄ	U19	0.44	0.40	0.43	円形
K81号ﾋﾟｯﾄ	U18･19	(0.48)	0.30	0.18	楕円形
K82号ﾋﾟｯﾄ	U19	0.22	0.20	0.19	方形
K83号ﾋﾟｯﾄ	U19	0.22	0.19	0.06	円形
K84号ﾋﾟｯﾄ	T18	0.21	0.18	0.05	楕円形
K85号ﾋﾟｯﾄ	T19	0.26	0.21	0.11	方形
K86号ﾋﾟｯﾄ	U19	0.27	0.24	0.07	円形
K87号ﾋﾟｯﾄ	U19	0.26	0.22	0.20	方形
K88号ﾋﾟｯﾄ	U19	0.38	0.36	0.53	円形
K89号ﾋﾟｯﾄ	U19	0.29	0.25	0.13	円形
K90号ﾋﾟｯﾄ	U19	0.36	0.28	0.14	楕円形
K92号ﾋﾟｯﾄ	U20	0.33	0.30	0.72	円形
K93号ﾋﾟｯﾄ	U20	0.56	0.32	0.38	楕円形
K94号ﾋﾟｯﾄ	U20	0.38	0.29	0.16	楕円形
K96号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.37	0.30	0.18	楕円形
K97号ﾋﾟｯﾄ	T17	0.26	0.25	0.07	円形
K98号ﾋﾟｯﾄ	U19	0.38	0.33	0.53	方形
K99号ﾋﾟｯﾄ	U19	0.24	0.22	0.15	円形
K100号ﾋﾟｯﾄ	U19	0.25	0.22	0.11	円形
K102号ﾋﾟｯﾄ	U19	0.32	0.28	0.45	楕円形
K103号ﾋﾟｯﾄ	U19	0.35	(0.17)	0.40	楕円形
K105号ﾋﾟｯﾄ	T18	0.21	0.22	0.38	方形
K107号ﾋﾟｯﾄ	T17	0.68	0.51	0.14	楕円形
K108号ﾋﾟｯﾄ	T17	0.28	0.27	0.11	円形
K109号ﾋﾟｯﾄ	T17	0.23	0.19	0.08	円形
K110号ﾋﾟｯﾄ	T17	0.59	(0.47)	0.09	楕円形
K113号ﾋﾟｯﾄ	T17	0.21	0.21	0.05	方形
K114号ﾋﾟｯﾄ	T17	0.32	0.27	0.13	楕円形
K115号ﾋﾟｯﾄ	T17	0.22	0.19	0.04	方形
K116号ﾋﾟｯﾄ	T17	0.31	0.24	0.06	楕円形
K118号ﾋﾟｯﾄ	U20	0.24	0.22	0.14	方形
K119号ﾋﾟｯﾄ	V20	0.56	0.46	0.38	楕円形
K121号ﾋﾟｯﾄ	T17	0.23	0.19	0.05	円形
K123号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.32	0.30	0.43	円形
K124号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.39	0.30	0.37	楕円形
K126号ﾋﾟｯﾄ	T18･U18	0.28	0.21	0.16	楕円形
K127号ﾋﾟｯﾄ	T18	0.33	0.31	0.17	方形
K128号ﾋﾟｯﾄ	U17	0.22	0.21	0.04	方形
K130号ﾋﾟｯﾄ	T18	0.24	0.24	0.06	方形
K133号ﾋﾟｯﾄ	T18	0.29	0.23	0.26	楕円形
K135号ﾋﾟｯﾄ	T18	0.47	0.34	0.30	楕円形
K136号ﾋﾟｯﾄ	T18	0.36	0.35	0.33	円形
K137号ﾋﾟｯﾄ	T18	0.42	0.34	0.24	楕円形
K141号ﾋﾟｯﾄ	T18	0.26	0.20	0.23	楕円形
K142号ﾋﾟｯﾄ	U19	0.40	0.31	0.51	楕円形

K143号ﾋﾟｯﾄ	U19	0.28	0.28	0.30	円形
K144号ﾋﾟｯﾄ	U19	0.30	0.22	0.11	楕円形
K147号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.29	(0.22)	0.40	楕円形
K151号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.38	0.26	0.38	楕円形
K153号ﾋﾟｯﾄ	T18	0.34	0.33	0.07	円形
K154号ﾋﾟｯﾄ	T18	0.36	0.32	0.29	方形
K155号ﾋﾟｯﾄ	T19	0.30	0.33	0.29	円形
K156号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.19	0.18	0.15	円形
K157号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.31	0.26	0.38	楕円形
K158号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.28	0.25	0.30	円形
K159号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.28	0.25	0.28	円形
K161号ﾋﾟｯﾄ	T18	0.33	0.30	0.18	円形
K162号ﾋﾟｯﾄ	T18	0.42	0.27	0.37	楕円形
K164号ﾋﾟｯﾄ	T19	0.28	(0.14)	0.05	楕円形
K165号ﾋﾟｯﾄ	U19	0.29	0.21	0.24	楕円形
K166号ﾋﾟｯﾄ	T19･U19	0.27	0.24	0.08	円形
K167号ﾋﾟｯﾄ	T19･U19	0.42	0.32	0.21	楕円形
K168号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.18	0.15	0.20	楕円形
K169号ﾋﾟｯﾄ	U18	(0.41)	0.32	0.17	楕円形
K170号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.55	0.33	0.17	楕円形
K171号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.50	0.36	0.27	楕円形
K174号ﾋﾟｯﾄ	U18	(0.27)	0.20	0.11	楕円形

K176号ﾋﾟｯﾄ	T17	0.23	0.22	0.18	円形
K179号ﾋﾟｯﾄ	T17	0.20	0.19	0.16	円形
K180号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.30	0.28	0.20	円形
K181号ﾋﾟｯﾄ	U17	0.25	0.21	0.11	楕円形
K182号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.53	0.49	0.64	楕円形
K183号ﾋﾟｯﾄ	T18	0.45	0.36	0.24	楕円形
K184号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.60	0.40	0.32	楕円形
K185号ﾋﾟｯﾄ	T18	0.54	0.35	0.10	楕円形
K186号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.24	0.20	0.16	円形
K189号ﾋﾟｯﾄ	U18	(0.28)	0.28	0.19	円形
K190号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.46	0.31	0.24	楕円形
K194号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.35	0.26	0.14	楕円形
K198号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.37	0.32	0.14	楕円形
K200号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.15	0.13	0.05	円形
K202号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.25	0.20	0.14	楕円形
K205号ﾋﾟｯﾄ	V19	0.21	0.19	0.19	円形
K206号ﾋﾟｯﾄ	U17	0.39	0.28	0.19	長方形
K209号ﾋﾟｯﾄ	T18	0.31	0.24	0.21	楕円形
K210号ﾋﾟｯﾄ	U18	(0.34)	0.31	0.10	楕円形
K211号ﾋﾟｯﾄ	U18	(0.34)	(0.28)	0.41	楕円形
K212号ﾋﾟｯﾄ	U18	0.23	(0.16)	0.09	楕円形

いる。平面形は円形或いは楕円形で、各々の検出規模については第64表にまとめている。

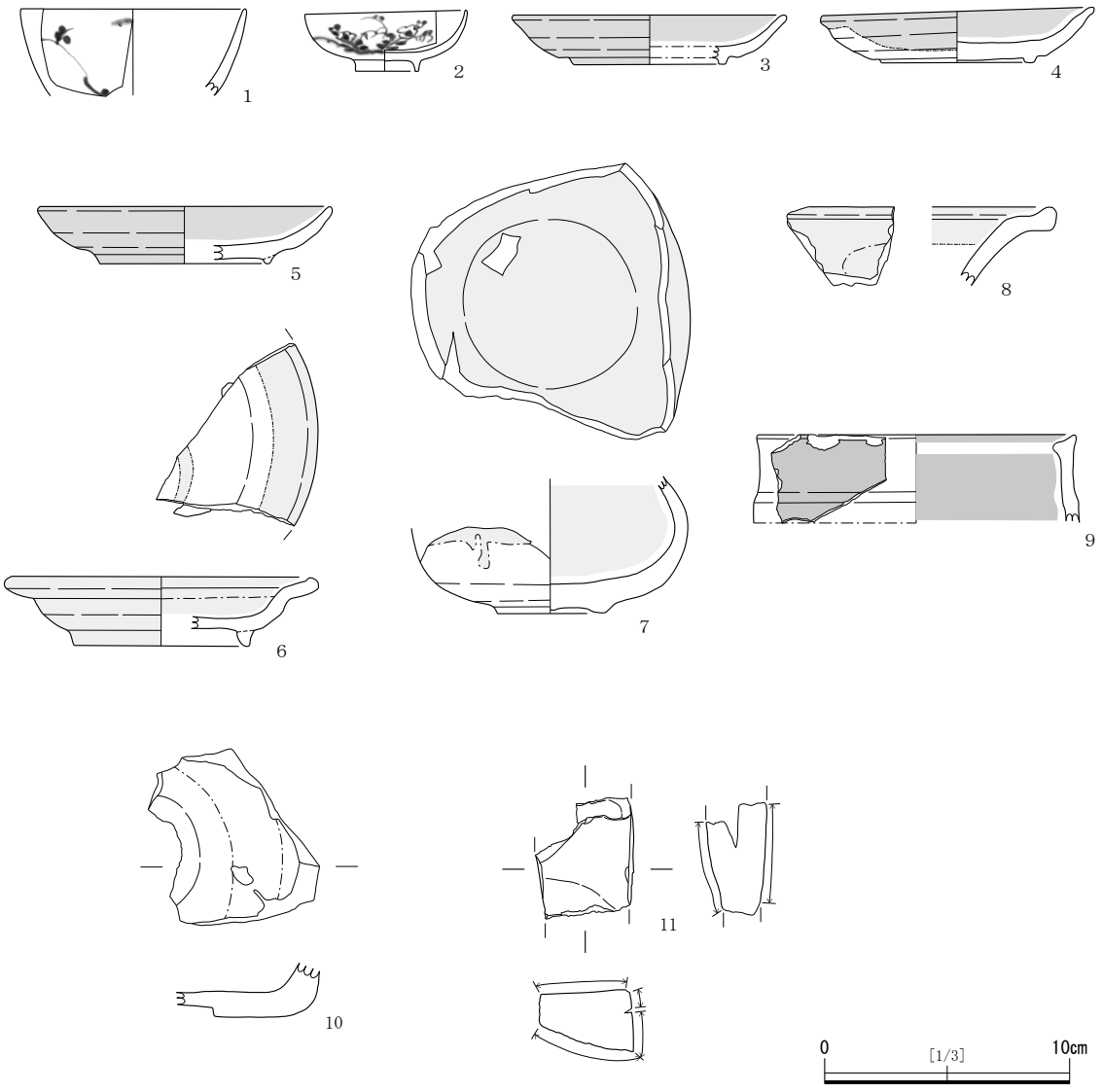
各ピットからの出土遺物は以下のとおりである。Ｋ21号ピットから磁器碗１点(2.7ｇ)、Ｋ41号ピットから磁器碗１点(9.2ｇ)、Ｋ81号ピットから陶器碗１点(2.3ｇ)、陶器鉢１点(46.0ｇ)、Ｋ162号ピットから鉄製釘１点(3.8ｇ)、Ｋ210号ピットから不明石製品１点(8.7ｇ)である。総点数６点、総重量72.7ｇで、このうち１点を図化した。

第289図１は瀬戸・美濃産の陶器鉢の底部片である。内外面に施釉され、見込みに鉄絵が施されている。Ｋ81号ピット出土である。18世紀後半の所産である。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

(７)遺構外出土遺物(第290図、第65表、図版161－２)

近世の遺構外出土遺物は、磁器碗21点(72.0ｇ)、磁器皿３点(20.5ｇ)、磁器小杯５点(34.7ｇ)、磁器瓶１点(5.4ｇ)、磁器鉢１点(2.0ｇ)、磁器段重蓋１点(4.5ｇ)、陶器碗７点(34.8ｇ)、陶器皿10点(103.4ｇ)、陶器香炉２点(70.4ｇ)、陶器擂鉢４点(84.2ｇ)、陶器鉢５点(268.4ｇ)、陶器徳利１点



第290図　13区近世遺構外出土遺物[1/3]

(32.5ｇ)、不明陶器１点(4.0ｇ)、土器七輪１点(24.5ｇ)、石製品(砥石・軽石)３点（88.7ｇ)、鉄滓６点(303.1ｇ)である。総点数72点、総重量1,153.1ｇである。そのうち11点を図化した。

第290図１・２は肥前産磁器である。１は染付丸形碗の口縁部～体部片である。外面には雪輪文が呉須により染め付けられている。18世紀後半の所産である。２は染付小杯で、口縁部～体部4/5残存、底部完存している。外面には呉須により草花文が染め付けられえている。18世紀後半の所産である。３～６は瀬戸・美濃産陶器皿である。

第290図３～５は志野皿で二次焼成を受けている。４はほぼ完形で見込みに目跡が３ヶ所残る。５は残存1/2で見込みに目跡が１ヶ所残る。３は16世紀前半、４～５は17世紀前半の所産である。第290図６は灰釉折縁皿で口縁部～底部1/4である。内面口縁部にハケ塗りによる灰釉が施され、見込みには鉄絵の一部が残る。17世紀前半の所産である。第290図７は唐津産陶器灰釉鉢である。体部下半～底部が残存しているが、歪みが著しい。外面に鉄絵の一部が残る。16世紀末～17世紀中頃の所産である。第290図８～10は瀬

戸・美濃産陶器である。８灰釉折縁鉢の口縁部片で18世紀の所産である。第290図９は鉄釉香炉の口縁部片、10は底部片である。10は脚が１ヶ所残る。どちらも18世紀後半の所産である。

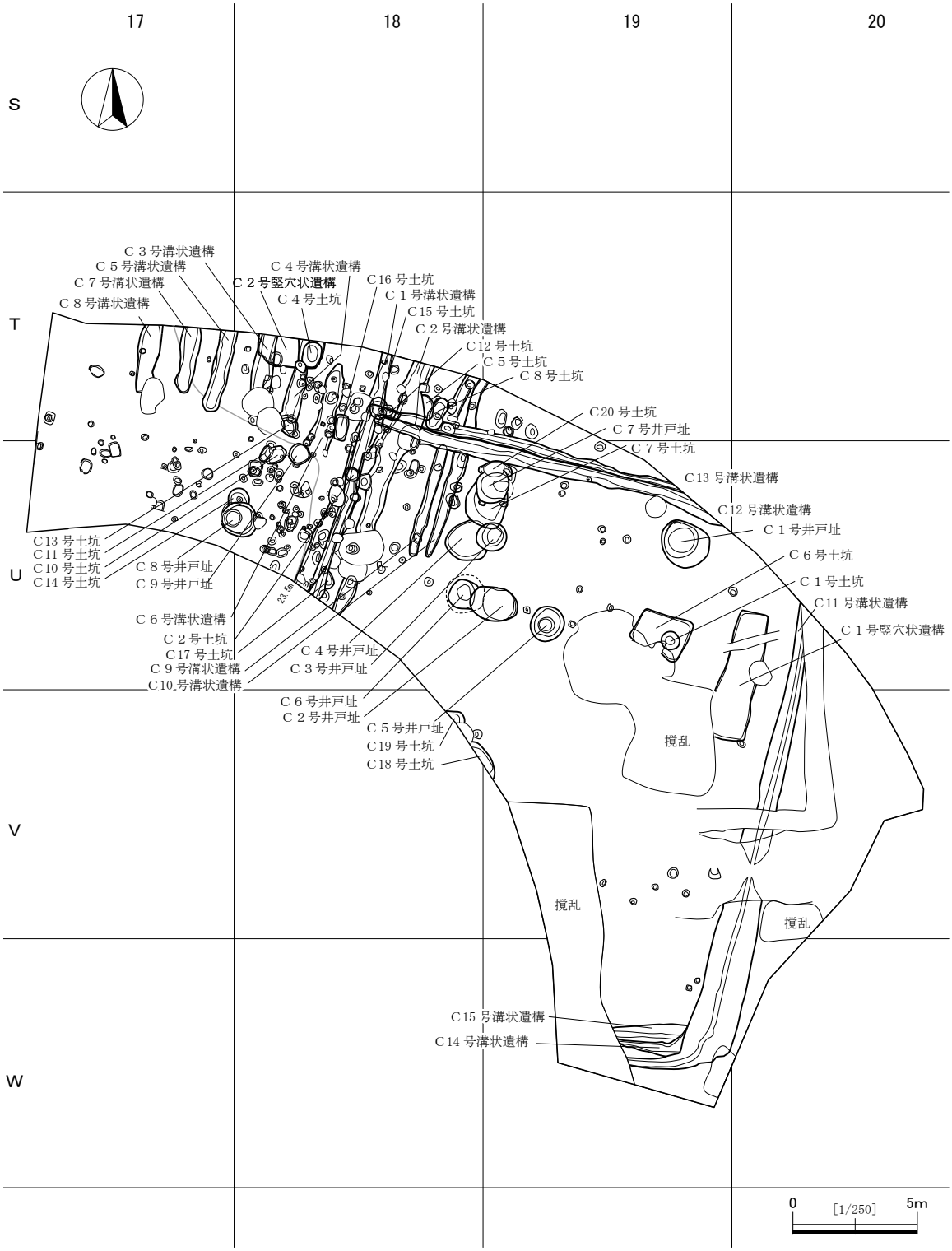
第290図11は石製品砥石である。両端部は欠損しており、３面使用している。石材は流紋岩である。

第65表　13区近世遺構外出土遺物観察表［第290図］

No.	器種	種別	()＝現存値〔〕＝復元値 口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	残存度	産地	時期	観察内容
1	染付丸形碗	磁器	〔9.2〕	—	(3.5)	11.5	口縁部～体部1/6	肥前	18世紀後半	素地 灰白色、緻密 焼成 堅緻 釉薬 呉須に透明釉 文様 雪輪文
2	染付小杯	磁器	6.6	2.5	2.5	28.2	口縁部～体部4/5・底部完存	肥前	18世紀後半	素地 灰白色、緻密 焼成 堅緻 釉薬 呉須に透明釉 文様 草花文 備考 紅皿
3	志野皿	陶器	〔11.0〕	〔5.9〕	2.0	18.8	口縁部～体部下部1/4・底部わずかに残る	瀬戸・美濃	16世紀前半	胎土 にぶい黄橙色、やや粗、黒色粒を含む 焼成 良好 釉薬 長石釉 備考 ２次焼成を受けている
4	志野皿	陶器	11.0	5.8	2.2	128.2	ほぼ完形	瀬戸・美濃	17世紀前半	胎土 灰白色、密、黒色粒を含む 焼成 良好 釉薬 長石釉 備考 見込目址３ヶ所残
5	志野皿	陶器	〔11.8〕	〔6.8〕	2.4	60.5	1/2	瀬戸・美濃	17世紀前半	胎土 灰白色、密、黒色粒を含む 焼成 良好 釉薬 長石釉 備考 ２次焼成を受けている、見込目址３ヶ所残
6	灰釉折縁皿	陶器	〔12.2〕	〔7.0〕	2.8	44.9	口縁部～底部1/4	瀬戸・美濃	17世紀前半	胎土 灰白色、密 焼成 良好 釉薬 口縁部灰釉、見込み鉄釉 備考 釉薬ハケ塗り、貼り付け高台
7	灰釉鉢	陶器	—	4.0	(6.4)	222.6	体部下部～底部完存	唐津	16世紀末～17世紀中頃	胎土 灰白色、密 焼成 良好 釉薬 灰釉 文様 鉄絵一部残 備考 つけ掛け、全体に歪みあり
8	灰釉折縁鉢	陶器	—	—	(3.2)	22.0	口縁部破片	瀬戸・美濃	18世紀	胎土 浅黄色、やや粗 焼成 やや不良 釉薬 淡黄色灰釉
9	鉄釉香炉	陶器	〔13.0〕	—	(3.6)	14.3	口縁部1/8	瀬戸・美濃	18世紀後半	胎土 浅黄色、密 焼成 良好 釉薬 外面～内面口縁上部鉄釉、内面口縁下から錆釉
10	鉄釉香炉	陶器	—	—	(2.2)	56.1	底部1/4	瀬戸・美濃	18世紀後半	胎土 淡黄色、やや粗 焼成 良好 釉薬 鉄釉 備考 脚１ヶ所残、内面無釉
No.	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	観察内容			
11	砥石	流紋岩	(15.0)	4.0	2.7	66.7	残存率 両端部欠損 備考 上下面・側面の３面使用			

２．中　世

13区で発見された中世の遺構は竪穴状遺構２基、溝状遺構15条、井戸址９基、土坑18基、ピット201基、炭化物範囲１ヶ所である。



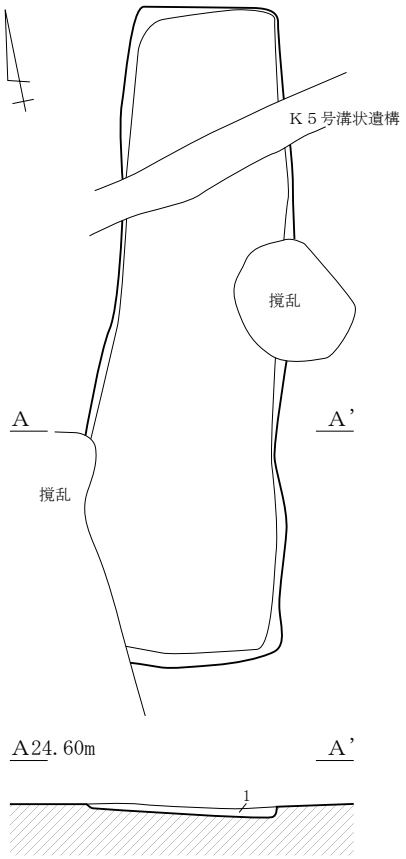
第291図　13区　中世遺構配置図[1/250]

13区は台地西側の裾部に位置している。本来の地形は、東から西に向かって傾斜していて、西側は谷戸地形を呈しているが、傾斜部分は中世に埋め立てられて平地となっていた。東側及び南東側はローム層まで削平されており、調査区中央から南東側の広い範囲が撹乱を受けていたが、中世の遺構や遺物が多数発見された。遺構は基本土層Ⅳ層上面で確認され、ほぼ全体に分布がみられるが、南側はやや希薄になる。中世において井戸や柱痕の残るピットの存在から生活域の展開が北側にあると想定される。

中世の出土遺物は舶載磁器青磁碗８点(65.７ｇ)、青磁皿１点(7.８ｇ)、青磁鉢１点(9.９ｇ)、陶器碗５点(89.１ｇ)、陶器皿５点(273.４ｇ)、陶器卸し皿１点(6.５ｇ)、陶器甕40点(1,803.０ｇ)、陶器瓶２点(8.９ｇ)、陶器鉢２点(9.６ｇ)、陶器片口鉢２点(25.９ｇ)、陶器擂鉢６点(348.５ｇ)、陶器香炉２点(34.０ｇ)、瓦質火鉢８点(449.３ｇ)、かわらけ624点(3,407.６ｇ)、金属製品(鎌・刀子・釘・鍋・円環状)８点(161.８ｇ)、銭貨４点(8.37ｇ)、石製品(火打石･盆石･石臼･不明)７点(9,056.３ｇ)、木製品(桶底･かご･板状・棒状・不明)32点、種子15点、炭化物21点、鉄滓４点(202.０ｇ)、総点数777点、総重量15,967.67ｇである。

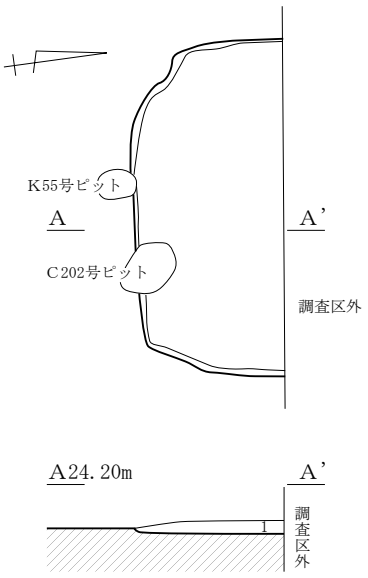
種類も豊富であり、井戸址から出土の木製品など注目される。

Ｃ１号竪穴状遺構

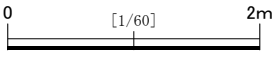


第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、乳白色土ブロック（粘土層）含む。

Ｃ２号竪穴状遺構



第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。



第292図　13区Ｃ１・２号竪穴状遺構[1/60]

（１）　竪穴状遺構

Ｃ１号竪穴状遺構（第291 ～ 293図、第66表、図版66－１・162）

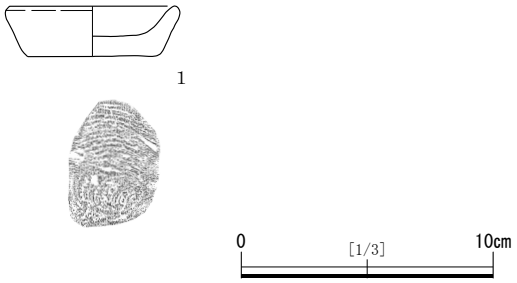
Ｕ19・20、Ｖ19・20グリッド境で発見された。南西角及び東壁中央は攪乱に壊されている。北側はＫ５号溝状遺構に横断されている。検出面の標高は24.25ｍである。平面形は南北に長く南側がやや広がる長方形を呈し、長軸方位はＮ－16°－Ｅを示す。検出規模は長軸5.28ｍ、短軸は北側が1.22ｍ、南側が1.48ｍ以上で、確認面からの深さは0.03 ～ 0.05ｍを測る。底面はやや緩やかな凹凸があり、断面形は皿状に近い。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物はかわらけ１点（27.0ｇ）が出土し、図化した。

第293図１はかわらけである。底部に回転糸切り痕を残す。14世紀後半～ 15世紀の所産である。

遺構の時期は出土遺物から14世紀後半～ 15世紀と考えられる。



第293図　13区Ｃ１号竪穴状遺構出土遺物[1/3]

第66表　13区Ｃ１号竪穴状遺構出土遺物観察表［第293図］

No.	器種	種別	()＝現存値 〔〕＝復元値 口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	重量（g）	残存度	産地	時期	観察内容
1	かわらけ	土器	〔6.6〕	5.2	2.0	27.0	口縁部 1/4 体部～底部 1/2	在地	14世紀後半～15世紀	胎土 橙色、密、白色針状物質・角閃石・雲母を含む 焼成 良好 備考 底部回転糸切り痕

Ｃ２号竪穴状遺構（第291・292図、図版66－２）

Ｔ18グリッド南西側で発見された。北側は調査区外へ延びる。南側はＫ55号、Ｃ202号ピットに切られている。検出面の標高は23.95ｍである。平面形は方形或いは不整方形を呈すると思われる。検出規模は東西2.70ｍ、南北1.18ｍ以上で、確認面からの深さは0.10ｍを測る。底面は平坦で、断面形は皿状に近い。

覆土は茶褐色土の単層である。

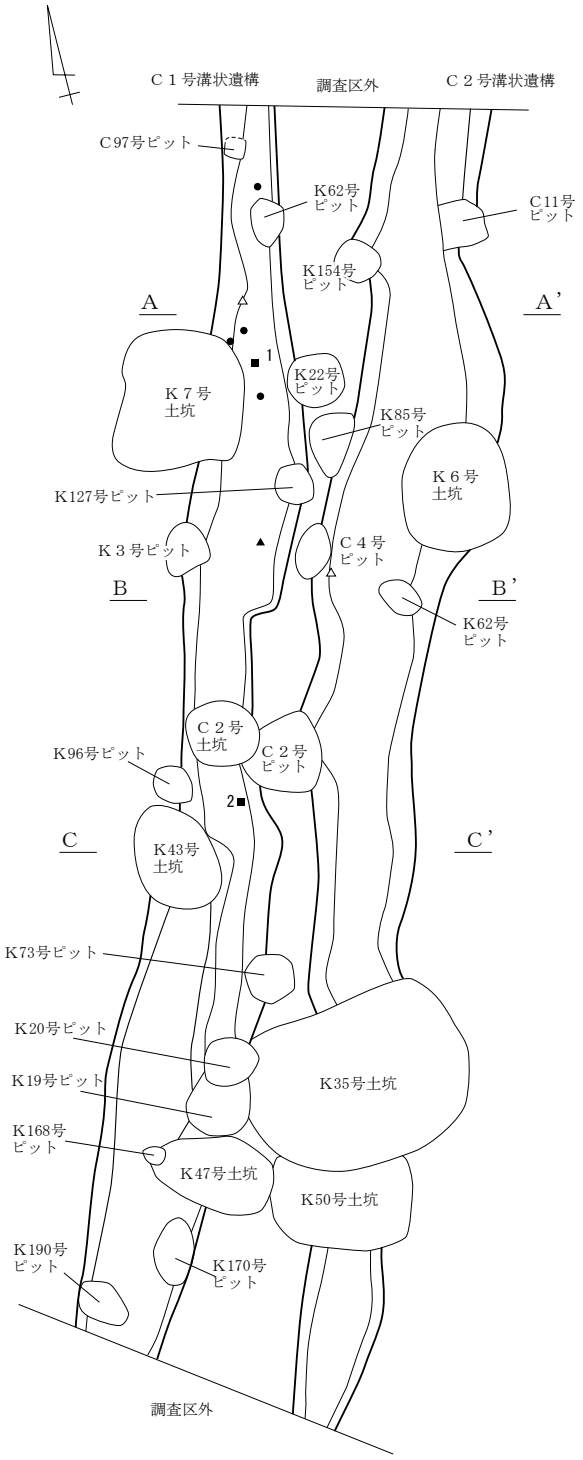
遺物はかわらけ１点（4.4ｇ）が出土したが、小片のため図化していない。

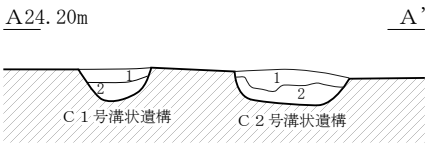
遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

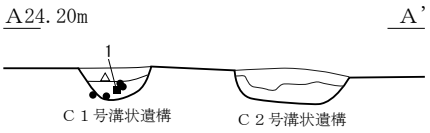
（２）溝状遺構

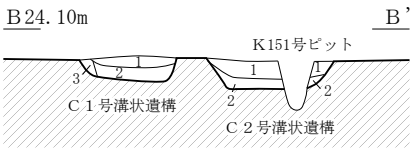
Ｃ１号溝状遺構（第291・294・295図、第67表、図版67－１・162）

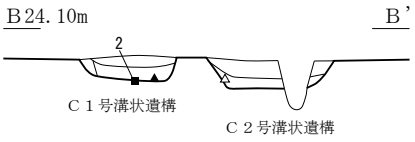
Ｔ・Ｕ18グリッド境中央で発見された。主軸方位はＮ－18°－Ｅを示し、両端は調査区外へ延伸する。Ｃ２号溝状遺構と並走している。全体的に近世土坑、近世ピット、中世土坑、中世ピットに多く切られている。検出面の標高は23.90ｍである。検出規模は全長10.15ｍ、幅0.45 ～ 1.07ｍ、確認面からの深さは0.20 ～

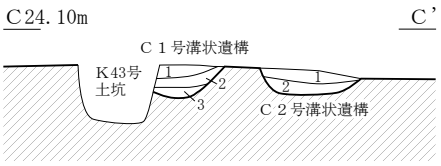












Ｃ１号溝状遺構
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、焼土粒微量、ローム粒少量含む。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。
第３層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量、暗褐色土ブロック少量含む。

Ｃ２号溝状遺構
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、第１層よりもしまりやや強い。

● 土器
■ 石器・石製品
▲ 金属製品
△ 炭化物

0　[1/60]　2m

第294図　13区Ｃ１・２号溝状遺構[1/60]

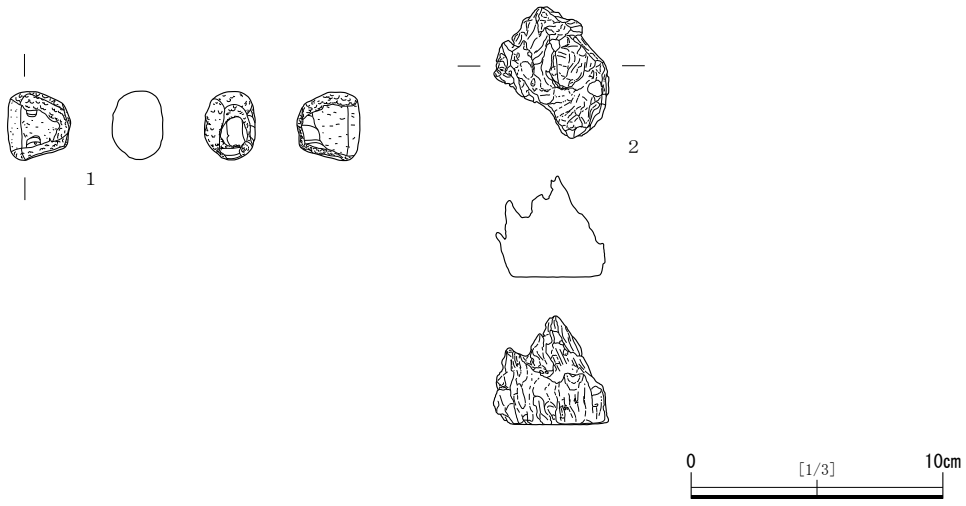
0.27ｍを測る。断面形は碗形或いは逆台形を呈している。

覆土は茶褐色土の３層に分層され、第２層は橙色スコリアが少量となり、第３層は暗褐色土ブロックが少量含まれる。

遺物はかわらけ25点(177.1ｇ)、常滑産陶器甕１点(12.3ｇ)、産地不明陶器甕１点(49.2ｇ)、石製品(火打石・盆石)２点(736.6ｇ)、鉄滓１点(105.9ｇ)、総点数30点、総重量1,081.1ｇである。そのうち２点を図化した。

第295図１・２は石製品である。１は火打石で一部に打痕が残る。材質は瑪瑙である。２は盆石である。完形で山を表現しており、石材は緑石片岩である。

遺構の時期は、並走するＣ２号溝状遺構と規模や覆土が類似し同時に存在していた可能性があり、そのＣ２号溝状遺構は14世紀後半には埋まったものと考えられることから、本遺構も同時期であると推定される。



第295図　13区Ｃ１号溝状遺構出土遺物[1/3]

第67表　13区Ｃ１号溝状遺構出土遺物観察表［第295図］

No.	種別	材質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	観察内容
1	火打石	瑪瑙	2.7	2.5	2.0	19.7	備考 稜線に打痕あり
2	盆石	緑石片岩	10.4	9.1	8.6	716.9	残存度 完形 備考 山を表す

Ｃ２号溝状遺構(第291・294・296図、第68表、図版67－１・162)

Ｔ・Ｕ18グリッド境東寄りで発見された。主軸方位はＮ－18°－Ｅを示し、両端は調査区外へ延伸する。Ｃ１号溝状遺構と並走している。全体的に近世土坑、近世ピット、中世ピットに多く切られている。検出面の標高は北側が23.90ｍである。検出規模は全長10.70ｍ、幅0.50～1.15ｍ、確認面からの深さは0.17～0.26ｍを測る。断面形は逆台形を呈している。

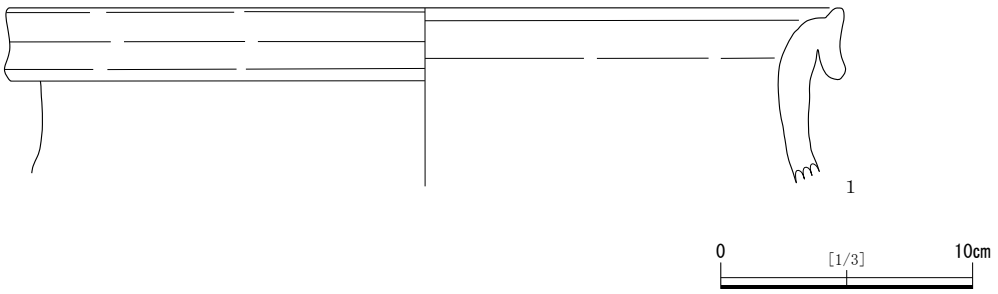
覆土は褐色土で２層に分層される。第２層は第１層より橙色スコリアが少なく、しまりがやや強い。

遺物はかわらけ４点(20.1ｇ)、常滑産陶器甕１点(144.6ｇ)、総点数５点、総重量164.7ｇである。そ

のうち１点を図化した。

第296図１は常滑産陶器甕の口縁部片である。14世紀後半の所産である。

遺構の時期は、出土遺物から14世紀後半には埋まったものと考えられる。



第296図　Ｃ２号溝状遺構出土遺物[1/3]

第68表　13区Ｃ２号溝状遺構出土遺物観察表［第296図］

No.	器種	種別	()＝現存値 〔〕＝復元値 口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	残存度	産地	時期	観察内容
2	甕	陶器	〔33.0〕	－	(7.0)	144.6	口縁部 1/8	常滑	14世紀後半	胎土 褐灰色、密、白色粒を含む 焼成 良好 備考 常滑甕第２段階８型式

Ｃ３号溝状遺構（第291・297図、図版67－２）

Ｔ18グリッド西側で発見された。主軸方位はＮ－９°－Ｅを示し、北端は調査区外へ延伸する。南側はＫ２号井戸址に切られている。検出面の標高は23.67ｍである。検出規模は全長2.32ｍ、幅0.62～0.82ｍ、確認面からの深さは0.19ｍを測る。断面形は逆台形を呈している。

覆土は第１層黄褐色土、第２層茶褐色土、第３層暗茶褐色土の３層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

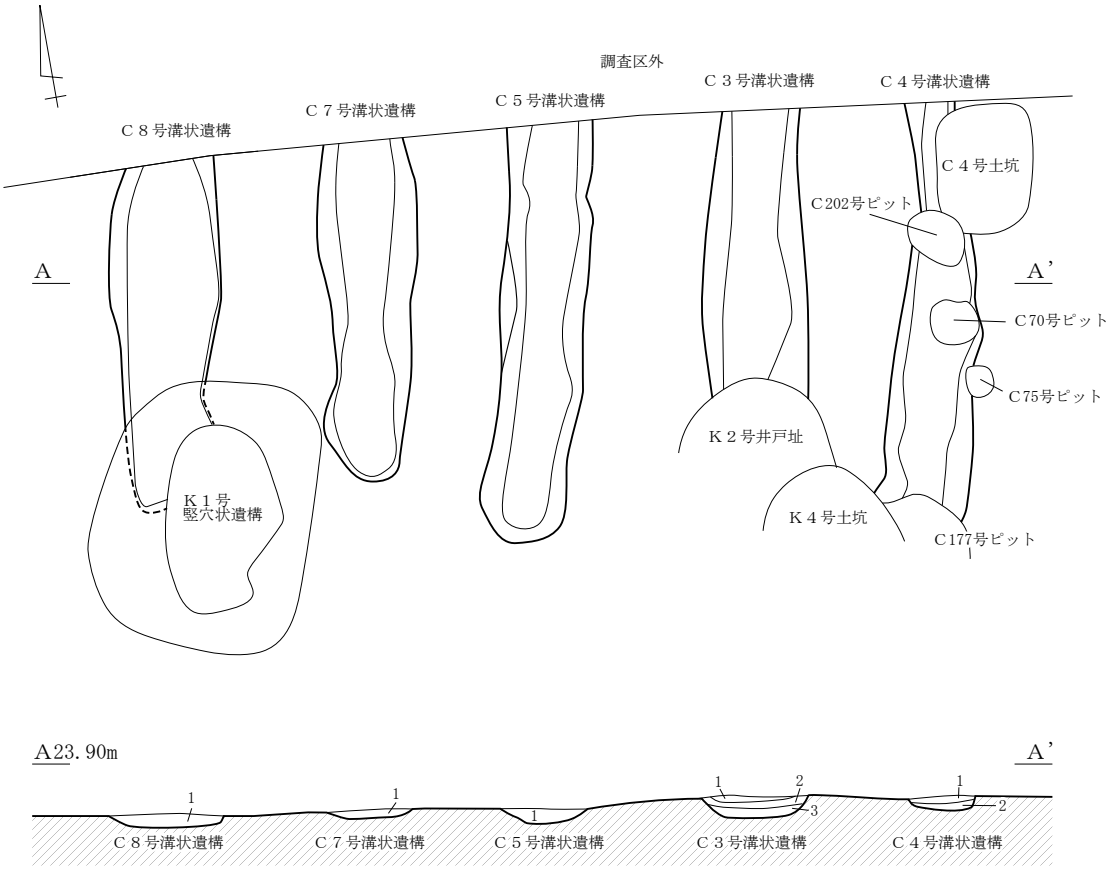
Ｃ４号溝状遺構（第291・297図、図版67－２）

Ｔ18グリッド西側で発見された。主軸方位はＮ－13°－Ｅを示し、北端は調査区外へ延伸する。北側の東壁はＣ４号土坑、南側はＫ４号土坑、Ｃ177号ピットに切られている。検出面の標高は23.66ｍである。検出規模は全長3.35ｍ、幅0.55～0.75ｍ、確認面からの深さは0.12ｍを測る。断面形は皿状を呈している。

覆土は茶褐色土と暗褐色土の２層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



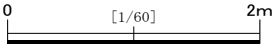
Ｃ３号溝状遺構
第１層　黄褐色土　粘性・しまりやや強い。ローム主体。茶褐色土ブロック微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。
第３層　暗茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、茶褐色土ブロック微量含む。

Ｃ４号溝状遺構
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、暗褐色土微量含む。
第２層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、茶褐色土ブロック微量含む。第１層より橙色スコリアやや少ない。

Ｃ５号溝状遺構
第１層　暗茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。

Ｃ７号溝状遺構
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。

Ｃ８号溝状遺構
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。



第297図　13区Ｃ３～５・７・８号溝状遺構[1/60]

Ｃ５号溝状遺構（第291・297図、図版67－２）

Ｔ17・18グリッド東端で発見された。主軸方位はＮ－15°－Ｅを示し、北端は調査区外へ延伸する。西約0.70ｍにＣ７号溝状遺構、東約0.80ｍにＣ３号溝状遺構が確認されている。検出面の標高は23.55ｍである。検出規模は全長3.36ｍ、幅0.65ｍ、確認面からの深さは0.50ｍを測る。断面形は皿状を呈する。

覆土は暗茶褐色土の単層である。

遺物は舶載磁器碗１点（7.1ｇ）、かわらけ２点（5.3ｇ）、総点数３点、総重量12.4ｇが出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｃ６号溝状遺構（第291・298図、図版67－２）

Ｔ・Ｕ18グリッド境西寄りで発見された。主軸方位はＮ－15°－Ｅを示し、南側はＫ53号土坑、Ｃ９号井戸址に切られており、全体的に近世土坑、近世ピット、中世ピットに多く切られている。検出面の標高は23.65ｍである。検出規模は全長3.95ｍ、幅0.70～0.95ｍ、確認面からの深さは0.08ｍを測る。断面形は皿状を呈している。

覆土は茶褐色土と暗褐色土の２層に分層される。

遺物はかわらけ２点（7.3ｇ）が出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｃ７号溝状遺構（第291・297図、図版67－２）

Ｔ17グリッド南東側で発見された。主軸方位はＮ－９°－Ｅを示し、北端は調査区外へ延伸する。西約0.75ｍにＣ８号溝状遺構、東約0.70ｍにＣ５号溝状遺構が確認されている。検出面の標高は23.55ｍである。検出規模は全長2.68ｍ、幅0.60～0.80ｍ、確認面からの深さは0.06ｍを測る。断面形は皿状を呈している。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｃ８号溝状遺構（第291・297図、図版67－２）

Ｔ17グリッド南東側で発見された。主軸方位はＮ－８°－Ｅを示し、北端は調査区外へ延伸する。東約0.75ｍにＣ７号溝状遺構が確認されている。検出面の標高は23.52ｍである。検出規模は全長2.75ｍ、幅0.70～0.90ｍ、確認面からの深さは0.10ｍを測る。断面形は皿状を呈している。

覆土は茶褐色土の単層である。

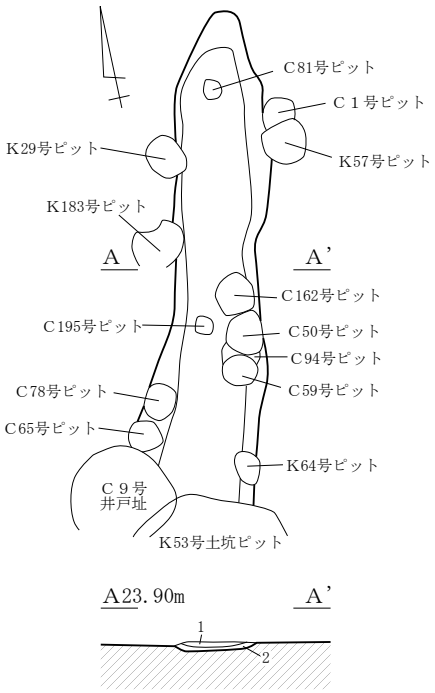
遺物はかわらけ１点（2.1ｇ）が出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｃ９号溝状遺構（第291・298図、図版68－１）

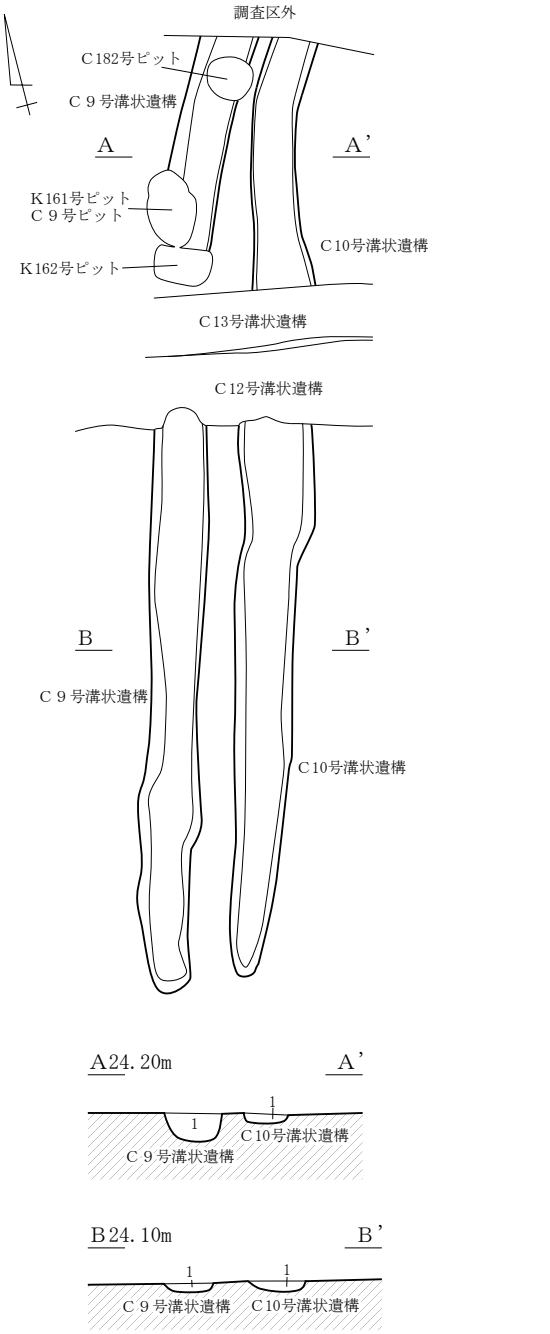
Ｔ・Ｕ18グリッド境東側で発見された。主軸方位はＮ－17°－Ｅを示し、北側は調査区外へ延伸する。Ｃ10号溝状遺構と並走している。北から2.00～3.00ｍではＣ12・13号溝状遺構に切られている。また、

Ｃ６号溝状遺構



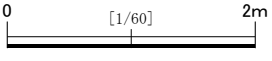
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量、暗褐色土ブロック微量含む。
第２層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、茶褐色土ブロック微量含む。第１層よりも橙色スコリアやや少ない。

Ｃ９・10号溝状遺構



Ｃ９号溝状遺構
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒少量含む。

Ｃ10号溝状遺構
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒中量含む。



第298図　13区Ｃ６・９・10号溝状遺構[1/60]

Ｋ161 ～ 162 号、Ｃ９号、Ｃ 182 号に切られている。検出面の標高は23.90ｍである。検出規模は全長7.65ｍ、幅0.45ｍ、確認面からの深さは0.06 ～ 0.21ｍを測る。断面形は皿状或いは碗形を呈している。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｃ10号溝状遺構（第291・298図、図版68－１）

Ｔ・Ｕ18グリッド境東端で発見された。主軸方位はＮ－17°－Ｅを示し、北側は調査区外へ延伸する。Ｃ９溝状遺構と並走している。北から2.00 ～ 3.00ｍではＣ12・13号溝状遺構に切られている。検出面の標高は23.90ｍである。検出規模は全長7.50ｍ、幅0.50ｍ、確認面からの深さは0.06ｍを測る。断面形は皿状を呈している。

覆土は茶褐色土の単層である。

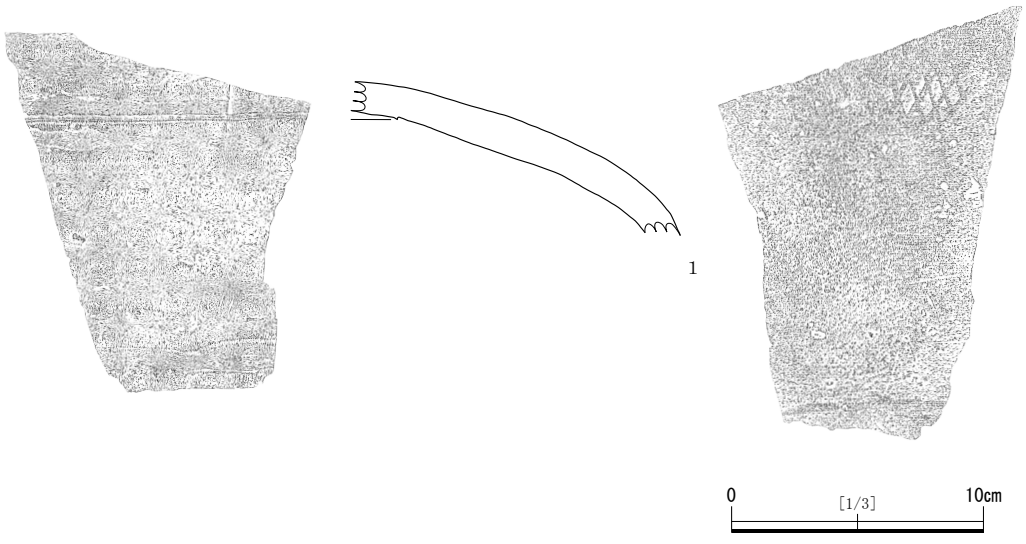
遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｃ11号溝状遺構（第291・299 ～ 301図、第69表、図版68－２・69－１・162）

Ｖ～Ｗ19、Ｕ～Ｗ20グリッドで発見された。中央部分はＫ６、10号溝状遺構に切られている。北側調査区壁から南西へ向かい、Ｗ19グリッドで直角に西へ向きを変え、調査区外へ延伸する。検出面の標高は24.94ｍである。検出規模は北東―南西間19.60ｍ、東西5.00ｍ、幅1.75ｍ、確認面からの深さは1.13ｍを測る。断面形はＶ字形を呈する。Ｃ13号溝状遺構と同一遺構とすると東西約18ｍ・南北約21ｍの範囲を囲む区画溝の可能性が考えられる。

覆土は粘性・しまりが強く、７層に分層される。



第299図　13区Ｃ11号溝状遺構出土遺物[1/3]

第69表　13区Ｃ11号溝状遺構出土遺物観察表［第299図］

No.	器種	種別	()＝現存値 〔〕＝復元値			重量(g)	残存度	産地	時期	観察内容
			口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)					
1	甕	陶器	—	—	(6.1)	319.5	肩部破片	常滑	中世	胎土 灰色、密、白色粒・小礫を含む 焼成 良好 備考 外面にぶい赤褐色、内面暗褐色、表面格子目状の敲き目

遺物は常滑産陶器甕４点(544.７ｇ)、かわらけ２点(5.２ｇ)、総点数６点、総重量549.９ｇである。そのうち１点を図化した。

第299図１は常滑産陶器甕の肩部破片である。外面に格子目状の叩き目が残る。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｃ12号溝状遺構（第291・302図、図版69－２）

Ｔ・Ｕ18、Ｕ19グリッド境で発見された。主軸方位はＮ－75°－Ｗを示し、南東端は調査区外へ延伸する。北側にＣ13号溝状遺構が確認されている。検出面の標高は約23.87ｍである。検出規模は全長約14.80ｍ、幅約0.65ｍ、確認面からの深さは約0.40ｍを測る。断面形は逆台形を呈している。

覆土は暗茶褐色土で５層に分層される。

遺物は瀬戸・美濃産陶器皿１点(51.５ｇ)、かわらけ11点(40.０ｇ)、総点数12点、総重量91.５ｇが出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｃ13号溝状遺構（第291・302・303図、第70表、図版162）

Ｔ・Ｕ18、Ｔ・Ｕ19グリッド境で発見された。東側調査区壁から北西へ向かい、Ｔ18グリッドで直角に南西へ向きを変え、調査区外へ延伸する。検出面の標高は23.67 ～ 23.88ｍである。検出規模は東西13.00ｍ、南北8.20ｍ、幅0.40 ～ 0.55ｍ、確認面からの深さは0.31ｍを測る。断面形はＶ字形、逆台形を呈する。Ｃ11号溝状遺構と同一遺構とすると東西約18ｍ・南北約21ｍの範囲を囲む区画溝の可能性が考えられる。

覆土は茶褐色土、明茶褐色土、暗褐色土で３～４層に分層される。

遺物は舶載磁器青磁碗１点(3.９ｇ)、瓦質土器火鉢１点(275.５ｇ)、かわらけ34点(581.５ｇ)、総点数36点、総重量860.９ｇである。そのうち５点を図化した。

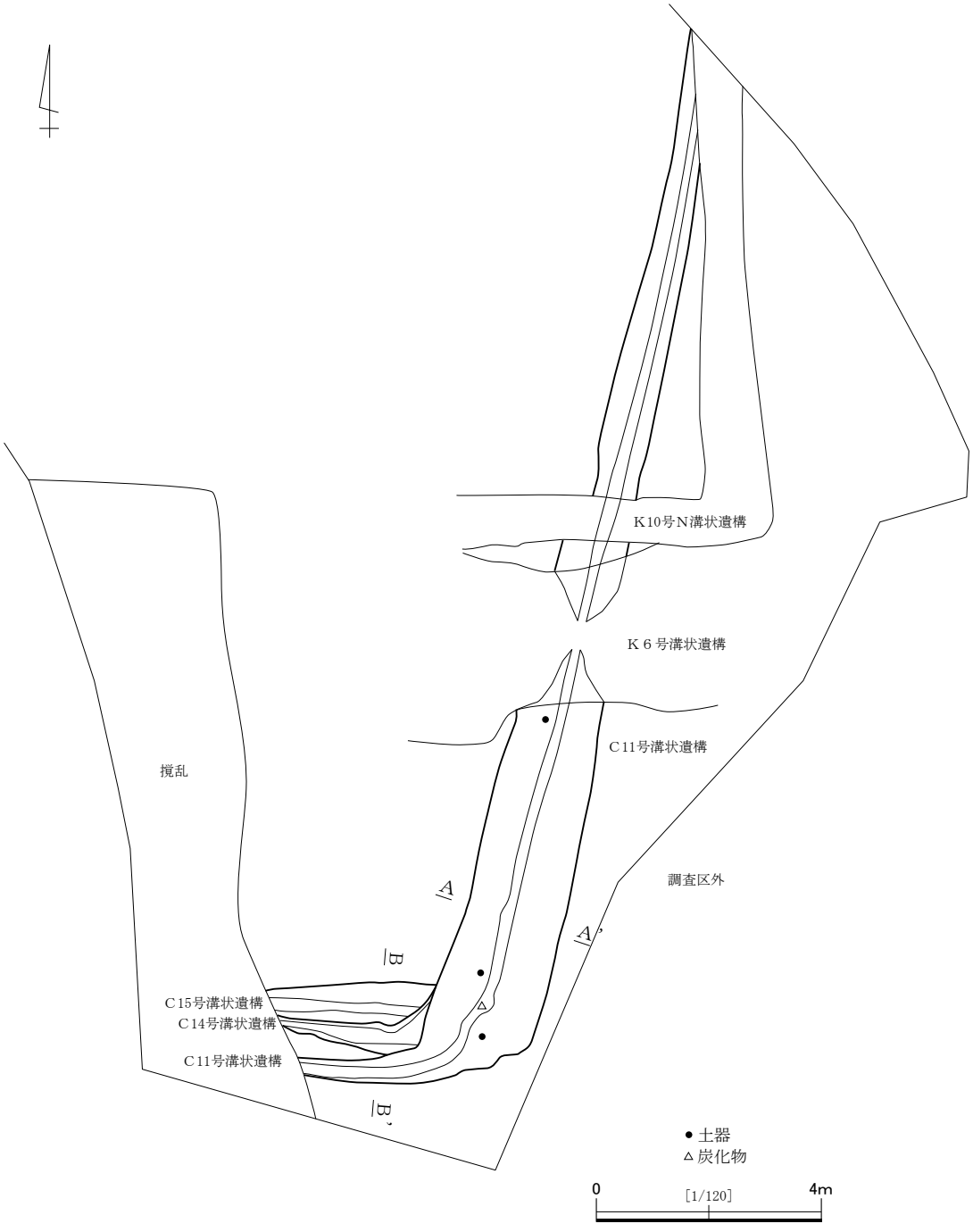
第303図１は瓦質土器火鉢である。口縁部1/5、底部1/4弱、脚部１脚残存しており、外面は黒色でミガキが施され、口縁は輪花状である。15世紀の所産である。

第303図２～５はかわらけである。口径が12㎝代、器高は３～４㎝である。２は体部内外面及び底部に煤が付着している。14世紀後半～15世紀の所産である。

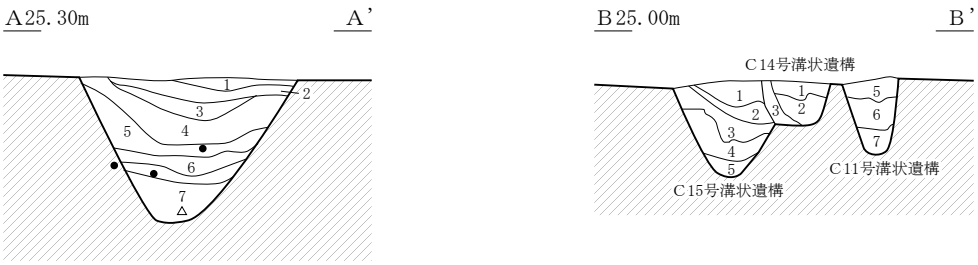
遺構の時期は検出状況、出土遺物から14世紀後半～15世紀と考えられる

Ｃ14号溝状遺構（第291・299・301図、図版69－１）

Ｗ19グリッド南側で発見された。主軸方位はＮ－84°－Ｗを示し、西側は攪乱により壊されているが調査区外へ延伸すると考えられる。北側にＣ15号溝状遺構、南側にＣ11号溝状遺構が確認されている。検出面の標高は24.60ｍである。検出規模は全長3.00ｍ、幅0.55ｍ、確認面からの深さは0.33ｍを測る。断面形は逆台形に近い。東側でＣ11号溝状遺構に切られる様相を呈しているが、合流または作り直しの可能性が考えられる。



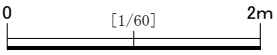
第300図　13区Ｃ11・14・15号溝状遺構（１）［1/120・1/60］



C11号溝状遺構
第１層　褐色土
第２層　暗茶褐色土　粘性やや強い、しまり強い。径１～２㎜の橙色スコリアやや多量含む。
第３層　明茶褐色土　粘性やや強い、しまり強い。径１～３㎜の橙色スコリアやや多量、明茶褐色土ブロック微量含む。
第４層　暗黄褐色土　粘性・しまりやや強い。ローム主体。
第５層　暗黄褐色土　粘性・しまりやや強い。ローム主体。暗茶褐色土ブロック微量含む。
第６層　茶褐色土　　粘性・しまりあり。ローム粒微量、暗茶褐色土ブロック少量含む。
第７層　淡黄白褐色土　粘性やや強い、しまりあり。暗茶褐色土ブロック微量含む。やや砂質土。

C14号溝状遺構
第１層　明茶褐色土　粘性やや強い、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリアやや多量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。
第２層　暗茶褐色土　粘性・しまりあり。ローム粒少量含む。
第３層　黄褐色土　粘性・しまりやや強い。やや白色身味帯びるローム主体。明茶褐色土少量含む。

C15号溝状遺構
第１層　黄褐色土　粘性・しまりやや強い。やや白色身味帯びるローム主体。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。
第３層　黄褐色土　粘性・しまりやや強い。やや明るいローム主体。茶褐色土ブロック少量含む。
第４層　茶褐色土　粘性・しまりやや強い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量、暗茶褐色土ブロック少量含む。
第５層　暗黄褐色土　粘性やや強い、しまりあり。やや暗いローム主体。やや砂質土。



第301図　13区Ｃ11・14・15号溝状遺構（２）［1/60］

覆土は３層に分層される。

遺物はかわらけ２点(6.7ｇ)、不明木製品１点、総点数３点、総重量6.7ｇが出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

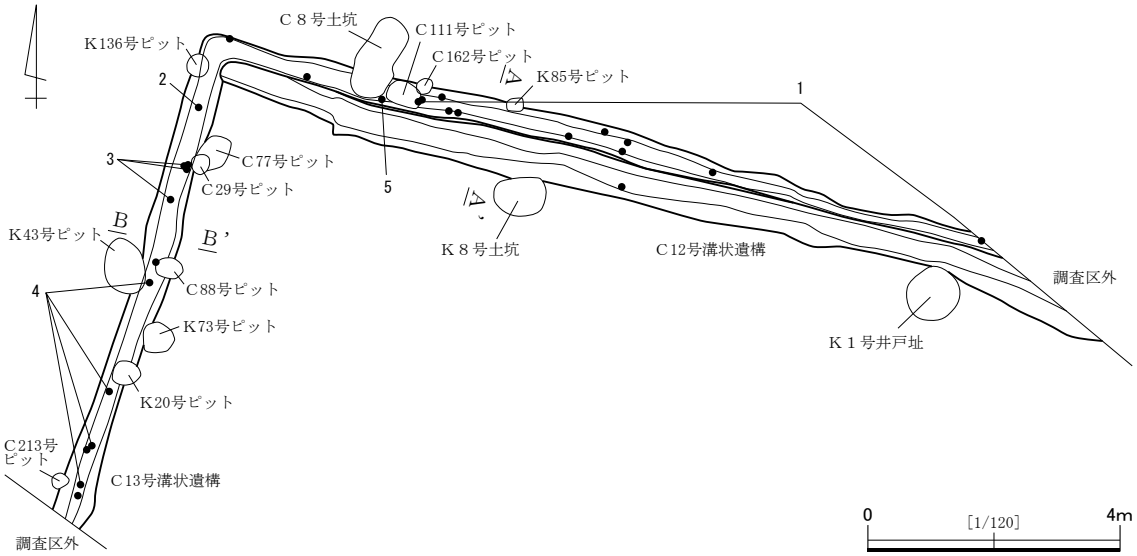
Ｃ15号溝状遺構（第291・300・301図、図版69－１）

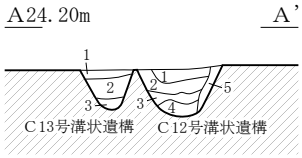
Ｗ19グリッド南側で発見された。主軸方位はＮ－88°－Ｗを示し、西側は攪乱により壊されているが調査区外へ延伸すると考えられる。南側にＣ14、11号溝状遺構が確認されている。検出面の標高は24.61ｍである。検出規模は全長3.70ｍ、幅0.80ｍ、確認面からの深さは0.77ｍを測る。断面形はＶ字形を呈する。東側でＣ11号溝状遺構に切られる様相を呈しているが、合流または作り直しの可能性が考えられる。

覆土は茶褐色土と黄褐色土主体で５層に分層される。

遺物は瀬戸・美濃産陶器鉢１点(5.7ｇ)が出土したが、小片のため図化していない。

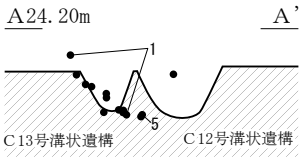
遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。





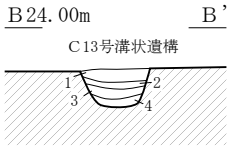
C12号溝状遺構（A-A'）

第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒中量含む。暗茶褐色土ブロック小量含む。
第２層　暗茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒少量含む。
第３層　暗茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。
第４層　暗茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。第７層よりやや明るい。
第５層　暗茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。



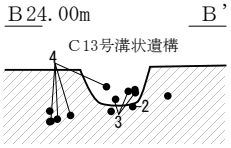
C13号溝状遺構（A-A'）

第１層　明茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒やや多量含む。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。
第３層　暗茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。やや砂質土。



C13号溝状遺構（B-B'）

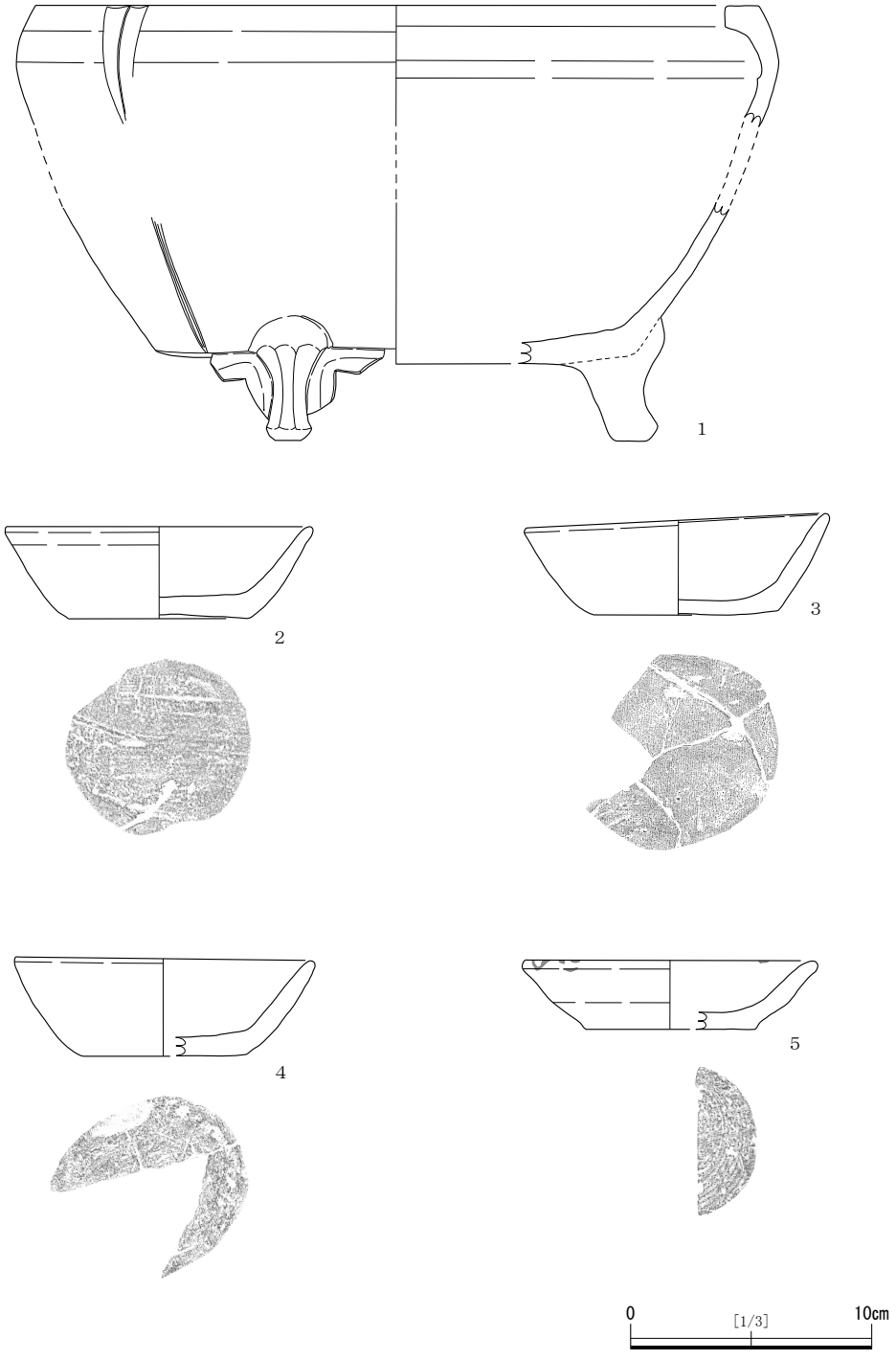
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。ローム粒微量、暗褐色土ブロック少量含む。
第２層　明茶褐色土　粘性あり、しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。やや砂質土。
第３層　暗茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第４層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。第３層よりしまりやや強い。



● 土器

0　[1/60]　2m

第302図　13区C12・13号溝状遺構[1/120・1/60]



第303図　13区Ｃ13号溝状遺構出土遺物[1/3]

第70表　13区Ｃ13号溝状遺構出土遺物観察表［第303図］

No.	器種	種別	()＝現存値 〔〕＝復元値 口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	残存度	産地	時期	観察内容
1	火鉢	瓦質	〔28.7〕	〔19.0〕	(14.9)	275.5	口縁部1/5・底部1/4弱・脚部１脚残る	在地	15世紀	胎土 にぶい橙色、やや粗、黒色粒子・白色粒子を含む 備考外面黒色でミガキ、輪花状口縁
2	かわらけ	土器	〔12.6〕	7.5	3.8	103.7	口縁部1/8・底部1/3・底部7/8	在地	14世紀後半～15世紀	胎土 橙色、密、赤色スコリア・白色針状物質・角閃石・雲母を含む 焼成 やや不良 備考 体部内外面・底部に煤付着
3	かわらけ	土器	12.5	7.5	4.3	114.5	口縁部1/2・体部～底部3/4	在地	14世紀後半～15世紀	胎土 橙色、やや粗、赤色スコリア粒子・角閃石・白色針状物質・石英を含む 焼成 やや不良 備考 底部回転糸切り痕不明瞭
4	かわらけ	土器	12.2	6.8	4.1	121.4	口縁部～底部3/4	在地	14世紀後半～15世紀	胎土 橙色、密、赤色スコリア粒子・角閃石・白色針状物質・石英・雲母を含む 焼成 良好 備考 底部回転糸切り痕不明瞭
5	かわらけ	土器	〔12.0〕	〔7.0〕	2.9	47.5	口縁部～底部1/4	在地	14世紀後半～15世紀	胎土 橙色、やや粗、白色針状物質・角閃石・雲母を含む 焼成 やや不良 備考 口唇部煤付着、底部回転糸切り痕不明瞭

（３）井戸址

Ｃ１号井戸址（第291・304図、図版70－１）

Ｕ19グリッド中央東側で発見された。検出面の標高は24.20ｍである。平面形は上端が東西に長い楕円形、下端は円形を呈する。立面形態は円筒状を呈するが、南東側上端は広がりをもつ。検出規模は上端東西2.04ｍ、南北1.73ｍ、下端径1.10ｍを測る。

覆土は第１層暗黄褐色土、第２層暗茶褐色土、第３層黄褐色土の３層に分層される。

遺物は瀬戸・美濃産陶器卸し皿１点(6.5ｇ)、かわらけ４点(46.2ｇ)、総点数５点、総重量52.7ｇであるが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世後期と推定される。

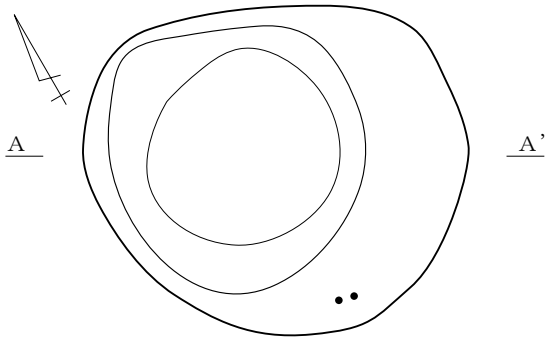
Ｃ２号井戸址（第291・304・305図、第71表、図版70－２・163・164）

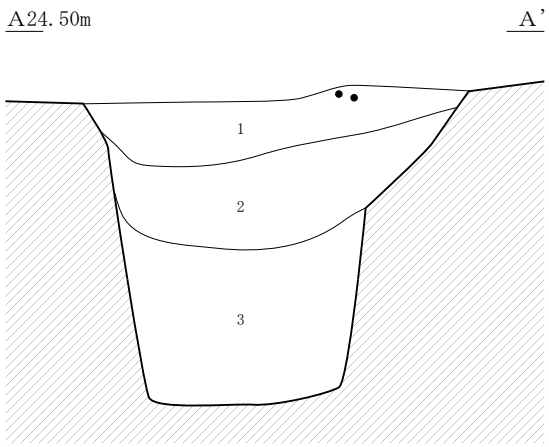
Ｕ18・19グリッド境南側で発見された。検出面の標高は23.45ｍである。平面形は上端、下端とも東西に長い楕円形を呈する。立面形態は円筒状を呈する。検出規模は上端東西1.92ｍ、南北1.33ｍ、下端東西1.39ｍ、南北1.20ｍ、確認面からの深さは1.33ｍを測る。

覆土は茶褐色土を主体に７層に分層される。

遺物は瀬戸・美濃陶器皿１点(128.2ｇ)、産常滑産陶器甕１点(104.9ｇ)、産地不明陶器甕１点(42.0ｇ)、かわらけ９点(35.1ｇ)、石製品石臼(上臼) ２点(6,864.0ｇ)、木製品桶底１点、棒状木製品２点、板状木製品１点、種子１点、総点数19点、総重量7,174.2ｇである。そのうち３点を図化した。

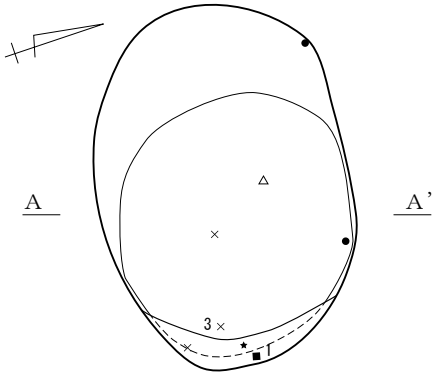
Ｃ１号井戸址

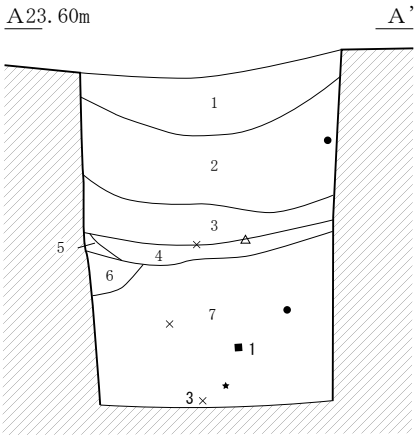




第１層　暗黄褐色土　粘性・しまりやや強い。ローム主体、暗茶褐色土ブロック少量含む。
第２層　暗茶褐色土　粘性・しまりやや強い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、ローム粒微量、明茶褐色土ブロック微量含む。
第３層　茶褐色土　径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。

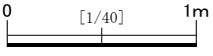
Ｃ２号井戸址





第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量、暗褐色土ブロック微量含む。
第２層　明茶褐色土　粘性やや強い、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量
第３層　茶褐色土　粘性やや強い、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。
第４層　茶褐色土　炭化物粒微量、ローム粒微量含む。第３層よりしまりやや強い。
第５層　暗黄褐色土　粘性やや強い、しまりあり。ローム主体。茶褐色土ブロック少量含む。
第６層　茶褐色土　粘性やや強い、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第７層　暗灰褐色土　粘性やや強い、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。第４層との境目酸化している。

●土器
■石製品
★銭
△炭化物
×木製品・種子

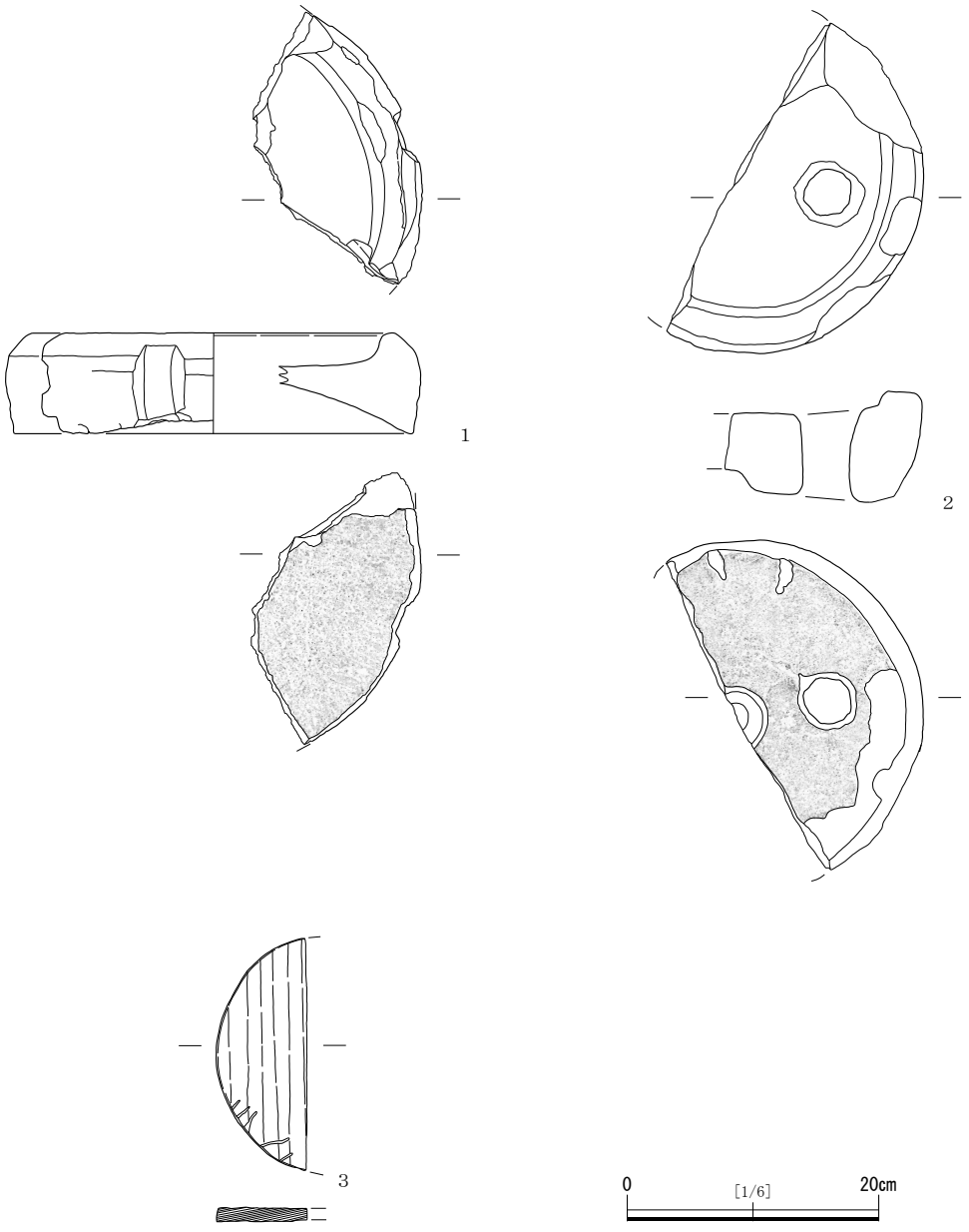


第304図　13区Ｃ１・２号井戸址[1/40]

第305図１・２は石製品石臼の上臼である。１は1/6、２は1/2残存している。石材は砂岩である。

第305図３は木製品桶底である。樹種はモミ属である。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世後期と推定される。



第305図　13区Ｃ２号井戸址出土遺物[1/6]

第71表　13区Ｃ２号井戸址出土遺物観察表［第305図］

No.	種別	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	観察内容
1	石臼	砂岩	(33.0)	(14.9)	8.0	1,814.0	残存度 1/6 備考 縁幅3.7cm・高さ1.5cm、上臼、伊奈石
2	石臼	砂岩	29.0	(14.9)	9.2	5,050.0	残存度 1/2 備考 縁幅3.4cm・高さ1.3cm､注ぎ穴径3.5cm、上臼、伊奈石、器面剥離部分が多い
No.	器種	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	観察内容	
3	桶底	モミ属	18.4	(7.2)	1.1	残存度 1/3強残 備考 断面に接合穴2ヶ所残る	

Ｃ３号井戸址（第291・306・307図、第72表、図版71－１・164）

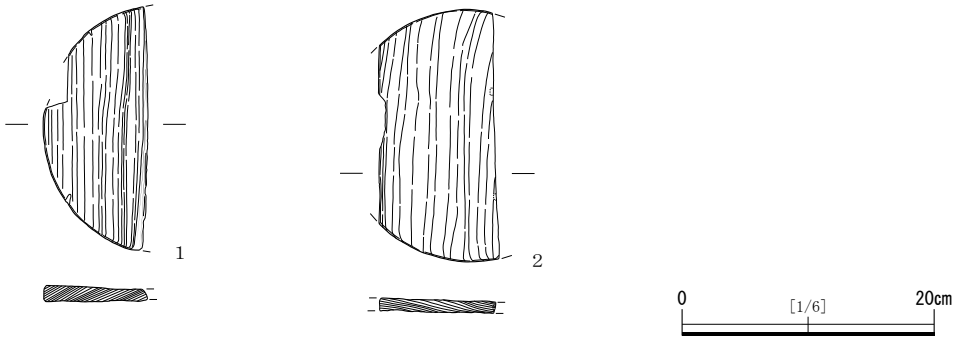
Ｕ18・19グリッド境中央で発見された。北側上端をＣ７号土坑に切られている。検出面の標高は23.83ｍである。平面形は上端では円形、底面では楕円形を呈する。立面形態は円筒状を呈するが、西側上端はやや広がりをもつ。検出規模は上端径約1.20ｍ、下端径は南北約0.64ｍ、東西約0.48ｍ、確認面からの深さは約2.98ｍを測る。

覆土は明茶褐色土と暗茶褐色土を主体に６層に分層される。

遺物は木製品桶底２点､板状木製品１点､不明石製品１点(38.5ｇ)､不明木製品１点､かご１点､種子１点､総点数７点である。そのうち２点を第306図に図化した。

第306図１・２は木製桶底である。１は1/2弱残存、２は両端部欠損している。どちらも接合孔が残る。樹種はモミ属である。

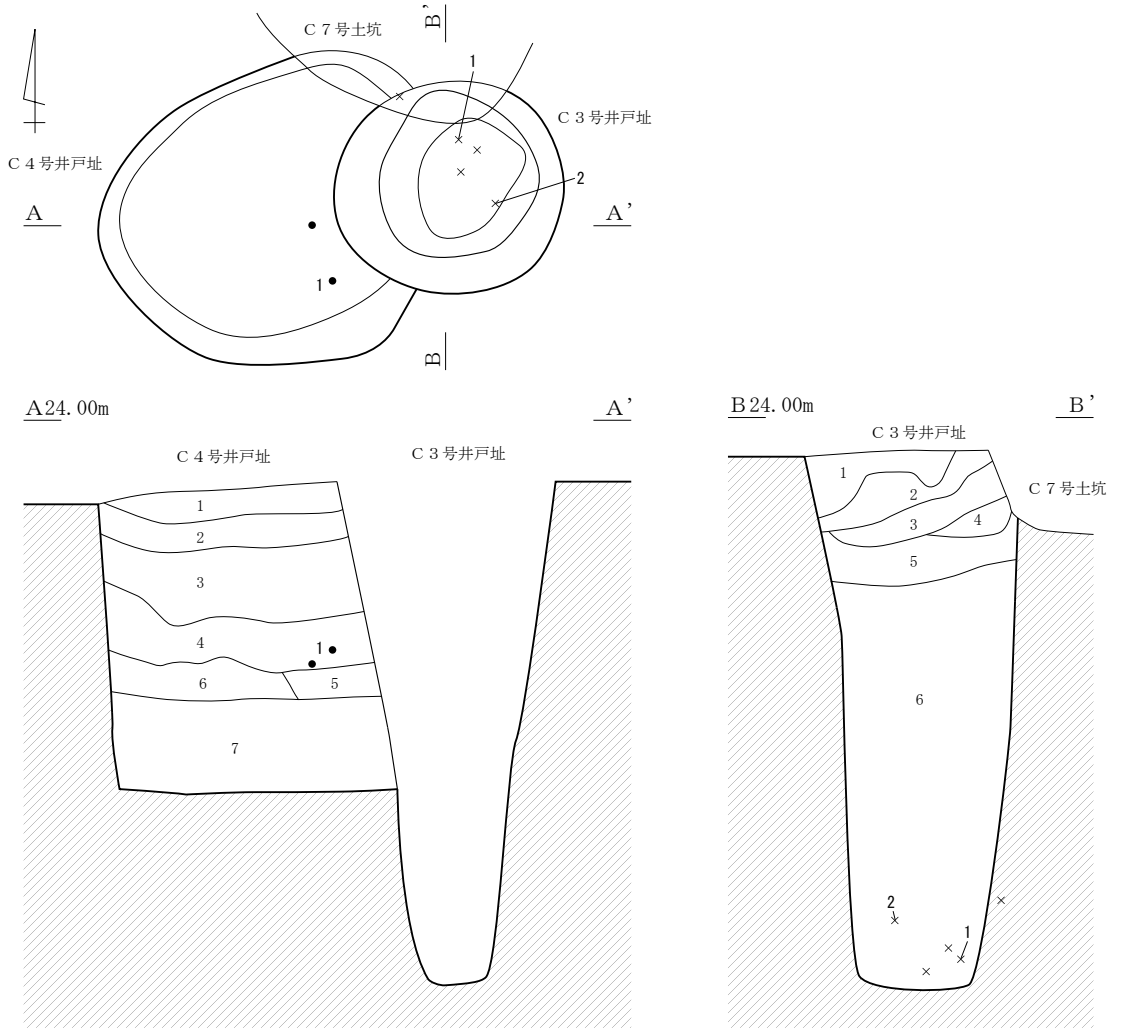
遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世後期と推定される。



第306図　13区Ｃ３号井戸址出土遺物[1/6]

第72表　13区Ｃ３号井戸址出土遺物観察表［第306図］

No.	器種	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	観察内容
1	桶底	モミ属	19.3	(8.3)	1.3	残存度 1/2弱程度残・端部欠損 備考 断面に接合穴2ヶ所残る
2	桶底	モミ属	20.0	(9.4)	1.0	残存度 両端部欠損 備考 断面に接合穴2ヶ所残る



Ｃ３号井戸址
第１層　暗黄褐色土　粘性・しまりやや強い。ローム主体、暗茶褐色土ブロック少量含む。
第２層　明茶褐色土　粘性・しまりやや強い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、ローム粒少量含む。
第３層　暗茶褐色土　粘性・しまりやや強い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、ローム粒微量、明茶褐色土ブロック微量含む。
第４層　暗茶褐色土　粘性・しまりやや強い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、明茶褐色土ブロック少量含む。
第５層　明茶褐色土　粘性やや強い、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、ローム粒少量、暗茶褐色土ブロック微量含む。
第６層　暗茶褐色土　粘性やや強い、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、ローム粒微量含む。

Ｃ４号井戸址
第１層　茶褐色土　径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。やや灰色味を帯びる。やや酸化している。
第２層　茶褐色土　径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。やや灰色味を帯びる。やや酸化している。
第３層　茶褐色土　径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。
第４層　茶褐色土　粘性やや強い、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、炭化物粒微量含む。第３層よりも粘性やや強い。
第５層　明茶褐色土　粘性やや強い、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、ローム粒微量含む。
第６層　暗黄褐色土　粘性・しまりやや強い。ローム主体。茶褐色土ブロック少量含む。
第７層　暗褐色土　粘性やや強い、しまりあり。

● 土器
× 木製品・種子
0　[1/40]　1m

第307図　13区Ｃ３・４号井戸址[1/40]

Ｃ４号井戸址（第291・307・308図、第73表、図版163）

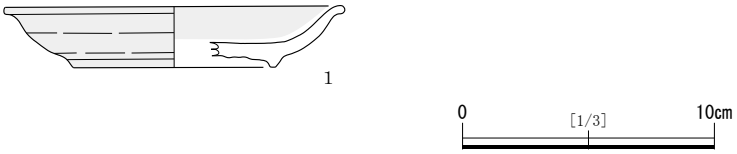
Ｕ18・19グリッド境中央で発見された。北側の上端をＣ７号土坑、東側をＣ３号井戸址に切られている。検出面の標高は23.68ｍである。平面形は楕円形、立面形態は円筒状を呈する。検出規模は上端長径1.82ｍ、短径1.60ｍ、下端長径は1.58ｍ、短径は1.29ｍを測る。確認面からの深さは1.60ｍを測る。

覆土は７層に分層され、第１～４層は茶褐色土、第１、２層はやや酸化している。第５層は明茶褐色土、第６層はローム主体の暗黄褐色土、第７層は暗褐色土である。

遺物は瀬戸・美濃産陶器皿２点（34.0ｇ）、かわらけ７点（25.7ｇ）、総点数９点、総重量59.7ｇである。そのうち１点を図化した。

第308図１は瀬戸・美濃産陶器灰釉端反皿である。口縁部はわずか、体部～底部は1/4残存する。高台内に重ね焼き痕が残る。16世紀後半～17世紀の所産である。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世後期と推定される。



第308図　13区Ｃ４号井戸址出土遺物[1/3]

第73表　13区Ｃ４号井戸址出土遺物観察表［第308図］

No.	器種	種別	()＝現存値 〔〕＝復元値 口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	重量（g）	残存度	産地	時期	観察内容
1	灰釉端反皿	陶器	〔13.2〕	〔7.8〕	2.4	25.5	口縁部わずかに残る・体部～底部1/4	瀬戸・美濃	16世紀後半～17世紀	胎土 にぶい橙色、密、黒色・白色粒子を含む 釉薬 オリーブ黄色灰釉 備考 高台内重ね焼き痕残る。

Ｃ５号井戸址（第291・309・310図、第74表、図版71－２・164）

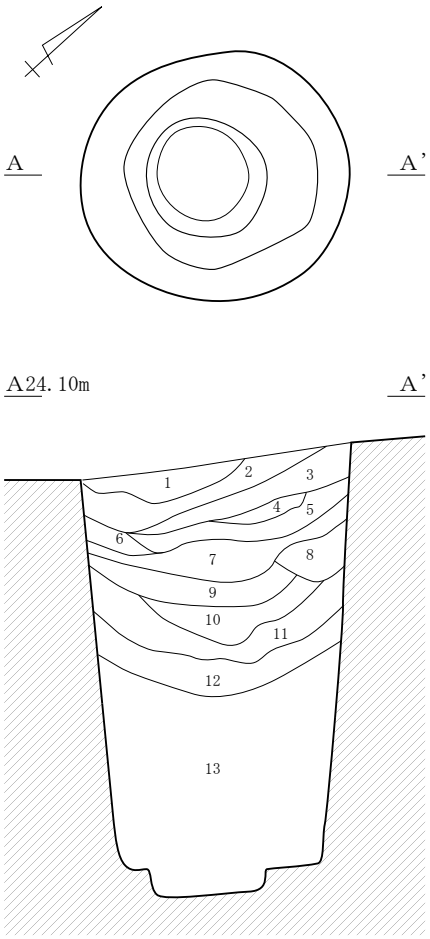
Ｕ19グリッド南西角で発見された。検出面の標高は23.88ｍである。平面形は円形、立面形態は円筒状を呈し、底面中央は一段下がる。検出規模は上端径1.42ｍ、下端径1.02ｍ、底面上端径0.64ｍ、下端0.47ｍ、確認面からの深さは2.32ｍ、中央部分は2.45ｍを測る。

覆土は茶褐色土、黄褐色土を主体に13層に分層される。

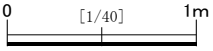
遺物はかわらけ４点（26.1ｇ）、木製品２点、総点数６点、総重量26.1ｇである。そのうち１点を図化した。

第310図１は木製品桶底で1/2弱残存している。樹種はスギである。

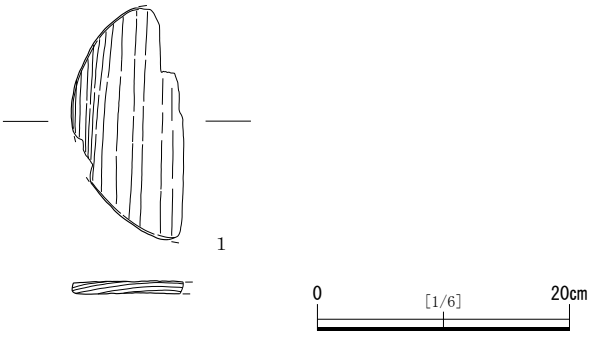
遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世後期と推定される。



第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒少量含む。
第２層　暗黄褐色土　粘性やや強い、しまりあり。ローム主体。茶褐色土ブロック少量含む。
第３層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量、暗褐色土ブロック微量含む。
第４層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒小量含む。
第５層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒中量含む。
第６層　暗黄褐色土　粘性・しまりやや強い。ローム主体。茶褐色土ブロック微量含む。
第７層　明茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒やや多量含む。
第８層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。
第９層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒少量、暗褐色土ブロック微量。
第10層　暗黄褐色土　粘性・しまりやや強い。ローム主体。茶褐色土ブロック微量含む。
第11層　暗黄褐色土　粘性・しまりやや強い。ローム主体。茶褐色土ブロック少量含む。第10層よりもやや暗い。
第12層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。
第13層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒中量含む。第12層よりやや明るい。



第309図　13区Ｃ５号井戸址[1/40]



第310図　13区Ｃ５号井戸址出土遺物[1/6]

第74表　13区Ｃ５号井戸址出土遺物観察表［第310図］

No.	器種	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	観察内容
1	桶底	スギ	(18.4)	(8.8)	1.0	残存度 1/2弱程度残る

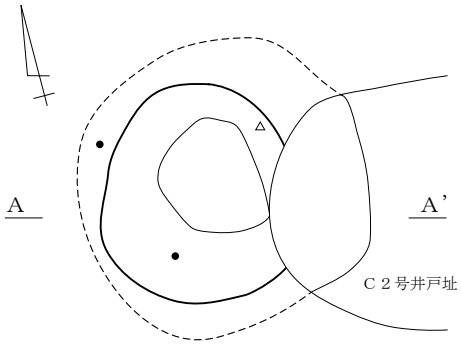
Ｃ６号井戸址（第291・311図）

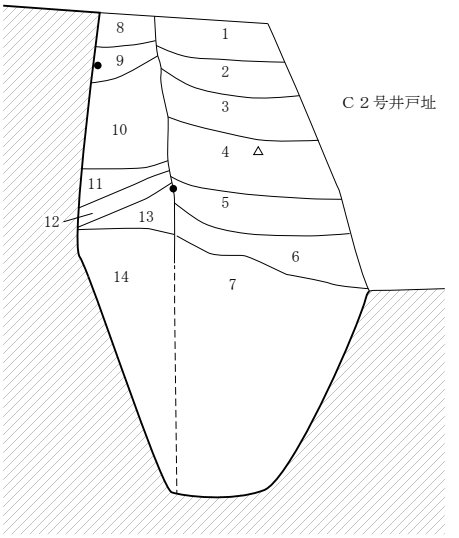
Ｕ18・19グリッド境南寄りで発見された。東側をＣ２号井戸址に切られている。検出面の標高は23.46ｍである。平面形は上端が円形､下端は不整円形を呈する。立面形態は中ほどで全体的にオーバーハングし、下半部は狭くなる。検出規模は上端径1.14ｍ、下端径0.64ｍ、オーバーハングしている中端径は1.56ｍ、確認面からの深さは2.50ｍを測る。

覆土は15層に分層される。土層観察により、本遺構は一度埋没したが改めて掘りなおされていることが判明した。第８～14層が先に埋没した井戸の覆土であり、暗茶褐色土が主体の第１～７層が後に掘削された井戸の覆土であると判断できる。

遺物はかわらけ17点(43.3ｇ)、鉄滓１点(34.9ｇ)、総点数18点、総重量78.2ｇであるが、小片のため図化していない。

遺構の時期はＣ２号井戸址以前の中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。





第１層　暗茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。
第２層　暗茶褐色土　粘性やや強い、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。
第３層　暗茶褐色土　粘性やや強い、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。第２層より橙色スコリアやや少ない。
第４層　暗茶褐色土　粘性やや強い、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量、暗褐色土ブロック微量含む。やや灰色味を帯びる。やや酸化している。
第５層　暗黒褐色土　粘性あり、しまりやや強い。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。炭化物粒微量、やや灰色味を帯びる。
第６層　暗黒褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。第５層目より粘性やや強い。
第７層　暗灰褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。第６層目より明るい。灰色味強い。
第８層　暗茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリアやや多量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第９層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。第８層目より粘性やや強い。
第10層　茶褐色土　粘性やや強い・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量含む。
第11層　明茶褐色土　粘性やや強い・しまりあり。
第12層　暗黒褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。
第13層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、ローム粒微量含む。
第14層　明黄褐色土　粘性・しまりやや強い。ローム主体。明褐色土ブロック微量含む。

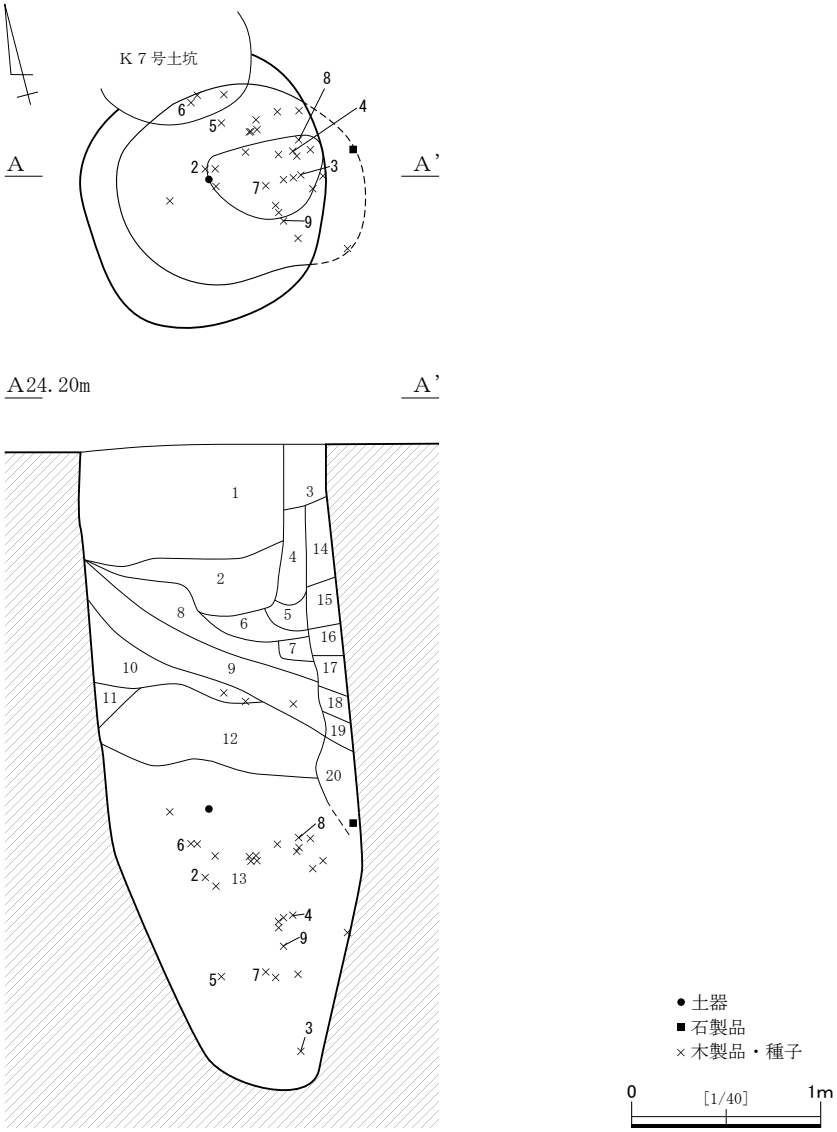
● 土器
△ 炭化物

0　[1/40]　1m

第311図　13区Ｃ６号井戸址[1/40]

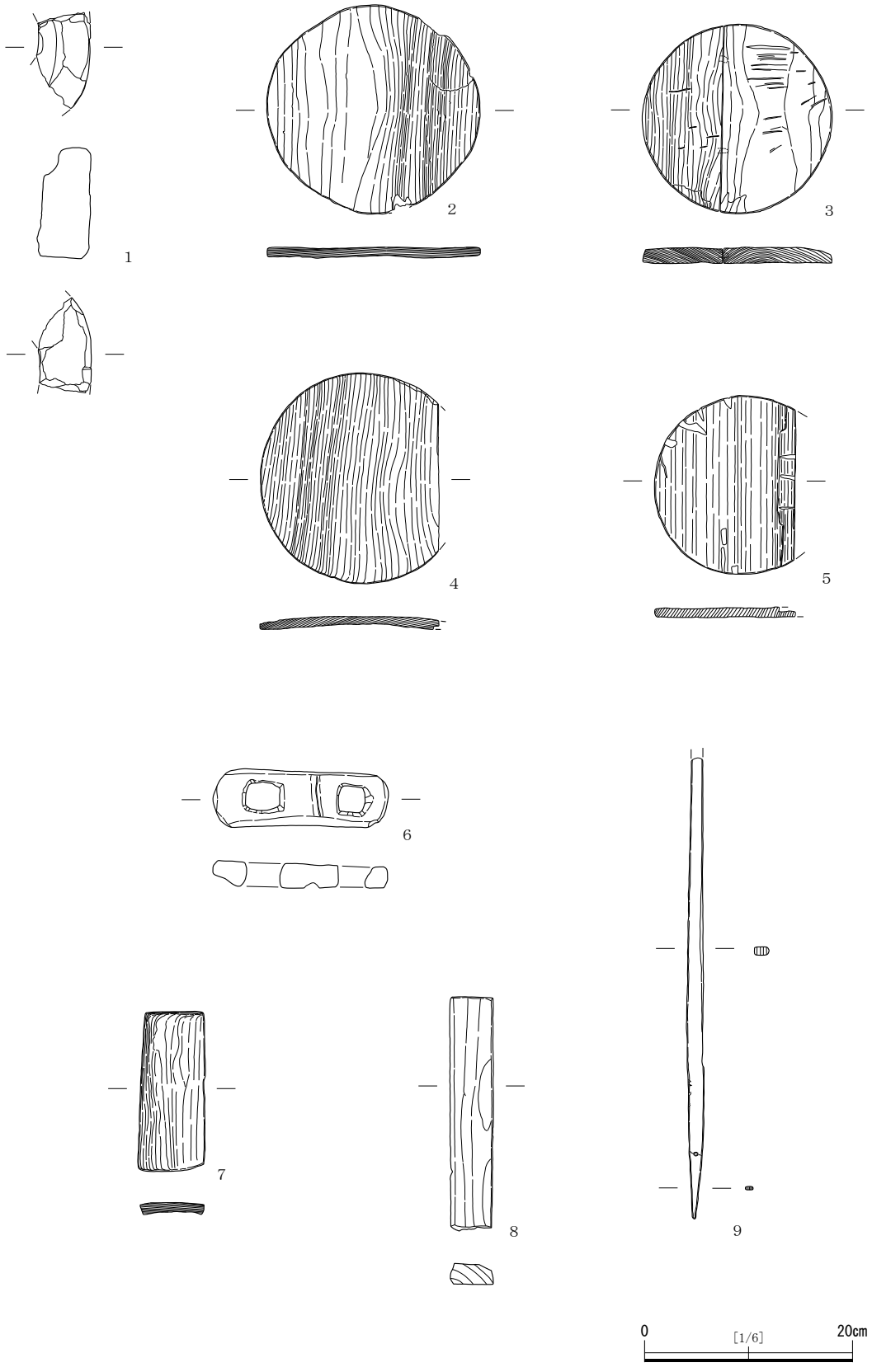
Ｃ７号井戸址（第291・312・313図、第75表、図版163・164）

Ｕ18・19グリッド境北寄りで発見された。南側約0.70ｍにＣ３・４号井戸址が確認されている。検出面の標高は23.96ｍである。平面形は上端では円形、下端では東西に長い楕円形を呈する。立面形態は上半部



第１層　黄褐色土　粘性・しまりやや強い。ロームブロック主体。茶褐色土ブロック少量含む。
第２層　暗黄褐色土　粘性・しまりやや強い。ローム主体。暗茶褐色土ブロック少量含む。
第３層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。
第４層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。
第５層　暗褐色土　粘性あり、しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、ローム粒微量含む。
第６層　暗茶褐色土　粘性やや強い、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、ローム粒微量含む。
第７層　暗茶褐色土　粘性やや強い、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。
第８層　暗茶褐色土　粘性やや強い、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量含む。
第９層　暗黄褐色土　粘性・しまりやや強い。ローム主体。暗茶褐色土ブロック微量含む。第１層より黄色味やや強い。
第10層　暗茶褐色土　粘性やや強い、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、ローム粒少量含む。
第11層　暗茶褐色土　粘性やや強い、しまりあり。ローム粒微量含む。
第12層　暗褐色土　粘性やや弱い、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア中量含む。
第13層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア微量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。
第14層　明茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。
第15層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア少量含む。
第16層　明茶褐色土　粘性やや強い、しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量含む。
第17層　暗黄褐色土　粘性やや強い、しまりやや弱い。ローム主体。
第18層　暗黄褐色土　粘性やや強い、しまりあり。
第19層　暗黄褐色土　粘性・しまりやや強い。
第20層　褐色土　ローム主体。ロームが変色している。

第312図　13区Ｃ７号井戸[1/40]



第313図　13区Ｃ７号井戸出土遺物址[1/6]

第75表　13区Ｃ７号井戸址出土遺物観察表［第313図］

No.	種別	石材	最大径（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	観察内容
1	石臼	多孔質安山岩	(9.2)	(5.2)	10.7	637.5	残存度1/4以下 備考 縁幅3.9cm・高さ2.1cm、上臼
No.	器種	種別	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	観察内容	
2	桶底	モミ属	20.0	20.5	1.0	残存度 ほぼ完形	
3	桶底	モミ属	18.3	18.2	1.6	残存度 完形 備考 釘穴２ヵ所有、木製釘２本残、削り痕多数	
4	桶底	モミ属	20.2	(17.1)	1.0	残存度 7/8程度残る・端部欠損 備考 断面に接合穴2ヶ所残る	
5	桶底	モミ属	17.2	(13.5)	0.9	残存度 7/8程度残る・端部欠損 備考 断面に接合穴2ヶ所残る	
6	不明製品	クスノキ属	16.9	5.6	2.4	残存度 裏面一部欠損 備考 縦2.5cm×幅2.5cmと3.5cm×3.5cmの方形の孔２ヵ所有、面取り、部材の一部と推定	
7	桶側板	モミ属	15.4	6.1	1.0	残存度 完形 備考 断面がやや反っている	
8	板状製品	スギ	22.6	4.1	2.0	残存度 完形 備考 断面長方形、詳細な用途不明	
9	棒状製品	モミ属	(44.3)	1.4	0.8	残存度 上端部欠損 備考 断面隅丸方形、面取り、先端尖る	

では東側がややオーバーハングするが円筒状を呈し、下半部は狭くなる。検出規模は上端径1.30ｍで、下端径は東西0.60ｍ、南北0.40ｍを測る。確認面からの深さは3.43ｍを測る。

覆土は20層に分層される。土層観察により、本遺構は一度埋没したが改めて掘りなおされていることが判明した。第14～20層が先に埋没した井戸の覆土であり、茶褐色土、暗茶褐色土が主体の第１～13層が後に掘削された井戸の覆土であると判断できる。

遺物は瀬戸・美濃産陶器擂鉢２点(130.6ｇ)、かわらけ４点(30.7ｇ)、石製品（石臼）２点(1,417.2ｇ)、木製品（桶底・板状・棒状・不明)18点、種子12点、総点数38点、総重量1,578.5である。そのうち９点を図化した。

第313図１は石製品石臼の上臼片である。1/4以下の残存で、石材は多孔質安山岩である。

第313図２～９は木製品である。２はほぼ完形の桶底、３は完形、４～５は端部欠損した桶底である。３は木製釘2本残る。樹種はモミ属である。６は不明木製品である。裏面は一部欠損がある。長さ16.9cm、幅5.6cm、厚さ2.4cmで、縦2.5cm×幅2.5cm、縦2.5cm×幅3.5cmの方形の孔が開けられている。部材か道具の一部と考えられる。樹種はクスノキ属である。７は桶の側板の完形である。やや反っている。樹種はモミ属である。８は板状木製品である。完形だが用途については不明である。樹種はスギである。９は棒状木製品である。上端部は欠損している。断面は隅丸方形で面取りしている。先端は尖っている。樹種はモミ属である。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世後期と推定される。

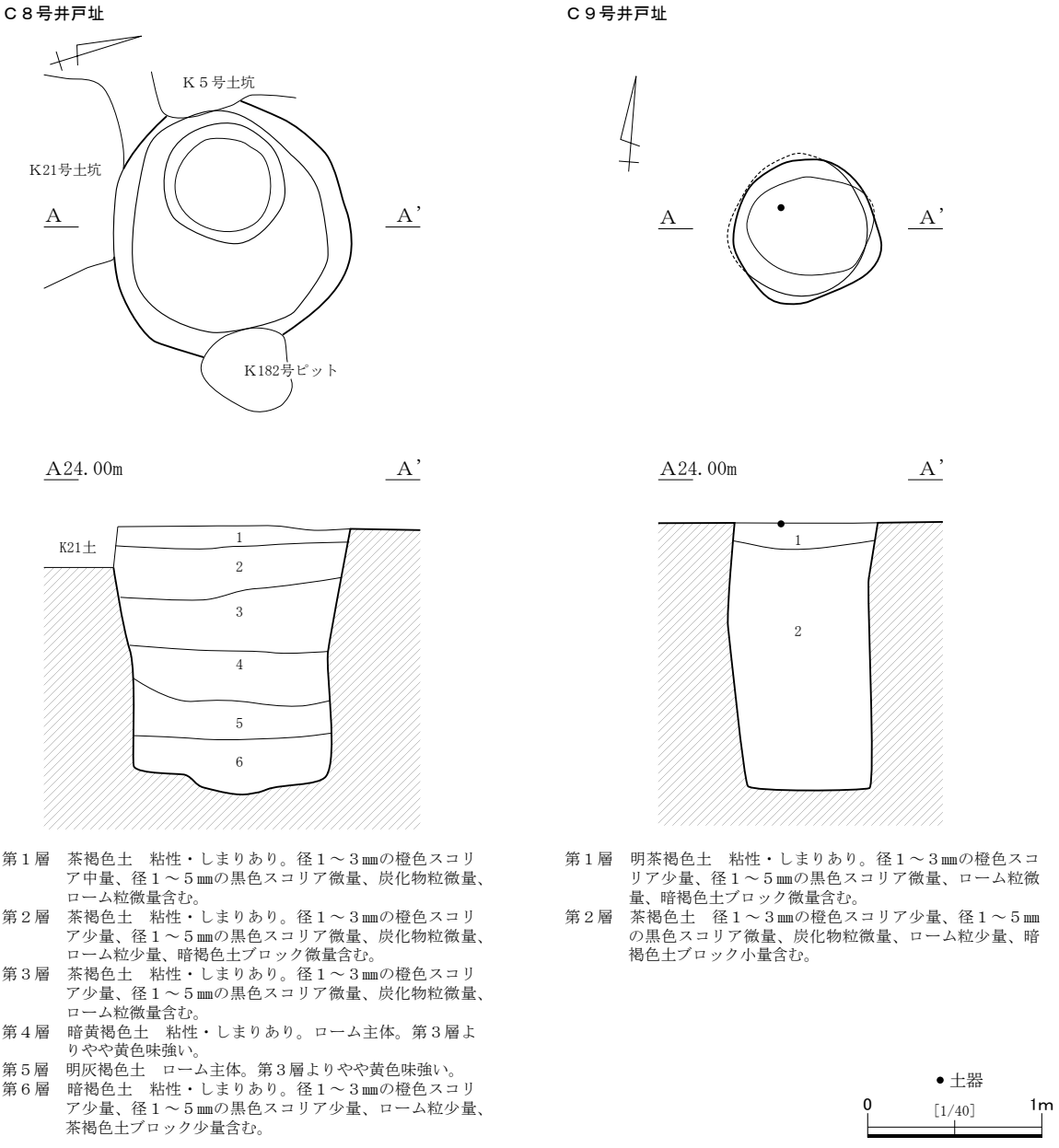
Ｃ８号井戸址（第291・314図、図版72－１）

Ｕ17・18グリッド境北寄りで発見された。北東約2.50ｍにＣ９号井戸址が確認されている。検出面の標高は23.74ｍである。平面形は円形、立面形態はほぼ円筒状を呈し、底面中央は一段下がる。検出規模は上端径1.37ｍ、下端径約1.14ｍ、下段上端径0.69ｍ、下端0.54ｍ、確認面からの深さは1.43ｍ、中央部分は1.55ｍを測る。

覆土は第１～３層茶褐色土、第４層暗黄褐色土、第５層暗灰褐色土、第６層暗褐色土の６層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から中世後期と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒少量、暗褐色土ブロック微量含む。
第３層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。
第４層　暗黄褐色土　粘性・しまりあり。ローム主体。第３層よりやや黄色味強い。
第５層　明灰褐色土　ローム主体。第３層よりやや黄色味強い。
第６層　暗褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア少量、ローム粒少量、茶褐色土ブロック少量含む。

第１層　明茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量、暗褐色土ブロック微量含む。
第２層　茶褐色土　径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒少量、暗褐色土ブロック小量含む。

第314図　13区Ｃ８・９号井戸址[1/40]

Ｃ９号井戸址（第291・314図、図版72－２）

Ｕ18グリッド北西側で発見された。検出面の標高は23.75ｍである。平面形は円形を呈する。立面形態は中位で西側がややオーバーハングするが円筒状を呈する。検出規模は上端径0.82ｍで、下端径は0.70ｍを測る。確認面からの深さは1.53ｍを測る。

覆土は第１層が明茶褐色土、第２層が茶褐色土の２層に分層される。

遺物はかわらけ８点（10.3ｇ）、瓦質土器火鉢１点（9.8ｇ）、総点数９点、総重量20.1ｇであるが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世後期と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

（４）土坑

Ｃ１号土坑（第291・315・317図、第76表、図版73－１・163）

Ｕ19グリッド中央南側で発見された。南壁中央部分は攪乱に壊されている。検出面の標高は24.20ｍである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はＮ－72°－Ｗを示す。検出規模は長軸2.15ｍ、短軸西側が1.35ｍ、東側が1.80ｍで東側がやや広がっている。確認面からの深さは0.60ｍを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は茶褐色土主体で４層に分層される。第１層は橙色スコリアがやや多量、焼土粒が少量含まれる。第２層は第１層よりしまりがやや弱い。第３層は乳白色土ブロックを微量含む。第４層は第３層よりしまりがやや強い。

遺物は常滑産陶器甕２点（23.0ｇ）、かわらけ27点（170.2ｇ）、銭貨１点（2.29ｇ）、種子１点、総点数31点、総重量195.49ｇである。そのうち１点を図化した。

第315図１は北宋銭の「元豊通寶」である。完形で初鋳年は1078年である。

遺構の時期は、検出状況、出土遺物から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。



第315図　13区Ｃ１号土坑出土遺物[2/3]

第76表　13区Ｃ１号土坑出土遺物観察表［第315図］

No.	銭名	材質	銭径（mm）	穿径（mm）	厚さ（mm）	重量（g）	残存度	観察内容
1	元豊通寶	銅	23.4	6.3	1.4	2.3	完形	鋳造地 北宋 初鋳年 1078年 備考 行書

Ｃ２号土坑（第291・316・317図、第77表、図版163）

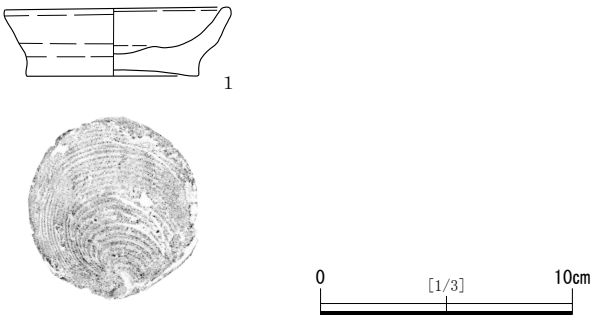
Ｕ18グリッド中央北寄りで発見された。検出面の標高は23.80ｍである。平面形は円形を呈し、規模は径0.60ｍで、確認面からの深さは0.15ｍを測る。底面はほぼ平坦で、断面は箱形を呈する。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物はかわらけ２点（102.６ｇ）である。そのうち１点を図化した。

第316図１はかわらけである。口縁部～体部7/8残存し、底部は完存している。底部は回転糸切り痕を残す。16世紀後半～17世紀前半の所産である。

遺構の時期は、検出状況、出土遺物から16世紀後半以降と考えられる。



第316図　13区Ｃ２号土坑出土遺物[1/3]

第77表　13区Ｃ２号土坑出土遺物観察表［第316図］

No.	器種	種別	()＝現存値 〔〕＝復元値 口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	残存度	産地	時期	観察内容
1	かわらけ	土器	8.8	6.8	2.7	99.9	口縁部～体部7/8・底部完存	在地	16世紀後半～17世紀前半	胎土 橙色、密、雲母・角閃石・白色針状物質・細かい砂粒を含む 焼成 良好 備考 底部回転糸切り痕

Ｃ４号土坑（第291・317図、図版66－２）

Ｔ18グリッド南西寄りで発見された。北側は調査区外へ延伸する。南西部はＣ202号ピットに切られている。検出面の標高は23.73ｍである。平面形は楕円形を呈すると推定される。検出規模は長軸1.03ｍ以上、短軸0.71ｍで、確認面からの深さは0.30ｍを測る。底面は平坦で、断面形は逆台形を呈する。

覆土は茶褐色土で２層に分層され、第２層は第１層よりローム粒がやや多く含まれる。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｃ５号土坑（第291・317図、図版73－２）

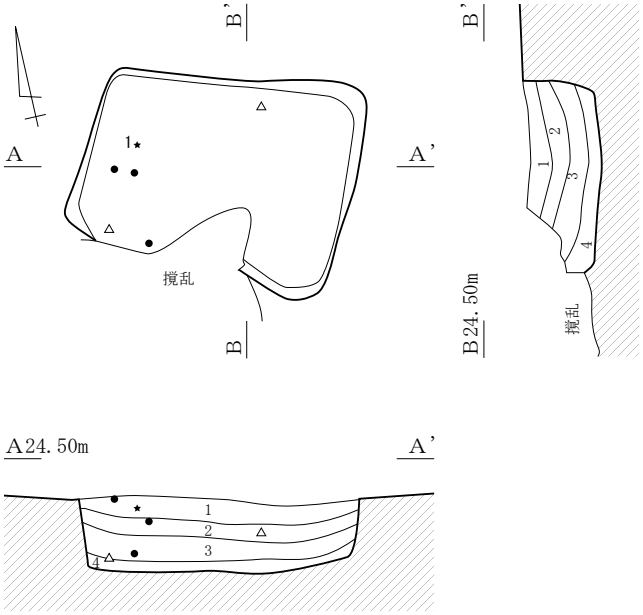
Ｔ18グリッド南東寄りで発見された。西側はＣ２号溝状遺構に切られている。検出面の標高は23.90ｍである。平面形は円形或いは楕円形を呈すると推定される。検出規模は長軸1.03ｍ、短軸0.40ｍ以上で、確認面からの深さは0.20ｍを測る。底面は平坦である。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

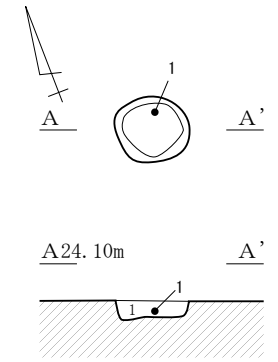
遺構の時期は、検出状況からＣ２号溝状遺構以前の中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｃ１号土坑



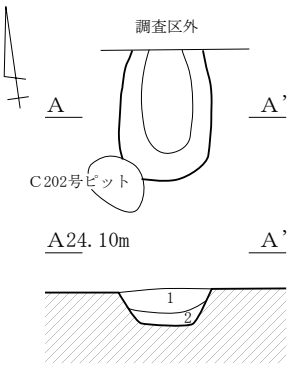
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリアやや多量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、焼土粒微量、ローム粒微量、暗褐色土ブロック微量、乳白色土ブロック小量含む。
第２層　茶褐色土　粘性あり、しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。第１層よりしまりやや弱い。
第３層　茶褐色土　粘性あり、しまりややあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒小量、乳白色土ブロック微量含む。
第４層　茶褐色土　粘性・しまりあり。炭化物粒微量、乳白色土ブロック微量含む。第３層よりしまりやや強い。

Ｃ２号土坑



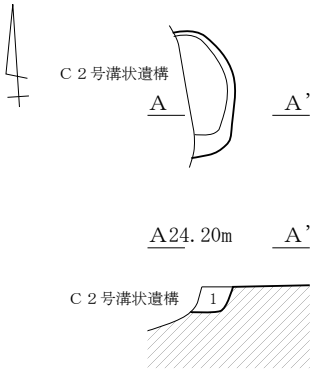
第１層　茶褐色土　粘性あり、しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量、暗褐色土ブロック微量含む。

Ｃ４号土坑



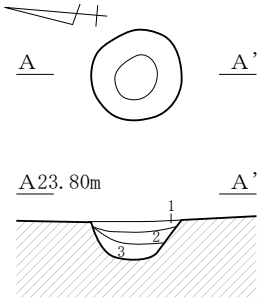
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒少量含む。

Ｃ５号土坑



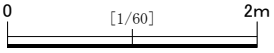
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒中量含む。

Ｃ６号土坑



第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量、暗茶褐色土ブロック少量含む。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量、暗茶褐色土ブロック微量含む。
第３層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。第２層よりやや暗い。

● 土器
⋆ 銭
△ 炭化物



第317図　13区Ｃ１・２・４～６号土坑[1/60]

Ｃ６号土坑（第291・317図、図版73－１）

Ｕ19グリッド中央南側で発見された。検出面の標高は23.60ｍである。平面形は円形を呈する。検出規模は径0.75ｍで、確認面からの深さは0.30ｍを測る。底面は平坦で、断面形は逆台形を呈すると思われる。

覆土は茶褐色土で３層に分層される。第２層は第１層より橙色スコリア、暗茶褐色ブロックを含む量が少なく、第３層は第２層よりやや暗い。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ７号土坑（第291・318・319図、第78表、図版73－３・73－４・163）

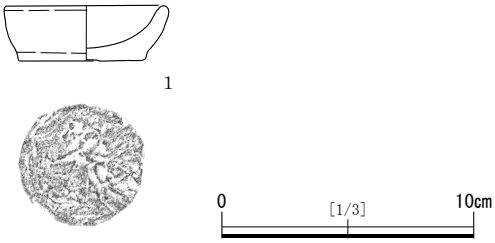
Ｕ18・19グリッド境北寄りで発見された。北側をＣ７号井戸址、中央はＣ８号ピット、東側はＣ７号ピットに切られている。検出面の標高は24.04ｍである。平面形は円形或いは楕円形を呈し、検出規模は長軸1.62ｍ、短軸1.60ｍ以上で、確認面からの深さは0.72ｍを測る。底面は平坦で、断面形は逆台形を呈する。

覆土は４層に分層され、第１層は明茶褐色土、第２、３層は茶褐色土、第４層は暗茶褐色土である。

遺物はかわらけ14点（99.0ｇ）である。そのうち１点を図化した。

第318図１はかわらけである。完形で、底部は回転糸切り痕、スノコ痕を残す。16世紀後半～17世紀前半の所産である。

遺構の時期は、検出状況、出土遺物から16世紀後半～17世紀前半と考えられる。

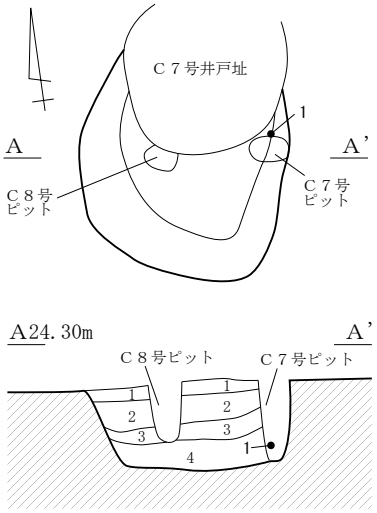


第318図　13区Ｃ７号土坑出土遺物[1/3]

第78表　13区Ｃ７号土坑出土遺物観察表［第318図］

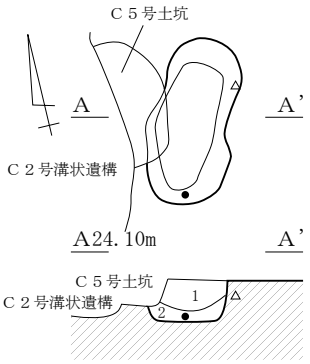
No.	器種	種別	()＝現存値 〔〕＝復元値 口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	残存度	産地	時期	観察内容
1	かわらけ	在地	6.3	4.9	2.2	43.9	完形	在地	16世紀後半～17世紀前半	胎土 橙色、密、赤色スコリア・白色針状物質・角閃石を含む 焼成 良好 備考 底部回転糸切り痕・スノコ痕

Ｃ７号土坑



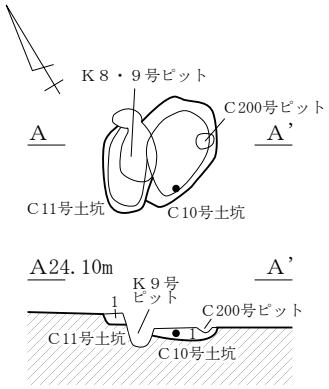
第１層　明茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む。炭化物粒微量、ローム粒中量含む。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む、炭化物粒微量、ローム粒少量含む。
第３層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量含む、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。
第４層　暗茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。第３層よりしまりやや弱い。

Ｃ８号土坑

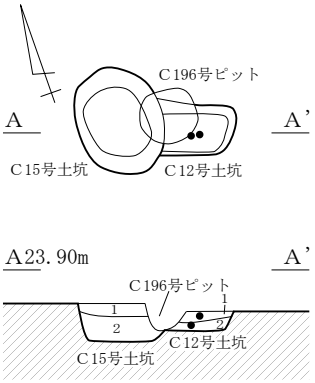


第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒中量含む。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒少量含む。

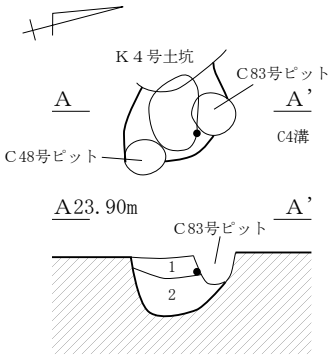
Ｃ10・11号土坑



Ｃ12・15号土坑



Ｃ13号土坑



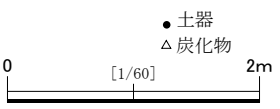
Ｃ10号土坑
第１層　褐色土　粘性・しまりやや強い。ローム粒微量、乳白色土の粘土主体。暗茶褐色土ブロック少量含む。

Ｃ11号土坑
第１層　褐色土　粘性・しまりやや強い。ローム粒少量、乳白色土の粘土やや多量。茶褐色土ブロック少量、暗茶褐色土微量含む。

Ｃ12号土坑
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒少量、暗褐色土ブロック小量含む。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒中量、暗褐色土ブロック微量含む。

Ｃ15号土坑
第１層　褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒やや多量、暗褐色土ブロック微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。

Ｃ13号土坑
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。炭化物粒微量、ローム粒微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。炭化物粒微量、ローム粒微量、第１層よりしまりやや強い。



第319図　13区Ｃ７・８・10～13・15号土坑[1/60]

Ｃ８号土坑（第291・319図、図版73－５）

Ｔ18グリッド南東寄りで発見された。西側の上端をＣ５号土坑に切られている。検出面の標高は23.87ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.33ｍ、短軸0.55ｍで、確認面からの深さは0.33ｍを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は茶褐色土の２層である。

遺物は瀬戸・美濃産陶器香炉１点（5.2ｇ）、かわらけ６点（23.4ｇ）、円環状鉄製品１点（15.0ｇ）、総点数８点、総重量43.6ｇであるが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物からＣ５号土坑以前の中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｃ10号土坑（第291・319図、図版73－６）

Ｕ18グリッド北西角で発見された。西側をＣ11号土坑、Ｋ９号ピットに切られている。南東側をＣ200号ピットに切られている。検出面の標高は23.73ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸0.90ｍ、短軸0.65ｍ以上で、確認面からの深さは0.10ｍを測る。底面は東へやや下がっている。

覆土は乳白色粘土主体の褐色土の単層である。

遺物はかわらけ１点（9.1ｇ）であるが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況からＣ11号土坑以前の中世と推定されるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ11号土坑（第291・319図、図版73－６）

Ｕ18グリッド北西角で発見された。北側をＫ８号ピット、北西側をＫ９号ピットに切られている。平面形は楕円形を呈すると推定される。検出面の標高は23.85ｍ、検出規模は長軸0.80ｍ以上、短軸0.35ｍ、確認面からの深さは0.09ｍを測る。底面は平坦で、壁はやや急な角度で立ち上がる。

覆土は乳白色粘土をやや多量に含む褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ12号土坑（第291・319図、図版73－７）

Ｔ18グリッド中央南寄りで発見された。西側をＣ15号土坑、北西上端をＣ196号ピットに切られており、平面形は長方形を呈すると推定される。検出面の標高は23.68ｍ、検出規模は長軸0.60ｍ以上、短軸0.40ｍ、確認面からの深さは0.15ｍを測る。底面は平坦で、壁はやや急な角度で立ち上がる。

覆土は茶褐色土の２層に分層され、第２層は橙色スコリア、暗褐色土ブロックが第１層より少なく含まれる。

遺物は瓦質土器火鉢１点（55.0ｇ）、かわらけ３点（36.7ｇ）総点数４点、総重量91.7ｇであるが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況からＣ15号土坑以前の中世と推定されるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ13号土坑（第291・319図、図版73－８）

Ｔ18グリッド南西寄りで発見された。西側上端をＫ４号土坑、北側上端をＣ83号ピット、南東上端をＣ

48号ピットに切られている。検出面の標高は23.60ｍである。平面形は楕円形或いは不整円形を呈すると考えられる。検出規模は長軸0.90ｍ、短軸0.68ｍ以上で、確認面からの深さは0.45ｍを測る。底面は平坦で、南側はやや急な角度で、北側はゆるやかに立ち上がる。

覆土は茶褐色土の２層に分層され、第２層は第１層よりしまりがやや強い。

遺物は瀬戸・美濃産陶器擂鉢１点（18.8ｇ）出土しているが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｃ14号土坑（第291・320図、図版74－１）

Ｕ17・18グリッド境北側で発見された。南側をＣ８号井戸址に切られている。検出面の標高は23.62ｍである。平面形は円形或いは楕円形を呈すると考えられる。検出規模は長軸0.85ｍ、短軸0.65ｍ以上で、確認面からの深さは0.10ｍを測る。底面は西へ下がっている。断面形は皿状を呈する。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況からＣ８号井戸址以前の中世と推定されるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ15号土坑（第291・319図、図版73－７）

Ｔ18グリッド中央南寄りで発見された。東側をＣ196号ピットに切られている。検出面の標高は23.65ｍである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸0.90ｍ、短軸0.69ｍで、確認面からの深さは0.30ｍを測る。底面は平坦で、断面形は箱形に近い。

覆土は第１層褐色土、第２層茶褐色土の２層に分層される。

遺物はかわらけ６点（23.0ｇ）出土しているが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｃ16号土坑（第291・320図、図版74－２）

Ｔ18グリッド中央南端で発見された。検出面の標高は23.65ｍである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はＮ－８°－Ｅを示す。検出規模は長軸1.02ｍ、短軸0.50ｍで、確認面からの深さは0.04ｍを測る。底面は平坦で、断面形は皿状を呈する。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物はかわらけ１点（1.5ｇ）出土しているが、小片のため図化していない。

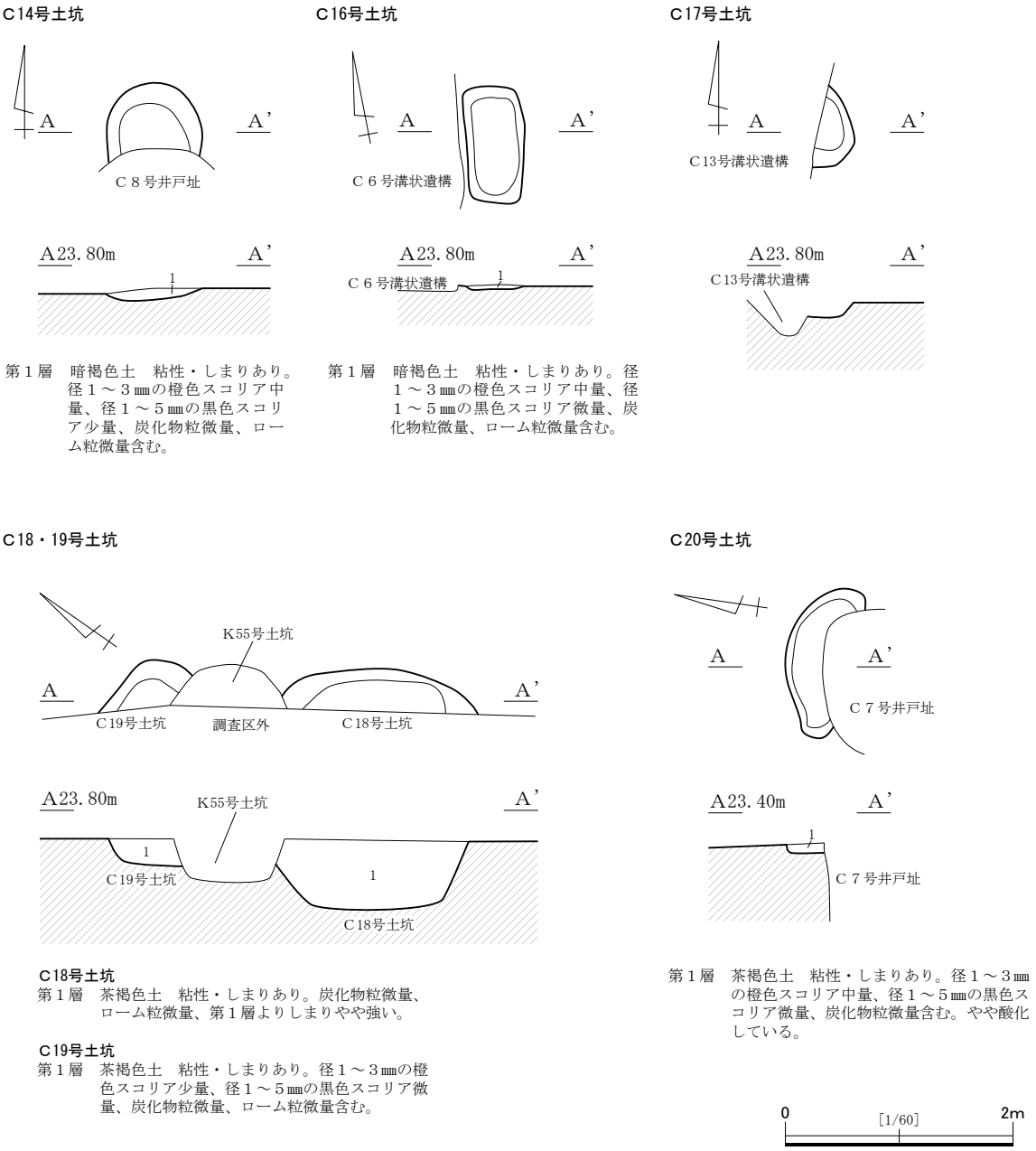
遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

Ｃ17号土坑（第291・320図、図版74－３）

Ｕ18グリッド中央で発見された。西側をＣ13号溝状遺構に切られている。検出面の標高は23.48ｍである。平面形は円形或いは楕円形を呈する。規模は長軸0.50ｍ以上、短軸西0.36ｍ以上で、確認面からの深さは0.13ｍを測る。底面は平坦で、壁はやや緩やかに立ち上がる。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。



第320図　13区Ｃ14・16～20号土坑[1/60]

Ｃ18号土坑（第291・320図）

Ｖ18・19グリッド境北寄りで発見された。南西側は調査区外へ延伸する。北西上端はＫ55号土坑に切られている。検出面の標高は23.55ｍである。平面形は不明である。検出規模は長軸1.70ｍ以上、短軸0.38ｍ以上で、確認面からの深さは0.60ｍを測る。底面は平坦で、断面は逆台形を呈する。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ19号土坑（第291・320図）

Ｖ18グリッド北東角で発見された。南西側は調査区外へ延伸する。南側はＫ55号土坑に切られている。検出面の標高は23.57ｍである。平面形は不明である。検出規模は東西0.80ｍ以上、南北0.45ｍ以上で、確認面からの深さは0.24ｍを測る。底面は平坦で、やや南へ低くなる。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

Ｃ20号土坑（第291・320図、図版74－４）

Ｕ18・19グリッド境北寄りで発見された。南側はＣ７号井戸址に切られている。検出面の標高は23.12ｍである。平面形は楕円形を呈すると考えられる。検出規模は長軸約1.32ｍ、短軸0.60ｍ以上で、確認面からの深さは0.10ｍを測る。底面は平坦で、壁は急に立ちあがる。

覆土は茶褐色土の単層である。

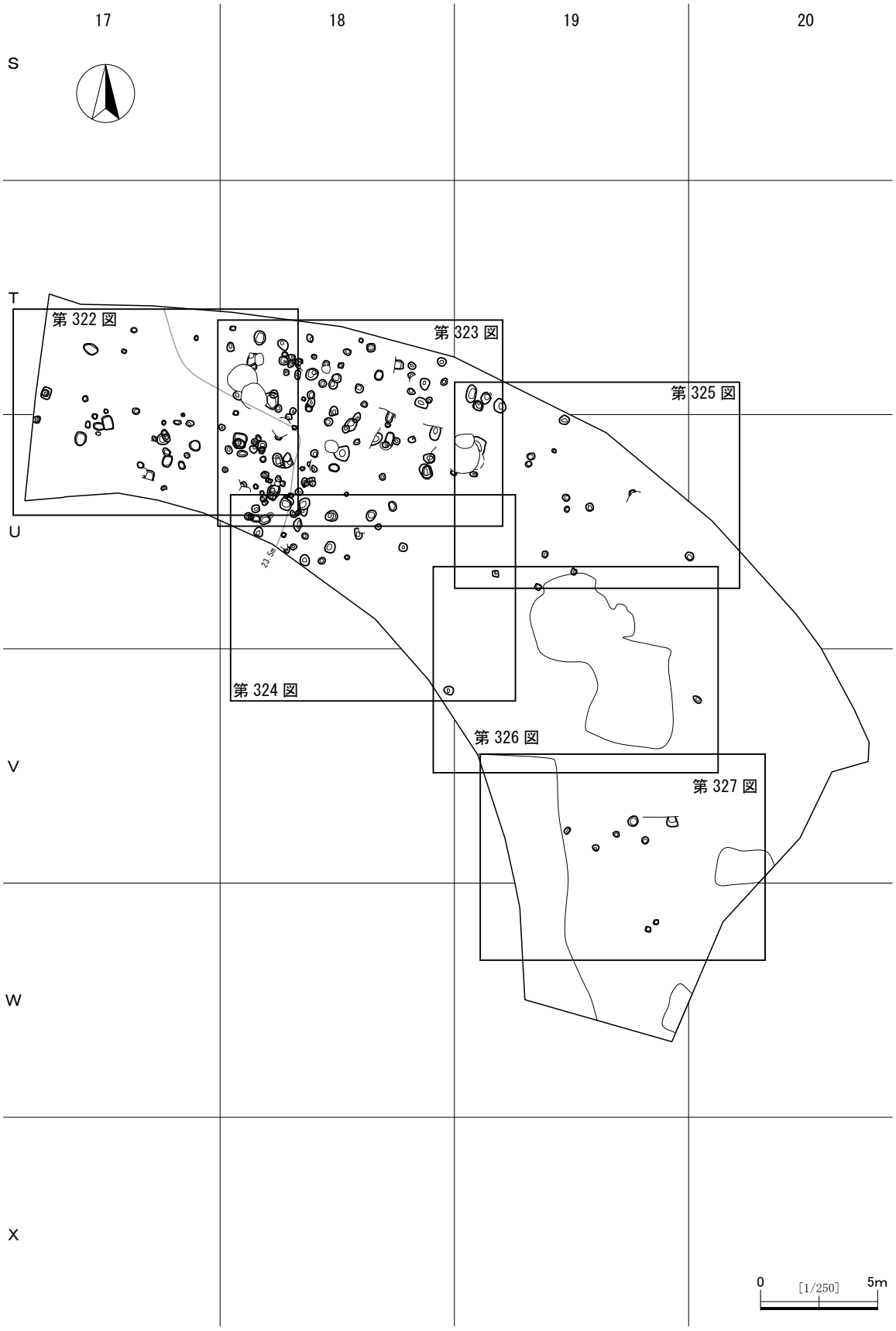
遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

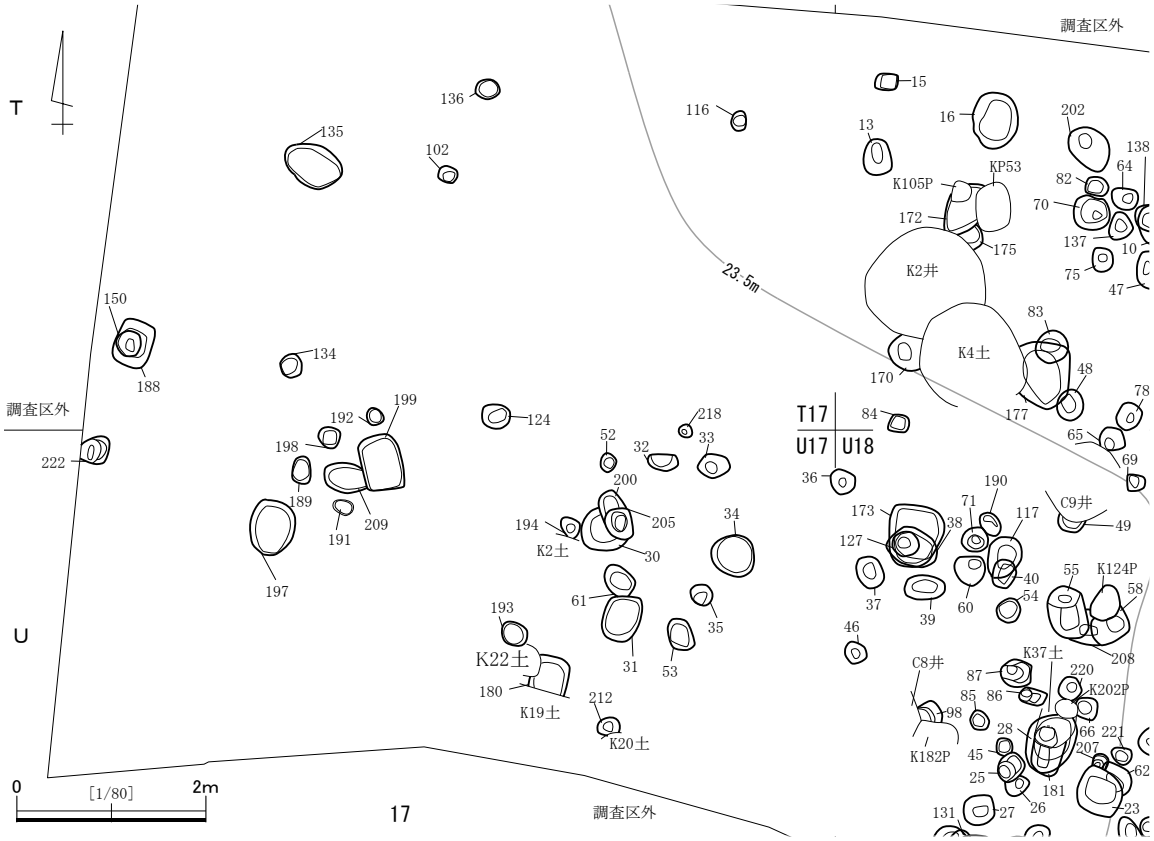
（５）ピット（第291・321～329図、第79・80表、図版163）

調査区全体から201基発見された。主に調査区北西側のＴ・Ｕ17～18グリッドに集中している。このピットが集中するグリッド付近は中世後半と推定される整地層が認められており、建物址の存在が想定された。調査区北端で発見されたＣ14号ピットに柱痕が確認されたが、ほとんどのピットは規模や深さは一定ではなく、規則性のある並びも確認されなかった。平面形は多くが円形或いは楕円形で、各々の検出規模については第80表にまとめている。

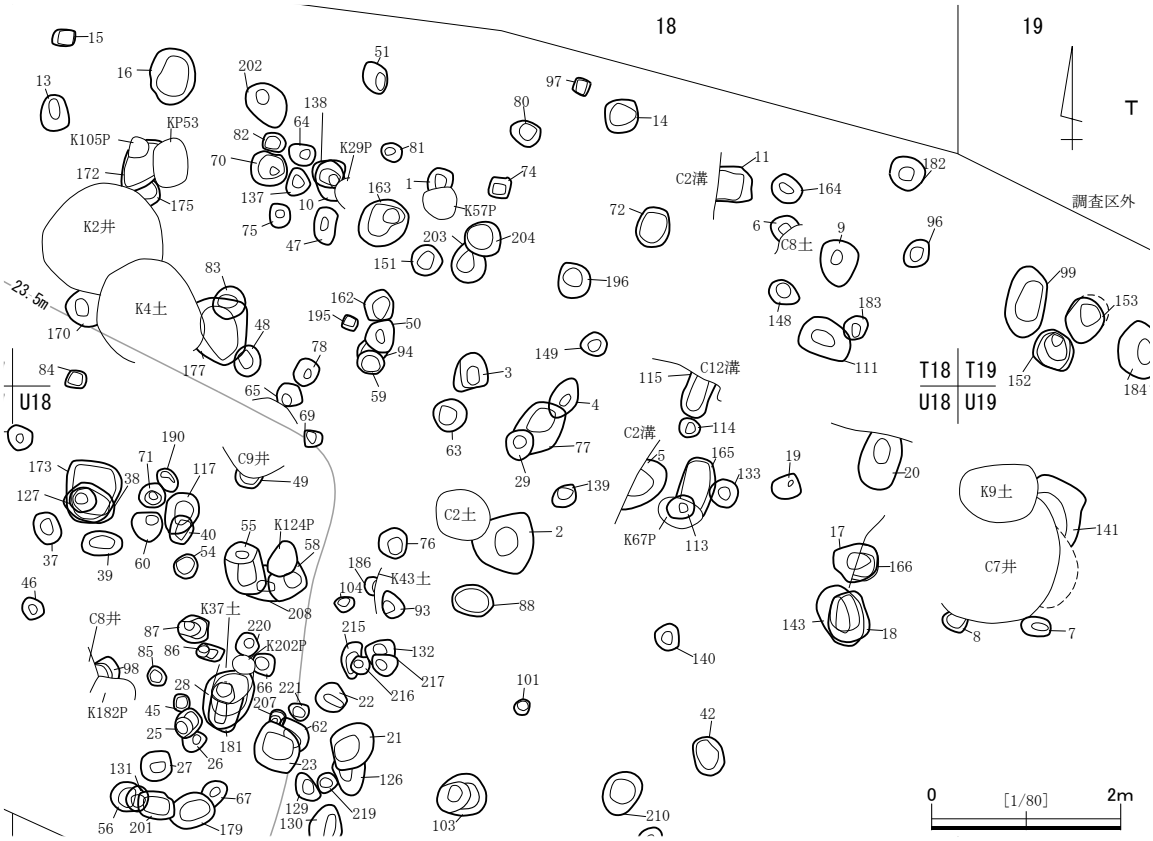
各ピットからの出土遺物は以下のとおりである。Ｃ１号ピットからかわらけ１点（98.8ｇ）、Ｃ２号ピットからかわらけ２点（7.0ｇ）、Ｃ18号ピットからかわらけ２点（18.7ｇ）、Ｃ21号ピットから常滑産陶器甕1点（23.6ｇ）、Ｃ42号ピットからかわらけ２点（5.8ｇ）、Ｃ44号ピットからかわらけ３点（19.6ｇ）、Ｃ48号ピットからかわらけ１点（1.2ｇ）、Ｃ56号ピットから鉄製鎌１点（20.9ｇ）、Ｃ63号ピットから鉄滓１点（31.5ｇ）、Ｃ64号ピットからかわらけ１点（7.4ｇ）、Ｃ70号ピットからかわらけ２点（9.5ｇ）、銭貨２点（3.18ｇ）、Ｃ75号ピットからかわらけ２点（3.0ｇ）、Ｃ76号ピットからかわらけ１点（3.0ｇ）、Ｃ88号ピットから鉄製鍋1点（19.2ｇ）、Ｃ91号ピットから不明木製品１点、Ｃ101号ピットからかわらけ１点（1.7ｇ）、Ｃ109号ピットからかわらけ１点（4.3ｇ）、Ｃ140号ピットから鉄滓１点（29.7ｇ）、Ｃ142号ピットからかわらけ３点（8.3ｇ）、Ｃ156号ピットからかわらけ１点（3.5ｇ）、Ｃ162号ピットからかわらけ４点（15.4ｇ）、Ｃ163号ピットからかわらけ２点（13.5ｇ）、Ｃ164号ピットからかわらけ１点（5.4ｇ）、Ｃ165号ピットからかわらけ２点（6.6ｇ）、Ｃ168号ピットからかわらけ１点（4.5ｇ）、Ｃ169号ピットからかわらけ１点（4.1ｇ）、Ｃ173号ピットから瀬戸・美濃産陶器擂鉢１点（82.4ｇ）、かわらけ１点（10.3ｇ）、Ｃ176号ピットから鉄製刀子１点（9.5ｇ）、Ｃ177号ピットから瀬戸・美濃産陶器擂鉢１点（31.0ｇ）、かわらけ３点（13.1ｇ）、Ｃ179号ピットからかわらけ３点（8.0ｇ）、不明木製品１点、Ｃ180号ピットからかわらけ１点（4.6ｇ）、Ｃ181号ピットからかわらけ１点（2.9ｇ）、Ｃ182号ピットからかわらけ５



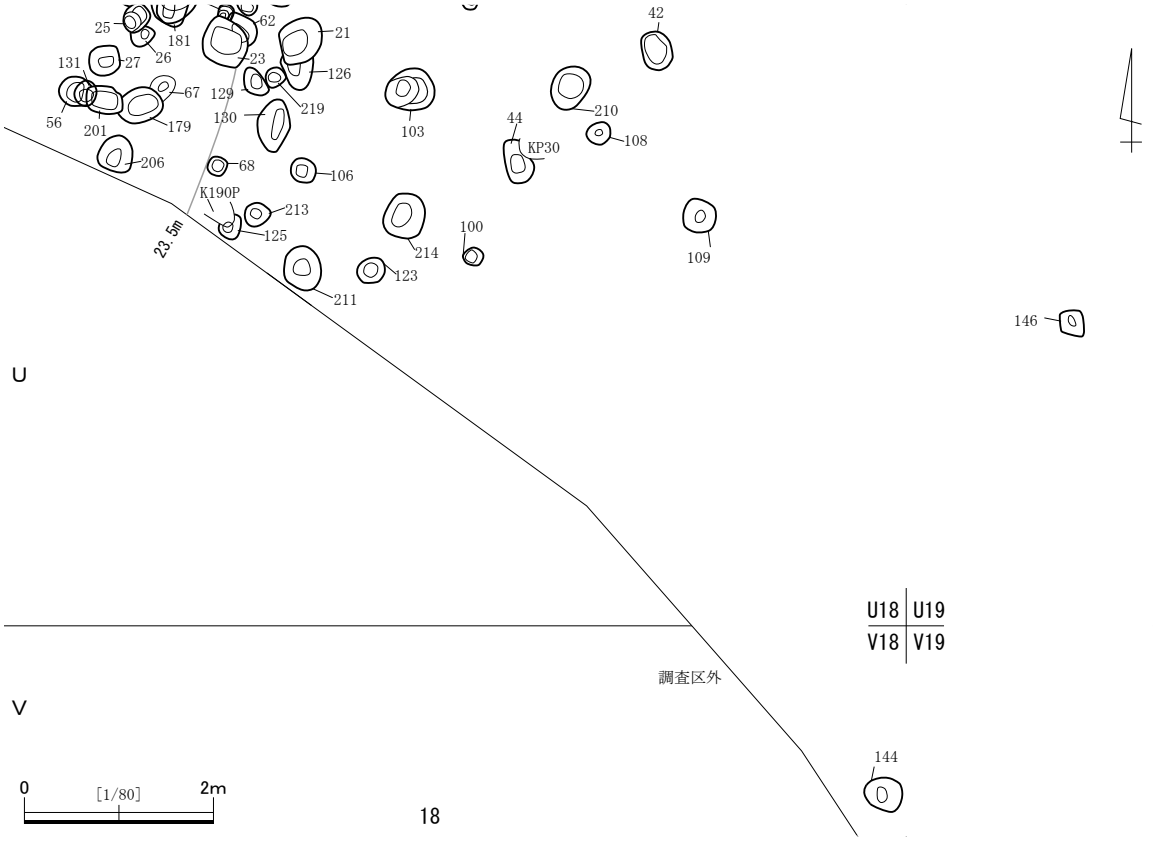
第321図　13区　中世ピット分布図[1/250]



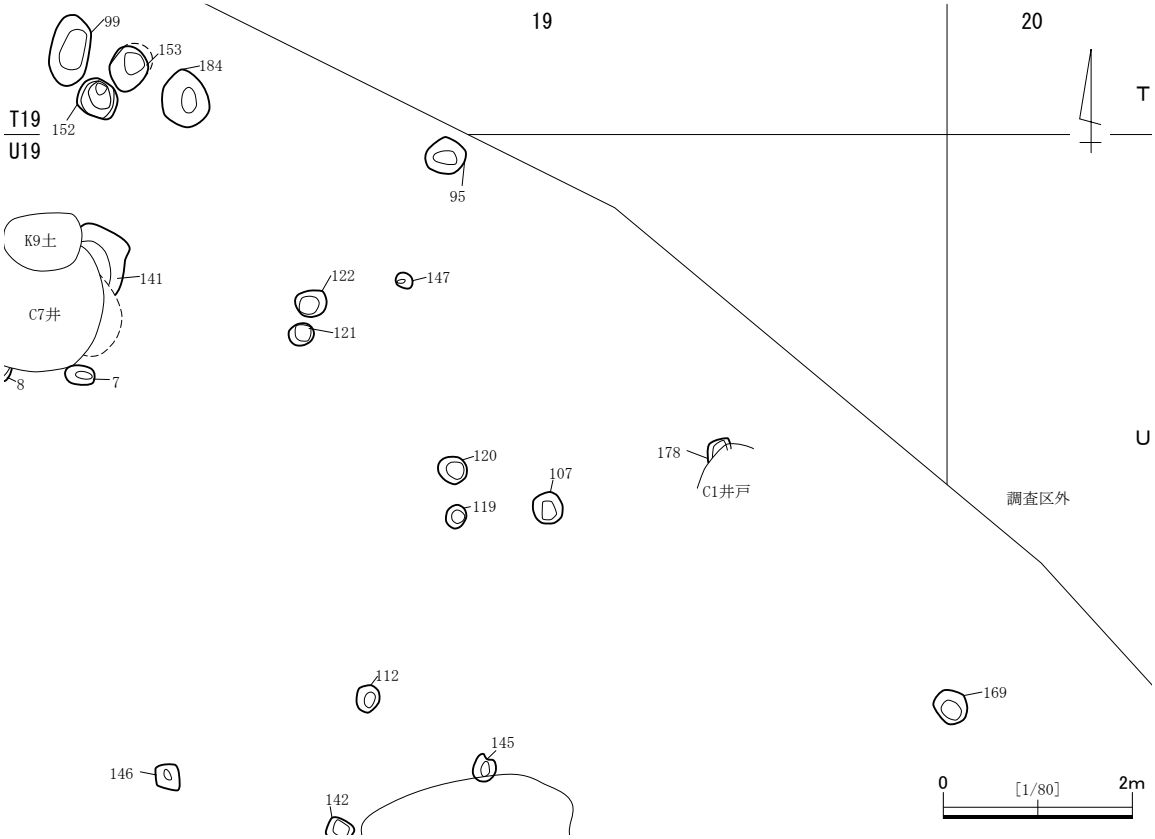
第322図　中世ピット（１）[1/80]



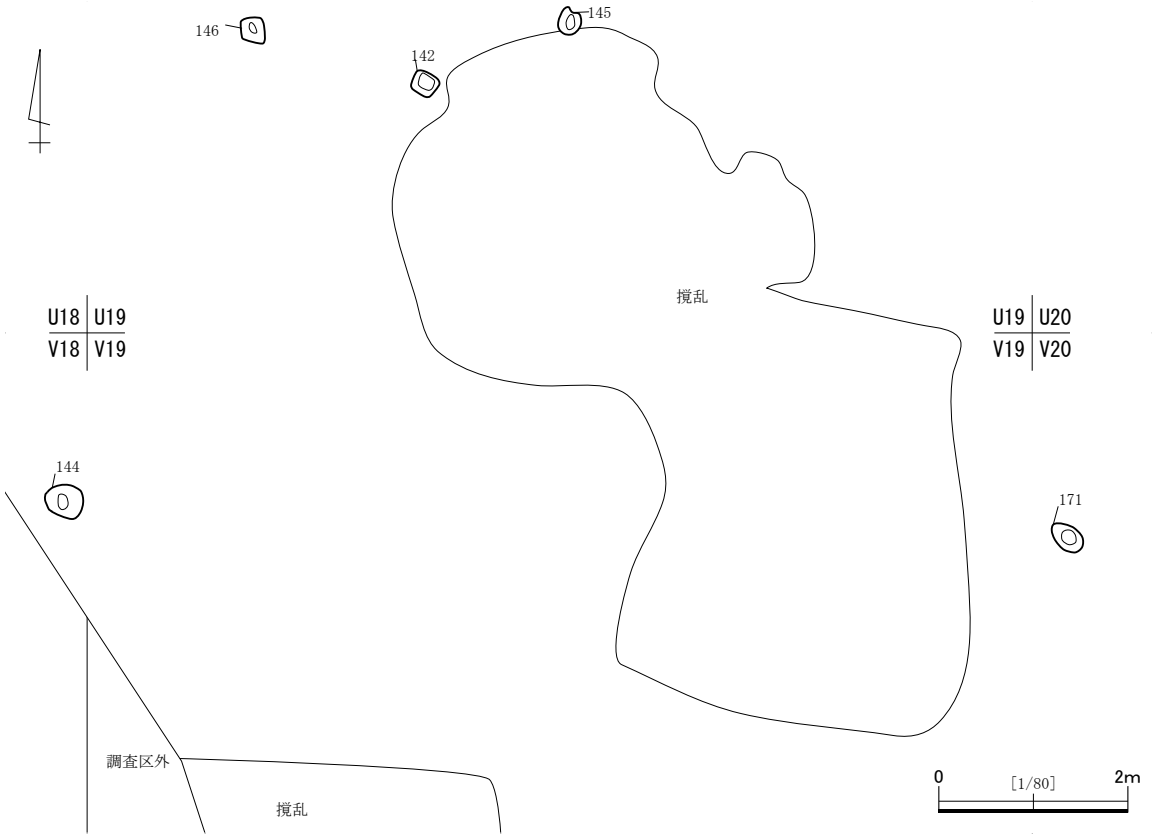
第323図　中世ピット（２）[1/80]



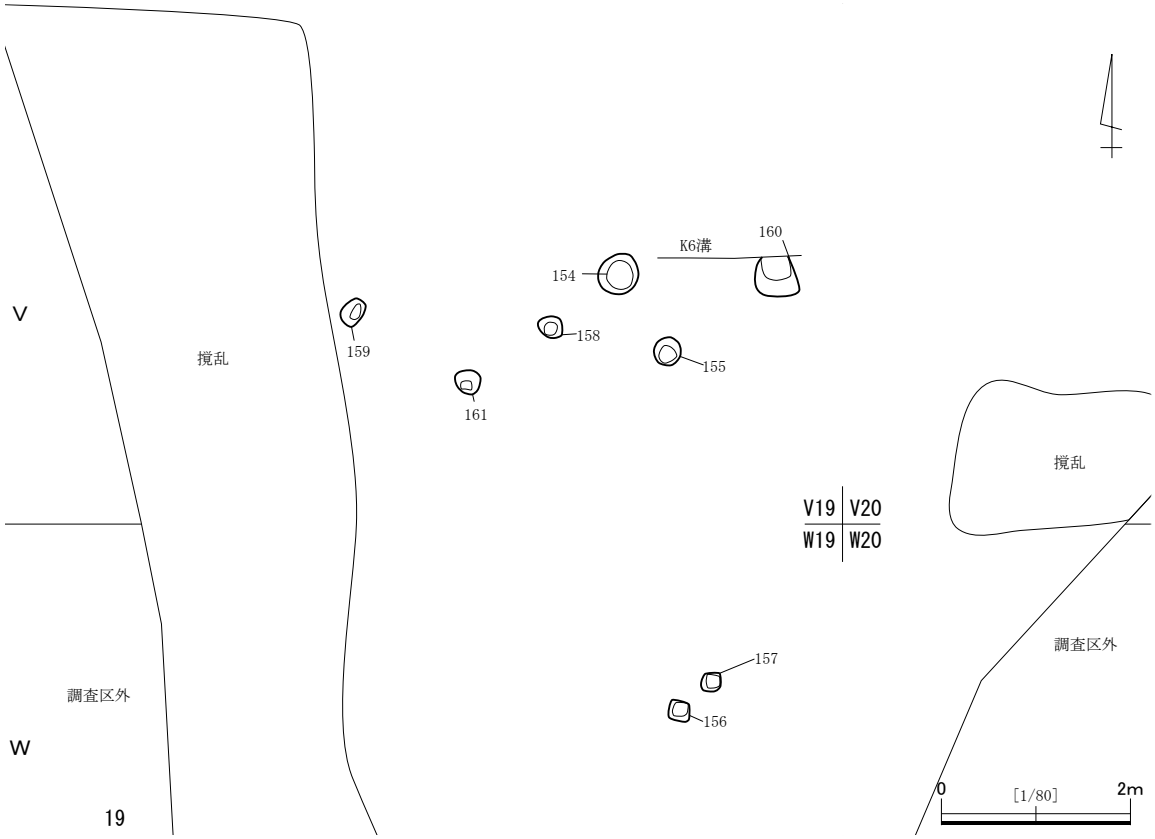
第324図　中世ピット（３）[1/80]



第325図　中世ピット（４）[1/80]

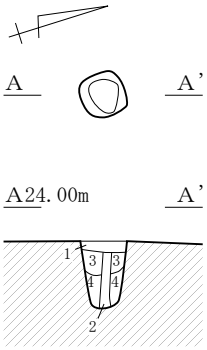


第326図　中世ピット（５）[1/80]



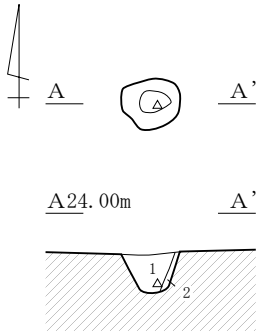
第327図　中世ピット（６）[1/80]

C14号ピット



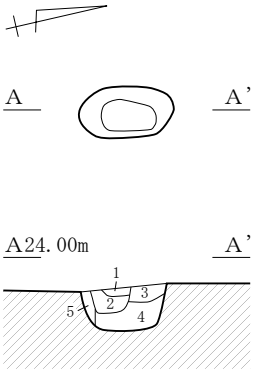
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。
第２層　茶褐色土　粘性あり、しまりやや弱い。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。
第３層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量。ローム粒少量含む。第１層よりややしまりあり。
第４層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。

C17号ピット



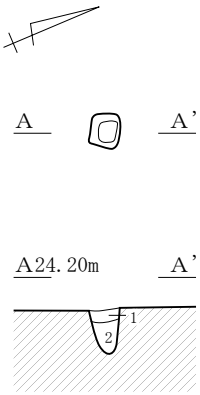
第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒少量、乳白色土粒微量、ローム粒少量含む。
第２層　褐色土　乳白色土粒少量、ローム粒少量含む。

C99号ピット



第１層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、径１～２㎜のローム粒微量、炭化物粒微量含む。
第２層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、径１～２㎜のローム粒少量、炭化物粒微量含む。
第３層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、径１～３㎜のローム粒少量、炭化物粒微量含む。
第４層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、径１～３㎜のローム粒中量、炭化物粒微量含む。
第５層　茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、径１～２㎜のローム粒微量含む。第１～４層よりしまりに欠ける。

C142号ピット

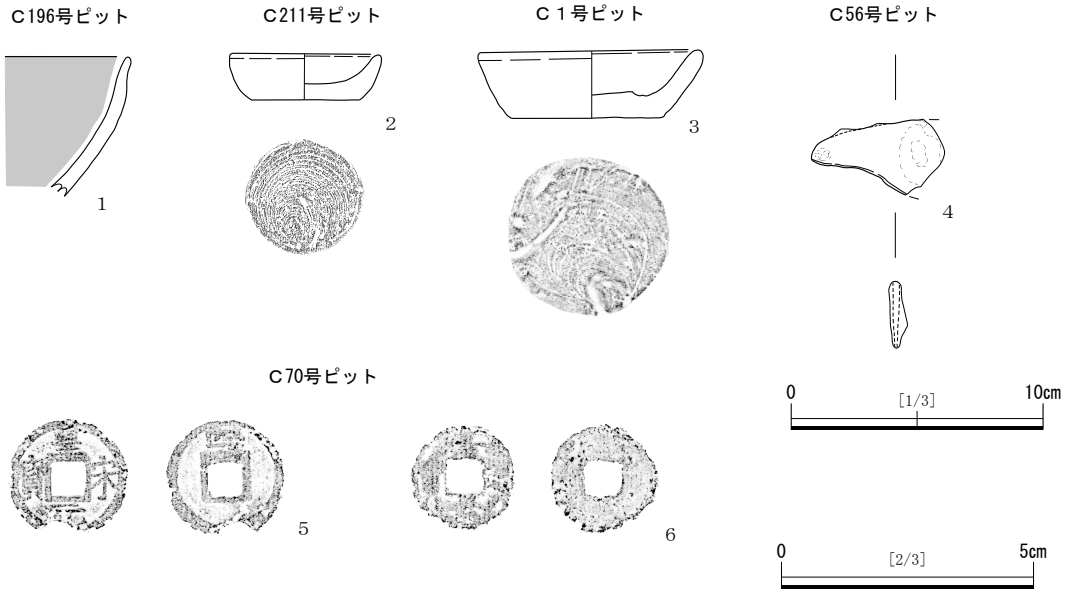


第１層　暗茶褐色土　径１～３㎜の橙色スコリア中量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。
第２層　暗茶褐色土　粘性・しまりあり。径１～３㎜の橙色スコリア少量、径１～５㎜の黒色スコリア微量、炭化物粒少量含む。

△炭化物

0　[1/60]　2m

第328図　13区Ｃ14・17・99・142号ピット[1/60]



第329図　13区中世ピット出土遺物[1/3・2/3]

第79表　13区中世ピット出土遺物観察表［第329図］

No.	器種	種別	()＝現存値〔〕＝復元値 口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	残存度	産地	時期	観察内容
1	天目碗	陶器	—	—	(5.5)	24.5	口縁部～体部破片	瀬戸	16世紀末	胎土 にぶい黄橙色、密 焼成 良好 釉薬 黒色天目釉 出土位置C196号ピット
2	かわらけ	土器	5.8	4.2	1.8	29.2	口縁部1/2・底部完存	在地	16世紀末～17世紀前半	胎土 橙色、やや粗、白色針状物質・雲母・石英を含む 焼成 良好 備考 底部回転糸切り痕　出土位置C211号ピット
3	かわらけ	土器	8.7	6.0	2.7	98.8	完形	在地	16世紀末～17世紀前半	胎土 橙色、密、赤色スコリア・白色針状物質・角閃石を含む 焼成 良好 備考 底部回転糸切り痕　出土位置C1号ピット

No.	種別	材質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	観察内容
4	鎌	鉄	(5.4)	2.9	0.7	20.9	残存率 先端部・柄部残 備考 表面の錆著しい　出土位置C56号ピット

No.	銭名	材質	銭径(mm)	穿径(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	残存度	観察内容
5	皇宋元寶	銅	24.1	6.5	1.0	1.9	ほぼ完形 輪の一部欠損	鋳造地 南宋 初鋳年 1253年 備考 裏面に「四」の文字　出土位置C70号ピット
6	□□□寶	銅	21.1	6.8	1.1	1.3	輪の部分欠損	備考 錆と摩耗が著しく銭名不明、「寶」のみ残　出土位置C70号ピット

第80表　13区　中世ピット計測表［第321 ～ 328図］

遺構名	グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形	遺構名	グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形
C1号ピット	T18	0.27	(0.23)	0.44	円形	C38号ピット	U18	0.55	0.40	0.20	楕円形
C2号ピット	U18	(0.66)	0.65	0.33	円形	C39号ピット	U18	0.44	0.26	0.16	楕円形
C3号ピット	T18・U18	0.42	0.37	0.32	楕円形	C40号ピット	U18	0.30	0.25	0.16	円形
C4号ピット	T18・U18	0.44	0.30	0.26	楕円形	C42号ピット	U18	0.41	0.34	0.19	楕円形
C5号ピット	U18	0.63	(0.29)	0.23	楕円形	C44号ピット	U18	0.43	0.30	0.20	楕円形
C6号ピット	T18	0.29	(0.21)	0.26	円形	C45号ピット	U18	0.19	0.17	0.08	円形
C7号ピット	U19	0.29	(0.26)	0.40	楕円形	C46号ピット	U18	0.24	0.22	0.23	円形
C8号ピット	U19	0.27	(0.17)	0.49	－	C47号ピット	T18	0.40	0.25	0.23	長方形
C9号ピット	T18	0.50	0.41	0.26	楕円形	C48号ピット	T18	0.33	(0.30)	0.27	円形
C10号ピット	T18	0.42	(0.31)	0.26	楕円形	C49号ピット	U18	0.30	(0.16)	0.14	円形
C11号ピット	T18	0.40	0.37	0.33	－	C50号ピット	T18	0.35	0.31	0.32	円形
C13号ピット	T18	0.38	0.30	0.48	円形	C51号ピット	T18	0.33	0.27	0.24	円形
C14号ピット	T18	0.36	0.36	0.50	方形	C52号ピット	U17	0.21	0.17	0.29	円形
C15号ピット	T18	0.26	0.18	0.23	方形	C53号ピット	U17	0.36	0.26	0.08	楕円形
C16号ピット	T18	0.60	0.49	0.20	円形	C54号ピット	U18	0.27	0.25	0.16	円形
C17号ピット	U18	0.41	0.41	0.25	円形	C55号ピット	U18	0.55	0.45	0.35	楕円形
C18号ピット	U18	0.54	0.44	0.20	円形	C56号ピット	U18	(0.32)	0.32	0.28	円形
C19号ピット	U18	0.32	0.28	0.18	円形	C58号ピット	U18	0.38	0.32	0.29	円形
C20号ピット	U18	0.59	0.43	0.30	楕円形	C59号ピット	T18	0.29	0.25	0.50	円形
C21号ピット	U18	0.52	0.46	0.47	円形	C60号ピット	U18	0.34	0.32	0.56	円形
C22号ピット	U18	0.31	0.32	0.55	円形	C61号ピット	U17	(0.34)	0.33	0.10	楕円形
C23号ピット	U18	0.50	0.48	0.38	方形	C62号ピット	U18	0.39	(0.20)	0.40	楕円形
C25号ピット	U18	0.30	0.28	0.36	円形	C63号ピット	U18	0.36	0.35	0.40	円形
C26号ピット	U18	0.26	(0.19)	0.43	楕円形	C64号ピット	T18	0.29	0.23	0.34	円形
C27号ピット	U18	0.33	0.32	0.23	円形	C65号ピット	T18・U18	0.29	(0.26)	0.28	円形
C28号ピット	U18	(0.65)	0.51	0.27	円形	C66号ピット	U18	0.25	(0.23)	0.30	円形
C29号ピット	U18	0.33	0.29	0.35	円形	C67号ピット	U18	(0.25)	0.24	0.20	円形
C30号ピット	U17	0.50	(0.37)	0.08	楕円形	C68号ピット	U18	0.21	0.21	0.24	円形
C31号ピット	U17	0.49	0.41	0.10	長方形	C69号ピット	U18	0.20	0.18	0.18	方形
C32号ピット	U17	0.32	0.18	0.15	楕円形	C70号ピット	T18	0.39	0.37	0.55	円形
C33号ピット	U17	0.35	0.26	0.39	楕円形	C71号ピット	U18	0.28	0.28	0.53	円形
C34号ピット	U17	0.46	0.45	0.11	円形	C72号ピット	T18	0.44	0.36	0.36	楕円形
C35号ピット	U17	0.25	0.21	0.53	円形	C74号ピット	T18	0.23	0.23	0.19	方形
C36号ピット	U17・18	0.28	0.25	0.18	円形	C75号ピット	T18	0.26	0.22	0.22	方形
C37号ピット	U18	0.35	0.27	0.26	楕円形	C76号ピット	U18	0.32	0.60	0.38	円形

C77号ピット	U18	(0.58)	0.49	0.37	楕円形
C78号ピット	T18	0.29	0.25	0.25	円形
C80号ピット	T18	0.32	0.28	0.29	方形
C81号ピット	T18	0.22	0.21	0.26	円形
C82号ピット	T18	0.25	0.20	0.16	円形
C83号ピット	T18	0.34	(0.16)	0.18	楕円形
C84号ピット	T18	0.23	0.19	0.25	方形
C85号ピット	U18	0.21	0.20	0.06	円形
C86号ピット	U18	0.23	0.18	0.24	方形
C87号ピット	U18	0.33	0.29	0.45	円形
C88号ピット	U18	0.45	0.33	0.35	楕円形
C93号ピット	U18	0.30	0.22	0.38	楕円形
C94号ピット	T18	(0.33)	(0.19)	0.28	楕円形
C95号ピット	U19	0.44	0.44	0.46	円形
C96号ピット	T18	0.33	0.26	0.10	円形
C97号ピット	T18	0.18	0.17	0.21	方形
C98号ピット	U18	0.29	(0.14)	0.17	楕円形
C99号ピット	T19	0.77	0.43	0.38	楕円形
C100号ピット	U18	0.22	0.19	0.26	円形
C101号ピット	U18	0.17	0.17	0.35	円形
C102号ピット	T17	0.21	0.12	0.11	円形
C103号ピット	U18	0.53	0.45	0.38	円形
C104号ピット	U18	0.21	0.16	0.06	円形
C106号ピット	U18	0.27	0.26	0.20	円形
C107号ピット	U19	0.34	0.32	0.18	円形
C108号ピット	U18	0.26	0.25	0.13	円形
C109号ピット	U18	0.36	0.36	0.17	円形
C111号ピット	T18	0.56	0.45	0.28	楕円形
C112号ピット	U19	0.29	0.25	0.40	円形
C113号ピット	U18	0.28	0.28	0.09	円形
C114号ピット	U18	0.23	0.21	0.09	円形
C115号ピット	T18・U18	(0.43)	0.33	0.17	楕円形
C116号ピット	T17	0.21	0.16	0.67	楕円形
C117号ピット	U18	0.43	(0.35)	0.27	楕円形
C119号ピット	U19	0.26	0.22	0.21	円形
C120号ピット	U19	0.31	0.30	0.29	円形

C121号ピット	U19	0.27	0.24	0.30	円形
C122号ピット	U19	0.34	0.29	0.42	円形
C123号ピット	U18	0.31	0.28	0.27	円形
C124号ピット	T17	0.30	0.26	0.28	円形
C125号ピット	U18	(0.23)	(0.20)	0.14	円形
C126号ピット	U18	(0.36)	0.35	0.26	円形
C127号ピット	U18	0.29	0.27	0.26	円形
C129号ピット	U18	0.30	0.27	0.27	円形
C130号ピット	U18	0.57	0.35	0.30	楕円形
C131号ピット	U18	0.27	0.23	0.27	円形
C132号ピット	U18	0.32	(0.21)	0.15	楕円形
C133号ピット	U18	0.30	0.29	0.10	円形
C134号ピット	T17	0.24	0.23	0.18	円形
C135号ピット	T17	0.64	0.48	0.09	楕円形
C136号ピット	T17	0.26	0.22	0.11	円形
C137号ピット	T18	0.30	0.21	0.25	円形
C138号ピット	T18	0.35	(0.34)	0.23	円形
C139号ピット	U18	0.26	0.25	0.16	円形
C140号ピット	U18	0.29	0.26	0.33	円形
C141号ピット	U19	0.82	(0.37)	0.40	長方形
C142号ピット	U19	0.29	0.25	0.40	方形
C143号ピット	U18	0.67	0.45	0.40	楕円形
C144号ピット	V18	0.38	(0.36)	0.40	円形
C145号ピット	U19	0.29	0.25	0.40	円形
C146号ピット	U19	0.28	0.26	0.40	方形
C147号ピット	U19	0.19	0.18	0.40	円形
C148号ピット	T18	0.33	0.26	0.40	円形
C149号ピット	T18	0.28	0.26	0.40	円形
C150号ピット	T17	0.28	0.26	0.40	円形
C151号ピット	T18	0.33	0.33	0.40	円形
C152号ピット	T19	0.45	0.44	0.40	円形
C153号ピット	T19	0.49	0.41	0.40	円形
C154号ピット	V19	0.44	0.43	0.40	円形
C155号ピット	V19	0.31	0.30	0.40	円形
C156号ピット	W19	0.23	0.22	0.40	方形
C157号ピット	W19	0.21	0.20	0.40	方形

C158号ピット	V19	0.26	0.24	0.40	円形
C159号ピット	V19	0.31	0.27	0.40	楕円形
C160号ピット	V19	0.48	(0.42)	0.40	楕円形
C161号ピット	V19	0.28	0.26	0.40	円形
C162号ピット	T18	0.32	0.31	0.40	円形
C163号ピット	T18	0.53	0.51	0.40	円形
C164号ピット	T18	0.33	0.32	0.40	円形
C165号ピット	U18	(0.52)	0.46	0.40	楕円形
C166号ピット	U18	0.40	(0.23)	0.40	楕円形
C169号ピット	U19・20	0.34	0.33	0.40	円形
C170号ピット	T18	0.41	(0.40)	0.40	円形
C171号ピット	V20	0.39	0.26	0.40	楕円形
C172号ピット	T18	0.59	(0.37)	0.40	楕円形
C173号ピット	U18	0.66	0.60	0.40	方形
C175号ピット	T18	0.27	(0.09)	0.40	楕円形
C177号ピット	T18	0.71	(0.54)	0.40	楕円形
C178号ピット	U19	0.32	(0.17)	0.40	方形
C179号ピット	U18	(0.45)	0.41	0.40	楕円形
C180号ピット	U17	(0.47)	(0.40)	0.40	楕円形
C181号ピット	U18	(0.39)	(0.35)	0.40	円形
C182号ピット	T18	0.35	(0.12)	0.40	楕円形
C183号ピット	T18	0.26	0.25	0.40	円形
C184号ピット	T19	0.62	0.52	0.40	楕円形
C186号ピット	U18	0.19	(0.12)	0.40	楕円形
C188号ピット	T17	0.50	0.40	0.40	長方形
C189号ピット	U17	0.29	0.20	0.40	楕円形
C190号ピット	U18	0.27	0.20	0.40	円形
C191号ピット	U17	0.22	0.16	0.40	楕円形
C192号ピット	T17	0.19	0.17	0.40	円形
C193号ピット	U17	0.29	0.24	0.40	円形

C194号ピット	U17	0.22	(0.20)	0.40	円形
C195号ピット	T18	0.16	0.15	0.40	方形
C196号ピット	T18	0.38	0.35	0.40	円形
C197号ピット	U17	0.59	0.32	0.40	楕円形
C198号ピット	T17・U17	0.24	0.22	0.40	円形
C199号ピット	U17	0.61	0.43	0.40	長方形
C200号ピット	U17	0.29	(0.27)	0.40	円形
C201号ピット	U18	0.40	0.32	0.40	楕円形
C202号ピット	T18	0.50	0.40	0.40	楕円形
C203号ピット	T18	(0.37)	0.38	0.40	円形
C204号ピット	T18	0.39	0.37	0.40	円形
C205号ピット	U17	0.36	0.29	0.40	楕円形
C206号ピット	U18	(0.36)	0.32	0.40	楕円形
C207号ピット	U18	(0.19)	0.16	0.40	円形
C208号ピット	U18	(0.36)	(0.34)	0.40	円形
C209号ピット	U17	(0.41)	0.35	0.40	楕円形
C210号ピット	U18	0.42	0.42	0.40	楕円形
C211号ピット	U18	0.44	(0.41)	0.40	円形
C212号ピット	U17	0.25	(0.18)	0.40	円形
C213号ピット	U18	0.28	0.26	0.40	円形
C214号ピット	U18	0.48	0.42	0.40	方形
C215号ピット	U18	0.39	(0.21)	0.40	楕円形
C216号ピット	U18	(0.20)	0.20	0.40	円形
C217号ピット	U18	0.28	0.25	0.40	円形
C218号ピット	T17・U17	0.15	0.14	0.40	円形
C219号ピット	U18	0.22	0.22	0.40	円形
C220号ピット	U18	0.25	0.24	0.40	円形
C221号ピット	U18	0.23	0.19	0.40	円形
C222号ピット	U17	0.31	(0.26)	0.40	円形

点(15.0ｇ)、Ｃ184号ピットからかわらけ２点(4.2ｇ)、Ｃ188号ピットからかわらけ２点(5.8ｇ)、Ｃ196号ピットから瀬戸・美濃産陶器碗１点(24.5ｇ)、Ｃ211号ピットからかわらけ１点(29.2ｇ)である。総点数70点、総重量609.88ｇで、そのうち６点を図化した。

第329図１は瀬戸産陶器天目碗の口縁部～体部片である。内外面に黒色天目釉が施されている。Ｃ196号ピット号出土である。16世紀末の所産である。

第329図２・３はかわらけである。２は口縁部1/2残存、底部は完存している。３は完形で、２、３とも底部には回転糸切り痕が残る。２はＣ211号ピット、３はＣ１号ピット出土である。２・３とも16世紀末～17世紀前半の所産である。

第329図４は鉄製鎌である。先端部と柄部が残る。Ｃ56号ピット出土である。

第329図５・６は銭貨である。５は南宋銭の「皇宋元宝」である。ほぼ完形で、裏面に「四」の文字が確認される。初鋳年は1253年である。６は錆と摩耗により銭名不明である。５、６ともＣ70号ピット出土である。

遺構の時期は検出状況から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。建物址などは北側調査区外に展開している可能性が考えられる。

（６）遺構外出土遺物（第330図、第81表、図版165－１）

中世の遺構外出土遺物は、舶載磁器青磁碗６点(54.7ｇ)、青磁皿１点(7.8ｇ)、青磁鉢１点(9.9ｇ)、瀬戸・美濃産陶器碗３点(37.9ｇ)、産地不明陶器碗１点(26.7ｇ)、瀬戸・美濃産陶器皿１点(59.7ｇ)、常滑産陶器甕27点(853.2ｇ)、瀬戸・美濃産陶器甕１点(5.5ｇ)、産地不明陶器瓶２点(8.9ｇ)、瀬戸・美濃産陶器鉢１点(3.9ｇ)、常滑産陶器片口鉢２点(25.9ｇ)、瀬戸・美濃産陶器擂鉢１点(85.7ｇ)、瀬戸・美濃産陶器香炉１点(28.8ｇ)、瓦質土器火鉢５点(109.0ｇ)、かわらけ373点(1,513.6ｇ)、金属製品(釘・鍋・刀子)４点(97.2ｇ)、石製品(五輪塔水輪１点、板碑片１点)の計２点(10,326.1ｇ)、銭貨１点(2.9ｇ)の総点数433点、総重量13,157.4ｇである。そのうち10点を図化した。

第330図１は龍泉窯系青磁劃花文碗の口縁部～体部片である。13世紀前半の所産である。

第330図２～３は瀬戸産陶器である。２は天目碗の底部片である。体部外面、内面は茶褐色天目釉、高台は錆化粧が施される。16世紀末の所産である。３は灰釉縁釉皿で口縁部～底部1/2弱残存する。内面口縁部に灰釉が残る。底部は回転糸切り痕が確認される。15世紀中頃の所産である。

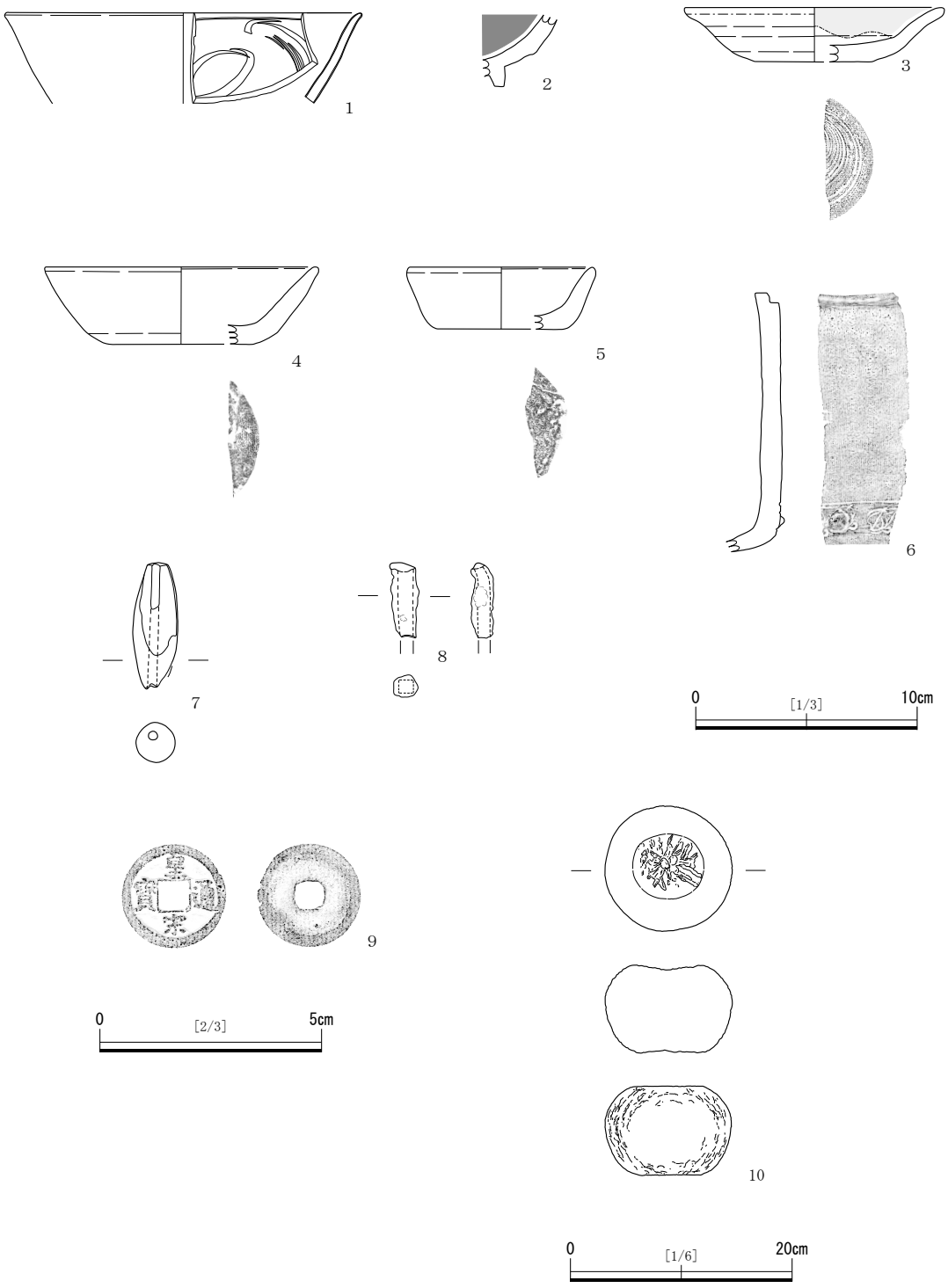
第330図４・５はかわらけである。４は残存が約1/4で糸切り痕は不明瞭である。５は底部から直線的に立ち上がる小型のかわらけである。

第330図６は瓦質土器火鉢の体部片で、外面下端にスタンプと凸貼り付け文が観察される。15世紀の所産である。

第330図７は土錘である。本体半分と端部が欠損している。孔径は３㎜である。８は鉄製舟釘である。先端部は欠損しており錆が著しい。

第330図９は銅銭で北宋銭「皇宋通宝」である。完形で初鋳年は1038年である。

第330図10は石製五輪塔の水輪である。完形で石材は多孔質安山岩である。



第330図　13区中世遺構外出土遺物[1/3・2/3・1/6]

第81表　13区中世遺構外出土遺物観察表［第330図］

No.	器種	種別	()＝現存値〔〕＝復元値 口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	重量(g)	残存度	産地	時期	観察内容
1	青磁劃花文碗	磁器	〔16.0〕	—	(4.1)	18.4	口縁部～体部1/9	中国	13世紀前半	素地 灰白色、緻密 焼成 堅緻 釉薬 灰オリーブ色青磁 備考 龍泉窯系青磁 出土位置 U18gr
2	天目碗	陶器	—	—	(3.7)	22.1	底部破片	瀬戸	16世紀末	胎土 明褐灰色、密、黒色粒子・砂粒を含む 焼成 良好 釉薬 茶褐色天目釉 備考 高台錆化粧 出土位置 V19gr
3	灰釉縁釉皿	陶器	〔11.5〕	〔5.3〕	2.5	59.7	口縁部～底部1/2弱	瀬戸	15世紀中頃	胎土 にぶい橙色、密、黒色粒子を含む 焼成 良好 釉薬 オリーブ灰色灰釉 備考 釉薬つけ掛け、底部回転糸切り痕 出土位置 T18gr
4	かわらけ	土器	〔12.2〕	〔6.0〕	3.5	42.8	口縁部1/6・体部1/4・底部わずかに残	在地	14世紀後半～15世紀	胎土 橙色、密、赤色スコリア・白色針状物質・角閃石・雲母・細かい砂粒を含む 焼成 やや不良 備考 底部回転糸切り痕不明瞭 出土位置 U19gr
5	かわらけ	土器	〔8.3〕	〔6.0〕	2.8	24.5	口縁部～底部1/4	在地	14世紀	胎土 にぶい黄褐色、密、白色針状物質・角閃石・雲母を含む 焼成 良好 備考 底部回転糸切り痕不明瞭 出土位置 T18gr
6	火鉢	瓦質	—	—	〔11.7〕	55.3	体部破片	在地	15世紀	胎土 灰白色、やや粗、黒色粒子・白色粒子を含む 焼成 良好 備考 外側にスタンプ、凸貼付文 出土位置 U18gr

No.	種別	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	残存度	胎土・釉薬等
7	土錘	土製品	(5.7)	2.0	1.8	0.3	14.6	端部欠損	胎土 橙色、やや粗、赤色スコリア・黒色・白色粒子を含む 焼成 良好 備考 通し穴径３㎜ 出土位置 U18gr

No.	種別	材質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	観察内容
8	舟釘	鉄	(3.4)	1.2	1.0	7.6	残存度 先端部欠損 備考 表面の錆著しい 出土位置 U18gr

No.	銭名	材質	銭径(mm)	穿径(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	残存度	備考
9	皇宋通宝	銅	24.0	6.4	1.1	2.9	完形	鋳造地 北宋 初鋳年 1038年 備考 真書 出土位置 U17gr

No.	種別	材質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	観察内容
10	五輪塔	多孔質安山岩	23.2	22.6	16.2	10,300.0	残存度 完形 備考 水輪、摩耗のため体部外面の梵字は確認できず 出土位置 一括

３．奈良・平安時代

13区における奈良・平安時代の遺構は確認されていない。
本調査区は少数の遺物の出土のみであり、奈良・平安時代において土地利用されていないことが伺える。

（１）遺構外出土遺物（第331図、第82表、図版165－２）

奈良・平安時代の遺構外出土遺物は土師器坏22点(160.３ｇ)、土師器甕168点(589.５ｇ)、須恵器坏27点(127.１ｇ)、須恵器甕18点(408.１ｇ)、須恵器瓶10点(219.３ｇ)、須恵器蓋１点(1.５ｇ)、灰釉陶器碗２点(11.０ｇ)、灰釉陶器皿１点(11.６ｇ)、灰釉陶器瓶２点(75.８ｇ)、総点数251点、総重量1,604.2gである。このうち１点を図化した。

第331図１は灰釉陶器瓶の底部1/2である。内外面は回転ナデ、底部は外周ヘラケズリ後高台貼り付けが施されている。底部内面には自然釉が残る。



第331図　13区奈良・平安時代遺構外出土遺物[1/4]

第82表　13区奈良・平安時代遺構外出土遺物観察表［第331図］

No.	器種	観察所見　　（　）＝現存値　〔　〕＝復元値
1	灰釉陶器瓶	法量(cm)：底径6.５　器高（3.７）　重量73.８g　残存度：底部1/2　成形・調整：内外面　回転ナデ　底部外周ヘラケズリ　高台貼り付け　外周ナデ　胎土：密　小礫　白色粒　焼成：良好　色調：灰白色（10YR7/1）出土位置：T17gr

４．縄文時代

（１）遺構外出土遺物（第332図、第83表、図版165－３）

13区は、富岡丘陵から字林台へ続く台地の南側裾部に位置し、西側には谷戸が入り込んでおり、地形は東から西に向かって傾斜している。縄文時代に属する遺構は検出されていないが、遺構外から遺物が出土した。

遺構外出土土器

13区の遺構外から中期中葉の勝坂式土器１点（19.8ｇ）が出土した。

第Ⅲ群土器　中期の土器

第２類土器　中期中葉の勝坂式土器（第322図１、図版○－１）

第332図１は中期中葉の勝坂１式土器新段階（新道式土器併行）に分類した資料で、隆帯による三角区画文に沿って、ペン先状工具の連続刺突による三角押文が施文される。内面は丁寧なミガキ調整を施し、胎



第332図　13区縄文時代遺構外出土土器［1/3］

土は細かい石英、長石を多く含む。色調は鈍い赤褐色を呈す。

遺構外出土石器（第83表）

遺構外から出土した石器は、砕片１点(0.3ｇ)の１種計１点である（第83表)。

砕片は、調査区北東部に分布する。

砕片

Ｕ－19グリッドで１点出土している。石材は黒曜石で、上下左右の部位を欠損するが、厚みが無いことから石核調整の際に剝離された可能性が考えられる。

第83表　13区縄文時代遺構外出土石器属性表

挿図番号	器種名	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	出土遺構・Gr	備 考
	砕片	黒曜石	(1.0)	(1.1)	0.2	0.3	U19Gr	

報 告 書 抄 録

ふりがな	ひがしとみおかふとくぼいせき　ひがしとみおかなかじまいせき　あわくぼはやしくぼいせき
書名	東富岡・太窪遺跡　　東富岡・中島遺跡　　粟窪・林窪遺跡
副　書　名	新東名高速道路（伊勢原市粟窪地区）建設事業に伴う発掘調査
シリーズ名	かながわ考古学財団調査報告
シリーズ番号	345
編著者名	木村吉行・川嶋実佳子・宮坂淳一・井関文明・出縄康行
編集機関	公益財団法人かながわ考古学財団
所在地	〒232-0033　神奈川県横浜市南区中村町3-191-1　TEL 045-252-8689
発行年月日	2025年３月15日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
東富岡（ひがしとみおか）・太窪（ふとくぼいせき）遺跡	神奈川県伊勢原市東富岡地先（かながわけんいせはらしひがしとみおかちさき）	14214	71	35°41′24″	139°31′42″	20101001～20111215、20110616～20110831、20160501～20160615、20171201～20180515	2,644㎡	道路（どうろ）
東富岡（ひがしとみおか）・中島（なかじまいせき）遺跡	神奈川県伊勢原市東富岡地先（かながわけんいせはらしひがしとみおかちさき）	14214	71	35°41′13″	139°31′37″	20101216～20110331、20120101～20120131、20130601～20130831	908㎡	道路（どうろ）
粟窪（あわくぼ）・林窪（はやしくぼいせき）遺跡	神奈川県伊勢原市粟窪地先（かながわけんいせはらしあわくぼちさき）	14214	71	35°41′10″	139°31′47″	20120601～20120930、20130101～20130331 20130915～20140615、20191001～20191031	3,913㎡	道路（どうろ）

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
東富岡・太窪遺跡	集落	近世	段切り３、溝状遺構34、硬化面２、畝状遺構３、土坑24、ピット25、流路１	磁器、陶器、土器、金属製品、銭貨、石製品	中世から続く１区流路発見17～19世紀の耕作地
		中世	溝状遺構１、畝状遺構２、土坑18、ピット32、流路１、杭列６	磁器、陶器、土器、金属製品、銭貨、木製品	１区流路と杭列の発見　13～16世紀の耕作地
		奈良・平安時代	竪穴住居址１、掘立柱建物址１、溝状遺構２、畝状遺構８、硬化面１、土坑35、焼土址１、ピット96	土師器、須恵器、灰釉陶器、金属製品	
		弥生時代後期～古墳時代前期	土坑１、遺物集中１	土器	
		縄文時代	土坑５	土器	
		旧石器時代	遺物集中	石器、礫、炭化物	B2層中心とする層からの遺物集中の確認

東富岡・中島遺跡	集落	近世	段切り２、溝状遺構３、畝状遺構２、土坑５、ピット７	磁器、陶器、土器、金属製品、銭貨、石製品	
		中世	土坑５、ピット31	磁器、陶器、土器、金属製品、銭貨、木製品	
		奈良・平安時代	溝状遺構２、土坑８、ピット20	土師器、須恵器、灰釉陶器	
		弥生時代後期～古墳時代前期		土器	
		縄文時代	土坑３、ピット12	土器、石器	植物加工、石器製作場に関係する場所の可能性 土器は断続的に早期から後期
		旧石器時代	遺物集中	石器、礫、炭化物	L1H層上部より石器１点出土
粟窪・林窪遺跡	集落	近世	掘立柱建物址１、竪穴状遺構３、溝状遺構39、畝状遺構２、段切り２、井戸３、土坑120、ピット568、焼土址３、硬化面４、杭列２	磁器、陶器、土器、金属製品、銭貨、石製品	近世後半の耕作址や地割りの土地利用
		中世	段切り２、竪穴状遺構41、溝状遺構27、畝状遺構１、井戸址９、硬化面５、地下式坑５、土坑151、集石１、ピット2,067、焼土址４	磁器、陶器、土器、金属製品、銭貨、木製品	荷駄鞍・連破下駄・田下駄・木地皿などの木製品が出土
		奈良･平安時代	土坑５、ピット５、遺物集中	土師器、須恵器、灰釉陶器	
		古墳時代		土器	
		弥生時代		土器	
		旧石器時代		石器	
要　約	東富岡・太窪遺跡は富岡丘陵から字林台へ続く台地の北側縁辺、北東に位置する。近世から中世にかけて東西に流れる流路が存在しており、近世には流路の東側において畑作が営まれていたことが明らかとなった。中世の流路に護岸のためと思われる杭列が打ち込まれていたことから、付近に何らかの遺構が存在している可能性もある。奈良・平安時代の畝状遺構や土坑、近世の段切りや土坑が発見され、長期にわたって農地として利用されていたことが判明した。また、古墳時代以前は中央部が谷地形を呈していたことが明らかとなり、土坑が１基確認された。縄文時代は土坑が発見され、早期後半から後期中葉の土器が出土している。植物加工、石器製作場に関係する場所の可能性が考えられる。旧石器時代はB2層中心とする層からの遺物集中が確認された。 東富岡・中島遺跡は富岡丘陵の南東に立地する。近世には段切りがなされ平場で畑作が営まれていたことが判明した。中世頃は南東に傾斜する地形を呈しており、この地は利用されていなかったと思われる。古代には区画溝が掘られ、その内側で畑作が営まれていた。縄文時代は土坑とピットが確認され、断続的に早期から後期にかけての土器が出土している。植物加工、石器製作場に関係する場所の可能性が考えられる。旧石器時代はL1H層上部より石器１点出土した。 粟窪・林窪遺跡は富岡丘陵から字林台へ続く台地の南側に広がる谷戸から裾部に位置している。近世の遺構は溝状遺構が主体であり、中世は谷戸を埋めた部分から15世紀代の遺物を含む竪穴状遺構や土坑、井戸といった耕作に関連する遺構が検出されており、屋敷が営まれていたことが判明した。土坑からは荷駄鞍・下駄・皿などの木製品が廃棄された状態で出土している。中世の生活を考える上で貴重な資料を得ることが出来た。奈良・平安時代の遺構は竪穴住居跡・畝状遺構などが発見された。畝状遺構は遺物集中箇所の下から見つかっていることから、この地が一時的ではなく、ある程度の期間にわたって利用されていたことがわかった。縄文時代は早期後半から後期前葉に亘る土器が出土している。				

本報告の発掘調査・出土品等整理・報告書作成に係る関係者名簿

事業年度	平成22～26年度、平成28～令和６年度
理事長	伊藤啓三（平成22～24年５月）、村山正和（平成24～26、28・29年度）、近藤晶一（平成30年～令３年度）、中島栄一（令和４～６年度）
事務局長	丸山一郎（平成22年度）、中田　英（平成23～26年度）、武藤浩二（平成28～令和元年度）、中島栄一（令和２・３年度）、柏木善治（令和４～６年度）
事務局次長	柏木善治（令和３年度）、栗原伸好（令和４～６年度）
総務部長	大野　満（平成22～24年９月）、中田　英（平成10月兼務）、熊谷　淳（平成24年11月～26年度、平成28年度）、西海昌樹（平成29～令和２年度）、柏木善治（令和３年度兼務）、栗原伸好（令和４～６年度兼務）
総務企画部長	栗原伸好（令和６年度兼務）
総務企画副部長	橋本美子（令和６年度）
総務課長	大野　満（兼務 平成22～24年９月兼務）、熊谷　淳（平成24年11月～26年度、平成28年度兼務）、橋本美子（平成29～令和５年度、令和６年度兼務）
調査研究部長	中田　英（平成22･26年度兼務）、鈴木次郎（平成23～25年度）、柏木善治（平成28～令和２年度）井辺一徳（令和３～５年度）、大塚健一（令和６年度）
調査研究副部長	鈴木次郎（平成22年度）
参事	井辺一徳（令和２年度）
企画調整課長	鈴木次郎（平成22～24年度兼務）、柏木善治（平成25～26年度）、栗原伸好（平成28～令和３年度）大塚健一（令和４・５年度）、飯塚美保（令和６年度）
企画調整課員	柏木善治（平成22・23年度）、大塚健一（平成24～26年度）、山口正紀（平成30～令和５年度）、脇　幸生（令和５・６年度）
事業担当課長	宮坂淳一（平成22～24年度）、植山英史（平成25～26、28～令和３年度）、井辺一徳（令和４・５年度）、大塚健一（令和６年度）
調査担当課員	例言に記載

本書は長期保存を考慮し、すべて中性紙を使用しています。（数値は 4/6 判連量）

紙質	表紙	レザック	260.0 kg
	見返し	上質帳簿用紙	110.0 kg
	序文・例言・目次・本文	上質書籍用紙	72.5 kg
	扉	上質紙	90.0 kg
	写真図版	高級両面アート紙	135.0 kg

印刷
- 写真図版以外は電算写植等によるオフセット印刷
- 刷色は黒色など
- 写真図版はダブルトーン印刷（黒＋グレー）

文化財保護、教育普及、学術研究を目的とする場合は、著作権者の承諾なく、この報告書の一部を複製して利用できます。なお、利用にあたっては出典を明記してください。

この報告書に係る記録図面類（写真類を含む）は、神奈川県教育委員会で保管していますので、利用する場合は神奈川県教育委員会に連絡して、必要な手続きをとってください。

かながわ考古学財団調査報告 345

東富岡・太窪遺跡 東富岡・中島遺跡 栗窪・林窪遺跡

東名高速道路（伊勢原市栗窪地区）建設事業に伴う発掘調査

第１分冊

発行日　2025（令和７）年３月21日
発　行　公益財団法人かながわ考古学財団
〒232-0033　神奈川県横浜市南区中村町3-191-1
TEL 045-252-8689　FAX 045-261-8162
e-mail：kaf@kaf.or.jp
印　刷　野崎印刷紙器株式会社